

大和ハウス工業(株)中部工場内
埋蔵文化財発掘調査報告書

坂 尻 遺 跡

— 遺構編 —

1 9 9 4

静岡県袋井市教育委員会

大和ハウス工業(株)中部工場内
埋蔵文化財発掘調査報告書

坂 尻 遺 跡

— 遺 構 編 —

1 9 9 4

静岡県袋井市教育委員会

例 言

1. 本書は、大和ハウス工業株式会社中部工場増設（袋井市国本）に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告書（遺構編）である。
2. 発掘調査は現地作業を1990年4月～1991年8月まで行い、報告書作成作業を1991年9月～1994年3月まで行った。
3. 調査面積は、総面積で約40,000㎡である。
4. 調査は大和ハウス(株)中部工場の委託により、静岡県教育委員会文化課の指導のもと袋井市教育委員会が実施した。
5. 調査に関わる費用（153,120,00円）は、委託者が全額負担した。
6. 本書の編集・執筆は加藤理文（静岡県教育委員会）が行った。
7. 調査に係わる諸記録および出土遺物は、すべて袋井市教育委員会が保管している。
8. 本調査に関する事務は、袋井市教育委員会社会教育課文化財係が担当した。

凡 例

1. 挿図中の方位は、真北を示す。
2. 挿図中の標高は、海拔を示す。
3. 遺構の略号は原則として以下のようにした。
 - S B－竪穴式住居
 - S I－竪穴状遺構
 - S H－堀立柱建物
 - S K－土壇
 - S D－溝
 - S X－不定形遺構
 - S E－井戸
 - P－柱穴

巻頭カラー図版目次

- 図版 1 坂尻遺跡周辺航空写真
図版 2 坂尻遺跡周辺航空写真
図版 3 第Ⅰ遺構面北側航空写真 南側航空写真
図版 4 第Ⅱ遺構面北側航空写真 南側航空写真
図版 5 58号掘立柱建物航空写真 第Ⅲ遺構面南側航空写真
図版 6 18号住居内土器出土状況 54号住居内土器出土状況
図版 7 80号溝内土器出土状況 236号溝内土器出土状況
図版 8 6号不定形遺構 270号溝内「木樋管」出土状況

写真図版目次

- 図 1 近世流路 流路内護岸施設及び竹樋管
図 2 流路内竹樋管ジョイント部
図 3 2号掘立柱建物 8号掘立柱建物
図 4 1号井戸、5、6号掘立柱建物 7号掘立柱建物、2号井戸
図 5 5、6号掘立柱建物 48、54号掘立柱建物、8号井戸
図 6 45号掘立柱建物 52号掘立柱建物
図 7 49号掘立柱建物 9号井戸
図 8 11、12、13号井戸 24号井戸
図 9 8号井戸 16号井戸内遺物出土状況
図10 北区第Ⅱ遺構面中心集落航空写真
図11 北区第Ⅱ遺構面東側航空写真
図12 南区第Ⅱ遺構面東側航空写真 8、9、10、13、14号住居
図13 北区第Ⅱ遺構面中心集落 148号溝
図14 74、77号掘立柱建物 40号住居、69、75、91号掘立柱建物
図15 41号住居、71、75号掘立柱建物 12、13号掘立柱建物
図16 14、15号掘立柱建物 16、17号掘立柱建物
図17 18号掘立柱建物 19号掘立柱建物
図18 29号掘立柱建物
図19 16、21号住居、31、32号掘立柱建物 16号住居、30、31号掘立柱建物
図20 33号掘立柱建物 35号掘立柱建物
図21 37号掘立柱建物 40号掘立柱建物
図22 38号住居、61号掘立柱建物 64号掘立柱建物
図23 65、66、90号掘立柱建物 44、45、46号住居、67、68号掘立柱建物
図24 43、44号住居、68号掘立柱建物 71、75号掘立柱建物
図25 72号掘立柱建物 73号掘立柱建物
図26 74号掘立柱建物 75号掘立柱建物
図27 78号掘立柱建物 84号掘立柱建物

図28	1号不定形遺構	37号住居
図29	4号住居	5号住居
図30	11号住居	19、20号住居
図31	18号住居	18号住居内遺物出土状況
図32	38号住居	54号住居
図33	55号住居	7、14号掘立柱建物
図34	24、25、104、105号掘立柱建物	23、106号掘立柱建物
図35	別区完掘状況	畑状遺構完掘状況
図36	148号溝内「下駄」出土状況	244号溝内「下駄」出土状況
図37	148号溝内「土のこ」出土状況	18号住居内土器出土状況
図38	北区第Ⅲ遺構面航空写真	南区第Ⅲ遺構面航空写真
図39	49、50、51号住居	92号住居
図40	北区第Ⅲ遺構面完掘状況	22号住居
図41	24号住居	南区第Ⅲ遺構面水田跡完掘状況
図42	22号住居内土器出土状況	
図43	270号溝内「S字甕」出土状況	270号溝「堰」出土状況
図44	噴砂検出状況	

実測図版目次

第1図	S B 1・S B 3実測図
第2図	S B 2実測図
第3図	S B 4・S B 5実測図
第4図	S B 6
第5図	S B 7・S B 11実測図
第6図	S B 8実測図
第7図	S B 9実測図
第8図	S B 10実測図
第9図	S B 12・S B 13・S B 14実測図
第10図	S B 15・S B 20実測図
第11図	S B 16・S B 17実測図
第12図	S B 18・S B 19・S B 23実測図
第13図	S B 21・S B 22・S B 26・S A 1実測図
第14図	S B 24・S B 25・S B 27・S B 34実測図
第15図	S B 28・S B 29実測図
第16図	S B 30・S B 31・S B 38実測図
第17図	S B 32・S A 2実測図
第18図	S B 33・S B 36・S B 37実測図
第19図	S B 35・S B 40・S A 3・S A 4実測図
第20図	S B 39・S B 41・S B 42・S B 60実測図

- 第21 図 S B 43・S B 44実測図
- 第22 図 S B 45実測図
- 第23 図 S B 46・S B 47実測図
- 第24 図 S B 48・S B 52実測図
- 第25 図 S B 49・S B 54実測図
- 第26 図 S B 50・S B 51実測図
- 第27 図 S B 53・S B 55・S B 56実測図
- 第28 図 S B 57・S B 59実測図
- 第29 図 S B 58実測図
- 第30 図 S B 61・S B 62実測図
- 第31 図 S B 63・S B 65実測図
- 第32 図 S B 64実測図
- 第33 図 S B 66実測図
- 第34 図 S B 67実測図
- 第35 図 S B 68実測図
- 第36 図 S B 69・S B 70実測図
- 第37 図 S B 71実測図
- 第38 図 S B 72・S B 76実測図
- 第39 図 S B 73実測図
- 第40 図 S B 74・S B 77実測図
- 第41 図 S B 75実測図
- 第42 図 S B 78・S A 12実測図
- 第43 図 S B 79・S B 80実測図
- 第44 図 S B 81・S B 82実測図
- 第45 図 S B 83・S B 85実測図
- 第46 図 S B 84実測図
- 第47 図 S B 86・S B 87実測図
- 第48 図 S B 88・S A 15実測図
- 第49 図 S B 89・S B 90実測図
- 第50 図 S B 91・S A 5 実測図
- 第51 図 S B 92実測図
- 第52 図 S B 93・S B 94・S B 95・S B 96・S B 97実測図
- 第53 図 S B 98・S B 99・S B 107実測図
- 第54 図 S B 100・S B 101実測図
- 第55 図 S B 102・S B 103実測図
- 第56 図 S B 104・S B 105・S B 106実測図
- 第57 図 S A 8・S A 9・S A 17実測図
- 第58 図 S A 11・S A 13実測図
- 第59 図 S A 14・S A 16実測図
- 第60 図 S E 1 実測図

- 第61 図 S E 2 実測図
- 第62 図 S E 3 ・ S E 4 実測図
- 第63 図 S E 5 ・ S E 6 実測図
- 第64 図 S E 16 ・ S E 7 実測図
- 第65 図 S E 8 ・ S E 9 実測図
- 第66 図 S E 10 ・ S E 11 実測図
- 第67 図 S E 12 ・ S E 13 実測図
- 第68 図 S E 14 ・ S E 15 実測図
- 第69 図 S E 17 ・ S E 18 実測図
- 第70 図 S E 19 実測図
- 第71 図 S E 22 ・ S E 23 実測図
- 第72 図 S E 24 実測図
- 第73 図 S X 1 実測図
- 第74 図 S X 5 実測図
- 第75 図 S H 1 ・ S H 2 ・ S H 3 ・ S H 4 実測図
- 第76 図 S H 5 ・ S H 8 実測図
- 第77 図 S H 7 ・ S H 14 ・ S H 22 実測図
- 第78 図 S H 7 ・ S H 14 ・ S H 22 実測図
- 第79 図 S H 9 ・ S I 12 ・ S I 14 ・ S I 15 実測図
- 第80 図 S H 10 ・ S H 11 実測図
- 第81 図 S H 12 ・ S H 13 実測図
- 第82 図 S H 15 ・ S H 16 実測図
- 第83 図 S H 17 実測図
- 第84 図 S H 18 実測図
- 第85 図 S H 19 ・ S H 20 実測図
- 第86 図 S H 21 実測図
- 第87 図 S H 23 ・ S H 25 ・ S H 26 ・ S H 27 ・ S H 28 ・ S H 32 実測図
- 第88 図 S H 24 ・ S H 29 ・ S H 31 実測図
- 第89 図 S H 24 ・ S H 29 ・ S H 31 実測図
- 第90 図 S H 25 ・ S H 26 ・ S H 29 実測図
- 第91 図 S H 33 実測図
- 第92 図 S H 34 ・ S H 39 実測図
- 第93 図 S H 35 実測図
- 第94 図 S H 36 実測図
- 第95 図 S H 37 実測図
- 第96 図 S H 37 実測図
- 第97 図 S H 38 実測図
- 第98 図 S H 40 ・ S A 6 ・ S A 7 実測図
- 第99 図 S H 41 ・ S H 42 実測図
- 第100 図 S H 43 ・ S H 44 実測図

- 第101図 S H43・S H44実測図
第102図 S H45・S H46実測図
第103図 S H45・S H46実測図
第104図 S H47実測図
第105図 S H48実測図
第106図 S H49・S H50実測図
第107図 S H51・S H53実測図
第108図 S H52・S H56実測図
第109図 S H55実測図
第110図 S H54実測図
第111図 S I 3・S I 4・S I 5・S I 7 実測図
第112図 S I 6・S I 8・S I 10・S I 17実測図
第113図 S I 12・S I 13・S K69実測図
第114図 S I 16・S I 18・S I 19実測図
第115図 S K 1・S K 2・S K 4・S K 5・S K 6・S K17実測図
第116図 S K 7・S K 8・S K 9・S K11・S K12・S K13・S K116実測図
第117図 S K20・S K23・S K58実測図
第118図 S K25・S K32・S K67・S K118実測図
第119図 S K39・S K44・S K51・S K57実測図
第120図 S K59・S K68実測図
第121図 S K60・S K61・S K72・S K76実測図
第122図 S K71・S K83・S K114実測図
第123図 S K115・S K78実測図
第124図 S K84実測図
第125図 S K86・S K87実測図
第126図 S K88実測図
第127図 S K91・S K92・S K96実測図
第128図 S K93実測図
第129図 S K95・S K97・S K98・S K99実測図
第130図 S K101実測図
第131図 S K102・S K104・S K105・S K106実測図
第132図 S K103・S K107・S K108・S K109・S K110実測図
第133図 S K111・S K112実測図
第134図 S K120実測図
第135図 S K121・S K125・S K126実測図
第136図 S K122・S K123・S K127・S K128実測図
第137図 S D123・S K129実測図
第138図 S K130実測図
第139図 S D16・S D180実測図
第140図 S D17実測図

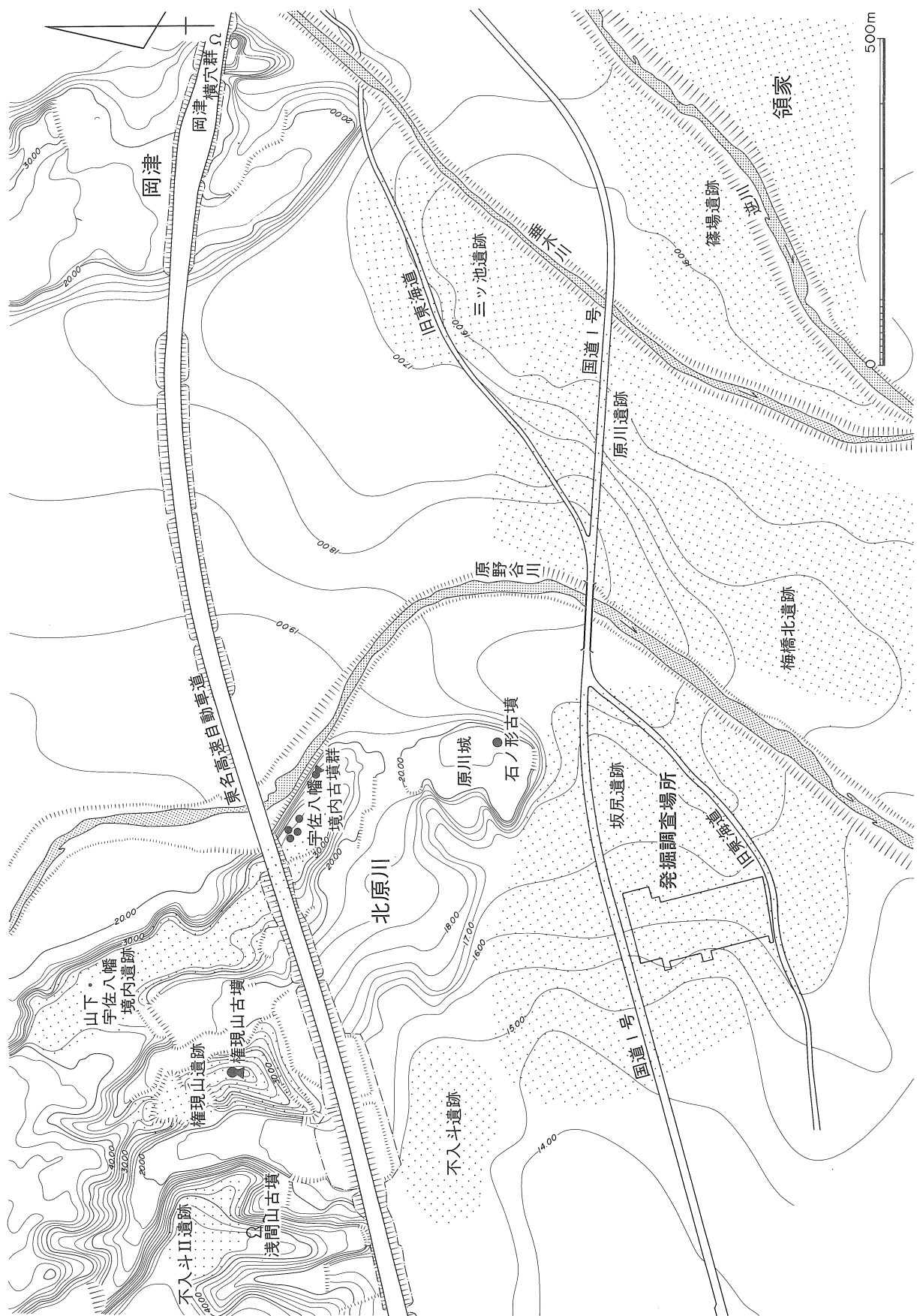
- 第141図 S D73実測図
- 第142図 S D82・S D150実測図
- 第143図 S D189実測図
- 第144図 S D189・S D194実測図
- 第145図 S D219実測図
- 第146図 S D16・S D17・S D185実測図
- 第147図 S D66・S D80・S D82・S D123・S D152実測図
- 第148図 S D219・S D220・S D244・S D246・S D247・S D248実測図
- 第149図 S D148実測図
- 第150図 S D183実測図
- 第151図 S D267・S D270・S D276実測図
- 第152図 S D11・S D13・S D14・S D15実測図
- 第153図 S D10・S D12・S D13・S D14実測図
- 第154図 畝1 実測図
- 第155図 畝2 実測図
- 第156図 畝3 実測図
- 第157図 畝4 実測図
- 第158図 畝5 実測図
- 第159図 第Ⅰ遺構面全体図
- 第160図 第Ⅱ遺構面全体図
- 第161図 第Ⅲ－1 遺構面全体図
- 第162図 第Ⅲ－2 遺構面全体図

平成5年度坂尻遺跡発掘調査報告書（遺構編）

第1章 発掘調査の経緯

第1節 調査にいたる経過及び調査経過

- 1989年 2月28日 大和ハウス工業(株)中部工場増設について、大和ハウス工業(株)より協議
3月1日 大和ハウス工業(株)より埋蔵文化財等所在調査の依頼
3月6日 遺跡地図及び過去の発掘調査結果から、平面発掘調査を解答
9月6日 工場増設予定地内で試掘調査を実施
9月11日 試掘調査結果から弥生～奈良時代の包含層が確認されたことを通知
11月2日 発掘調査実施に係わる期限・経費等の打合せを実施
11月21日 発掘調査経費と予算計画の日程を大和ハウス工業(株)に通知
11月24日 大和ハウス工業(株)より工場建設区域の設計図（案）を受理
12月5日 大和ハウス工業(株)宛て坂尻遺跡発掘調査計画書を送付
12月11日 坂尻遺跡発掘調査について大和ハウス工業(株)と合意
- 1990年 4月1日 大和ハウス工業(株)と中部工場増設に伴う坂尻遺跡発掘調査協定書及び委託契約書を締結
4月15日 発掘調査現地調査開始（北側半分約8,000㎡）
調査は、南北に分割し反転して調査することとした
5月31日 北側の第Ⅰ遺構面調査終了
6月1日 航空測量、セスナ撮影
6月2日 北側の第Ⅱ遺構面の現地調査開始
8月29日 北側の西側半分（約4,000㎡）の第Ⅱ遺構面現地調査終了
8月30日 航空測量
9月1日 北側の東側半分（約4,000㎡）の第Ⅱ遺構面調査開始
10月26日 北側の第Ⅱ遺構面調査終了
10月27日 航空測量、セスナ撮影
10月28日 南側第Ⅰ遺構面及び北側の第Ⅲ遺構面（約1,600㎡）の調査開始
11月13日 北側の第Ⅲ遺構面（約1,600㎡）の調査終了
11月14日 航空測量
12月14日 南側の第Ⅰ遺構面調査終了
12月15日 航空測量、セスナ撮影
12月16日 南側の第Ⅱ遺構面の現地調査開始
- 1991年 1月18日 増設工事の変更について大和ハウス(株)より相談
2月12日 南側第Ⅱ遺構面約3分2調査終了
2月13日 航空測量
3月3日 南側の第Ⅱ遺構面調査終了
3月4日 航空測量、セスナ撮影
3月5日 南側の第Ⅲ遺構面の調査開始
3月26日 増設変更の発掘調査日程等について合意



第1図 坂尻遺跡及び周辺遺跡分布図

- 4月19日 南側第Ⅲ遺構面、南側拡張区第Ⅱ遺構面の調査終了
- 4月20日 航空測量
- 4月21日 増設変更の調査開始
- 5月15日 増設変更部の東側第2遺構面調査終了、航空測量
- 5月27日 大和ハウス(株)より坂尻遺跡の噴砂跡の標本が市へ寄贈される
- 6月28日 増設変更部の北側第2遺構面調査終了、航空測量
- 7月31日 全ての調査を終了する

第2節 遺跡の立地

掛川市大尾山(670.9m)に源を発し南流する原野谷川は、袋井市・掛川市・小笠郡にまたがる小笠山丘陵にぶつかり河道を西へ転ずる。この河道転換点付近は、垂木川、逆川(粟ヶ岳が源流)が近接し合流する地点でもある。

坂尻遺跡は原野谷川の河道転換点西側に形成された自然堤防上から西側緩斜面(標高15～17.5m)にかけて立地する。自然堤防は北に迫った丘陵末端へ連続し、坂尻遺跡の北及び東に原川遺跡、その北側に山下遺跡が存在する。原川遺跡内には、短鎧が出土した石ノ形古墳(径27mの円墳)が、原野谷川の河岸丘上に宇佐八幡境内古墳群(前方後円墳1基、円墳5基)がある。

現在確認されている遺跡範囲は約15haと広大で、奈良時代の遺跡群は南東部約6haが推定される。奈良時代の坂尻遺跡は、佐野郡の郡家の所在地と推定され過去の発掘調査に於いて「佐野厨家」「駅長」等の郡家・駅家関係の墨書土器が大量に出土している。郡家の中心域については、過去の調査でも明らかとなっていない。

原野谷川・逆川・垂木川が形成した自然堤防上に初めて人々が住みついたのは弥生時代中期と考えられる(原川遺跡)。この頃、坂尻遺跡でも水田耕作が営まれていたことが1991年の静岡県埋蔵文化財調査研究所の調査によって明らかとなった。後期にいたり、集落数(国本Ⅱ・梅橋北・三ッ池・曾我領家遺跡)は増加する。坂尻遺跡では、弥生時代中期に集落が成立し、古墳時代後期初頭になるとその規模は西方へ拡大していく。この集落拡大期と期を同じにして、北方丘陵の縁辺部にも小規模な集落(不入斗・石ノ形遺跡)が点在し成立してくる。古墳時代後期後半の坂尻遺跡は、溝に囲まれた掘立柱建物を主体とする拠点集落が成立し、それをとり囲むように竪穴住居群数単位からなる小集落が分布するようになる。坂尻遺跡は、これら古墳時代後期の遺跡群のほぼ中央に位置し表面採取が可能な遺物の分布範囲は著しく広い。

第3節 発掘調査の方法・調査整理体制

1. 方 法

発掘調査区に一辺10mの方形グリット(大グリット)を設定した。このグリットは、本調査区の北側を通る国道1号線バイパスの調査を実施している(1989年当時)(財静岡県埋蔵文化財調査研究所の調査区との接合をはかるため、財静岡県埋蔵文化財調査研究所の設定したグリットを延長して設定した。東から西へ1・2・3…、北から南へF・G・H…とし、北東端の接点する箇所を大グリット名(F3等)として名付けた。さらに、大グリットを一辺2mごとの小グリットに細分した。分層発掘・掘り下げは大グリット単位で行い、小グリットは包含層出土遺物の取り上げ、現地図面作成等の基本

単位とした。方位は、時北に設定した。

調査区全面の遺構確認は、3面（平安末～鎌倉・奈良～古墳後期・古墳前期～弥生末）行い、さらにその下層の調査も実施した。遺構は検出順に1・2・3…と算用数字の通し番号を例言の略号ごとに伏して名付けた。

現地平面図は、40分の1縮尺を基本とし、株式会社フジヤマと委託契約を結び航空測量で実施した。遺物の出土状況等詳細な図面が必要な場合は、10分の1縮尺図を作成した。

記録写真はブローニーサイズ（黒白・カラー）と35mmサイズ原画（黒白・カラーリバーサル）を併用した。航空写真、セスナ撮影は、4×5版（黒白・カラーリバーサル）を使用した。

2. 調査整理体制

発掘調査指導機関 静岡県教育委員会文化課

発掘調査実施機関 袋井市教育委員会

教 育 長 浅井通男（1989年4月～）

教 育 次 長 岩崎 保（1992年4月～）

社 会 教 育 課 長 岩崎 保（1989年4月～1992年3月）

兼子春治（1989年4月～）

社会教育課長補佐 小粥保夫（1992年4月～1993年3月）

文 化 振 興 係 長 小粥保夫（1989年4月～1992年3月）

文 化 財 係 長 吉岡伸夫（1992年4月～）

主 任 主 査 吉岡伸夫（1989年4月～1992年3月）

主 任 学 芸 員 永井義博（1989年4月～）

加藤理文（1989年4月～）発掘担当者（県教委文化課）

松井一明（1989年4月～）発掘担当者

学 芸 員 森井雅彦（1989年4月～）発掘担当（1989年4～6月）

白澤 崇（1989年4月～）発掘担当（1989年7～9月）

主 任 主 事 建部千代子（1989年4月～1992年3月）

鈴木寿美子 寺田妙子 内田則子 村田博美

第4節 基本層位

坂尻遺跡においては、過去の調査事例から古墳時代後期以前の遺構は存在しないとされてきた。しかし、今回の発掘調査区が大きく、十分な掘り下げ可能となったため15層が確認できた。

当調査区の基本層位を上層より列記すれば次のとおりとなる。

I b層 灰色土 室町～戦国時代の包含層 調査区北西部に一部のみ確認 遺構は無残存

I c層 黒色粘土 平安末～鎌倉時代の包含層

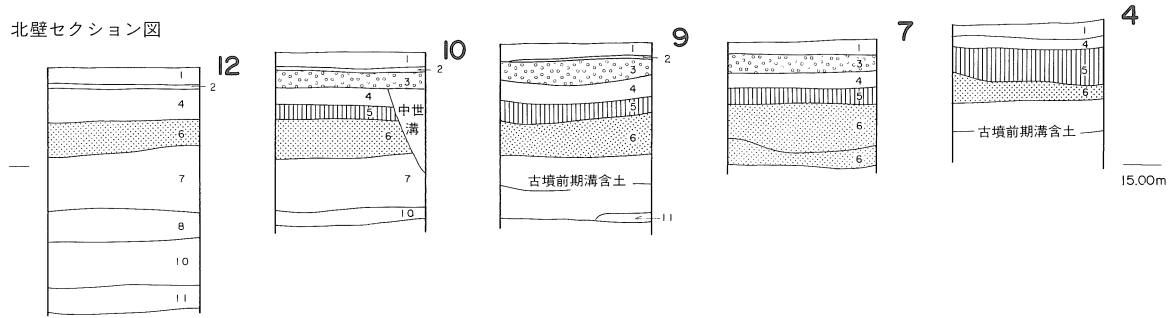
II a層 灰白色粘土 平安～奈良時代の包含層 基本的には平安時代遺構の遺物包含層・遺構含土である。II a層を除去した後の遺構確認面を第I遺構面とした。

III a層 褐色粘土 古墳後期～中期の包含層 III a層除去後の遺構確認面を第II遺構面とした。

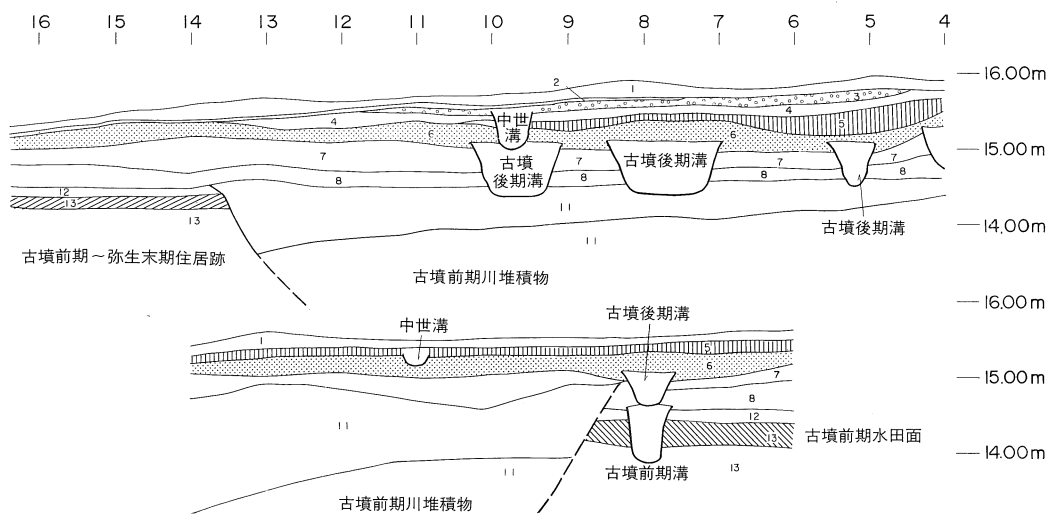
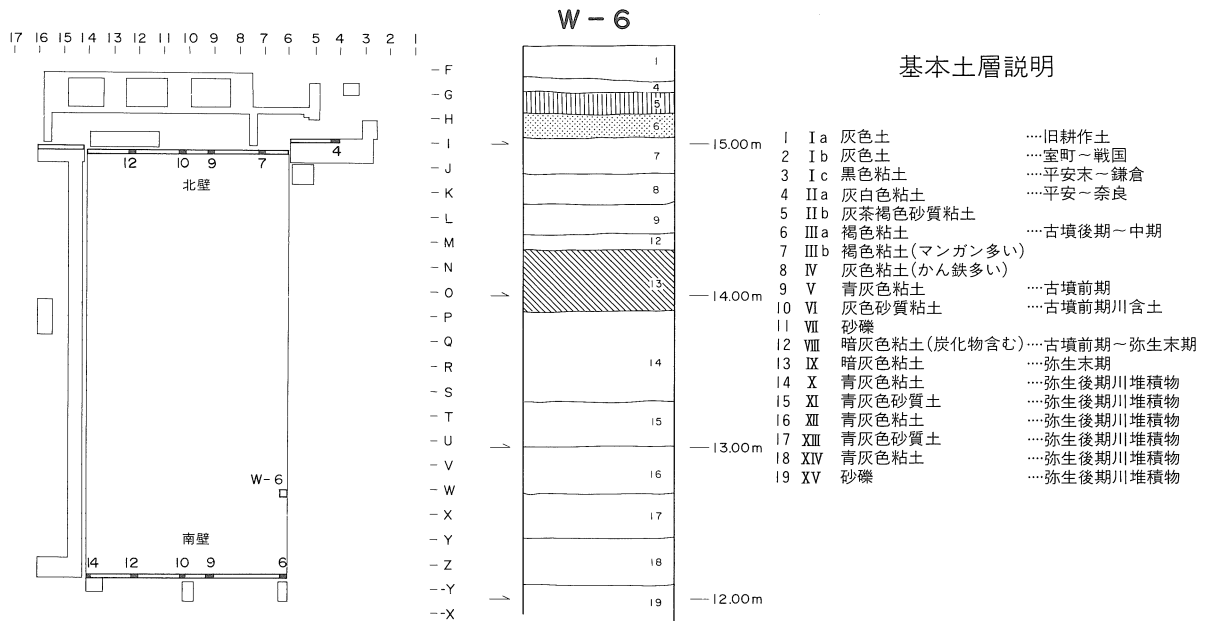
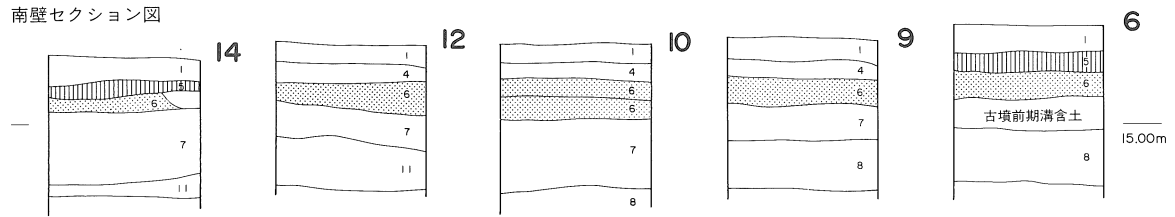
この遺構面で奈良時代、古墳時代前期の遺構が確認される。

V層 青灰色粘土 古墳時代前期遺物包含層 V層除去後の遺構確認面を第III遺構面とした。

北壁セクション図



南壁セクション図



第2図 坂尻遺跡基本土層図 (1)

表1 掘立柱建物一覧表 (1)

遺構名	位 置 (小区)	梁間×桁行 (間)	規 模 (m)	規 模 (㎡)	主軸方位	年 代	備 考
S B 1	I 6・7	4×3～	7.2×5.2～	37.4～	N 6°E	12C前	神社関係?
S B 2	O 9・P 9	4×3 (外) 3×1 (内)	9.3×5.6 6.8×3.8	52.1 25.8	N 2°E	12C	周りに雨落ち溝あり S B 8と同形式
S B 3	N 6・O 6	2?×1	3.2×2.6	8.3	N 0°	12C	1×1も可能
S B 4	I 10	2×3～ (外) 1×3～ (内)	5.7×5.6～ 4.2×4.6～	31.9～ 19.3～	N 7°W	12C	
S B 5	L 12・13	3×3	8.0×4.2	33.6	N 3°W	12C前	北側にのみ底付き
S B 6	M 12・13	6×3 (外) 5×1 (内)	13.7×6.6 10.9×4.2	90.4 45.8	N 2°W	12C前	母屋としては、中性最 大の建物
S B 7	N 13	3×2	6.2×4.2	26.0	N 4°W	12C前	総柱の倉庫
S B 8	O 12・13	3×2 (外) 2×1 (内)	8.6×6.1 6.5×3.9	52.5 25.4	N 2°E	12C	回りに雨落ち溝あり S B 2と同形式
S B 9	N 12・O 12	5×6	8.9×10.9	97.0	N 1°W	12C前	納屋の建物 S B 10と同型式
S B 10	N 11・O 11	5×5?	9.5×9.2	87.4	N 3°E	12C前	納屋の建物 S B 9と同型式
S B 11	I 13・14	2×2	4.0×4.0	16.0	N 6°E	12C	
S B 12	I 15・16	2～×2～	3.0～×2.8～	8.4～	N 3°W	6C末～7C初	総柱・倉庫
S B 13	I 15	2×2～	5.0×2.4～	12.0～	N 1°E	6C末～7C初	総柱・倉庫
S B 14	I 13・J 13	4×3～	6.7×5.2	34.8	N 6°E	6C末～7C初	北側に底付き
S B 15	J 12・13	3×3?	8.1×6.5	52.7	N 3°E	6C末～7C初	南側に底付き
S B 16	J 13・14	4?×3～	7.2×5.2	37.4	N 5°E	6C末～7C初	間仕切り
S B 17	K 14	2?×2	4.1×3.5	14.4	N 1°E	6C末～7C初	
S B 18	K 13	2×2	2.9×2.6	7.5	N 7°W	6C末～7C初	
S B 19	K 13	3×2	4.3×3.3	14.2	N 22°E	6C末～7C初	
S B 20	J 12・K 12	1×3	3.3×4.8	15.8	N 4°W	6C末～7C初	
S B 21	K 12	3×3	5.3×4.2	22.5	N 18°W	6C末～7C初	
S B 22	K 12・11	2×2	3.4×3.1	10.5	N 17°W	6C末～7C初	
S B 23	I 12	1×2	4.1×4.4	18.0	N 7°E	6C末～7C初	
S B 24	I 13	2×1?	2.9×2.5	7.3	N 9°E	6C末～7C初	
S B 25	I 13	3×2	4.1×3.5	14.4	N 9°E	6C末～7C初	
S B 26	K 13・L 13	2×3	3.5×3.2	11.2	N 31°W	6C末～7C初	
S B 27	O 13・P 13	2×2	4.0×3.9	15.6	N 15°W	6C末～7C初	

表 1 掘立柱建物一覧表 (2)

遺構名	位 置 (小区)	梁間×桁行 (間)	規 模 (m)	規 模 (㎡)	主軸方位	年 代	備 考
S B28	I 15	2×2	4.7× 5.4	25.4	N13°W	8 C ?	総柱建物
S B29	I 16	2×2	3.9× 3.9	15.2	N30°W	8 C	総柱建物
S B30	I 7	2×1～	2.8× ?		N19°W	8 C	総柱建物
S B31	J 7	2×2	3.4× 3.1	10.5	N12°W	8 C	総柱建物
S B32	J 7	3×3	5.0× 4.7	23.5	N10°W	8 C	総柱建物
S B33	N 8・M 8	3×3	5.0× 4.4	22.0	N15°W	6 C 末～7 C 初	総柱建物
S B34	N10・O10	2×1	3.1× 2.0	6.0	N 3°W	6 C 末～7 C 初	
S B35	N 9	2×3	2.6× 4.1	10.7	N 4°W	6 C 末～7 C 初	
S B36	N 8	1×2	1.8× 2.9	5.2	N5°W	6 C 末～7 C 初	
S B37	N 7	2×3	2.2× 4.3	9.9	N 4°E	6 C 末～7 C 初	総柱建物
S B38	J 6	2×2～	3.8× 2.3～	8.7～	N27°W	8 C ?	
S B39	I 4	1×1～	3.8～× ?		N 4°W	8 C ?	
S B40	K 6	3×3	4.3× 3.4	14.6	E 6°E	6 C 末～7 C 初	
S B41	O19	2×1	3.3× 2.8	9.2	N 5°E	6 C 末～7 C 初	
S B42	O10	1×2	2.0× 2.8	5.6	N11°E	6 C 末～7 C 初	
S B43	I 3	2×2	5.0× 5.0	25.0	N 5°E	8 C	総柱建物
S B44	L10・11	2×3	2.9× 3.8	11.0	N15°E	6 C 末～7 C 初	
S B45	R13・14	5×4 (外) 3×1 (内)	9.4× 7.2 6.7× 4.8	67.7 32.2	N 6°E	12C	入母屋造り
S B46	V13・14	1×1	3.9× 4.6	17.9	N 6°E	12C	井戸屋か?
S B47	Y15・Z15	2×3～	4.1× 5.1～	20.9～	N 5°E	12C	
S B48	X12・Y12	3×2	8.5× 4.6	39.1	N 1°E	12C	総柱建物
S B49	Y12・Z12	4×1	7.7× 1.6	12.3	N 4°E	12C	
S B50	Y101×2		2.9× 3.9	11.3	N 1°E	12C	
S B51	Z 9・10	2×2	5.2× 5.1	26.5	N 8°E	12C	井戸屋か?
S B52	Z 9	1×2	2.5× 2.8	7.0	N 4°E	12C	
S B53	Y 7・8	3×2 (外) 3×2 (内)	8.2× 6.1 6.0× 4.0	50.0 24.0	N10°E	12C	入母屋造り
S B54	Y12・13	4×3 (外) 3×1 (内)	9.3× 6.0 7.4× 4.3	55.8 31.8	N 6°E	12C	入母屋造り

表1 掘立柱建物一覧表 (3)

遺構名	位 置 (小区)	梁間×桁行 (間)	規 模 (m)	規 模 (㎡)	主軸方位	年 代	備 考
S B55	Y14・Z14	1×2	4.0×3.3	13.2	N5°E	12C	
S B56	Z14	3×2～	3.4×1.4～	4.7～	N0°	12C	
S B57	X13・Y13	3×4～	4.8×3.2～	15.4～	N7°E	8C	S B58とセット関係か？
S B58	Y13・Z13	3×8～	5.10×17.0～	86.7～	N2°E	8C	最大の掘立柱建物
S B59	X12・Y12	2×1	2.8×3.0	8.4	N13°W	8C	
S B60	K10・11	2×2	2.7×3.6	9.7	N26°W	6C末～7C初	
S B61	X8・9	3×2	5.0×3.4	17.0	N4°W	6C末～7C初	
S B62	Q10・11	2×1	3.5×2.1	7.4	N12°W	6C末～7C初	
S B63	U11・12	2×1	5.8×2.7	15.7	N10°W	6C末～7C初	
S B64	T6	2×3	4.4×6.1	26.8	N4°E	8C	
S B65	S6・7	2×2	4.3×3.9	16.8	N0.5°W	6C末～7C初	間仕切り有り
S B66	S6・7	2×2	3.6×3.7	13.3	N10°W	8C	総柱建物
S B67	R7・S7	3×2	5.1×4.3	21.9	N9°W	8C	総柱建物
S B68	S8・R8	3×2	4.3×4.0	17.2	N5°E	8C	総柱建物
S B69	Q8・R8	2×3	2.9×4.0	11.6	N11°W	6C末～7C初	
S B70	S13・14	2×2	3.1×2.2	6.8	N8°E	6C末～7C初	
S B71	Q6	2×3	4.4×4.6	20.2	N1°W	6C末～7C初	間仕切り有り
S B72	S8・9	3×4	5.3×3.8	22.0	N8°E	6C末～7C初	
S B73	S10・T10	2×2	3.9×3.7	14.4	N0°	6C末～7C初	総柱建物
S B74	Q9	2×2	4.1×3.4	13.9	N33°W	8C	総柱建物
S B75	Q7・R7	3×2	4.2×3.5	14.7	N0.5°E	6C末～7C初	総柱建物
S B76	S6	2～×2	3.2×5.2	16.6～	N10°W	8C南	側底か？
S B77	Q8・9	2×1	2.8×2.4	6.7～	N3°W	6C末～7C初	
S B78	S9	2×3	3.5×3.1	10.9	N15°E	6C末～7C初	間仕切り有り
S B79	Y6・Z6	3×3	4.4×3.2	14.1	N10°E	6C末～7C初	
S B80	X6・Y6	2～×2	3.1×3.4	10.5～	N0.5°W	6C末～7C初	
S B81	X6・Y6	1～×2	1.9～×4.8	9.1～	N9°W	8C	北側底か？

表1 掘立柱建物一覧表(4)

遺構名	位 置 (小区)	梁間×桁行 (間)	規 模 (m)	規 模 (㎡)	主軸方位	年 代	備 考
S B82	Y 6	1×2	1.9×5.8	11.0~	N 4°W	8 C	北側底か?
S B83	W 7	1×2~	2.8×3.1~	8.7~	N 1°E	6 C末~7 C初	
S B84	Y 7・Y 8	3×7	4.7×8.4	9.5	N22°W	6 C末~7 C初	馬屋的施設か?
S B85	R11・S11	2×1	4.8×3.0	14.4~	N 2°E	6 C末~7 C初	
S B86	V16	2×2	2.5×6.3	15.8	N45°E	6 C末~7 C初	
S B87	U 7	3×2	4.2×2.6	10.9	N 8°E	6 C末~7 C初	
S B88	U 6	2×3	3.0×5.0	15.0	N0.5°W	8 C	東側に柵有り
S B89	T 8・9	3×2	5.1×3.1	15.8	N 1°E	6 C末~7 C初	
S B90	S 7	2×2	3.4×2.7	9.2	N2.5°W	6 C末~7 C初	
S B91	P 7・Q 7	4×3	8.0×4.3	34.4	N 7°W	6 C末~7 C初	南側に柵有り
S B92	Y 6・7	2×1	4.6×3.7	17.0	N14°W	4 C前	間仕切り有り
S B93	Z 6・-Y 6	1×3	?×6.3		N10°E	12C	
S B94	-Y 6	3×?			N10°E	12C	
S B95	Z 9・10	3×?			N 4°E	12C	
S B96	-Y 9・10	3×?			N 4°E	12C	
S B97	U14	1×3	1.8×3.8	6.8~	N11°E	6 C末~7 C初	
S B98	H12・I12	1×2	2.6×2.0	5.2	N 6°E	12C	
S B99	H11・I11	?×4~				12C	入母屋造りか?
S B100	J 5	2×1?	3.7×2.2	8.1	N10°W	8 C	総柱建物
S B101	F15・G15	2×2	3.6×5.3	19.1	N12°W	6 C末~7 C初	総柱建物
S B102	G12	3×3	4.8×5.2	25.0~	N 5°W	6 C末~7 C初	
S B103	F12・13	2×4	3.3×4.5	14.9	N 5°E	6 C末~7 C初	
S B104	H13	3×1	3.1×2.3	7.1~	N 8°W	6 C末~7 C初	
S B105	H13	3×2	3.8×2.92	11.0	N12°W	6 C末~7 C初	
S B106	H12	5×?	6.0×?		N 1°E	6 C末~7 C初	
S B107	F15・G15	2×2	4.5×4.5	20.2	N14°E	12C	総柱建物
S B108	I 15				N 6°E	12C	

表2 竪穴住居一覧表 (1)

No.	略 称	主軸方位	規模 南北×東西	床面積 (㎡)	掘方深さ	炉 位 置	貯蔵穴位置	壁溝	排水溝	柱穴	年 代	備 考
1	SH 1	N 1°W	3.3×2.8～	9.24～	30cm	不明	なし	○	×	不明	6 C後	
2	SH 2	N 26°W	2.0～×3.0～	6.00～	12cm	不明	不明	×	×	不明	6 C末～7 C前	
3	SH 3	N 23°W	2.6～×2.2～	6.76～	18cm	不明	なし	×	○	不明	6 C末～7 C前?	SD73が切る
4	SH 4	N 6°W	4.5 ×4.4	19.80	14cm	北側 (中央)	不明	○	×	4	6 C末～7 C前?	竈断面に噴砂あり
5	SH 5	N 9°W	4.5 ×4.3	19.35	16cm	北側 (中央)	北西	○	×	4	6 C末～7 C前?	SD23が切る
6	SH 6											欠番
7	SH 7	N 11°E	3.8 ×3.7	14.06	10cm	北側 (中央西)	北中央	○	○南	4	6 C末～7 C前	SH 7→SH14
8	SH 8	N 11°W	3.5 ×3.5	12.25	12cm	北側 (中央)	なし	×	○南	4	6 C後	SH 8→SH 9
9	SH 9	N 11°W	4.5 ×4.4	19.80	20cm	北側 (中央)	なし	○	×	4	6 C末～7 C前	SH10→SH 9
10	SH10	N 16°W	4.0 ×4.4	17.60	12cm	なし	なし	○	○北	不明	6 C末～7 C前	SH10→SH 9
11	SH11	N 1°W	3.1 ×4.2	13.02	15cm	北側 (中央)	北西角	×	×	4	6 C後	
12	SH12	N 6°W	4.8 ×3.7	17.76	24cm	なし	不明	×	×	4	5 C前	SH12→SH14
13	SH13	N 7°W	4.7 ×5.2	24.44	12cm	なし	なし	×	○南	4	6 C末～7 C前	SH13→SH22→SH14
14	SH14	N 5°W	6.0 ×4.2	25.20	50cm	北側 (中央)	不明	×	不明	4	6 C末～7 C前	SH13→SH22→SH14
15	SH15	N 9°W	5.0 ×4.3～	21.50～	20cm	北側 (中央)	不明	×	東・南	不明	6 C後	噴砂で竈がずれる
16	SH16	N 15°W	4.2 ×4.6	19.32	18cm	北側 (中央)	北東角	○	×	4	7 C前?	SH15→SB31
17	SH17	N 4°W	5.2 ×5.1	26.52	12cm	北側 (中央)	なし	×	×	4	6 C末～7 C前	SD152が切る
18	SH18	N 3°W	5.6 ×5.1	28.56	8cm	北側 (中央)	なし	×	○西	4	6 C末～7 C前	土器集中出土
19	SH19	N 15°W	4.0～×5.0	20.00～	28cm	北側 (中央)	不明	×	不明	4	6 C末～7 C前?	SH19→SH20
20	SH20	N 15°W	5.0 ×5.3	26.50	24cm	北側 (中央)	不明	×	不明	4	6 C末～7 C前?	SH19→SH20
21	SH21	N 4°W	6.0 ×6.1	36.60	18cm	北側2個	不明	×	×	4	6 C末～7 C前?	SH21→SB32
22	SH22											欠番
23	SH23	N 7°E	2.1～×4.6	39.66～	28cm	不明	不明	○	不明	不明	4 C初	SH27→SH32→SH23
24	SH24	N 8°W	5.6 ×5.0～	28.00～	30cm	中央東	不明	○	不明	不明	4 C初	SH31→SH24
25	SH25	N 10°W	3.5～×2.6～	39.10～	不明	不明	不明	○	不明	不明	4 C初	SH30→SH20→SH25→SH33
26	SH26	N 8°E	1.3～×3.8	4.94～	18cm	不明	不明	×	不明	不明	4 C初	SH26→SH27
27	SH27	N 5°E	3.0～×7.0	21.00～	16cm	不明	不明	○	不明	不明	4 C初?	SH26→SH27→SH32→SH23
28	SH28	N 1°E	0.5～×3.5～	1.75～	18cm	不明	不明	○	不明	不明	4 C初?	SH27→SH23→SH28

表2 竪穴住居一覧表 (2)

No.	略 称	主軸方位	規模 南北×東西	床面積 (㎡)	掘方深さ	炉 位 置	貯蔵穴位置	壁溝	排水溝	柱穴	年 代	備 考
29	SH29	N 5°W	4.2×5.5～	23.10～	18cm	不明	不明	○	不明	不明	4 C初	SH29→SH31→SH24
30	SH30	N 7°E	2.8×2.5～	7.00～	18cm	不明	不明	○	不明	不明	4 C初?	SH30→SH25
31	SH31	N20°W	2.6×3.2～	28.32～	不明	不明	不明	○	不明	不明	4 C初?	SH31→SH24
32	SH32	N 8°E	0.3×2.1～	20.63～	不明	不明	不明	○	不明	不明	4 C初?	SH27→SH23→SH32
33	SH33	N 8°E	4.1×4.3	17.63～	28cm	不明	不明	×	×	4	4 C前	SH29→SH25→SH33
34	SH34	N 4°W	2.9×2.6～	17.54～	12cm	不明	不明	×	×	不明	5 C後	
35	SH35	N10°E	4.2 ×5.4	22.68	12cm	北側中央	東南角	×	×	4	7 C前	
36	SH36	N34°W	4.5 ×4.5	20.25	16cm	北側中央	不明	○	×	4	7 C前	SH36→SD201
37	SH37	N19°W	4.8 ×3.5	16.80	14cm	北側中央、西南角	不明	×	×	4	7 C前?	円形の溝が回りを囲む
38	SH38	N21°W	4.5 ×4.3	19.35	22cm	北側中央、北側角	西北角	○	○東北	4	7 C前?	
39	SH39	N 1°E	3.7×1.5～	5.55～	24cm	不明	不明	×	×	不明	?	
40	SH40	N12°W	4.6 ×4.4	20.24	12cm	北側中央	なし	○	×	4	7 C前?	
41	SH41	N 6°W	4.4 ×4.8	21.12	12cm	北側中央西	不明	×	○南	4	6 C末～7 C前	SH42と重複、床面に噴砂
42	SH42	N 6°W	3.3 ×2.1	6.93	18cm	なし	不明	×	×	不明	6 C末～7 C前?	SH42と重複
43	SH43	N 6°E	6.4 ×6.4	40.96	18cm	北側中央東	不明	×	○西	4	6 C末～7 C前?	SH44→SH43、床面に噴砂
44	SH44	N 0°	4.5 ×6.0	27.00	16cm	北側中央	不明	×	○西	4	6 C末～7 C前?	SH44→SH256→SB68、西に焼土
45	SH45	N 1°E	4.3 ×4.5	19.35	14cm	北側中央	なし	○	×	4	6 C末～7 C前	SH46→SH45→SB68
46	SH46	N 1°E	3.3 ×3.5	11.55	12cm	北側中央	なし	×	×	4	6 C末～7 C前	SH46→SH45→SB68
47	SH47	N 8°W	3.6 ×3.8	13.68	16cm	北側中央	なし	○	○南	4	7 C前	床面に焼土
48	SH48	N 9°E	3.3 ×4.1	13.53	10cm	北側中央	なし	○	○北	4	6 C末～7 C前	
49	SH49	N 8°E	4.0 ×3.7	14.80	18cm	なし	なし	×	×	4	4 C前	
50	SH50	N 1°E	4.2 ×3.8～	15.96～	18cm	不明	不明	×	×	4?	4 C前	
51	SH51	N 2°E	3.4 ×3.2～	10.88～	18cm	不明	なし	×	×	不明	4 C前	
52	SH52	N 7°W	4.5×3.0～	13.50～	12cm	不明	不明	×	×	不明	4 C前	SH53→SB100
53	SH53	N32°W	3.7×1.8～	6.66～	10cm	不明	不明	○	×	5?	4 C前	
54	SH54	N 1°E	5.2 ×5.0～	26.00～	28cm	北側 (中央)	不明	×	×	4	6 C後	床面埋土に噴砂
55	SH55	N 2°E	4.8×4.7～	22.56～	26cm	北側 (中央)	不明	○	×	4	6 C後	煙筒の痕跡あり
56	SH56	N 1°E	3.5 ×1.7～	5.95～	26cm	不明	不明	×	×	不明	4 C初	

表3 井戸一覧表

遺構名	直径 (cm)	深さ (cm)	出 土 遺 物	年 代	備 考
S E 1	320	125	山茶碗、木札、漆碗	12 C	
S E 2	195	170	山茶碗	12 C	
S E 3	170	85	墨書土器	8 C	
S E 4	220	95	須恵器	8 C	
S E 5	330	100	須恵器、土師器	6 C 末～7 C 前	
S E 6	235	75	須恵器、下駄	6 C 末～7 C 初	
S E 7	125	140	山茶碗	12 C	
S E 8	185	120	山茶碗、青磁	12 C	
S E 9	150	80	山茶碗	12 C	
S E 10	155	120	山茶碗	12 C	
S E 11	110	220	山茶碗	12 C	
S E 12	275	205	山茶碗	12 C	
S E 13	110	130	山茶碗	12 C	
S E 14	205	115	山茶碗	12 C	
S E 15	145	115	山茶碗	12 C	
S E 16	110	170	山茶碗	12 C	
S E 17	205	150		18 C ?	
S E 18	105	185		6 C 末～7 C 初 ?	
S E 19	355	16	須恵器	8 C	
S E 22	130	145	山茶碗	12 C	
S E 23	200	145	山茶碗	12 C	
S E 24	360	160	山茶碗、瓦	12 C	

表4 溝状遺構一覧表 (1)

遺構名	性 格	年 代	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	備 考
S D11	神社建築に伴う排水溝	12 C	9～	0.2～0.4	0.05	
S D12			9～	0.2	0.08	
S D13			22～	0.4	0.1	
S D14			24～	0.2～0.3	0.08	
S D16	坪塚の溝	12 C	212～	0.6～1.6	0.45～0.6	
S D17	神社の区画溝	12 C	160～	2.5～3.6	0.45～0.55	方形区画の角より土器出土
S D25	排水溝	近世?	30	0.7	0.09	
S D39	S B108に伴う排水溝	12 C	32	0.3	0.12	
S D66	排水溝	12 C	14～	0.9	0.3	
S D68	神社の区画溝	12 C	70～	0.6	0.1	S D17と接続か?
S D73		6 C 末 ～7 C 前	18～	1.42	0.39	
S D80	中心建物群を囲む区画溝	6 C 末 ～7 C 前	112～	1.5	0.6	大量の廃棄土器が集中
S D103	畑の畝	8 C ? ～10 C	6.2	0.4	1.1	
S D104			6.3	0.4	1.0	
S D105			6.4	0.4	0.08	
S D106			5.5	0.5	0.06	
S D116			4.8	0.5	0.06	
S D119			5.1	0.5	0.06	
S D123	集落の区画溝	6 C 末 ～7 C 前	84	1.1	0.35	S D126と接続
S D126	S X 1 の区画溝	6 C 末 ～7 C 前	26～	1.2	0.27	S D80・S D123と接続
S D138		6 C 末 ～7 C 前	44～	0.64	0.11	
S D140		6 C 末 ～7 C 前	70～	0.8	0.27	
S D148		6 C 末 ～7 C 前	100～	9.1	1.2	
S D152		6 C 末 ～7 C 前	62	0.65	0.3	
S D164		6 C 後?	30	0.78	0.33	
S D165		6 C 後?	30	0.6	0.22	
S D178	建物群を囲む区画溝	12 C	18	0.34	0.07	
S D180		12 C	32～	0.46	0.05	
S D182		4 C 後	12	～0.4	0.05	
S D183	原野谷川の本流	4 C 後 ～5 C 初	62～	30 ～	1.1	S D273を含み幅94m

表4 溝状遺構一覧表 (2)

遺構名	性 格	年 代	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	備 考
S D185	近世の河川	18C後 ～19C前	90～	2.0～4.0	0.4～0.45	河床に竹樋管が埋設、護岸工事の杭有
S D188	建物を囲む区画溝	12C	22～	0.68	0.09	
S D189	建物を囲む溝?	6C末 ～7C前?	31	0.96	0.11	
S D191	畑の畝	8C? ～10C?	11	0.6	0.03	
S D192			11～	0.7	0.06	
S D195			12～	0.5	0.04	
S D196			12～	0.3	0.03	
S D197			8.5～	0.5	0.04	
S D198			6.8～	0.5	0.04	
S D199			12.5	0.8	0.04	
S D200			8.5	0.4	0.03	
S D202		6C末 ～7C前	34～	1.1	0.46	
S D203	建物を囲む溝	6C末 ～7C前?	34	0.98	0.19	
S D217		6C末 ～7C前	40～	1.9	0.64	
S D219		6C末 ～8C88～	88～	0.5～0.75	0.25～0.5	
S D221		6C末 ～7C前?	28～	0.8	0.06	
S D223		6C末 ～7C前?	86～	0.68	0.1	
S D224		6C末 ～7C前	64～	0.36	0.1	
S D230	畑の畝	8C～10C	3.2	0.4	0.07	
S D235			6.1	0.4	0.07	
S D236			30～	1.3	0.34	
S D244	建物群を囲む区画溝	6C末 ～7C前	46～	1.2	0.25	
S D246	建物群を囲む区画溝	6C末 ～7C前	18	1.0	0.2	
S D248		6C末 ～7C前	42～	1.9	0.3	
S D267		4C前	46～	1.48	0.64	
S D270		4C前	38～	0.82	0.55	
S D276	原野谷川の本流	4C後 ～5C初	96～	22～	1.0	S D183を含み幅94m
S D289			26～	0.8	0.2	
S D298		4C初	12～	0.36	0.08	
S D299		4C初	14～	0.42	0.07	

表5 土壇状遺構一覧表 (1)

遺構名	大 き さ (長×短)	深さ (cm)	年 代	備 考
S K 1	2.15 ×1.40	0.18	12C	
S K 2	1.25 ×0.95	0.18	12C	
S K 4	0.80 ×0.80	0.13	12C	
S K 5	1.25 ×1.00	0.15	12C	
S K 6	0.85 ×0.85	0.10	12C	
S K 7	2.10 ×2.10	0.12	12C	
S K 8	2.10 ×1.80	0.09	12C	
S K 9	1.50 ×1.50	0.11	12C	
S K11	2.90 ×2.60	0.16	12C	
S K12	2.40 ×1.50	0.16	12C	
S K13	2.70 ×1.90	0.20	12C	
S K20	2.05 ×1.85	0.11	6 C 末～7 C 初	
S K23	2.60 ×2.35	0.50	6 C 末～7 C 初	
S K25	1.85 ×1.60	0.72	6 C 末～7 C 初	
S K32	3.50 ×1.90	0.37	6 C 末～7 C 初	
S K39	1.55 ×0.95	0.40	6 C 末～7 C 初	
S K44	1.90 ×0.60	0.40	6 C 末～7 C 初	
S K51	2.00 ×2.00	0.35	6 C 末～7 C 初	
S K57	2.20～×2.15	0.16	6 C 末～7 C 初	
S K58	1.40 ×0.65～	0.05	6 C 末～7 C 初	
S K59	3.20 ×2.10	0.10	6 C 末～7 C 初	
S K60	2.25 ×2.20	0.42	6 C 末～7 C 初	
S K61	3.25 ×1.20	0.40	6 C 末～7 C 初	

表5 土壌状遺構一覧表(2)

遺構名	大 き さ (長×短)	深さ (cm)	年 代	備 考
S K67	0.85 ×1.10	0.09	6 C末～7 C初	
S K68	3.35～×2.55	0.32	6 C末～7 C初	
S K69	5.05 ×3.70～	0.14	6 C末～7 C初	
S K71	1.90 ×1.20	0.18	6 C末～7 C初	
S K72	2.60～×1.30	0.08	6 C末～7 C初	
S K76	2.20 ×1.70	0.40	6 C末～7 C初	
S K78	1.50 ×0.75	0.18	6 C末～7 C初	
S K83	5.35 ×1.50	0.19	6 C末～7 C初	
S K84			12C	
S K86	1.25 ×1.20	0.40	12C	
S K87	1.20 ×0.40～	0.48	12C	
S K88	6.45～×5.00～	0.23	18C	
S K91	6.30～×1.30	0.23	6 C末～7 C初	
S K92	1.40 ×1.00	0.18	6 C末～7 C初	
S K93	8.75 ×1.85	0.52	6 C末～7 C初	
S K95	4.35 ×1.30～	0.21	6 C末～7 C初	
S K96	1.10 ×1.05	0.27	6 C末～7 C初	
S K97	1.40 ×0.95	0.22	6 C末～7 C初	
S K98	1.55 ×1.20～	0.09	6 C末～7 C初	
S K99	1.50～×1.20～	0.31	6 C末～7 C初	
S K101	6.80 ×1.60	0.37	6 C末～7 C初	
S K102	1.10 ×0.95	0.18	6 C末～7 C初	
S K103	1.00 ×0.65	0.21	6 C末～7 C初	

表5 土壙状遺構一覧表 (3)

遺構名	大 き さ (長×短)	深さ (cm)	年 代	備 考
S K104	2.95 ×1.15	0.43	6 C末～7 C初	
S K105	1.85 ×1.00	0.59	6 C末～7 C初	
S K106	2.40 ×1.25	0.57	6 C末～7 C初	
S K107	2.25 ×0.90	0.15	6 C末～7 C初	
S K108	1.40 ×0.90	0.08	6 C末～7 C初	
S K109	1.30 ×1.20	0.22	6 C末～7 C初	
S K110	1.40 ×0.90	0.08	6 C末～7 C初	
S K111	2.60 ×2.50	0.22	6 C末～7 C初	
S K112	2.85 ×2.05	0.11	6 C末～7 C初	
S K114	2.40 ×1.25	0.15	6 C末～7 C初	
S K115	4.35 ×2.25	0.22	6 C末～7 C初	
S K116	2.20 ×1.00	0.11	12C	
S K117	2.00 ×1.00～	0.09	12C	
S K118	1.00～×0.70	0.16	6 C末～7 C初	
S K120	8.35～×4.60	0.31	4 C前	
S K121	3.20 ×1.35～	0.18	6 C末～7 C初	
S K122	2.50～×0.90	0.23	6 C末～7 C初	
S K123	1.10 ×0.80～	0.18	6 C末～7 C初	
S K125	1.65～×0.60～	0.14	12C	
S K126	1.00 ×0.90	0.09	6 C末～7 C初	
S K127	1.30 ×1.05	0.28	6 C末～7 C初	
S K128	2.45 ×1.45～	0.18	6 C末～7 C初	
S K129	6.00～×5.20～	0.55	6 C末～7 C初	
S K130	3.10～×1.15～	0.19	4 C初	

Ⅵ層 灰色砂質粘土 古墳時代前期川に伴う含土

Ⅷ層 炭化物を含む暗灰色粘土 古墳時代前期～弥生時代末期の遺物包含層 Ⅷ層除去後に水田面が確認された。

Ⅸ層 暗灰色粘土 弥生時代末期の遺物包含層

X層～ 弥生時代後期川に伴う堆積物層

本調査区のほぼ真ん中が古墳時代前期～弥生時代末期にかけて河川の流路となっていたため、第Ⅲ遺構面は、調査区の北西端、南東端にのみ確認された。

第5節 江戸時代・近代の遺構

調査区南側を東西に流れる河川が江戸時代中～後半のものと推定される。河川の幅は、平均10mで東より西へ向かって流れていた。出土遺物は、非常に多くかなりの期間に渡って河川そのものが活動していたと考える。この河川の底には、竹樋管が埋設されており、木材をくりぬいて、ジョイントされている。ジョイント部には、墨書で「百〇〇」等の文字が見られ、集水部からの距離を示していると思われる。また、竹樋管に沿って護岸用の杭列が検出された。S E17から、遺物の出土がないため時代の特定はできないが、位置関係及び井戸枠が竹編みであったこと等からこの河川と同時期に機能していたことが推定される。

プリント径畔は、近代の水田のものだが、この河川に近づく程、径畔の幅が狭まり水位調整等を行っていたことが推定される。従って、この河川の埋没時期は昭和初期と考えられる。

第6節 平安時代の遺構

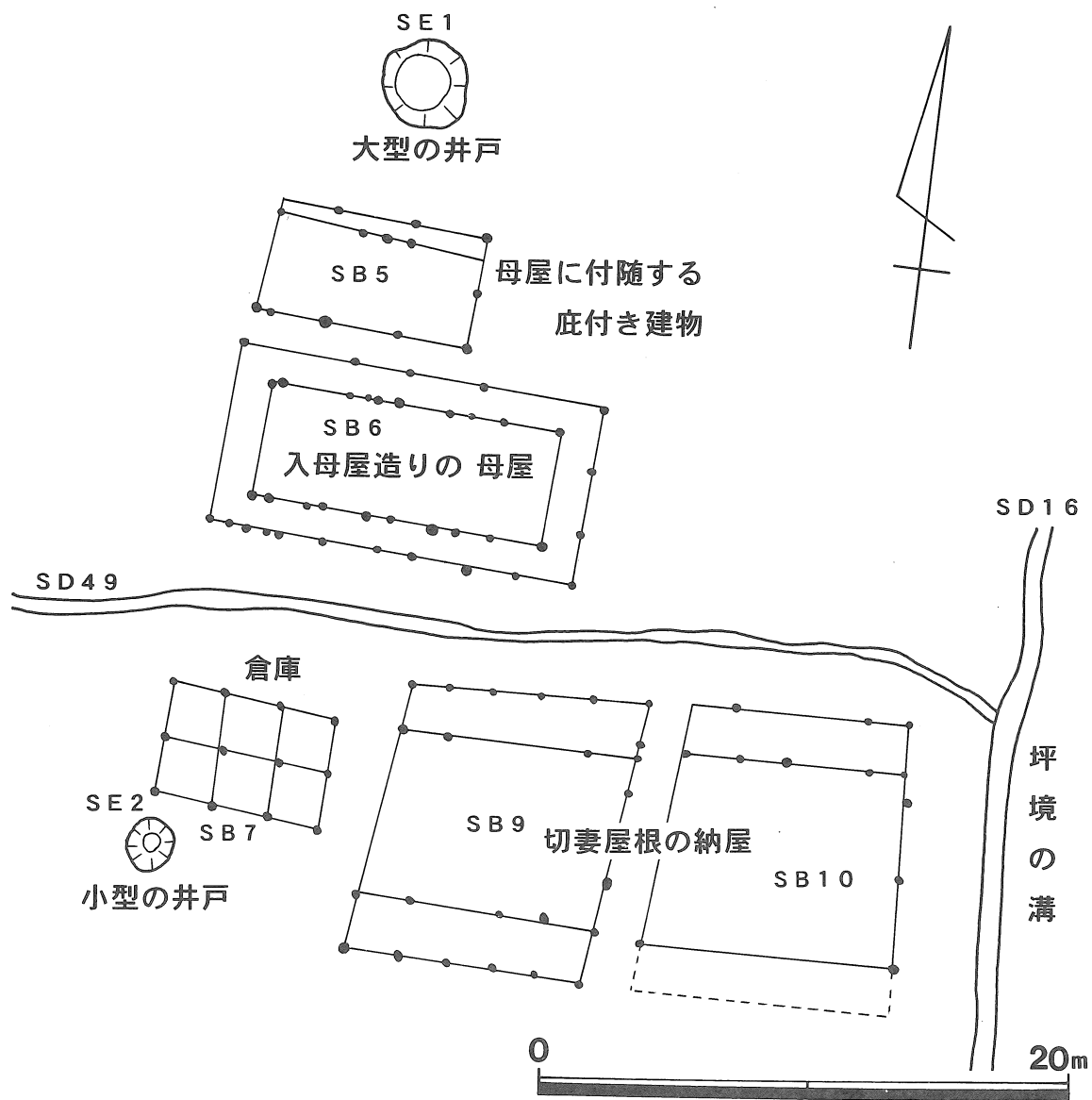
平安時代の遺構は、調査区全域に及んでいる。調査区北東端に方形の溝に囲まれた区画が確認された。この区画は、地籍図から神社の区画溝であったことが推定される。区画内の調査面積は、2,000㎡を越えるが、掘立柱建物が1棟のみ確認されており、本殿もしくは拝殿であった可能性が高い。

掘立柱建物、井戸は、現東海道に近づく程、街道に沿った配置を見せる。今回の調査で、平安～鎌倉に比定される道跡は確認されていないが、おそらく現東海道の位置とほとんど変化はないと推定される。建物の排水溝は、西から東へ、北から南へと流れている。

今回確認された平安時代の遺構は、以下のとおりである。

掘立柱建物跡	31
井戸跡	16
土壌	19
溝	75

掘立柱建物には、両面庇の入り母屋造りが7棟、同じく切り妻造りが3棟確認され、この庇付き掘立柱建物が母屋になると考えられる。倉庫と思われる総柱建物は3棟確認されている。最も、大きな掘立柱建物は6×3間で、床面積90㎡を数える。平均的な掘立柱建物は、約50㎡で、この母屋と推定される建物に、井戸が付随して1セットが推定される。最も大きい単位は、床面積90㎡の最大の掘立柱建物を母屋とするもので、母屋に付随する3×2軒の掘立柱建物、3×2軒の総柱の倉庫、納屋的な6×5軒の掘立柱建物が2棟と合計5棟と井戸（S E 1）で構成される一群である。



第4図 中世最大の屋敷略図

SB 1 (第1図)

SB 1は4×3軒以上の掘立柱建物で、東側に1軒の底が付く建物と考えられる。方形の区画溝SD17に囲まれた区画のほぼ中心域にあり、地籍図等から考え、神社の主殿もしくは拝殿関係の建物と推定される。建物規模は、7.2×5.2m〜で、約37.4㎡以上の広さを持つ。

SB 2・8 (第2・6図)

SB 2は4×3軒の掘立柱建物で、内側の3×1軒が居住空間と推定される。建物規模は、9.3×5.6mで、約52.1㎡の広さを持つ。回りを取り囲む雨落ち溝が検出された。P 4、P 5と対になるP 28とP 29の4柱穴が入り口と推定できる。雨落ち溝もこの部分のみ確認されず、通路の機能が考えられる。床は、土間をそのまま利用しており、P 8周辺に焼土が確認されている。SK 4～6が、この建物に伴う廃棄土壌で、SE 16が井戸である。

SB 8は3×2軒の掘立柱建物で、SB 2同様内側の2×1軒が居住空間であろう。建物規模は、

8.6×6.1mで、約52.5㎡の広さを持つ。入り口もS B 2と同様に、南西部に作られている。回りを取り囲む雨落ち溝の状況も同様である。S K13が、この建物に伴う廃棄土壌で、井戸はS E 2である。

屋根は、入り母屋が想定できる。S B 8とS B 9の切れあい関係から、S B 8の廃絶後、S B 9が建てられたと考えられる。

S B 5 (第3図)

S B 5は、3×3軒の掘立柱建物で、北側に1軒の庇が付いていたことが想定される。建物規模は8.0×4.2mで、約33.6㎡の広さを測る。S B 6との強い関係が考えられ、セットで中心的居住施設を担っていたと考えられる。建物北側に、井戸S E 1がある。

S B 6・45・53・54 (第4図・22・27・25図)

S B 6は、6×3軒の掘立柱建物で、内側の5×1軒が居住空間と推定される。建物規模は、13.7×6.6mで約90.4㎡の広さを持つ。柱穴の配列が、アトランダムに並ぶ南側に入り口施設が想定される。S B 5との強い関係が認められ、セットで中心的居住施設を担っていたと考えられる。S K11が、この建物に伴う廃棄土壌で、井戸は直径約3m、深さ1.25mのS E 1である。

S B45は、4×5軒の掘立柱建物で、内側の3×1軒が居住空間と推定される。建物規模は、9.4×7.2mで、約67.7㎡の広さを持つ。北側と東側から雨落ち溝が検出された。S K84が、この建物に伴う廃棄土壌で、井戸は東側発掘区外が想定される。

S B53は、3×2軒の掘立柱建物で、内側の3×2軒が居住空間と推定される。建物規模は8.2×6.1mで、約50㎡の広さを持つ。

S B54は、4×3軒の掘立柱建物で、内側の4×2軒が居住空間と推定される。建物規模は、9.3×6.0mで、約55.8㎡の広さを持つ。

4棟とも、規模の違いはあるが、建物の構造では同じ造りと思われ、入り母屋屋根が想定される。

S B 7 (第5図)

S B 7は3×2の総柱建物で、S B 5、6に伴う倉庫と推定される。建物規模は6.2×4.2mで、約26㎡の広さを持つ。

S B 9、10 (第7・8図)

S B 9と10は、同一の構造の建物が2棟並んで立っていたことが考えられ、S B10の南側の一列の柱穴が検出されなかったと思われる。ともに6×3軒の掘立柱建物で、南北の一列が庇のための柱穴であろう。建物規模は、S B 9が、8.9×10.9mで、約97㎡、S B10が、9.5×11.2mで約106.4㎡とほぼ同じ大きさである。屋根は、南北に庇が付く切り妻屋根が考えられる。

S B46・48・51 (第23・24・26図)

3棟とも井戸に伴う井戸屋と推定される。S B46は、1×1軒の掘立柱建物で、建物規模は3.9×4.6mで、約18㎡の広さを持つ。建物ほぼ中心部にS E 7がある。S E 7は、直径1.2m、深さ約1.4mの井戸である。S B48は、3×2軒の掘立柱建物で、東側に物置が付くものと推定される。建物規模は、8.5×4.6mで、約40㎡の広さを持つ。建物西側にS E 8がある。S E 8は、直径1.8m、深さ1.2mの井戸で、南側が段掘りになっており、中心部に桶巻きの井戸枠が出土している。S B51は、2×

2軒と推定される掘立柱建物である。建物規模は約 5×5 mで、約 25m^2 の広さを持つ。建物中心やや北側にS E10がある。S E10は、直径約1.5m、深さ1.2mを測る井戸である。

S B 49 (第25図)

S B 49は、 5×1 軒の縦長の掘立柱建物である。建物規模は 7.7×1.6 mで、約 12m^2 の広さを持つ。S B 54との密接な関係が考えられ、倉庫的役割が推定される。

S D 16 (第139図)

S D 16は、南北に212m以上続く坪塚の溝である。最大幅1.6m、最小幅0.6mで、深さ平均50cmを測る。山茶碗及び鉄製品が含土中より出土している。

S D 17 (第140図)

S D 17は、方形プランを持つ区画溝である。静岡県埋蔵文化財調査研究所が、国道1号線バイパス関連で調査を実施しており、ここでもS D 17に繋がると推定される溝が確認されている。最大幅、3.6m最小幅2.5mで、深さ平均50cmを測る。方形のプランは、南北に長い長方形である。90度に曲がる角より、祭祀に使用したと思われる3点の山茶碗が出[°]している。S D 16と交わる箇所があり、この切れあい関係から、S D 16より若干新しいことがわかる。

S D 49

S B 6とS B 7の間を区画するように東西に走る溝がS D 49である。S B 5、6とS B 7、9、10を区画するための溝と推定される。

S D 58・59・97

S B 8の南側に平行に走る3条の溝がS D 58、59、97である。S D 58は、S B 8に伴う排水溝であることが想像され、S B 8から方形に続く溝へと接続するものと考えられる。S D 59、97は、S B 8及び2に伴う道状遺構の測溝であろう。道は、東西に走り幅は約1.5mである。

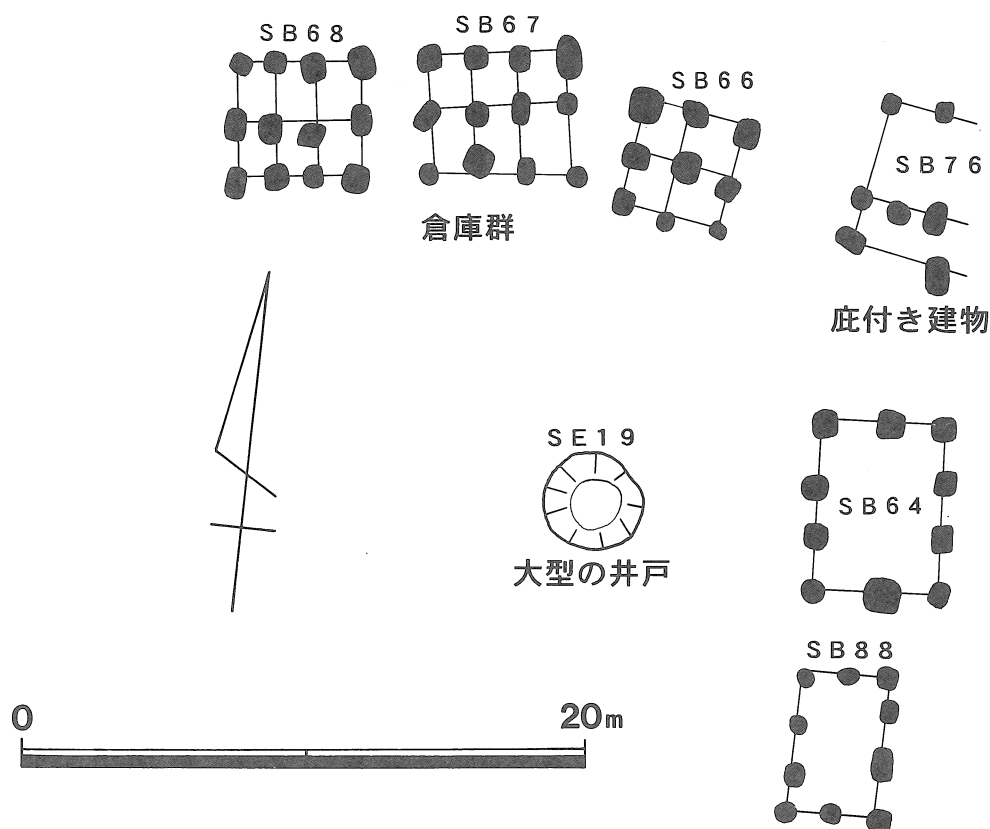
第7節 奈良時代の遺構

奈良時代の坂尻遺跡は、佐野郡衙推定地である。昭和55年の袋井バイパス予定路線内の調査により発見された坂尻遺跡は、1994年までの間に17回にわたって調査を実施している。ここが、郡衙と推定するうえで重要な手掛かりとなったのは「○野厨」「佐野厨屋」等の大量の墨書土器が出土したためである。また分銅、銅印、誇帯金具、和同開珎等の出土も見られる。今回の調査は、坂尻遺跡で実施される最大の調査であるため、郡衙関連の遺構、遺物の発見が期待されたが成果は、下記のとおりであり、倉庫等の遺構はあったものの郡衙中心域に含まれる発見には至らなかった。

掘立柱建物跡	16
井戸跡	2
溝	4

掘立柱建物のうち、調査区南西端で確認されたS B 58が最大の建物で、 3×8 軒以上の大型掘立柱建物である。過去の調査を含め最大の建物で、郡衙との強い関係が推定される。また、庇付き建物も

3棟確認されているが、いずれも調査区東端にあり、規模の全体像をつかめていない。その他は、倉庫と推定される総柱建物が8棟、掘立柱建物4棟である。S D124、140は平行に走る溝で、北側の静岡県埋蔵文化財調査研究所の調査区でも確認されており、かなりの規模の長さを持つ溝である。また、S D219が東西に走る溝である。建物のうち前述したS B58に対応するように、北側にS B57が確認されている。57の北側半分を近代の河川が通っており建物規模全体は不明である。並びから考え、ほぼ平行して2棟建っていたと推定できるが、南側建物のほうが規模が大きい。建物の集中地区は、S E19を囲むように6棟が並ぶ地区である。内底付き建物1棟、総柱建物3棟で、南側をこの建物群に平行するような溝が走っていることから、ここに何らかのブロックがあったことが考えられる。調査区が、現東海道北面に面しているため、トレンチを現東海道に迫る直前まで設定した。しかし、江戸時代以前と考えられる道状遺構は確認されなかった。また、昭和58年度調査区で確認された敷石遺構の続きも発見されず、古代東海道は、限りなく現道に近いと推定せざるを得ない。



第5図 L字状に配置された奈良時代遺構群略図

S B29・30・31・32 (第15・16・17図)

S B29は、2×2軒の総柱建物で、建物規模は約4×4mで約16㎡を測る。S B30は、北側流路の含土のため2軒分のみ確認されている。この2棟は、位置関係や主軸方位から考え、同規模の建物で倉庫的なものであったことが推定される。

S B31は、2×2軒の総柱建物で、建物規模は約3.5mで約10㎡を測る。S B32は、3×3軒の総柱建物で、建物規模は約5×5mで約25㎡を測る。この2棟は、主軸方位を同一にし南北に立ち並んでいる。また建物西側及び南側を方形に区画するS D164、165が確認されている。この二棟の倉庫を

中心にした何らかの区画割りが考えられる。

S B66・67・68・74（第33・34・35・40図）

S B66は、2×2軒の総柱建物で、建物規模は約3.6×3.7mで約13㎡を測る。S B67は、2×2軒の総柱建物で、建物規模は約5×4mで約20㎡を測る。S B68は2×3軒の総柱建物で、建物規模は約4×4mで約16㎡を測る。S B74は、2×2軒の総柱建物で、建物規模は約4×3.5mで約14㎡を測る。これらの建物は、S E19を中心にした一連の建物のうちの総柱建物で、3棟が井戸北側にほぼ並んで建っている。S B74のみ、やや北西より10mほど離れた所に位置している。4棟ともに倉庫として利用されていた可能性が高い。

S B64・76・88（第32・38・48図）

S B76は、1以上×2軒の掘立柱建物で、南側に1軒の底が想定される建物である。東側が調査区外のため建物規模は不明である。S B64は、2×3軒の掘立柱建物で、建物規模は、約4.5×6mで約27㎡を測る。S B88は、2×3軒の掘立柱建物で、建物規模は、3×5mで15㎡を測る。3棟ともS E19の西側に位置し、北側倉庫群とあわせ特定の単位の構成していたものと推定される。

S B81・82（第44図）

S B81・82ともに1軒以上×2軒の掘立柱建物で、北側に底が付く構造である。東側が調査区外のため建物規模は不明である。南北軸で比較すると、81が約5m、82が約6mと82が一回り大きくなっている。主軸方位や位置関係から考え、同一建物の立替えと考えられるが、切れあいがないため新旧の区別はつかない。

S B57・58・59（第28・29図）

S B57は3×3軒以上の掘立柱建物で、北側を近代の流路によって破壊されている。南側に位置を同じにして対応するS B58がある。S B58は、3×8軒以上の掘立柱建物で、南北に17m以上と長大な建物である。S B59は、2×1軒の掘立柱建物で、建物規模は2.8×3mで、約8.4㎡を測る。58は、最大の掘立柱建物で57とセットで1単位と考えられる。遺物の出土がないため確定は、困難であるが郡衙施設の建物と考えてほぼ間違いあるまい。

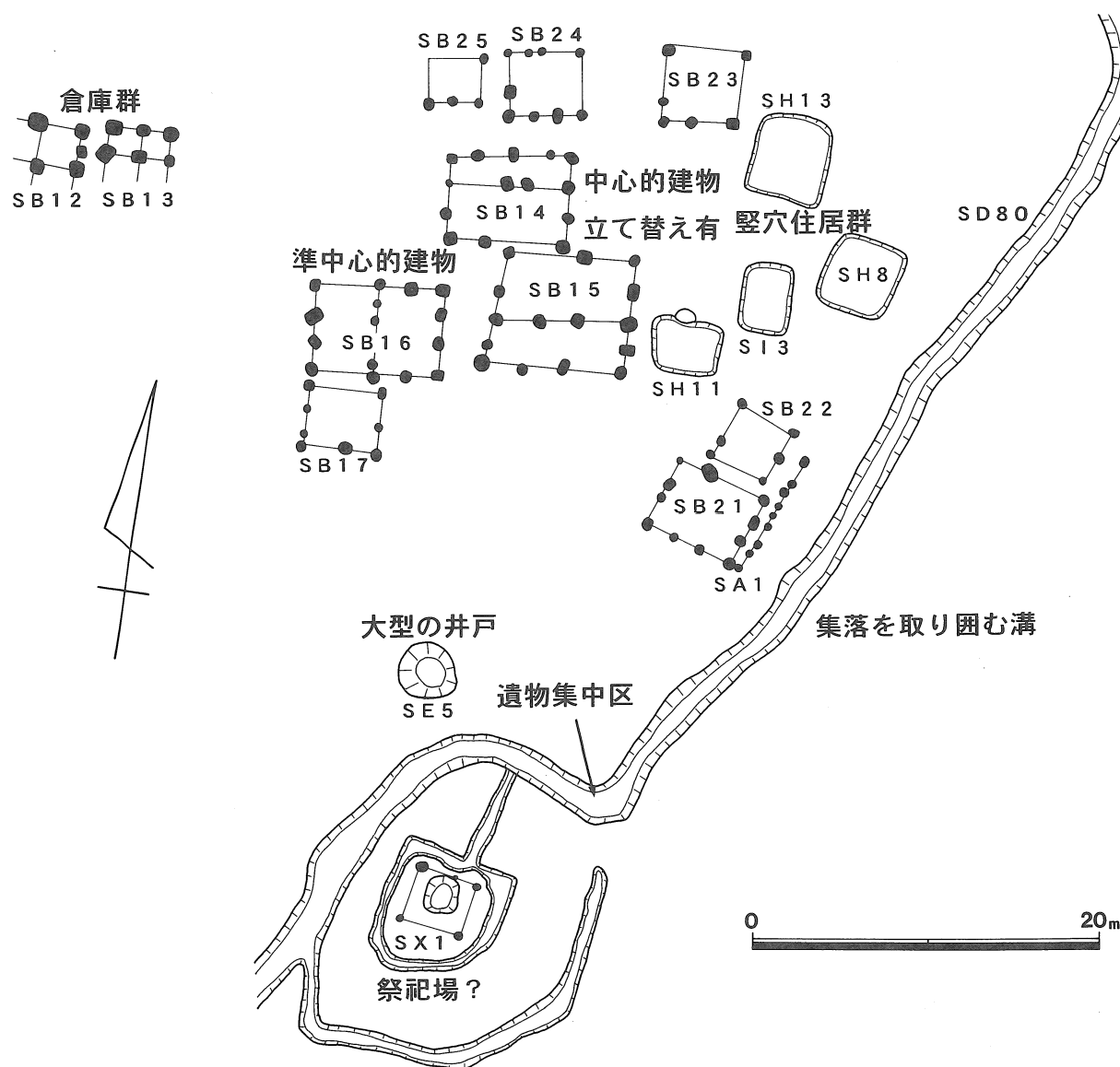
第8節 古墳時代の遺構

今回の調査で特筆されるのが、古墳時代の遺構群である。区画溝に囲まれた掘立柱建物を中心とする地区。竪穴住居が主体となる地区。また、掘立柱建物と竪穴住居とのセット関係が推定される地区等、坂尻遺跡の古墳時代（6世紀前半～7世紀前半）を検討するに十分な遺構群や遺物が出土されている。古墳時代と確認できる遺構は、以下の通りである。

掘立柱建物	61
竪穴住居	38
竪穴状遺構	19
柵	15
井戸	4

土壌 94
溝 161

S D80に区画された地区には、掘立柱建物が16棟集中しており、竪穴住居は8棟である。掘立柱建物も2棟が底付き建物、1棟が仕切り付き、2棟が総柱建物と坂尻遺跡の有力者の区画であったと考えられる。また、この地区の南側に回りを円形の溝で囲まれた掘立柱建物があり、建物中心部に土壌が確認された。この溝で区画された周辺域には居住空間のない空白地帯が存在し、その回りに竪穴住居が確認された。調査区南側でも、掘立柱建物と竪穴住居が混在する方形に近い溝で囲まれた地区が存在する。このように、6世紀後半から7世紀前半にかけての集落の単位が推定される地区があり、次年度の遺物編によって、この単位がより明らかにされるであろう。



第6図 古墳時代後期の有力者の集落略図

S B14・15 (第9・10図)

S B14は、4×3軒の掘立柱建物で、北側1軒が底と想定される。建物規模は、6.7×5.2mで約35㎡を測る。S B15との切れあい関係から、15から14へと立替えが行われたと推定する。S B15は、3×

S B65・72・73・89・90（第31・38・39・49図）

5棟の掘立柱建物（内総柱建物1）と、3棟の竪穴住居で1単位を構成する集落と考えられる。前述の集落の南側に位置している。掘立柱建物と竪穴住居の割合は、ほとんど同じである。前述の集落とあわせ、方形の溝、S D246により囲まれている。S B65は、2×2軒の掘立柱建物で、建物規模は、約4.3×3.9mで約17㎡を測る。S B72は、3×4軒の掘立柱建物で、建物規模は約5.3×3.8mで約22㎡を測る。S B73は、2×2軒の総柱建物で、建物規模は約3.9×3.7mで約15㎡を測る。S B89は、3×2軒の掘立柱建物で、建物規模は約5×3mで約15㎡を測る。S B90は、2×2軒の掘立柱建物で、建物規模は約3.4×2.7mで、約9㎡を測る。前述の集落に比べ、掘立柱建物がやや小振りである。また、竪穴住居も3回に渡る立て替えが確認されている。

S B61・84（第30・46図）

2棟の掘立柱建物と、2棟の竪穴住居で構成される集落の単位である。S B61は、3×2軒の掘立柱建物で、建物規模は約5×3.4mで約17㎡を測る。S B84は、3×5軒の掘立柱建物で、建物規模は、約4.7×8.4mで約40㎡を測る。建物北側部分の真ん中に、仕切りと推定される柱穴が確認されており家畜飼育のための小屋の可能性が非常に高い。この建物に隣接してS D217が南北に流れており、排出されたものは、すべてこの溝へと流されていたことが考えられる。今回の調査区内で家畜飼育のための施設と推定されるのは、これ1棟だけである。

S H4・5（第75・76図）

S H4は、約4.5mの正方形の平面で床面積は約20㎡を測る。検出面からの深さ約15mを測る。4支柱構造と考えられ、北壁のほぼ中央部に竈を置く。竈断面に噴砂が検出されている。壁溝は、東面・南面に見られる。S H5は、南北幅約4.5m、東西幅約4.3m、床面積は約19㎡を測る。検出面からの深さ約15cmを測る。平面方形で、4支柱構造と考えられ、北壁のほぼ中央部に竈を置く。壁溝は、北側と東側一部のみに見られる。出土遺物から、ともに6世紀末から7世紀前半にかけて位置付けられる。

S H12（第18図）

南北幅約4.8m、東西幅約3.7m、床面積は約18㎡を測る。検出面からの深さ約24mを測る。竈及び壁溝は見られない。出土遺物から、5世紀前半に位置付けられる。5世紀前半に位置付けられる竪穴住居は3棟しか検出されていない。

S H7・14（第77図）

S H7は、南北幅約3.8m、東西幅約3.7m、床面積は約14㎡を測る。検出面からの深さ約10cmを測る。平面方形で、4支柱構造と考えられ、北壁のほぼ中央部に竈を置く。S H14と重複しており、S H7の方が、若干古い。平面方形で、4支柱構造と考えられ、北壁のほぼ中央部に竈を置く。壁溝は見られない。出土遺物から、ともに6世紀末から7世紀前半に位置付けられる。

S H8・9・10（第76・79・80図）

S H8は、南北幅約3.5m、床面積は約12㎡を測る。検出面からの深さ約12cmを測る。平面方形で、4支柱構造と考えられ、北壁のほぼ中央部に竈を置く。壁溝は見られない。S H9は、南北幅約4.5

mで、東西幅約4.4m、床面積は約20㎡を測る。検出面からの深さ約20cmを測る。4 支柱構造と考えられ、北壁のほぼ中央部に竈を置く。壁溝は東、西側一部に見られる。SH10は、南北幅約4 m、東西幅約4.4m、床面積は約18㎡を測る。検出面からの深さ12cmを測る。竈は見られない。壁溝は北側を除き、検出されている。3つの竪穴住居ともに重複しており、出土遺物からSH18が6世紀後半、9、10ともに6世紀末から7世紀前半に位置付けられる。切れあい関係から、SH9より10が若干新しいと考えられる。

SH11 (第80図)

SH11は、南北幅約3.1m、東西幅約4.2m、床面積は約13㎡を測る。検出面からの深さ約15cmを測る。平面方形で、4 支柱構造と考えられ、北壁のほぼ中央部に竈を置く。壁溝は見られない。出土遺物から6世紀後半に位置付けられる。

SH15・16・17・18・19・20・21 (第82・83・84・85・86図)

竪穴住居が集中する地区で、立て替えを1棟と考えれば竪穴住居5棟、掘立柱建物2棟と他の地区と様相を異にする地区である。SH15は、南北幅約5 m、東西幅約4.3m、床面積は約20㎡を測る。検出面からの深さ約20cmを測る。平面方形で、4 支柱構造と考えられ、北壁のほぼ中央部に竈を置く。壁溝は見られない。竈断面が、噴砂によりずれている。SH16は、南北幅約4.2m、東西幅約4.6m、床面積は20㎡を測る。検出面からの深さ18cmを測る。平面方形で、4 支柱構造と考えられ、北壁のほぼ中央部に竈を置く。壁溝は、南西角にのみ確認される。SH17は、南北約5.2m、東西幅約5.1m床面積は約27㎡を測る。検出面からの深さ約12cmを測る。平面方形で、4 支柱構造と考えられ、北壁のほぼ中央部に竈を置く。壁溝は見られない。SH18は、南北幅約5.6m、東西幅約5.1m、床面積は約29㎡を測る。検出面からの深さ約8 cmを測る。平面方形で、4 支柱構造と考えられ、北壁のほぼ中央部に竈を置く。壁溝は見られない。竈両側に完形品の土器が検出されており、1住居内で使用された器の数と種類が特定できる。SH19は、南北幅約4 m、東西幅約5 m、床面積は約20㎡を測る。検出面からの深さ約28cmを測る。平面方形で、4 支柱構造と考えられ、北側ほぼ中央に竈を置く。壁溝は見られない。SH20は南北幅約5 m、東西幅約5.3m、床面積は約27㎡を測る。検出面からの深さ約24cmを測る。平面方形で、4 支柱構造と考えられ、北側ほぼ中央部に竈を置く。壁溝は見られない。SH19、20は重複しており、19から20へと立て替えが行なわれたことが考えられる。SH21は、南北幅約6 m、東西幅約6 m、床面積は約36㎡を測る。検出面からの深さ約18cmを測る。平面方形で、4 支柱構造と考えられ、北側ほぼ中央部とやや西よりの2箇所竈を置く。壁溝は見られない。出土遺物から、SH16のみ7世紀前半に比定され、他はすべて6世紀末から7世紀前半に位置付けられる。SH15が、SD148の廃絶後造られている。

SH35 (第95図)

SH35は、1棟のみ他の建物と隔離された箇所造られており、主軸も他と異なる。南北幅約4.2m、東西幅約5.4m、床面積は約23㎡を測る。検出面からの深さ約12cmを測る。平面方形で、4 支柱構造と考えられ、北側ほぼ中央部に竈を置く。壁溝は見られない。出土遺物から7世紀前半に位置付けられる。

S H40・41・42 (第98・99図)

掘立柱建物5棟、竪穴住居2棟で構成される単位である。S H40は、南北幅約4.6m、東西幅約4.4m、床面積は約20㎡を測る。検出面からの深さ約12cmを測る。平面方形で、4主柱構造と考えられ、北側ほぼ中央部に竈を置く。北側、東西の一部に壁溝が見られる。出土遺物から7世紀前半に位置付けられる。S H41は、南北幅約4.4m、東西幅約4.8m、床面積は約21㎡を測る。検出面からの深さ約12cmを測る。平面方形で、4主柱構造と考えられ、北側ほぼ中央部に竈を置く。壁溝は見られない。S H42と重複しており、床面で噴砂が確認された。S H42は、南北幅約3.3m、東西幅約2.1m、床面積は約7㎡を測る。検出面からの深さ約18cmを測る。平面方形で、構造は不明。炉及び壁溝も見られない。出土遺物から、41・42とも6世紀末から7世紀前半に位置付けられる。

S H43・44・45・46・47・48 (第100・102・104・105図)

掘立柱建物6棟、竪穴住居3棟で構成される単位である。S H43は、南北幅約6.4m、東西幅約6.4m、床面積は約41㎡を測る。検出面からの深さ約18cmを測る。平面方形で、4主柱構造と考えられ、北側中央部やや東寄りに竈を置く。壁溝は見られない。S H44は、南北幅約4.5m、東西幅約6m、床面積は約27㎡を測る。検出面からの深さ約16cmを測る。平面方形で、4主柱構造と考えられ、北側ほぼ中央部に竈を置く。壁溝は見られない。S H45は、南北幅約4.3m、東西幅約4.5m、床面積は約20㎡を測る。検出面からの深さ約14cmを測る。平面方形で、4主柱構造と考えられ、北側ほぼ中央部に竈を置く。北側に一部壁溝が検出される。S H46は、南北幅約3.3m、東西幅約3.5m、床面積は約12㎡を測る。検出面からの深さ約12cmを測る。平面方形で、4主柱構造と考えられ、北側ほぼ中央部に竈を置く。壁溝は見られない。4棟が重複しており、切れあい関係から44から43、さらに46から45という順番が考えられる。S H43の床面で噴砂が確認されている。また、S H44床面西側に焼土が検出されている。出土遺物から、若干のずれはあるものの4棟とも6世紀末から7世紀前半に位置付けられる。S H47は、南北幅約3.6m、東西幅約3.8m、床面積は約14㎡を測る。検出面からの深さ約16cmを測る。平面方形で、4主柱構造と考えられ、北側中央部に竈を置く。南側及び東西の一部に壁溝が見られる。床面に焼土が確認された。出土遺物から、7世紀前半に位置付けられる。S H48は、南北幅約3.3m、東西幅約4.1m、床面積は約14㎡を測る。検出面からの深さ約10cmを測る。平面方形で、4主柱構造と考えられ、北側中央部に竈を置く。壁溝が回っている。出土遺物から6世紀末から7世紀前半に位置付けられる。S B48の立て替えが47という可能性も推定される。

S H37・38 (第95・97図)

掘立柱建物3棟、竪穴住居2棟を単位とする構成である。S B37は、南北幅約4.8m、東西幅約3.5m、床面積は約17㎡を測る。検出面からの深さ約14cmを測る。平面方形で、4主柱構造と考えられ、北側ほぼ中央部と、西南角に竈を置く。壁溝は見られない。住居の回りを直径10mの円形の溝が取り囲んでいる。溝の幅は、平均1mを測る。また、焼土面が2箇所を確認されている。出土遺物から、7世紀前半に位置付けられる。S H38は、南北幅約4.5m、東西幅約4.3m、床面積は約19㎡を測る。検出面からの深さ約22cmを測る。平面方形で、4主柱構造と考えられ、北側ほぼ中央部と、北東端に竈を置く。北、東、西側に壁溝が見られる。出土遺物からS H37同様、7世紀前半に位置付けられる。

S H54・55 (第109・110図)

共に調査区北端で確認されている。南側を近代の調整池により破壊されている。S H54は、南北幅

約5.2m、東西幅約5.0m、床面積は約26㎡を測る。検出面からの深さ約28cmを測る。平面方形で、4主柱構造と考えられ、北側ほぼ中央部に竈を置く。竈西脇に完形品の土器5点が確認された。床面直上で噴砂が検出されている。壁溝は見られない。S H55は、南北幅約4.8m、東西幅約4.7m、床面積は約23㎡を測る。検出面からの深さ約26cmを測る。平面方形で、4主柱構造と考えられ、北側ほぼ中央部に竈を置く。竈北側に伸びる煙筒の痕跡も見られる。竈周辺に、土器が散乱して検出された。西側一部に壁溝が見られる。出土遺物から、共に6世紀後半に位置付けられる。

S X 1 (第73図)

有力者の居住区と推定される南側の、直径7mの円形の溝に囲まれた一角がS X 1である。溝は、幅50～100cm、深さ20cmを測る。中心部に、直径2mの土壌S K48がある。また、この土壌を覆うように掘立柱建物が確認されている。1×1軒で、建物規模は、3.5×6.2mで、約11㎡を測る。出土遺物から、溝、土壌、掘立柱建物とも6世紀末から7世紀前半に位置付けられる。S D80 (第147図)

有力者の居住区と推定される地区を区画する溝がS D80である。多少の歪みはあるが、ほぼ方形に区画される溝と推定できる。居住区の南西端の曲がり角周辺に、完形品を含む大量の土器が廃棄されていた。何らかの祭祀を推定できる場所でもある。溝の最大幅約2.5m、最小幅約1.5m、深さ平均60cmを測る。出土遺物から6世紀末から7世紀前半に機能していたと考えられる。

S D148 (第149図)

集落を蛇行して流れる原野谷川の支流と推定される。調査区の東端から180度蛇行して西南へ向かって流れている。幅平均10m、深さ1m以上を測る。含土中に噴砂が検出されている。出土遺物から6世紀前半に流れ初め、6世紀中は川として一定の水量を保っていたが、7世紀前半にはほとんど小川程度であったと推定される。奈良時代には、完全に埋没している。

S D244 (第148図)

集落を方形に区画する溝と考えられる。発掘区東端に検出されており、方形区画の東面のみで約45mを測る。従って250㎡程を区画する溝と推定できる。平均幅約1.2m、深さ約30cmを測る。出土遺物から、6世紀後半から7世紀前半に位置付けられる。奈良時代には、完全に埋没している。

S D246 (第148図)

S D244の西側を方形に区画する溝である。2集落の単位を区画する溝と推定され、この溝に囲まれた一角は約200㎡程の広さを持つ。掘立柱建物10棟、竪穴住居5棟が確認できる。溝の平均幅約1m、深さ20cmを測る。出土遺物から、S D244同様、6世紀後半から7世紀前半に位置付けられる。奈良時代には、完全に埋没している。

S D103～106・116・119、191・192・195～200 (第15～158図)

調査区南側に集中して確認された。碁盤の目状の溝は、畑の畝と思われる。出土遺物が特定できないため、確実な時代は確定できないが、奈良時代遺構の耕作の跡と推定される。

第9節 弥生時代の遺構

調査区の北東角と南西角の一部に、4世紀前半の集落が確認された。また、北東角にのみ4世紀初頭の集落が存在している。4世紀中頃から5世紀にかけての調査区の殆どすべては、原野谷川の本流が流れていたことが判明した。

4世紀前半の遺構は、下記の通りである。

掘立柱建物	1
竪穴住居	5
竪穴状遺構	1
溝	4

4世紀初頭の遺構は、下記の通りである。

竪穴住居	11
土壇	2
溝	2

従来、坂尻遺跡は古墳時代中期から出発していたと考えられていた。今回の調査により4世紀前半の水田遺構を初め、掘立柱建物、竪穴住居が多数確認され、4世紀初めにまで遡ることが判明した。小区画水田に伴う、堰及び木樋管の出土は、水田にどのようにして水を運んでいたかがうかがい知れる貴重な発見であった。堰及び木樋管の詳しい検討は、遺物編で行いたい。

S B92 (第19図)

2×1軒の掘立柱建物で、建物規模は、4.6×3.7mで、約17㎡を測る。4世紀代の掘立柱建物は、この建物1棟のみ確認できた。

S H33 (第91図)

南北幅約4.1m、東西幅約4.3m、床面積は約18㎡を測る。検出面からの深さ約28cmを測る。平面方形で、4支柱構造と考えられ、炉、壁溝は見られない。床面北東部に土器が集中して出土している。出土遺物から、4世紀前半に位置付けられる。

S H49・50・51・52・53 (第106・107・108図)

S H49は、南北幅約4.0m、東西幅約3.7m、床面積は約15㎡を測る。検出面からの深さ約18cmを測る。平面方形で、4支柱構造と考えられ、炉、壁溝は見られない。S H50は、東半分が発掘区域外のため規模は不明である。確認されている部分から推定し、ほぼ49と同様の規模が推定される。S H51は、南北幅約3.4m、東西幅約3.2m、床面積は約11㎡を測る。検出面からの深さ約21cmを測る。平面方形で、4支柱構造と考えられ、炉、壁溝は見られない。S H52は、東、南側が発掘区域外のため、その規模は不明である。S B92と重複しており、92よりは古い。S H53は、S D217により東半分が壊されている。南北幅約3.7m、東西幅不明、床面積は約15㎡と考えられる。検出面からの深さ約10cmを測る。平面方形で、4支柱構造と考えられ、炉、見られない。壁溝は、全面に見られる。出土遺物から4世紀前半に位置付けられる。この集落の下層に水田が検出されている。

S H23・24・25・26・27・28・29・30・31・32（第87・88・89・90図）

調査区北東角に集中する住居の一群である。ほとんどの住居が重複しており、その規模は確定が難しい。S H23は、南北幅不明、東西幅約4.6m、床面積は約20㎡と推定される。検出面からの深さ約28cmを測る。平面方形で、炉は不明。壁溝が回っている。S H24は、南北幅約5.6m、東西幅約5.0m、床面積は約28㎡を測る。検出面からの深さ約30cmを測る。平面方形で、中心部やや東側に炉が見られる。床面直上に焼土が一面に広がって確認された。壁溝は、全周している。S H26は、南北幅不明、東西幅約3.8m、床面積は約14㎡と推定される。検出面からの深さ約18cmを測る。平面方形で、炉は不明。壁溝が回っている。S H27は、南北幅不明、東西幅約7.0m、床面積は約50㎡と推定される。検出面からの深さ16cmを測る。平面方形で、炉は不明。壁溝が回っている。その他の住居は、壁溝の一部が確認されているだけで、その規模・構造とも不明。S H25、29の床面から土器が出土している。いずれの住居も、出土遺物から4世紀初めに位置付けられる。

S D270（第151図）

水田に水を運ぶための水路と推定される。幅約1.6m、深さ約0.7を測る。北側から南へ向かって流れており、水路の分岐点に護岸の杭列が確認された。分岐点の南側に堰の遺構が、分岐点の東側に木樋管が出土している。いずれも、4世紀前半の施設と推定される。

S D276・183

共に原野谷川の本流である。S D276は、幅約22m、深さ1m前後を測る。S D183は、幅約30m、深さ1m前後を測る。4世紀後半から5世紀前半にかけて、調査区を東へ西へ振りながら北から南へ向かって流れていたことが考えられる。最大時の幅は、約94mと思われる。

第10節 まとめ

坂尻遺跡の集落の形成は、弥生時代の中期から始まるものと考えられる。原野谷川の蛇行による低湿地が形成され、水田耕作が実施されていた。集落は、古墳時代前期から増加傾向に向かう。過去10年にわたる調査結果をふまえ、今回の調査区は遺跡の西端部分にあたっている。4世紀代の集落は、調査区の西北角と南東角にのみ一部確認された。遺跡西側については、静岡県埋蔵文化財調査研究所が調査を実施しており、自然堤防が落ち込み水田に利用されていることが判明している。東側については、調査が実施されてはいるが、調査面積が狭く、4世紀代にまで到達していない。従って東側に向かってどの程度の広がりを持つかは不明である。

今回の調査で、5世紀代の竪穴住居は1軒だけ、確認されておりその他5世紀に考えられる遺構の出土は見られない。従って、5世紀代の集落は、今回調査区より東側を中心に広がっており、ここまで集落の広がりが到達していないと考えられる。今回調査区の中心は、6世紀前半から7世紀前半にかけての古墳時代後期集落が大部分である。竪穴住居38軒、掘立柱建物61軒が確認され、集落のブロックを区画すると考えられる方形の溝も確認された。特徴として考えられるのは、掘立柱建物が竪穴住居より優位を占めることと、掘立柱建物集中地区、竪穴住居集中地区が分かれていることであろう。区画溝に囲まれた中に、掘立柱建物が集中する地区は、6世紀末から7世紀前半にかけて有力者が居住していたブロックと推定される。そのブロックをとりまく20m内には、建物がほとんど存在しない空白地帯がある。そこをすぎると竪穴住居の集中地区が存在する。有力者のブロックから50m離れる

と一般の集落と推定されるブロックが存在する。ここには、掘立柱建物と竪穴住居が混在している。しかし、掘立柱建物優位は動かない。掘立柱建物、竪穴住居ともに、かなりの立替えが見られ、集落が継続していく。

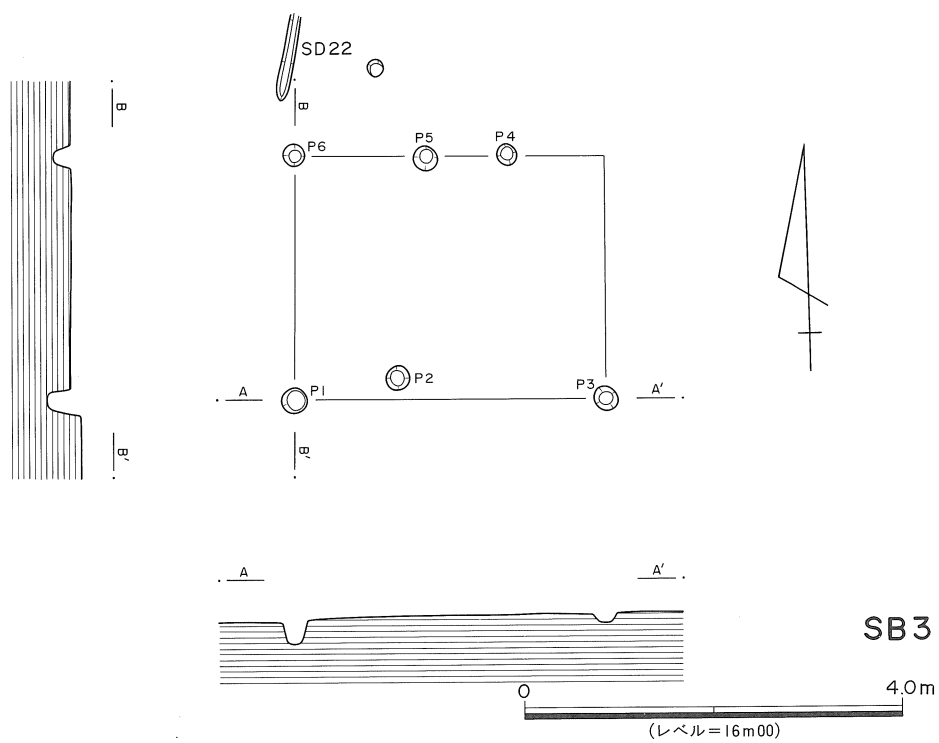
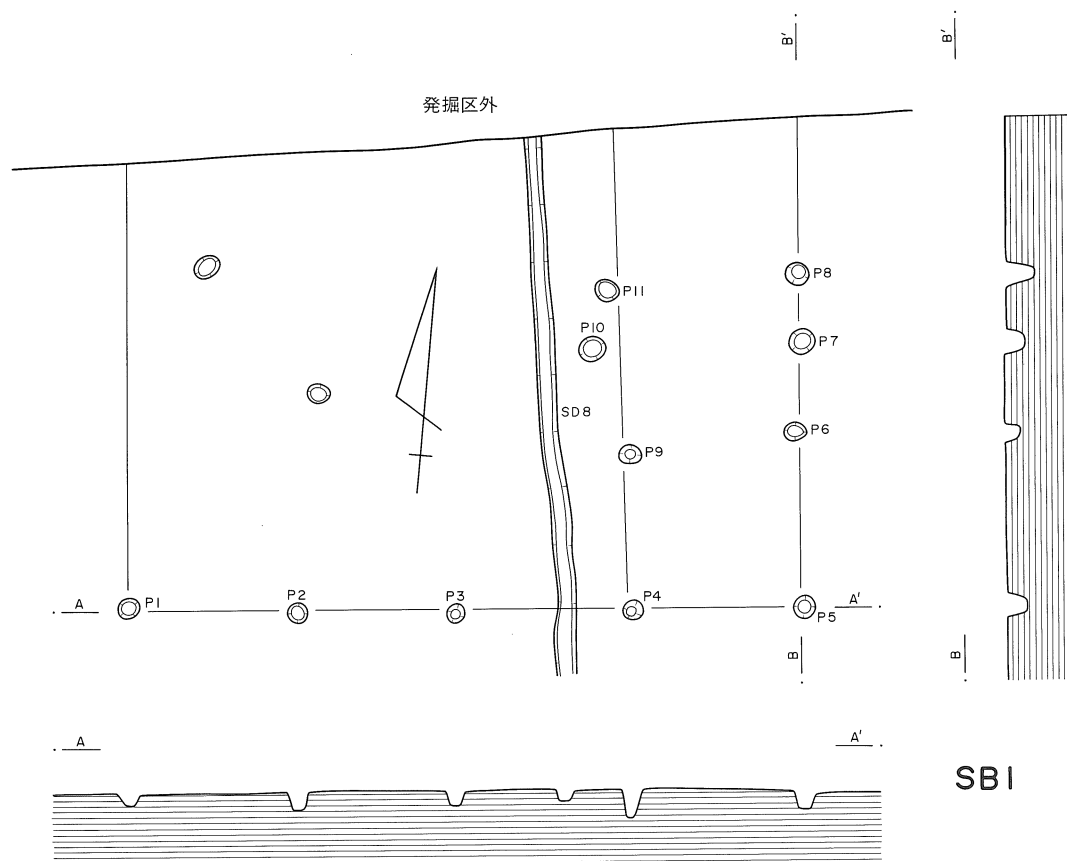
過去の調査地区との関連も考え、坂尻遺跡では6世紀代に住居の数が増加しはじめ、6世紀後半に急激に集落としての体裁を整えることが考えられる。東側に隣接する原川遺跡との関連も考慮する必要があるが、集落の中心は6世紀代に東から西へと移行していき、後半に西側が集落の拠点となったと思われる。その際、建物構造や集落内の居住施設に大きな画期があったと推定できよう。出土遺物についての検討が、まだ不十分であるため、くわしい集落の画期の年代や位置関係については、遺物編で再度検討することにしたい。

奈良時代の官衙遺構は、前述した通りである。墨書土器も出土しているが、過去の調査で出土しているものと同様の「日根大」「田子」「田中」等で、新たな墨書及び直接官衙に関係するものの出土はない。遺構も、官衙周辺域の様相を示しており、やはり過去の調査で推定されている通り今回調査区の東側が官衙中心域と推定せざるを得ない。しかし、S B 57、58という大型の掘立柱建物が、これまで検討もされていなかった西南角で確認されたことは、今後の官衙中心域を考える上で、一石を投じる発見の一つとなろう。

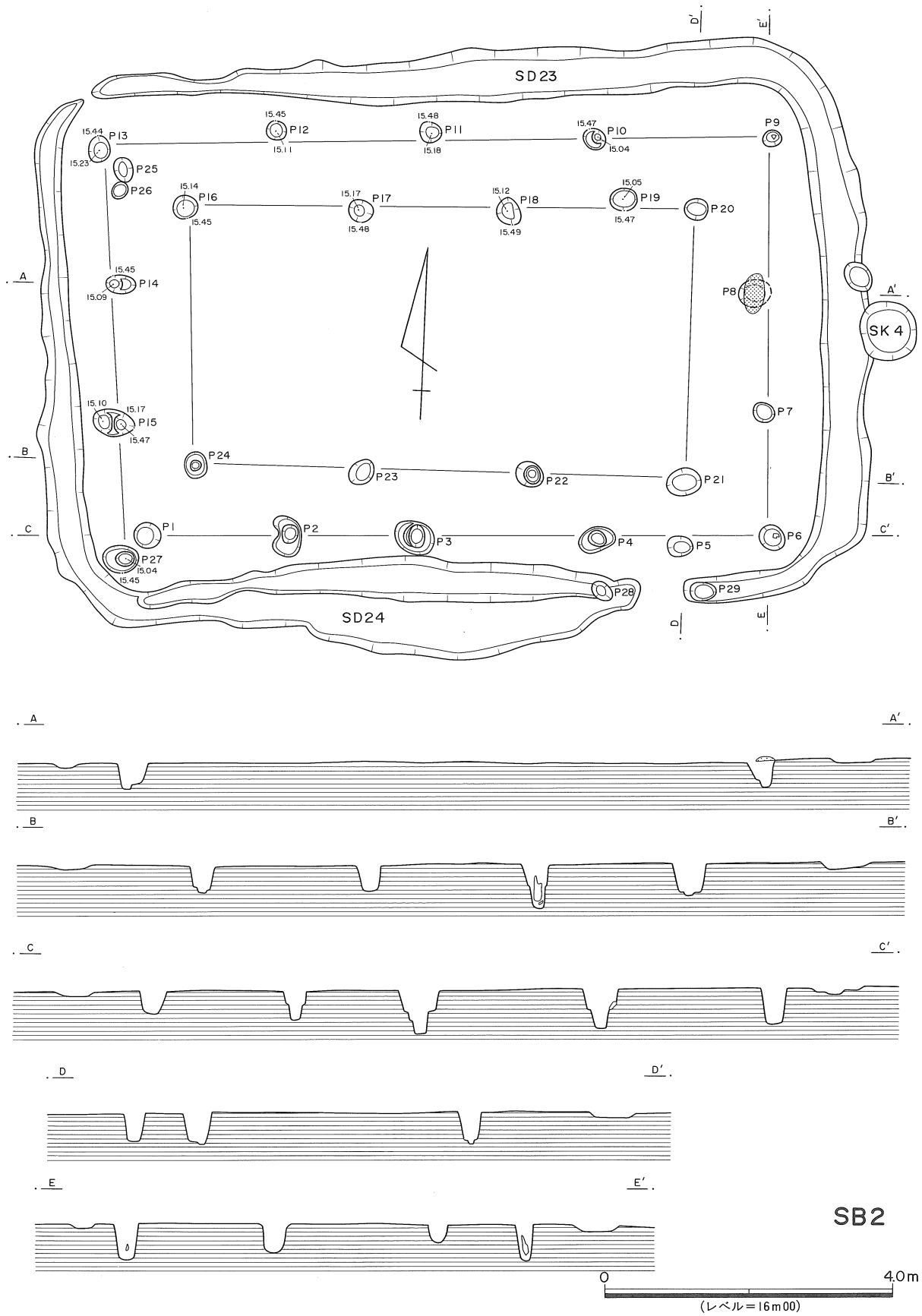
中世については、整然と屋敷地が並ぶ区画が想定される。現東海道直前まで、トレンチ調査を実施し、江戸時代以前の東海道の検出を試みたが空振りに終わってしまった。ただ、現東海道に近づくと井戸や建物が極端に増える傾向にある。従って、中世の東海道は、限りなく現東海道に近い箇所を通っていたと推定せざるを得ない状況である。

今回の調査にあたっては、様々な方々に多大なご協力、ご教示をいただいたが、それらについては遺物編とまとめて記術させていただくこととしたい。

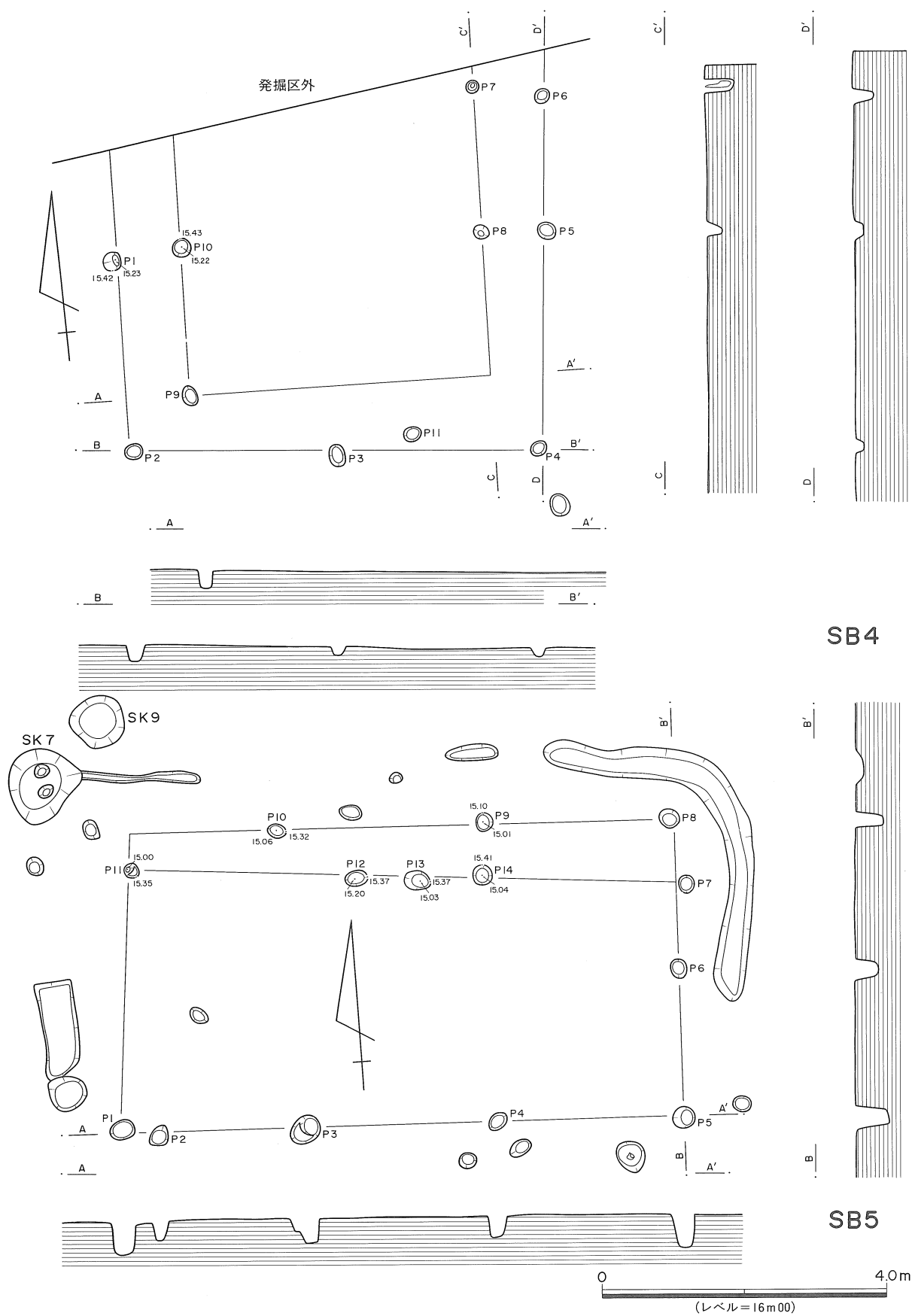
実 測 図 版



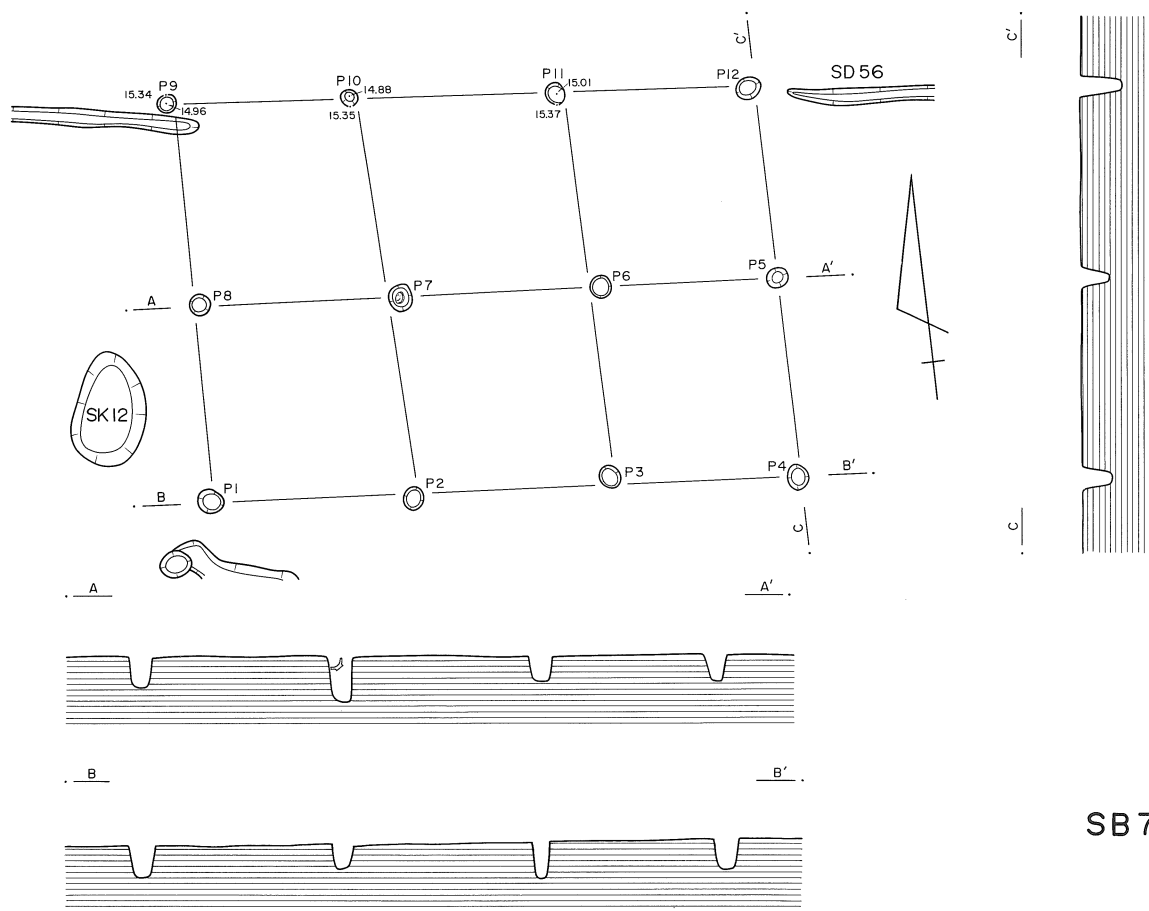
第1図 SB1・SB3実測図



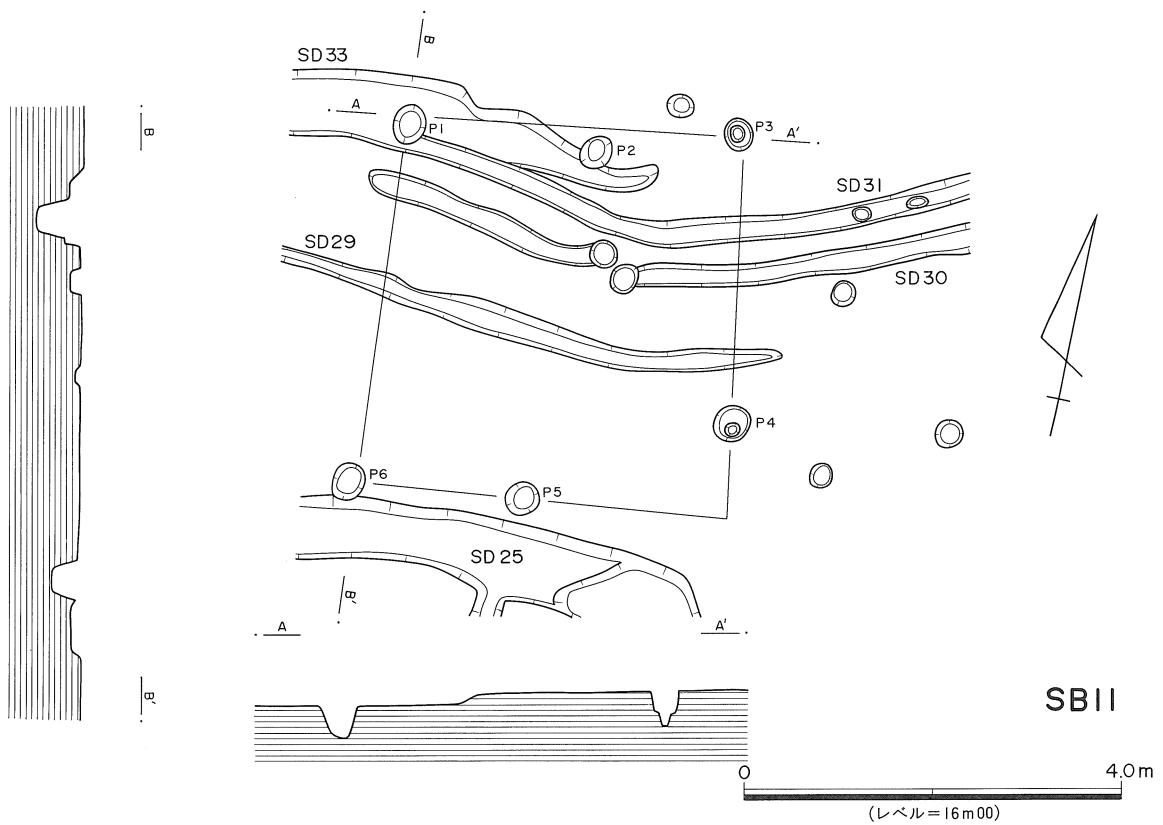
第2図 SB2 実測図



第3図 SB4・SB5実測図

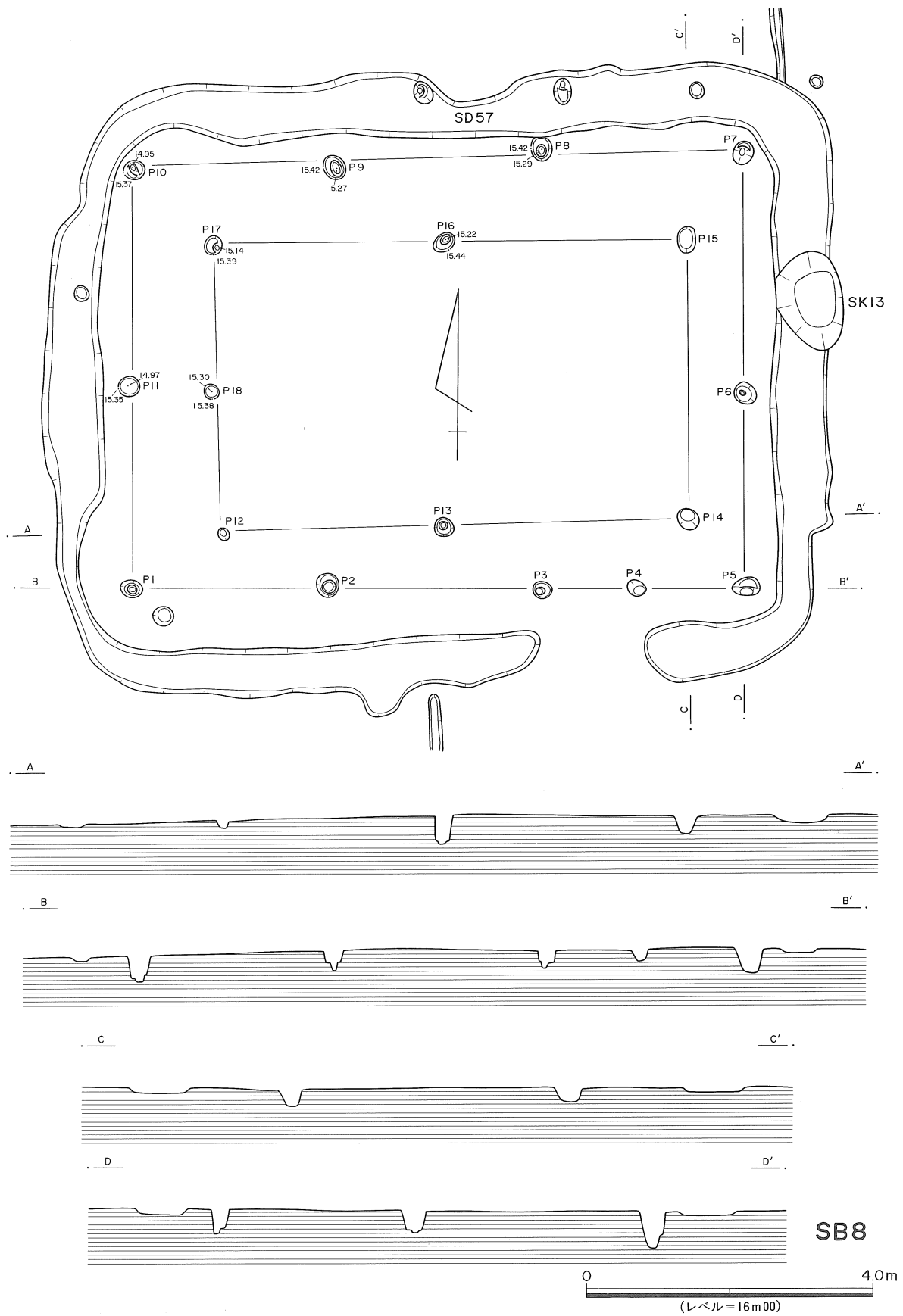


SB7

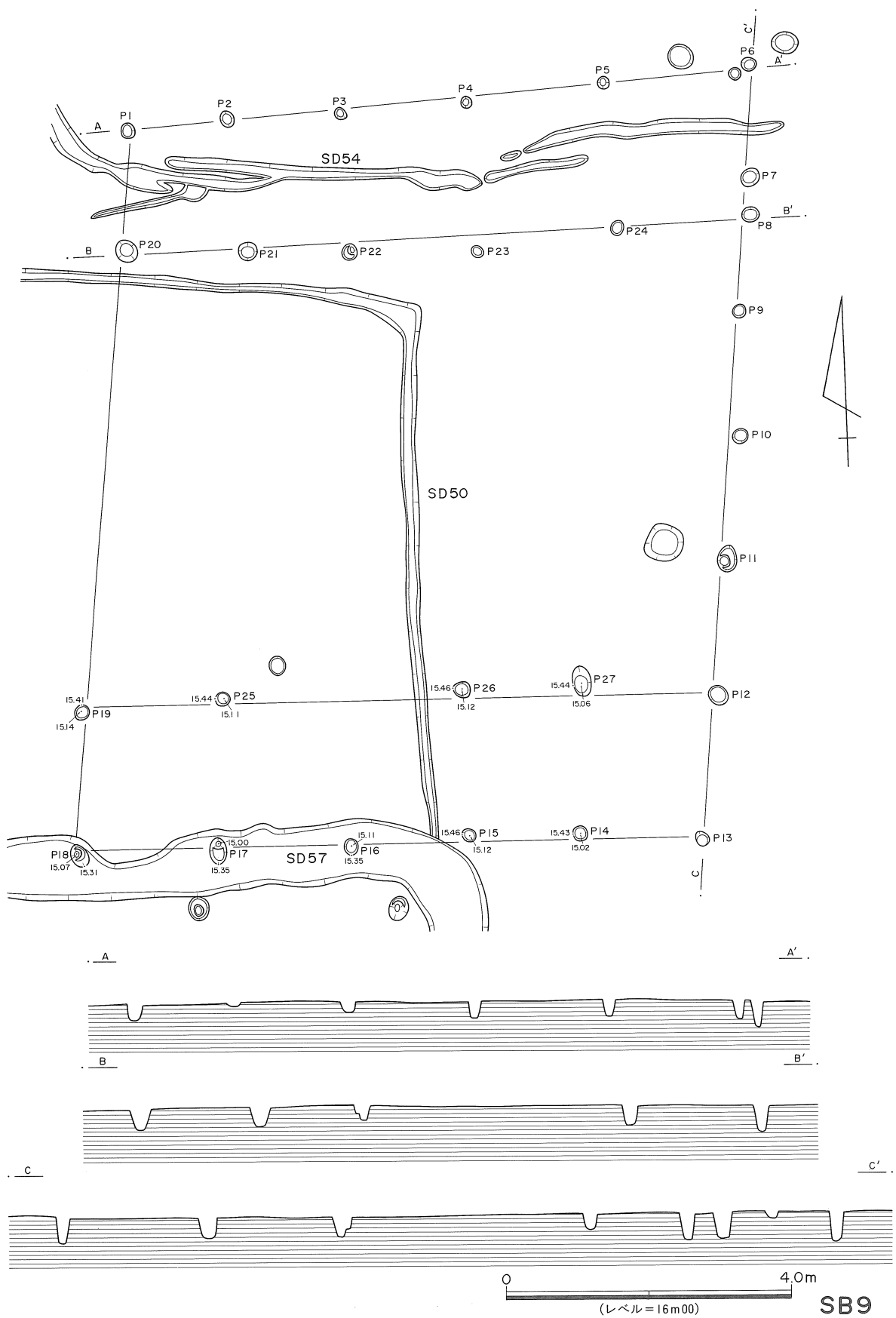


SB11

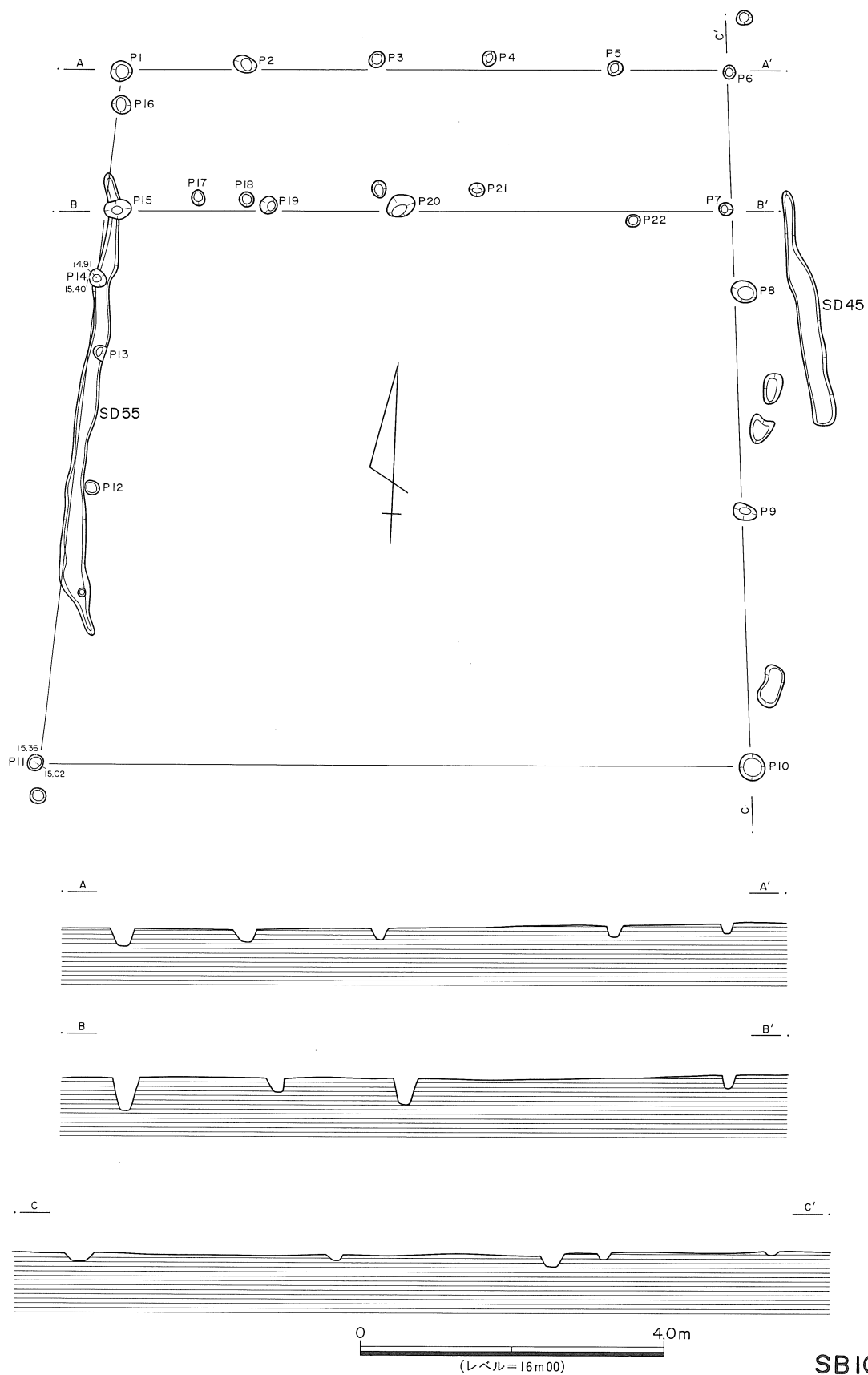
第5図 SB7・SB11実測図



第6図 SB8 実測図

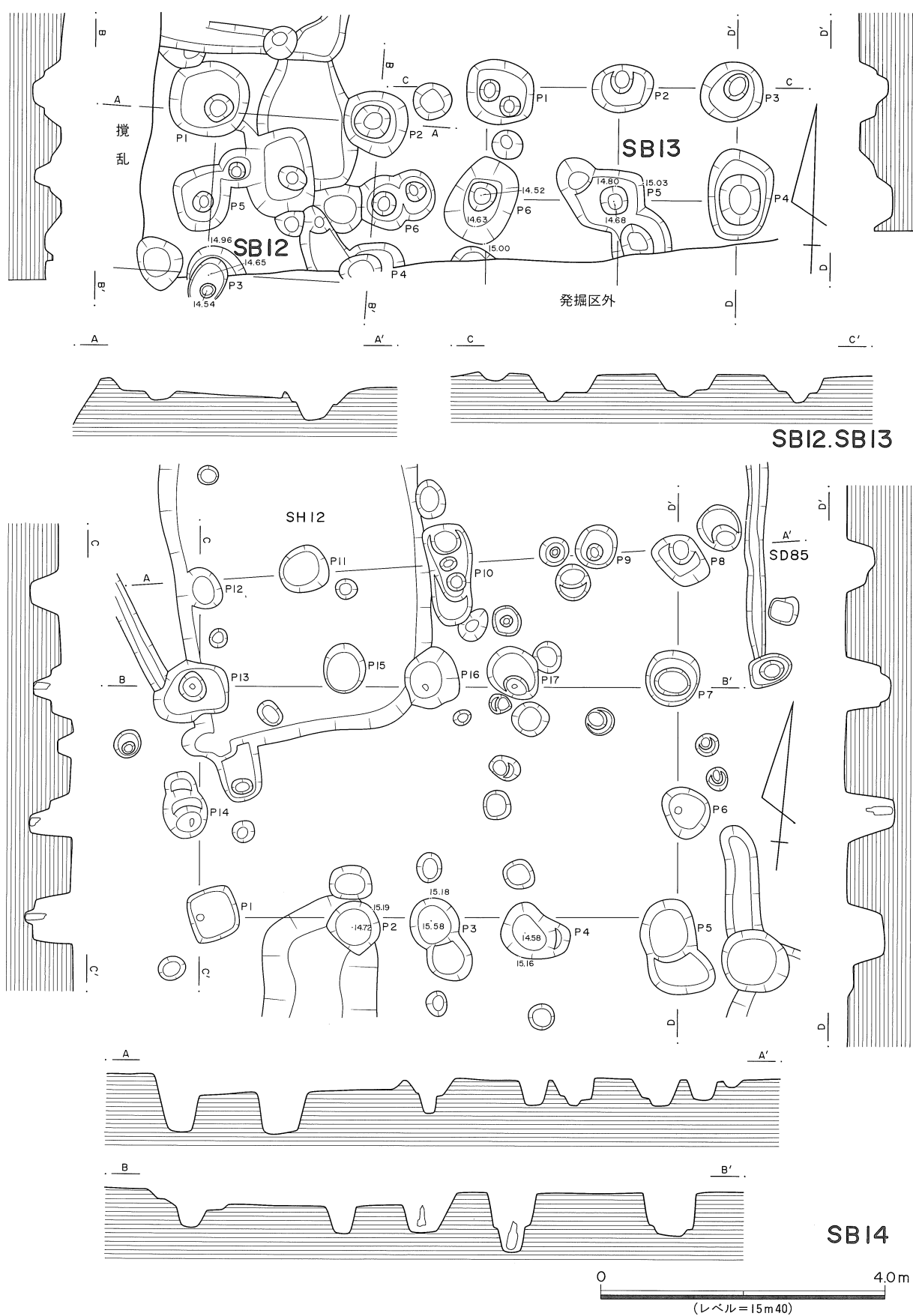


第7図 SB9 実測図

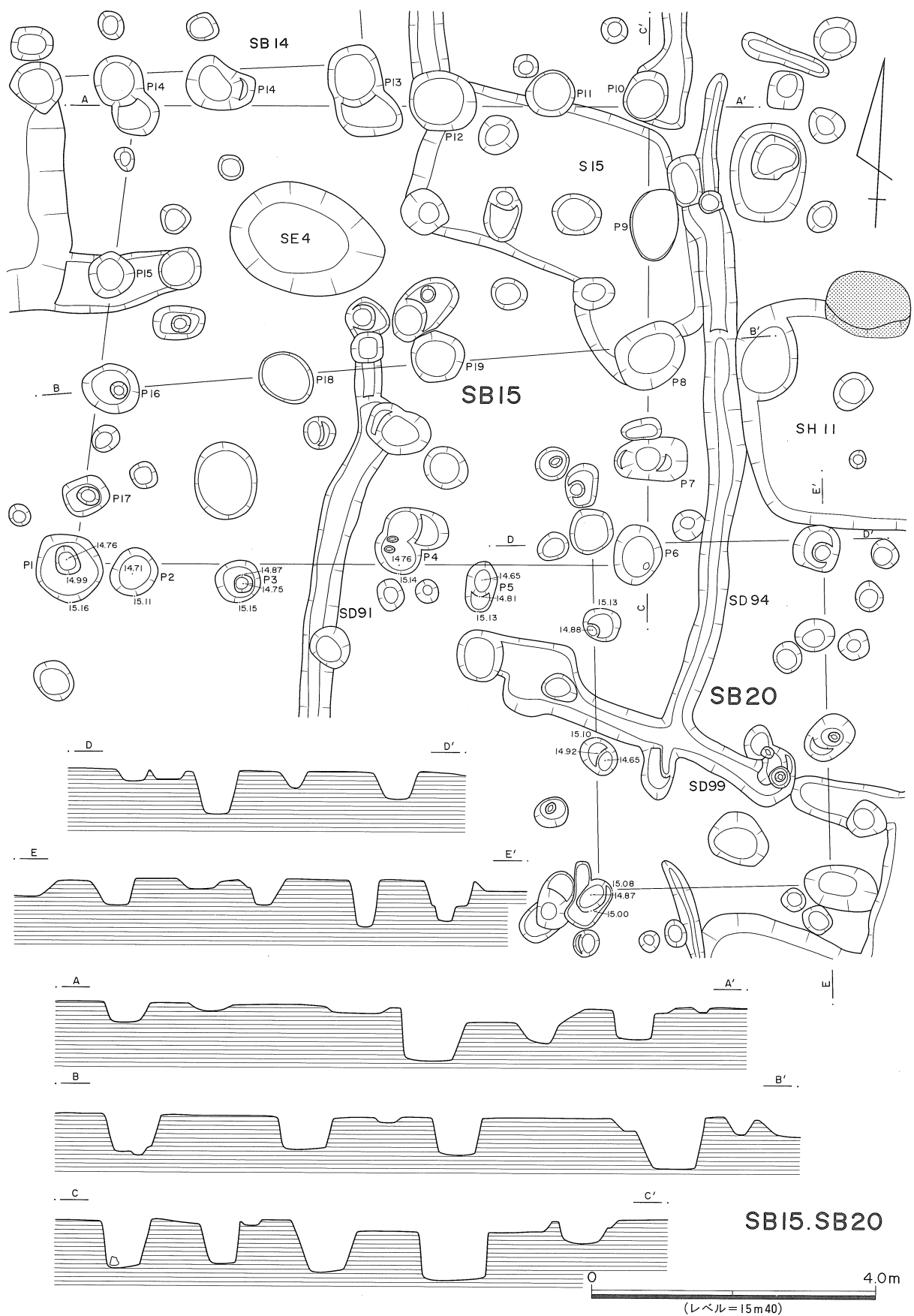


SB10

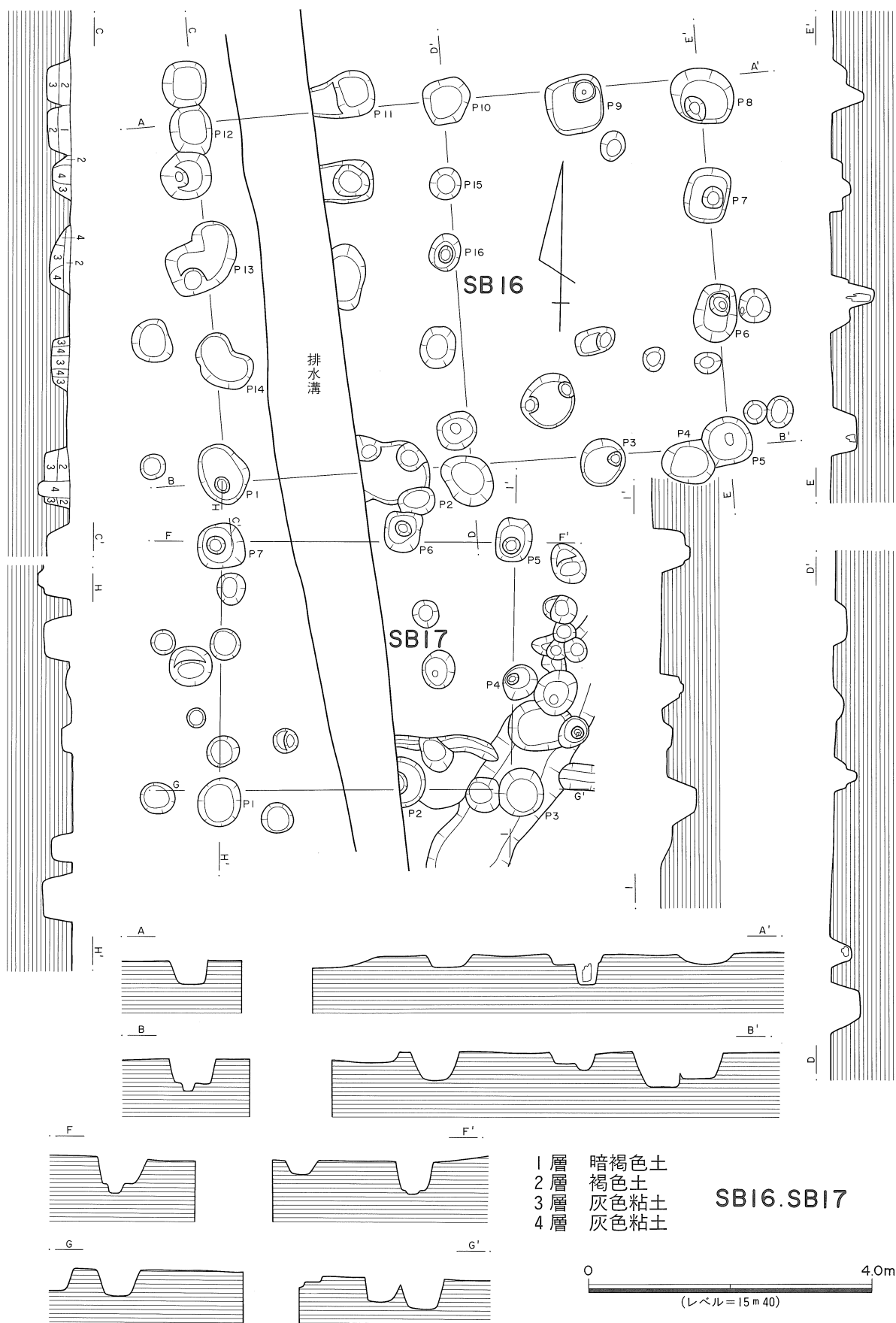
第8図 SB10実測図



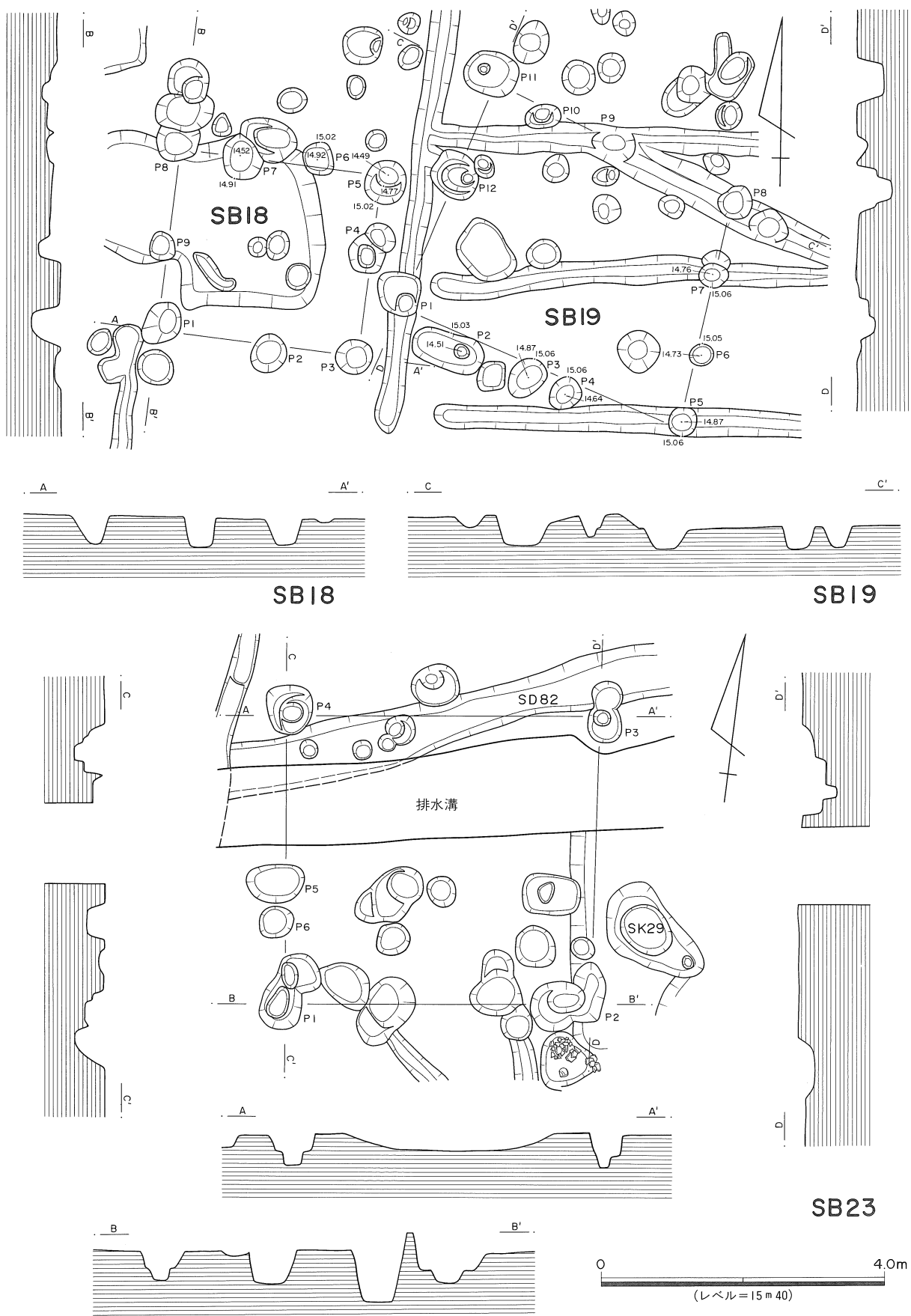
第9図 SB12・SB13・SB14実測図



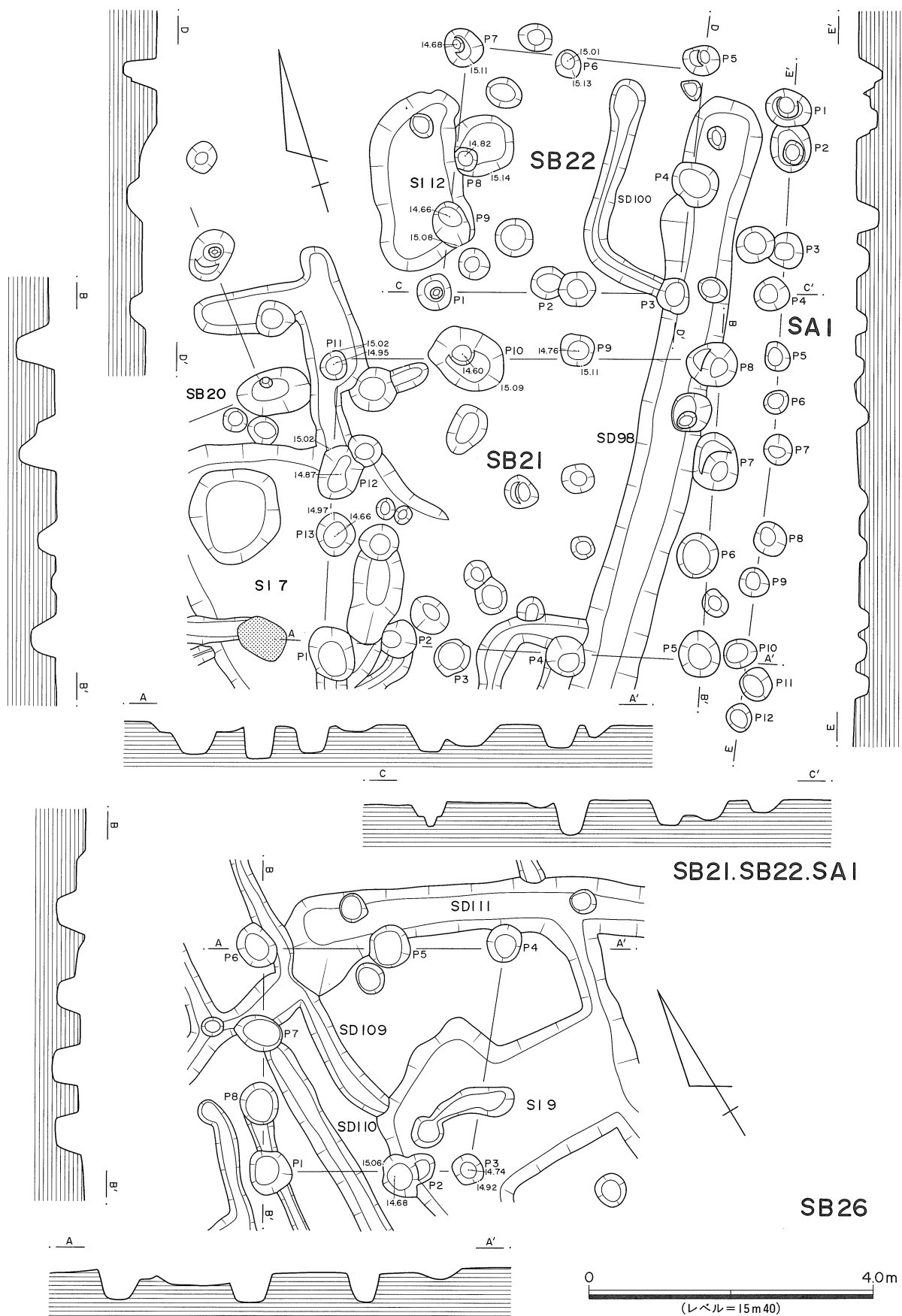
第10図 SB15・SB20実測図



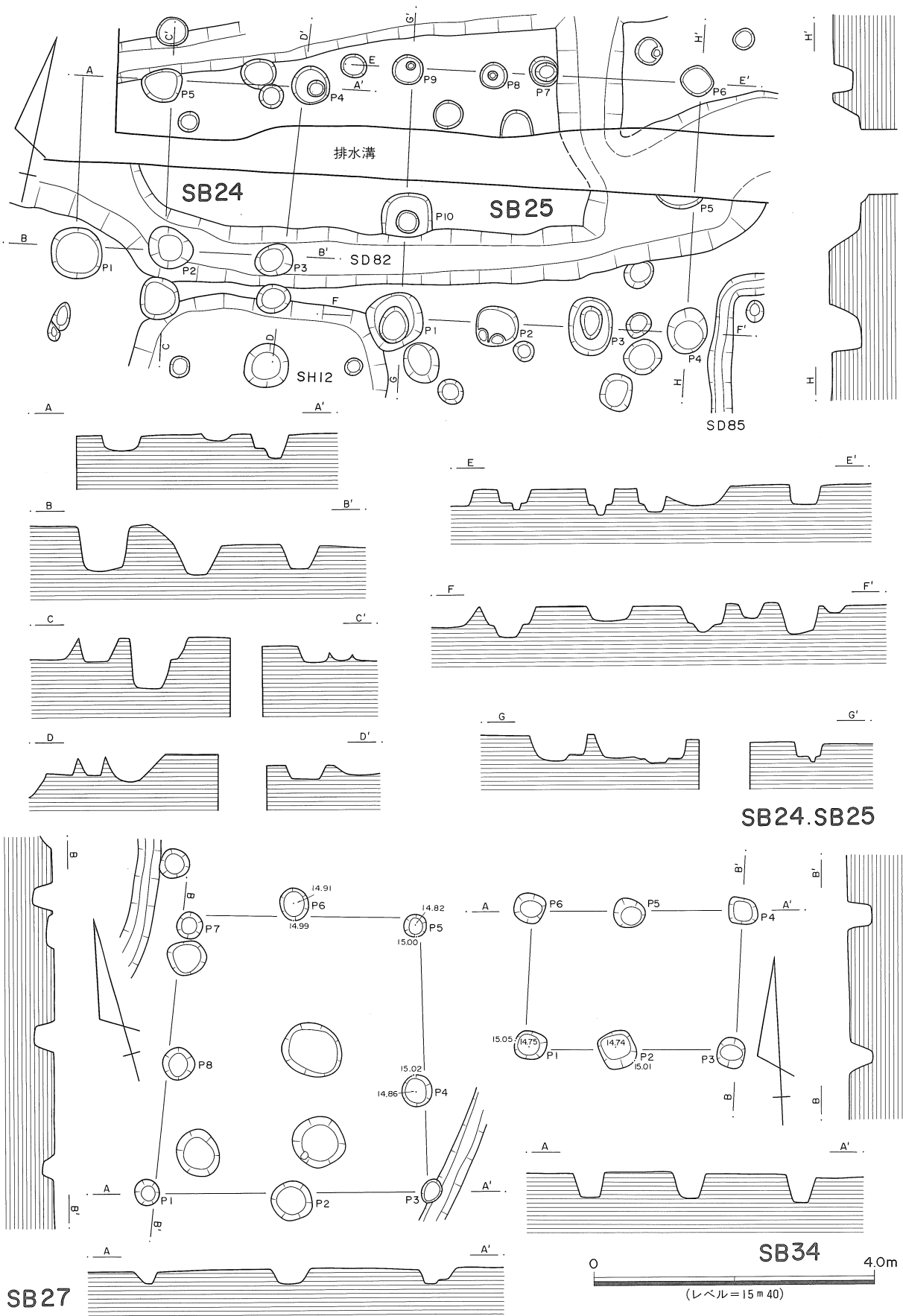
第11図 SB16・SB17実測図



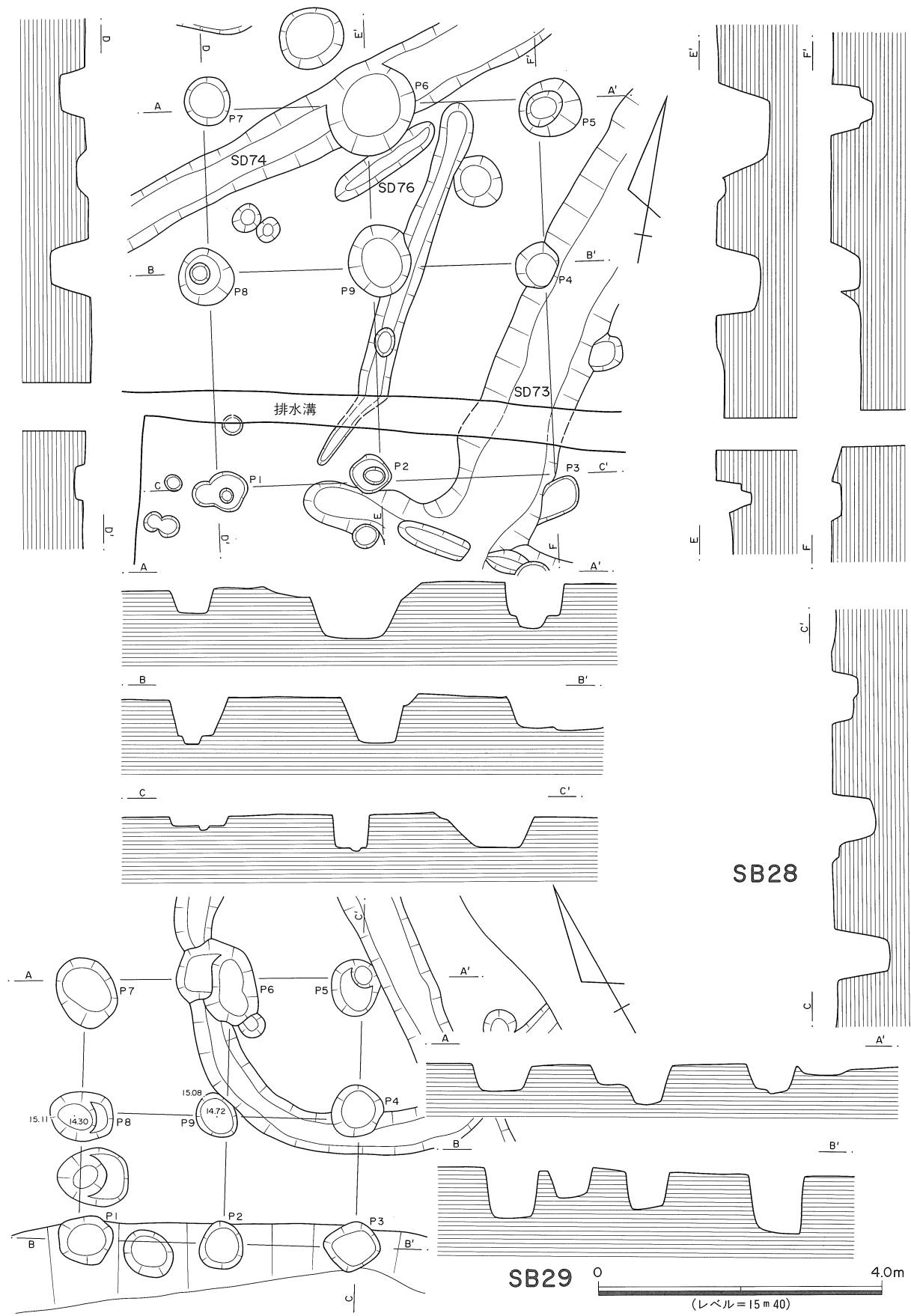
第12図 SB18・SB19・SB23実測図



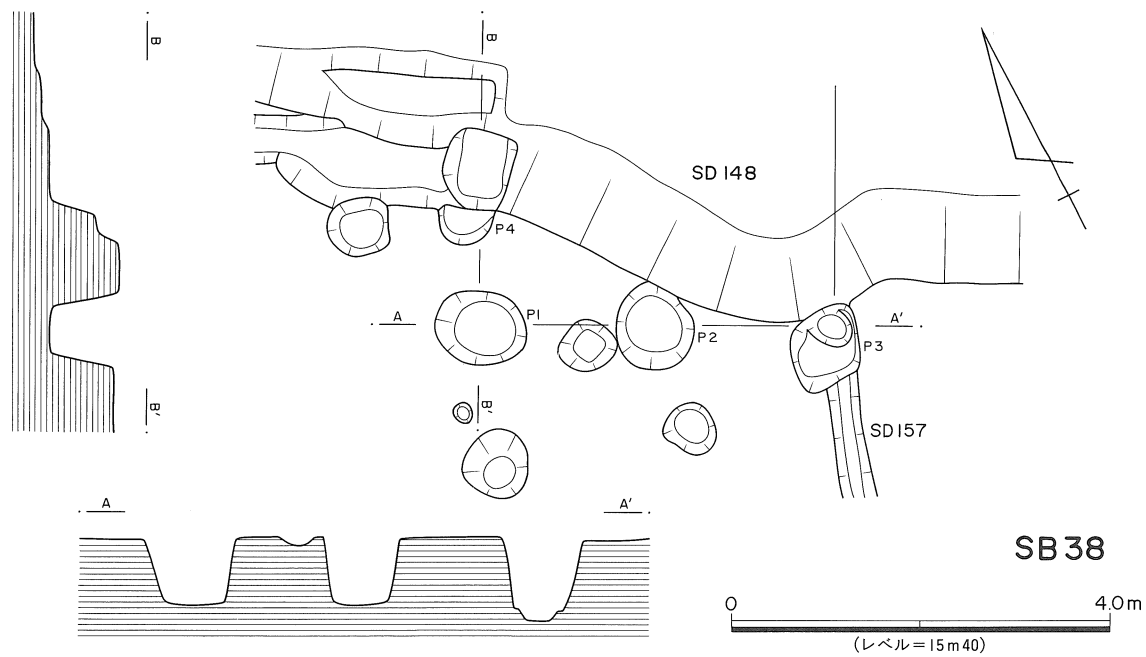
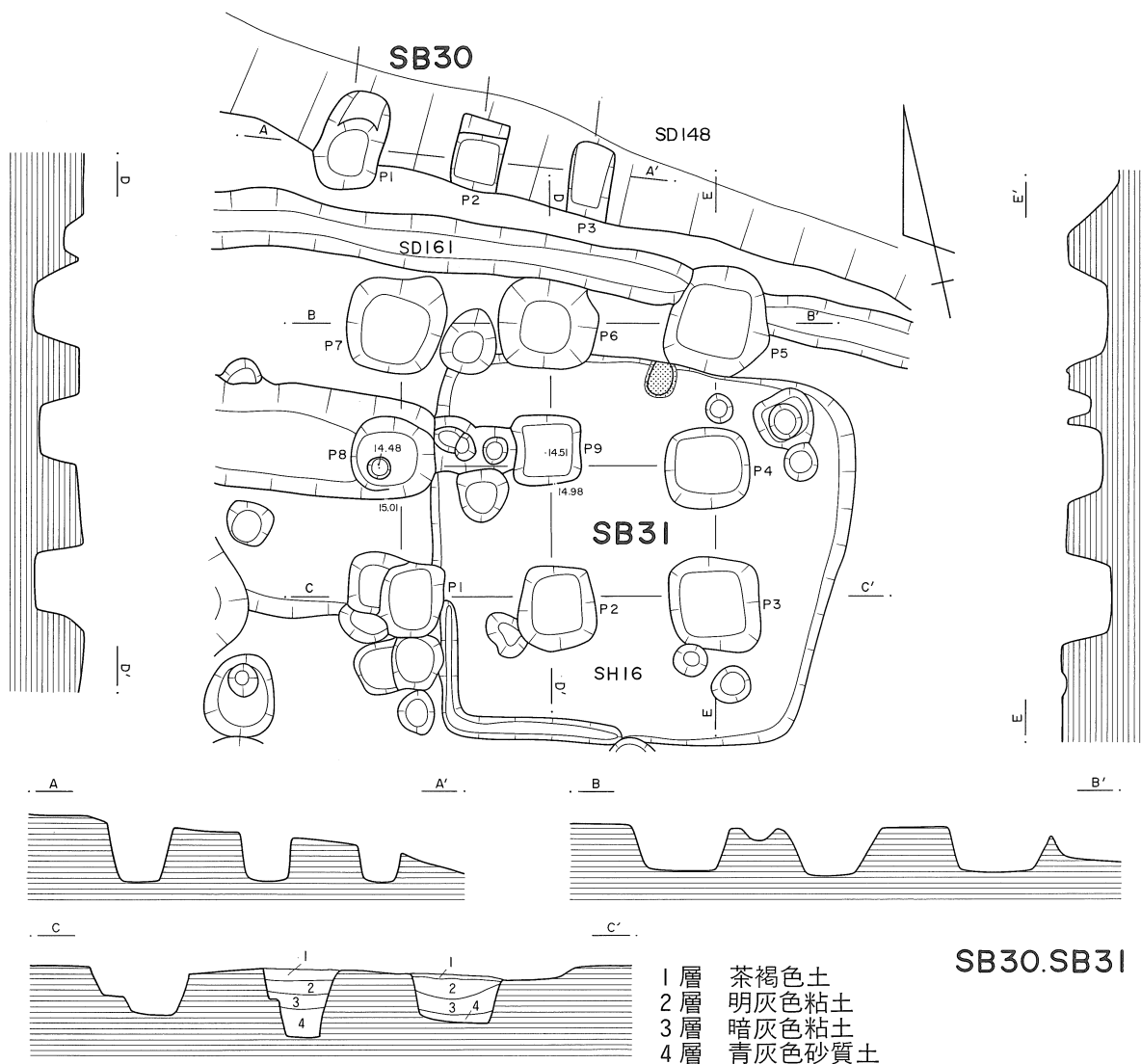
第13図 SB21・SB22・SA1・SB26実測図



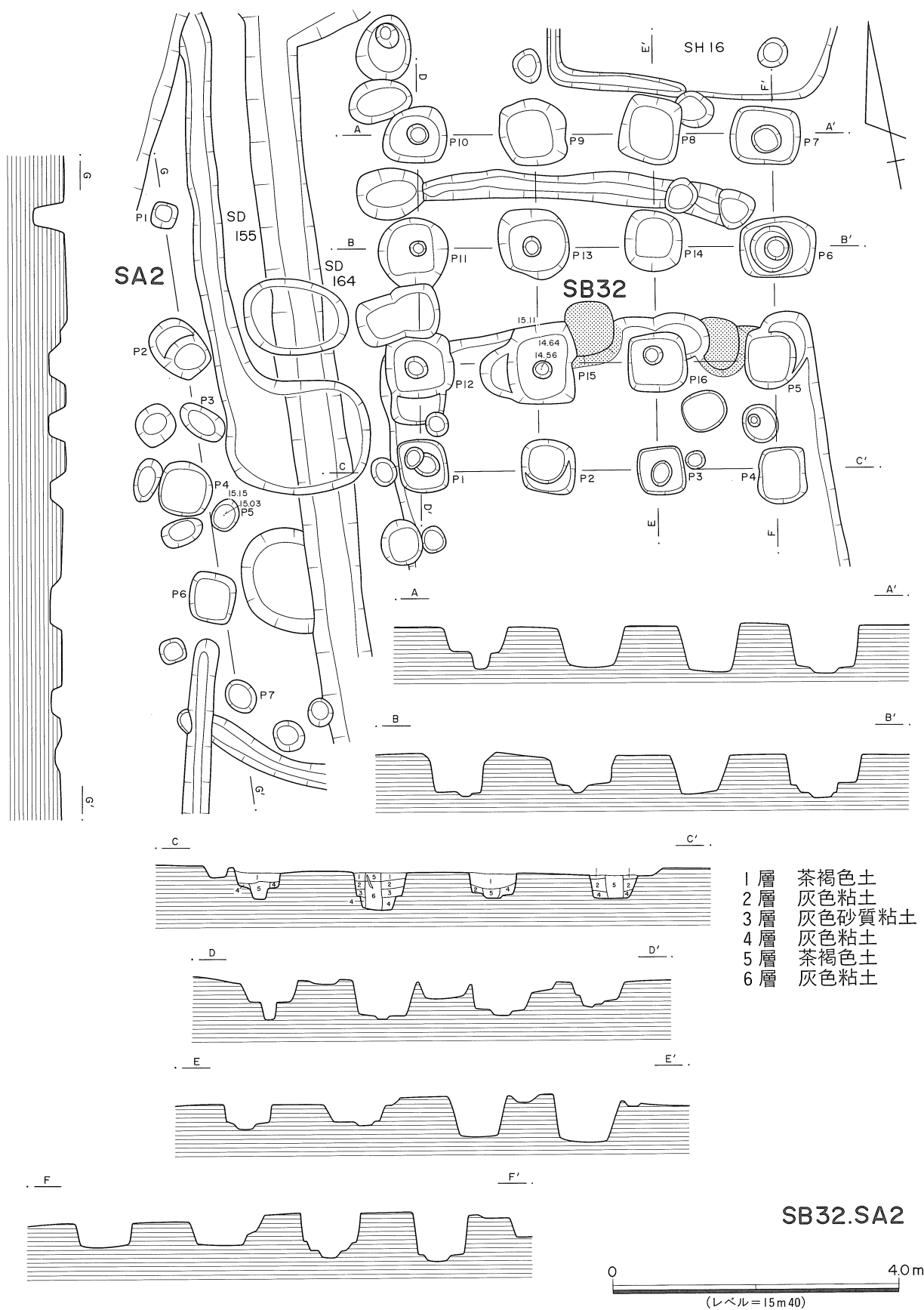
第14図 SB24・SB25・SB27・SB34実測図



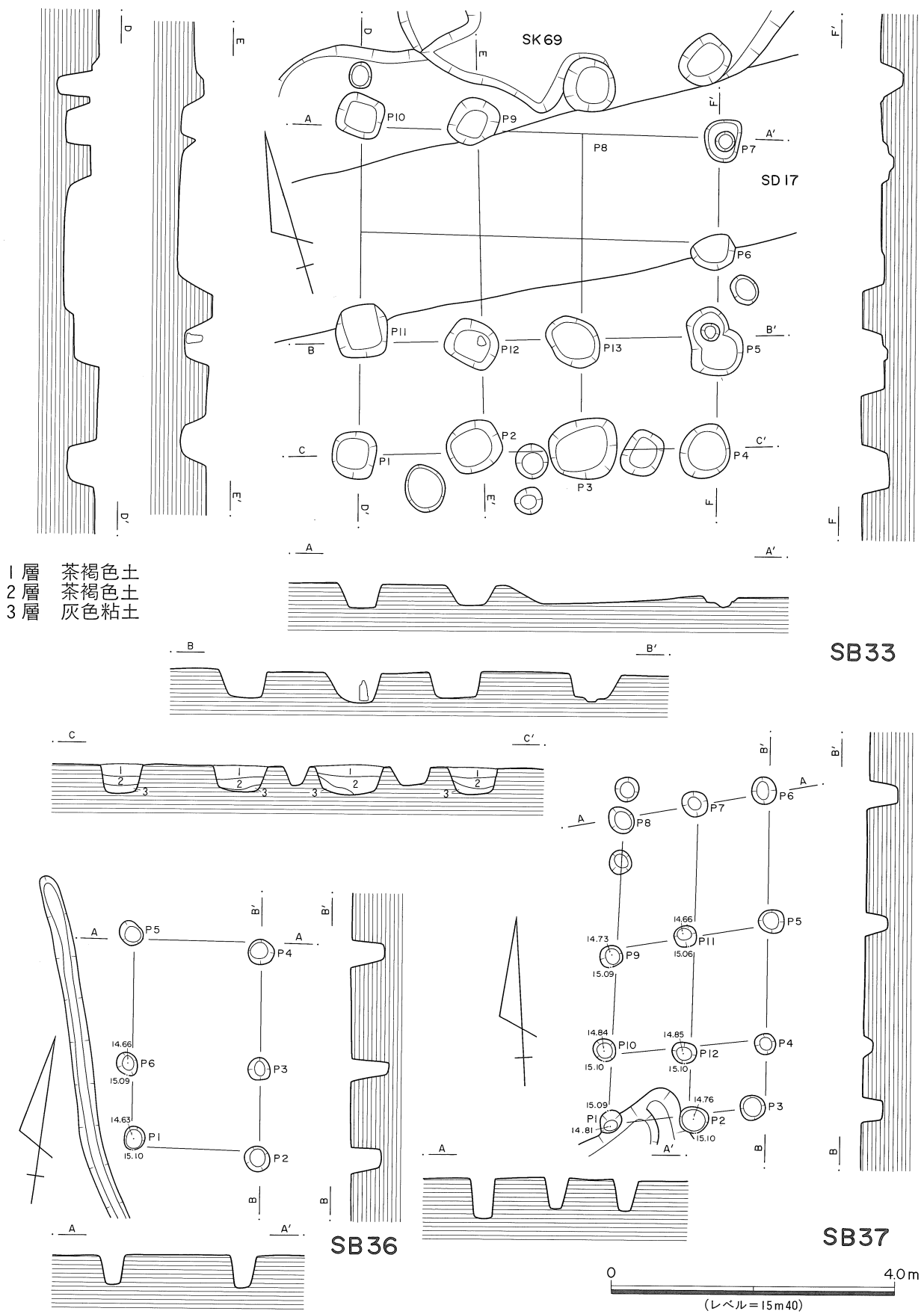
第15図 SB28・SB29実測図



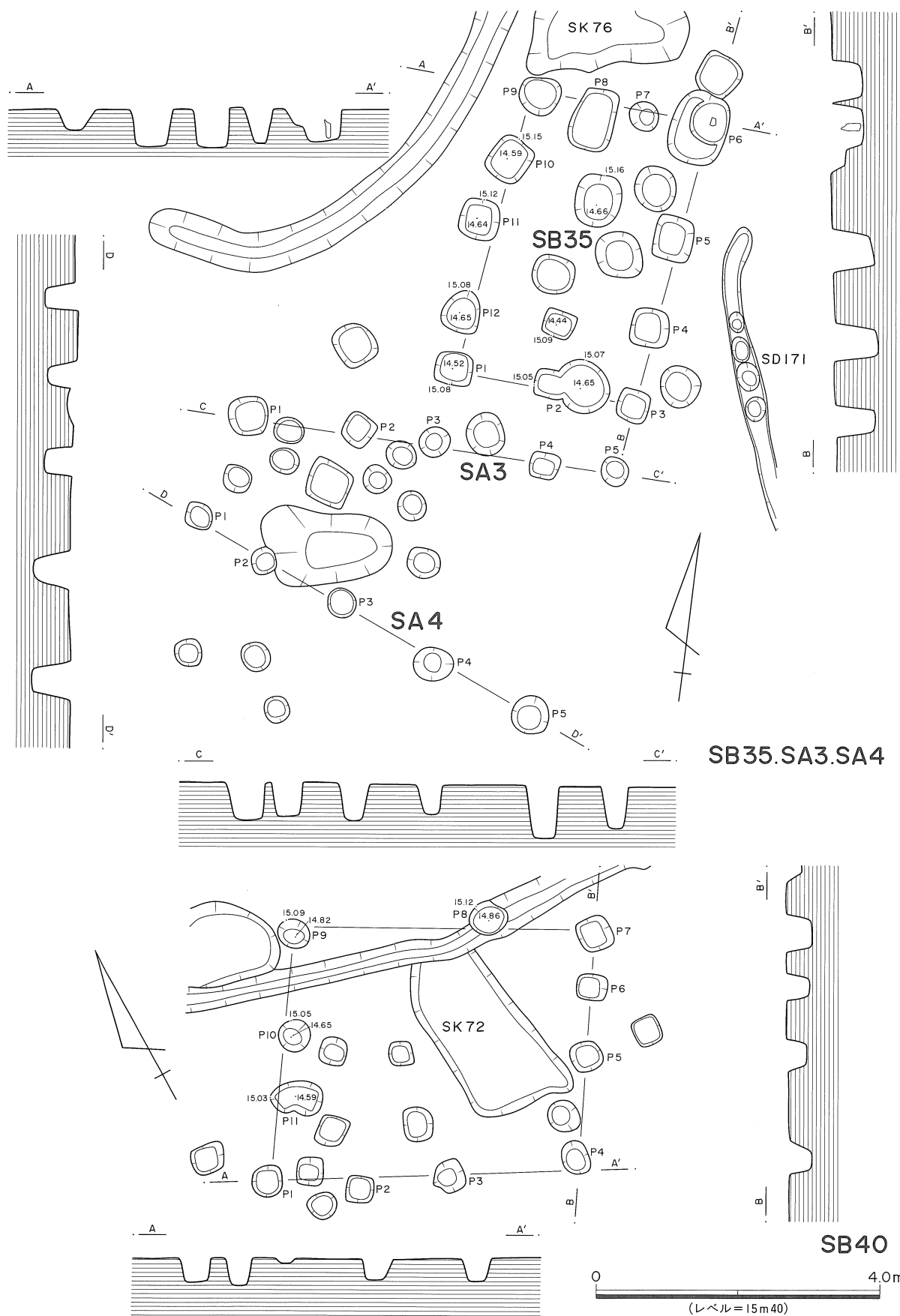
第16図 SB30・SB31・SB38実測図



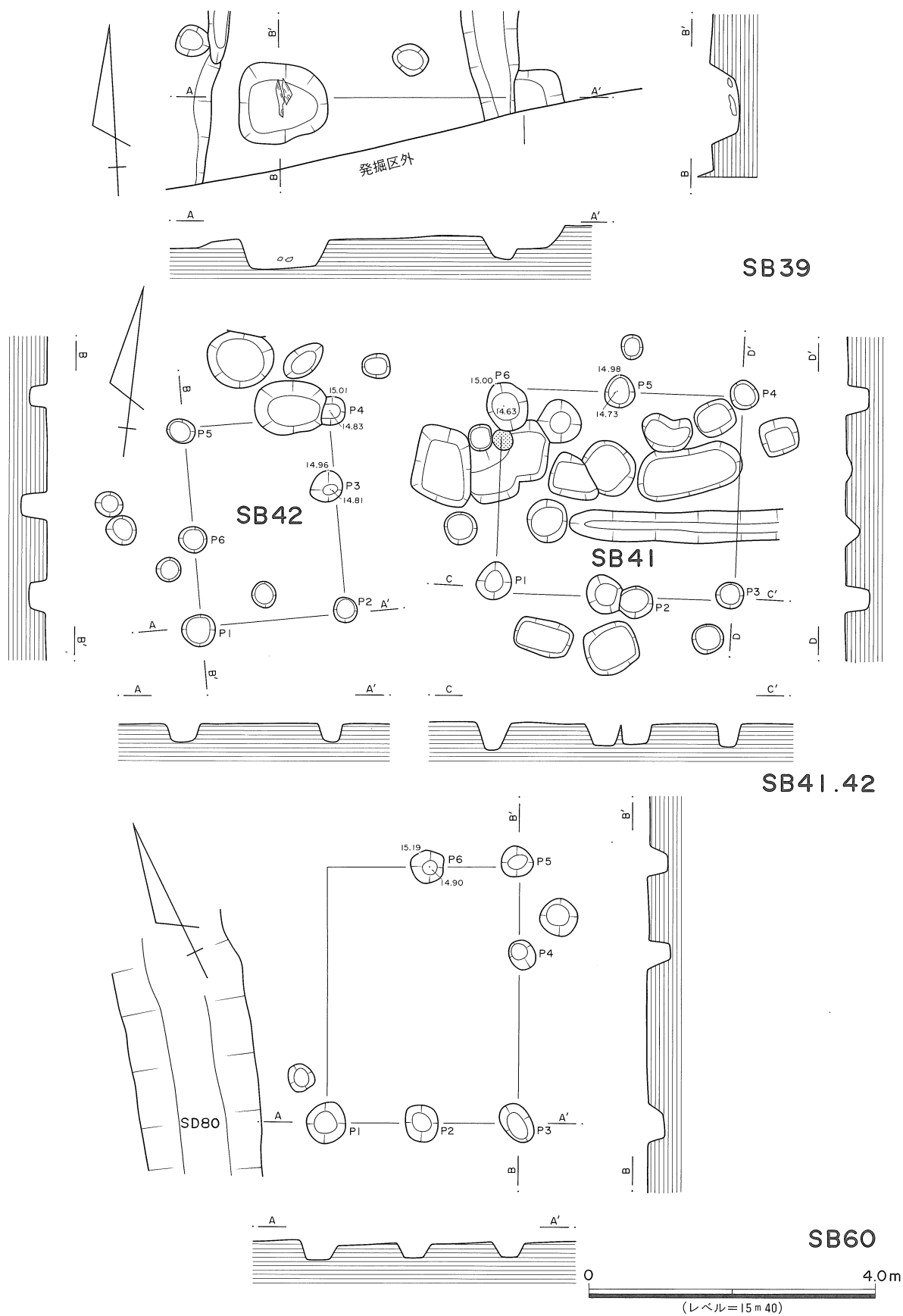
第17図 SB32・SA2 実測図



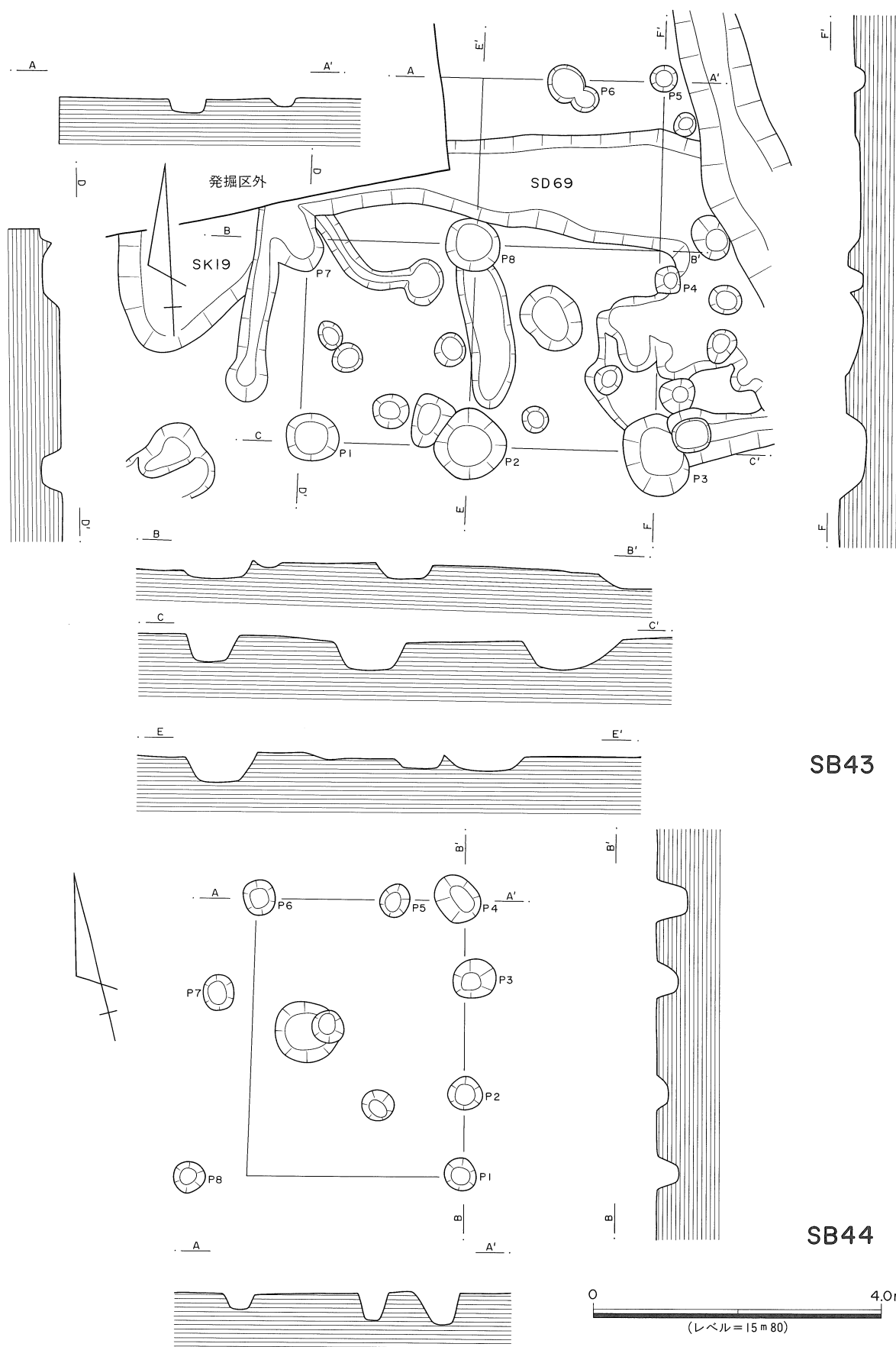
第18図 SB33・SB36・SB37実測図



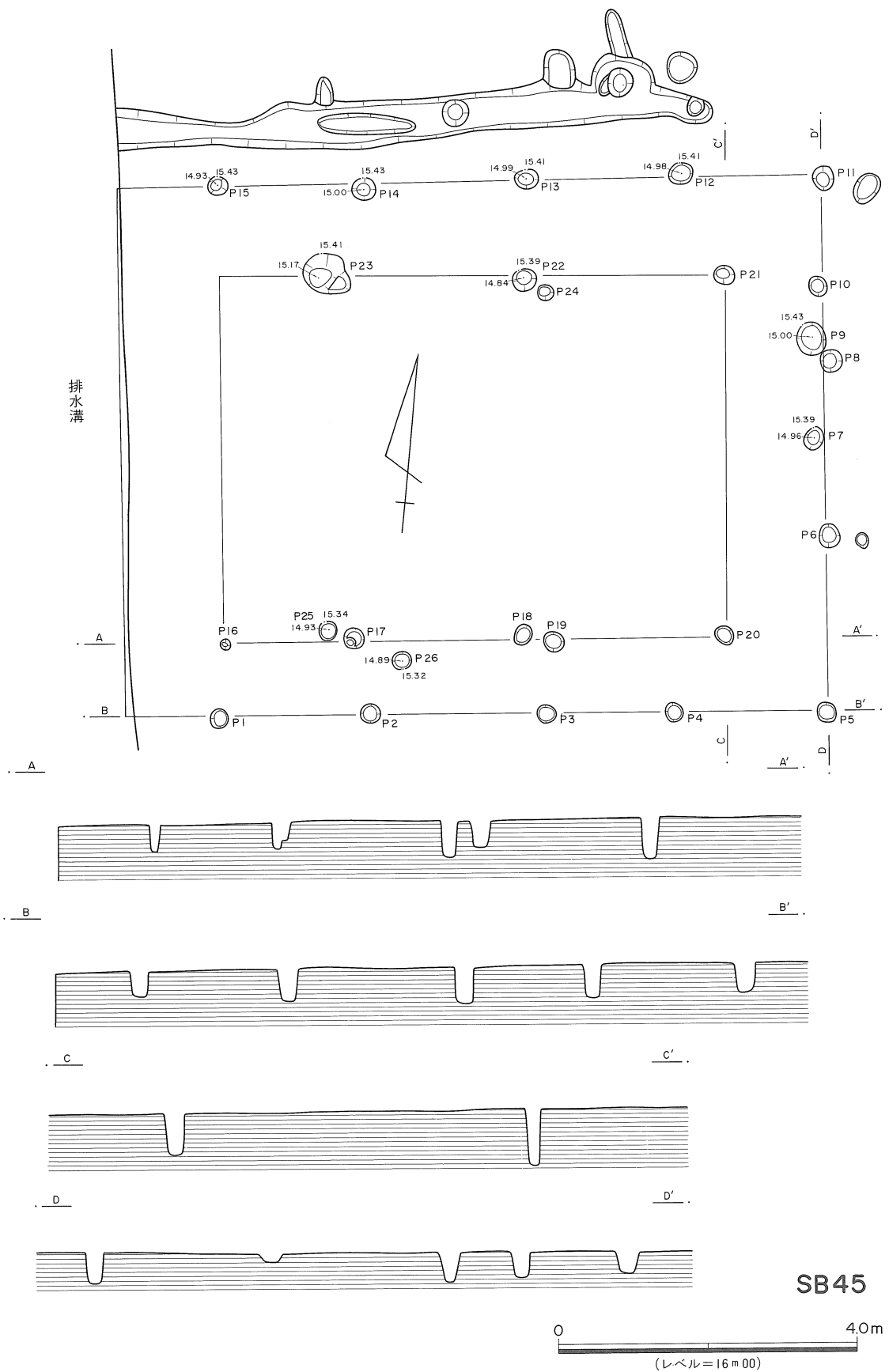
第19図 SB35・SA3・SA4・SB40実測図



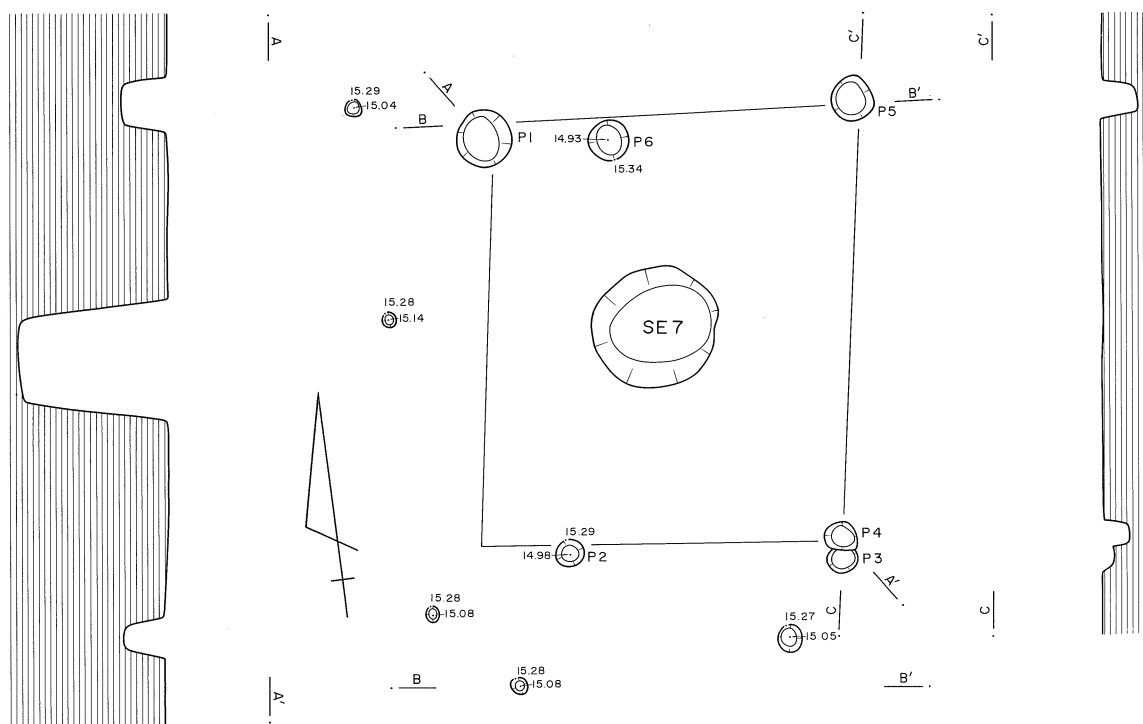
第20図 SB39・SB41・SB42・SB60実測図



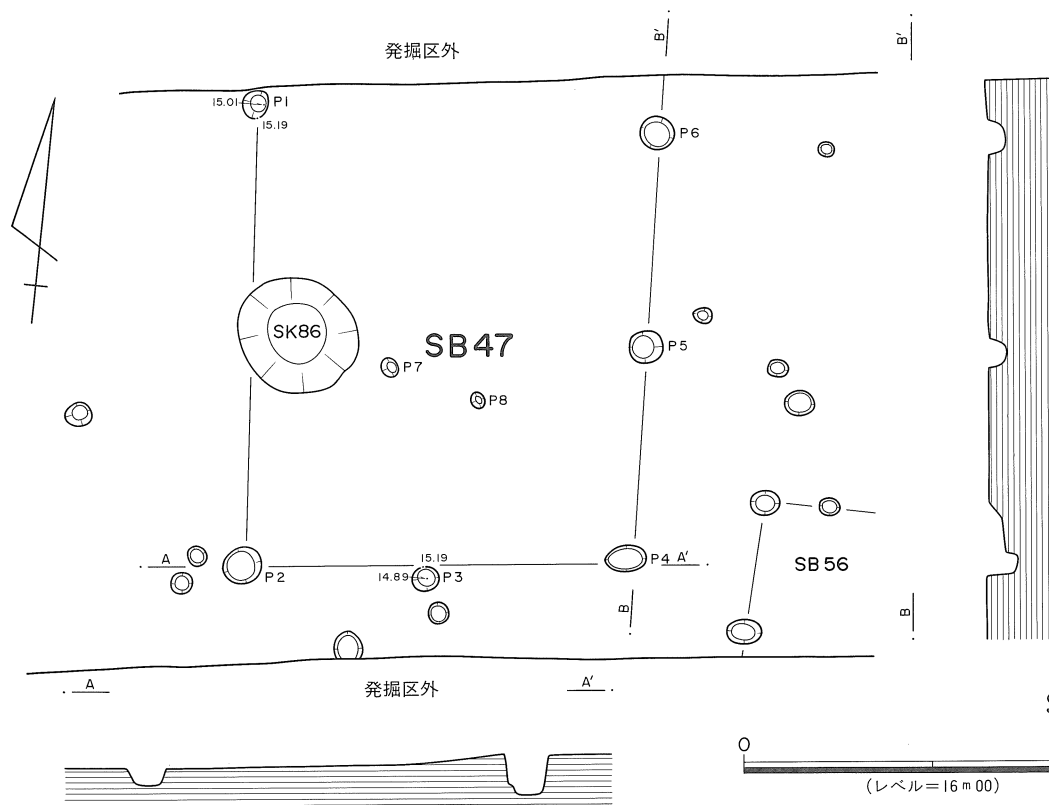
第21図 SB43・SB44実測図



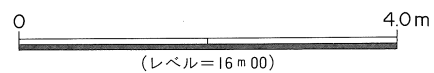
第22図 SB45実測図



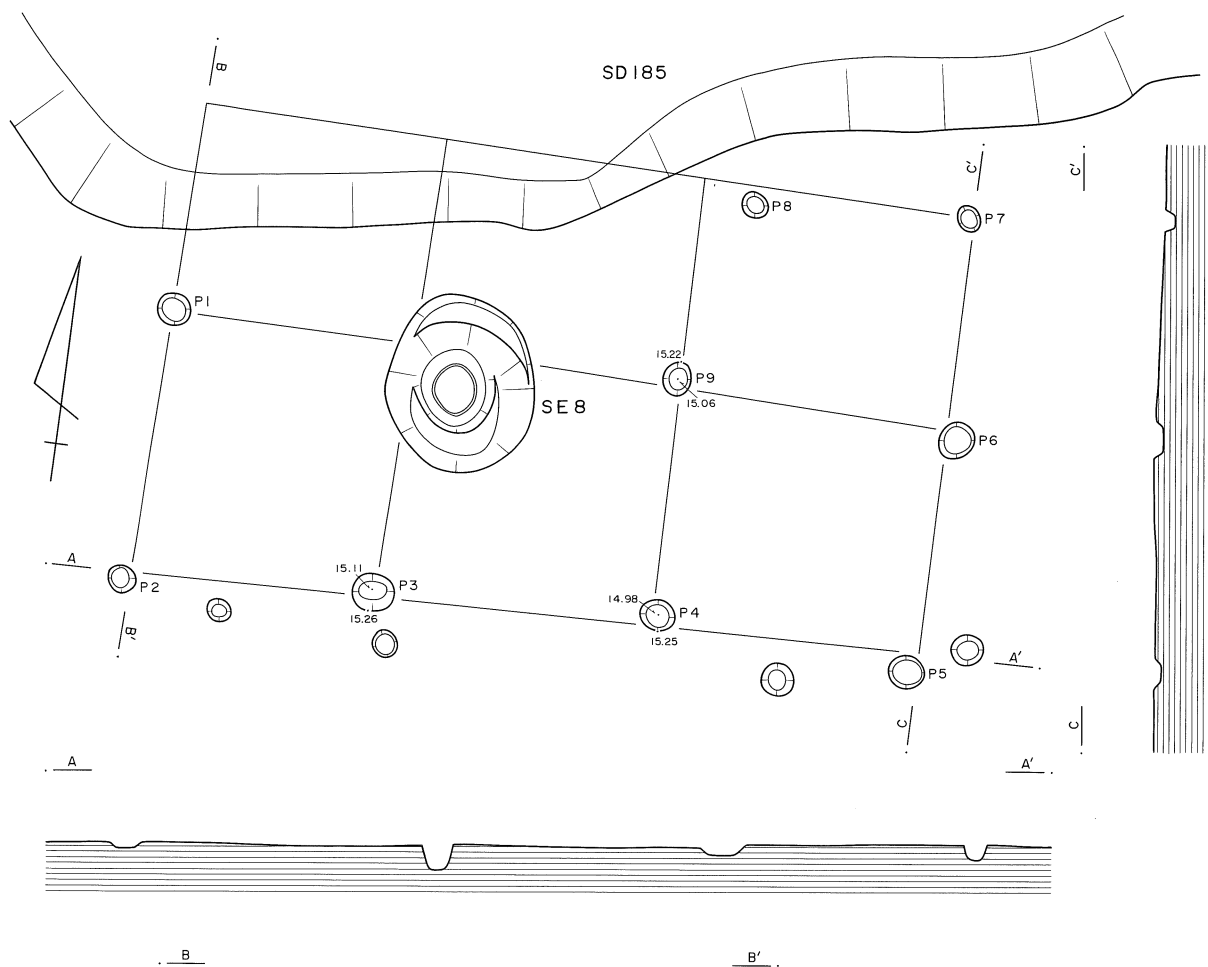
SB46



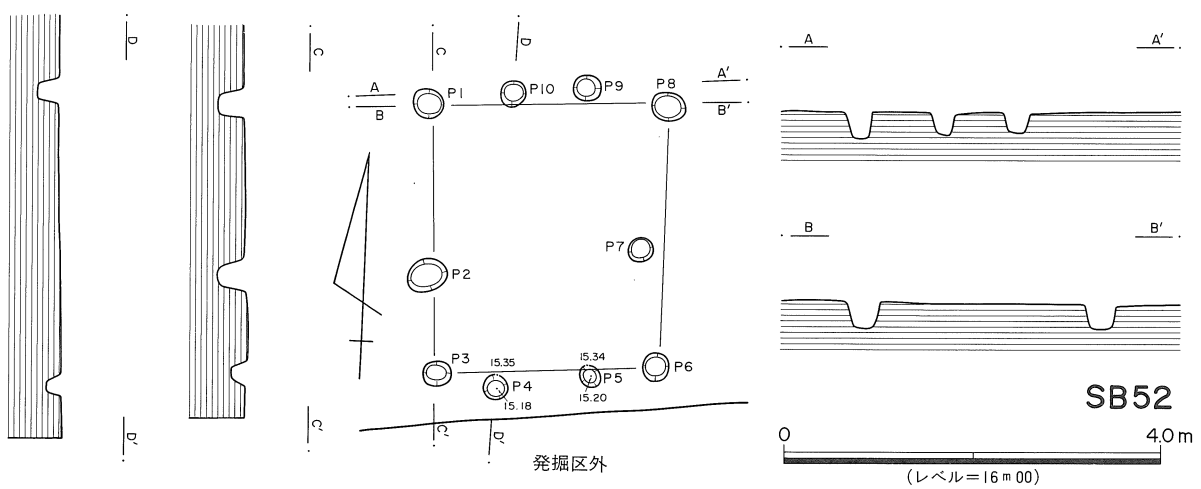
SB47



第23図 SB46・SB47実測図

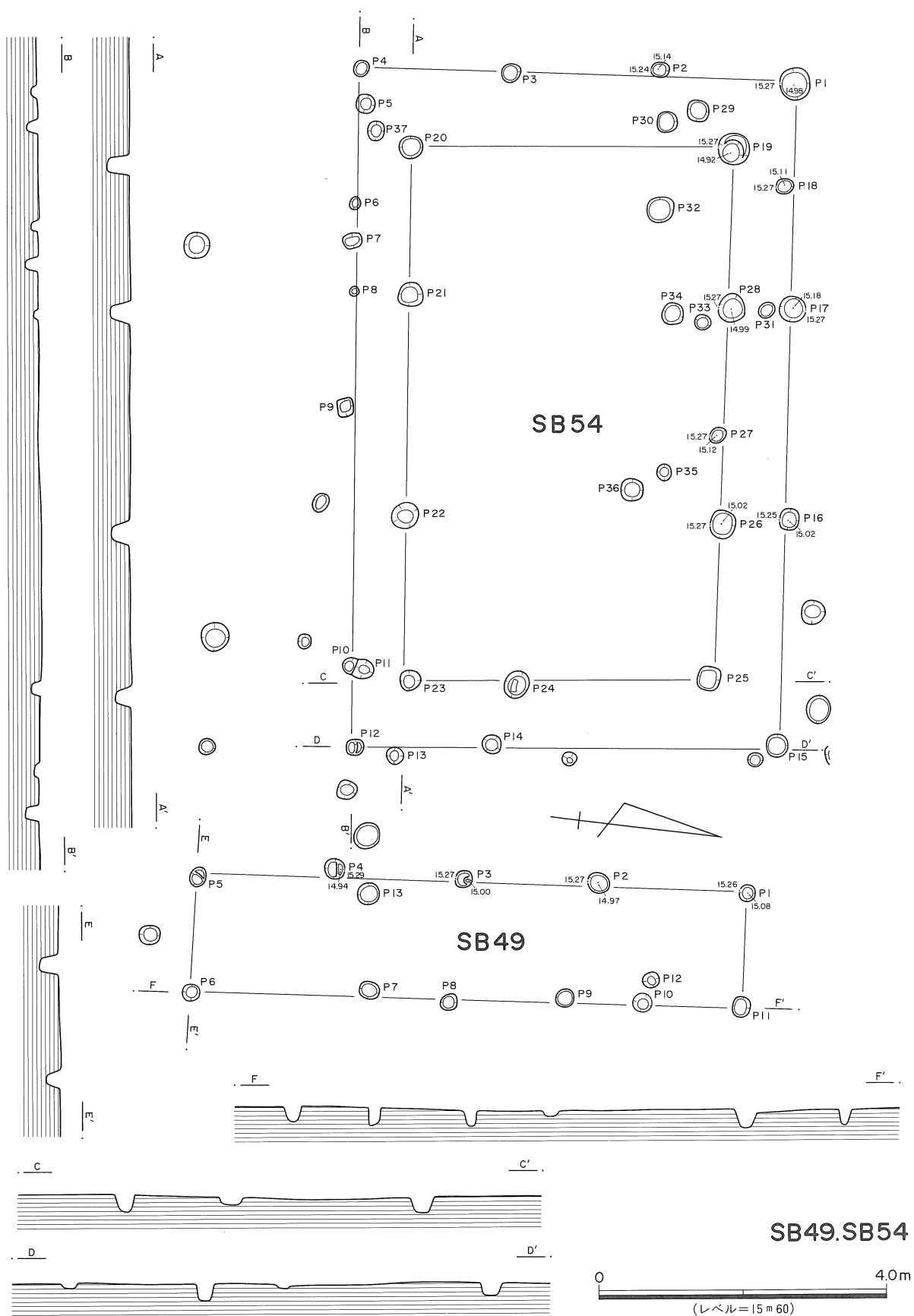


SB48

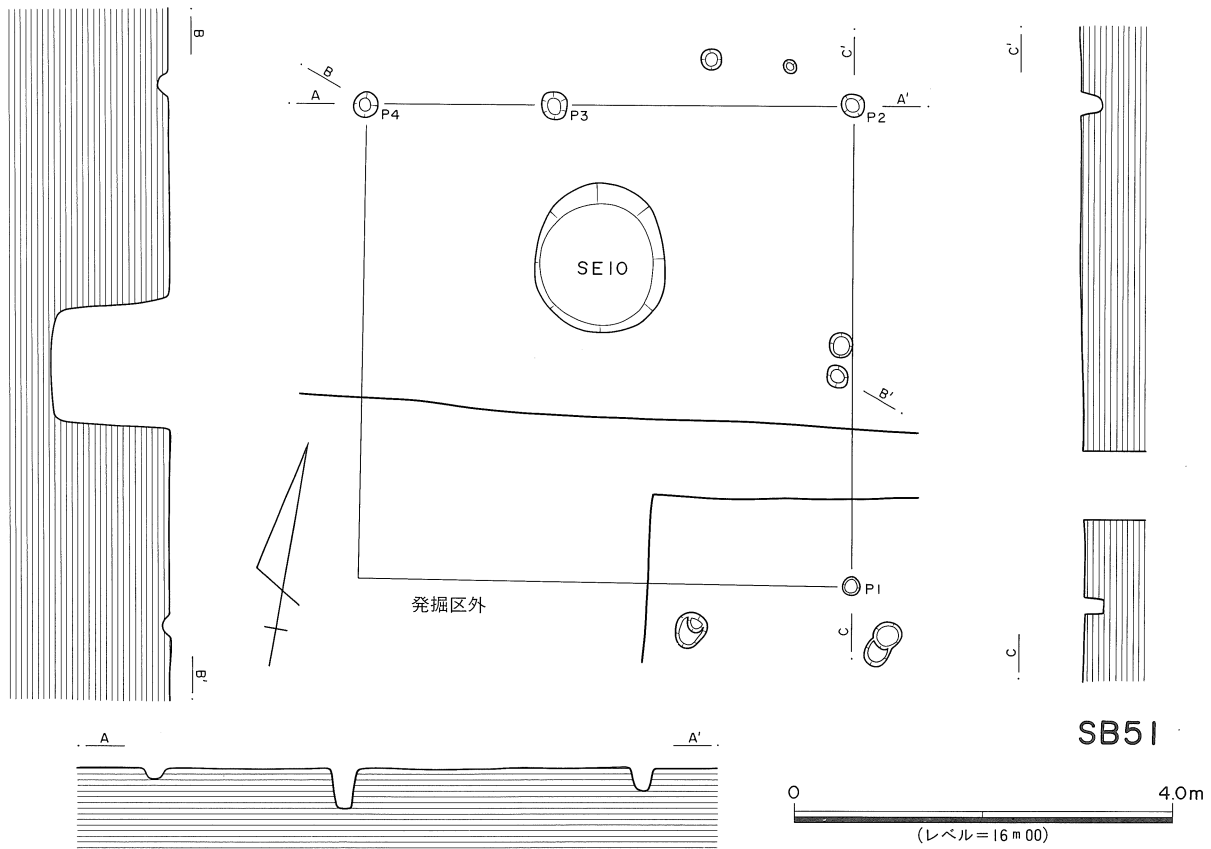
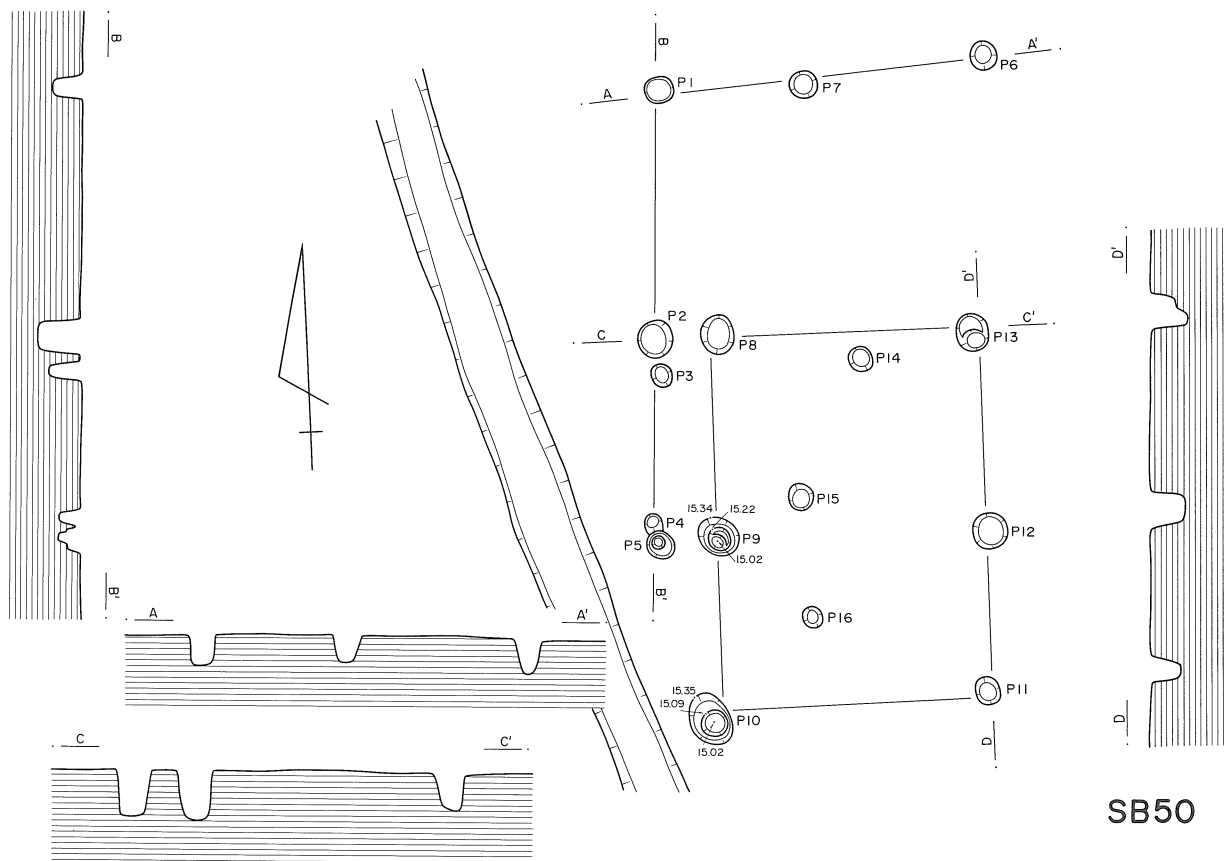


SB52

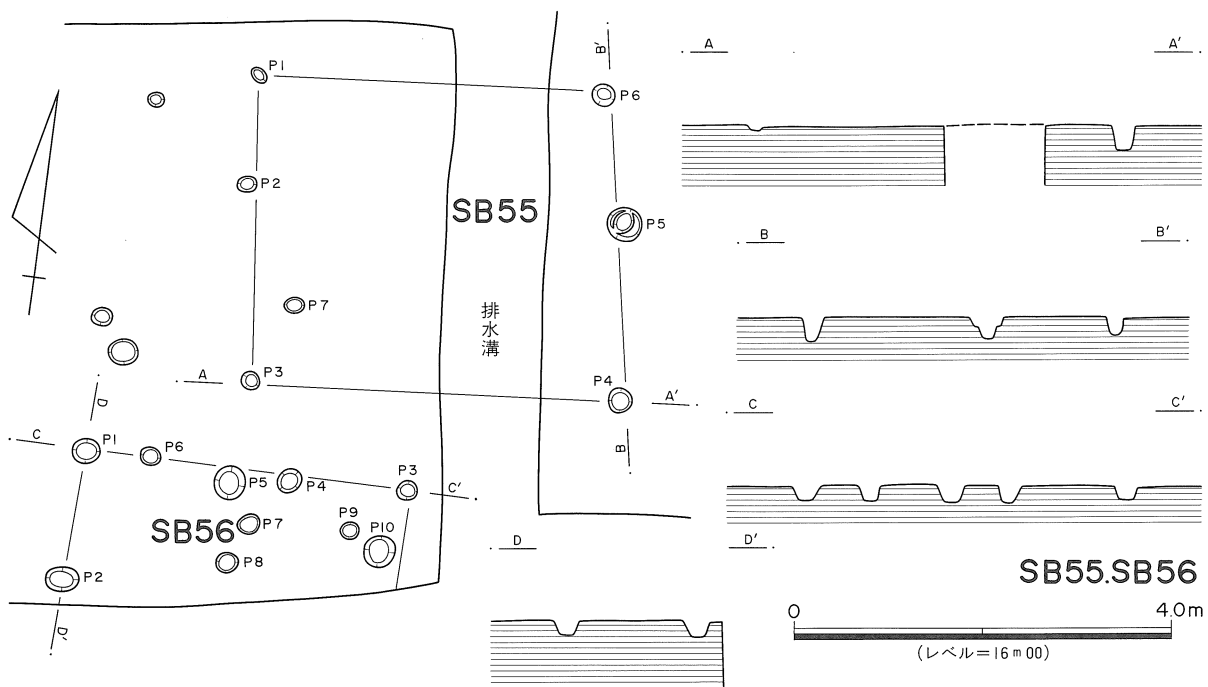
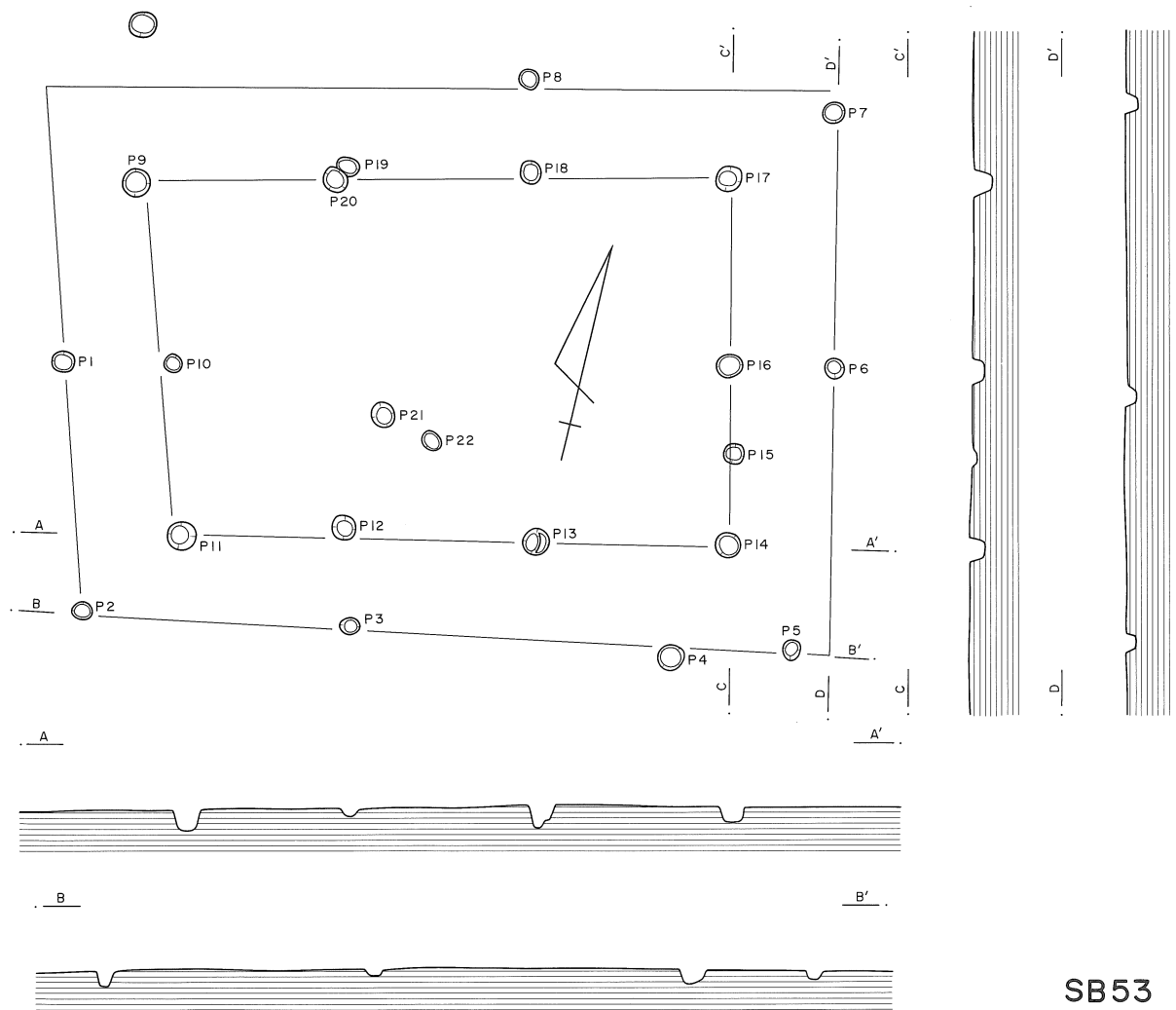
第24図 SB48・SB52実測図



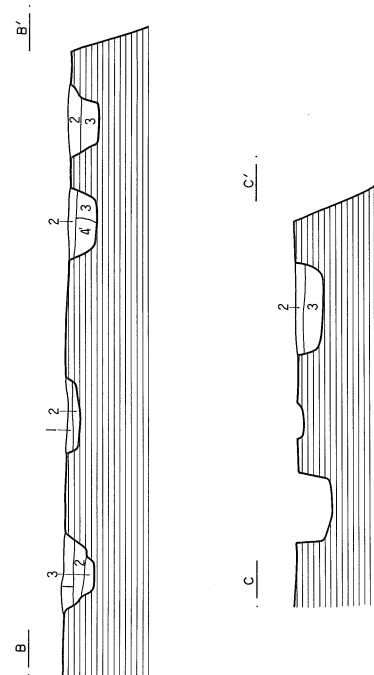
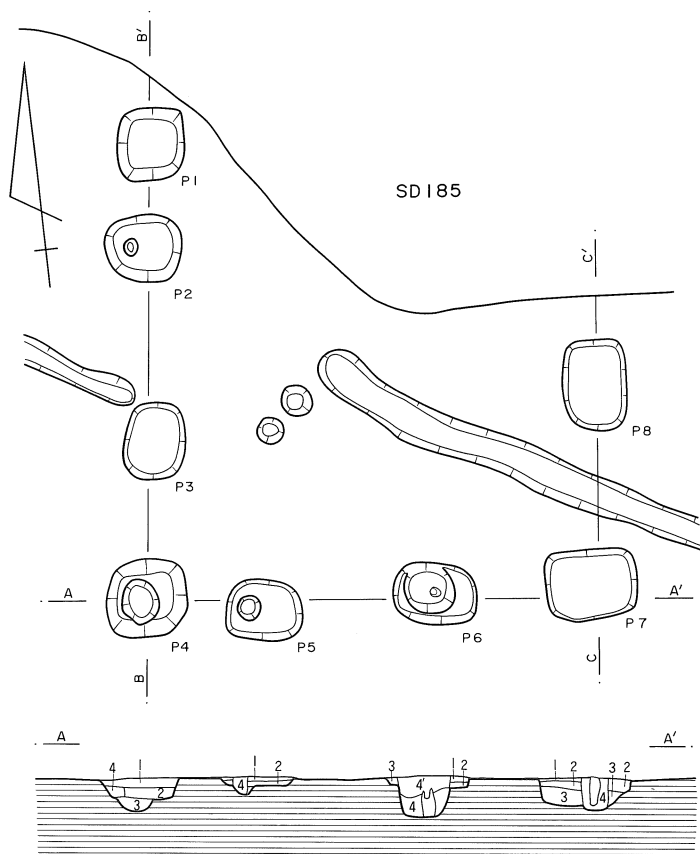
第25図 SB49・SB54実測図



第26図 SB50・SB51実測図

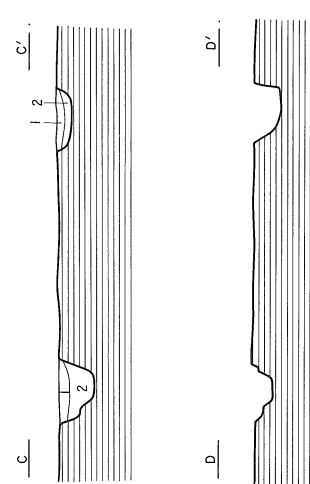
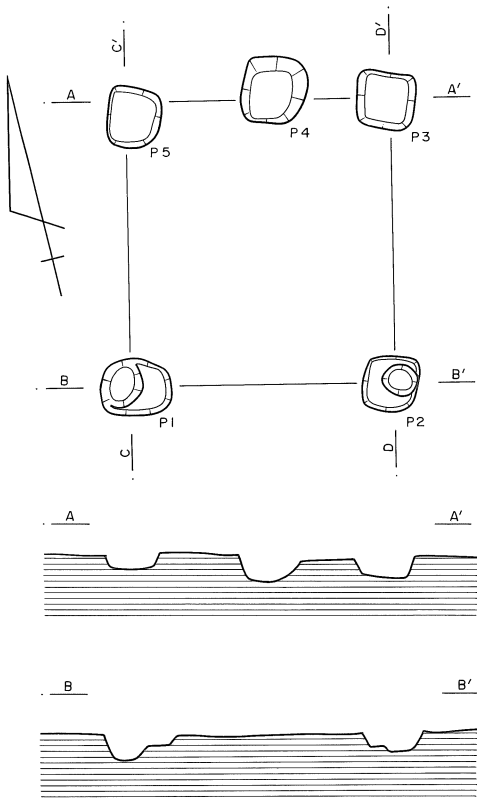


第27図 SB53・SB55・SB56実測図



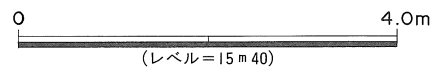
- 1 層 茶褐色土
- 2 層 灰色粘土
- 3 層 灰色砂質粘土
- 4 層 灰色粘土
- 4'層 灰色粘土

SB57

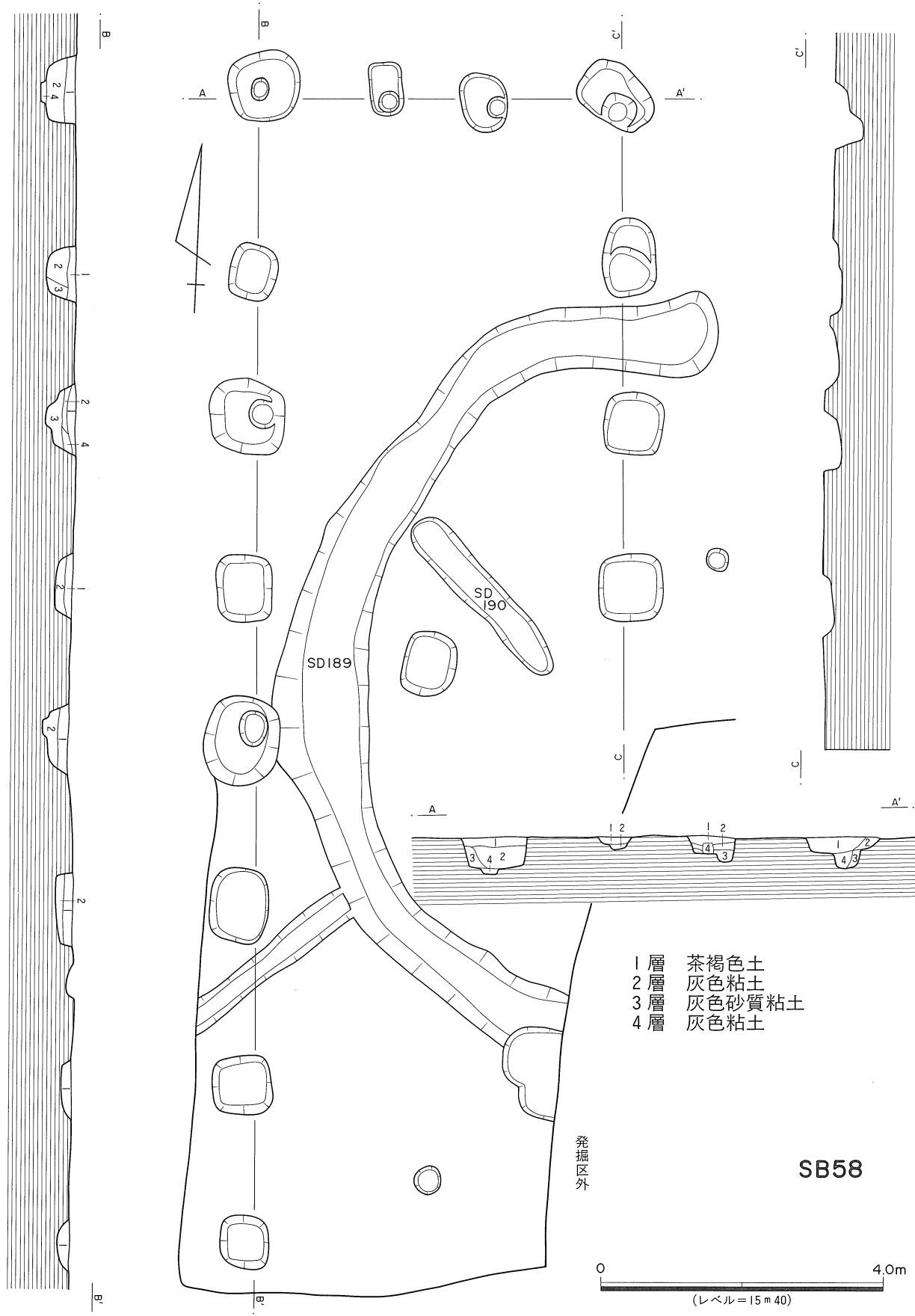


- 1 層 茶褐色土
- 2 層 灰色粘土

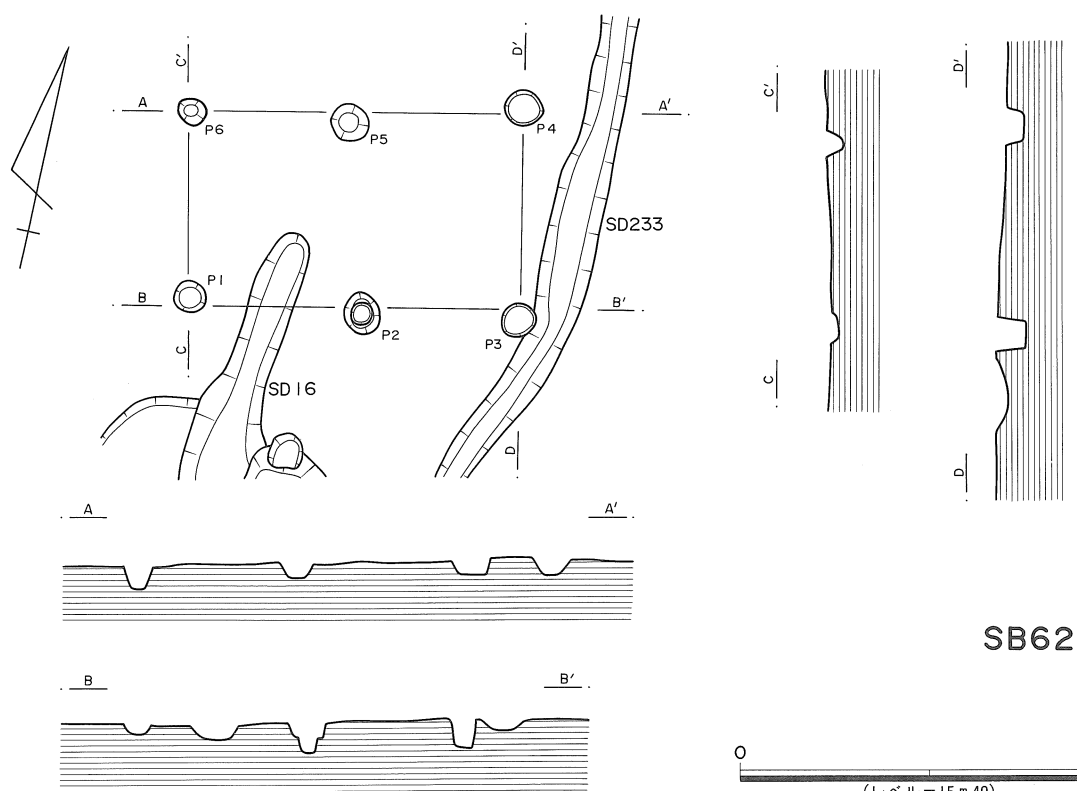
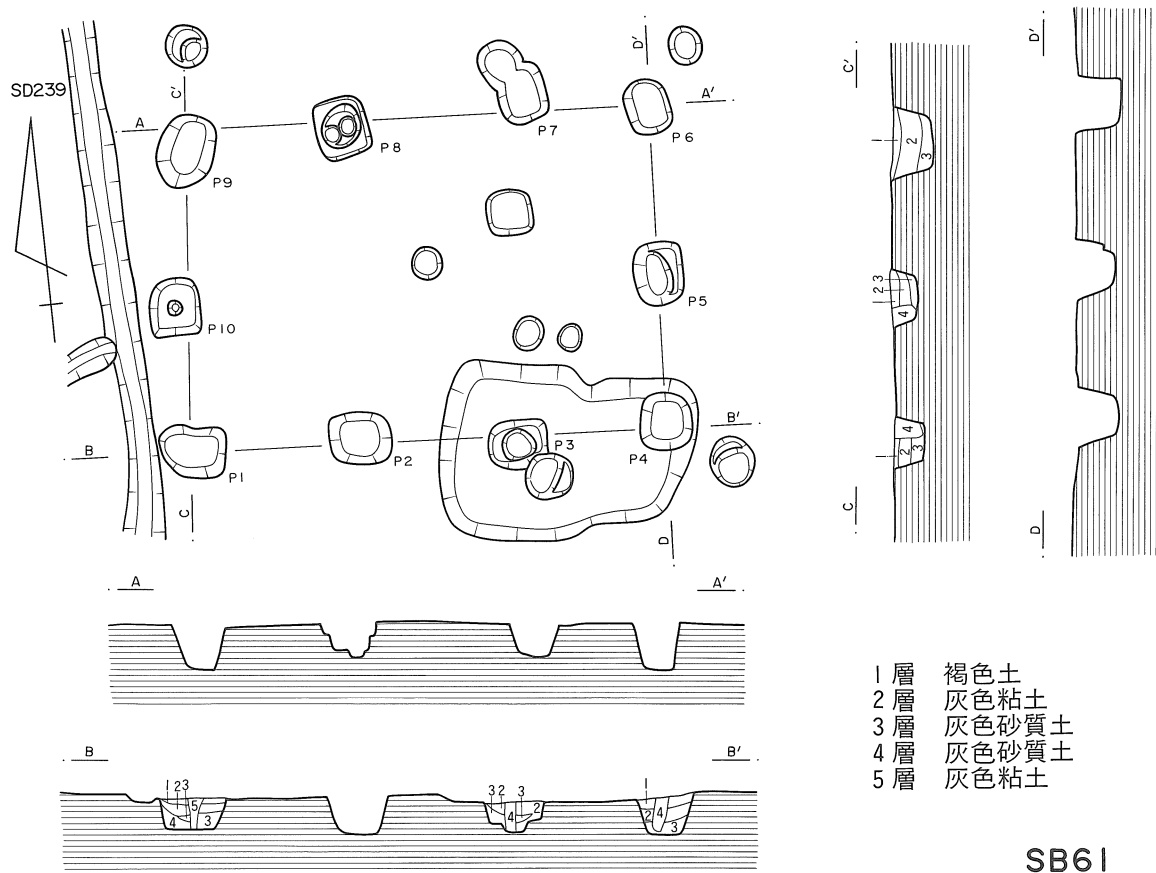
SB59



第28図 SB57・SB59実測図

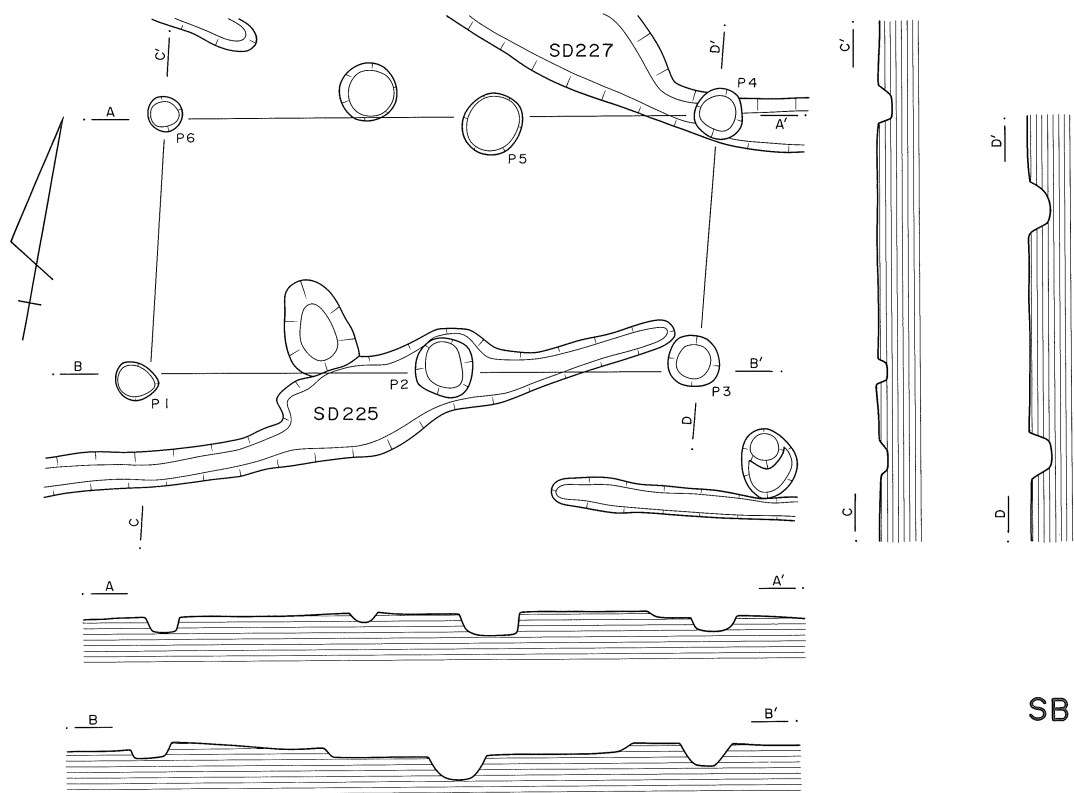


第29図 SB58実測図

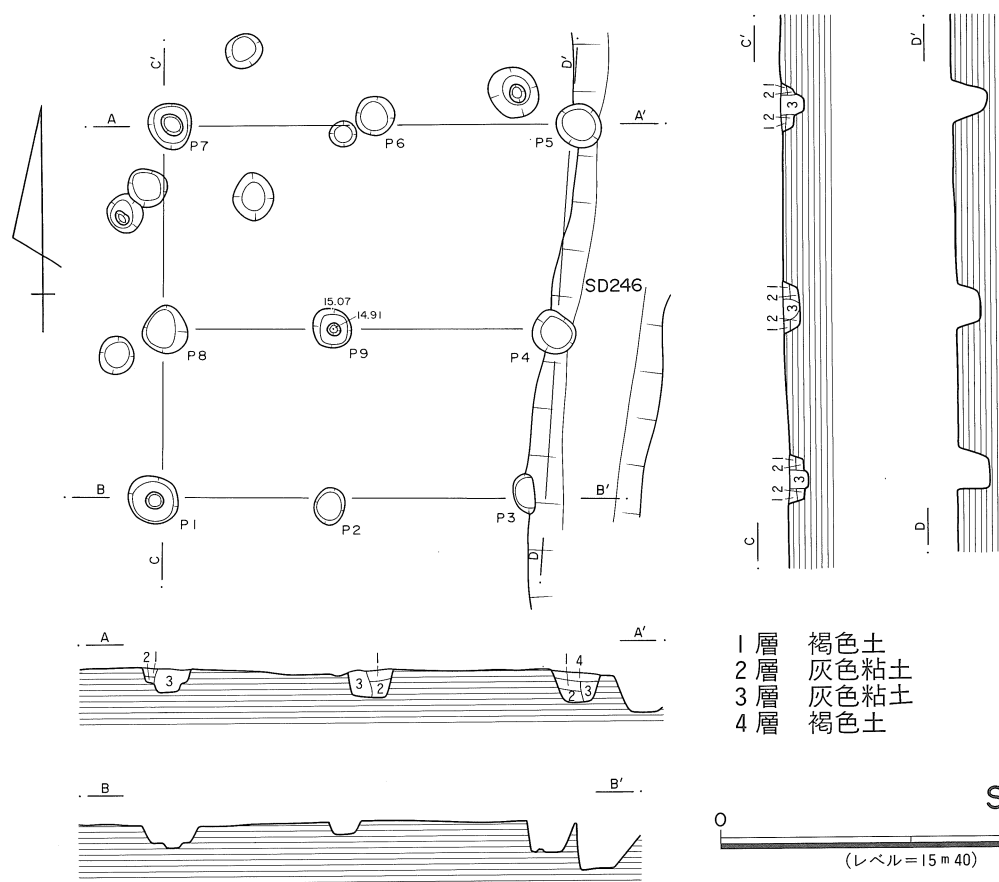


0 4.0m
(レベル = 15 m 40)

第30図 SB61・SB62実測図

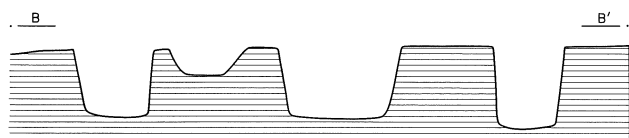
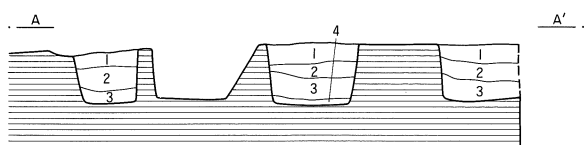
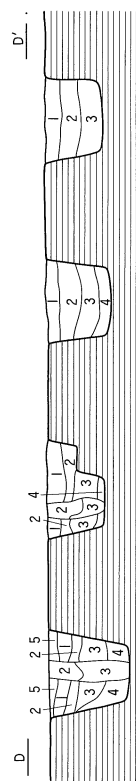
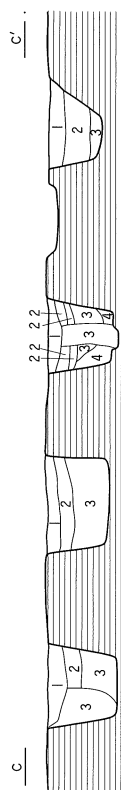
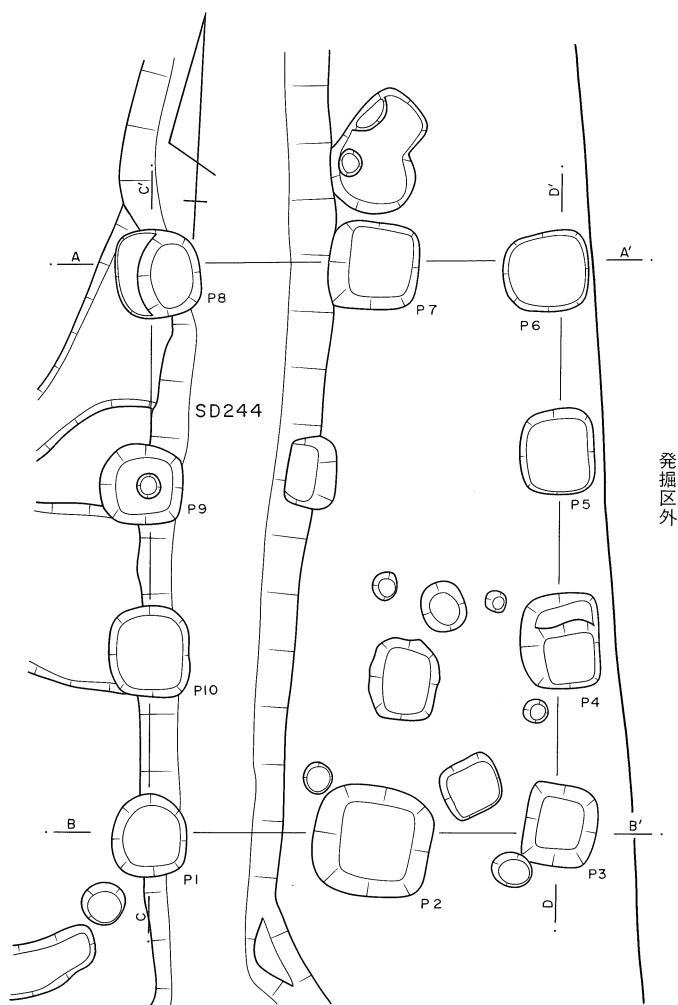


SB63



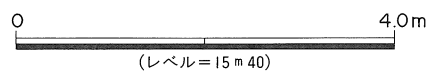
SB65

第31図 SB63・SB65実測図

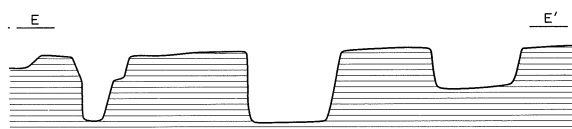
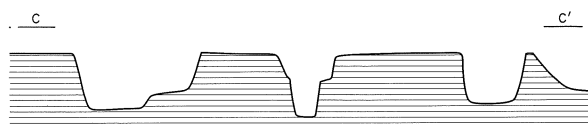
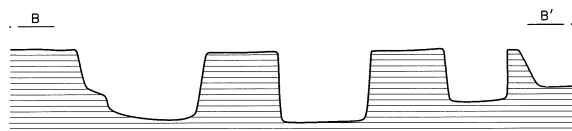
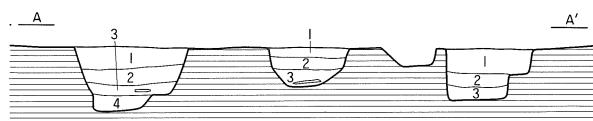
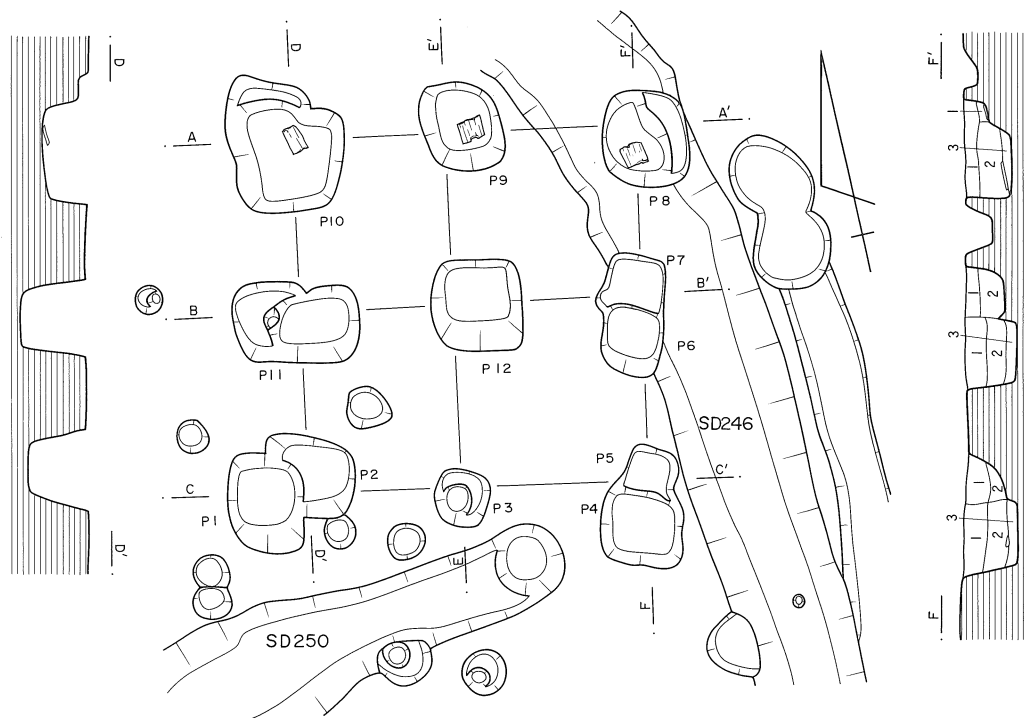


- 1層 褐色土
- 2層 褐色土
- 3層 灰色粘土
- 4層 灰色砂質土
- 5層 褐色土

SB64

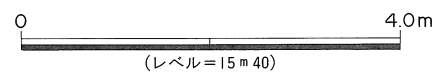


第32図 SB64実測図

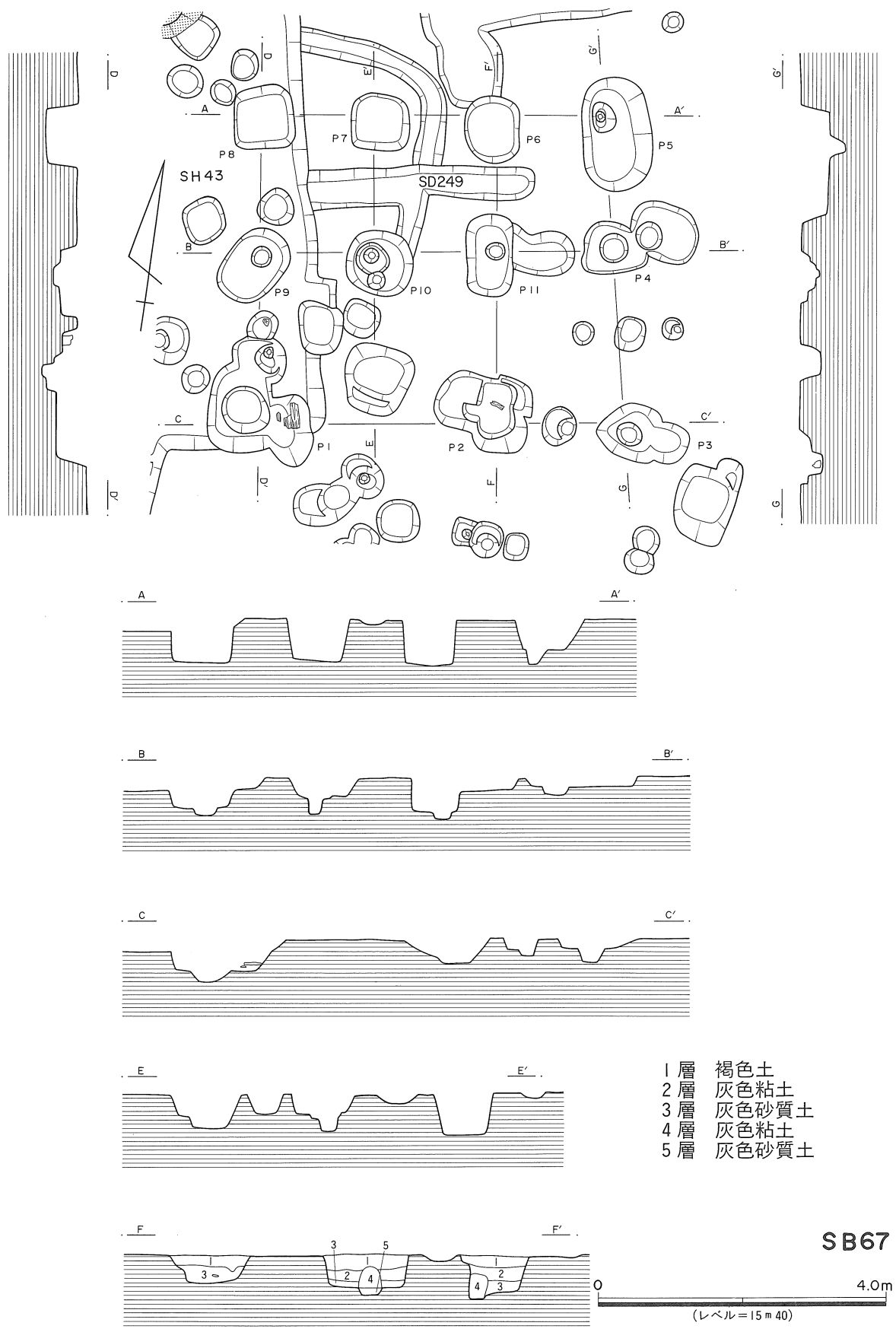


- 1 層 灰色土
- 2 層 灰色粘土
- 3 層 灰色砂質土
- 4 層 灰色砂質土

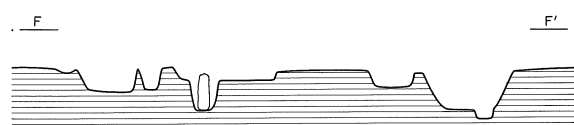
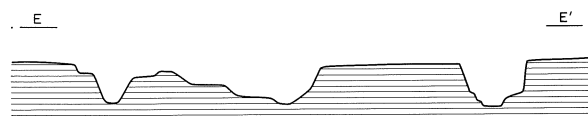
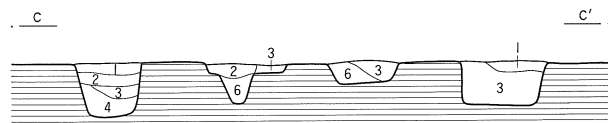
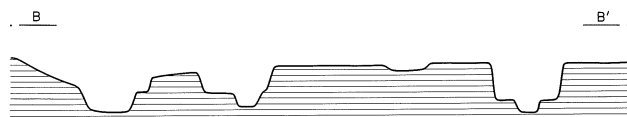
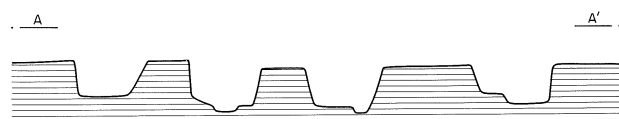
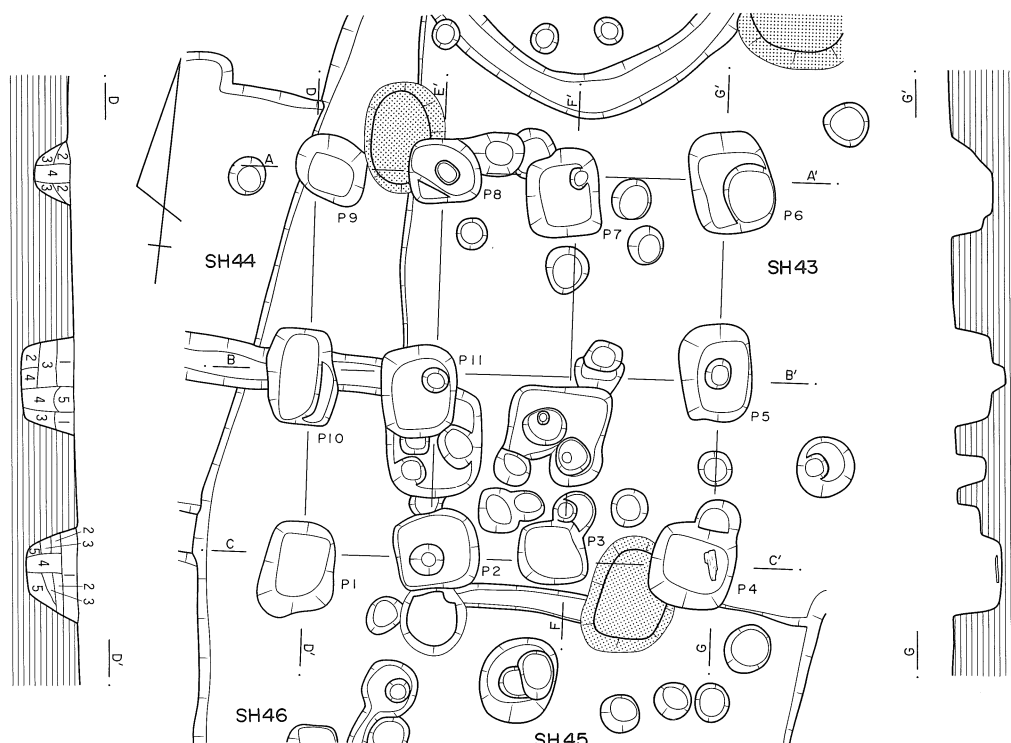
SB66



第33図 SB66実測図



第34図 SB67実測図

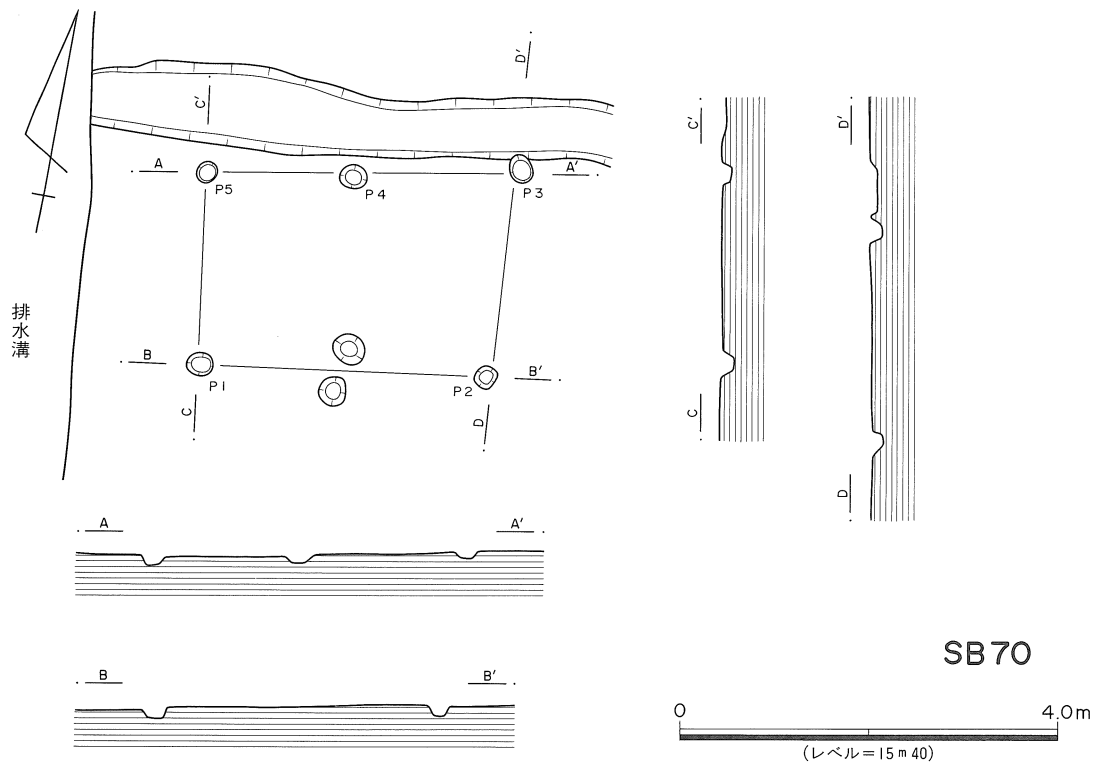
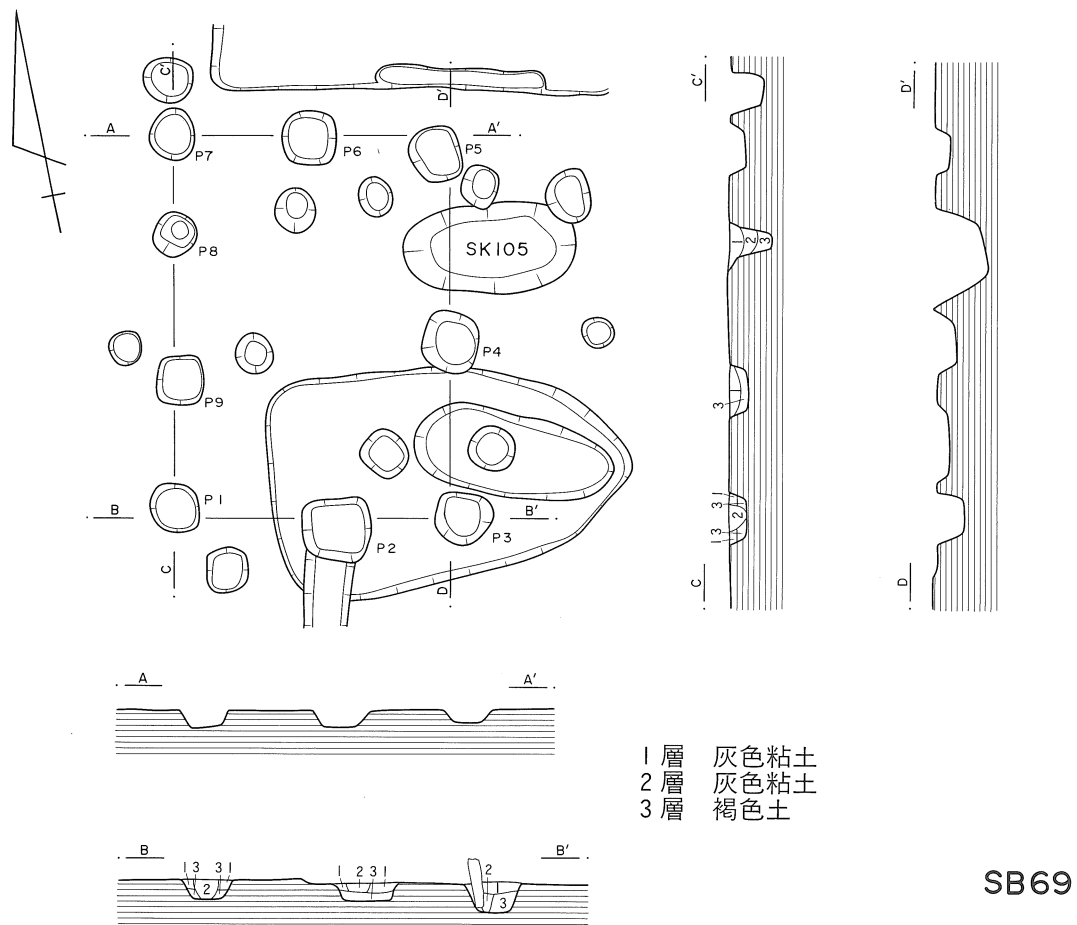


- | | |
|-----|------|
| 1 層 | 褐色土 |
| 2 層 | 灰色粘土 |
| 3 層 | 灰色粘土 |
| 4 層 | 灰色粘土 |
| 5 層 | 灰色粘土 |
| 6 層 | 灰色粘土 |
| 7 層 | 暗褐色土 |
| 8 層 | 褐色土 |

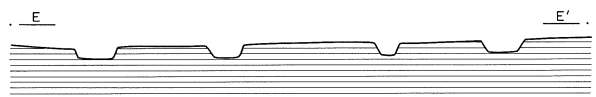
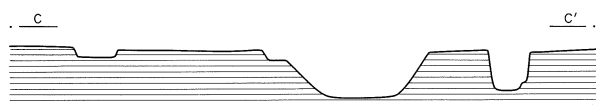
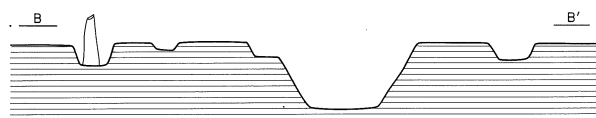
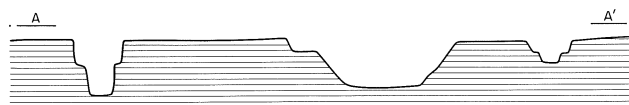
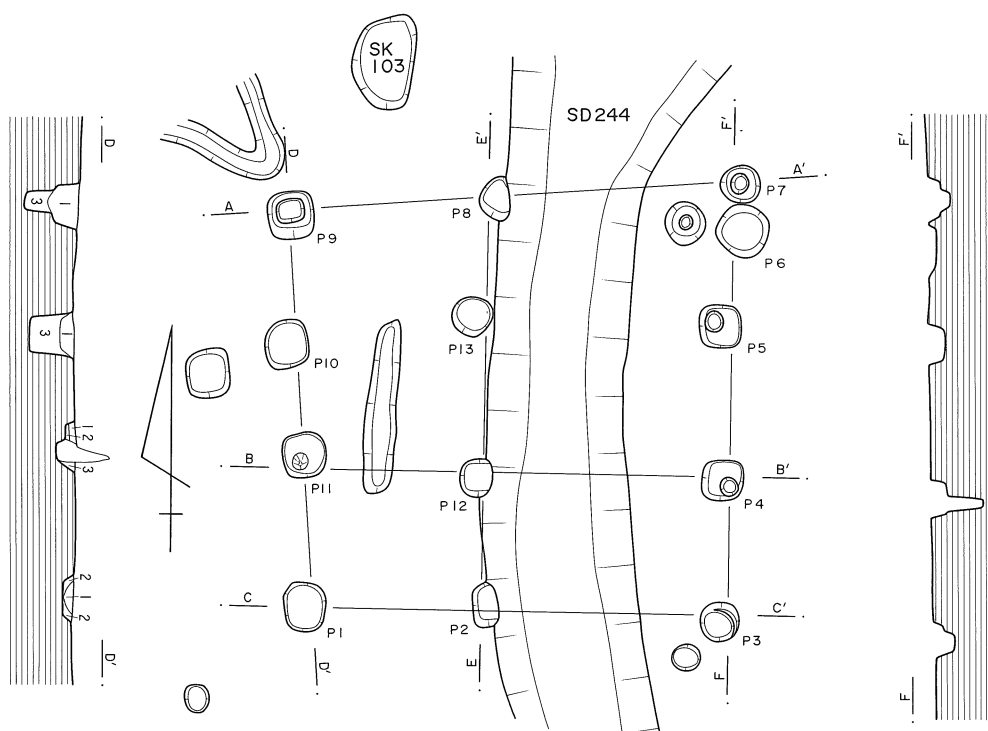
SB68

0 4.0m
(レベル = 15 m 40)

第35図 SB68実測図

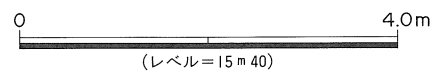


第36図 SB69・SB70実測図

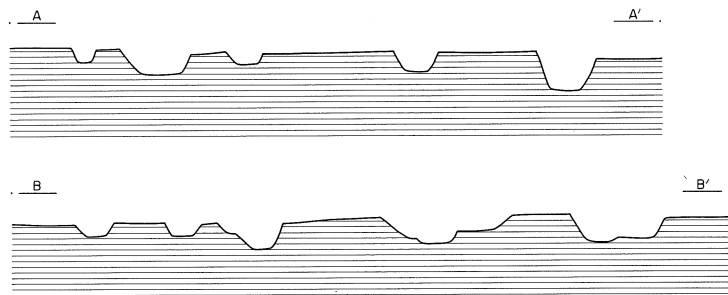
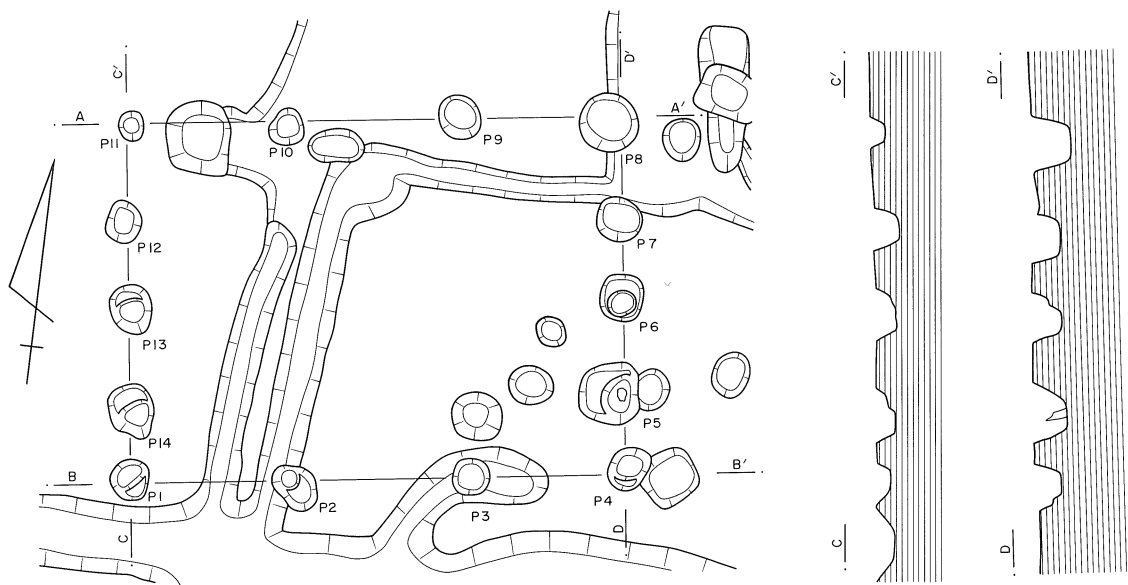


- 1層 褐色土
- 2層 褐色土
- 3層 灰色粘土

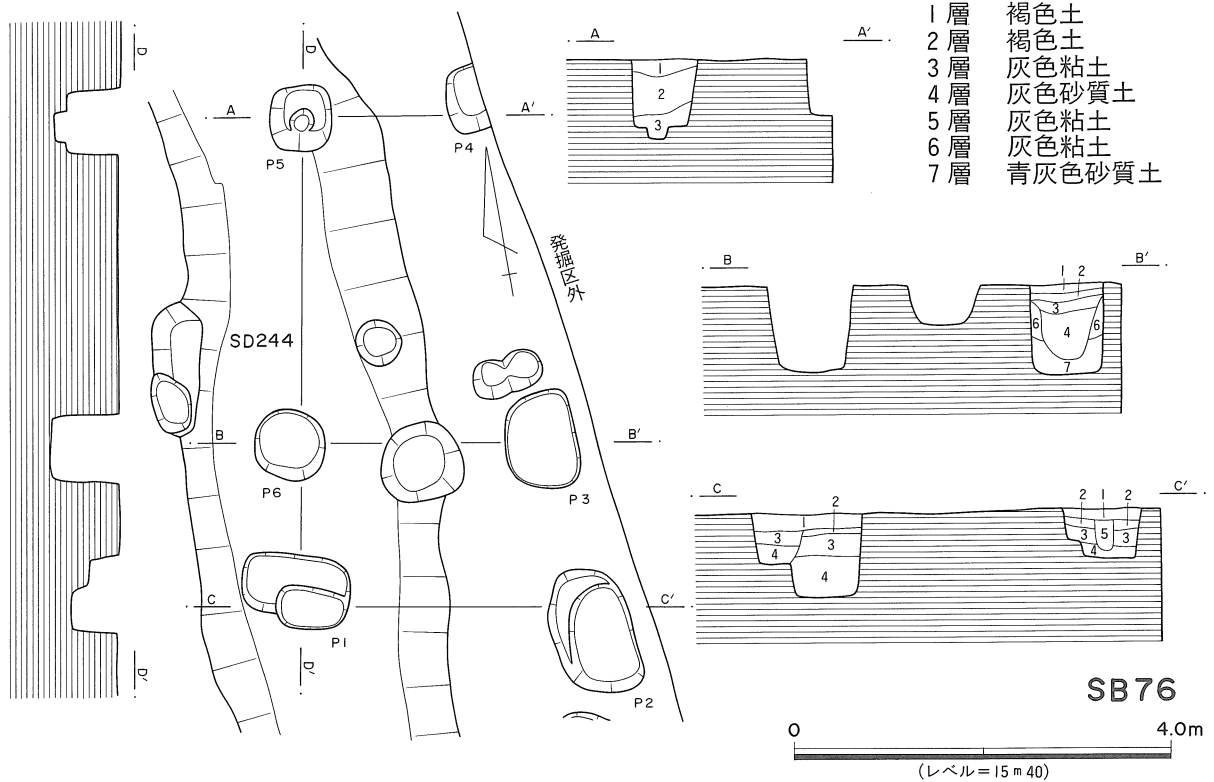
SB71



第37図 SB71実測図

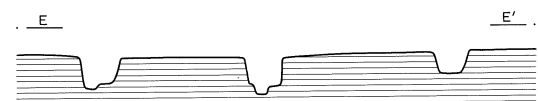
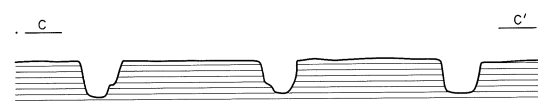
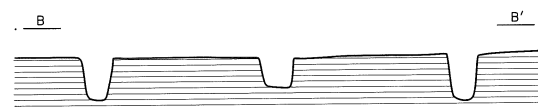
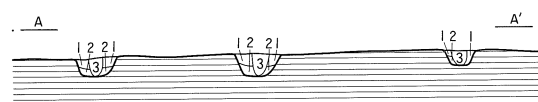
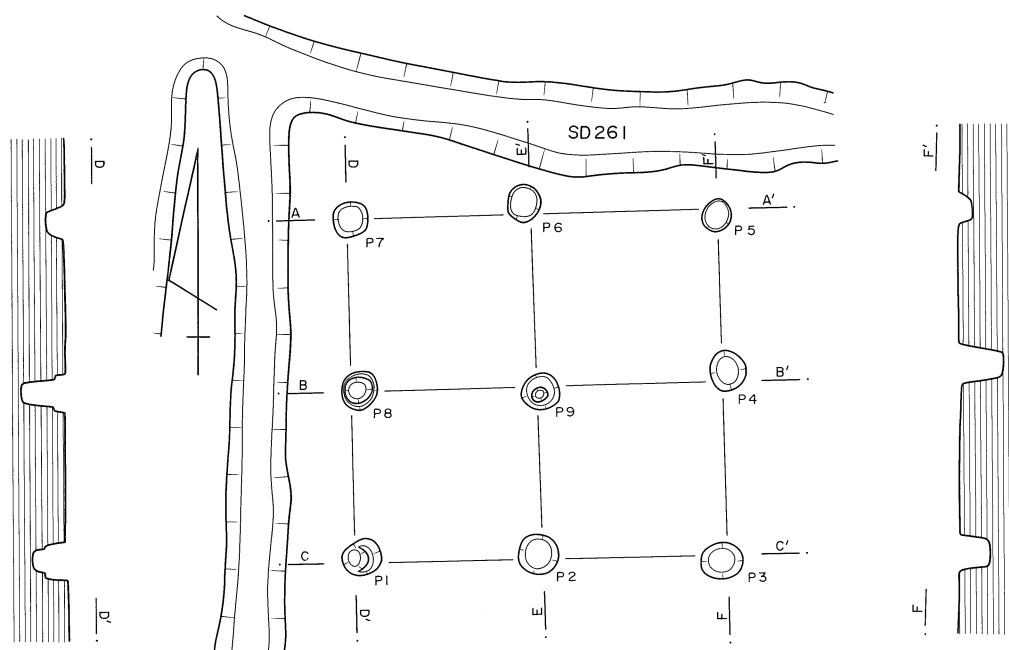


SB72



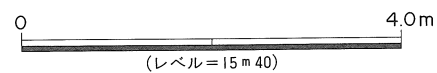
SB76

第38図 SB72・SB76実測図

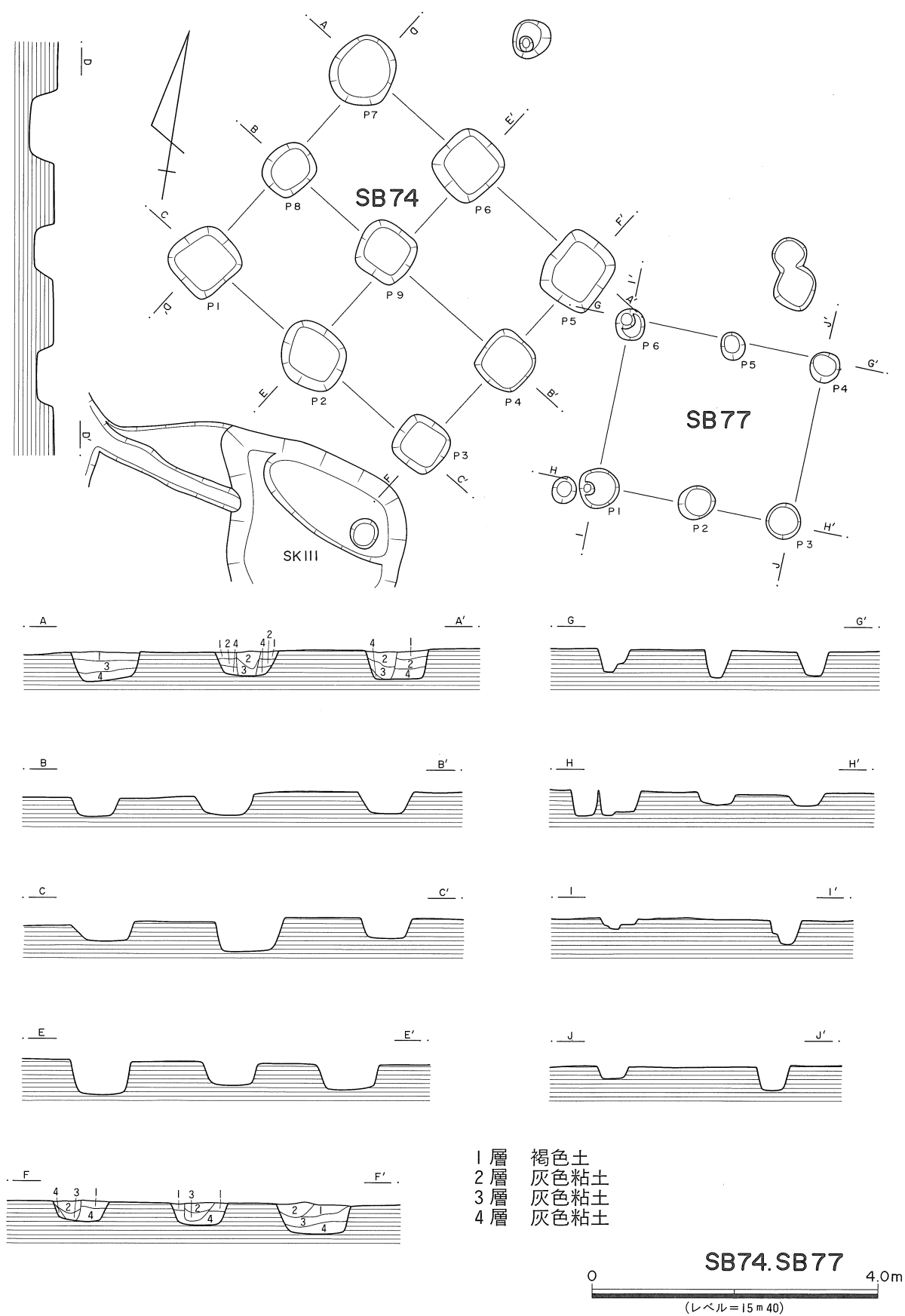


- 1 層 灰色粘土
- 2 層 褐色土
- 3 層 灰色粘土

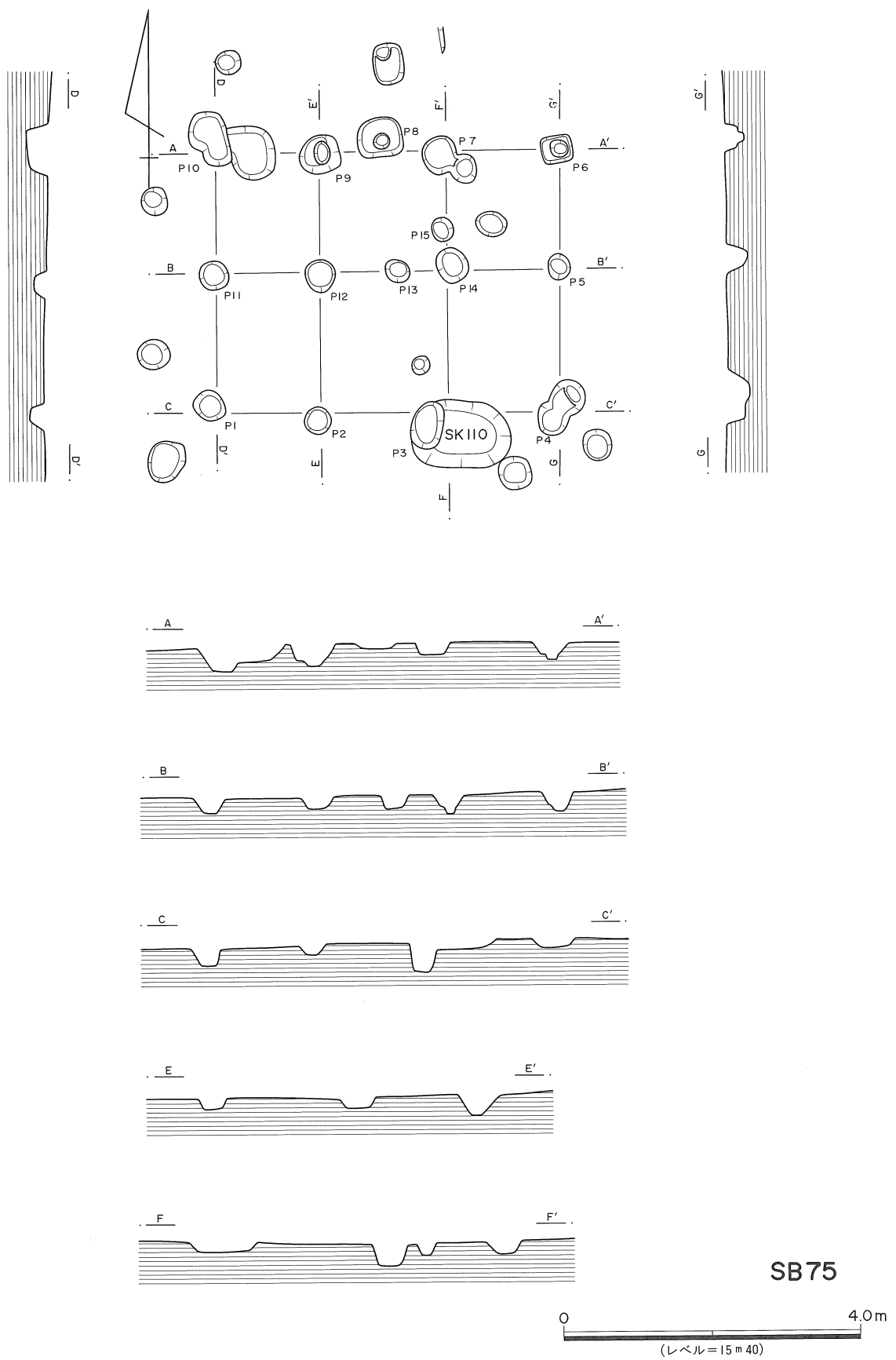
SB73



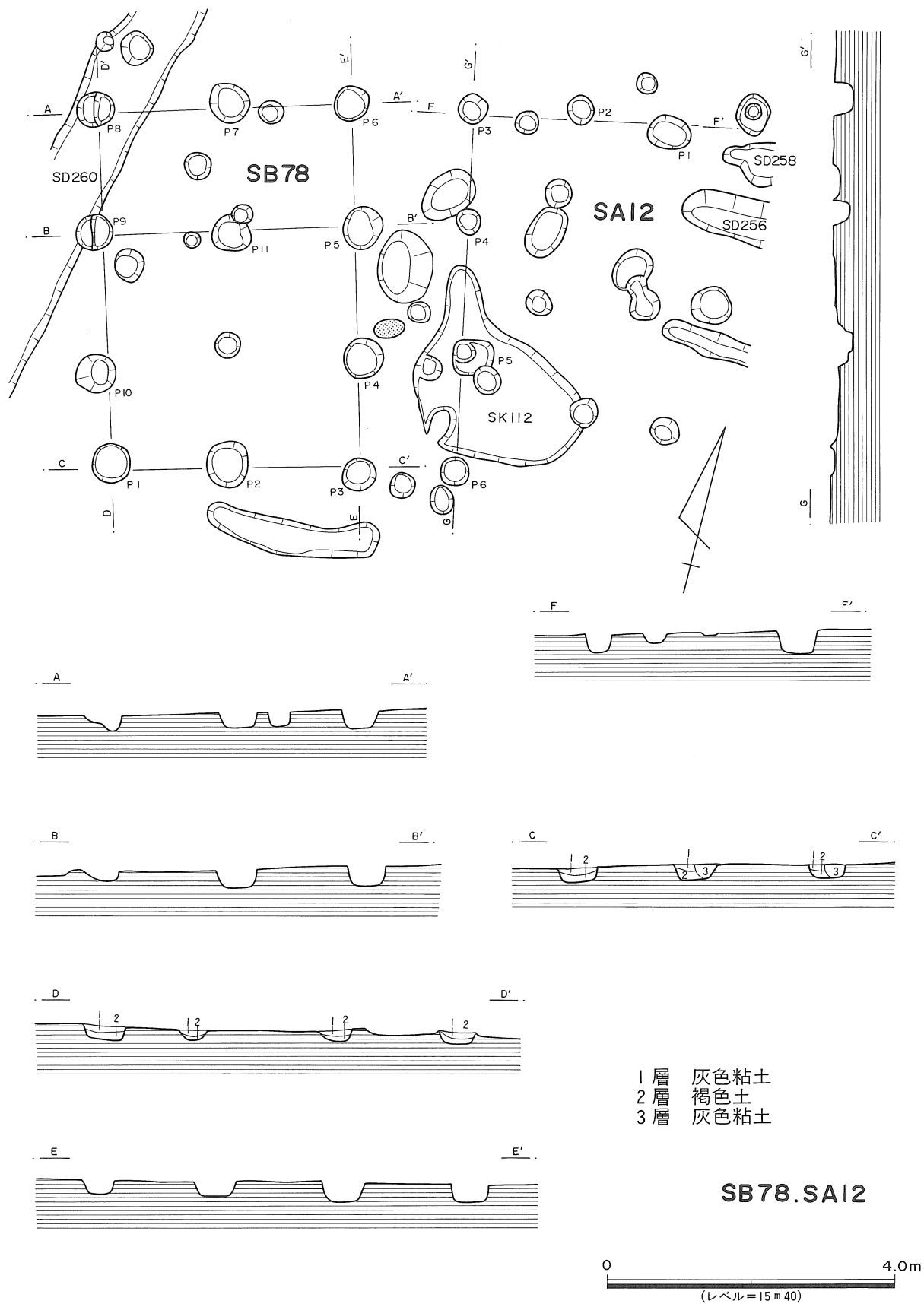
第39図 SB73実測図



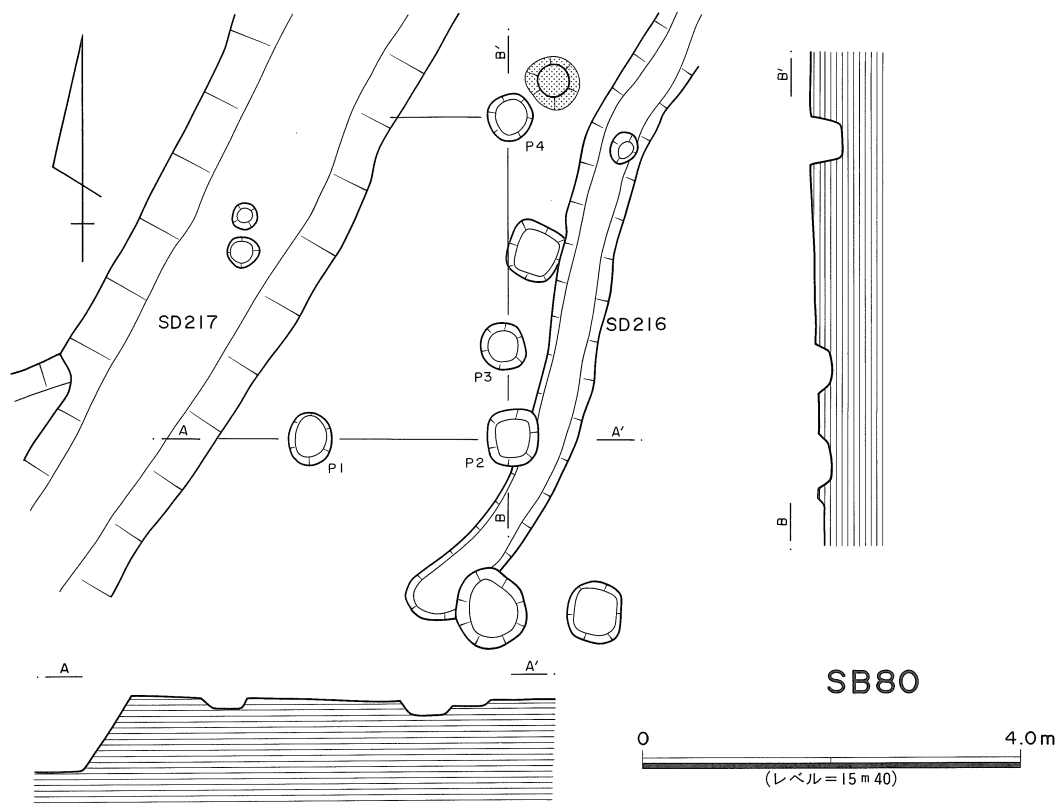
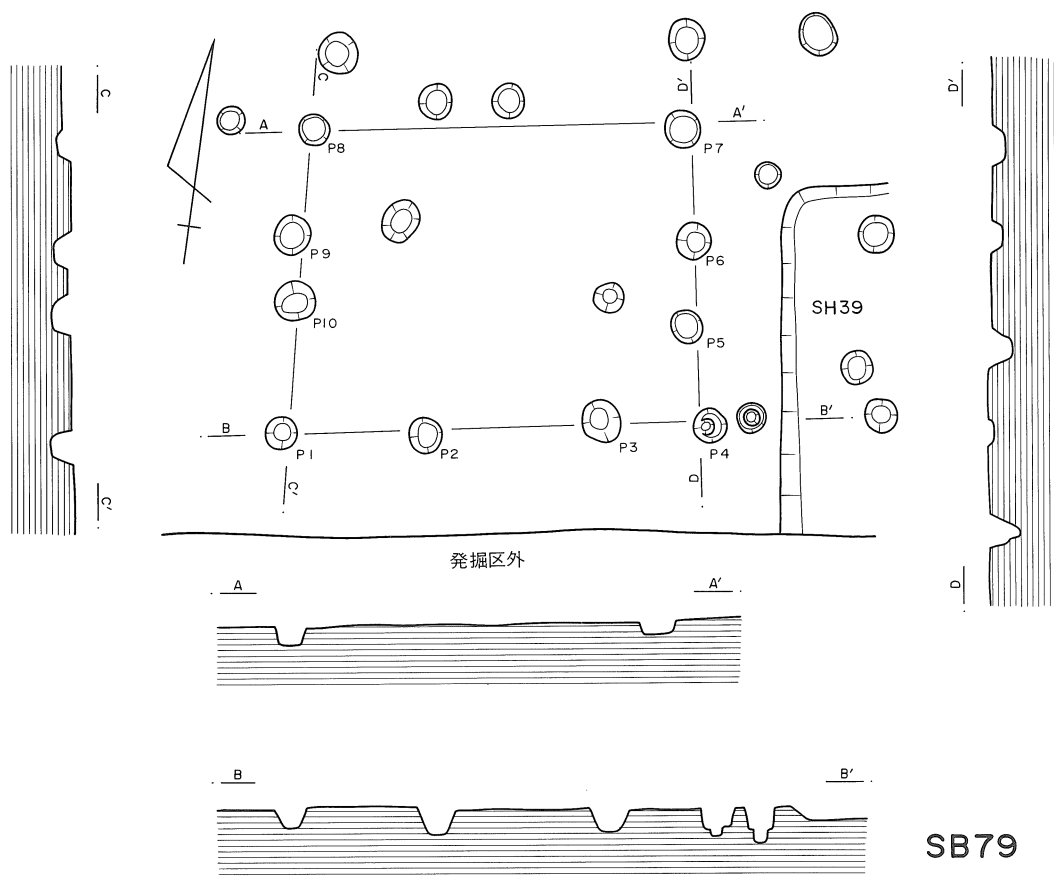
第40図 SB74・SB77実測図



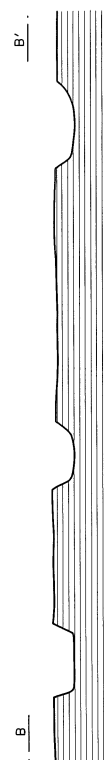
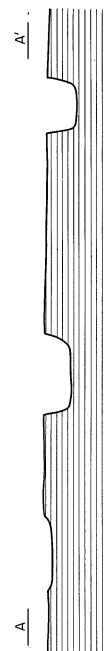
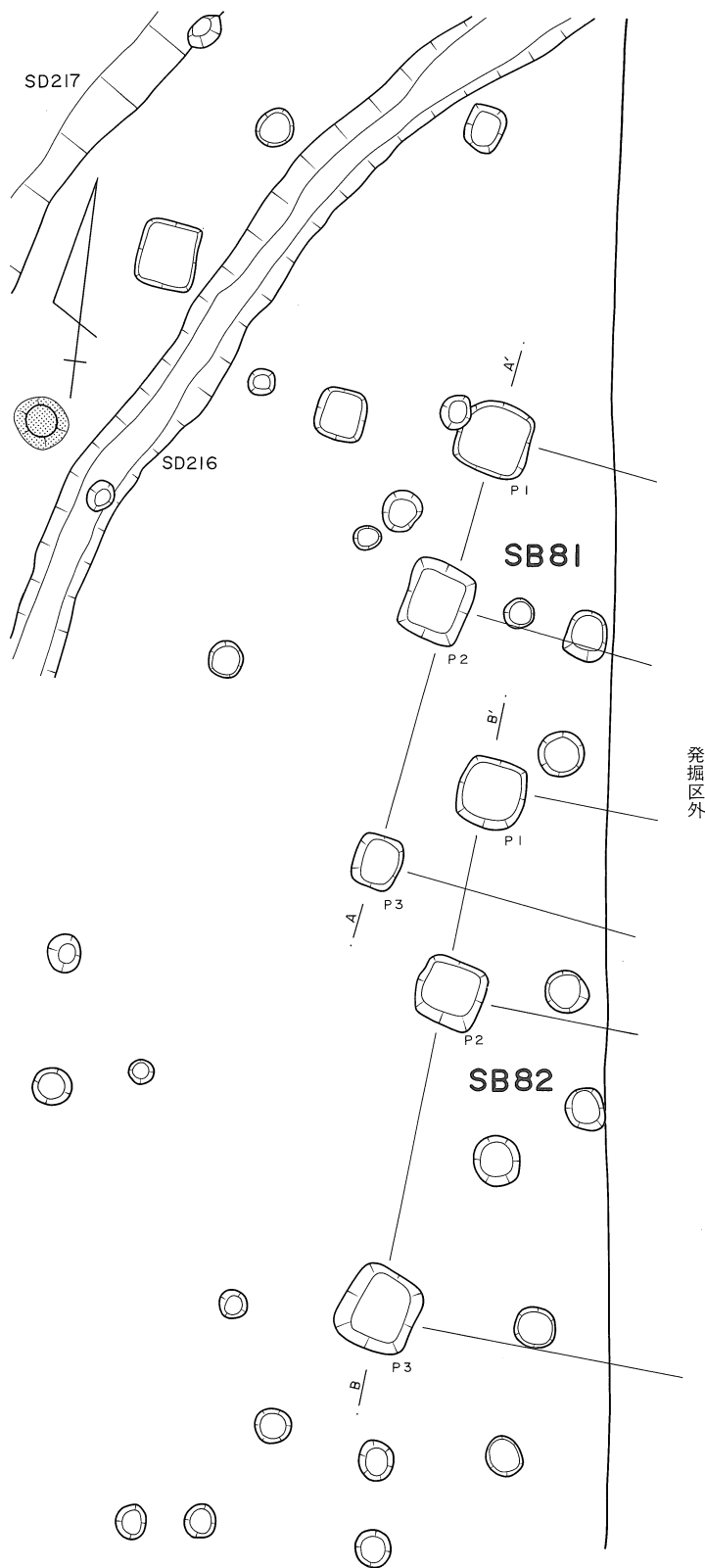
第41図 SB75実測図



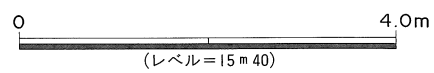
第42図 SB78・SA12実測図



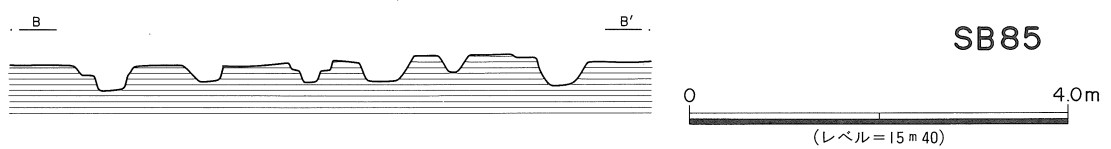
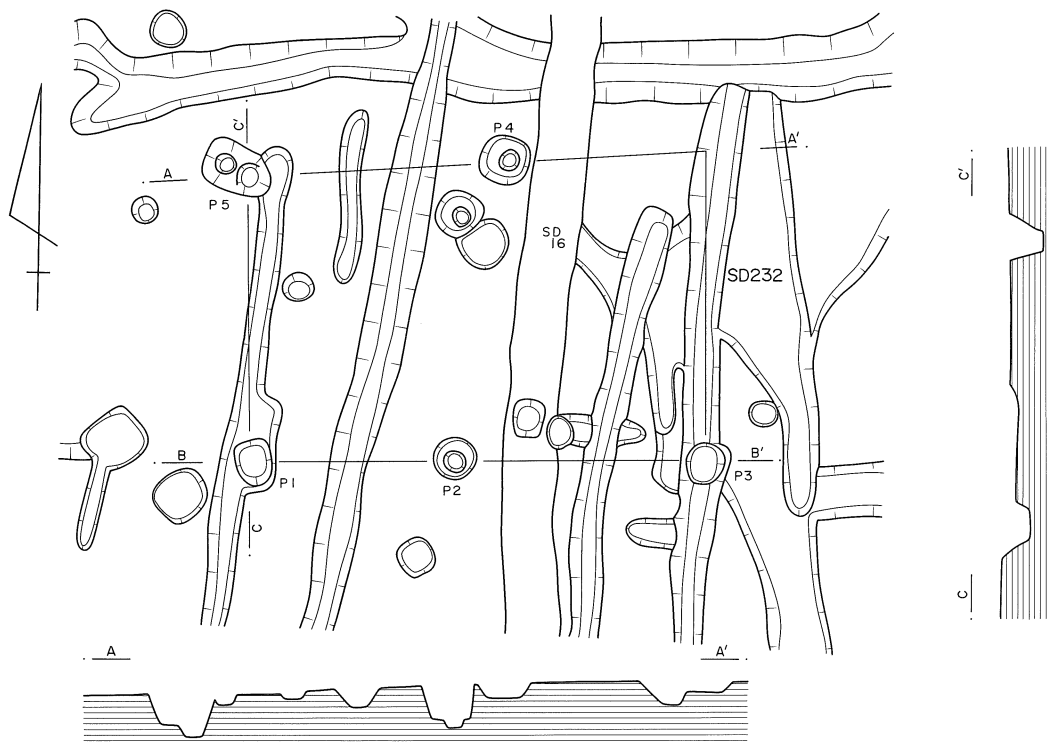
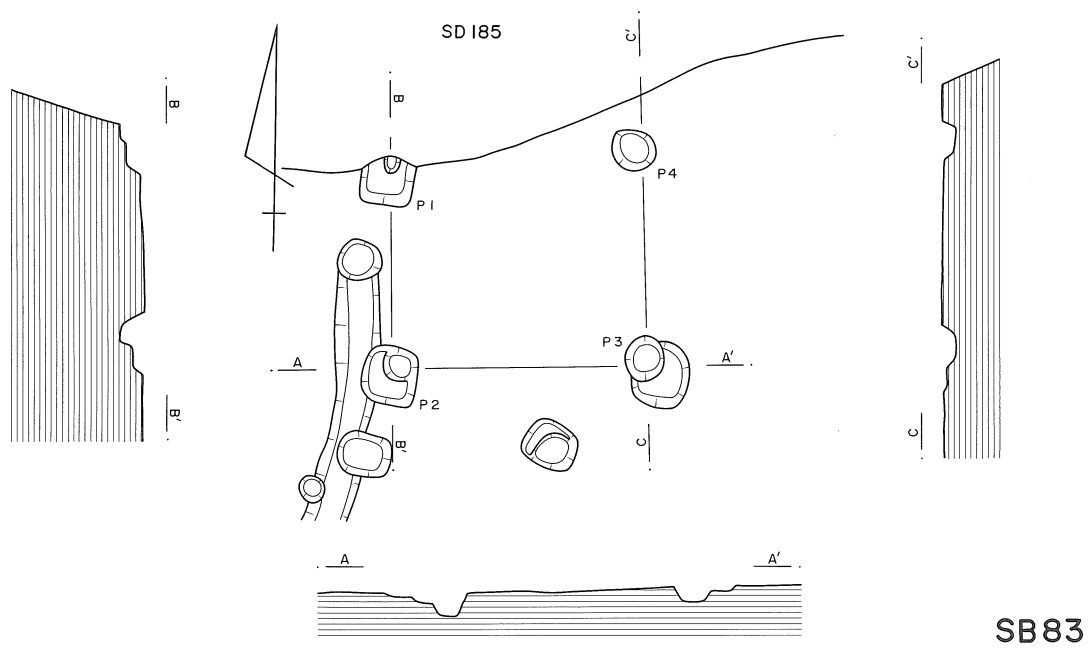
第43図 SB79・SB80実測図



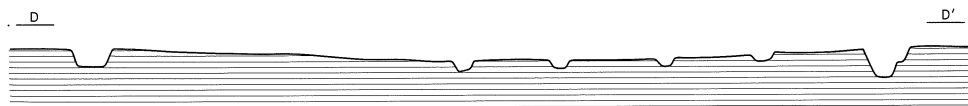
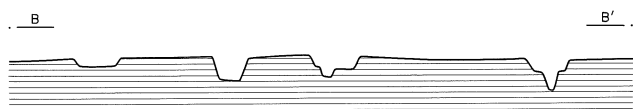
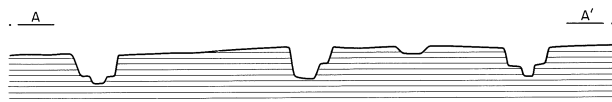
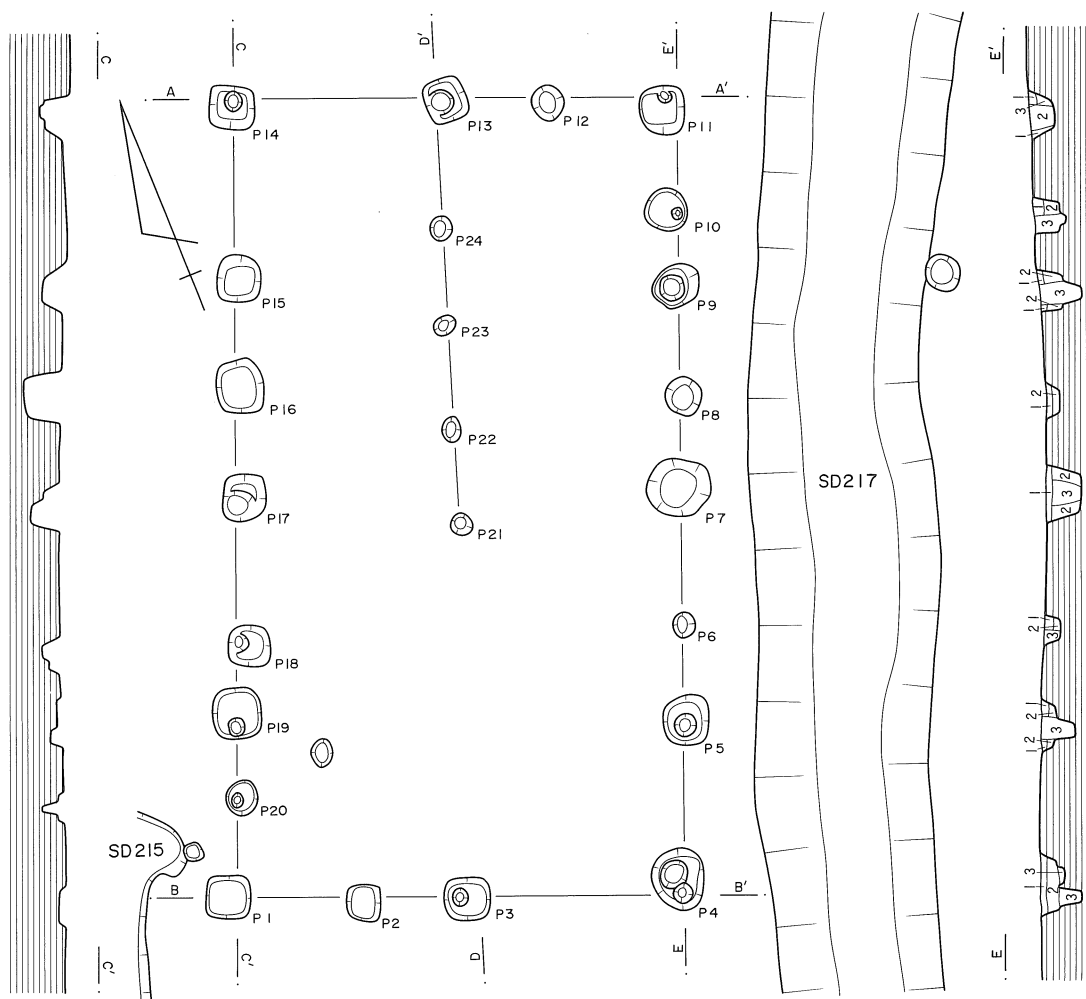
SB81
SB82



第44図 SB81・SB82実測図

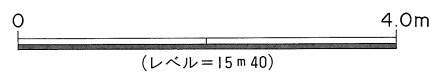


第45図 SB83・SB85実測図

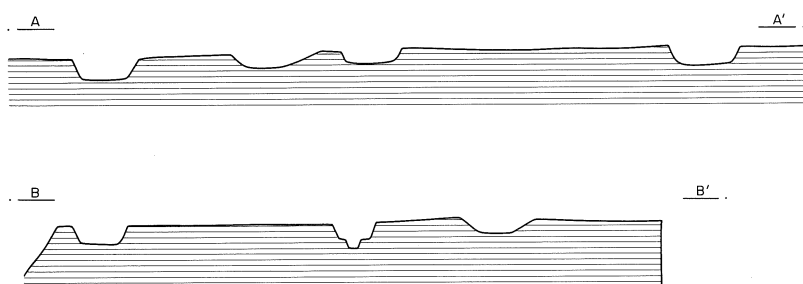
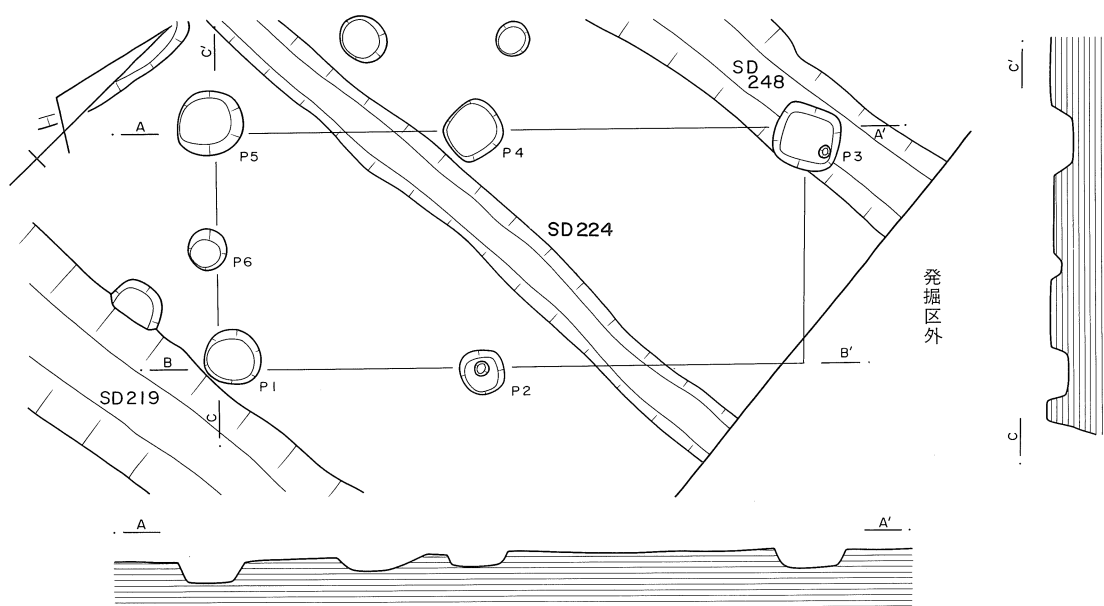


- 1層 褐色土
- 2層 灰色砂質土
- 3層 灰色粘土

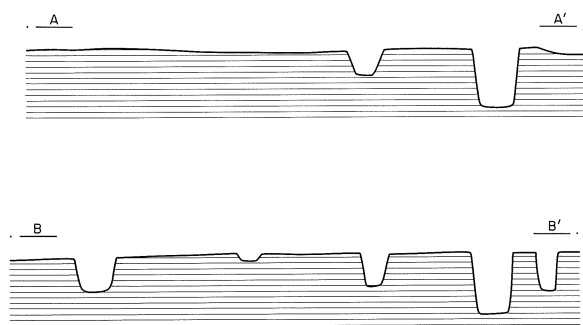
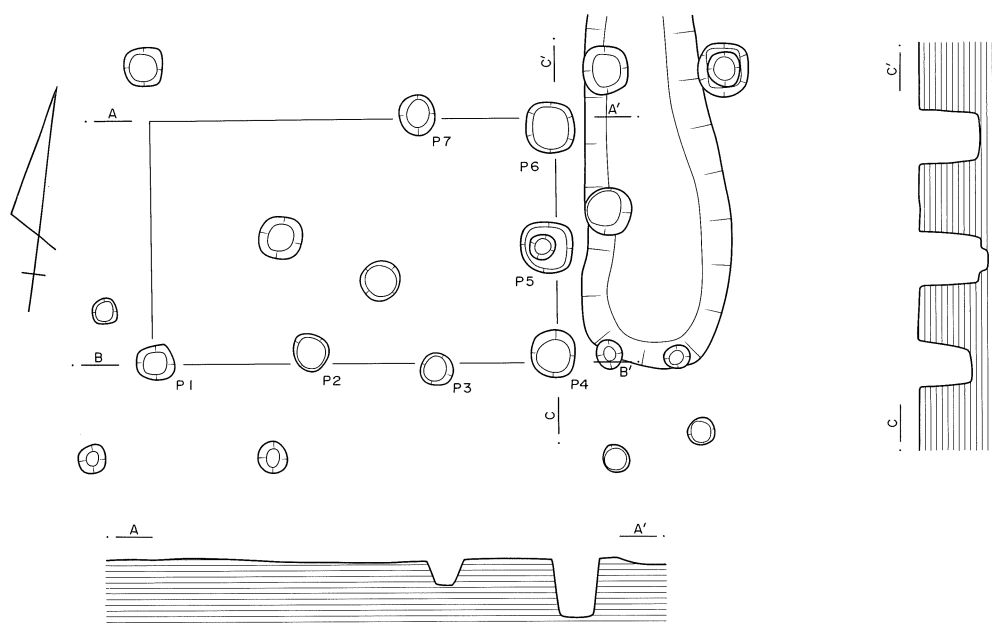
SB84



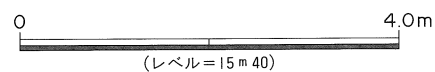
第46図 SB84実測図



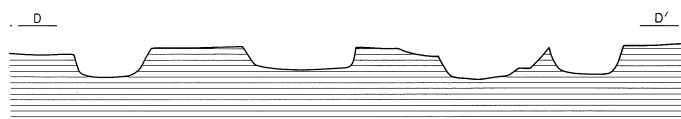
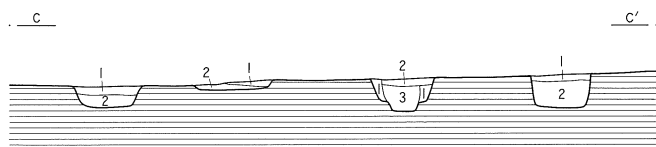
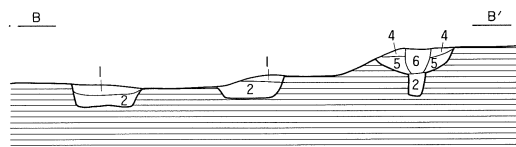
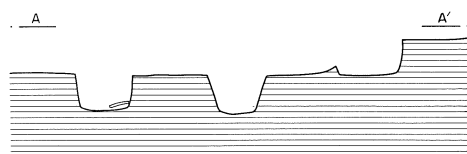
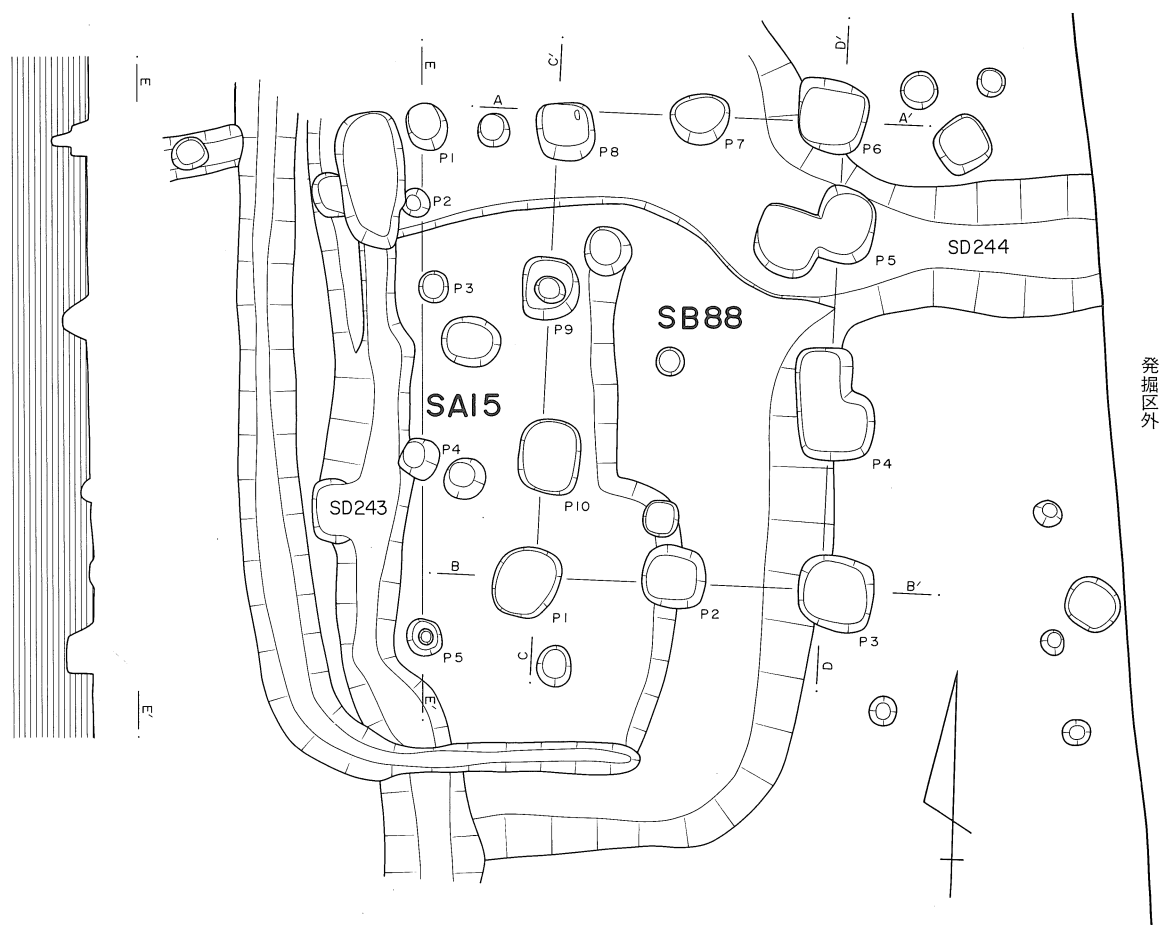
SB86



SB87

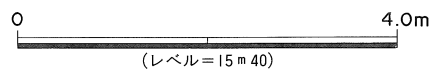


第47図 SB86・SB87実測図

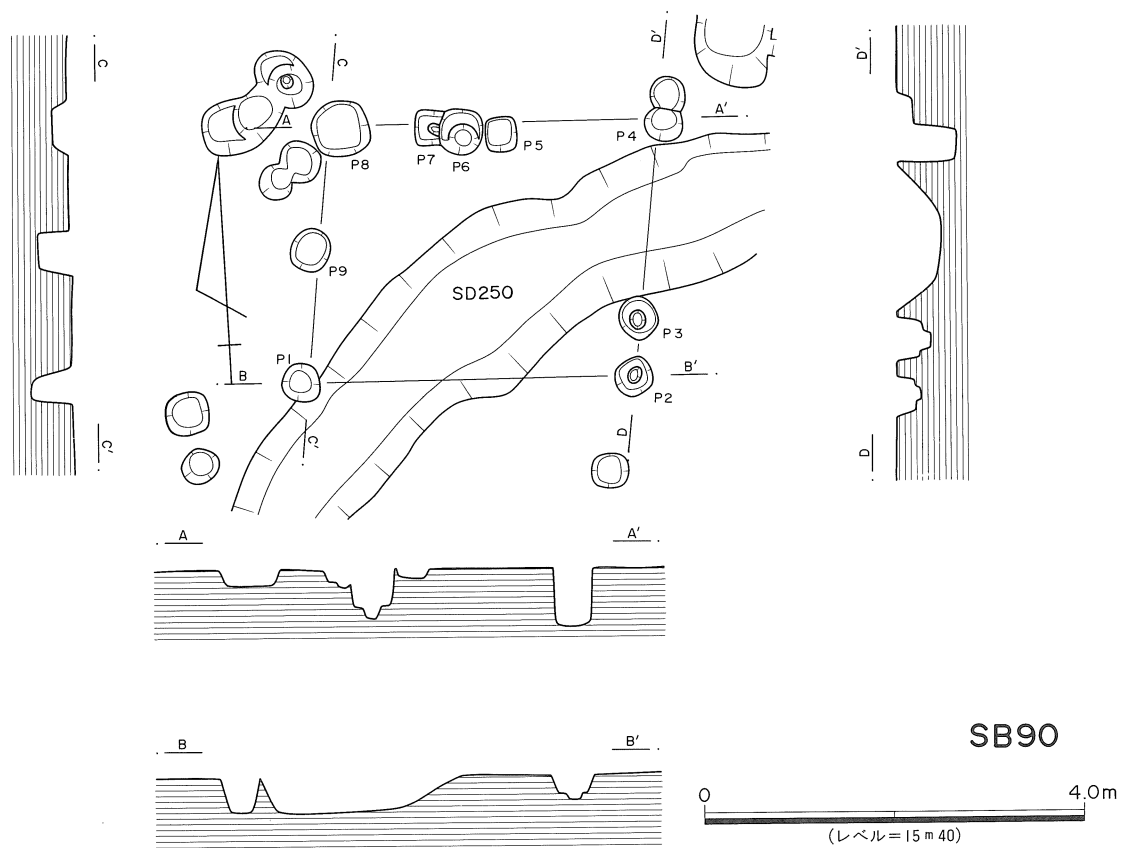
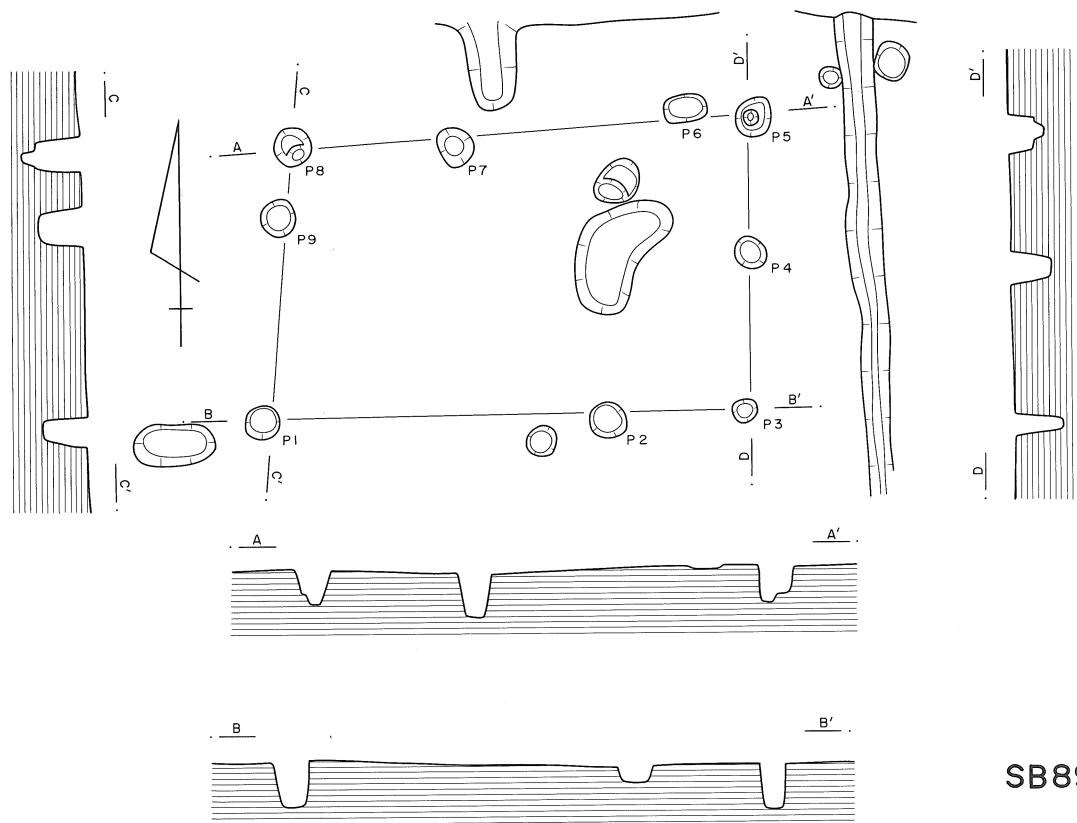


- 1 層 灰色粘土
- 2 層 明灰色粘土
- 3 層 灰色粘土
- 4 層 褐色土
- 5 層 褐色土
- 6 層 灰色粘土

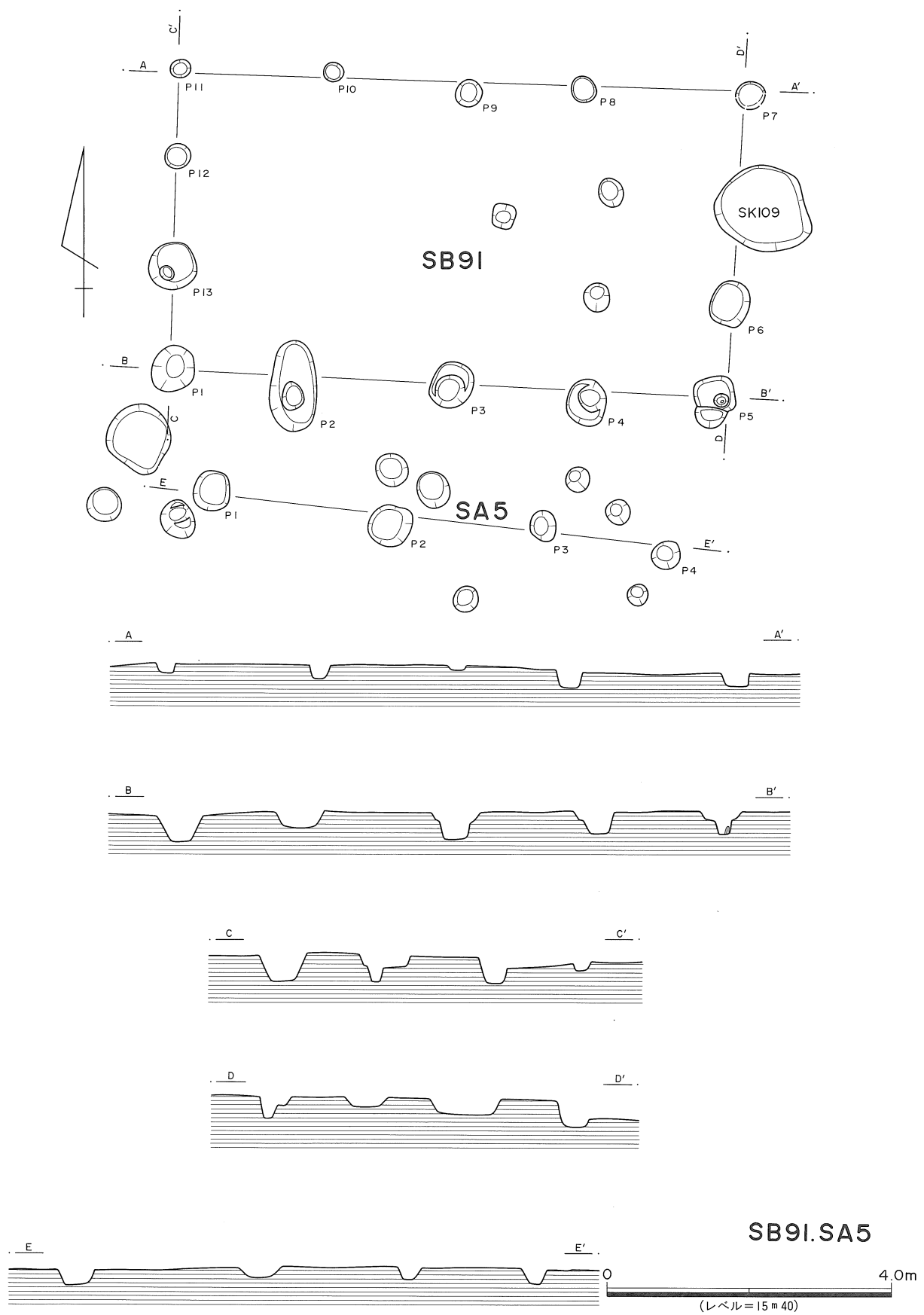
SB88.SA15



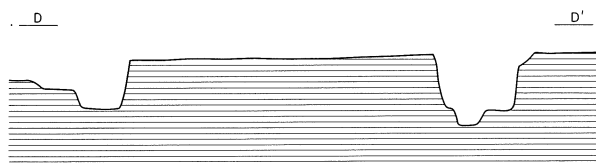
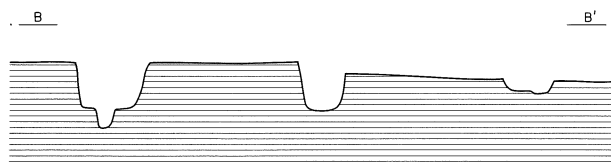
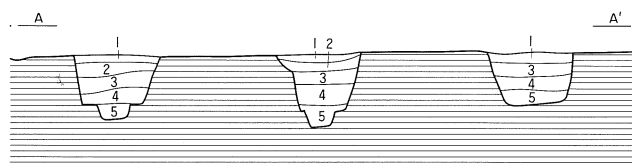
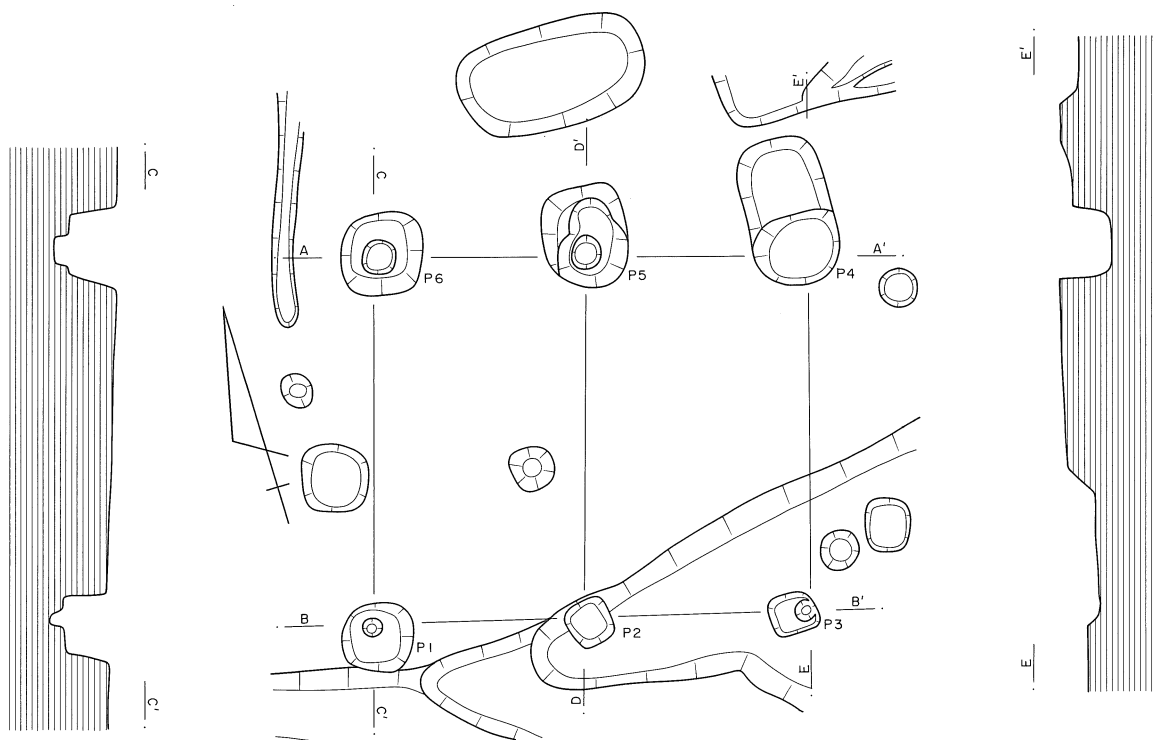
第48図 SB88・SA15実測図



第49図 SB89・SB90実測図

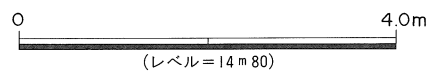


第50図 SB91・SA5 実測図

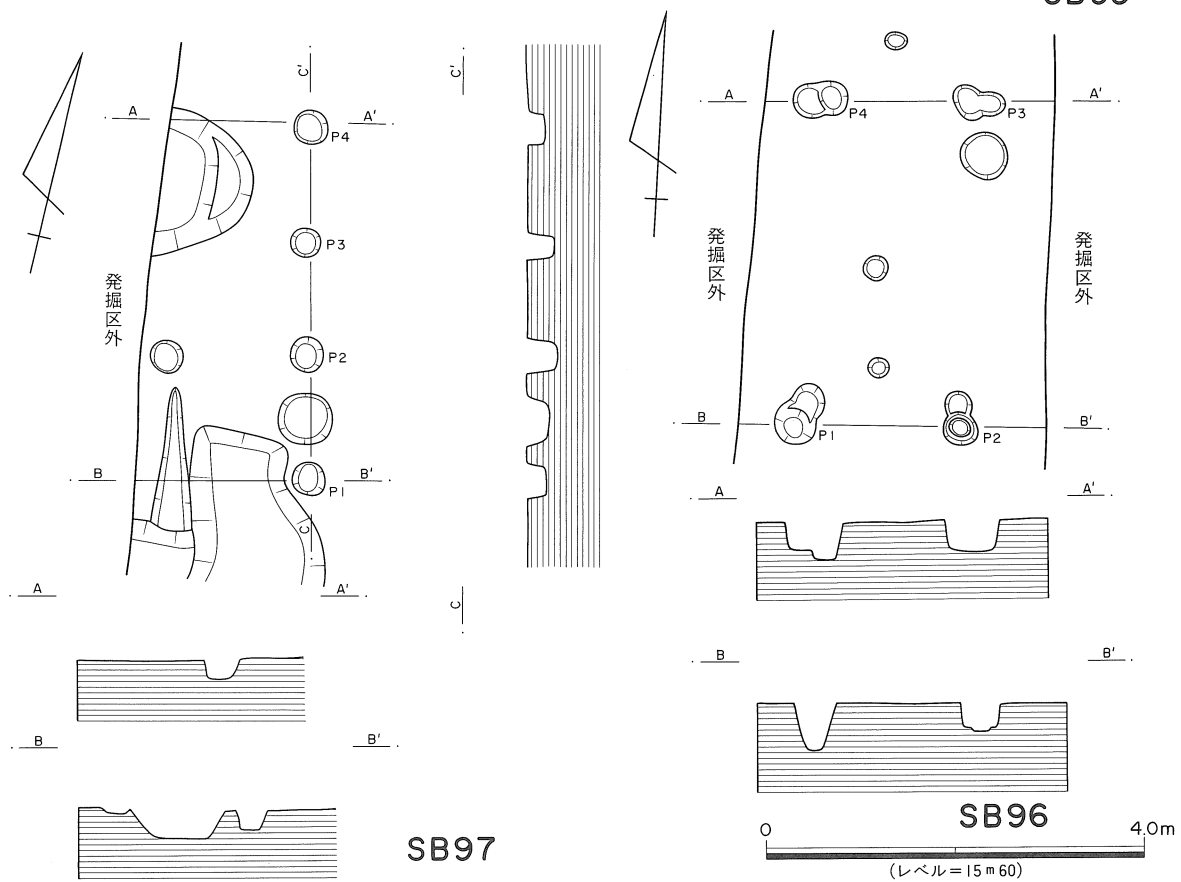
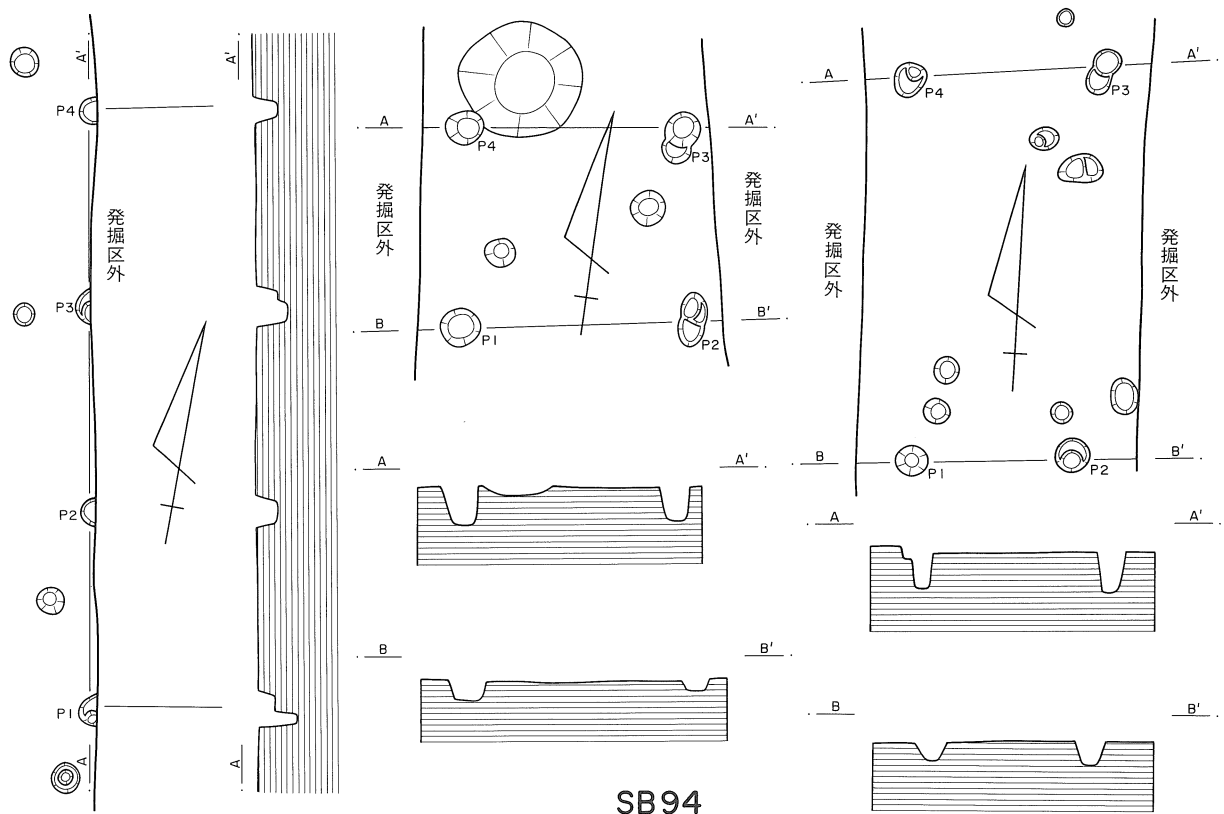


- 1層 灰色粘土
- 2層 灰色砂質土
- 3層 灰色粘土
- 4層 灰色粘土
- 5層 灰色粘土

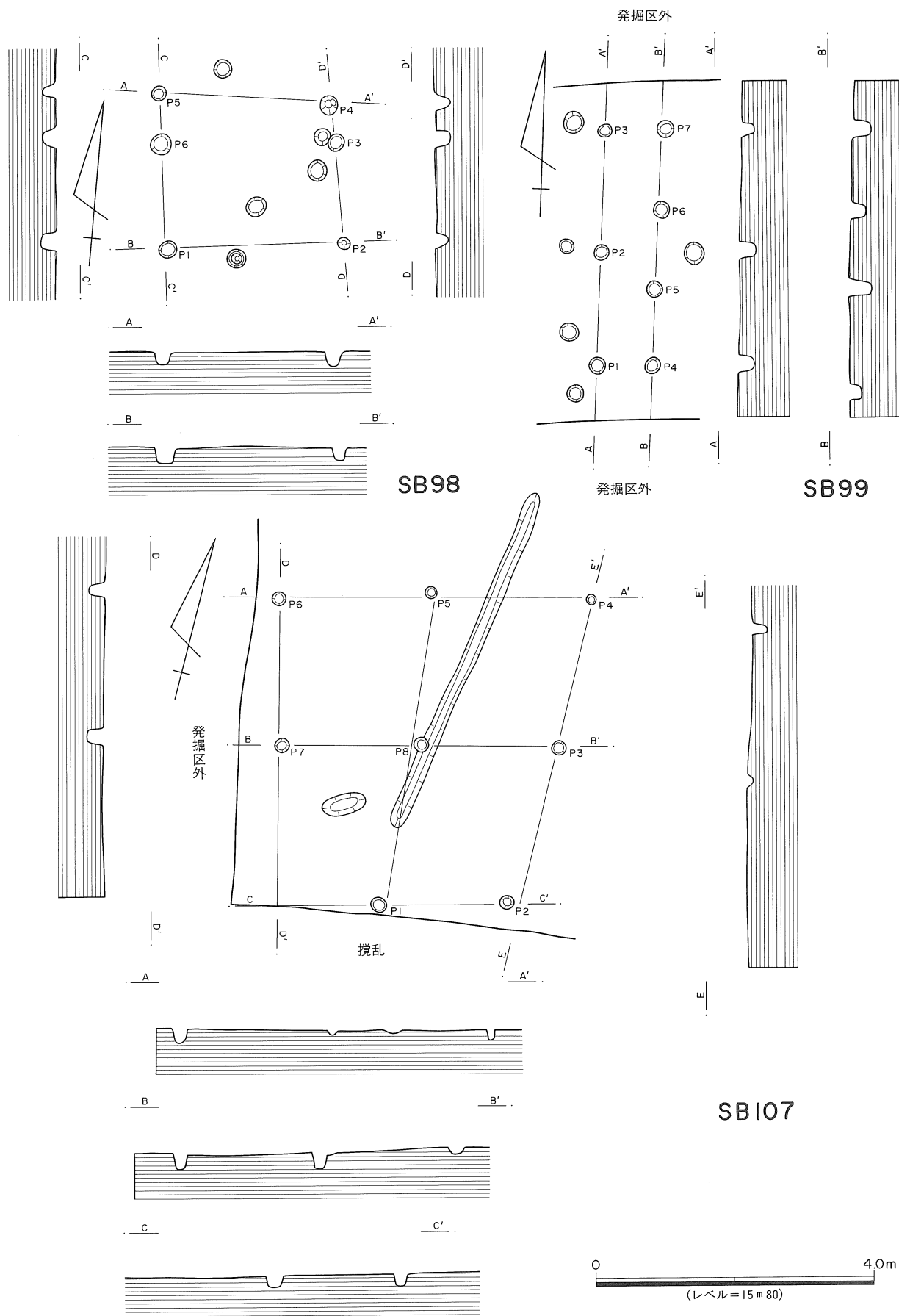
SB92



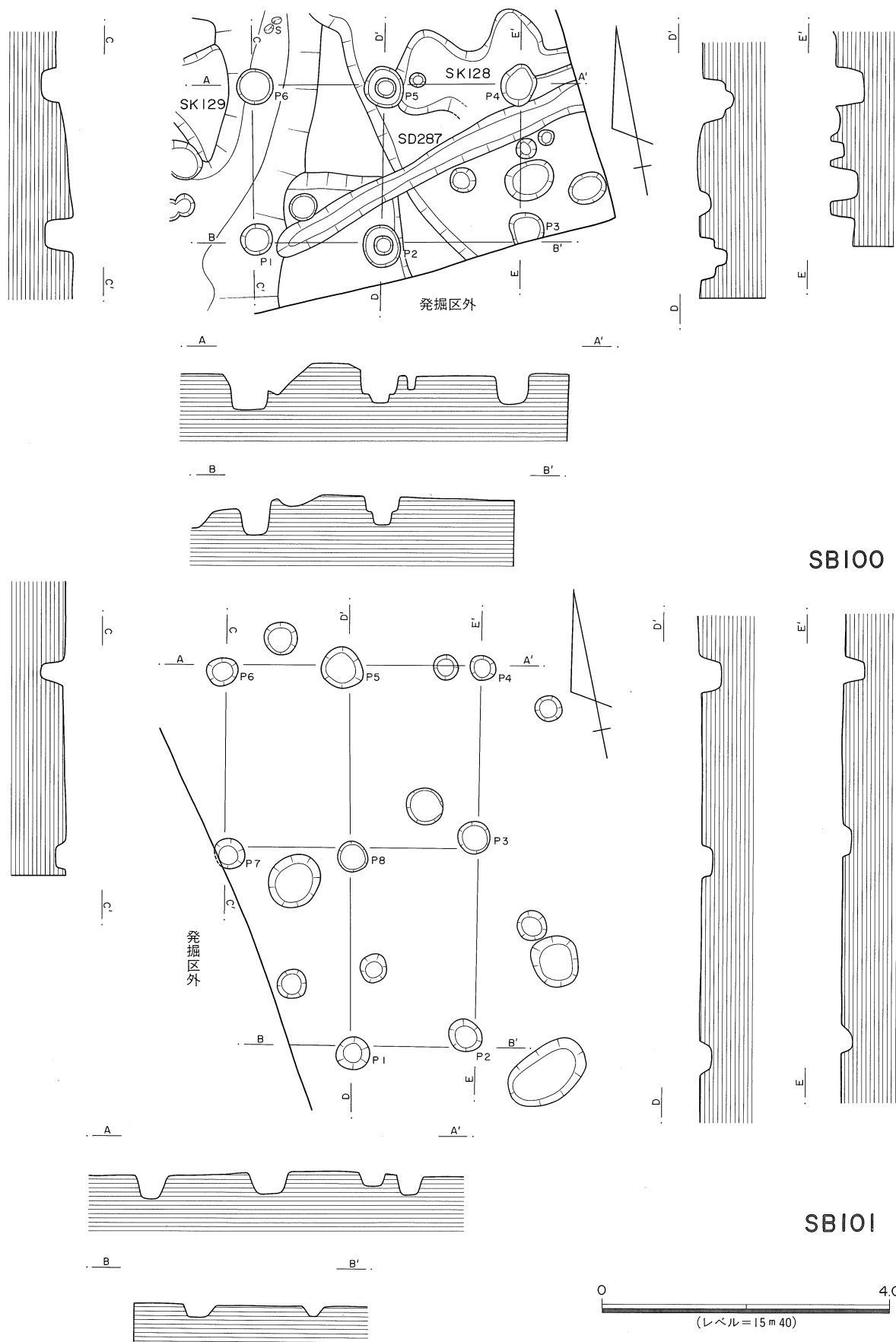
第51図 SB92実測図



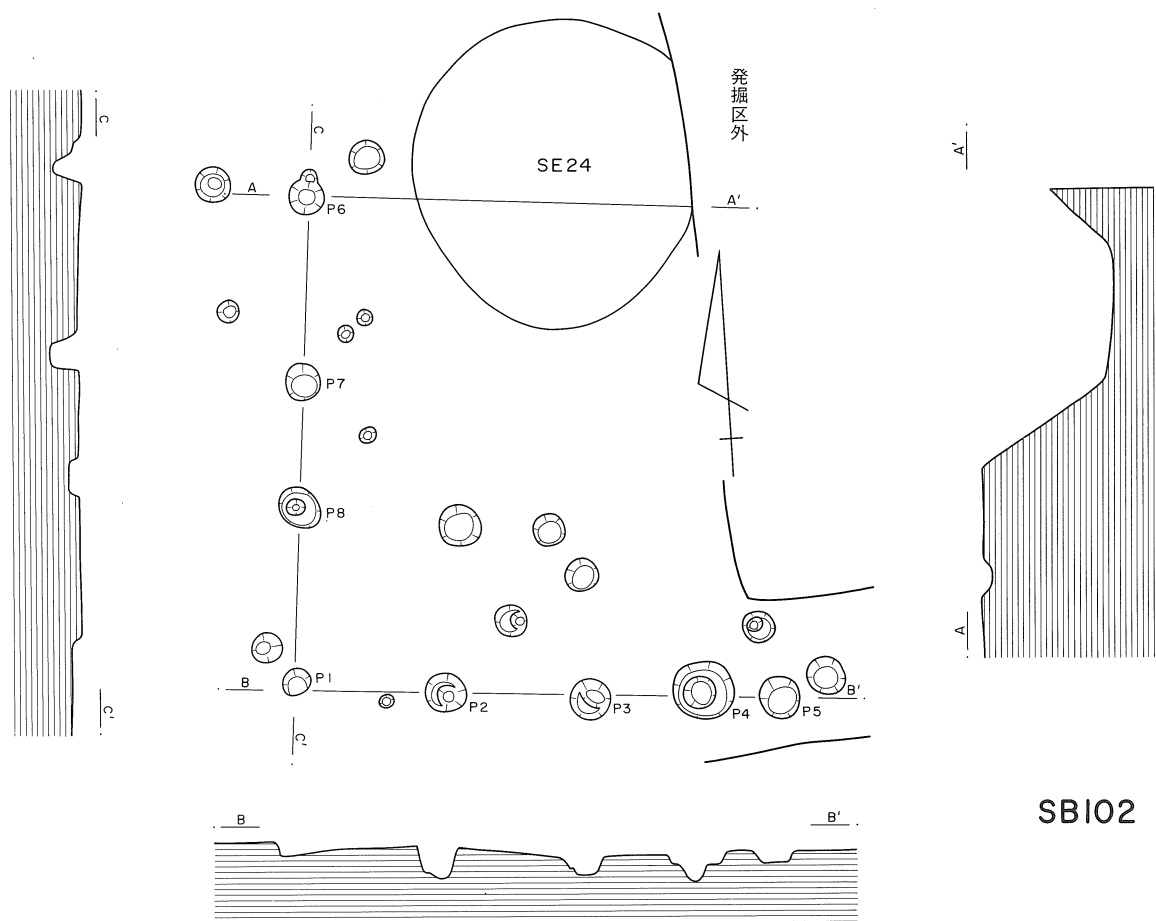
第52図 SB93・SB94・SB95・SB96・SB97実測図



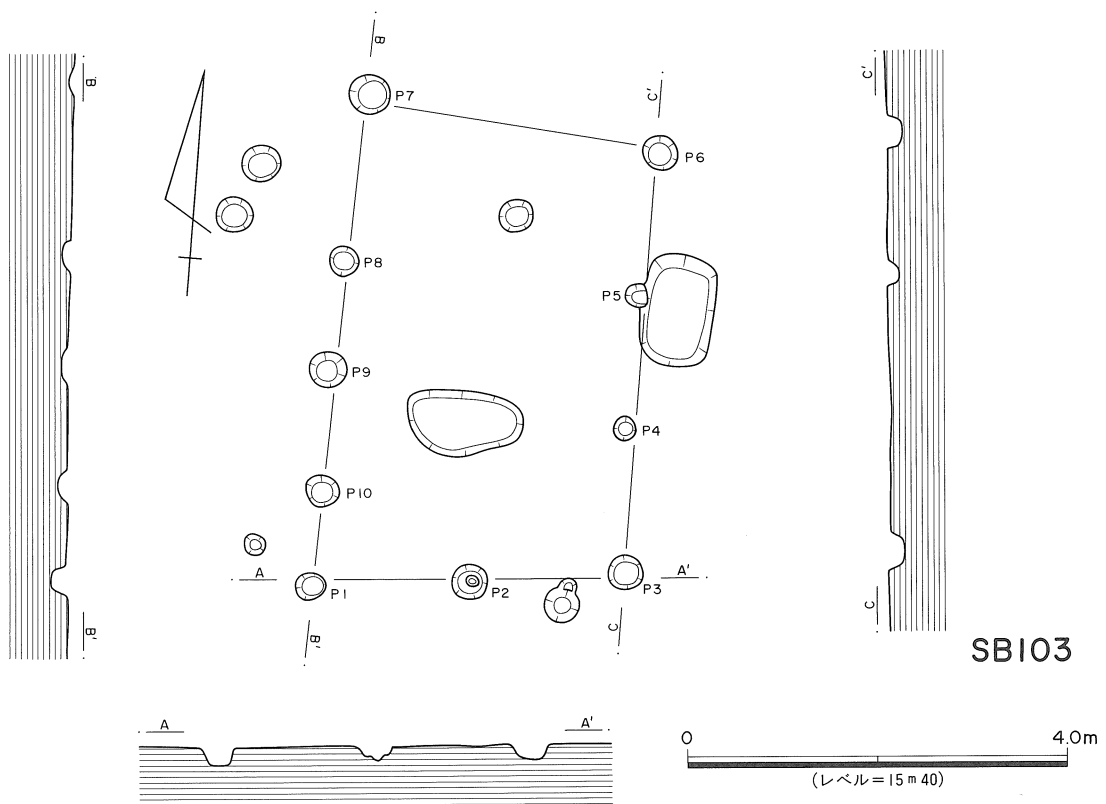
第53図 SB98・SB99・SB107実測図



第54図 SB100・SB101実測図



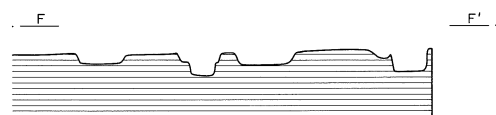
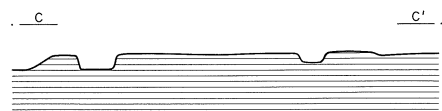
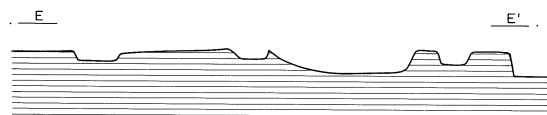
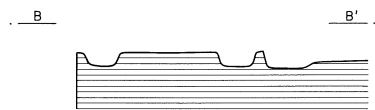
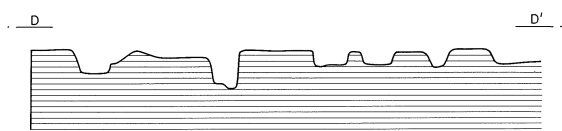
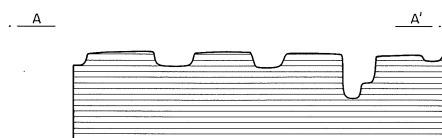
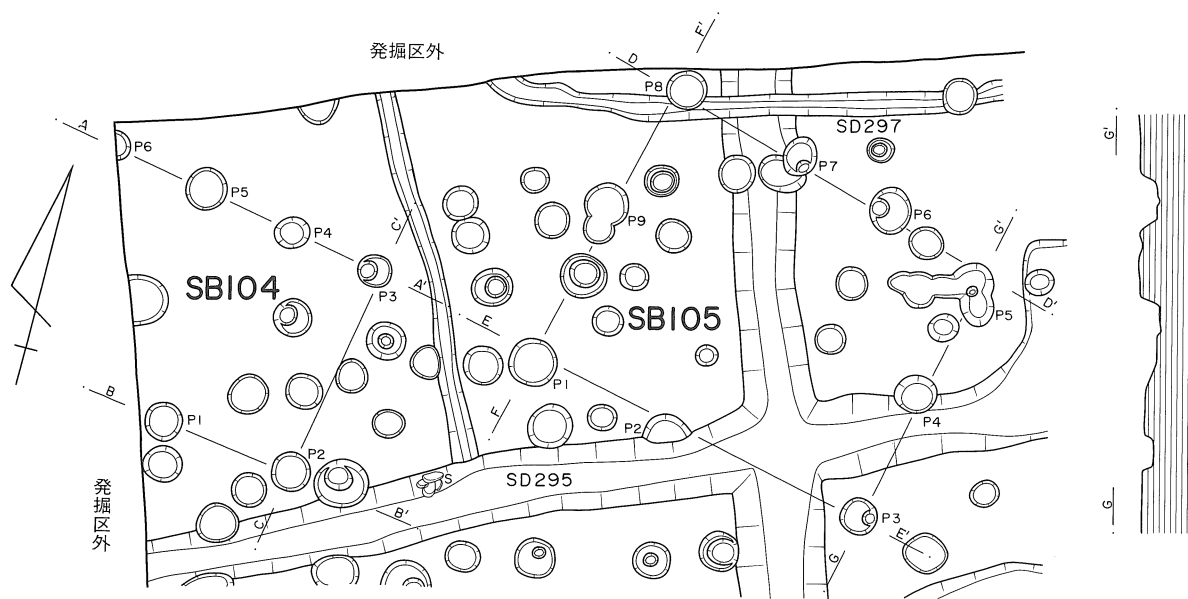
SB102



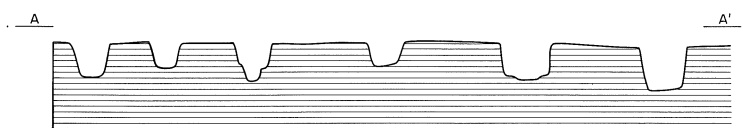
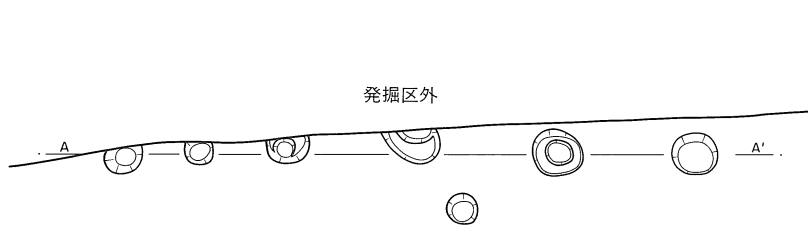
SB103

0 4.0m
(レベル=15 m 40)

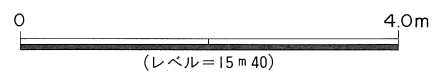
第55図 SB102・SB103実測図



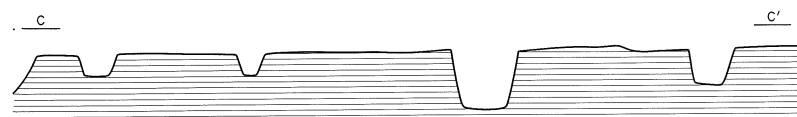
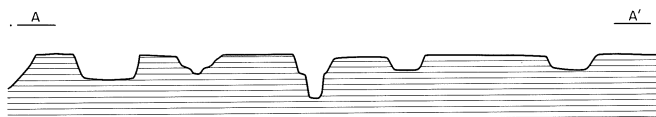
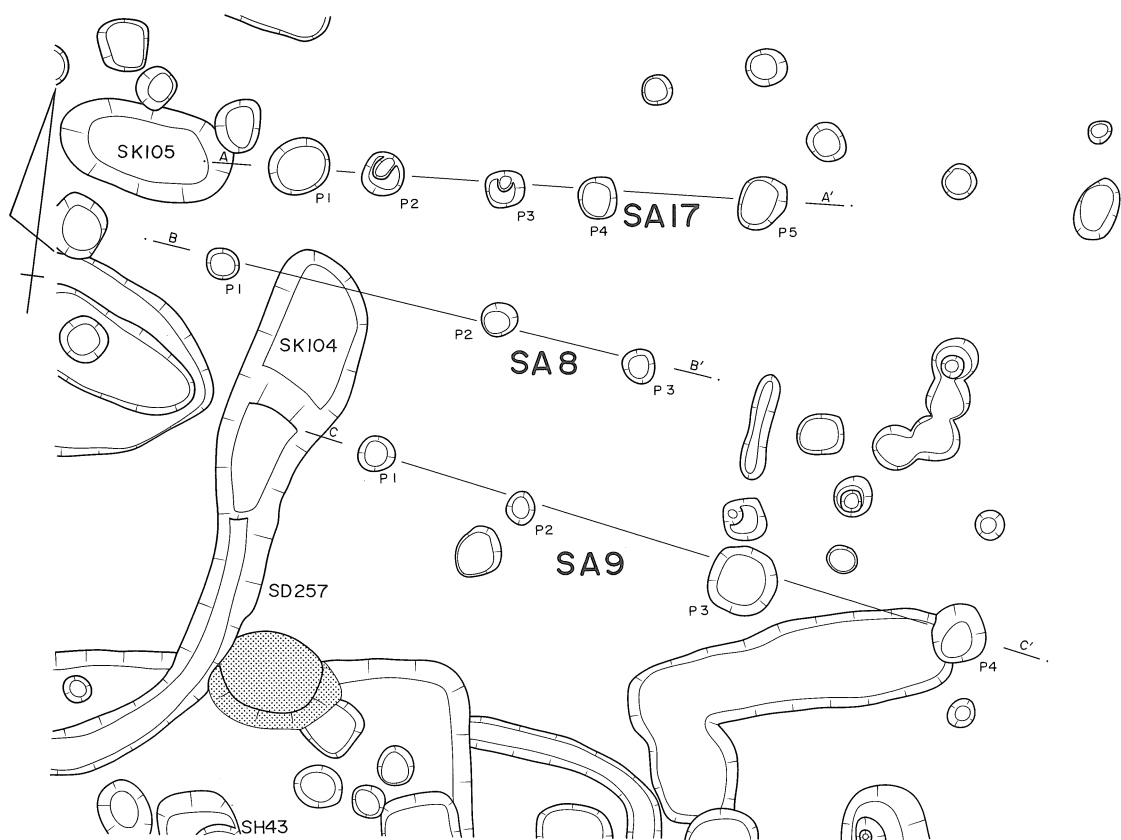
SB104.SB105



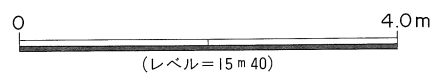
SB106



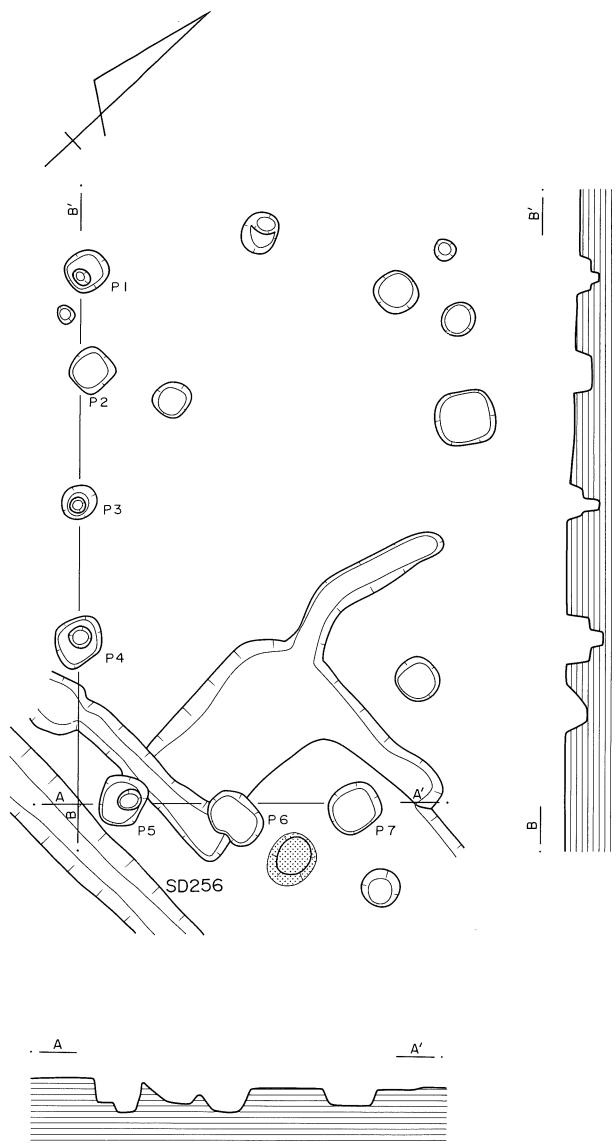
第56図 SB104・SB105・SB106実測図



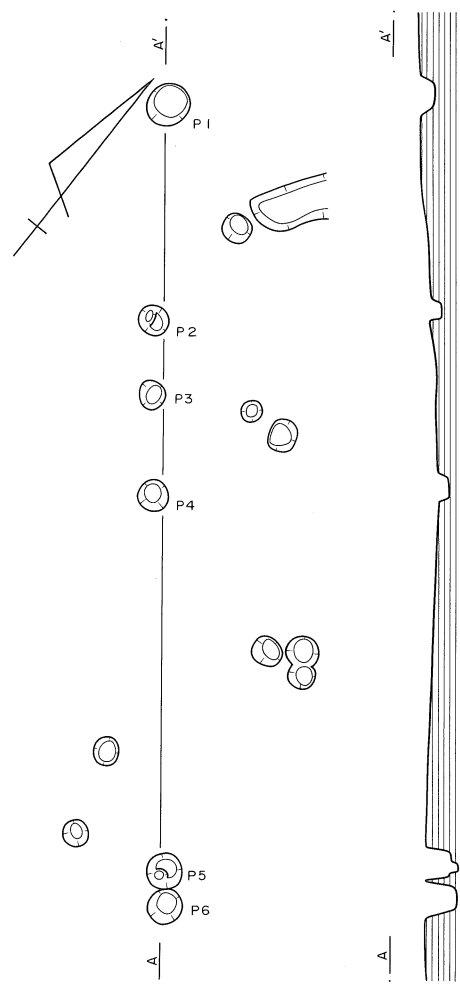
SAI7.SA8.SA9



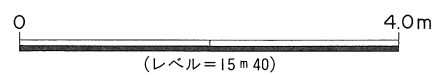
第57図 SA 8・SA 9・SAI7実測図



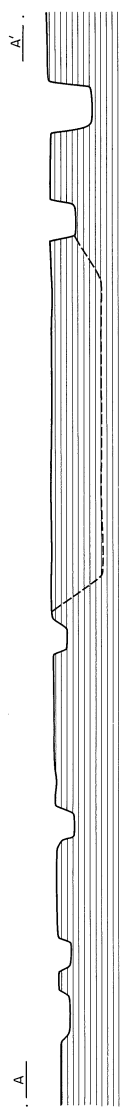
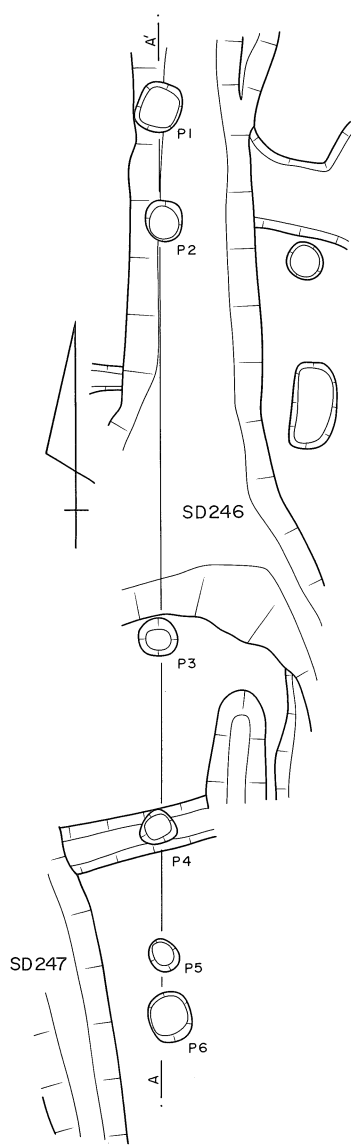
SA11



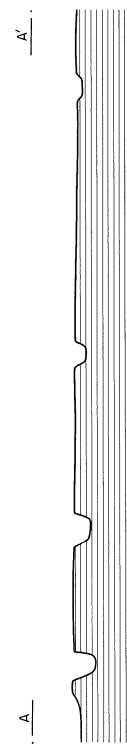
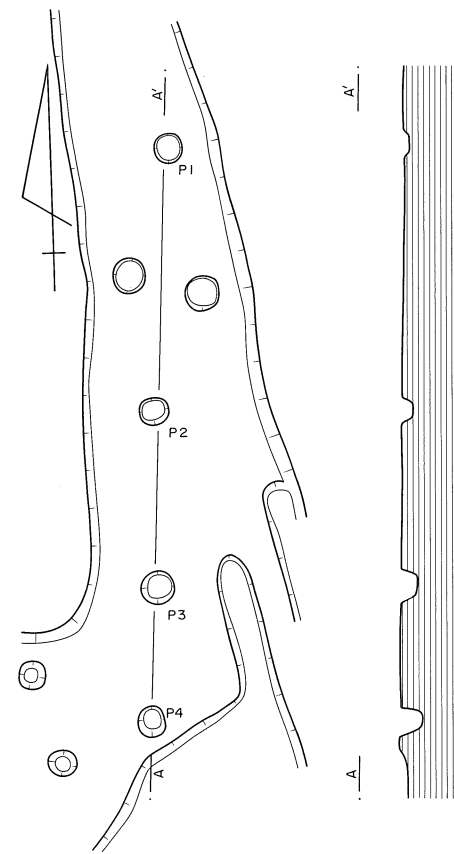
SA13



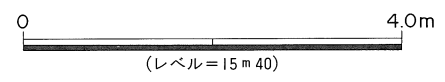
第58図 SA11・SA13実測図



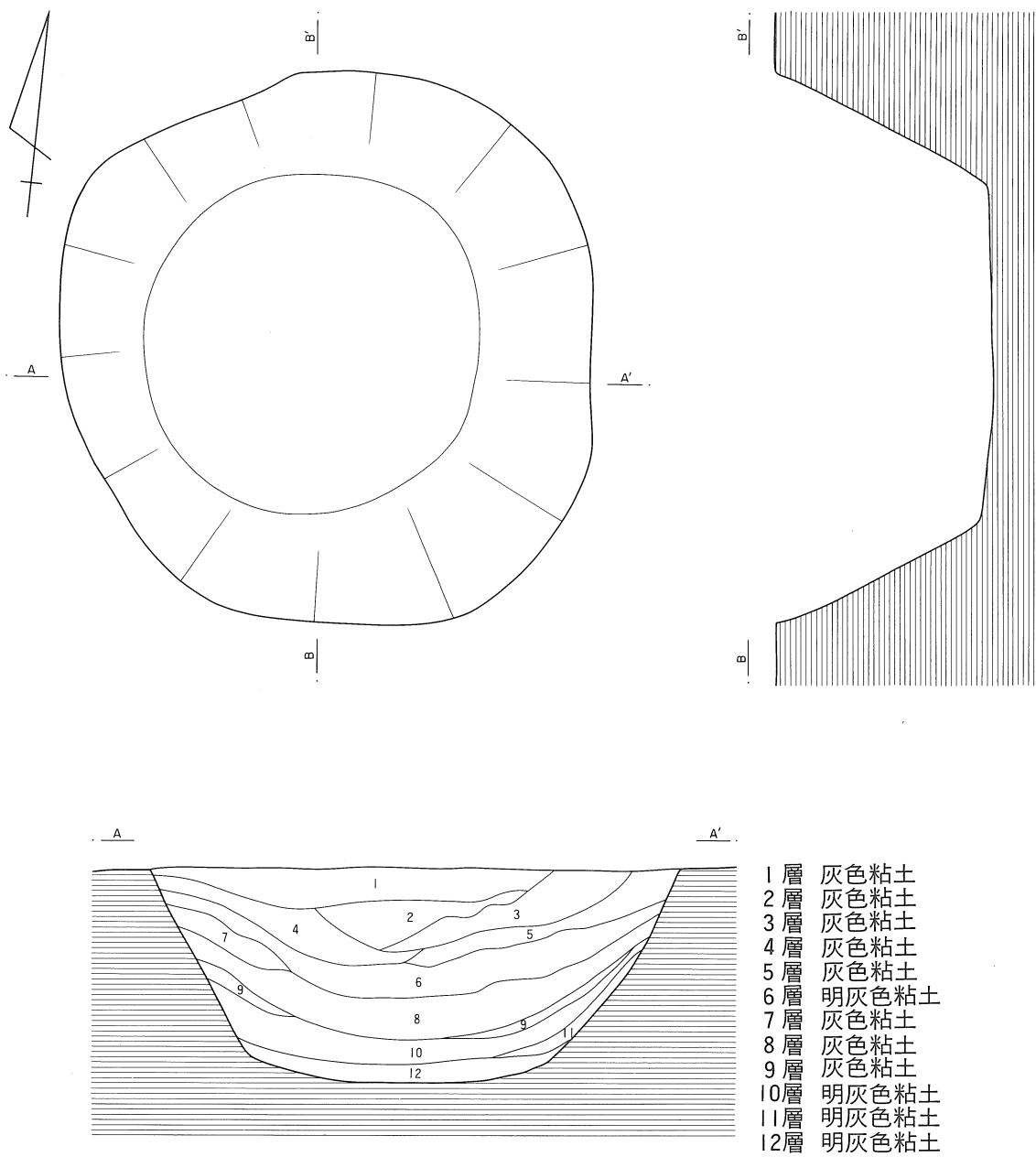
SA14



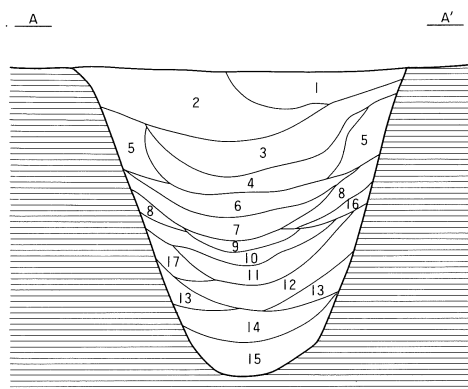
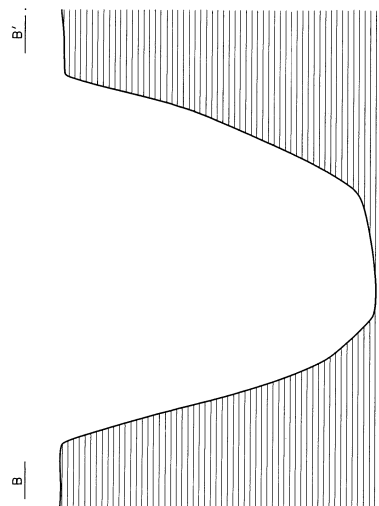
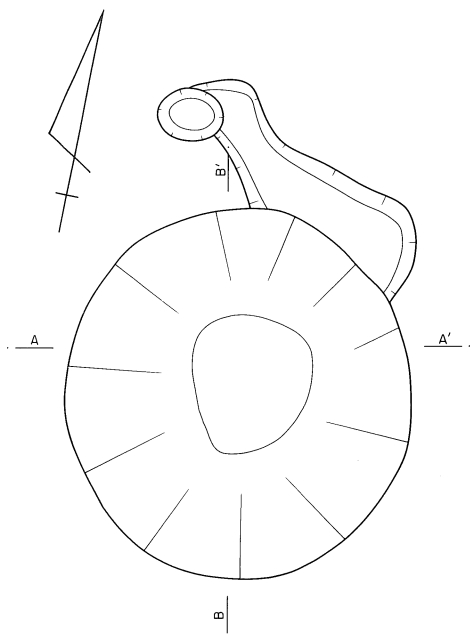
SA16



第59図 SA14・SA16実測図

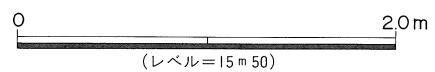


第60図 SE 1 実測図

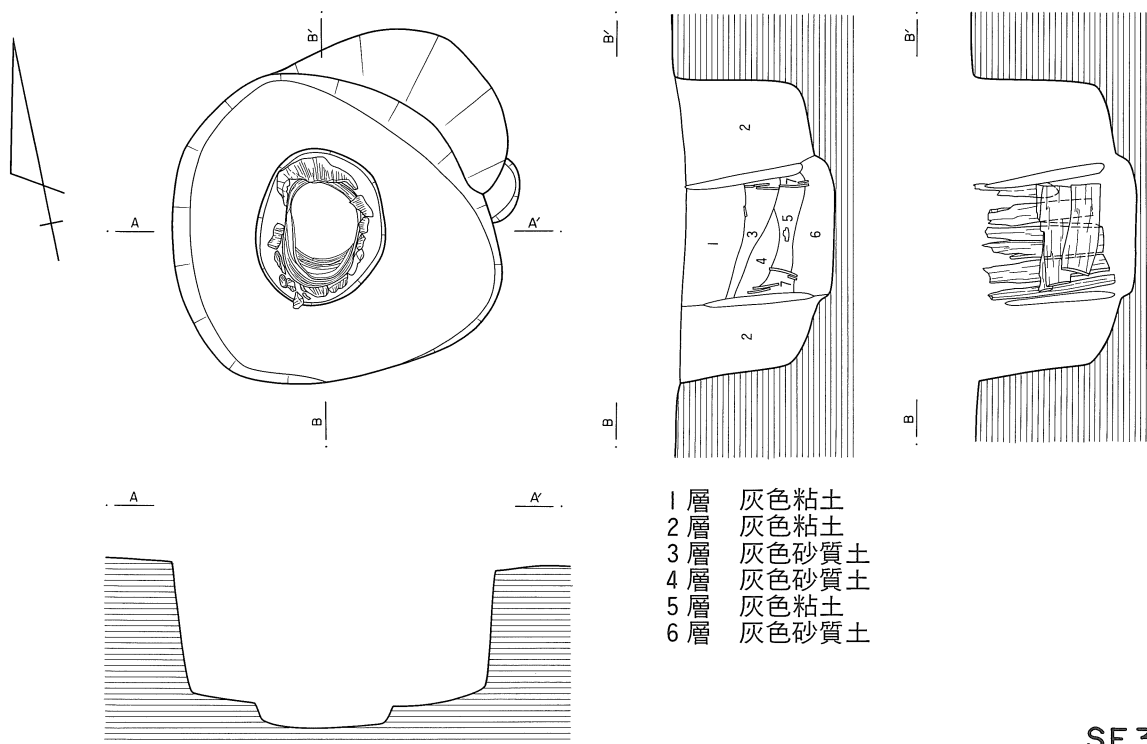


- | | | | |
|----|-------|-----|-------|
| 1層 | 灰色粘土 | 10層 | 灰色粘土 |
| 2層 | 灰色粘土 | 11層 | 灰色粘土 |
| 3層 | 灰色粘土 | 12層 | 灰色粘土 |
| 4層 | 灰色粘土 | 13層 | 明灰色粘土 |
| 5層 | 明灰色粘土 | 14層 | 明灰色粘土 |
| 6層 | 灰色粘土 | 15層 | 明灰色粘土 |
| 7層 | 灰色粘土 | 16層 | 灰色砂質土 |
| 8層 | 灰色粘土 | 17層 | 暗灰色粘土 |
| 9層 | 灰色粘土 | | |

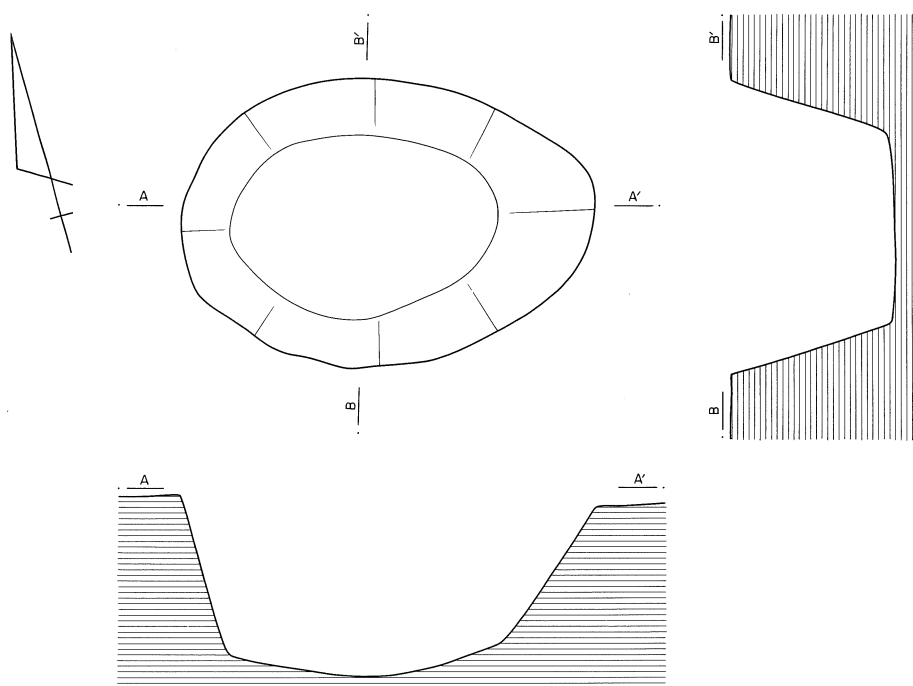
SE 2



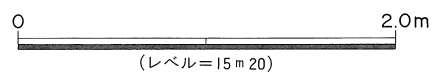
第61図 SE 2 実測図



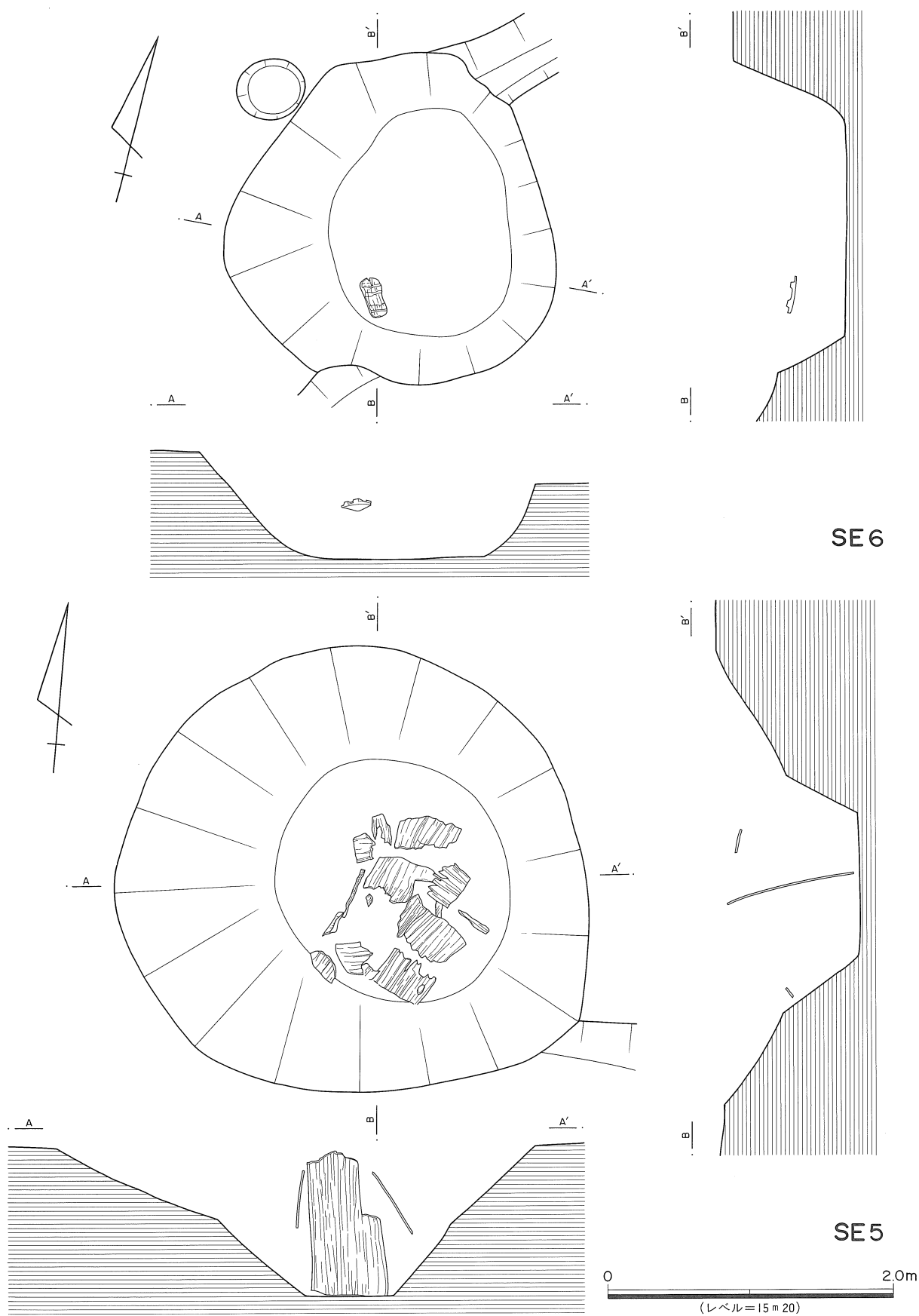
SE 3



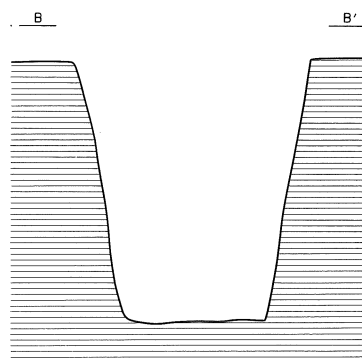
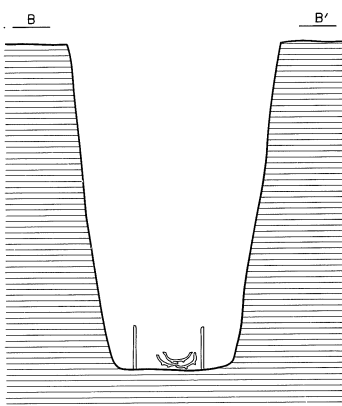
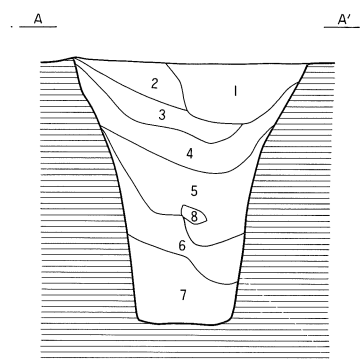
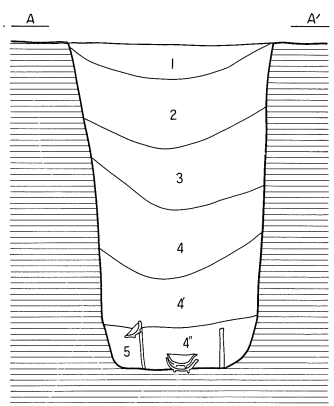
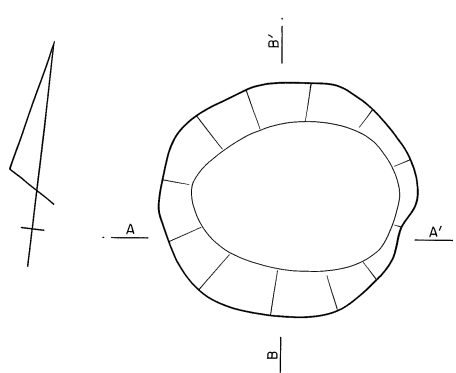
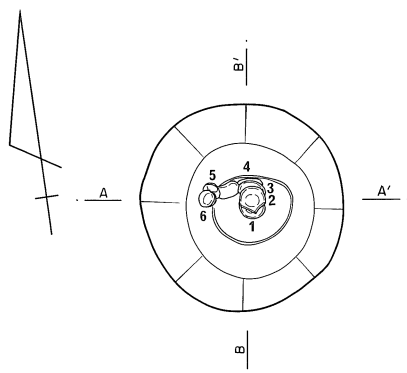
SE 4



第62図 SE 3 ・ SE 4 実測図



第63図 SE5・SE6 実測図

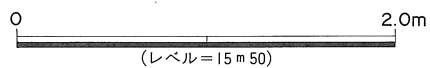


- 1 層 灰色粘土
- 2 層 灰色粘土
- 3 層 暗灰色粘土
- 4 層 暗灰色粘土
- 4' 層 炭化物混入土
- 4'' 層 炭化物混入土
- 5 層 暗灰色粘土

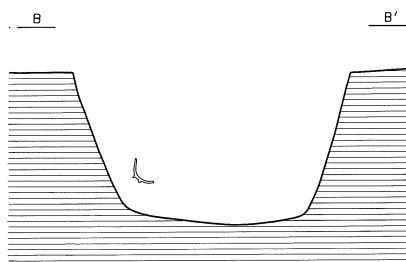
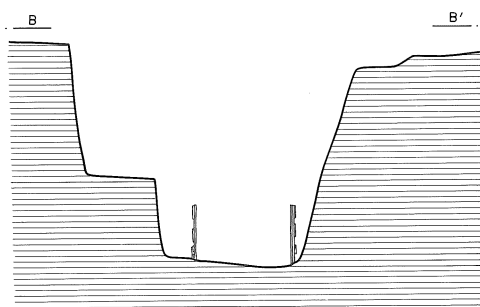
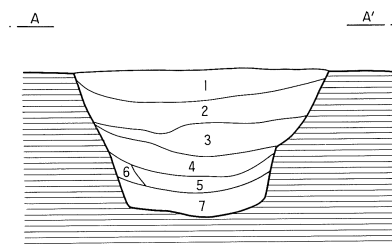
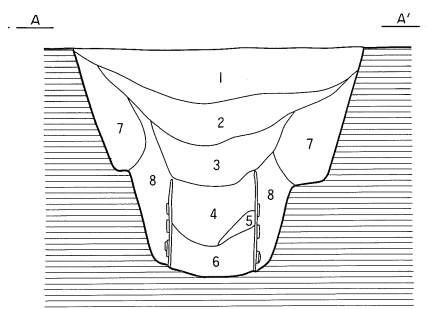
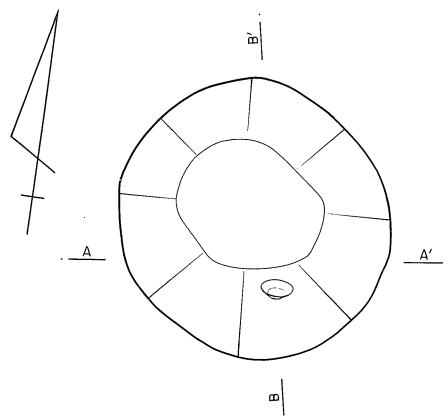
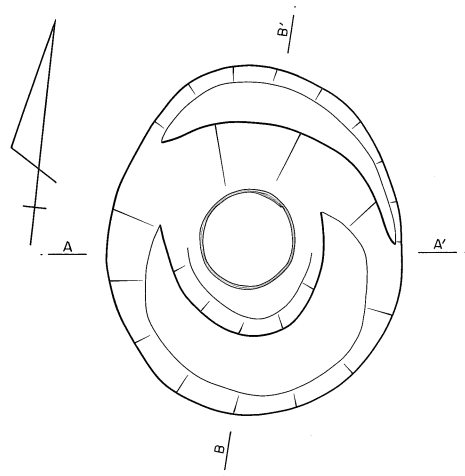
- 1 層 灰色粘土
- 2 層 灰色粘土
- 3 層 炭化物混入土
- 4 層 炭化物混入土
- 5 層 炭化物混入土
- 6 層 灰色粘土
- 7 層 灰色粘土
- 8 層 灰色粘土

SE 16

SE 7



第64図 SE16・SE 7 実測図



- 1層 明灰色粘土
- 2層 灰色粘土
- 3層 灰色粘土
- 4層 灰色粘土
- 5層 灰色砂質土
- 6層 灰色粘土
- 7層 明灰色粘土
- 8層 灰色粘土

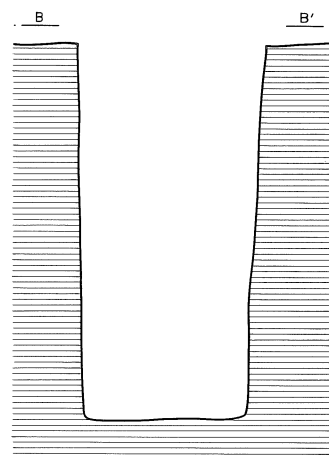
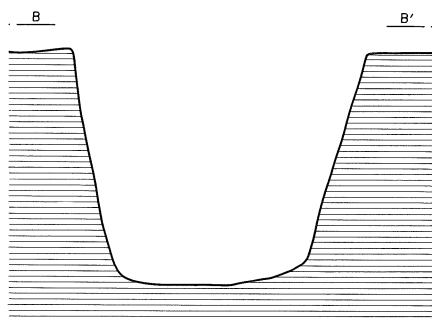
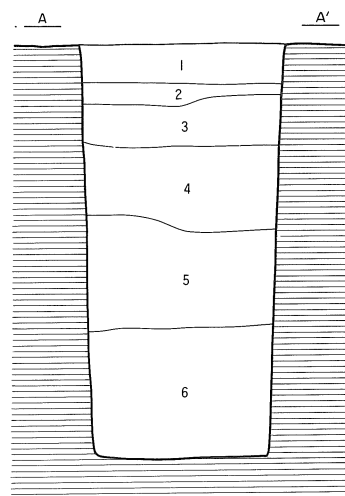
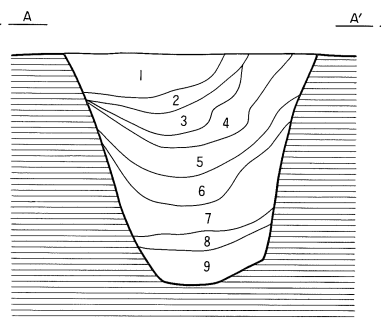
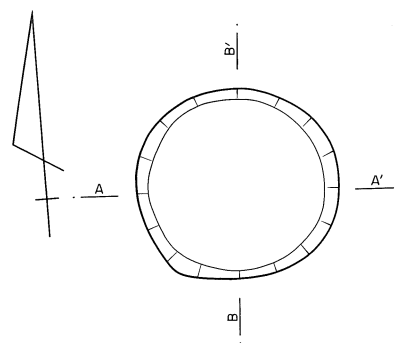
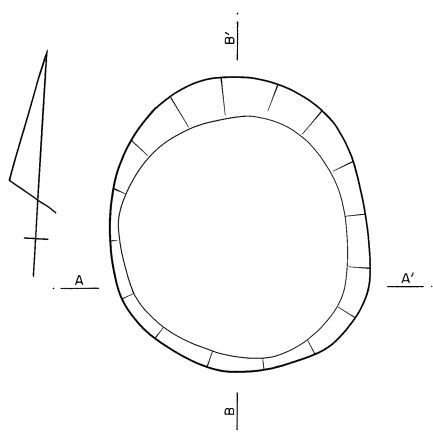
- 1層 明灰色粘土
- 2層 明灰色粘土
- 3層 灰色粘土
- 4層 灰色粘土
- 5層 灰色粘土
- 6層 灰色粘土
- 7層 灰色粘土

SE8

SE9

0 2.0m
(レベル = 15 m 50)

第65図 SE8・SE9 実測図

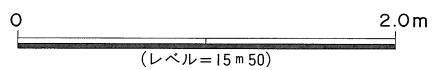


- 1 層 明灰色粘土
- 2 層 明灰色粘土
- 3 層 明灰色粘土
- 4 層 炭化物混入土
- 5 層 灰色粘土
- 6 層 灰色粘土
- 7 層 灰色粘土
- 8 層 炭化物混入土
- 9 層 灰色粘土

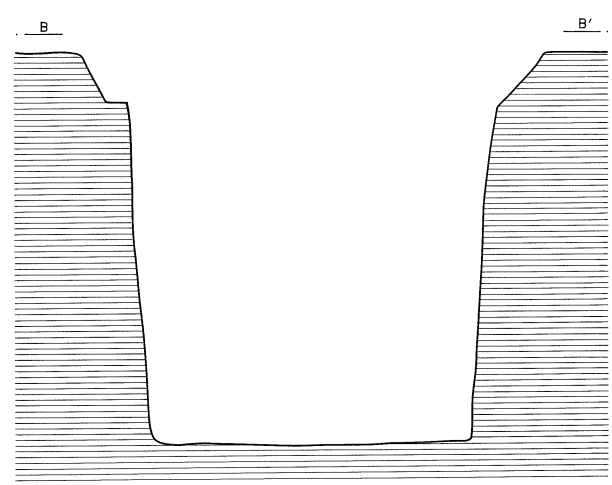
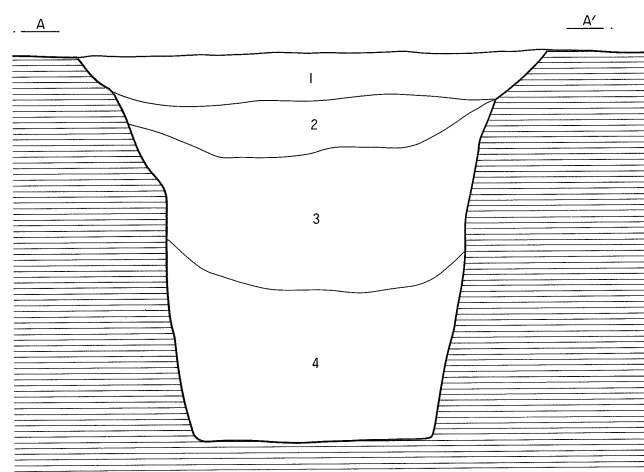
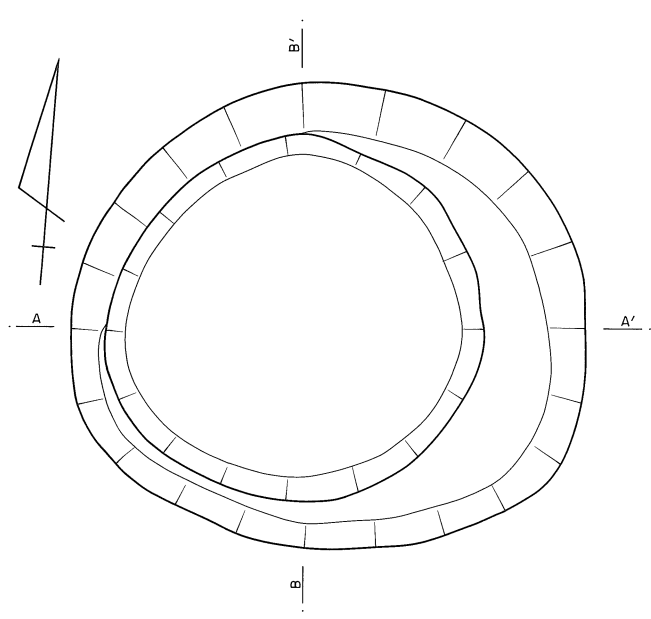
- 1 層 灰色粘土
- 2 層 灰色粘土
- 3 層 灰色粘土
- 4 層 灰色粘土
- 5 層 暗灰色粘土
- 6 層 暗灰色粘土

SE10

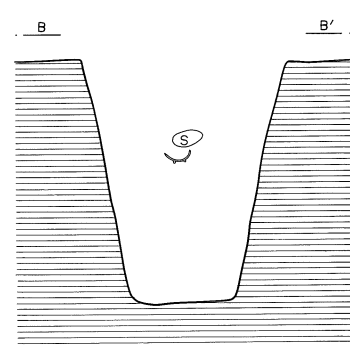
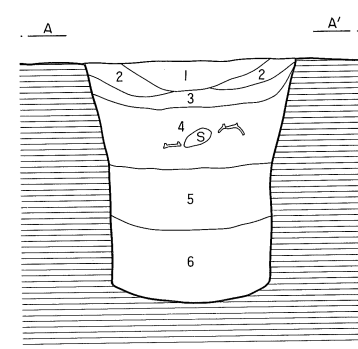
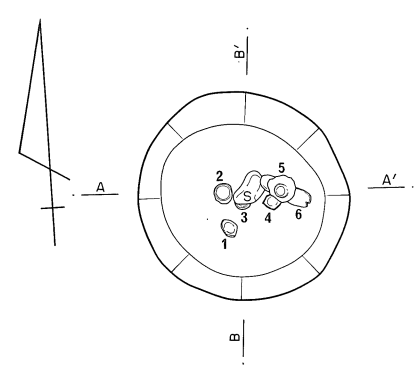
SE11



第66図 SE10・SE11実測図



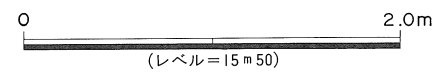
SE12



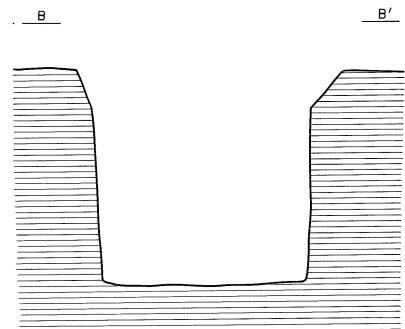
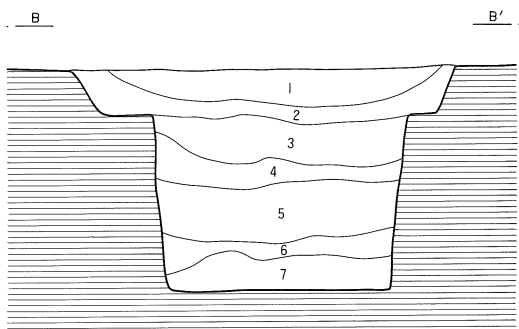
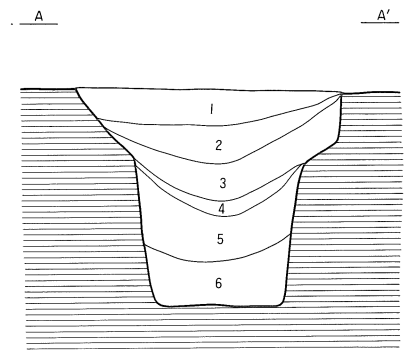
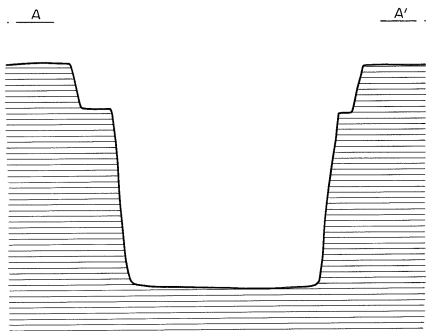
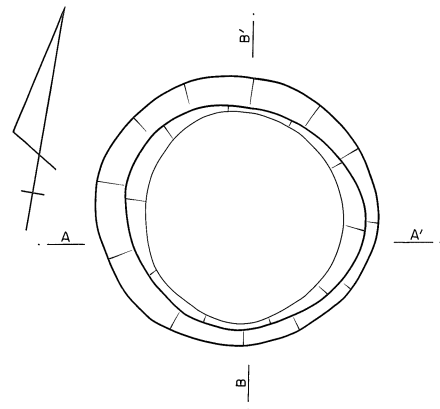
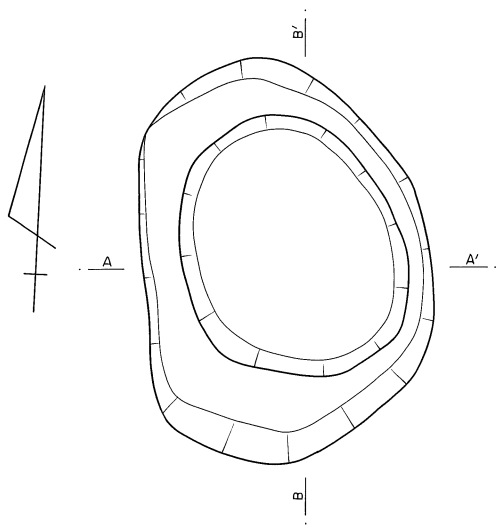
- 1層 灰色粘土
- 2層 暗灰色粘土
- 3層 灰色粘土
- 4層 灰色粘土

SE13

- 1層 灰色粘土
- 2層 灰色粘土
- 3層 灰色粘土
- 4層 灰色粘土



第67図 SE12・SE13実測図

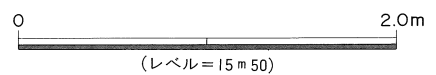


- 1層 灰色粘土
- 2層 灰色粘土
- 3層 灰色粘土
- 4層 灰色粘土
- 5層 灰色粘土
- 6層 灰色粘土
- 7層 砂礫

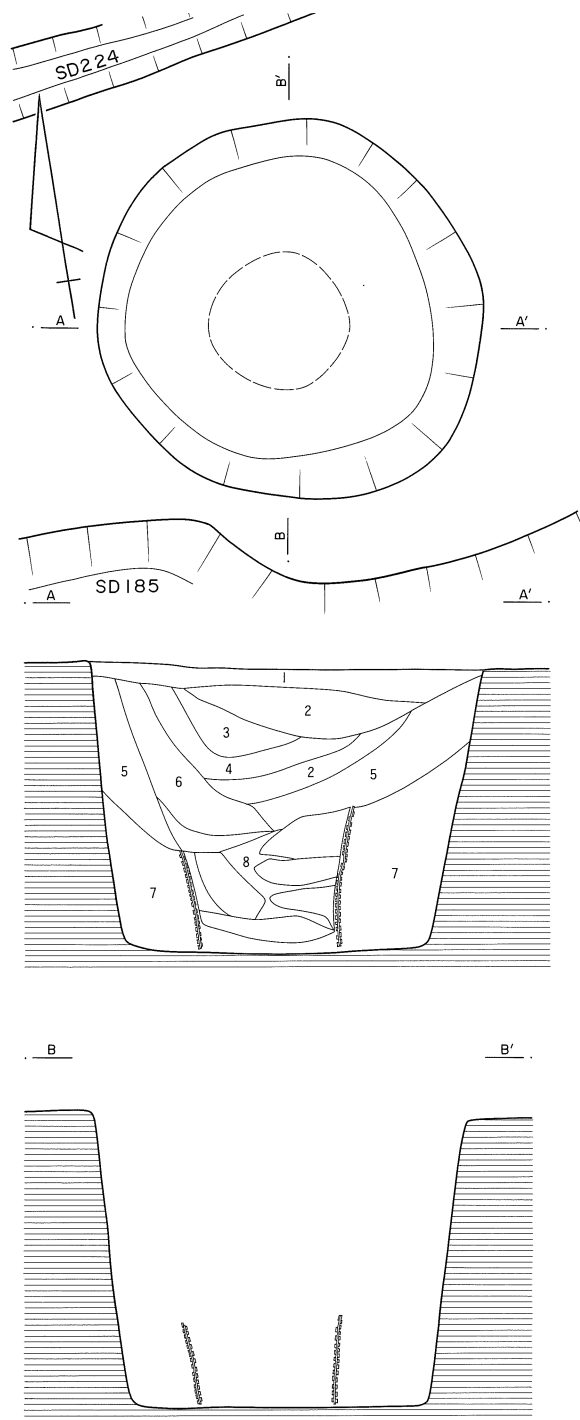
- 1層 灰色粘土
- 2層 灰色粘土
- 3層 灰色粘土
- 4層 暗灰色粘土
- 5層 灰色粘土
- 6層 灰色砂質粘土

SE14

SE15

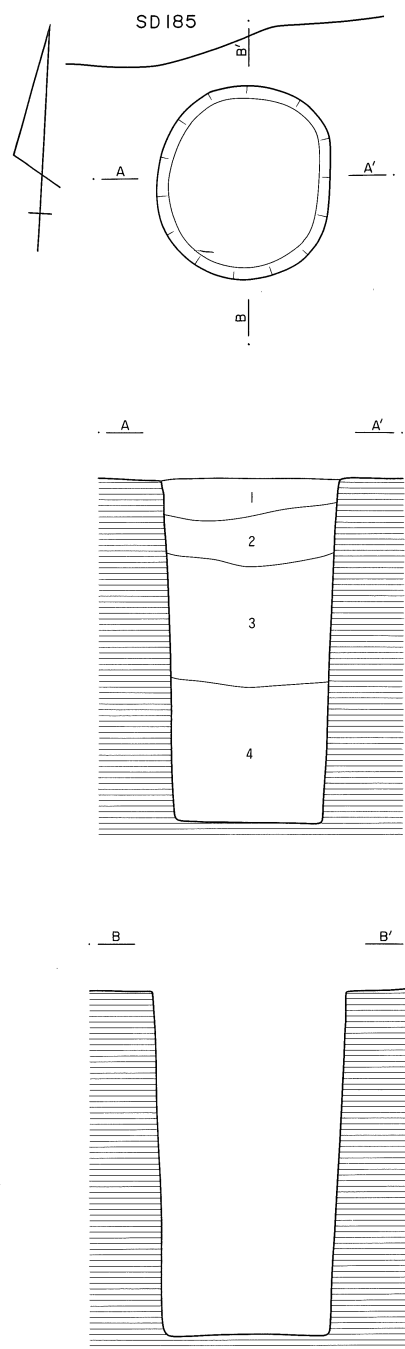


第68図 SE14・SE15実測図



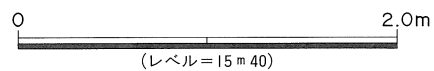
- 1 層 明灰色土
- 2 層 砂礫
- 3 層 明灰色土
- 4 層 明灰色土
- 5 層 灰色粘土
- 6 層 灰色粘土
- 7 層 灰色粘土
- 8 層 灰色粘土

SE17

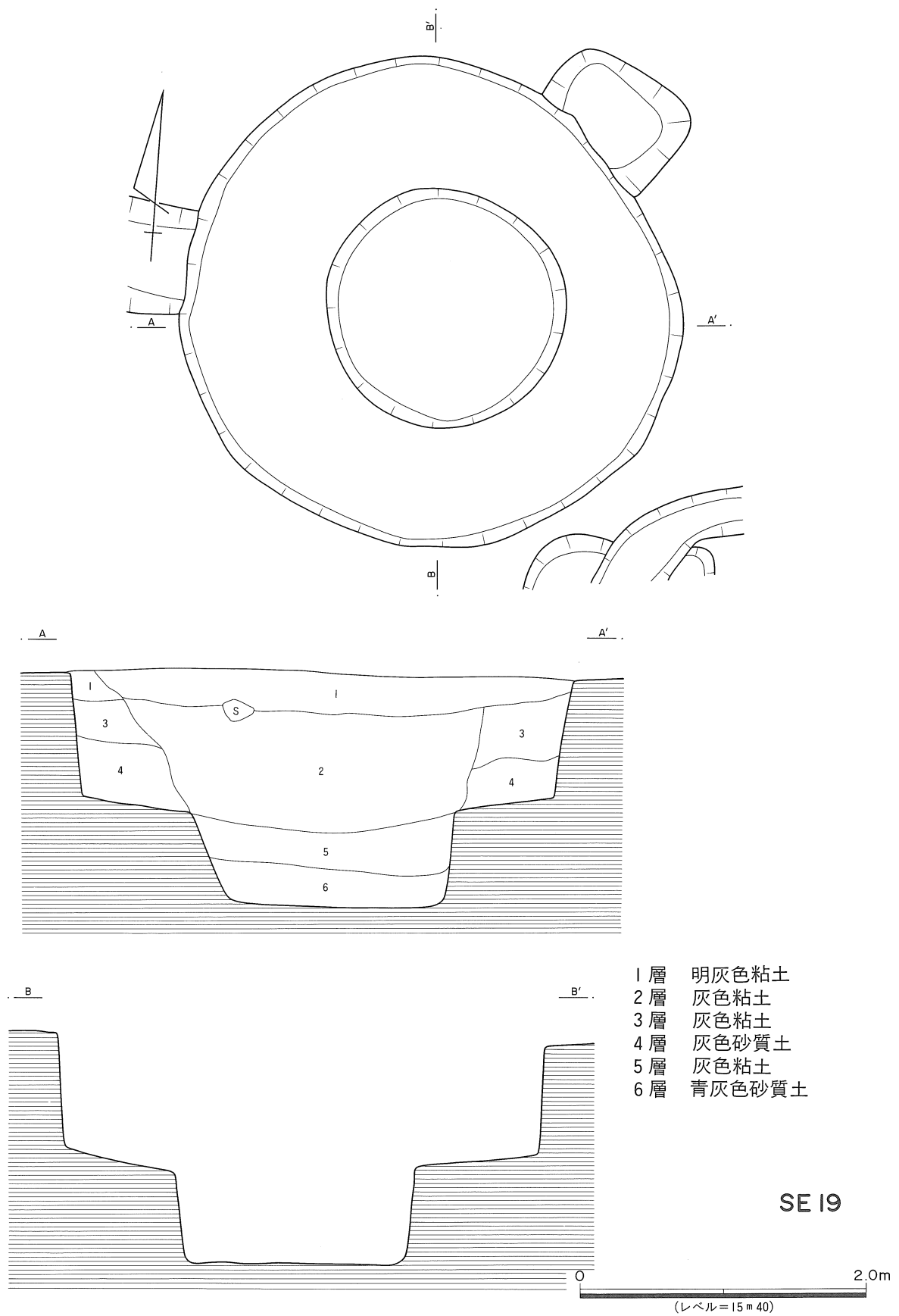


- 1 層 明灰色粘土
- 2 層 灰色砂質粘土
- 3 層 灰色粘土
- 4 層 灰色砂質粘土

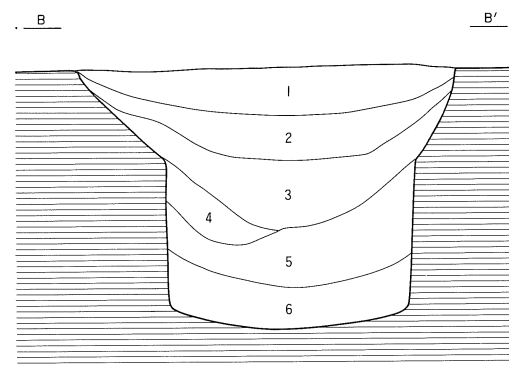
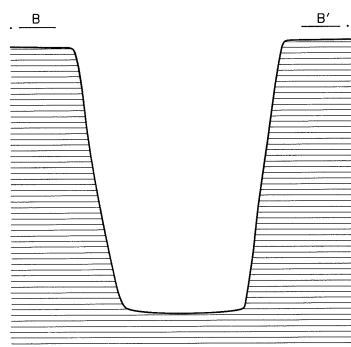
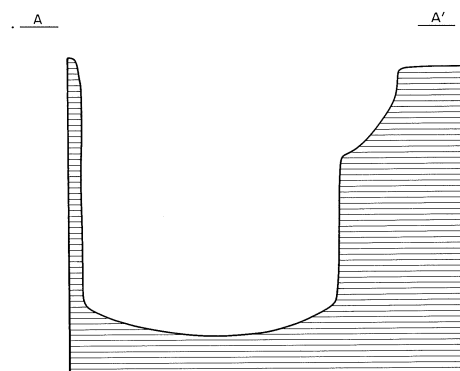
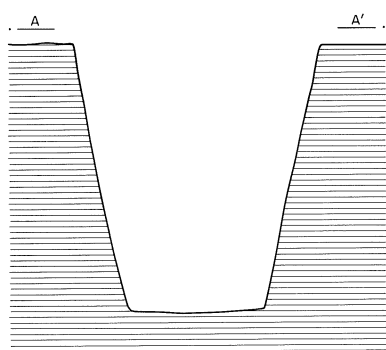
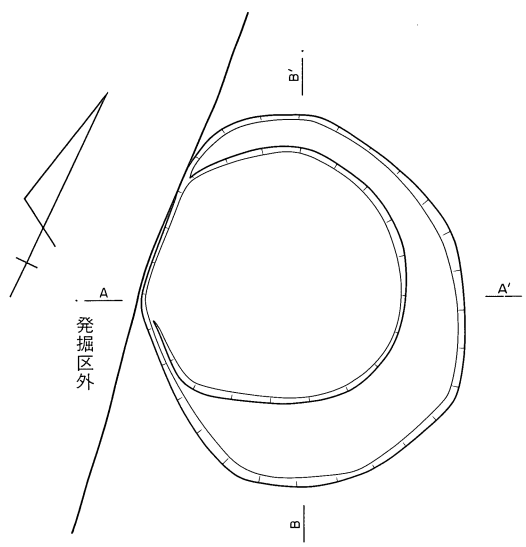
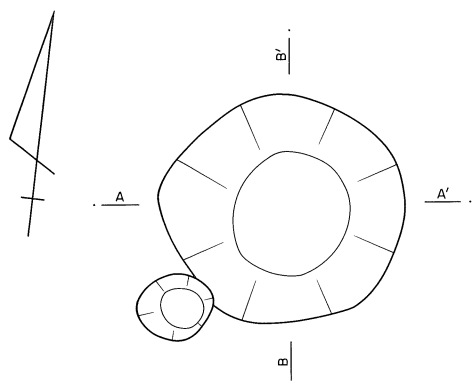
SE18



第69図 SE17・SE18実測図



第70図 SE19実測図



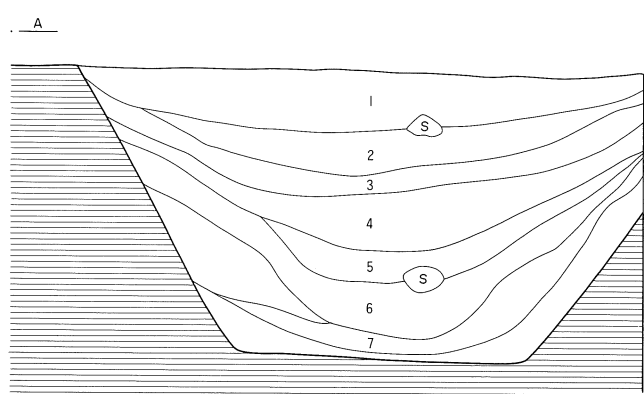
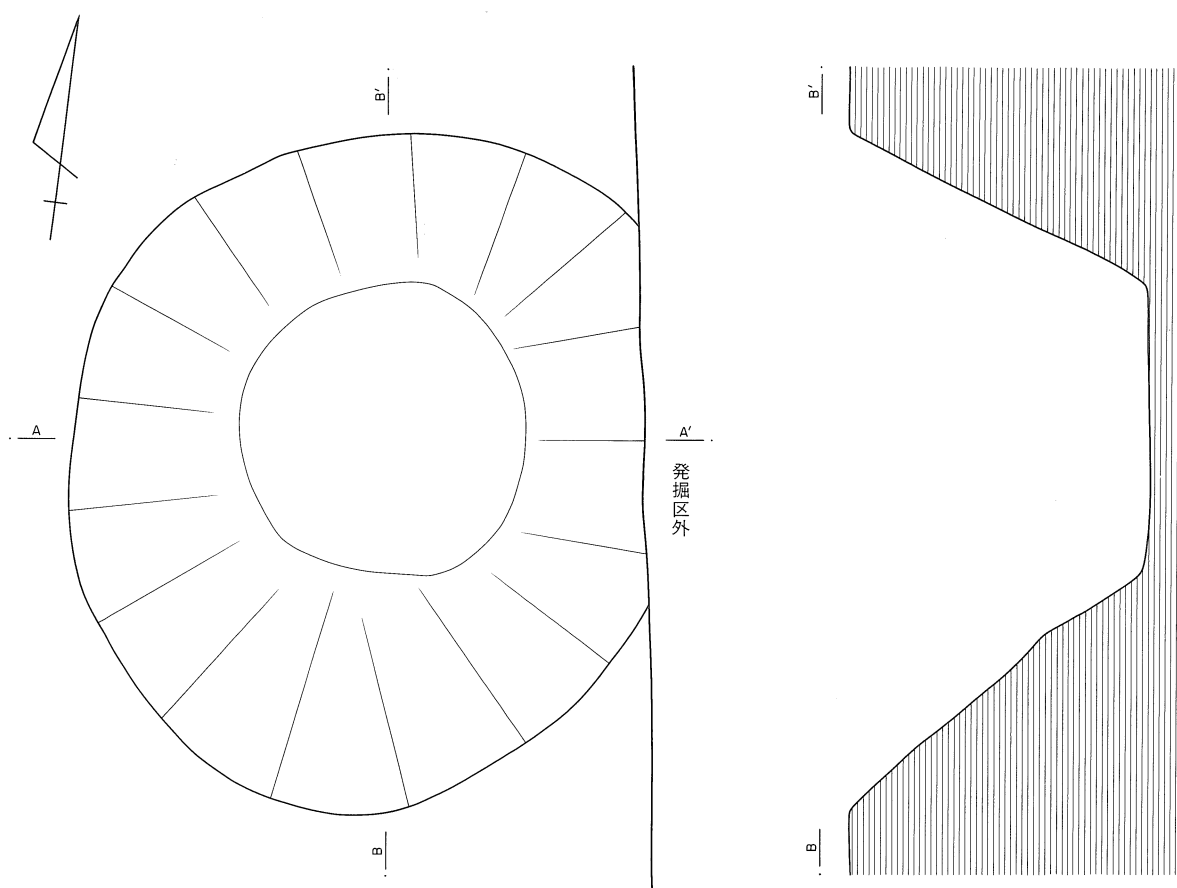
SE22

SE23

- 1層 茶褐色土
- 2層 褐色粘土
- 3層 灰色粘土
- 4層 灰色粘土
- 5層 明灰色粘土
- 6層 明灰色粘土

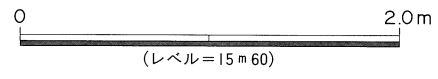
0 2.0m
(レベル = 15 m 50)

第71図 SE22・SE23実測図

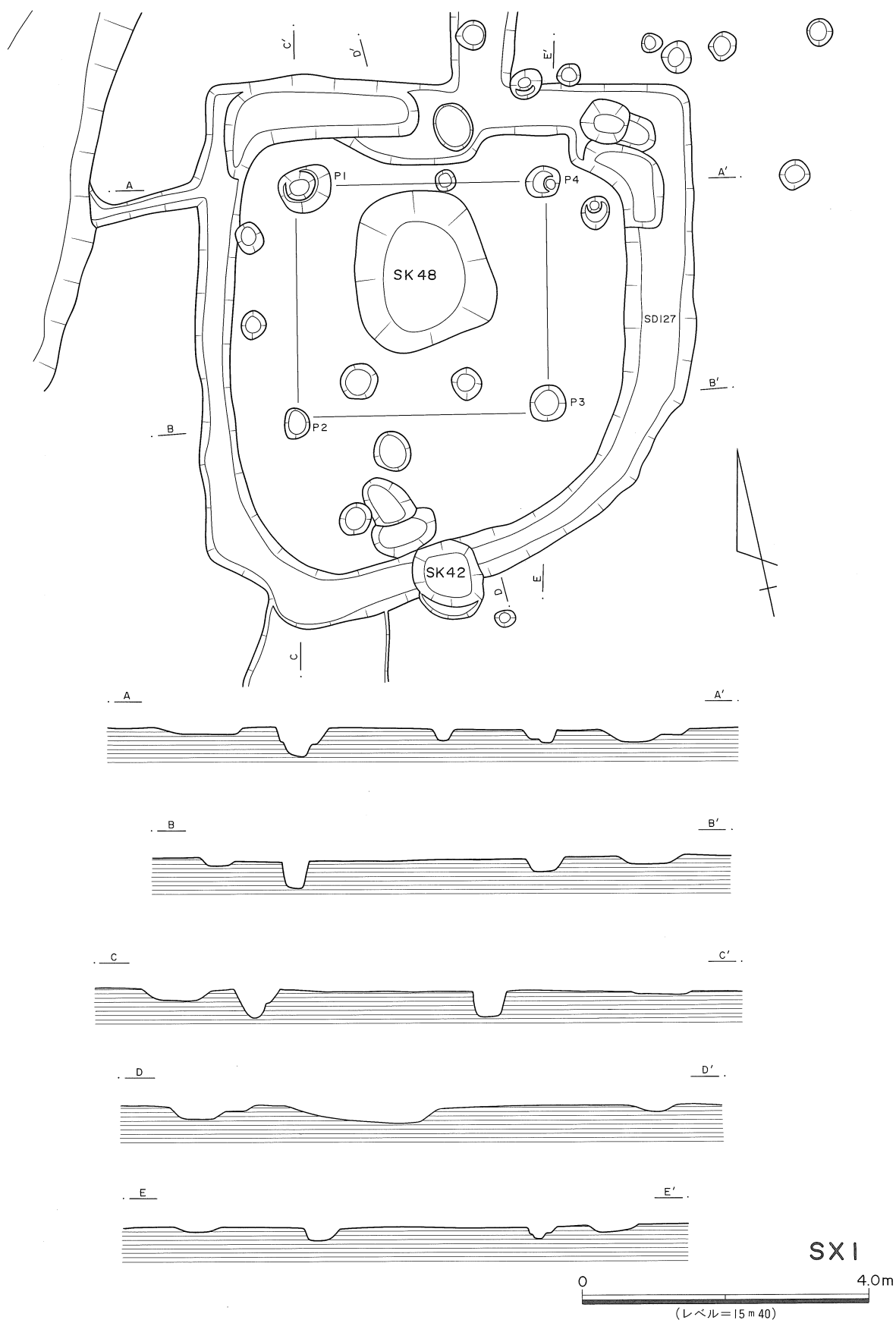


- 1層 褐色土
- 2層 褐色土
- 3層 灰色粘土
- 4層 灰色粘土
- 5層 明灰色粘土
- 6層 明灰色粘土
- 7層 青灰色砂質土

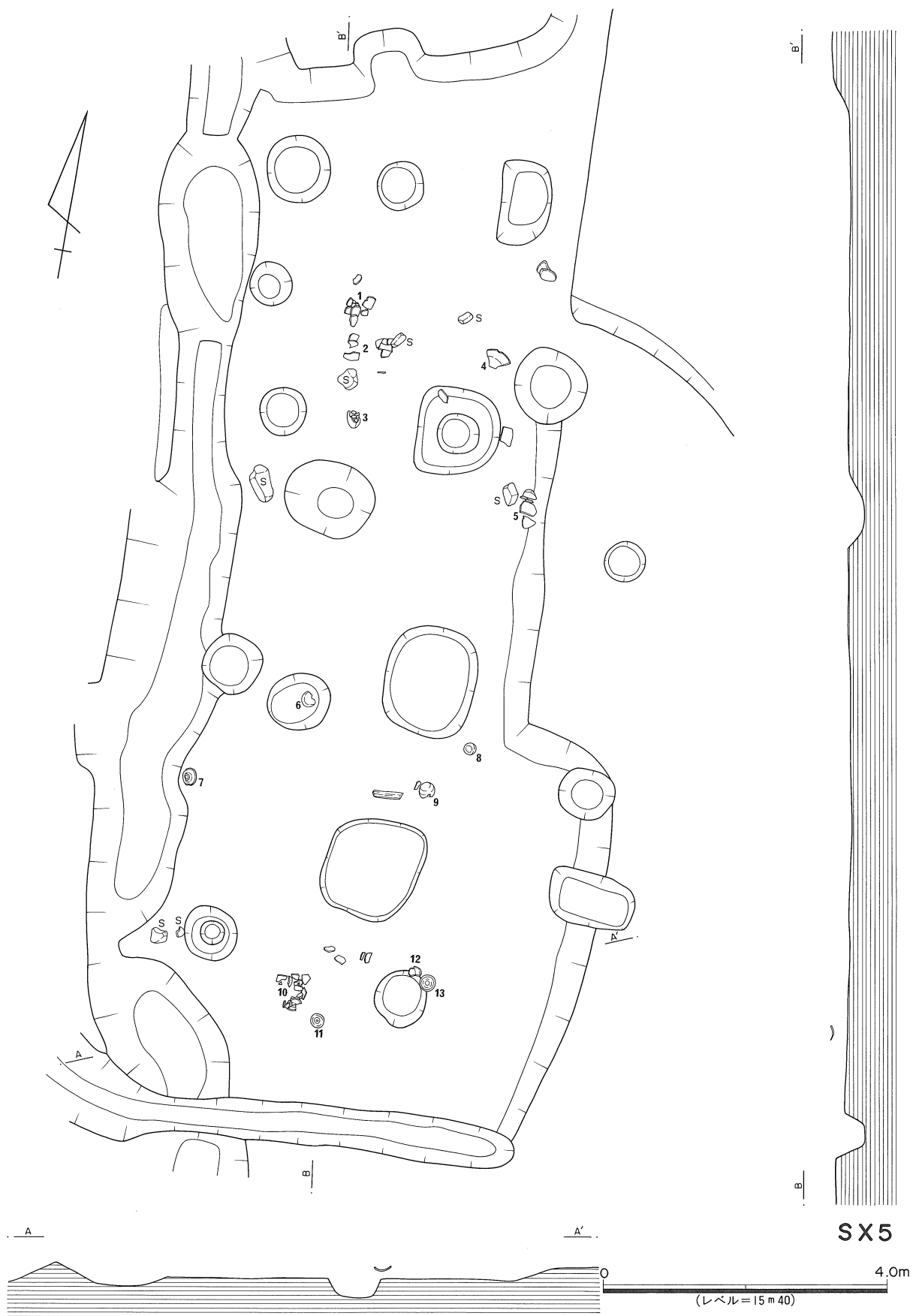
SE24



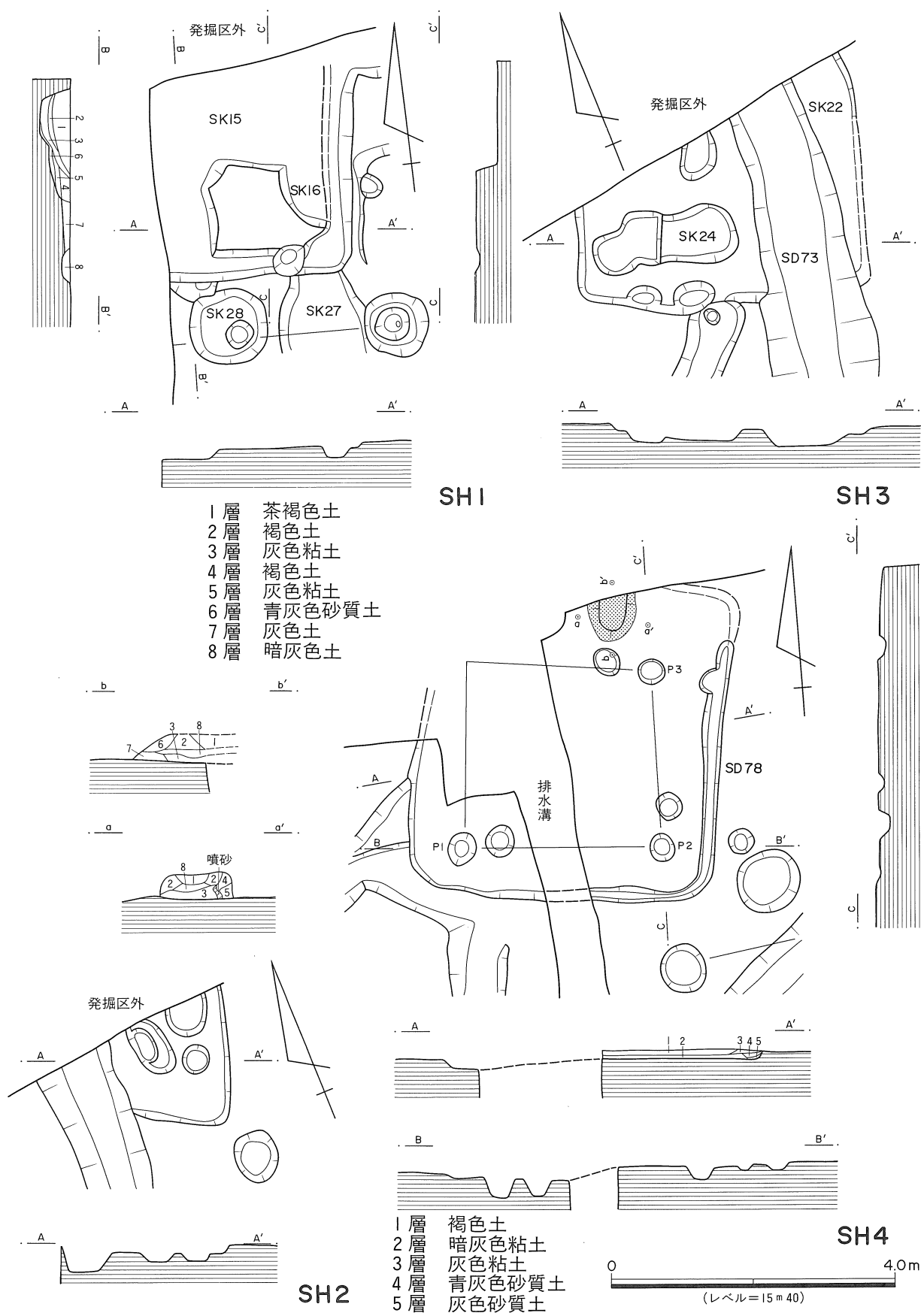
第72図 SE24実測図



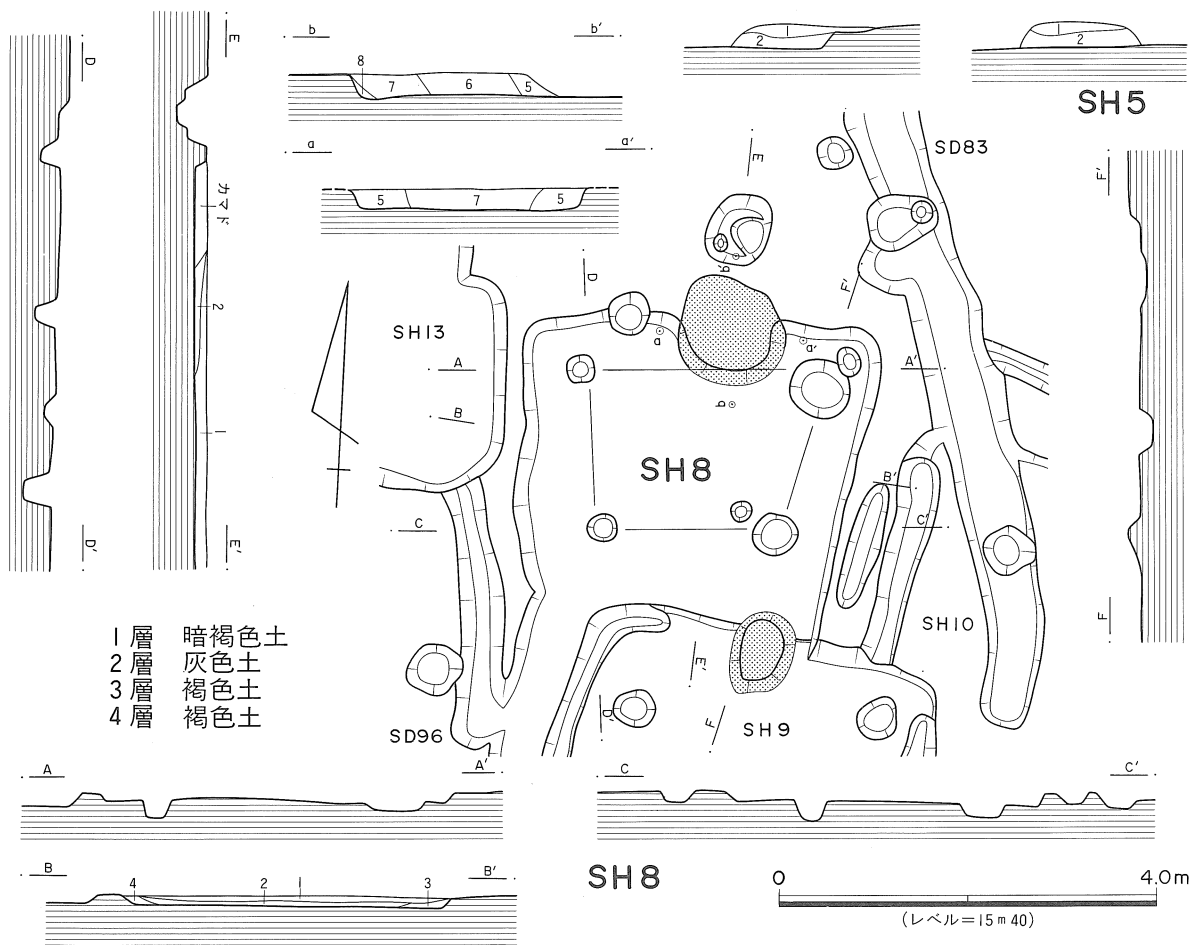
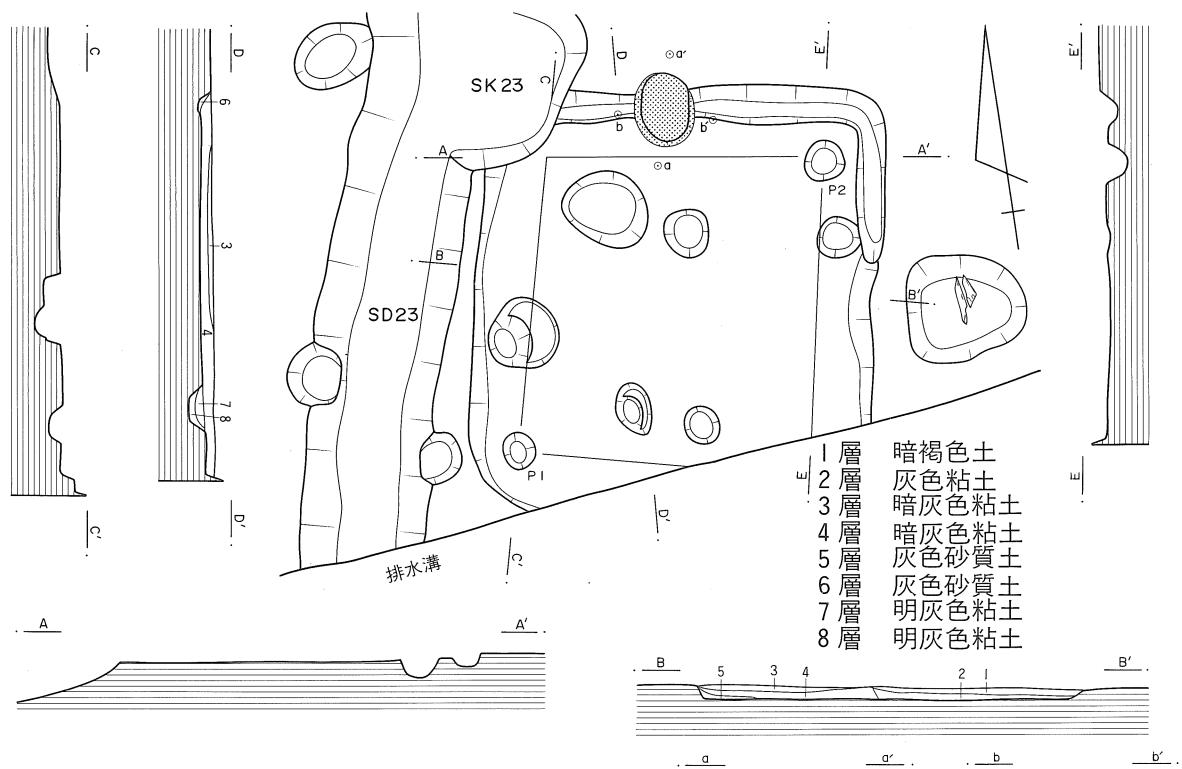
第73図 SX1 実測図



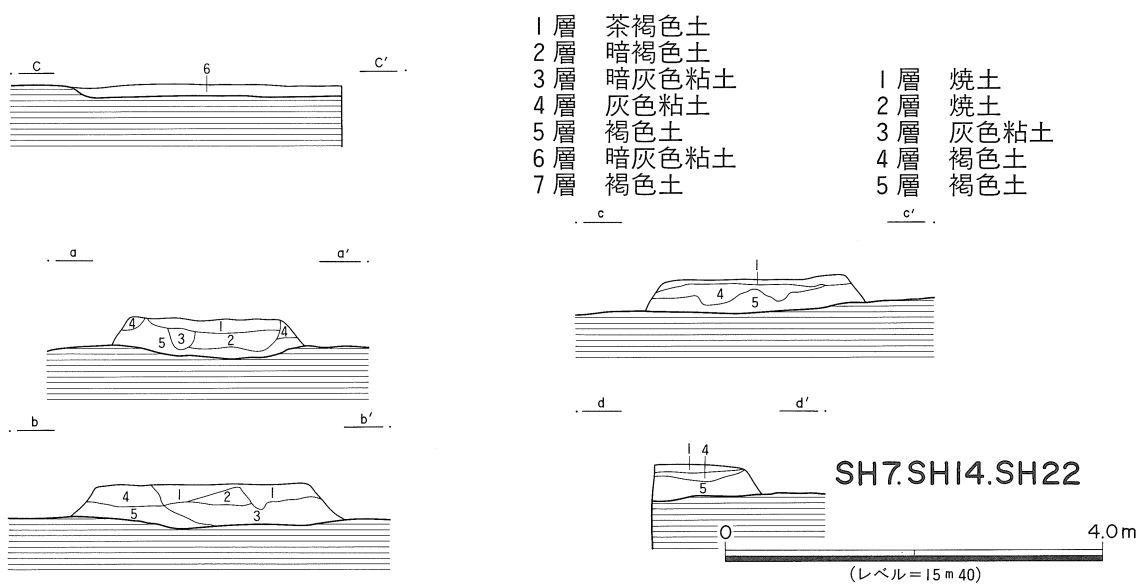
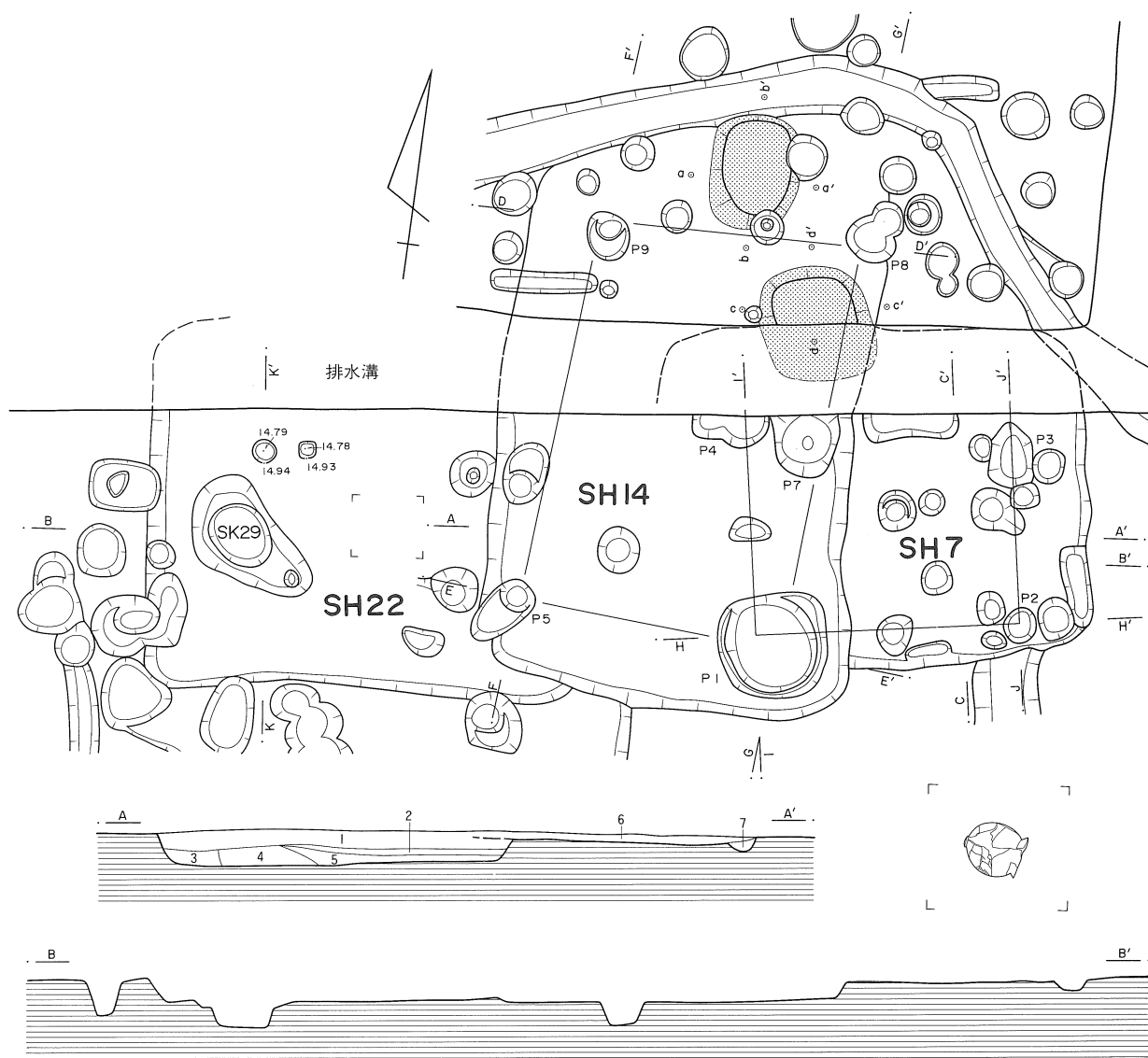
第74図 SX5 実測図



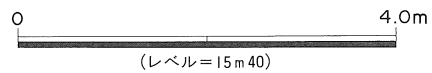
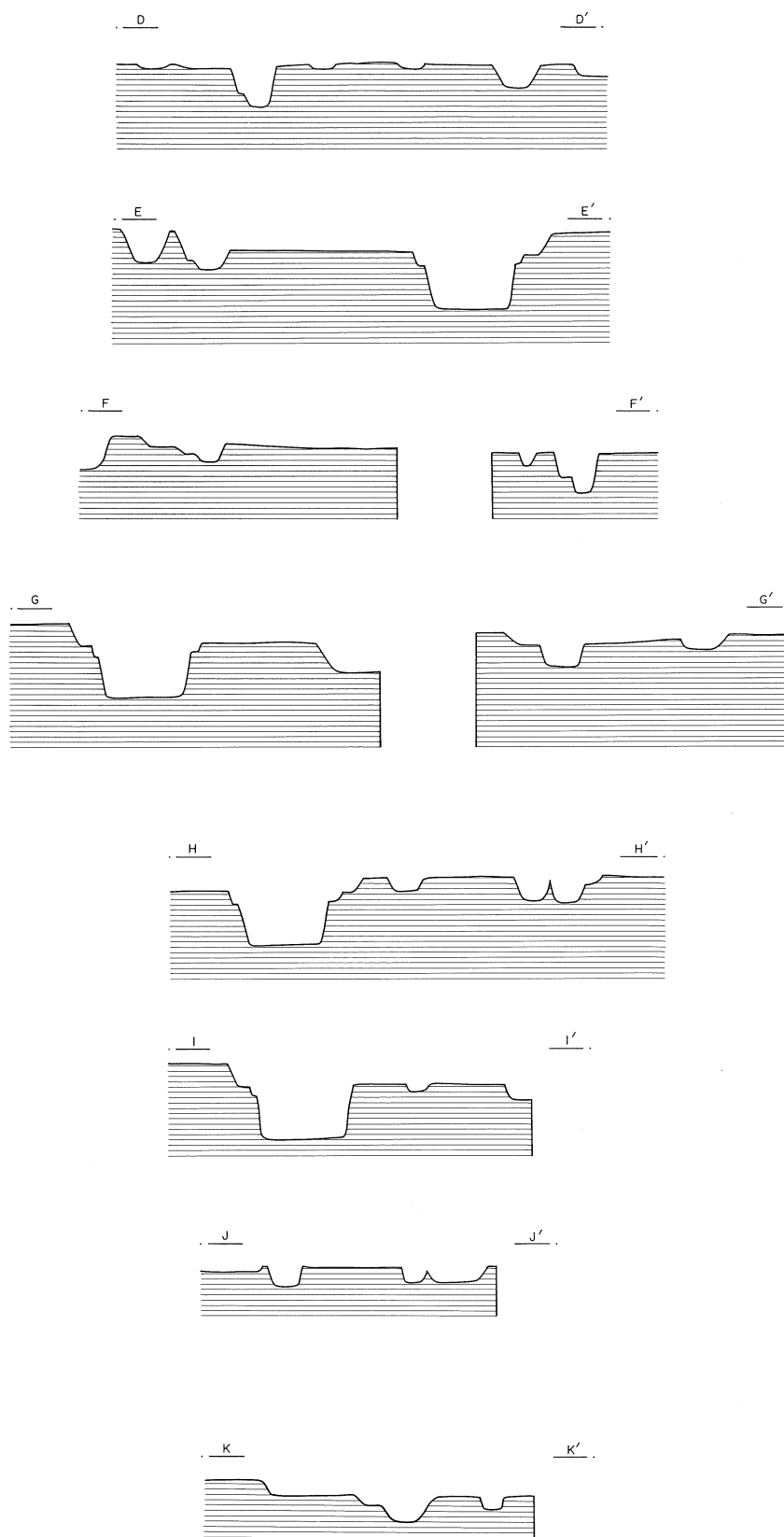
第75図 SH1・SH2・SH3・SH4実測図



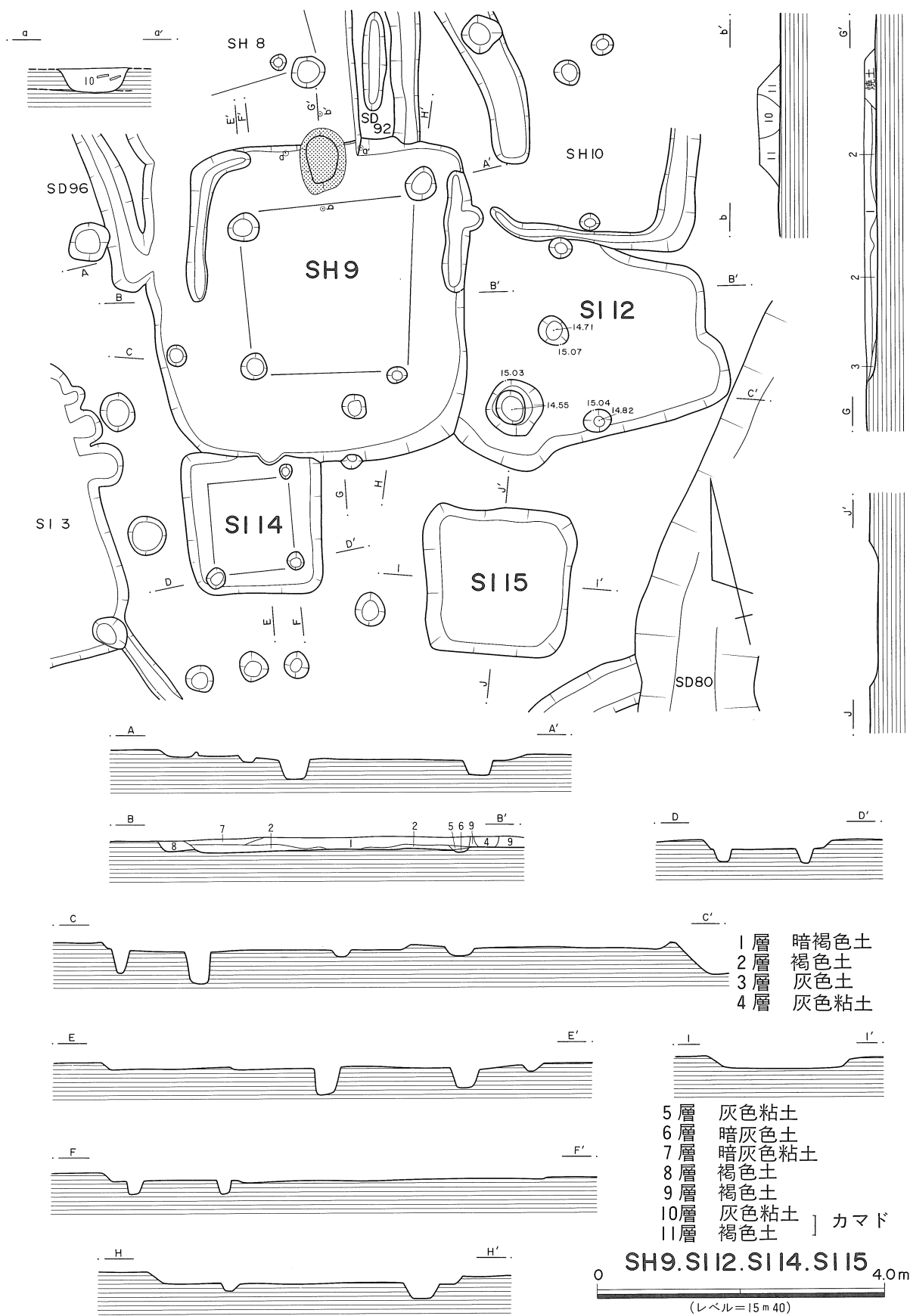
第76図 SH5・SH8実測図



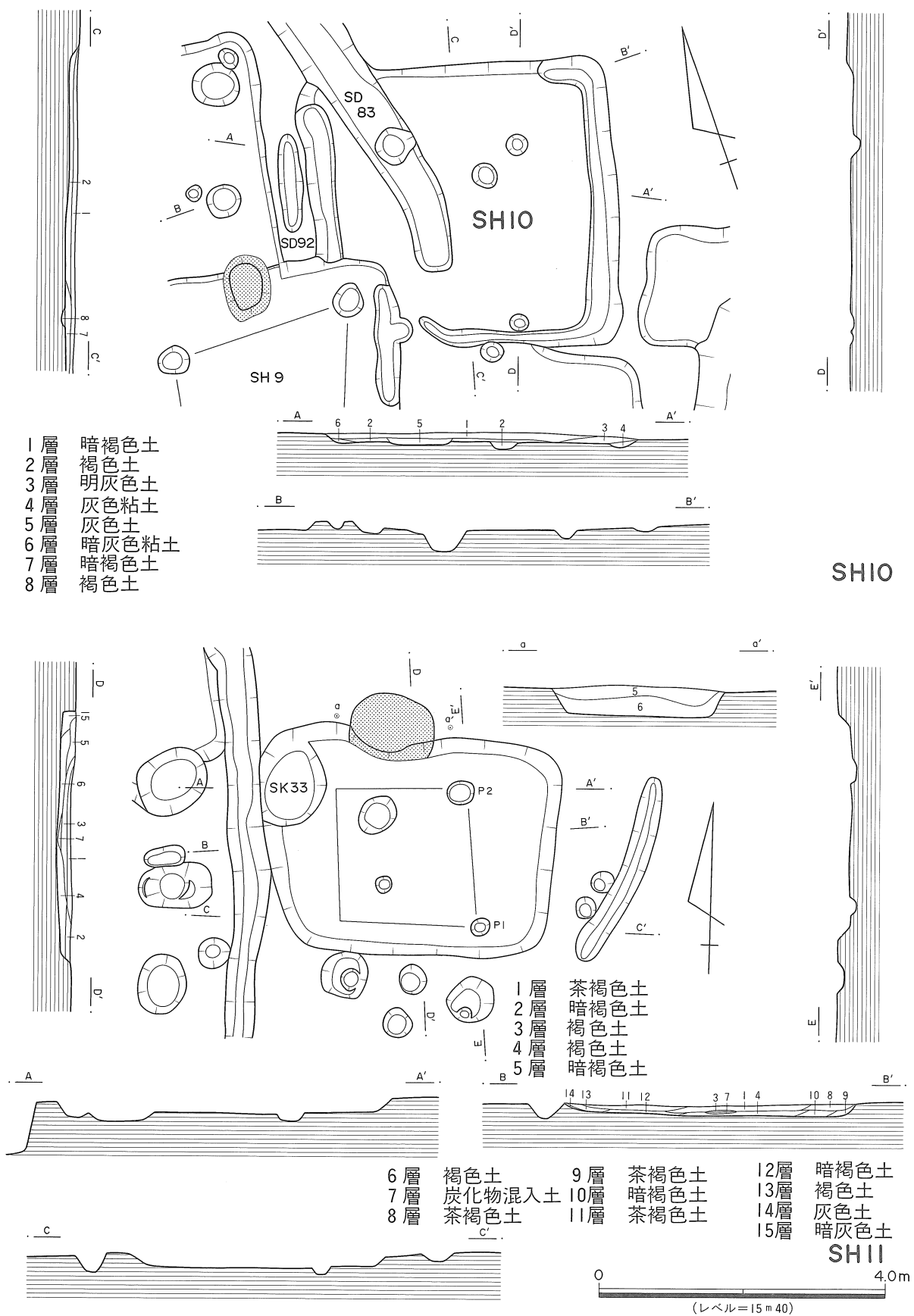
第77図 SH 7・SH14・SH22実測図



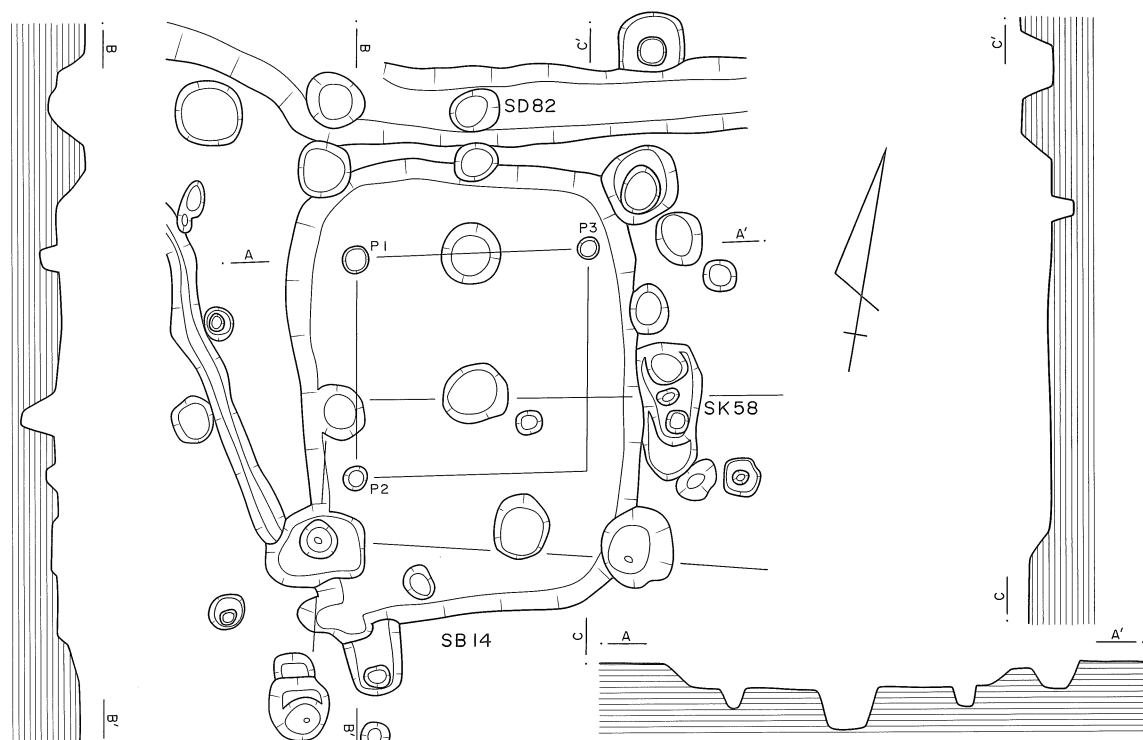
第78図 SH 7 ・ SH14 ・ SH22実測図



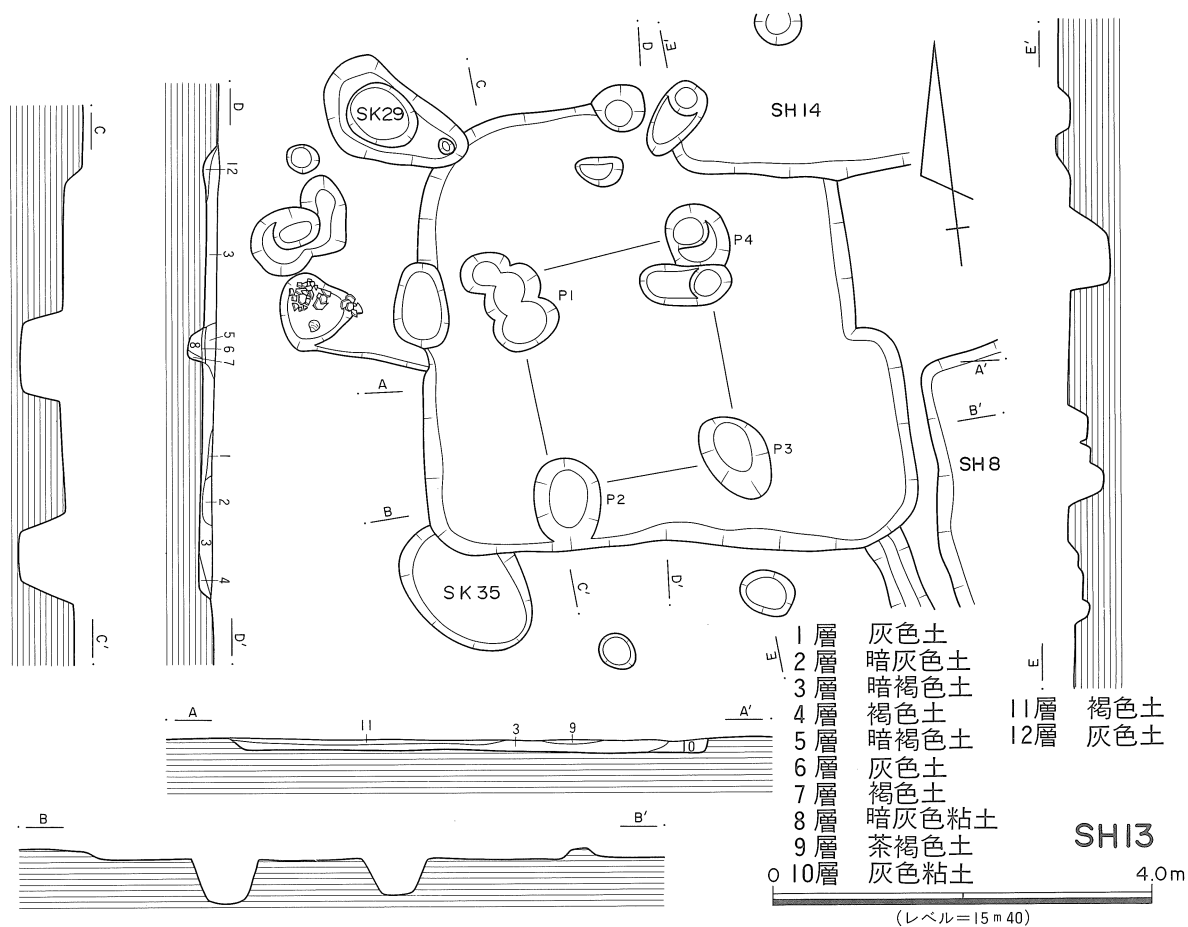
第79図 SH 9・SI12・SI14・SI15実測図



第80図 SH10・SH11実測図

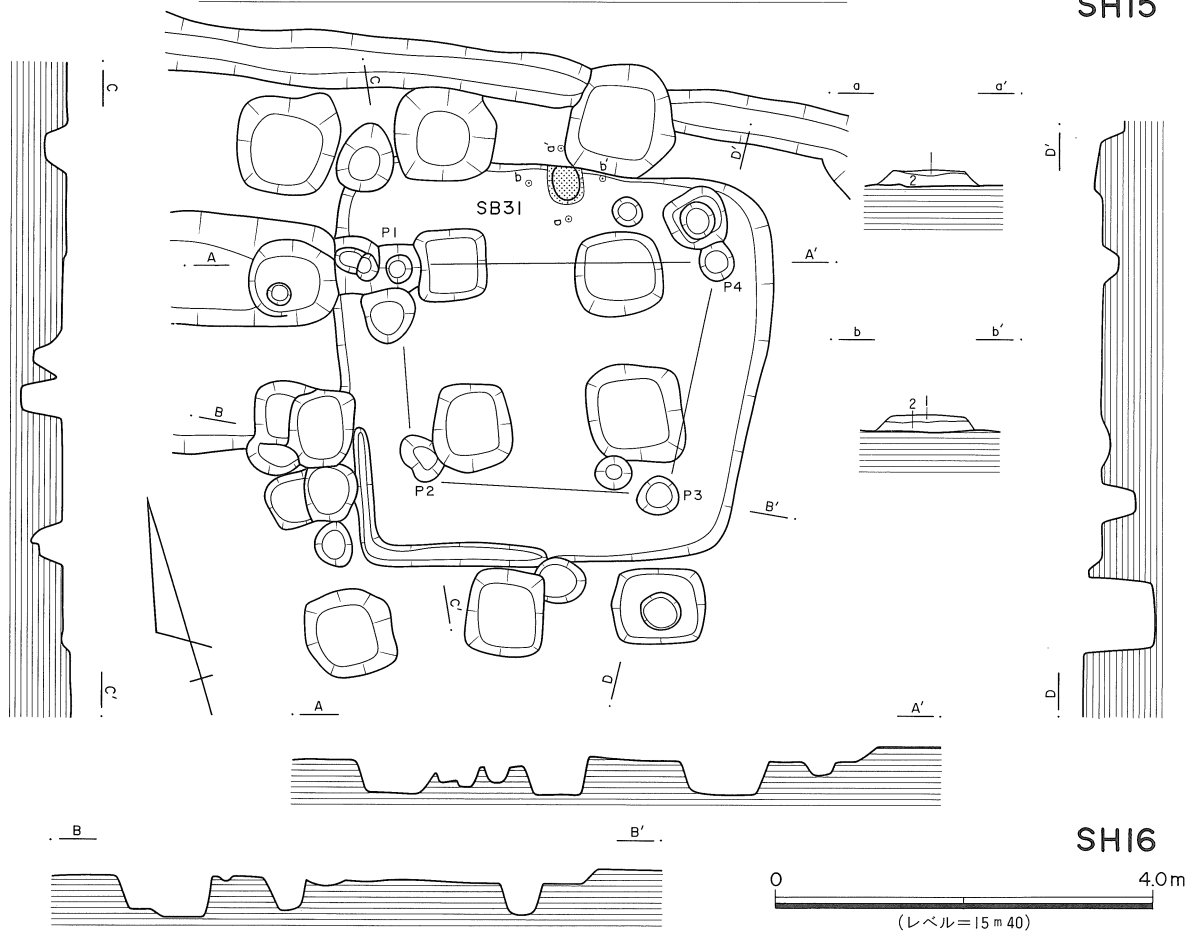
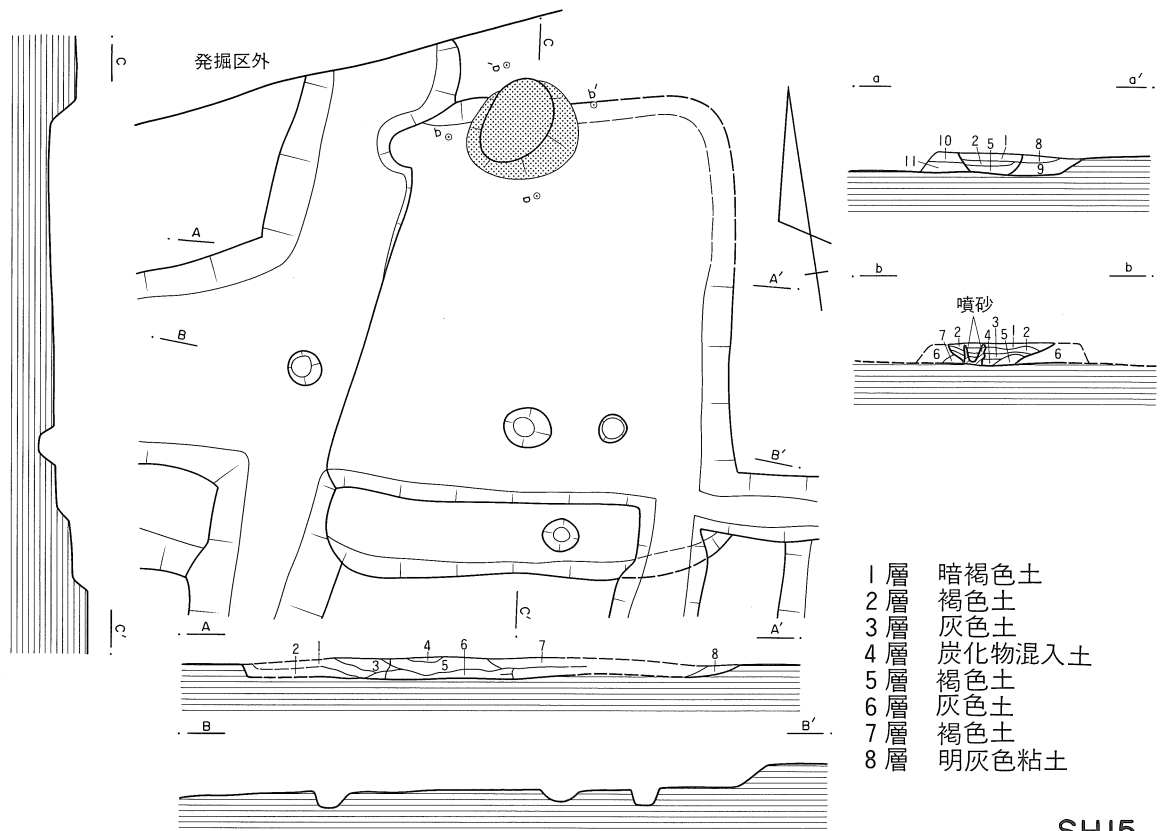


SH12

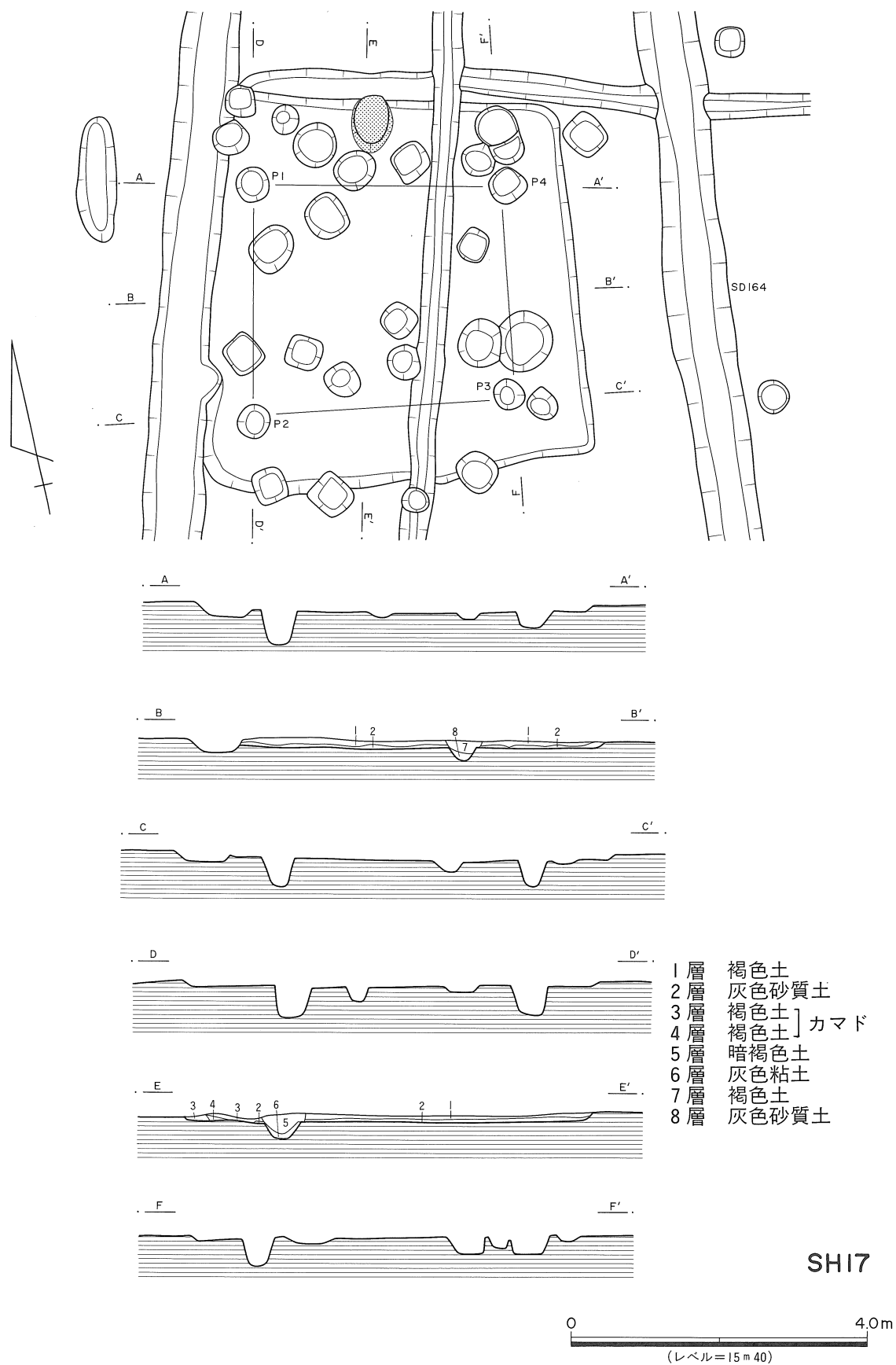


SH13

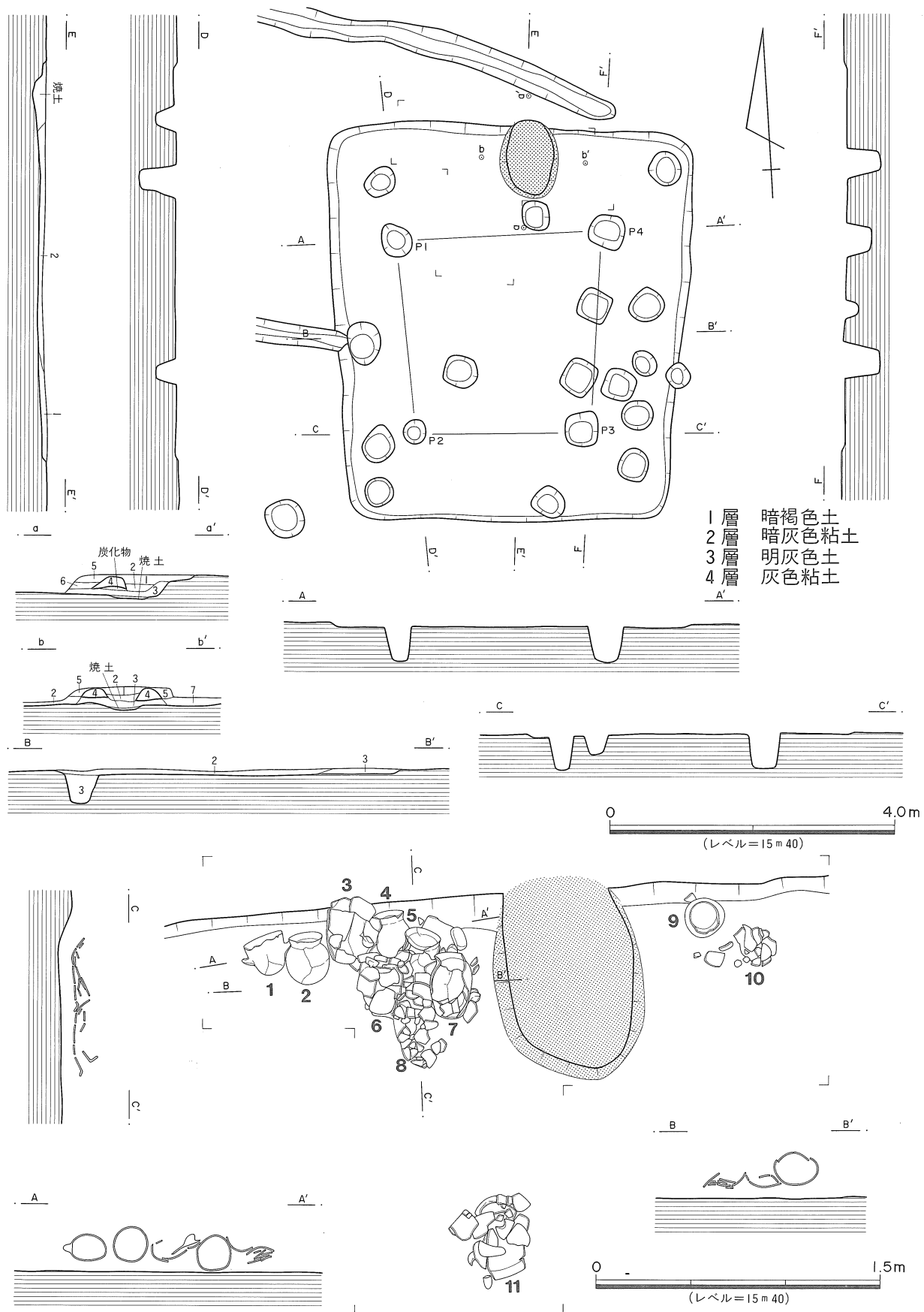
第81図 SH12・SH13実測図



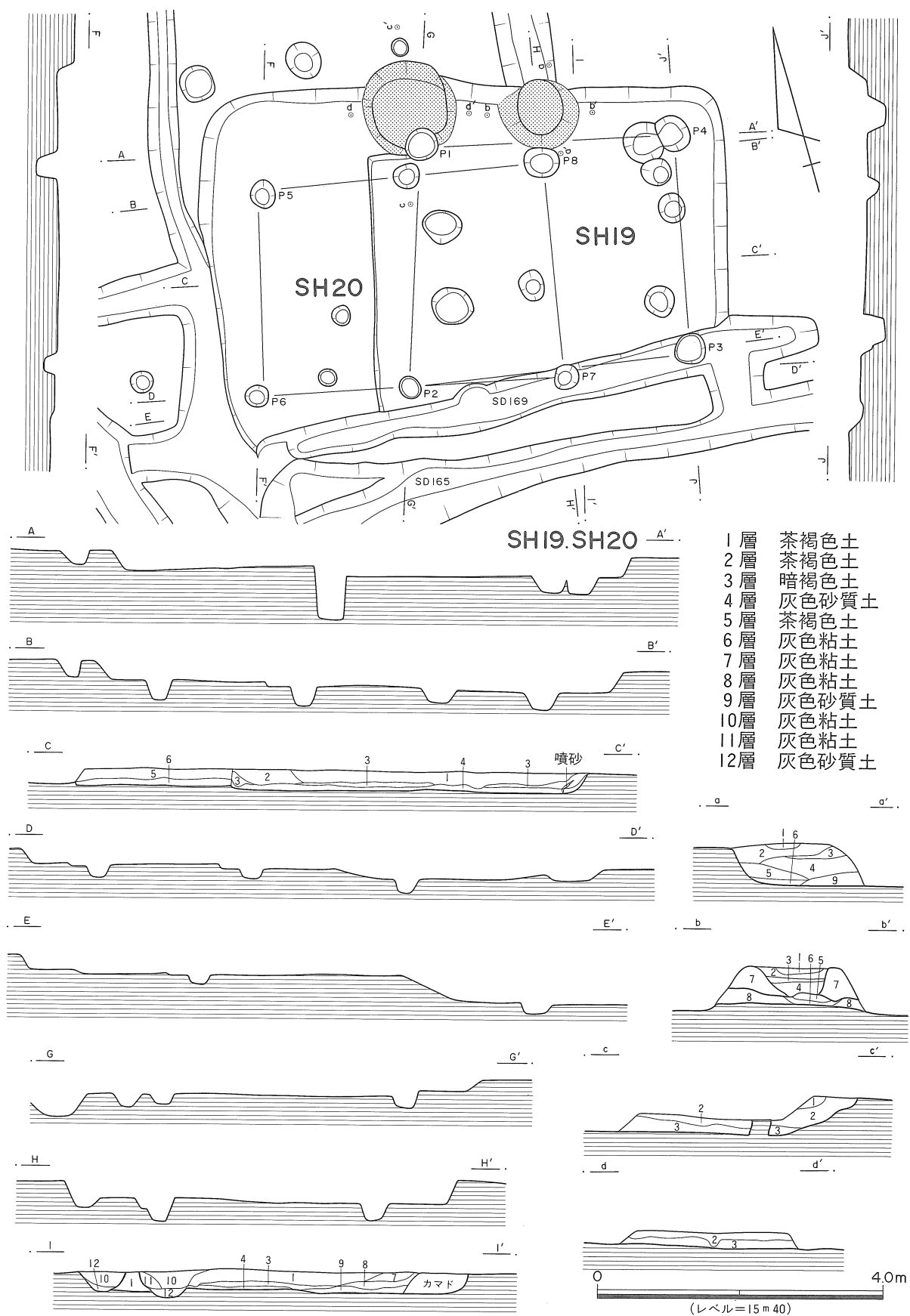
第82図 SH15・SH16実測図



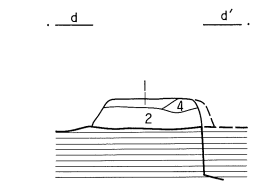
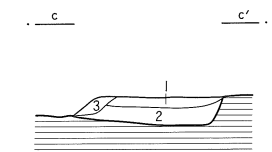
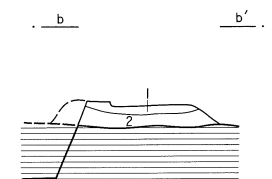
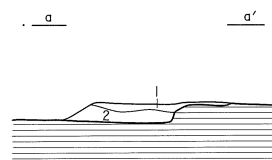
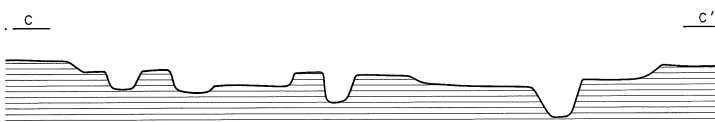
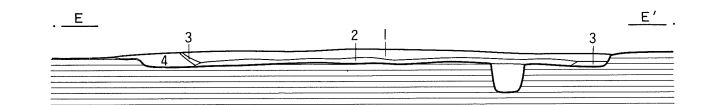
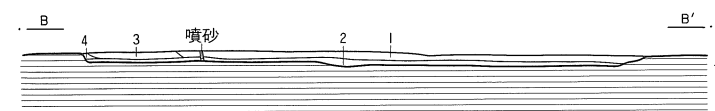
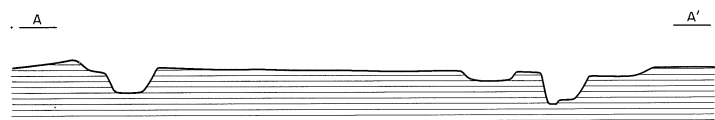
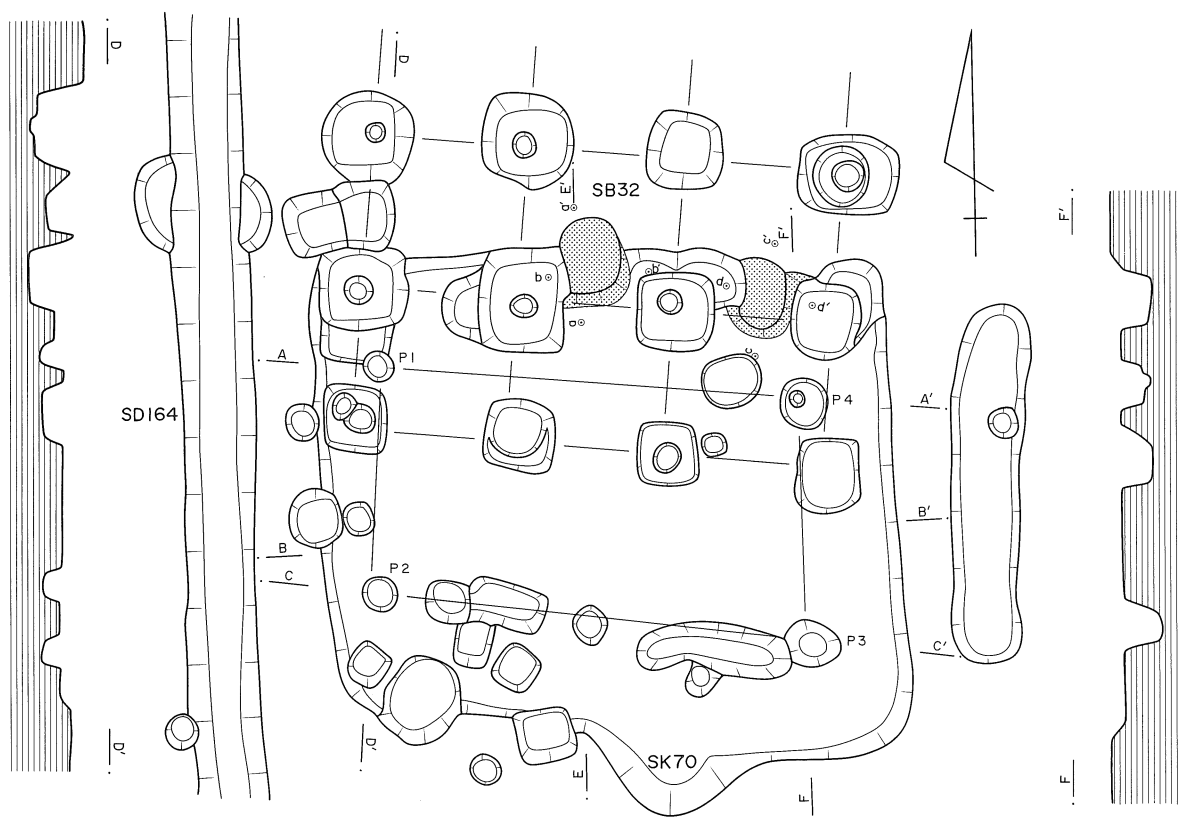
第83図 SH17実測図



第84図 SH18実測図



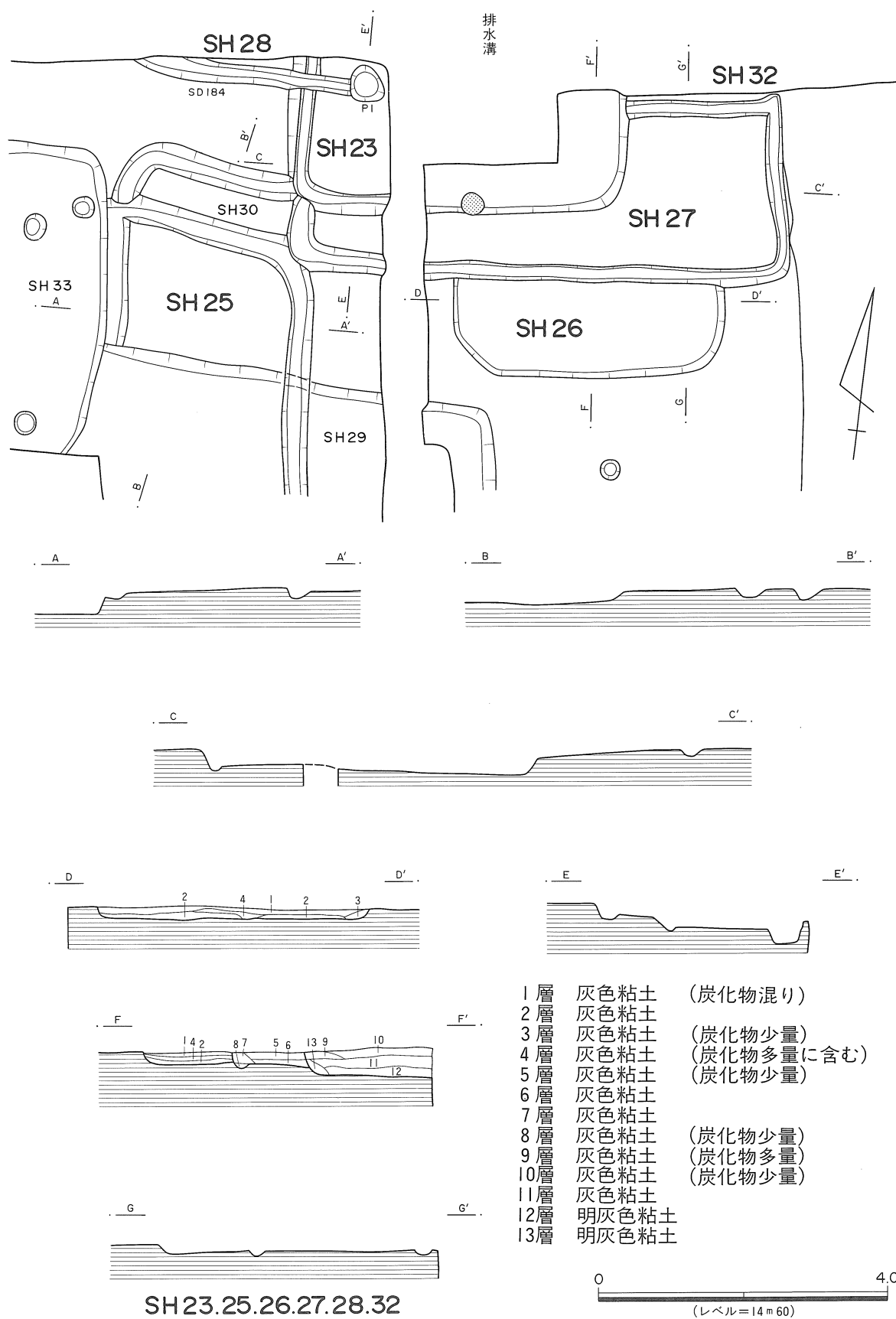
第85図 SH19・SH20実測図



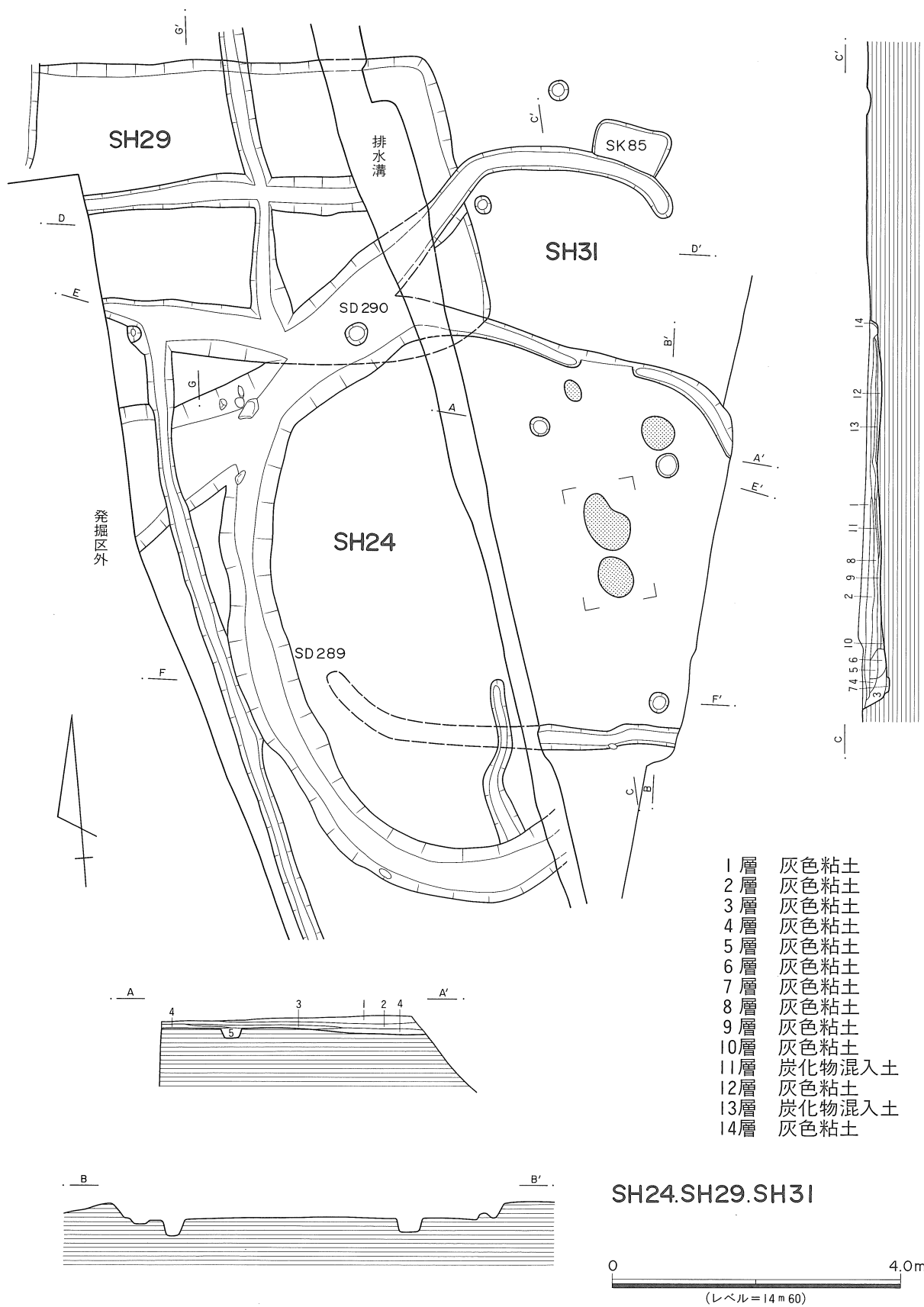
- 1 層 茶褐色土
- 2 層 明灰色砂質粘土
- 3 層 明灰色砂質粘土
- 4 層 明灰色砂質粘土
- 5 層 明灰色砂質粘土

0 4.0m
(レベル=15 m 40)

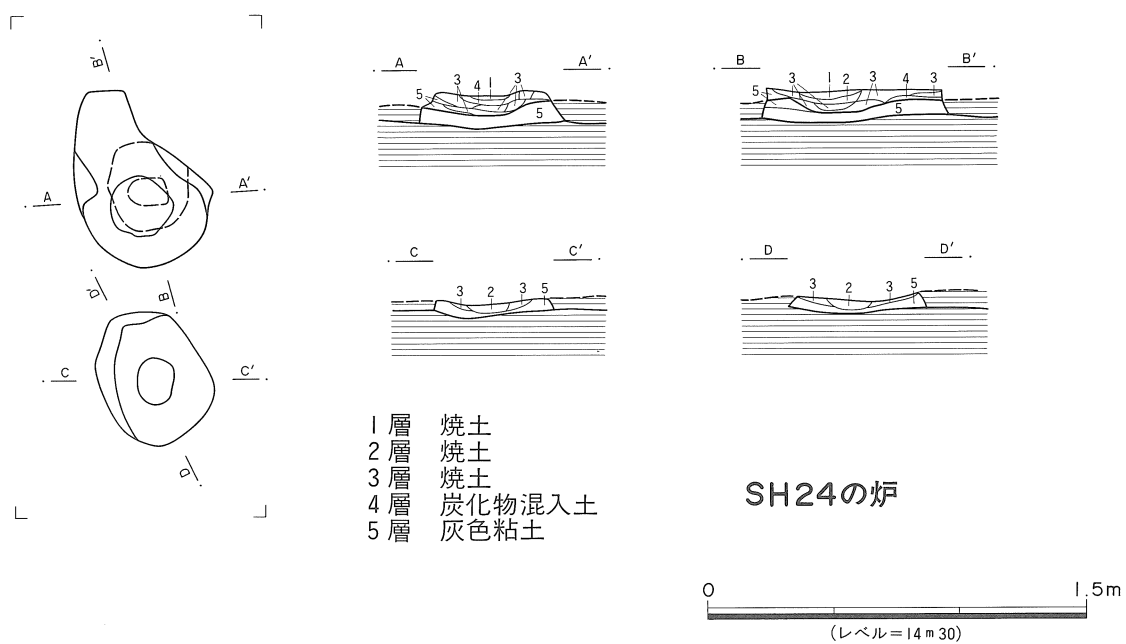
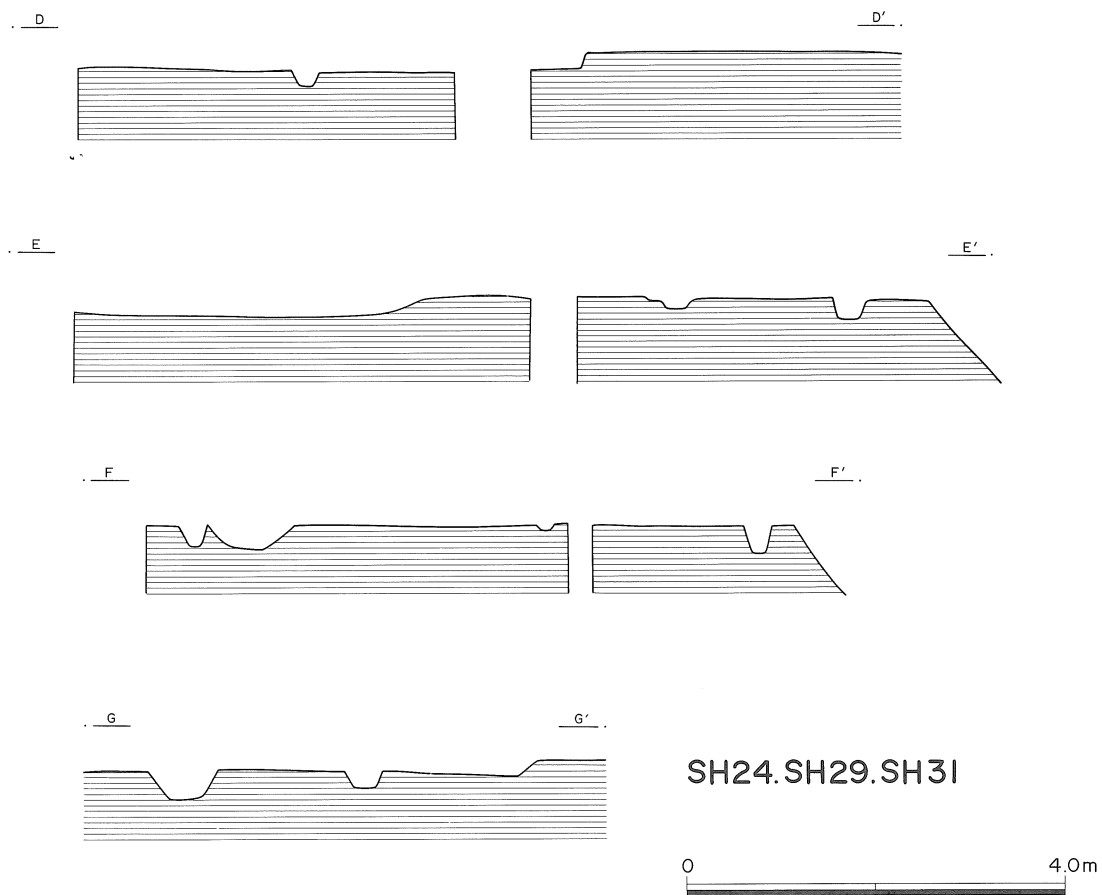
第86図 SH21実測図



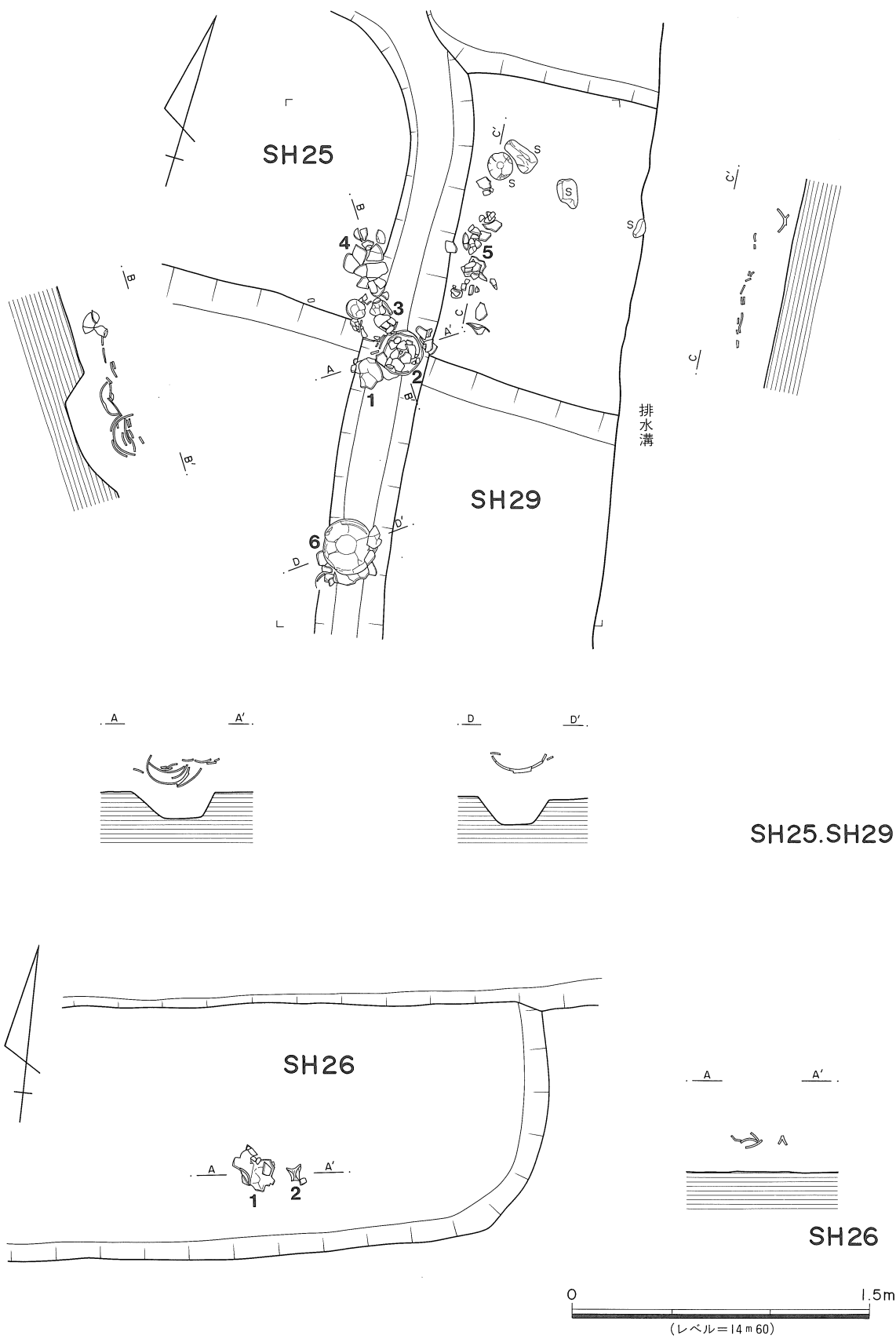
第87図 SH23・25・26・27・28・32実測図



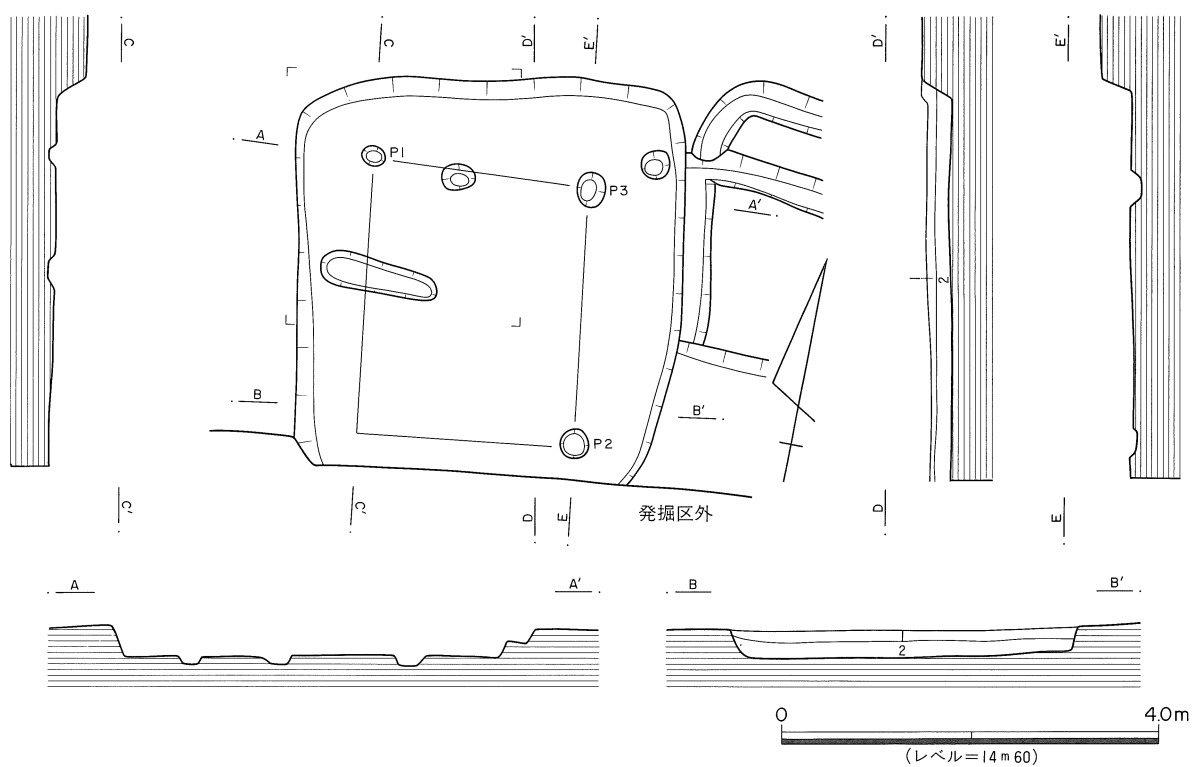
第88図 SH24・SH29・SH31実測図



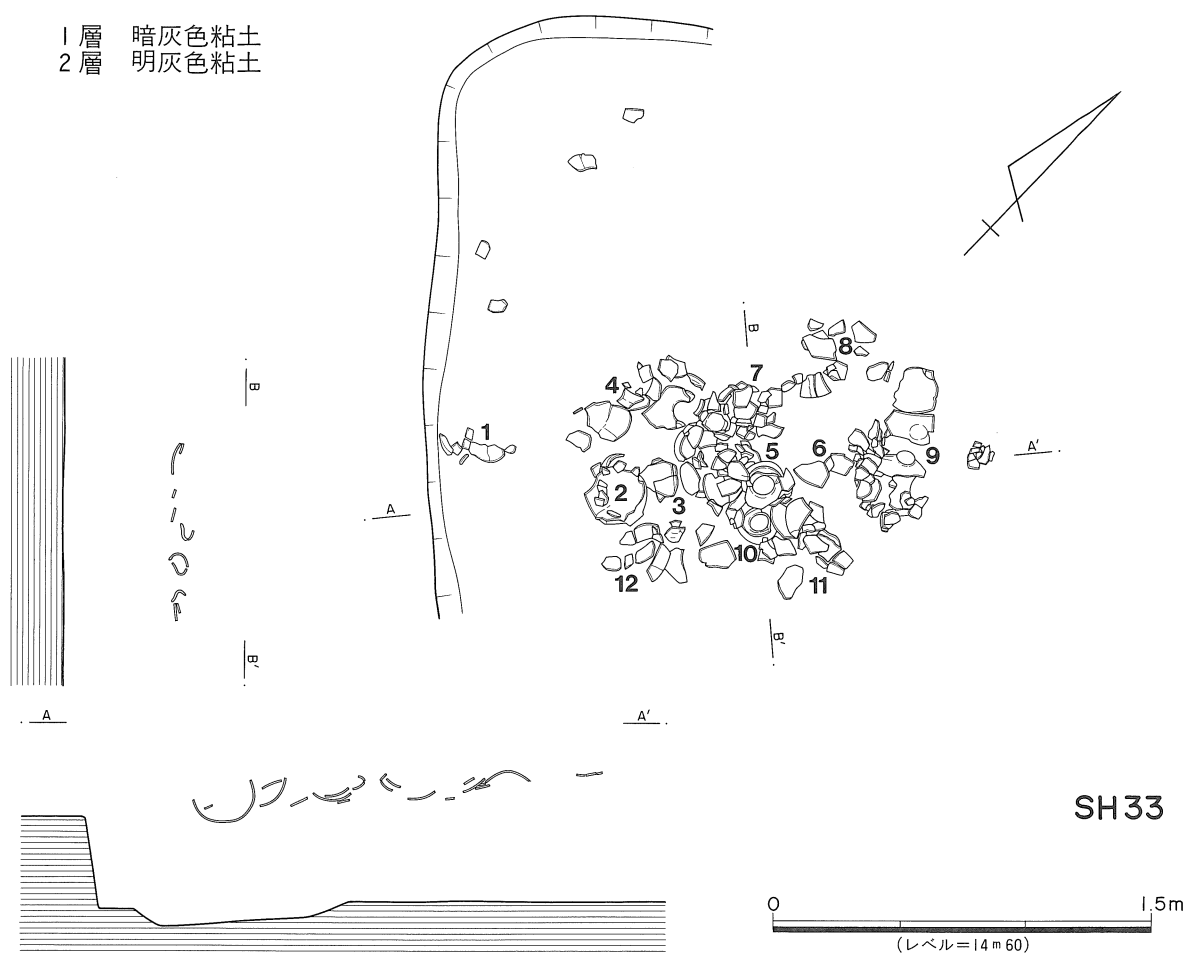
第89図 SH24・SH29・SH31実測図



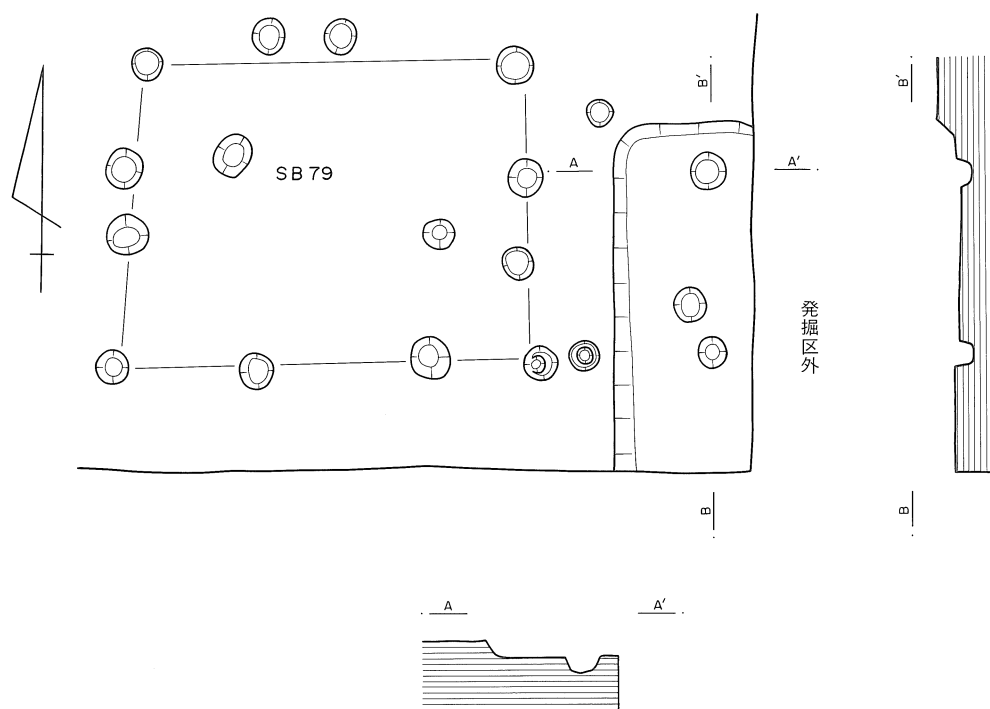
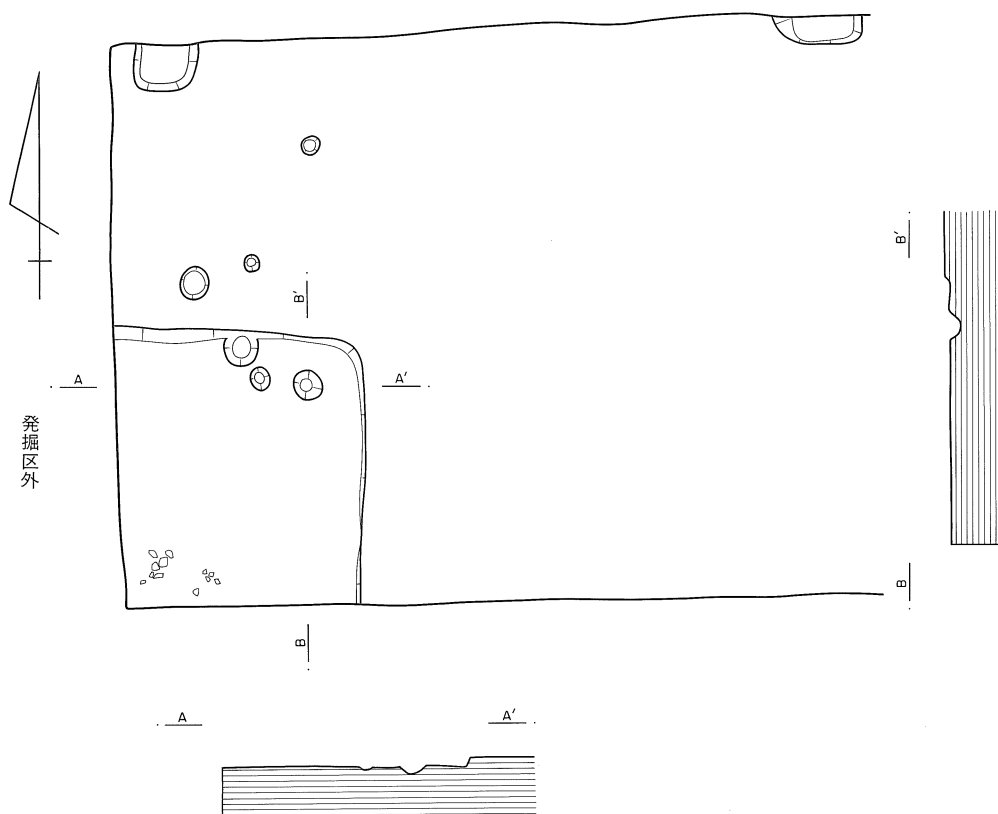
第90図 SH25・SH26・SH29実測図



1層 暗灰色粘土
2層 明灰色粘土

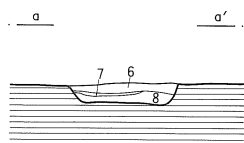
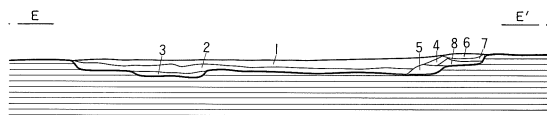
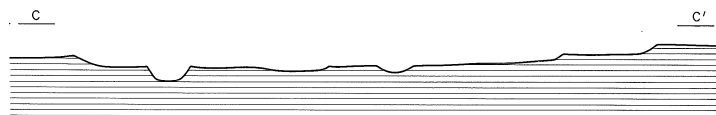
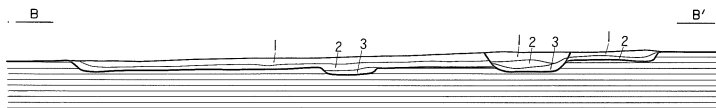
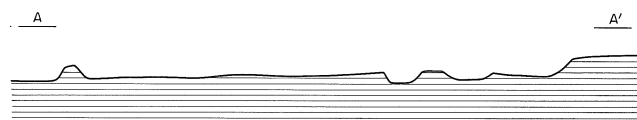
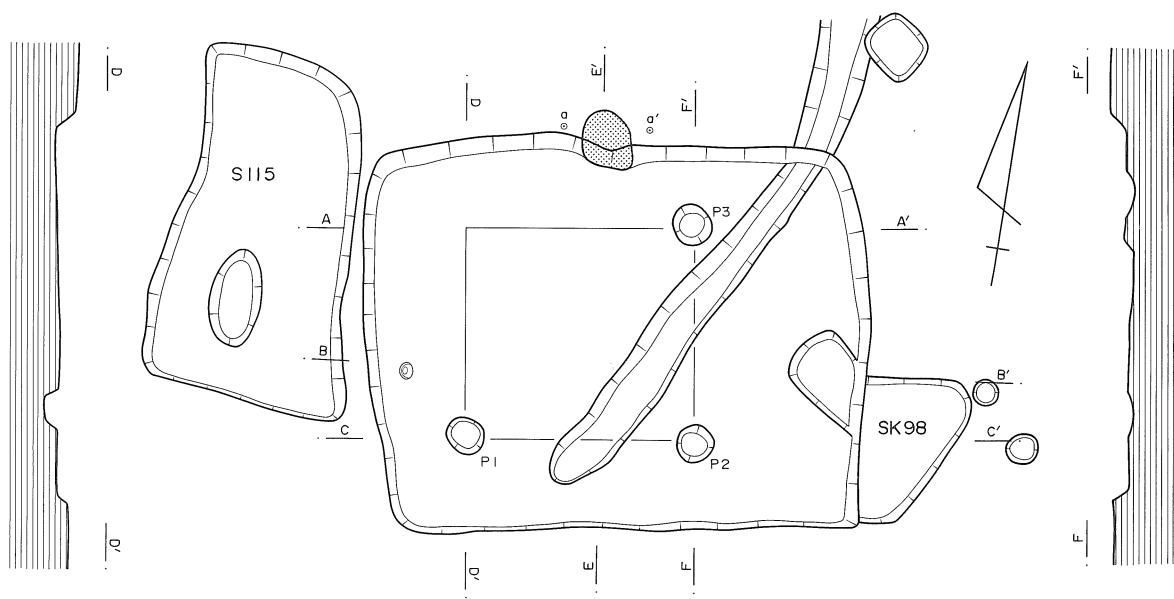


第91図 SH33実測図



0 4.0m
(レベル=15 m 40)

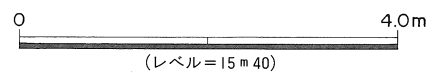
第92図 SH34・SH39実測図



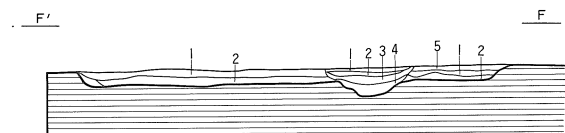
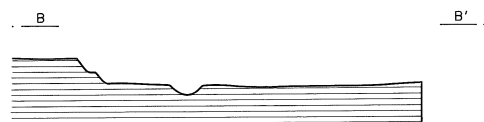
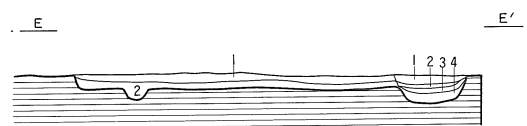
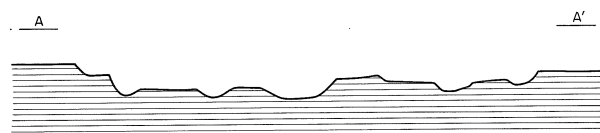
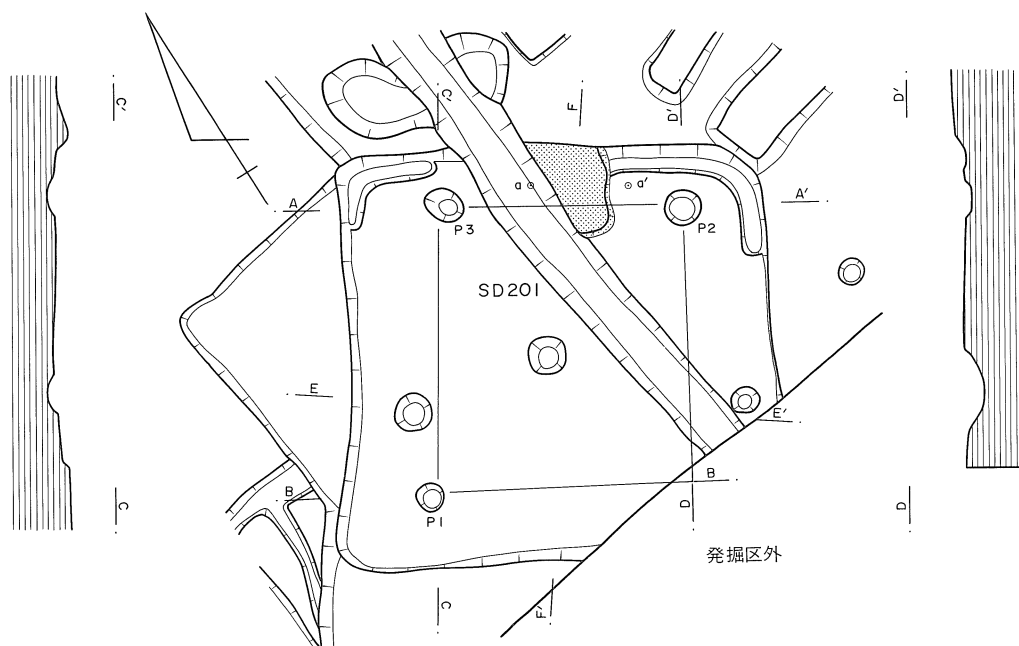
カマド

- 1 層 褐色土
- 2 層 灰色砂質土
- 3 層 褐色土
- 4 層 炭化物混入土
- 5 層 灰色砂質土
- 6 層 暗褐色土
- 7 層 灰色砂質土
- 8 層 灰色砂質土

SH35

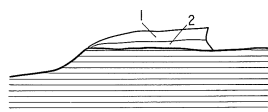


第93図 SH35実測図

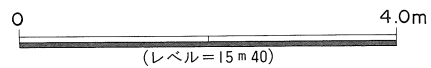


- | | |
|-----|--------|
| 1 層 | 褐色土 |
| 2 層 | 褐色土 |
| 3 層 | 褐色土 |
| 4 層 | 青灰色砂質土 |
| 5 層 | 褐色土 |

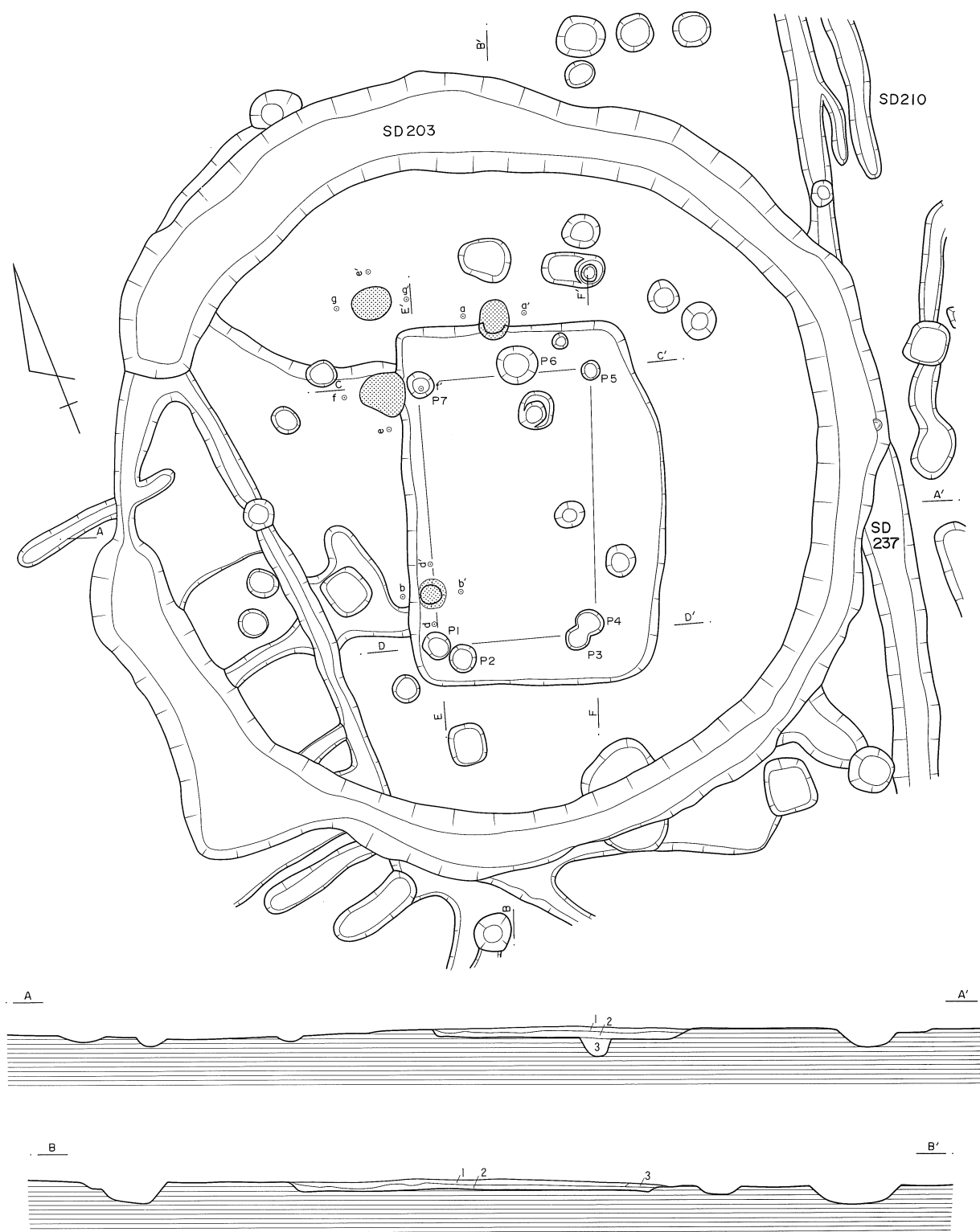
a a'



SH36

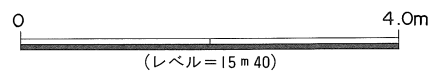


第94図 SH36実測図

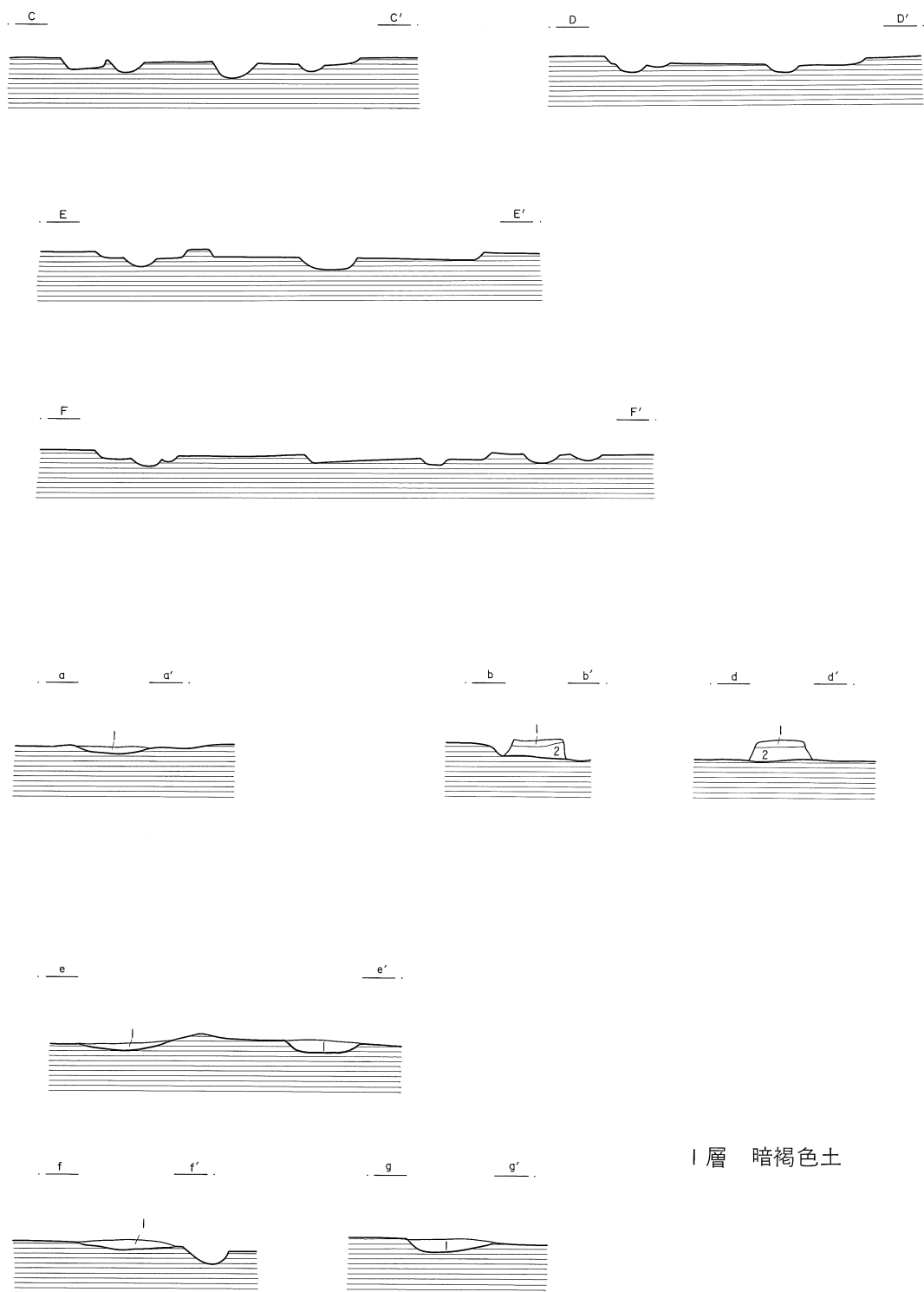


- 1 層 茶褐色土
- 2 層 褐色土
- 3 層 茶褐色土

SH37

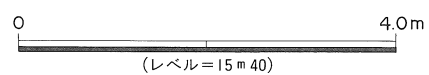


第95図 SH37実測図

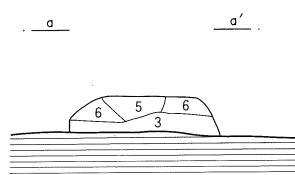
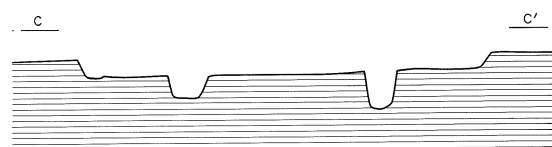
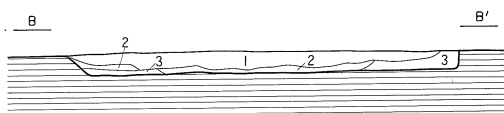
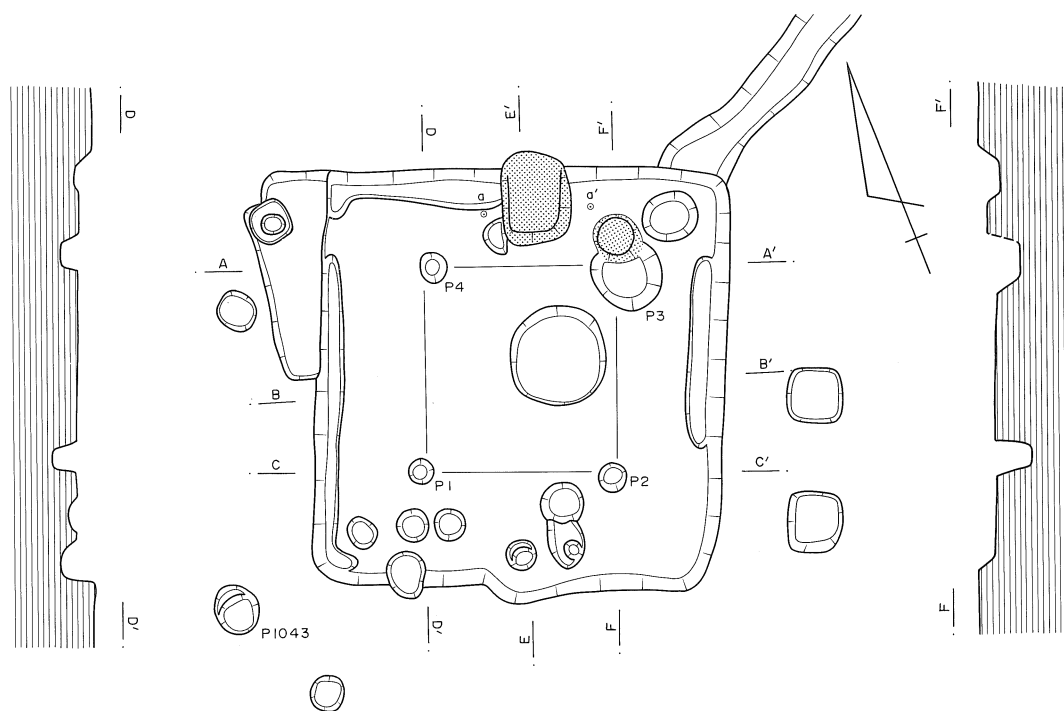


1層 暗褐色土

SH37

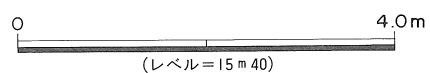


第96図 SH37実測図

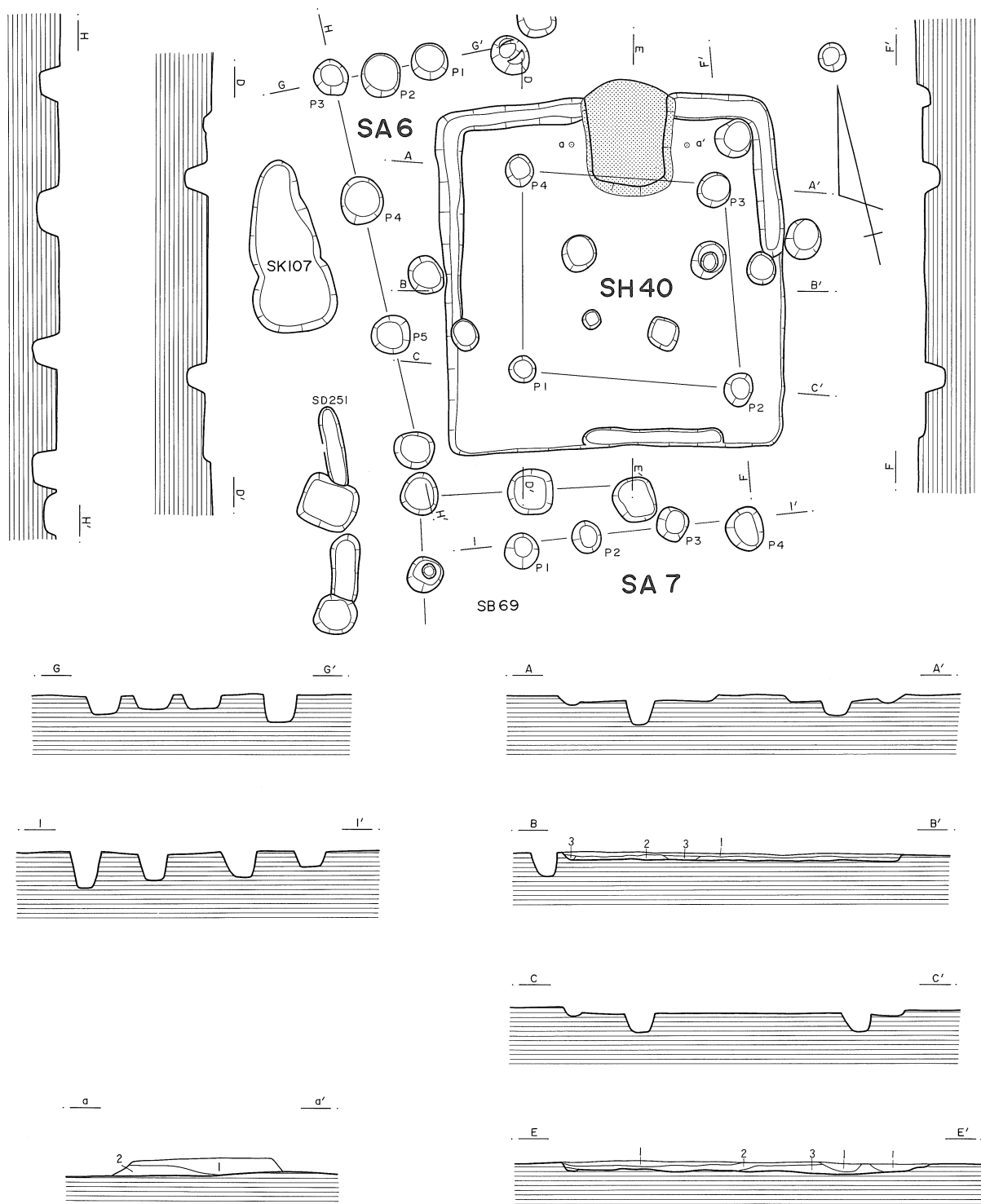


- | | |
|-----|------|
| 1 層 | 暗褐色土 |
| 2 層 | 茶褐色土 |
| 3 層 | 褐色土 |
| 4 層 | 暗褐色土 |
| 5 層 | 暗褐色土 |
| 6 層 | 暗褐色土 |
| 7 層 | 暗褐色土 |

SH38



第97図 SH38実測図

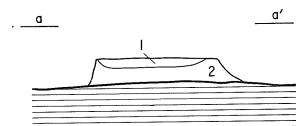
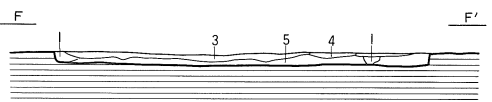
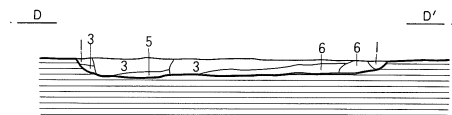
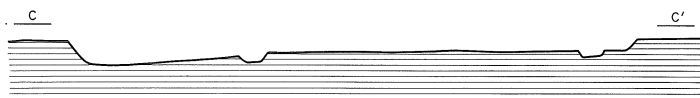
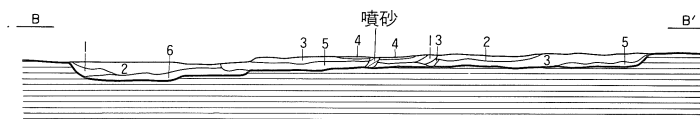
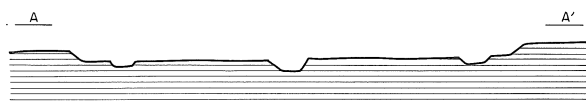
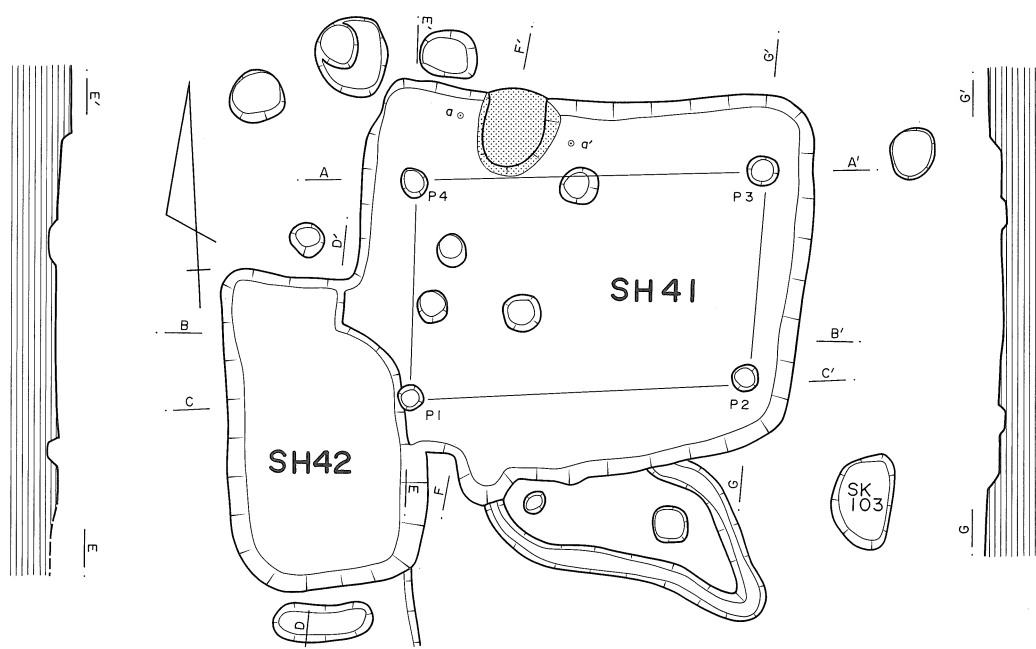


- 1 層 灰色砂質土
 2 層 灰色砂質土
 3 層 灰色砂質土
 4 層 青灰色砂質土

SH40.SA6.SA7

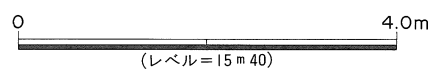
0 4.0m
 (レベル=15 m 40)

第98図 SH40・SA6・SA7実測図

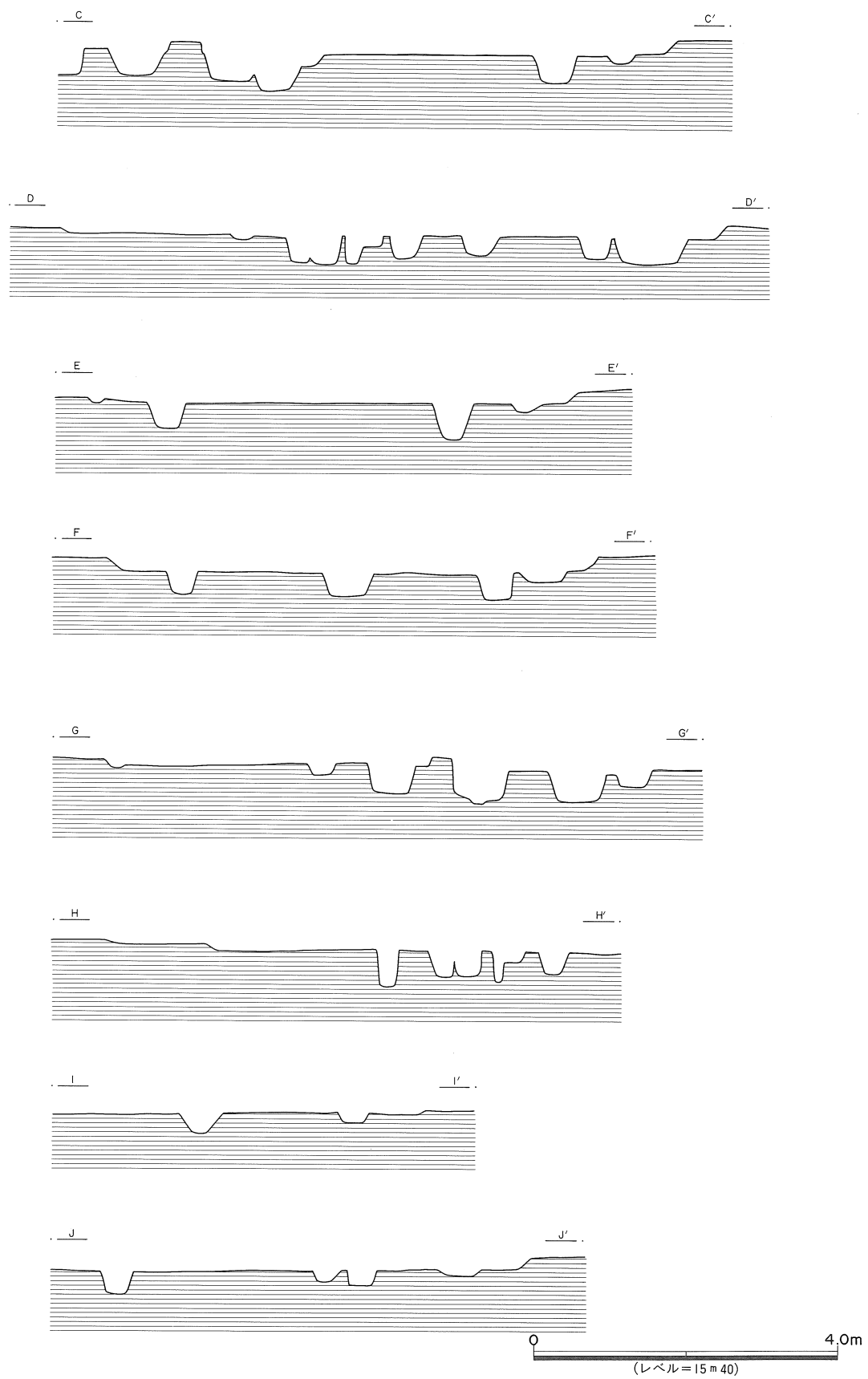


- 1層 灰色粘土
- 2層 灰色粘土
- 3層 灰色砂質土
- 4層 炭化物混入土
- 5層 灰色砂質土
- 6層 青灰色砂質土

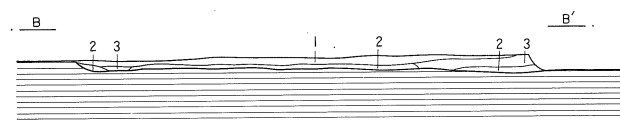
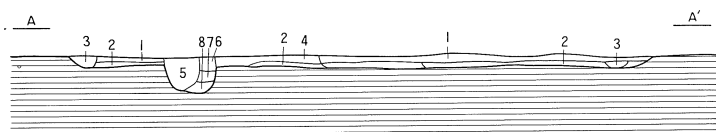
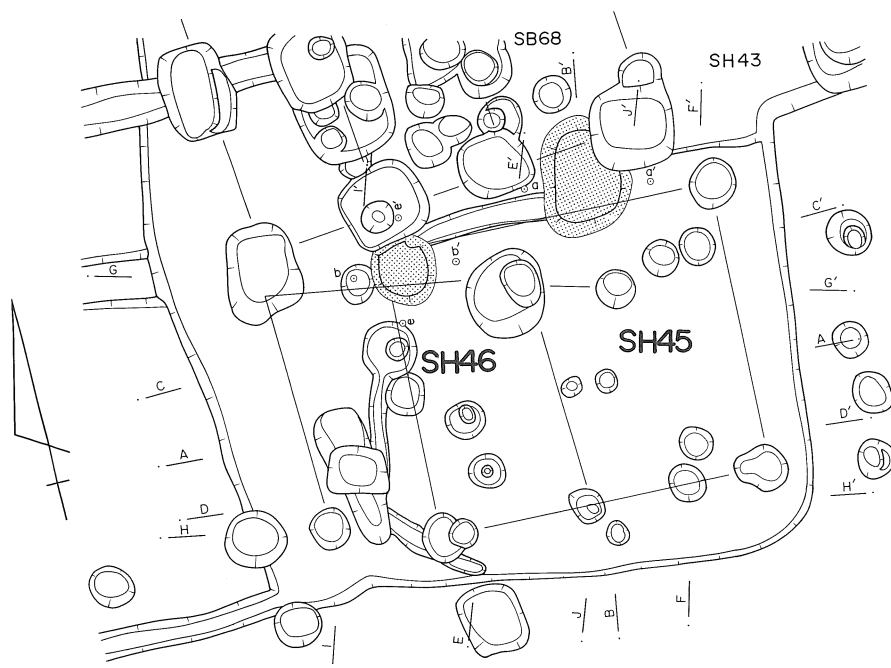
SH41.SH42



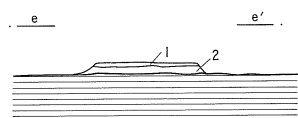
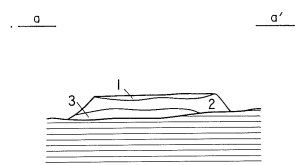
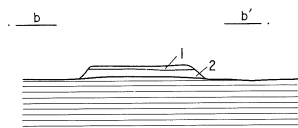
第99図 SH41・SH42実測図



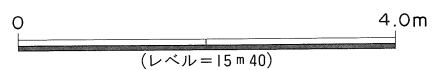
第101図 SH43・SH44実測図



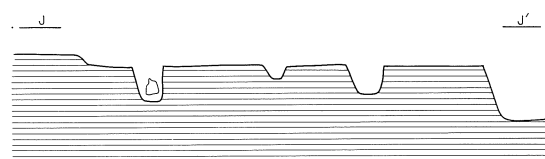
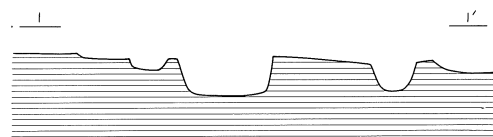
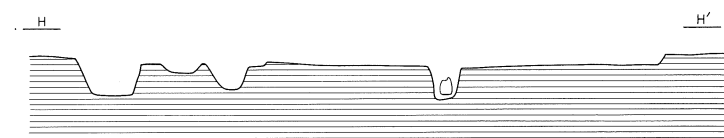
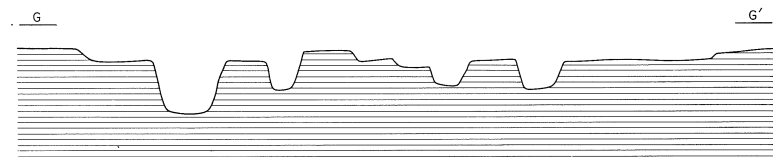
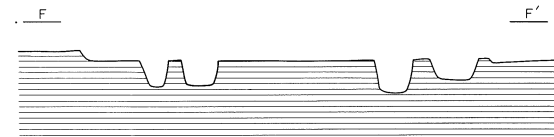
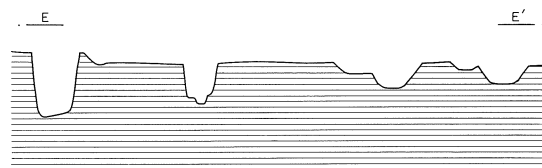
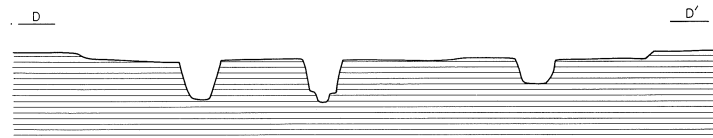
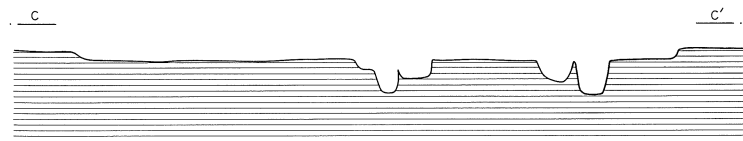
- | | |
|-----|------|
| 1 層 | 茶褐色土 |
| 2 層 | 褐色土 |
| 3 層 | 茶褐色土 |
| 4 層 | 茶褐色土 |
| 5 層 | 茶褐色土 |
| 6 層 | 灰色粘土 |
| 7 層 | 灰色粘土 |
| 8 層 | 灰色粘土 |



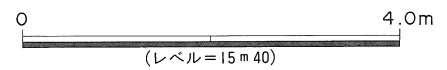
SH45・SH46



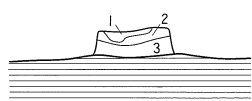
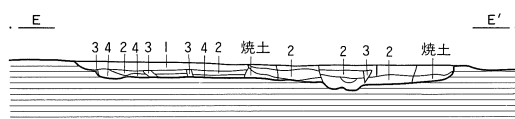
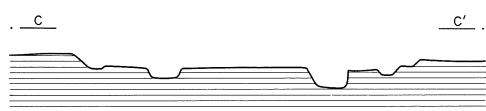
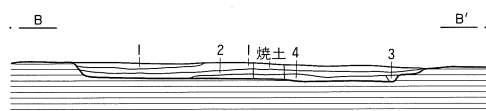
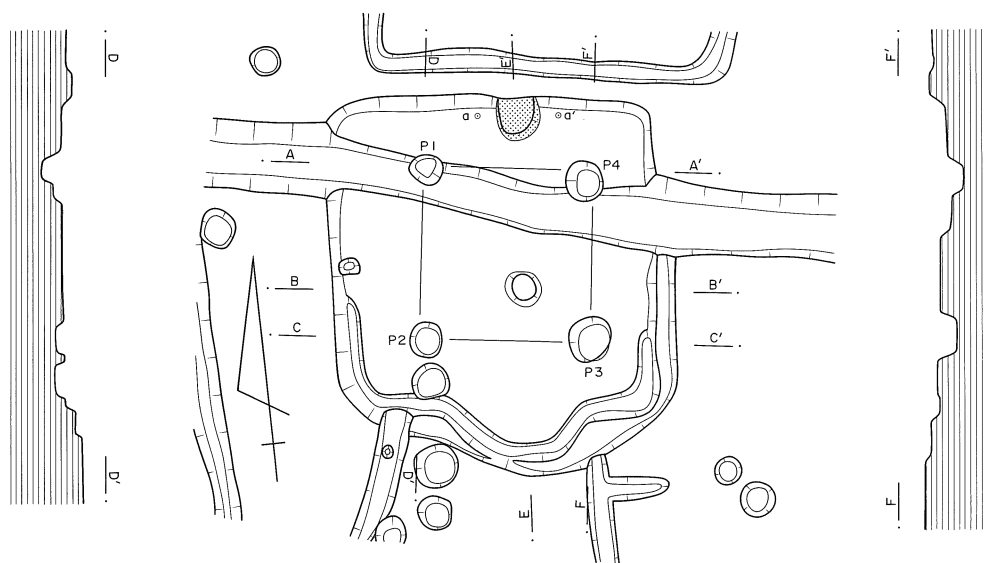
第102図 SH45・SH46実測図



SH45.SH46

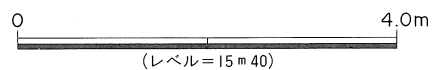


第103図 SH45・SH46実測図

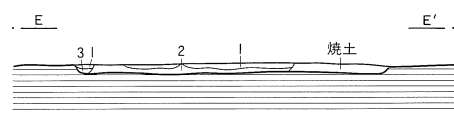
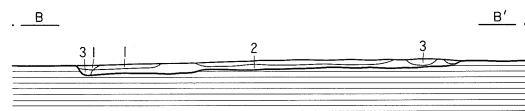
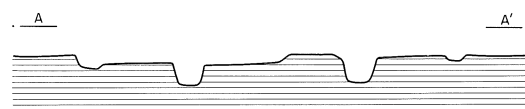
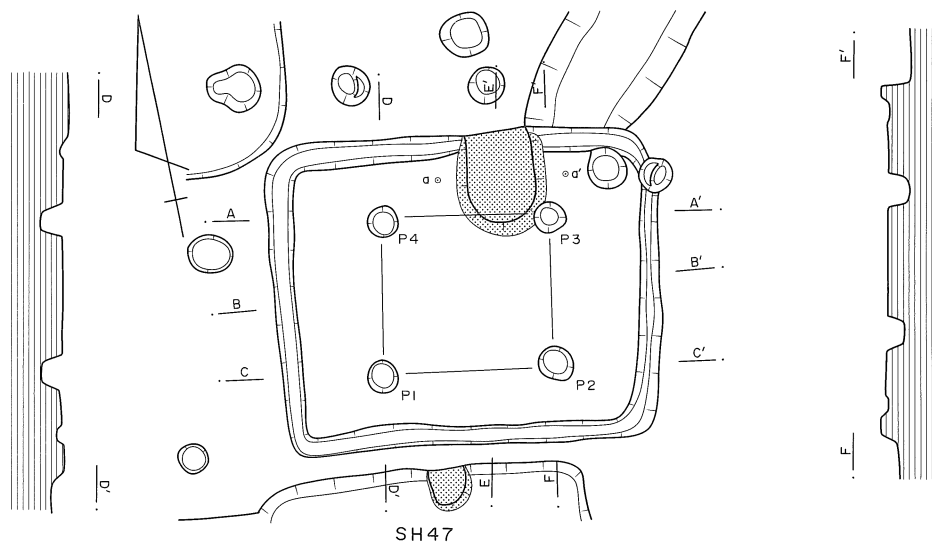


- 1 層 褐色土
- 2 層 褐色土
- 3 層 灰色粘土
- 4 層 明灰色粘土

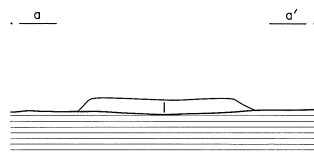
SH47



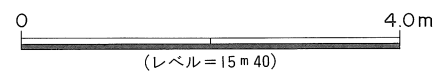
第104図 SH47実測図



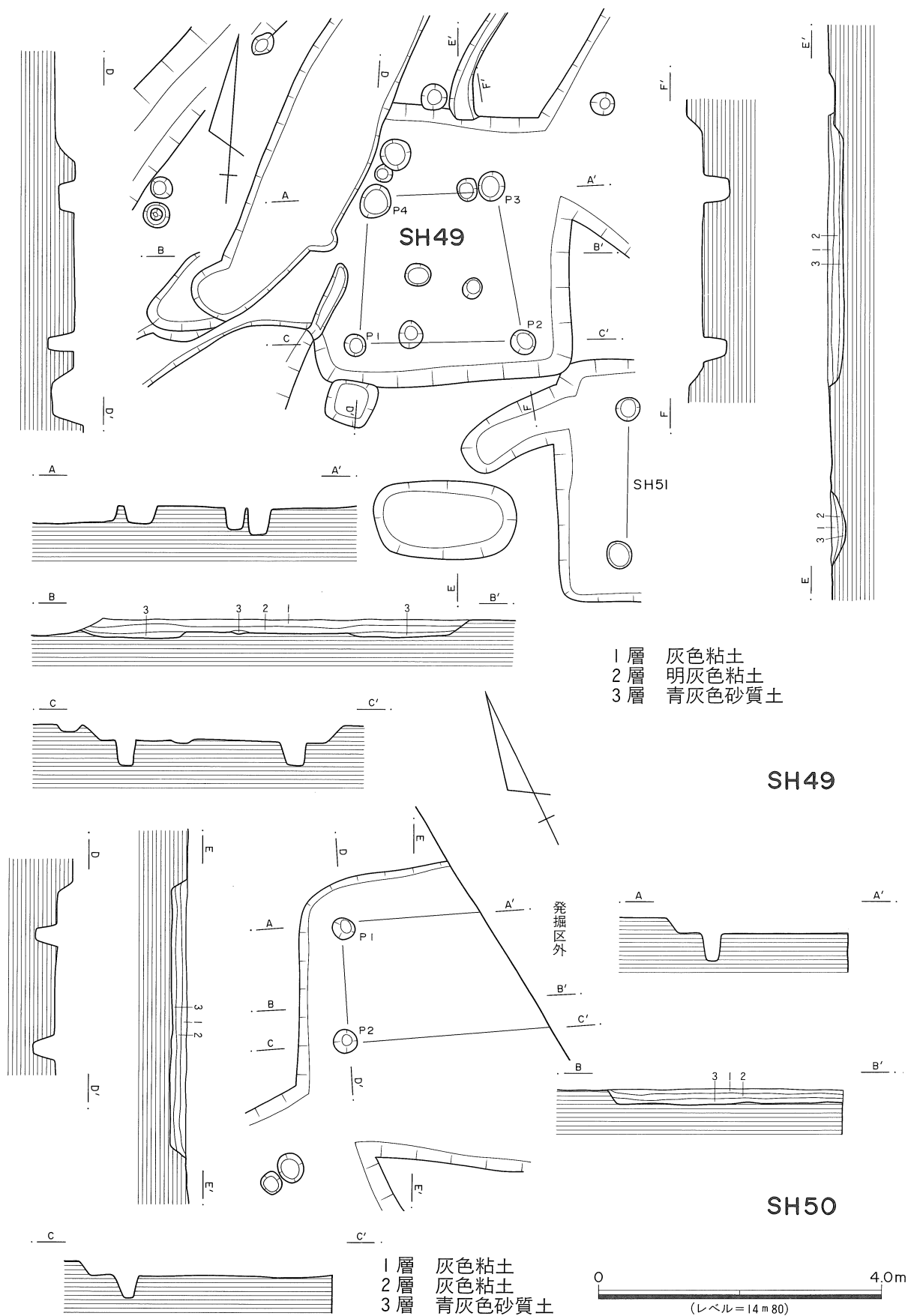
- 1 層 褐色土
- 2 層 褐色土
- 3 層 灰色粘土



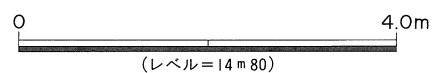
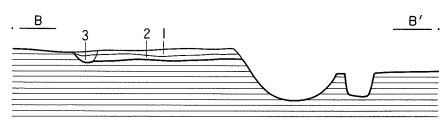
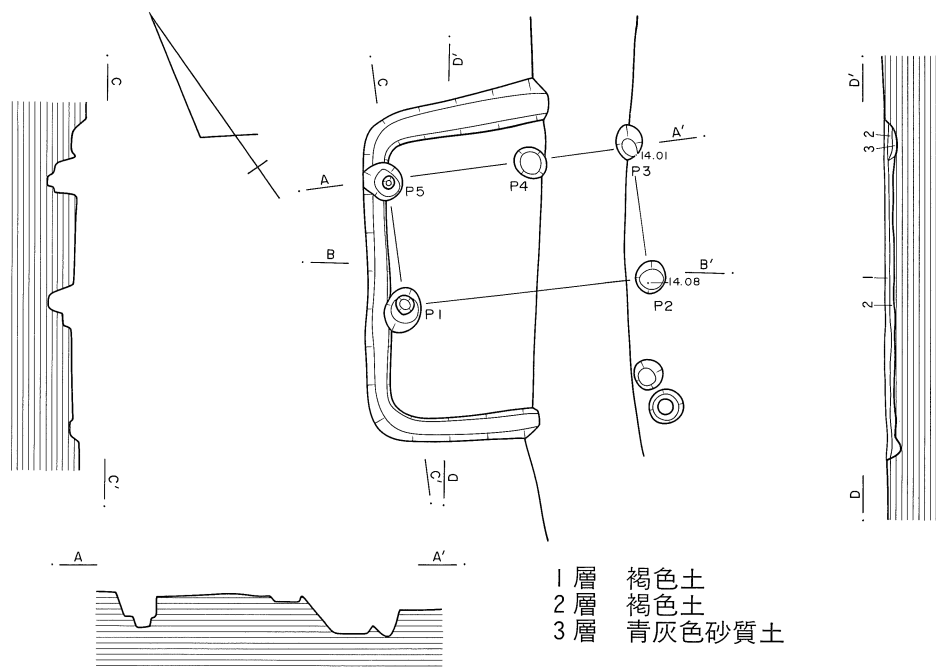
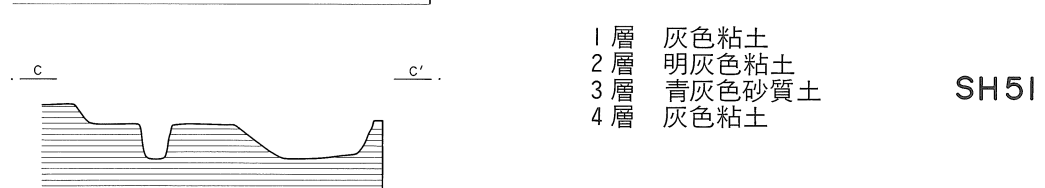
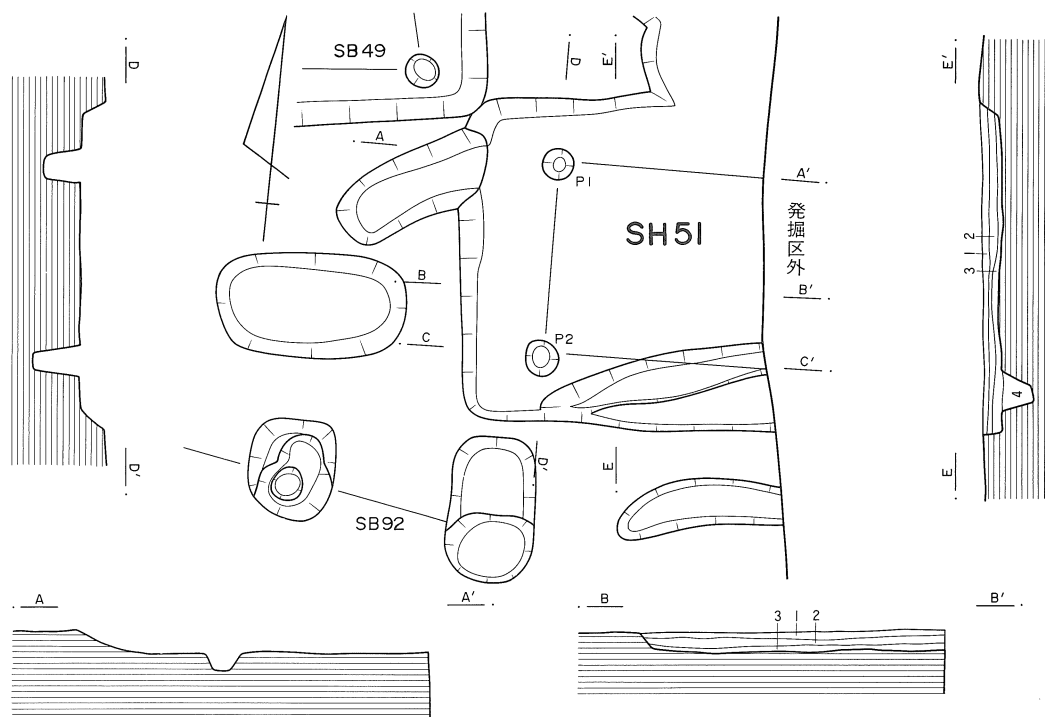
SH48



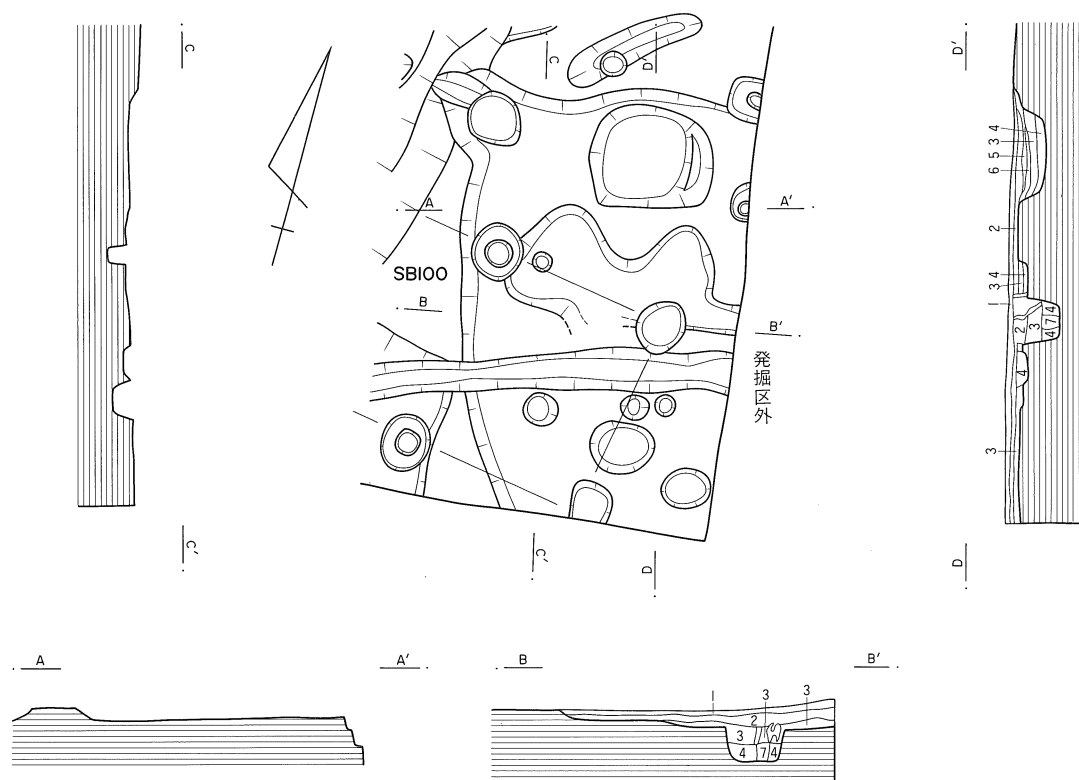
第105図 SH48実測図



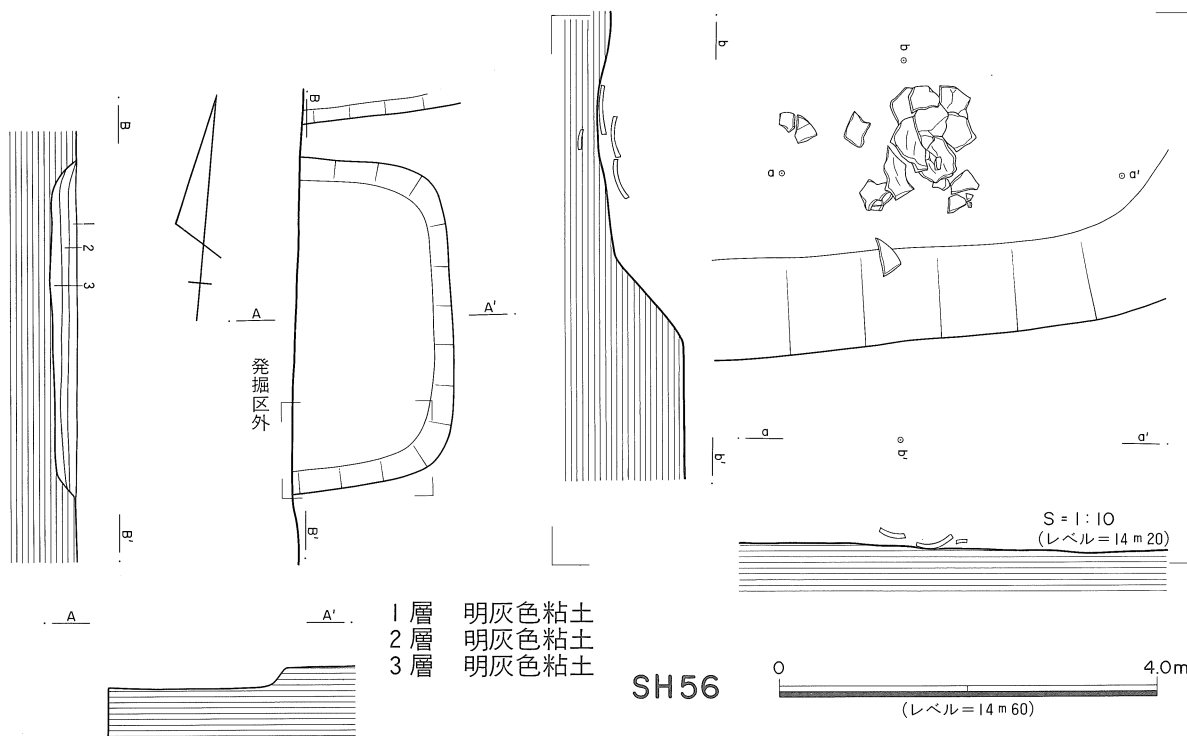
第106図 SH49・SH50実測図



第107図 SH51・SH53実測図



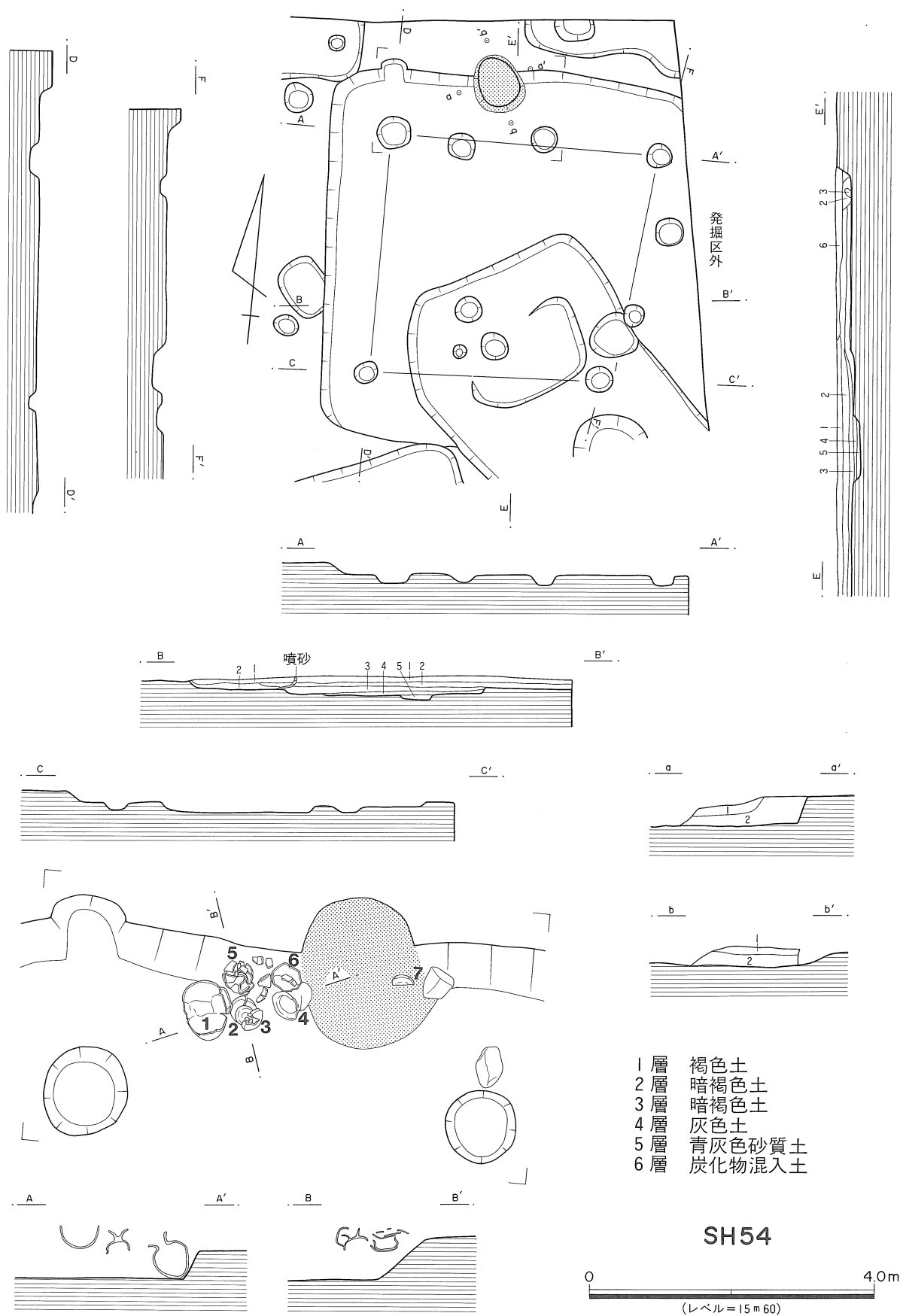
SH52



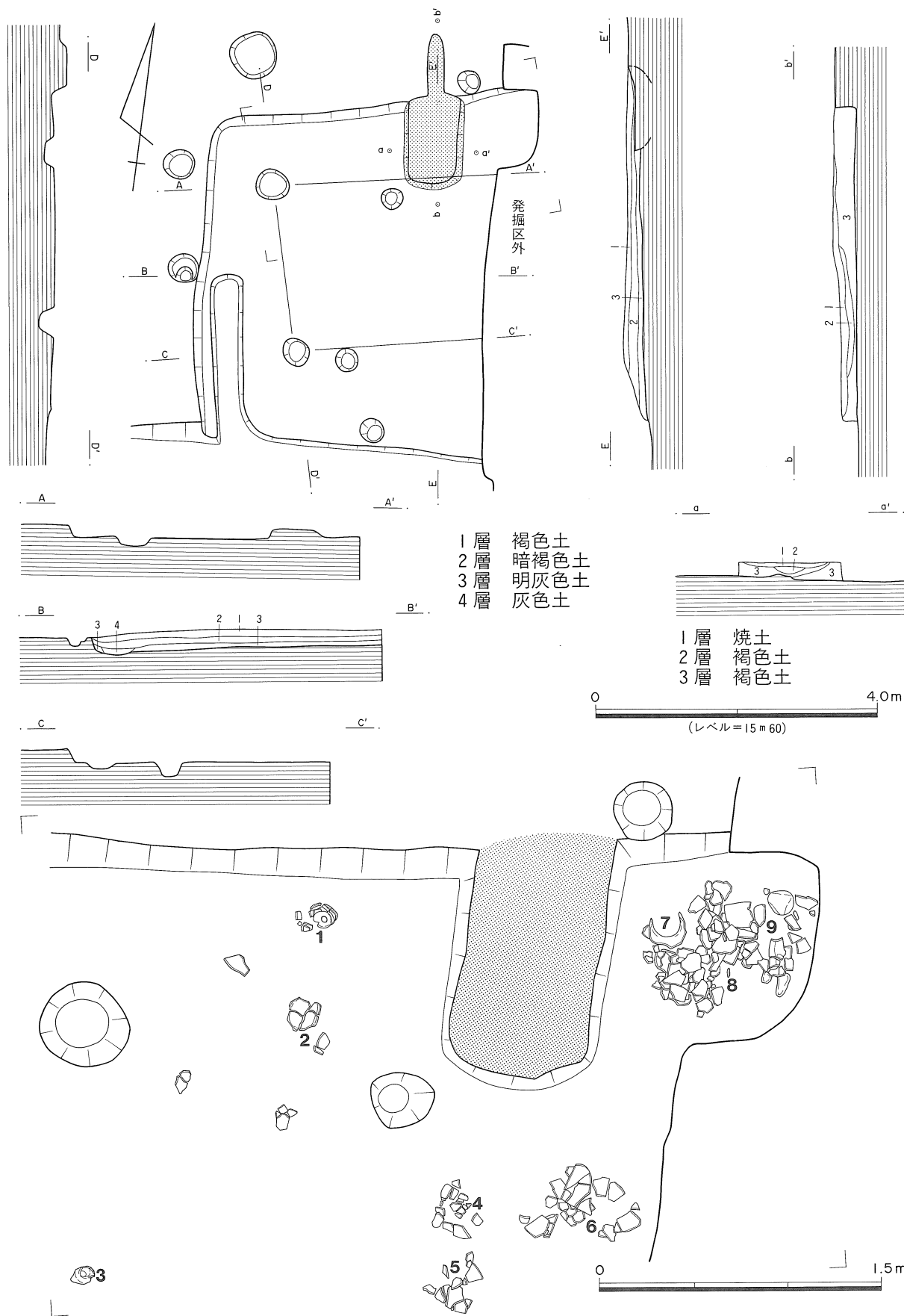
- 1 層 明灰色粘土
- 2 層 明灰色粘土
- 3 層 明灰色粘土

SH56

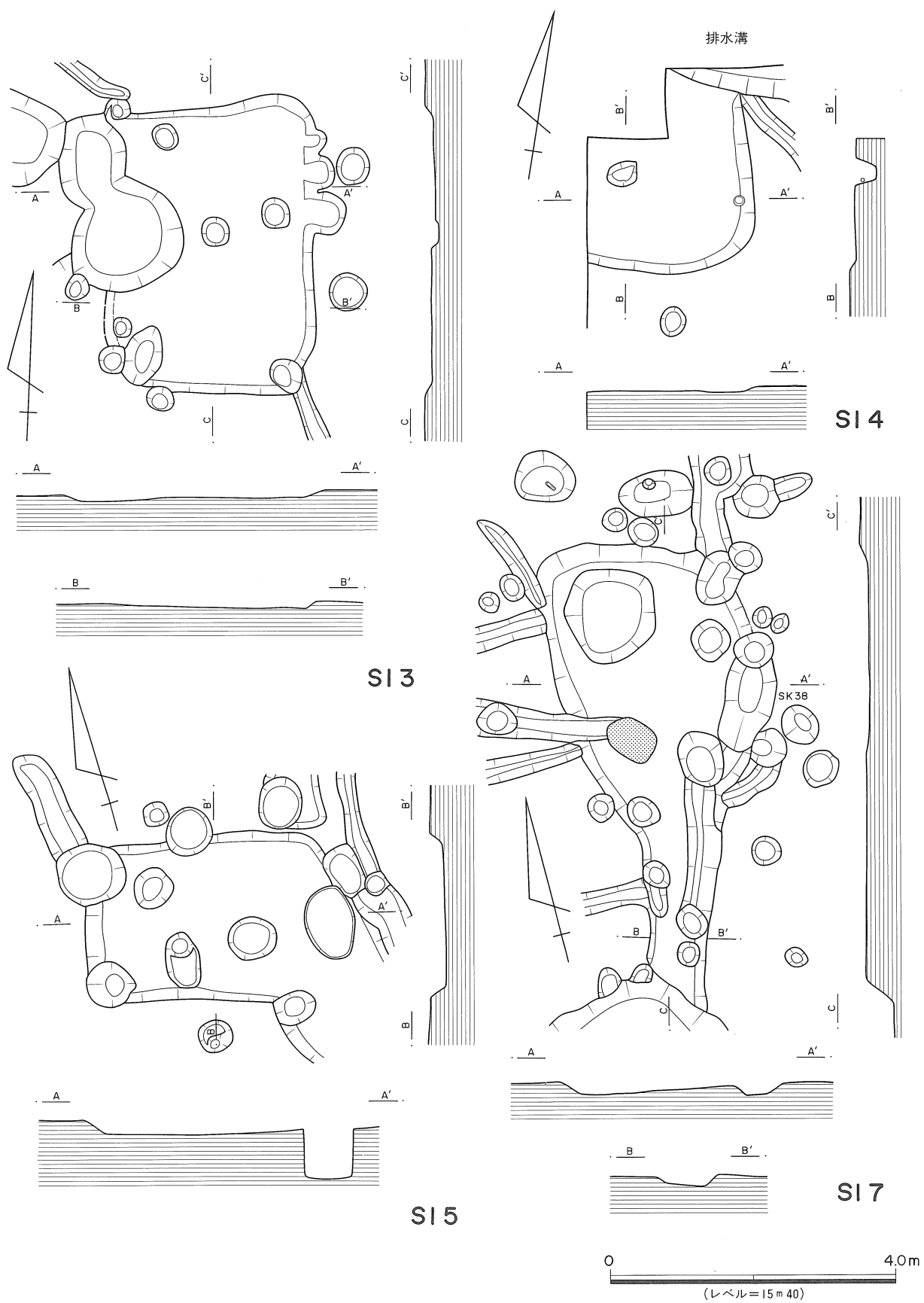
第108図 SH52・SH56実測図



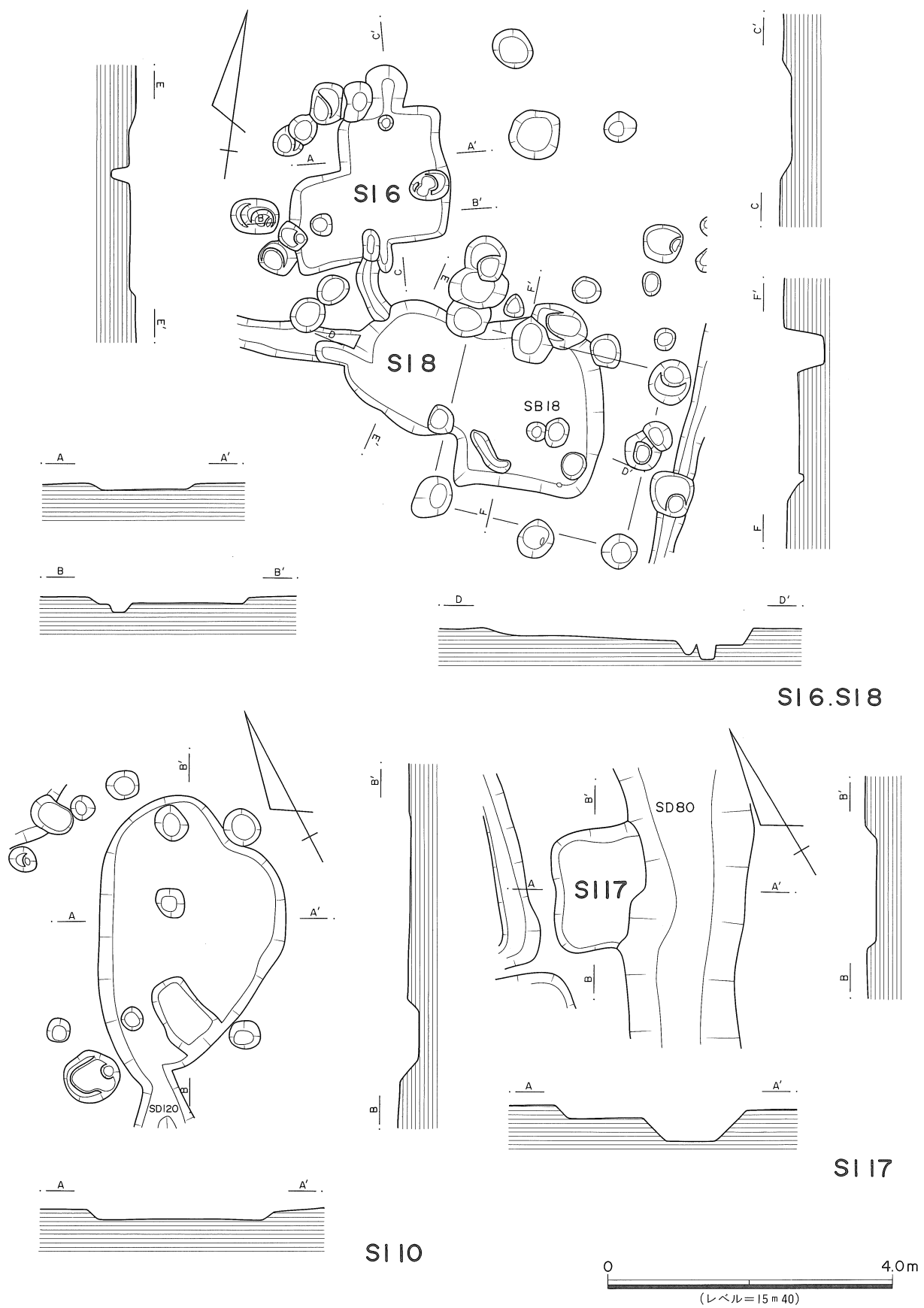
第109図 SH54実測図



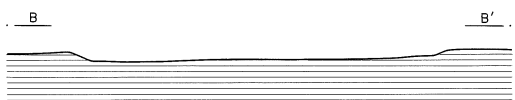
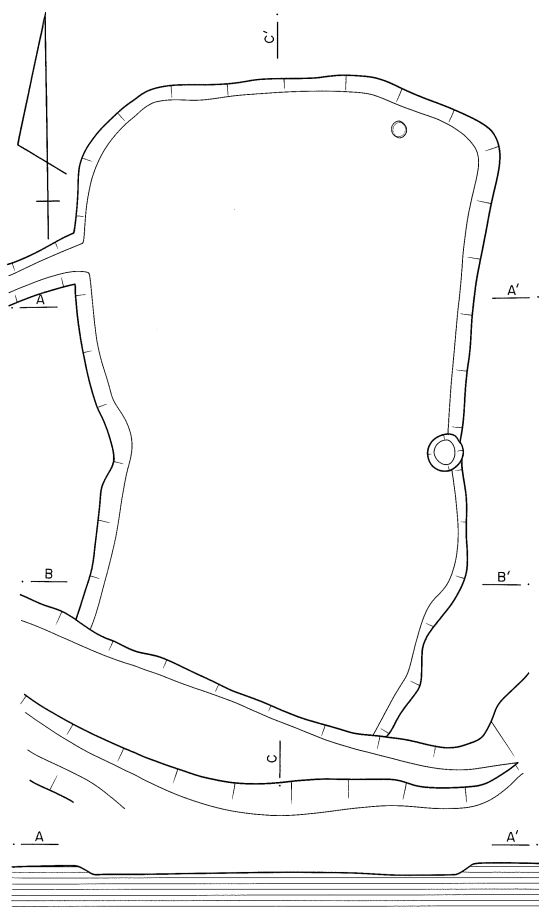
第110図 SH55実測図



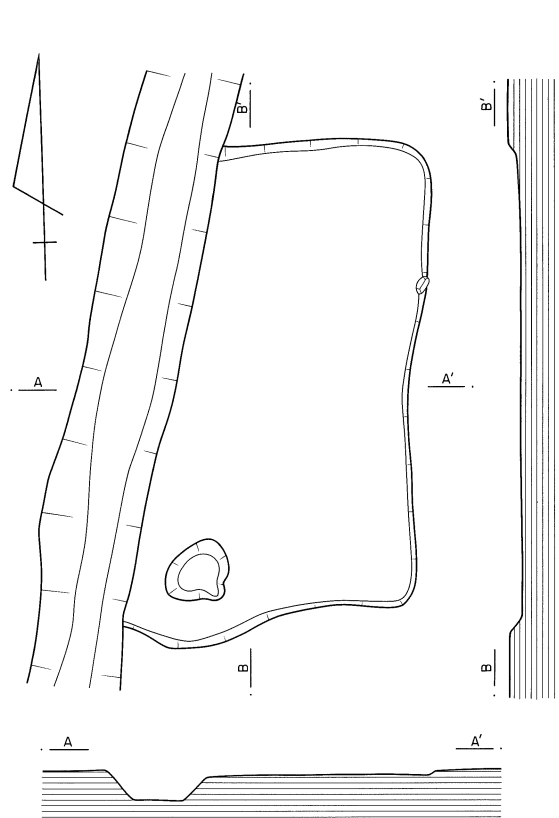
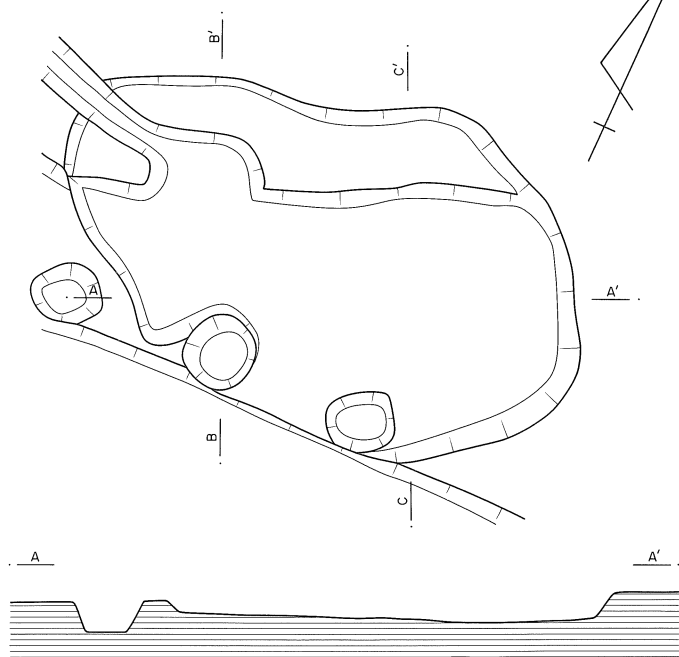
第111図 SI 3・SI 4・SI 5・SI 7 実測図



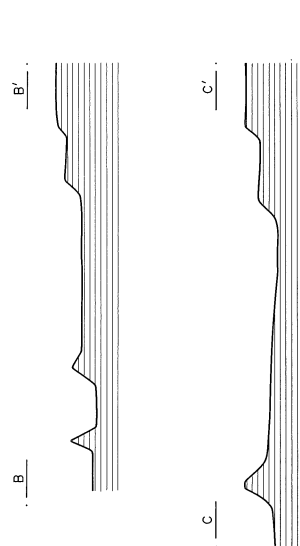
第112図 SI 6・SI 8・SI 10・SI 17実測図



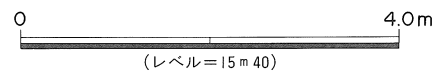
SI 12



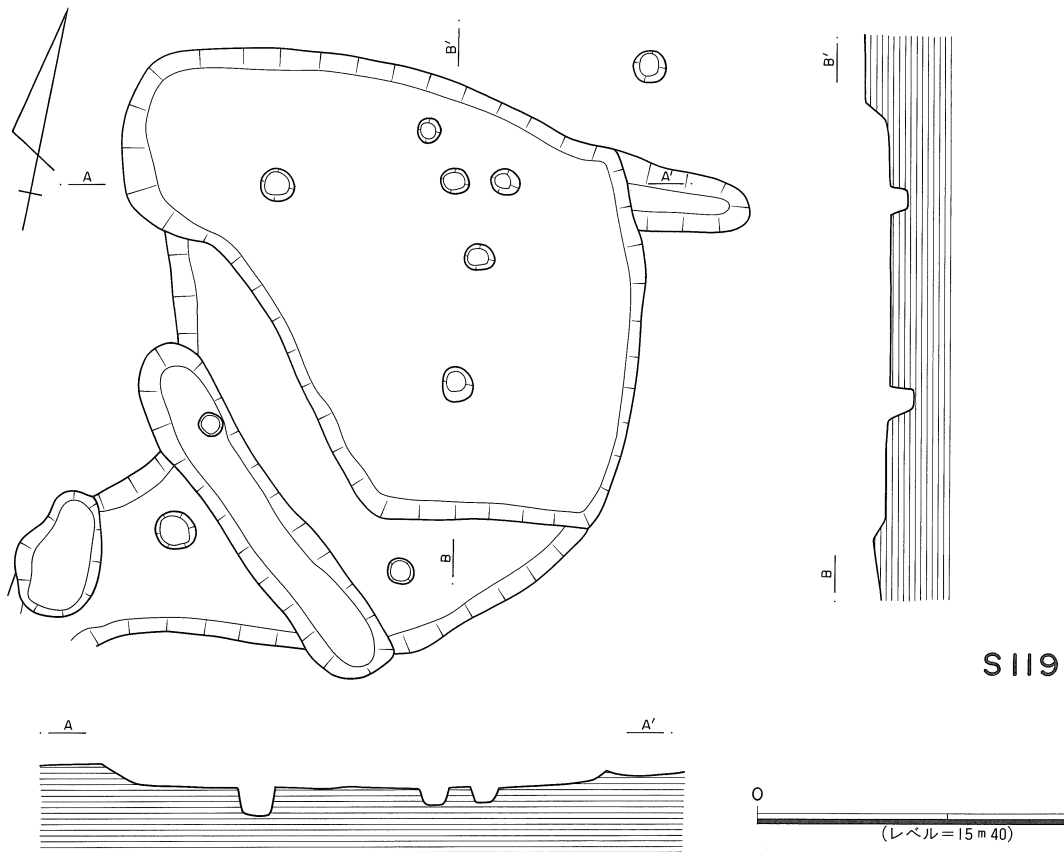
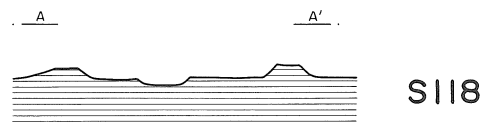
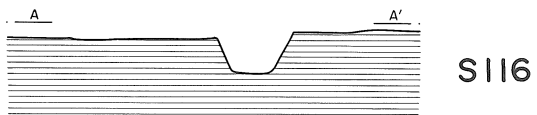
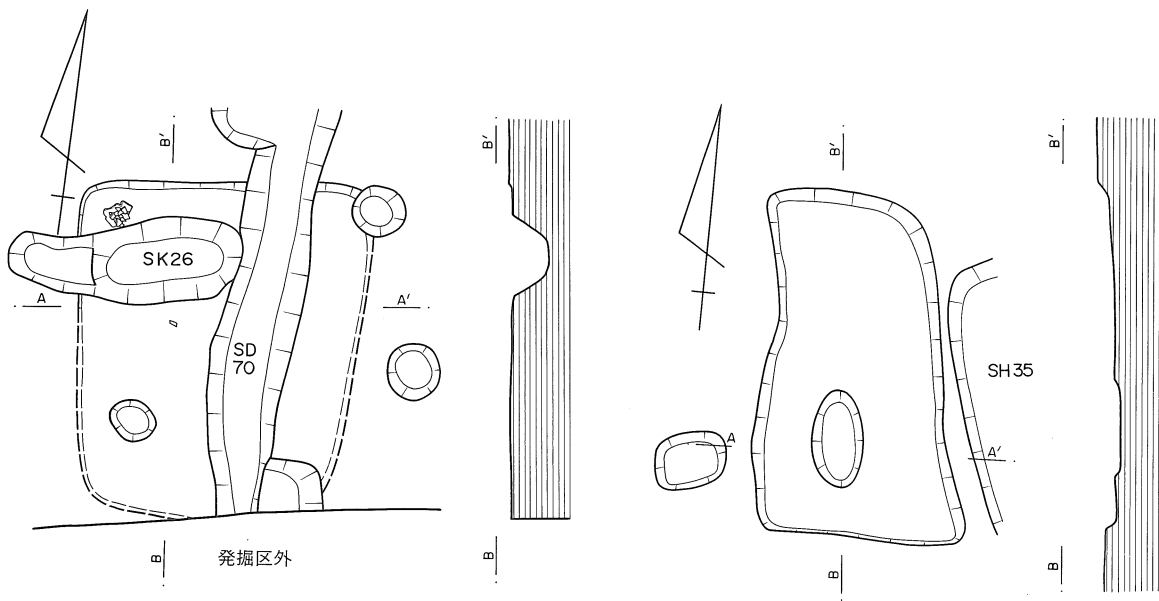
SI 13



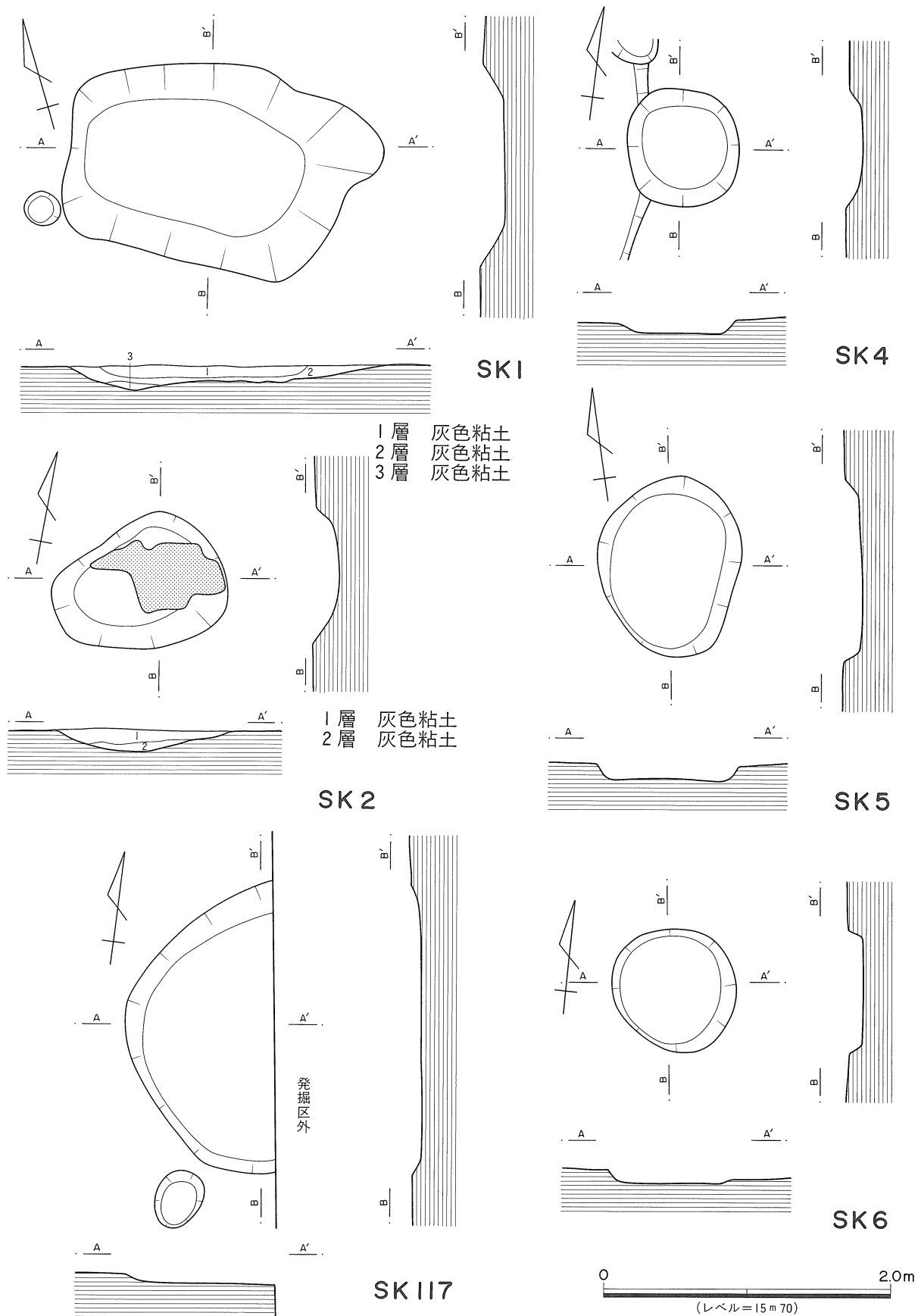
SK69



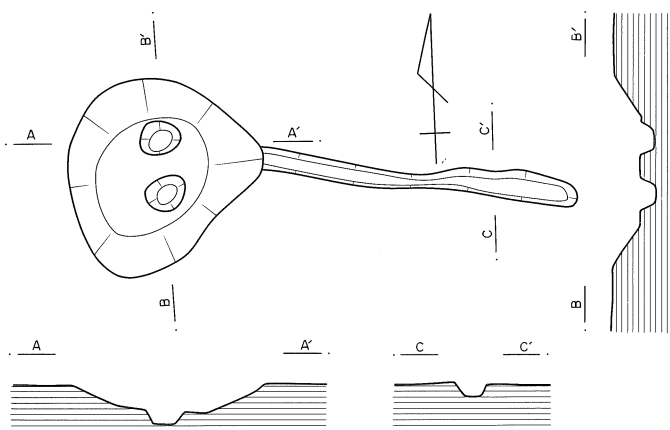
第113図 SI12・SI13・SK69実測図



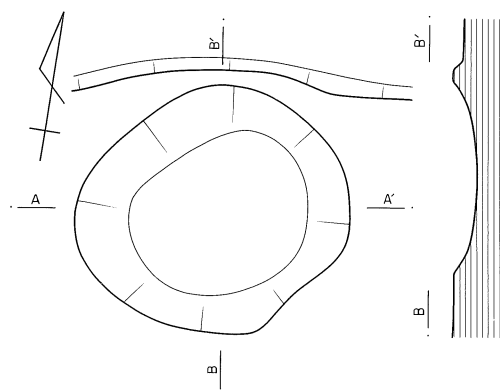
第114図 SI16・SI18・SI19実測図



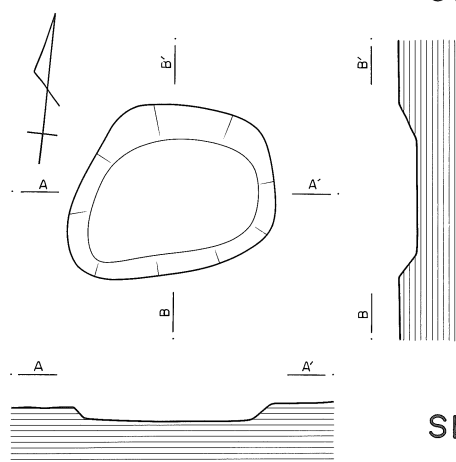
第115図 SK1・SK2・SK4・SK5・SK6・SK117実測図



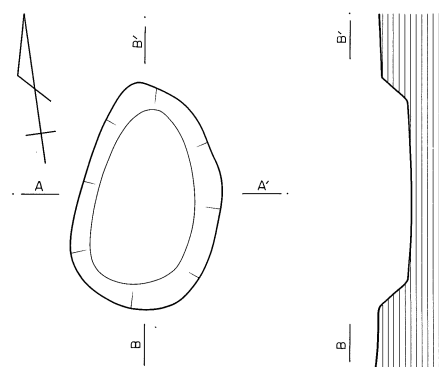
SK 7



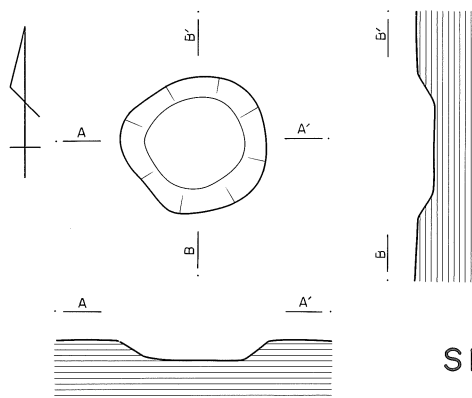
SK 11



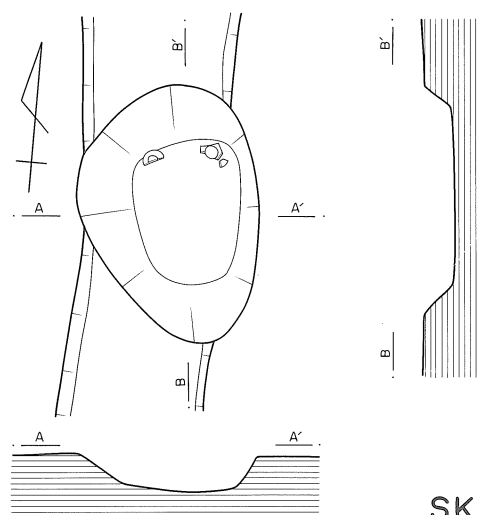
SK 8



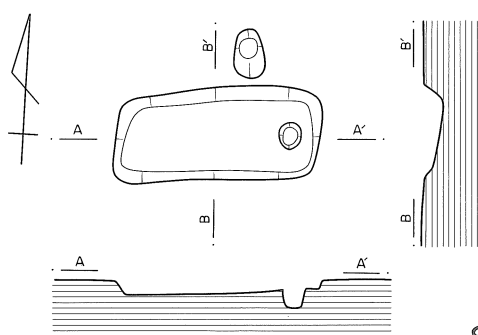
SK 12



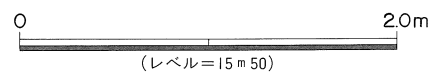
SK 9



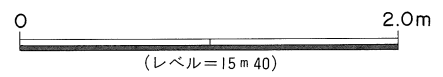
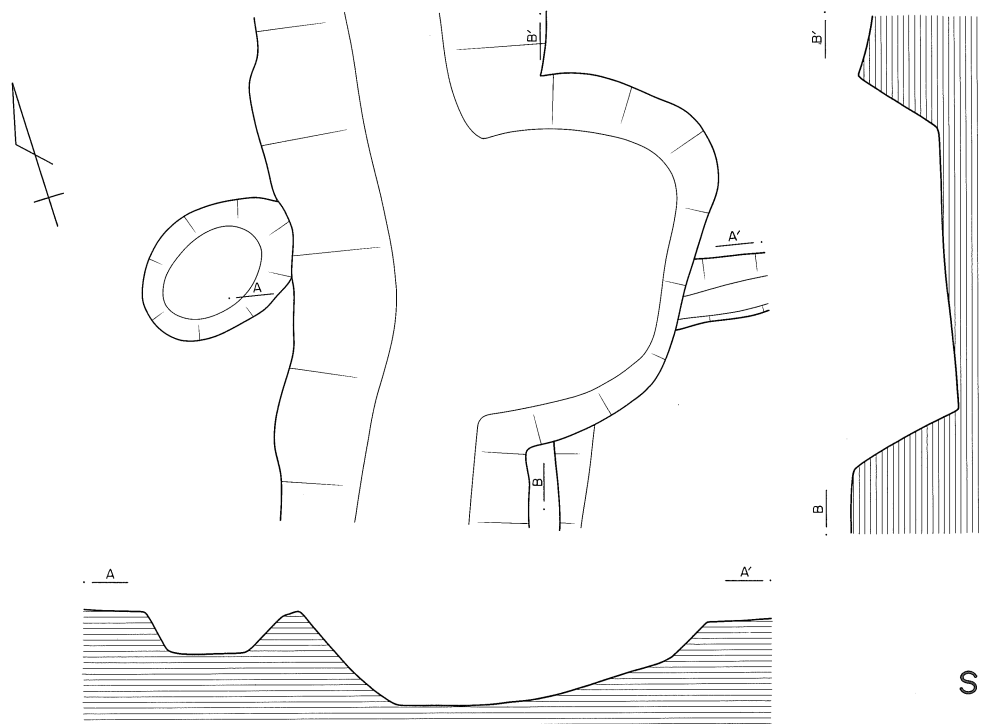
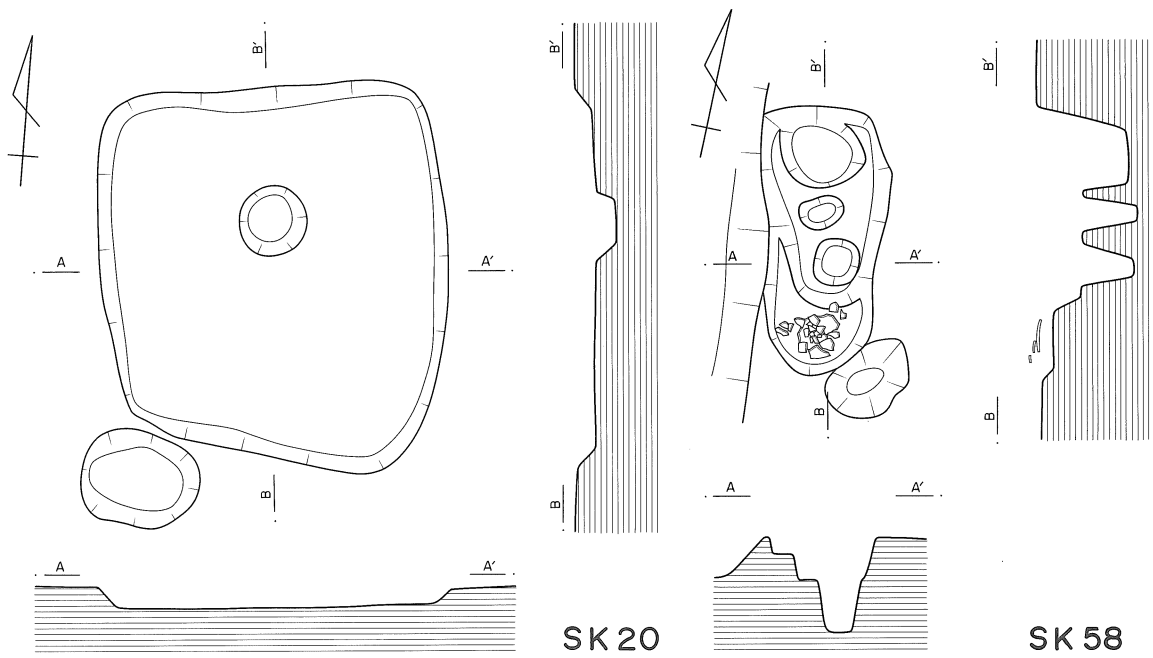
SK 13



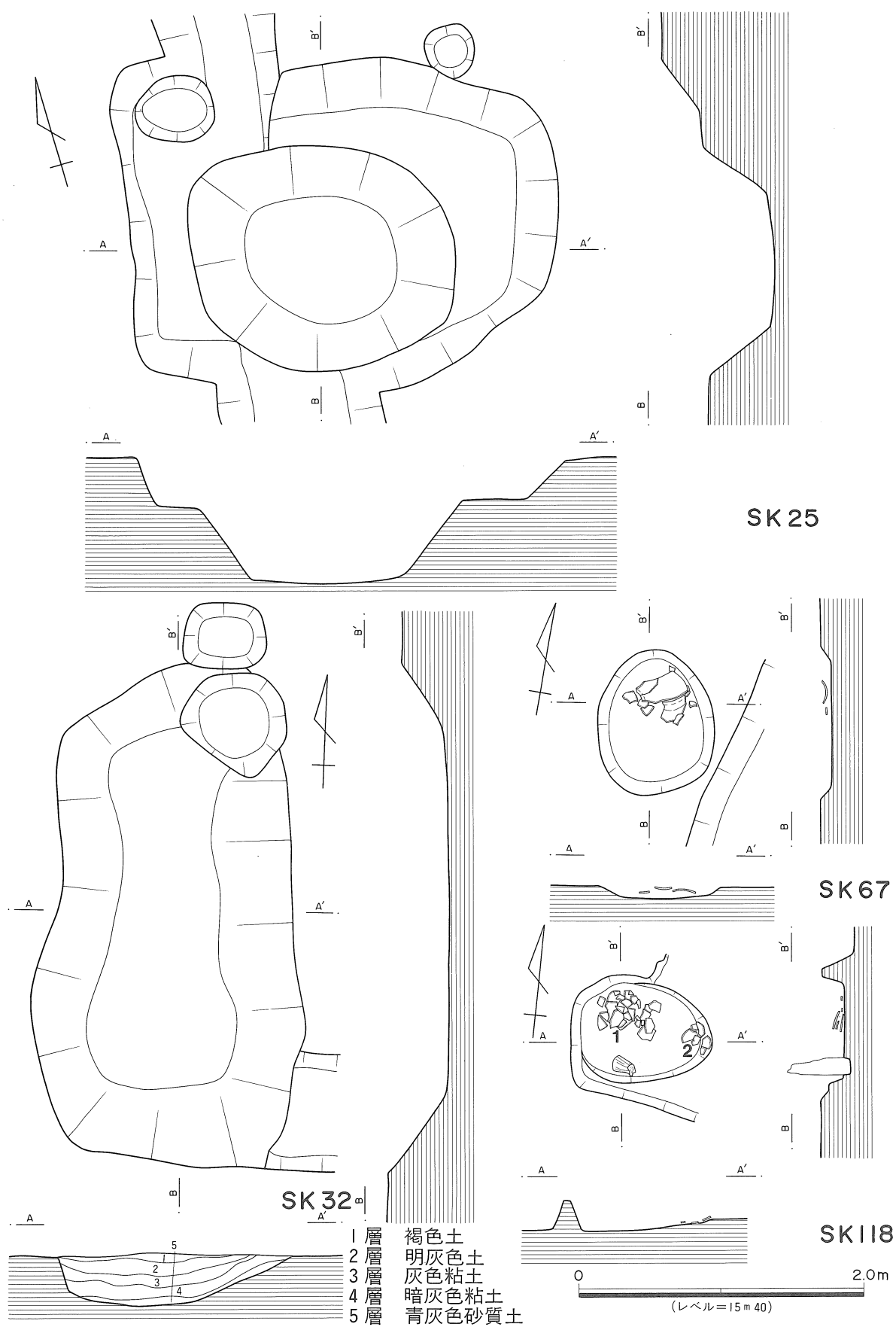
SK 116



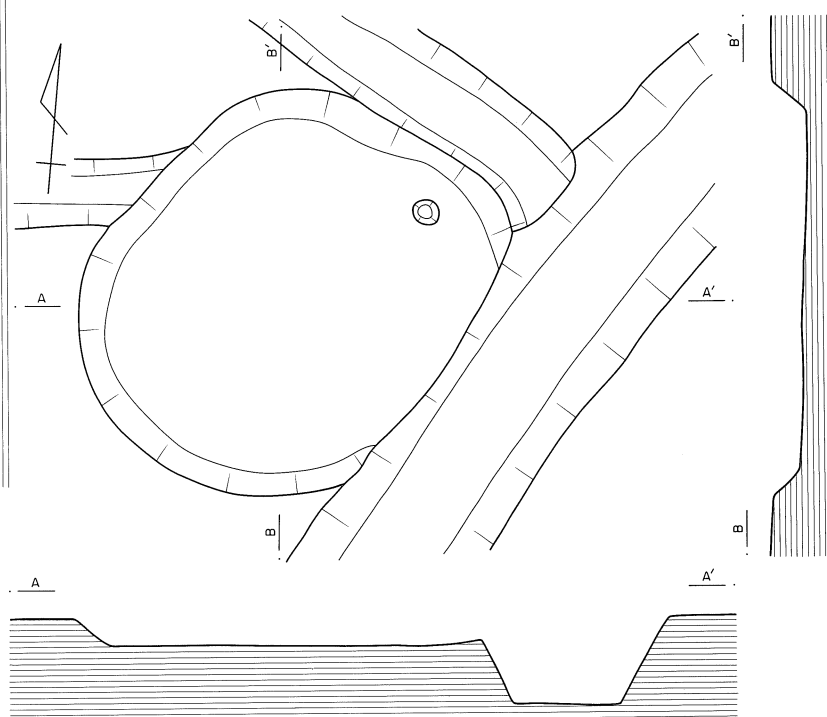
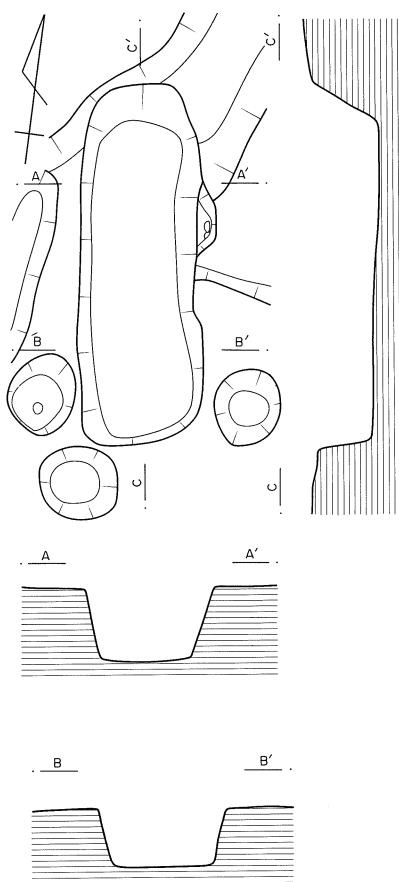
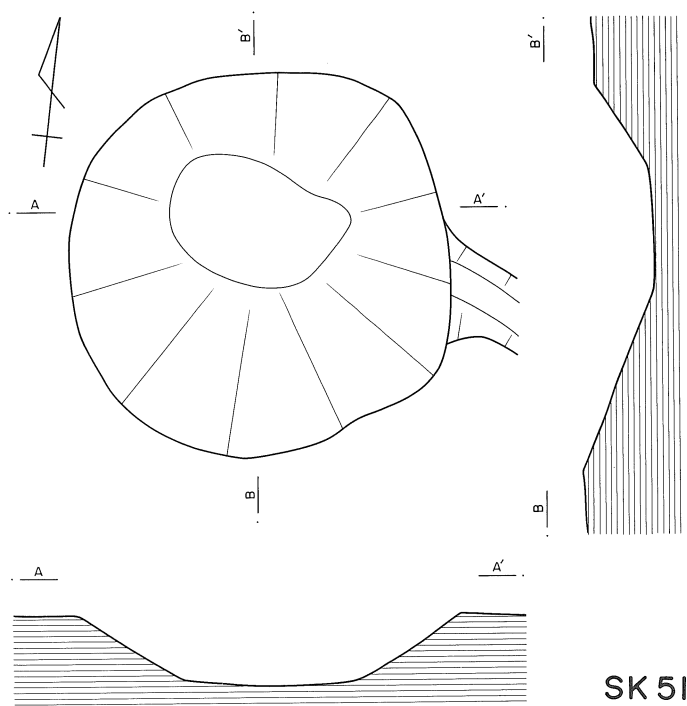
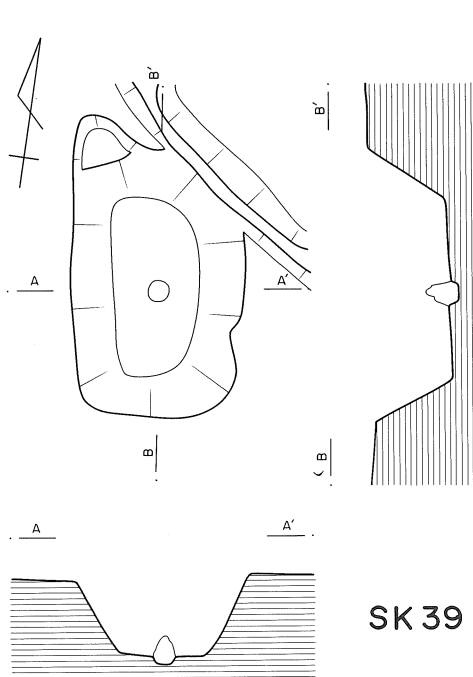
第116図 SK 7・SK 8・SK 9・SK 11・SK 12・SK 13・SK 116実測図



第117図 SK20・SK23・SK58実測図

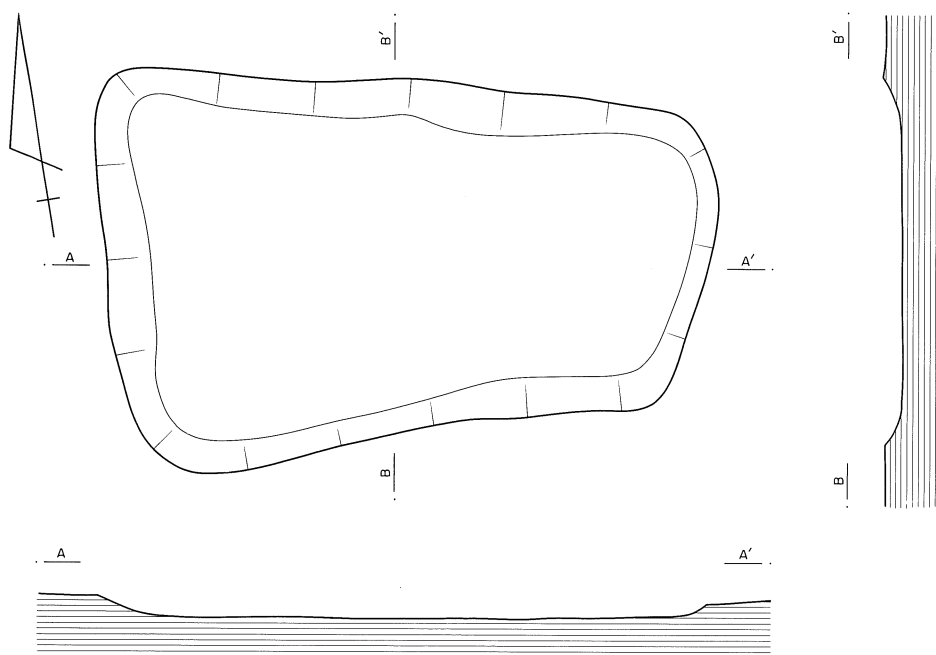


第118図 SK25・SK32・SK67・SK118実測図

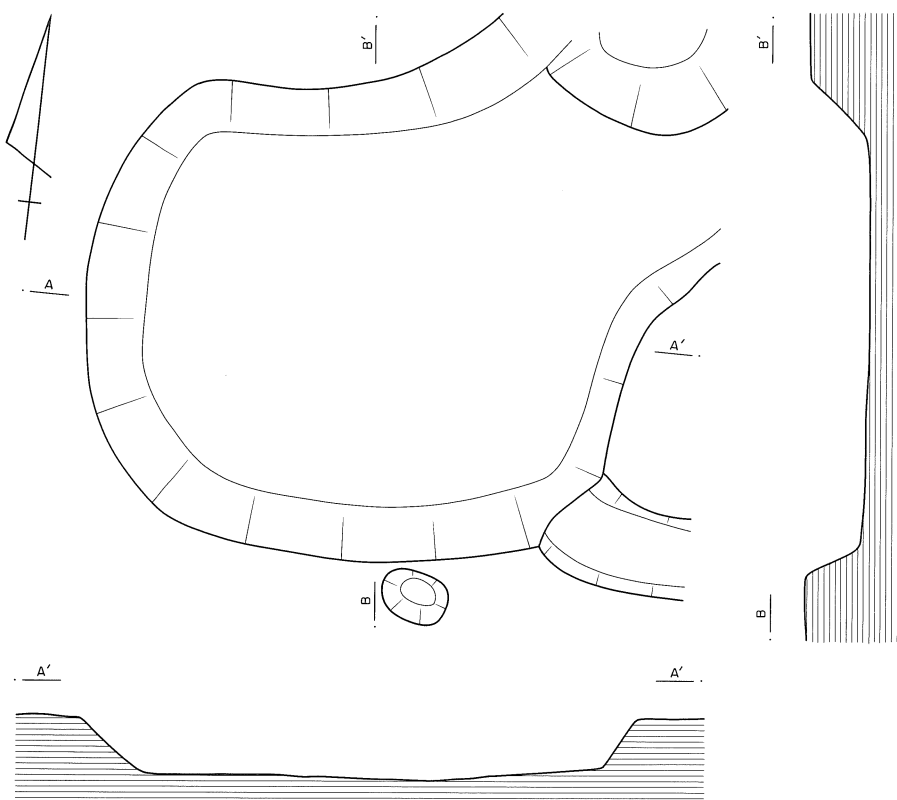


0 2.0m
(レベル=15 m 20)

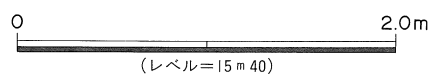
第119図 SK39・SK51・SK44・SK57実測図



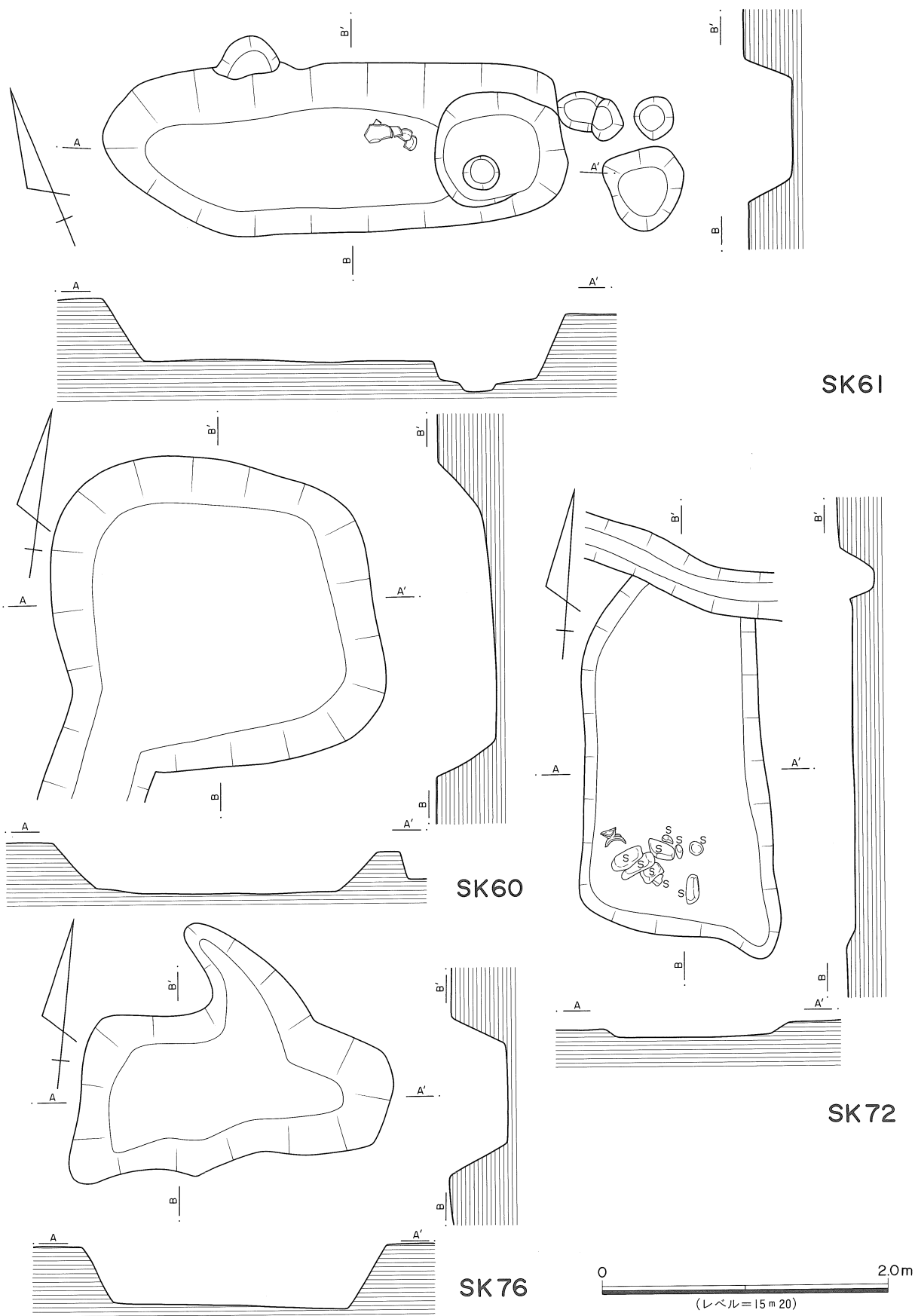
SK59



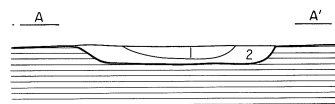
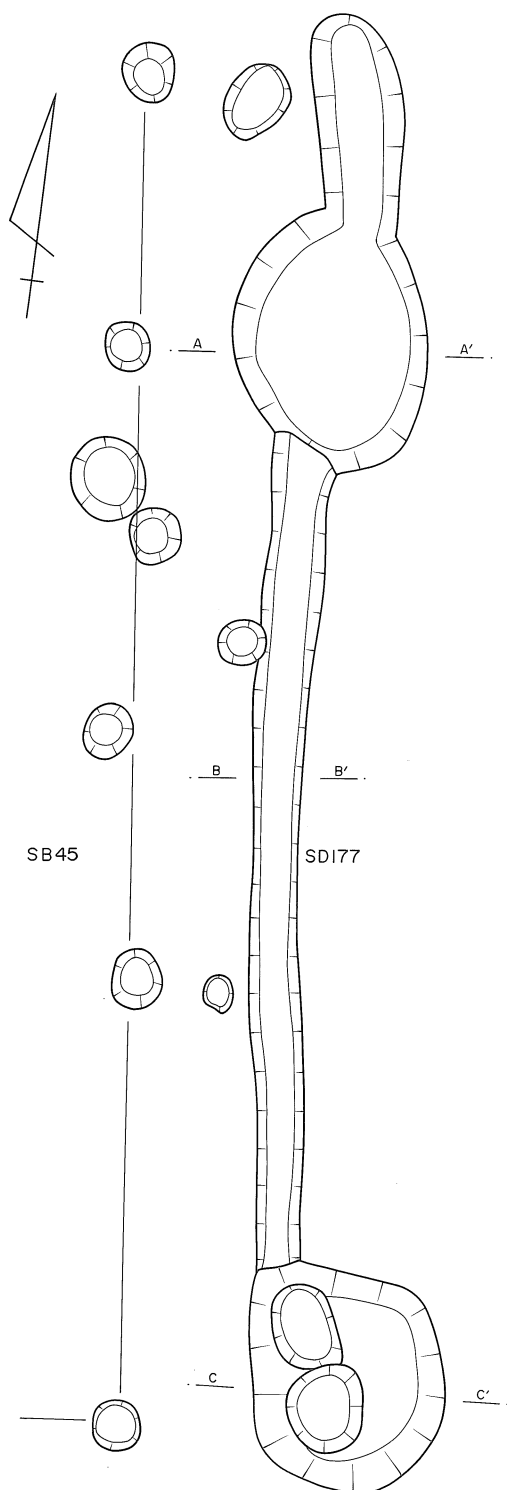
SK68



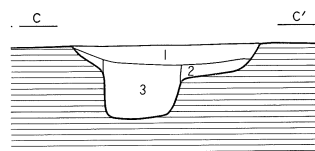
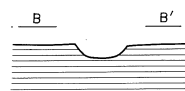
第120図 SK59・SK68実測図



第121図 SK60・SK61・SK72・SK76実測図

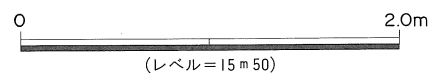


- 1 層 灰色土
- 2 層 褐色土

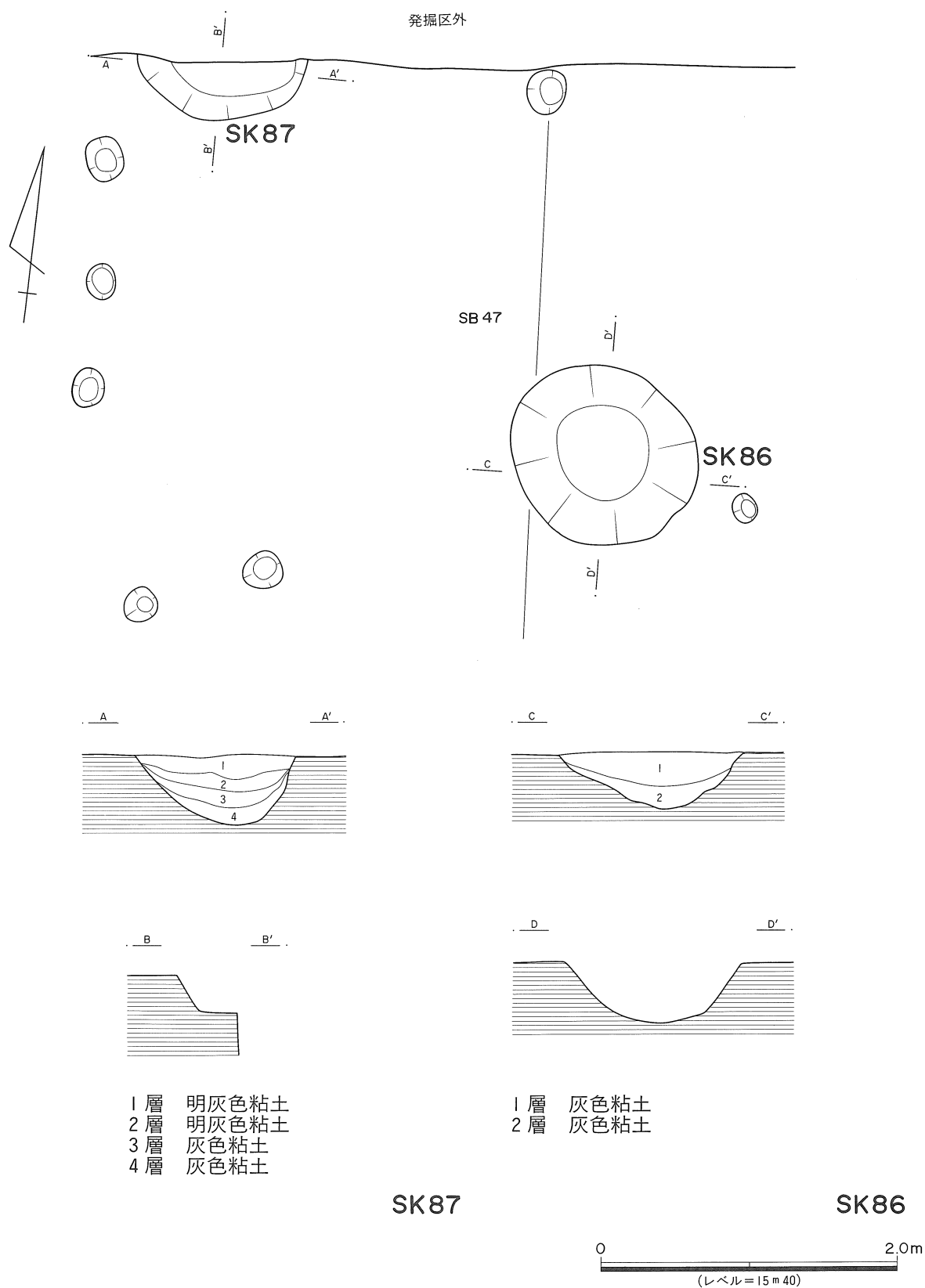


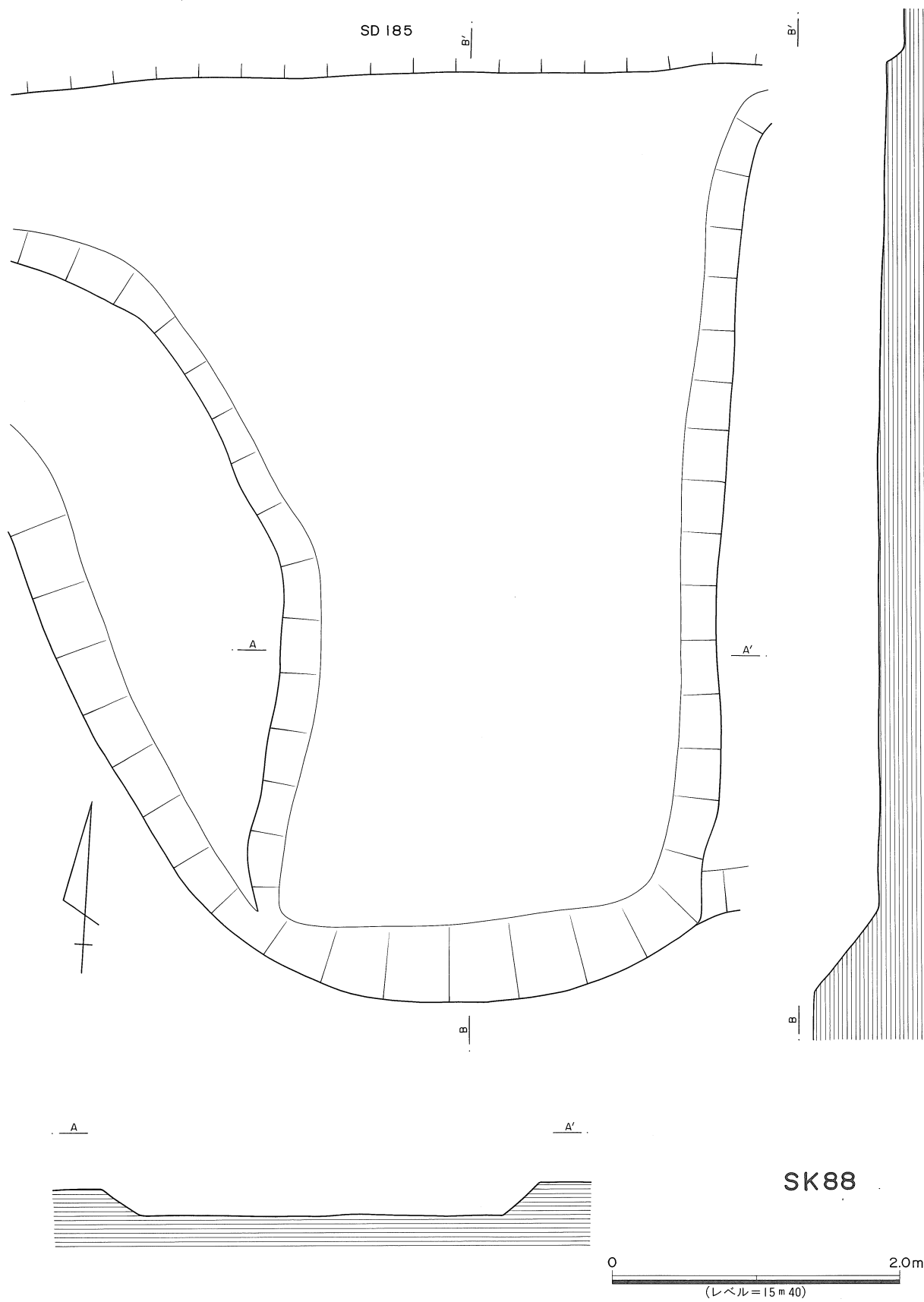
- 1 層 炭化物混入土
- 2 層 褐色土
- 3 層 明灰色土

SK84

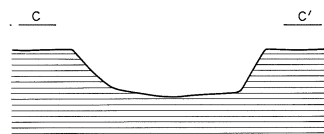
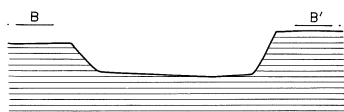
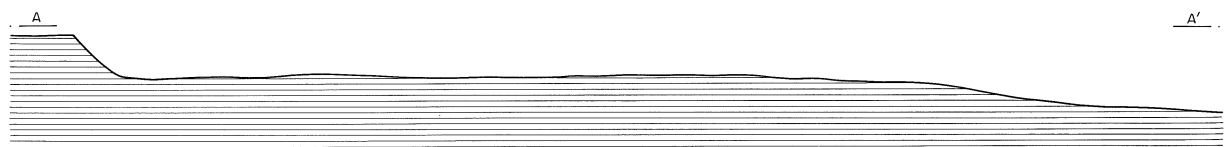
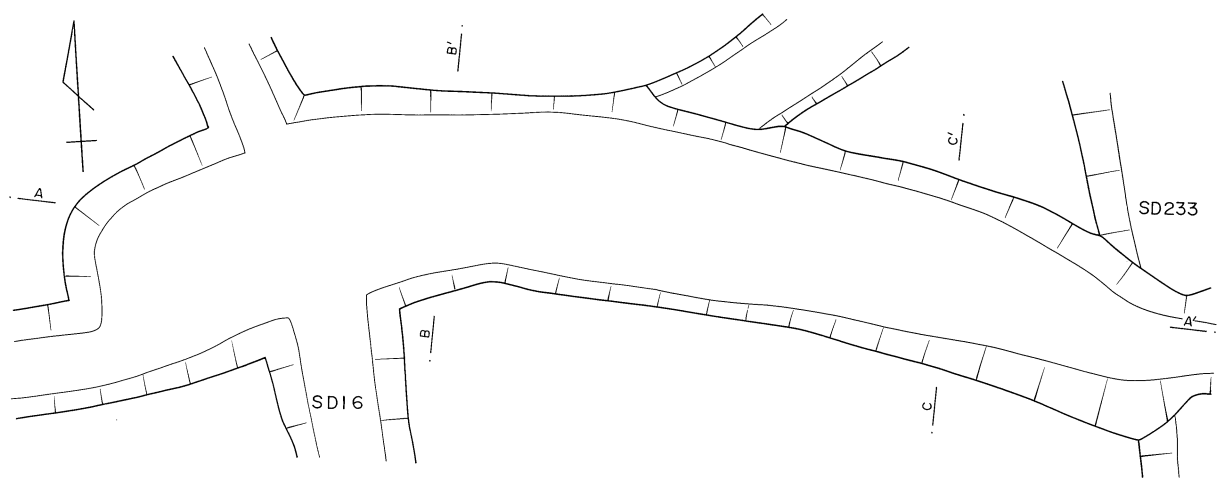


第124図 SK84実測図

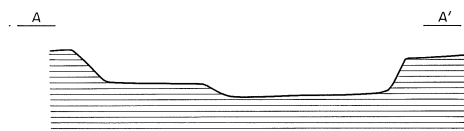
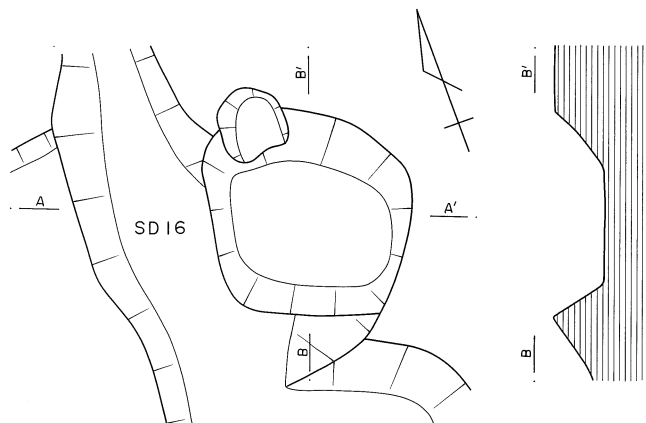
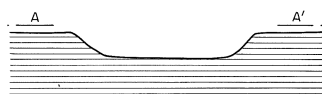
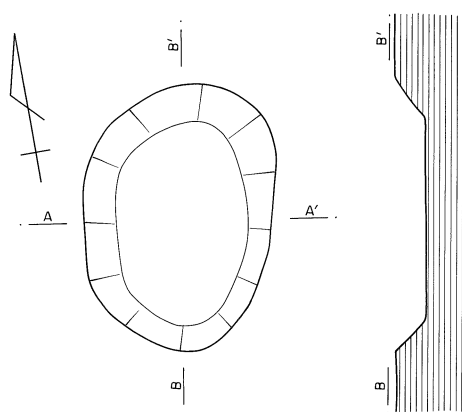




第126図 SK88実測図

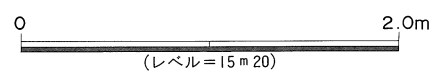


SK91

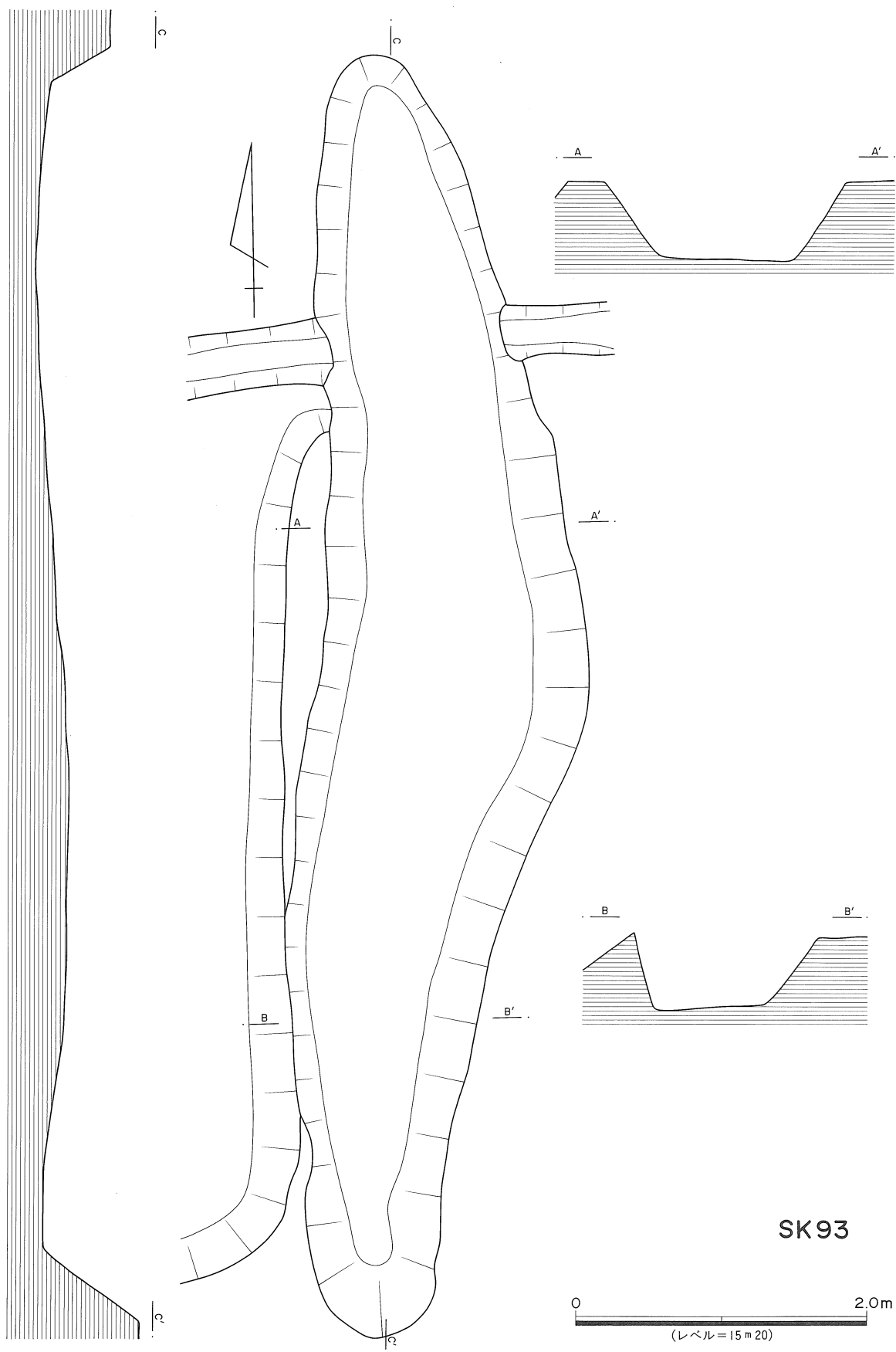


SK96

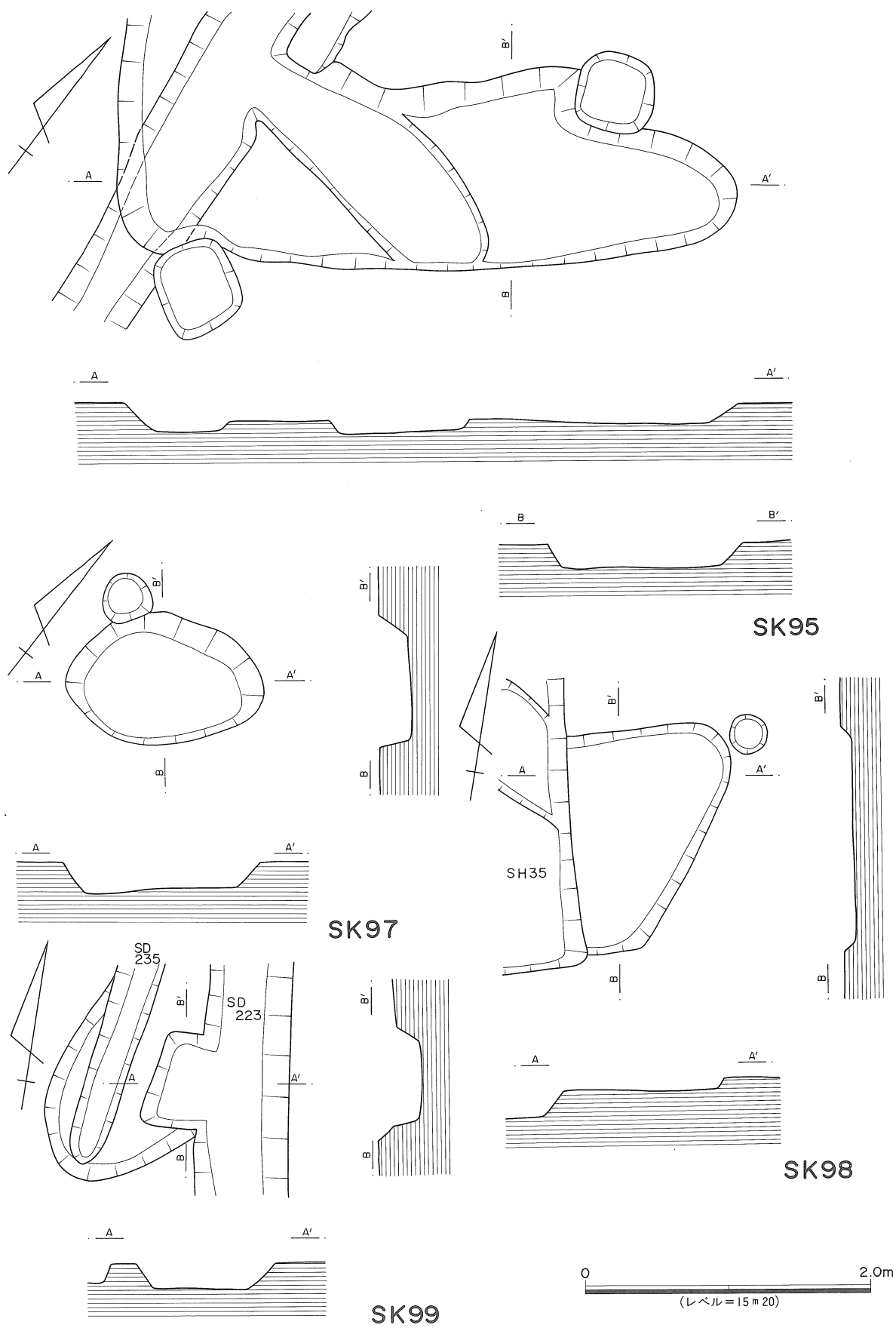
SK92



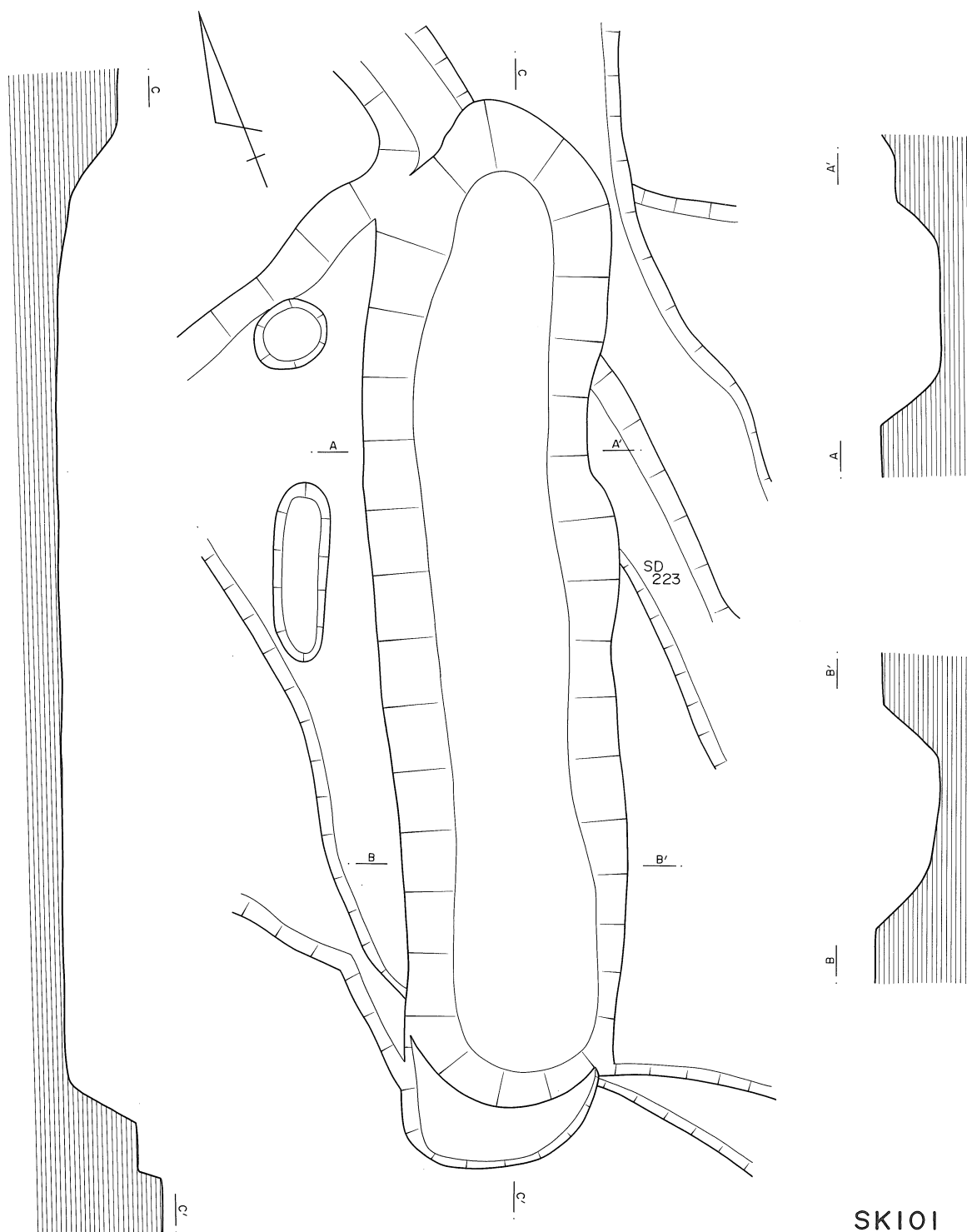
第127図 SK91・SK92・SK96実測図



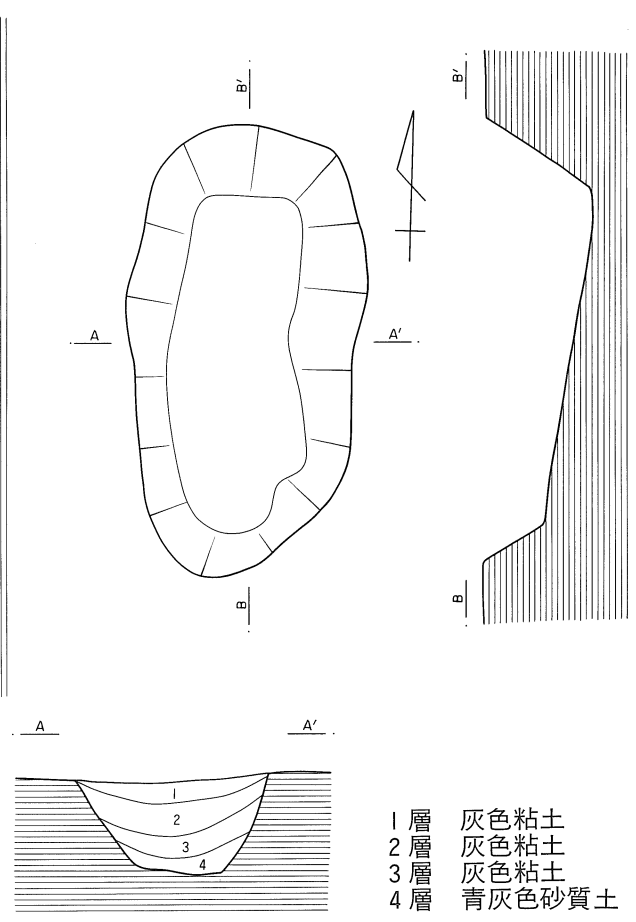
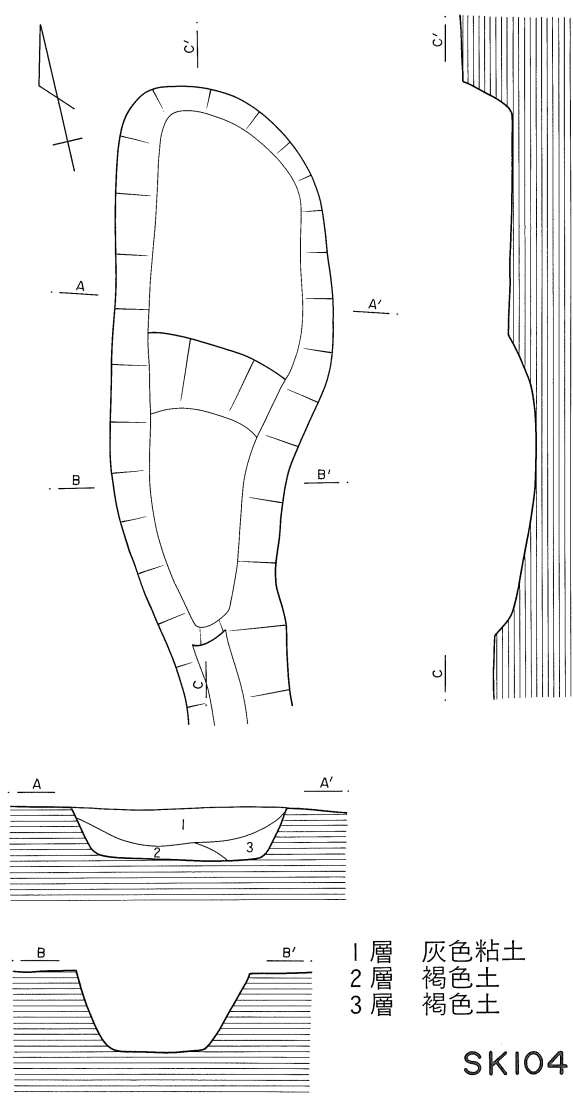
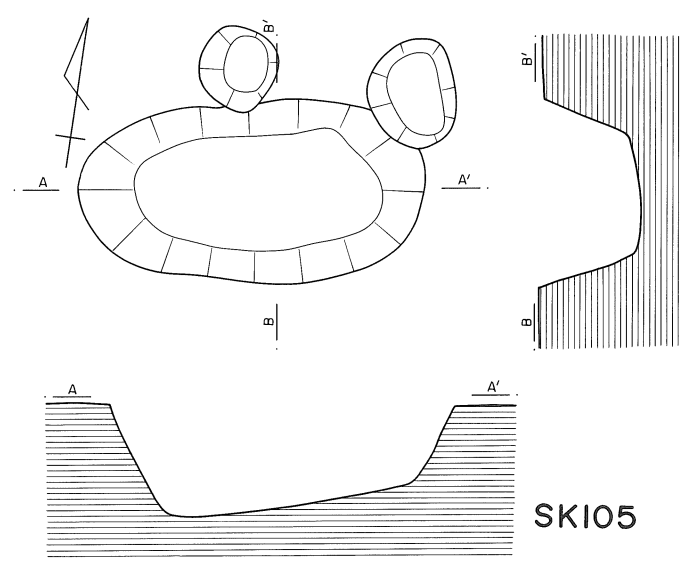
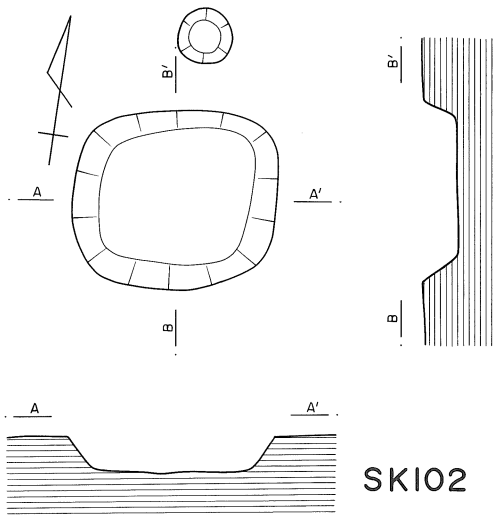
第128図 SK93実測図



第129図 SK95・SK97・SK98・SK99実測図

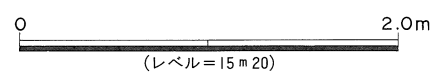


第130図 SK101実測図

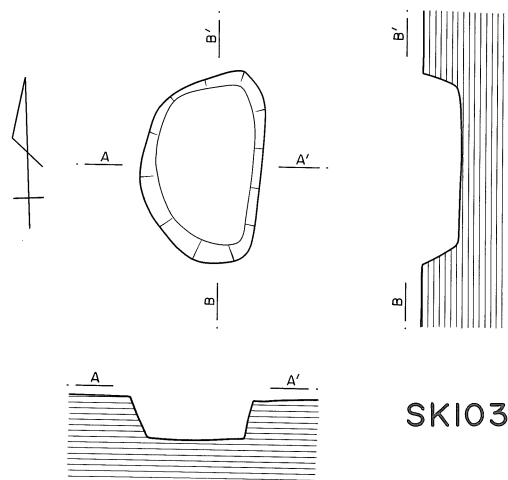


- 1 層 灰色粘土
- 2 層 灰色粘土
- 3 層 灰色粘土
- 4 層 青灰色砂質土

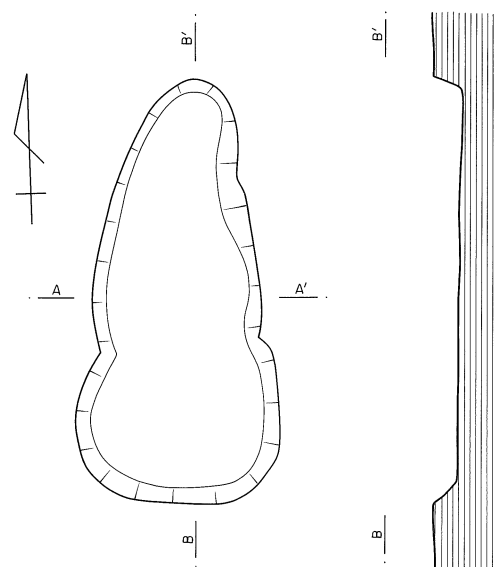
- 1 層 灰色粘土
- 2 層 褐色土
- 3 層 褐色土



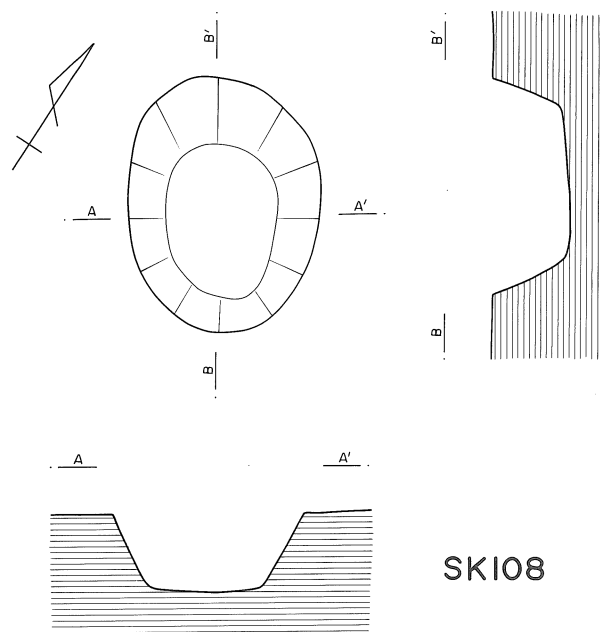
第131図 SK102・SK104・SK105・SK106実測図



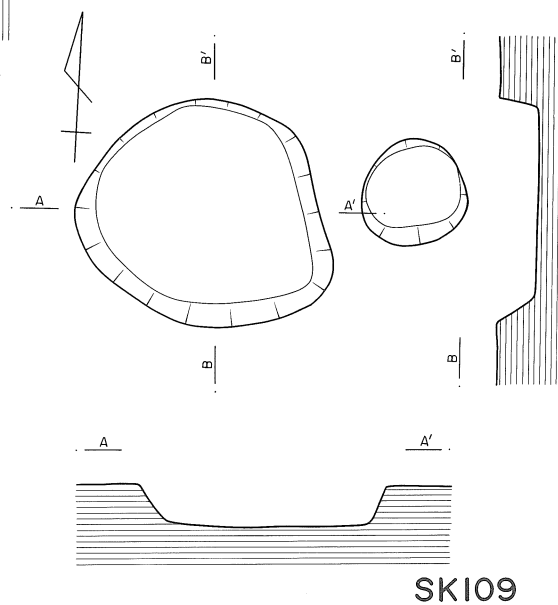
SK103



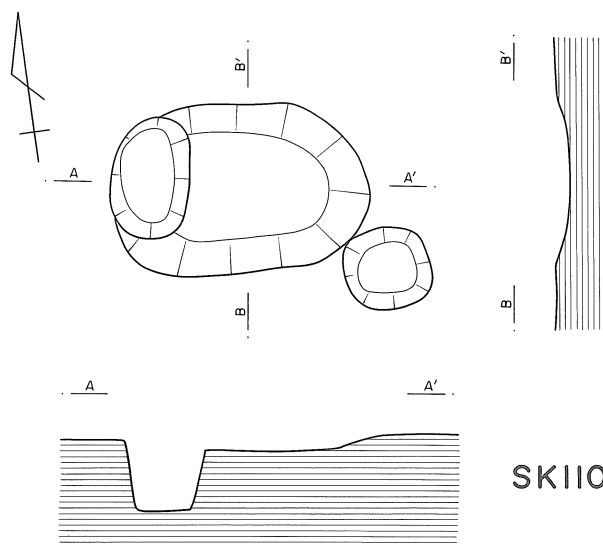
SK107



SK108

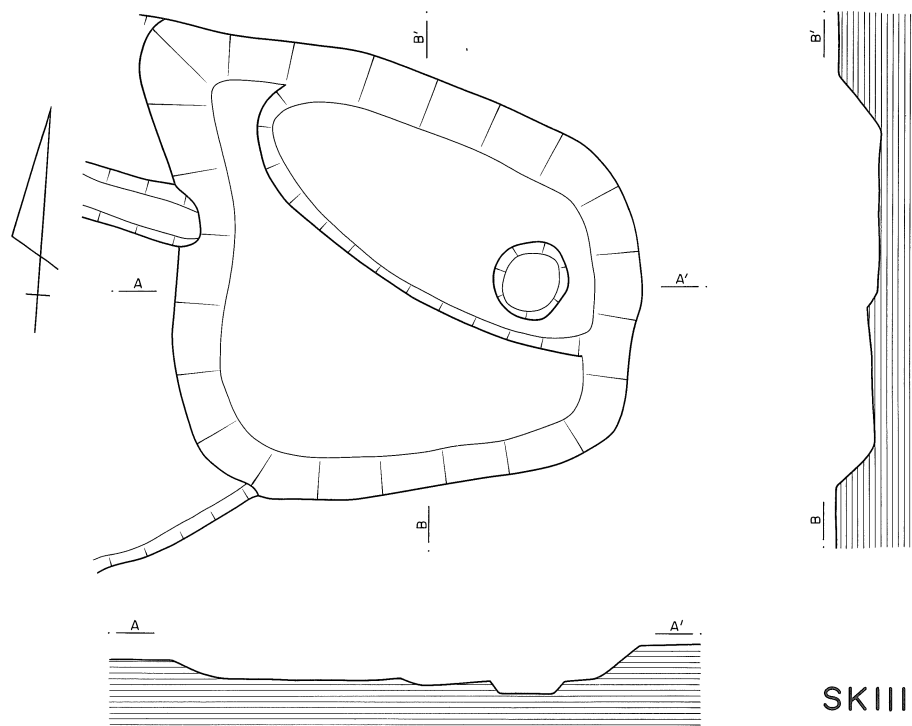


SK109

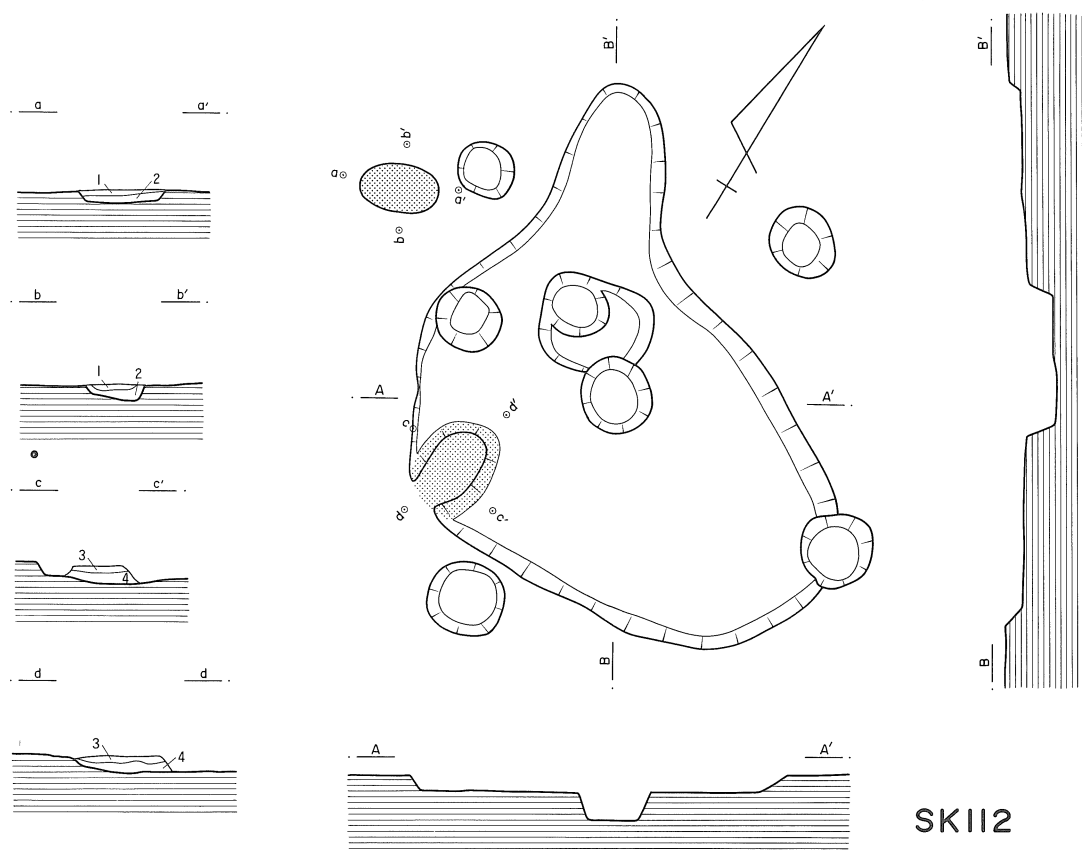


SK110

0 2.0m
(レベル = 15 m 40)



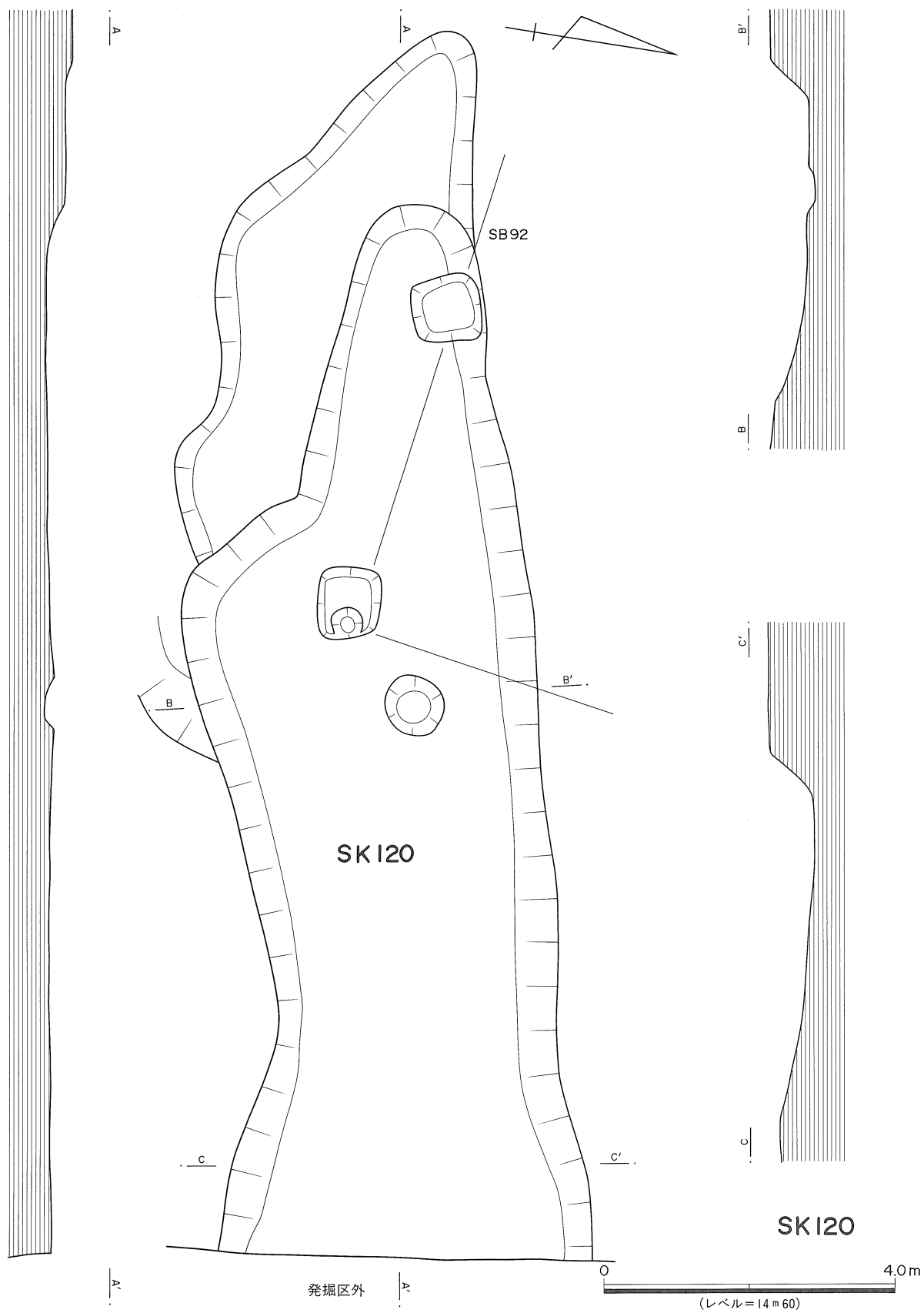
SK111



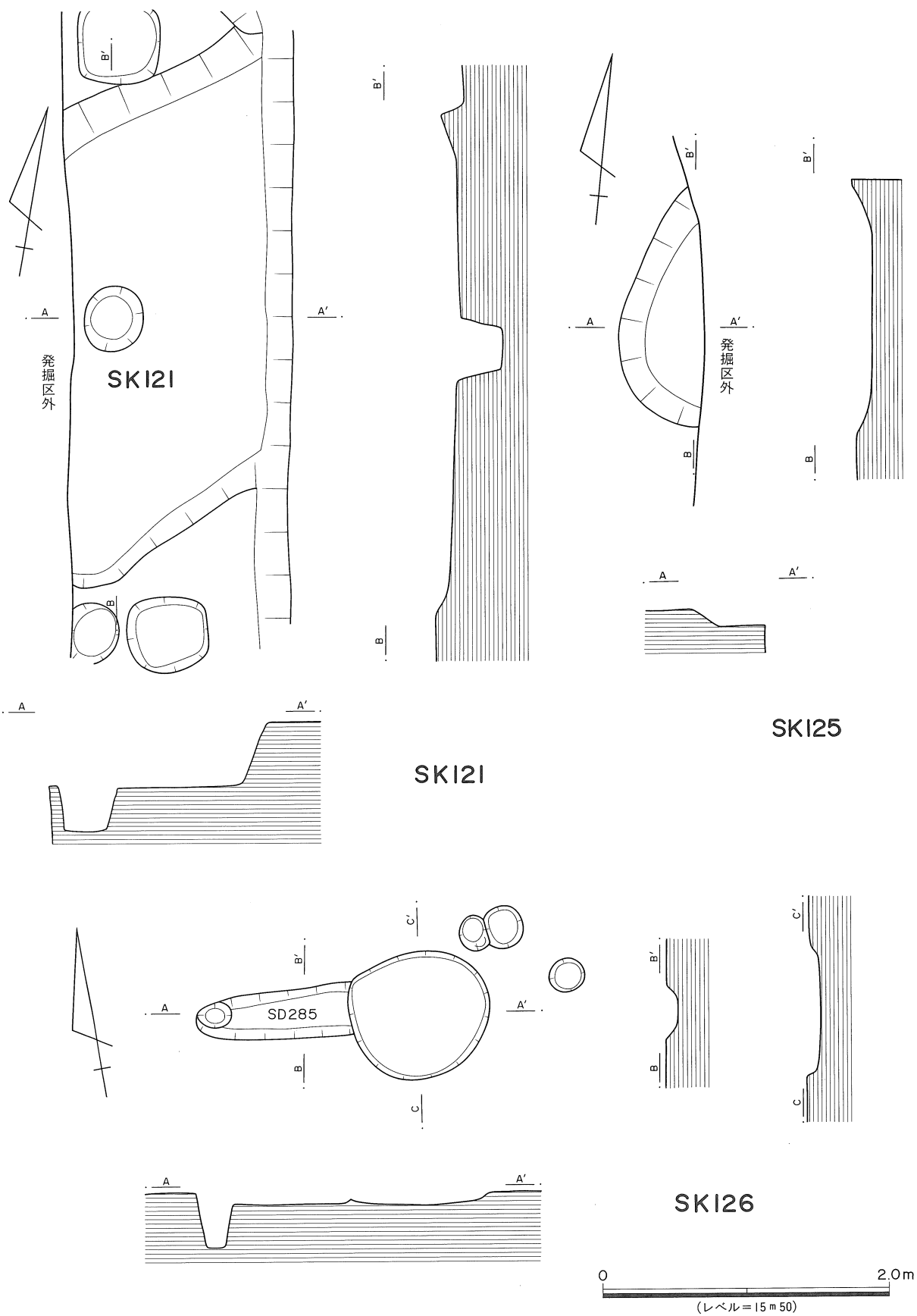
SK112

0 2.0m
(レベル=15 m 20)

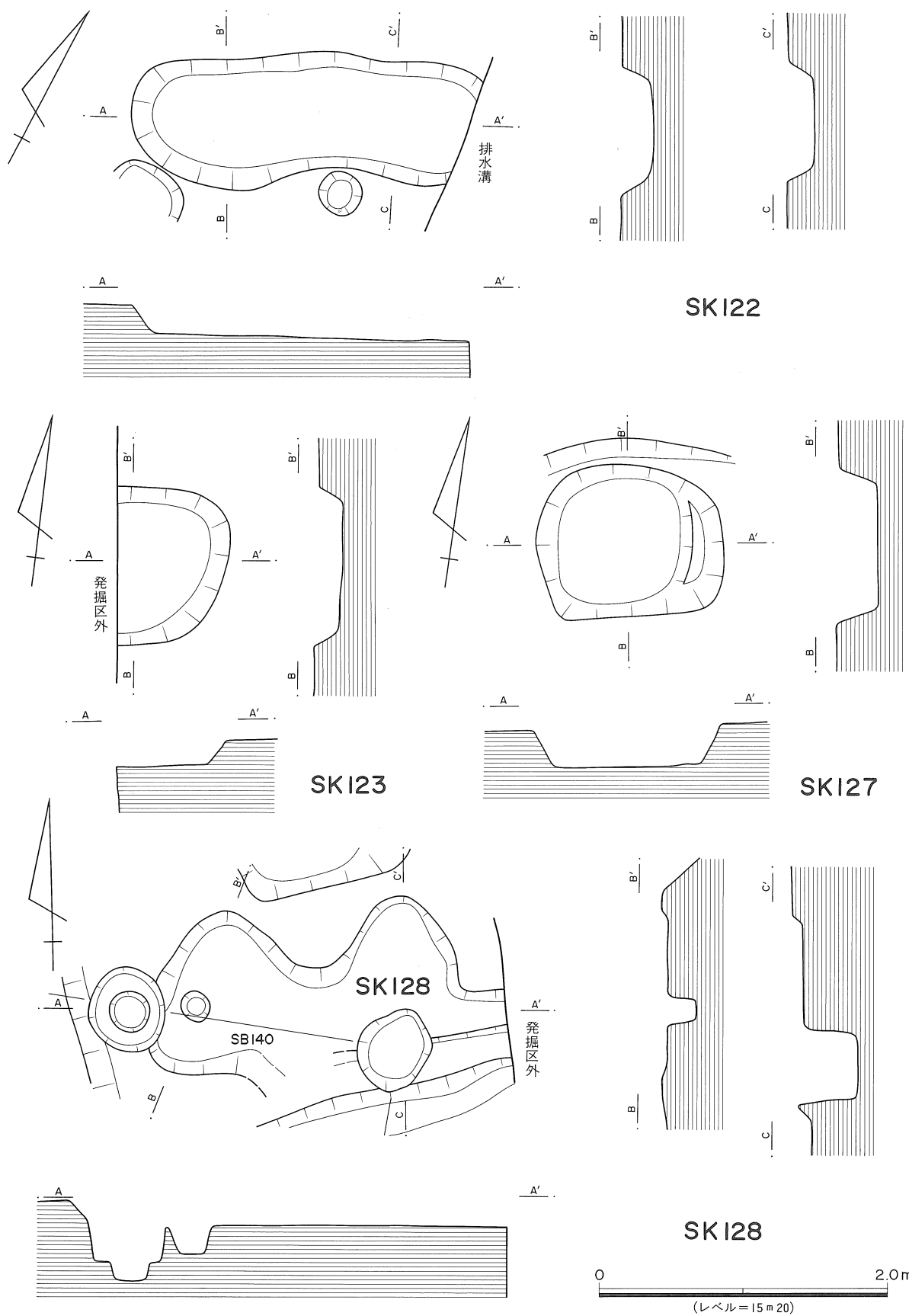
第133図 SK111・SK112実測図



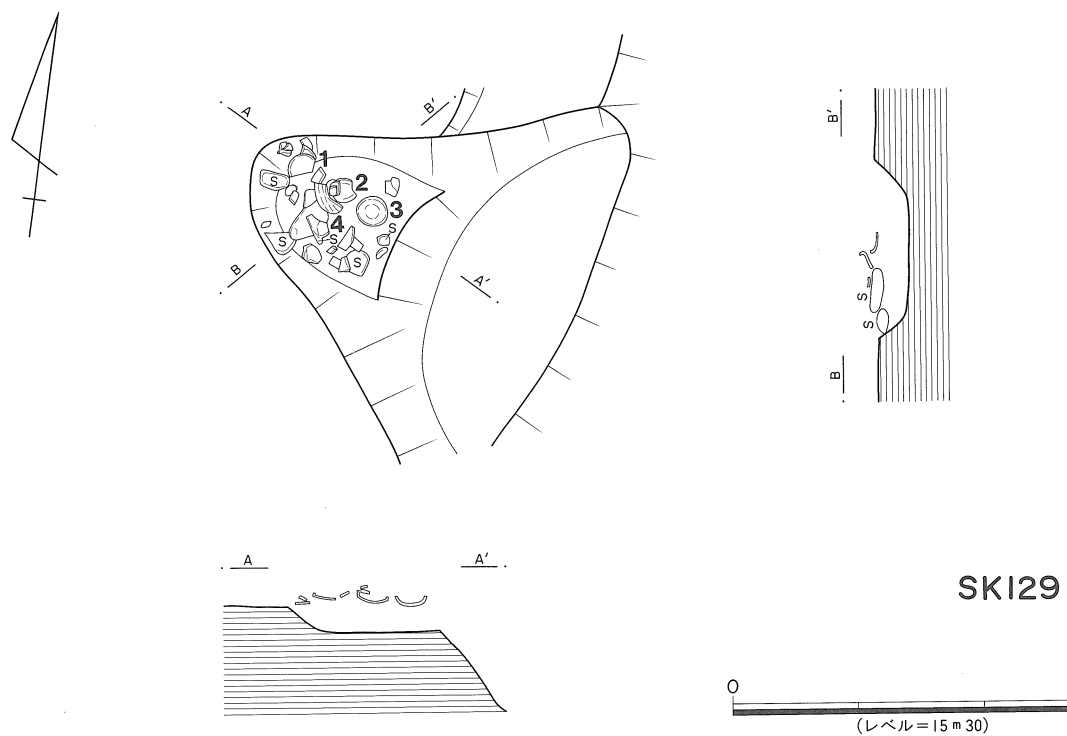
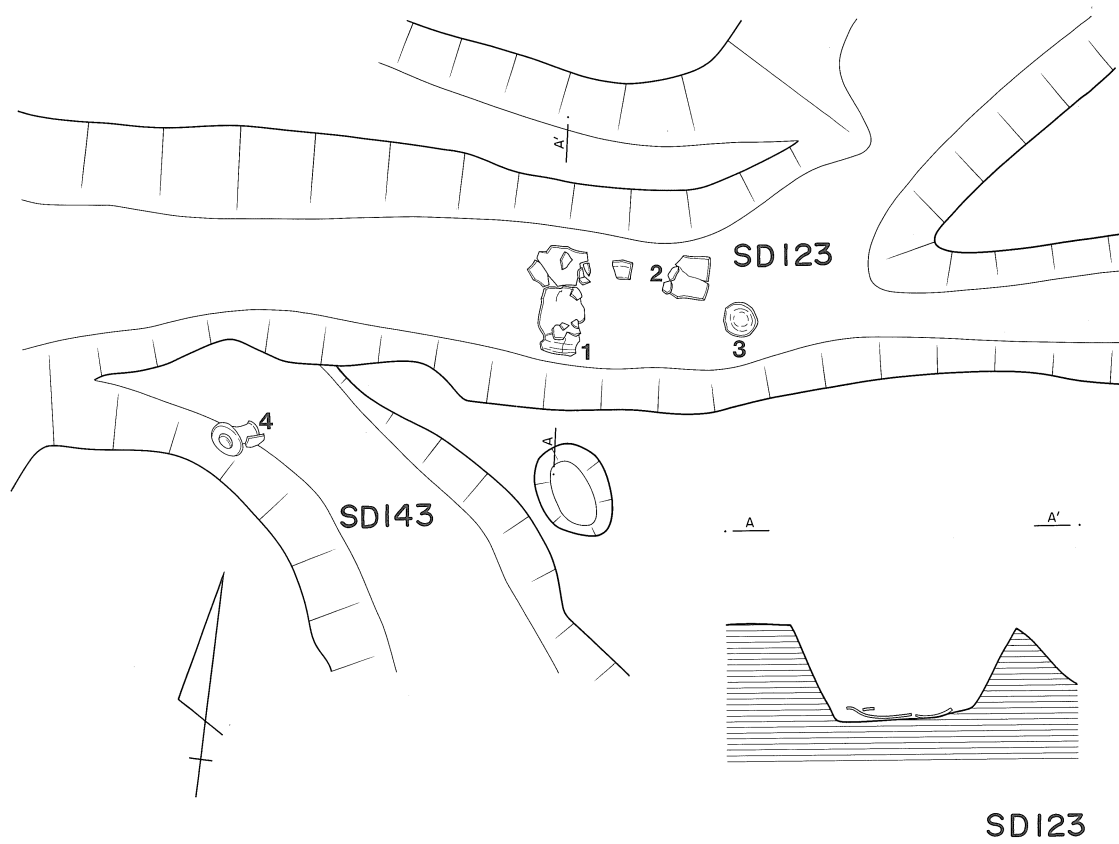
第134図 SK120実測図



第135図 SK121・SK125・SK126実測図

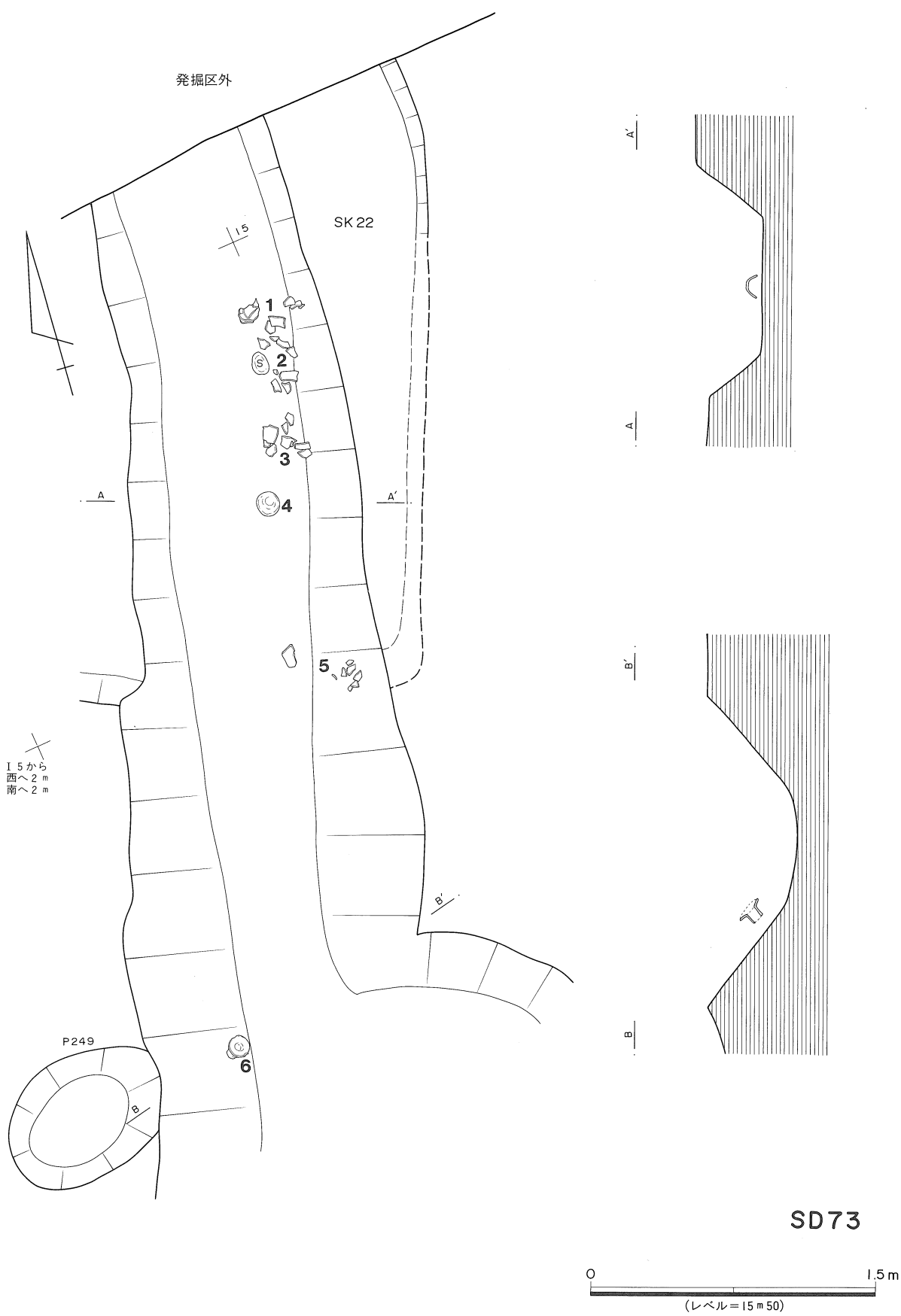


第136図 SK122・SK123・SK127・SK128実測図

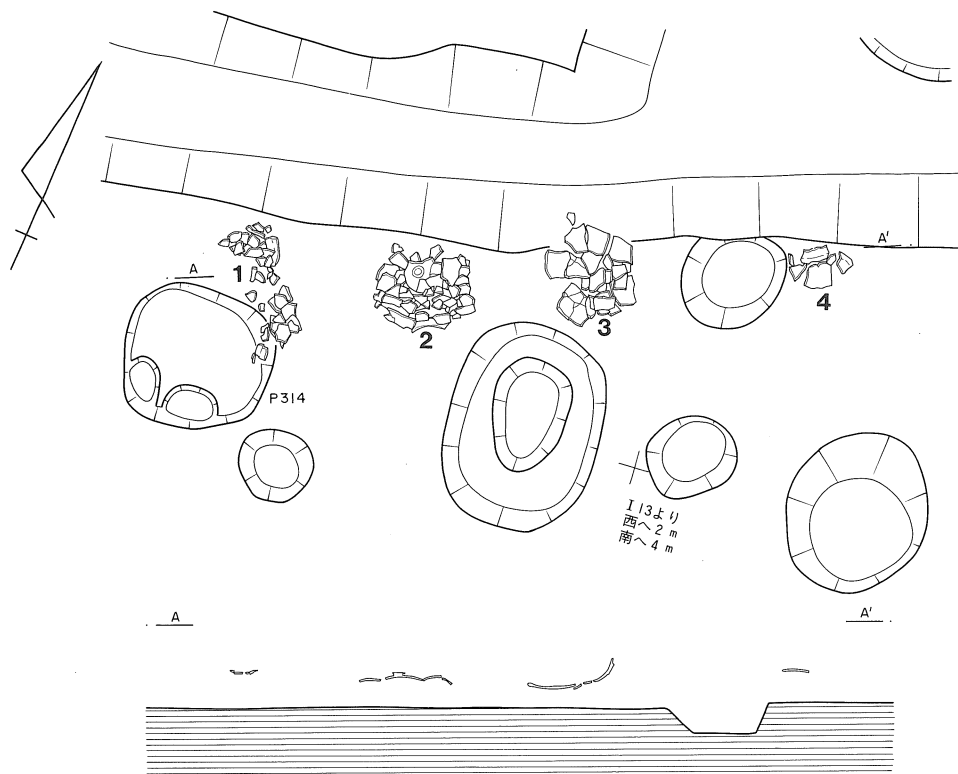


0 1.5m
(レベル = 15 m 30)

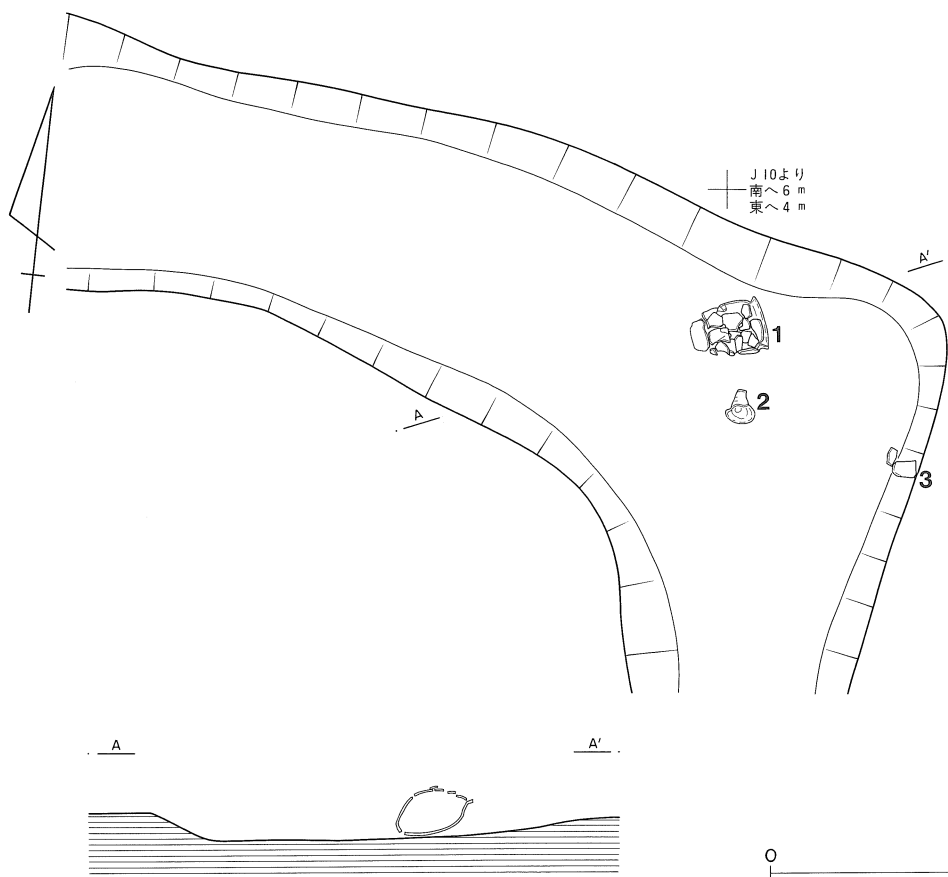
第137図 SD123・SK129実測図



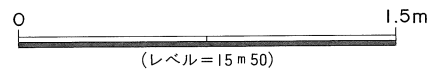
第141図 SD73実測図



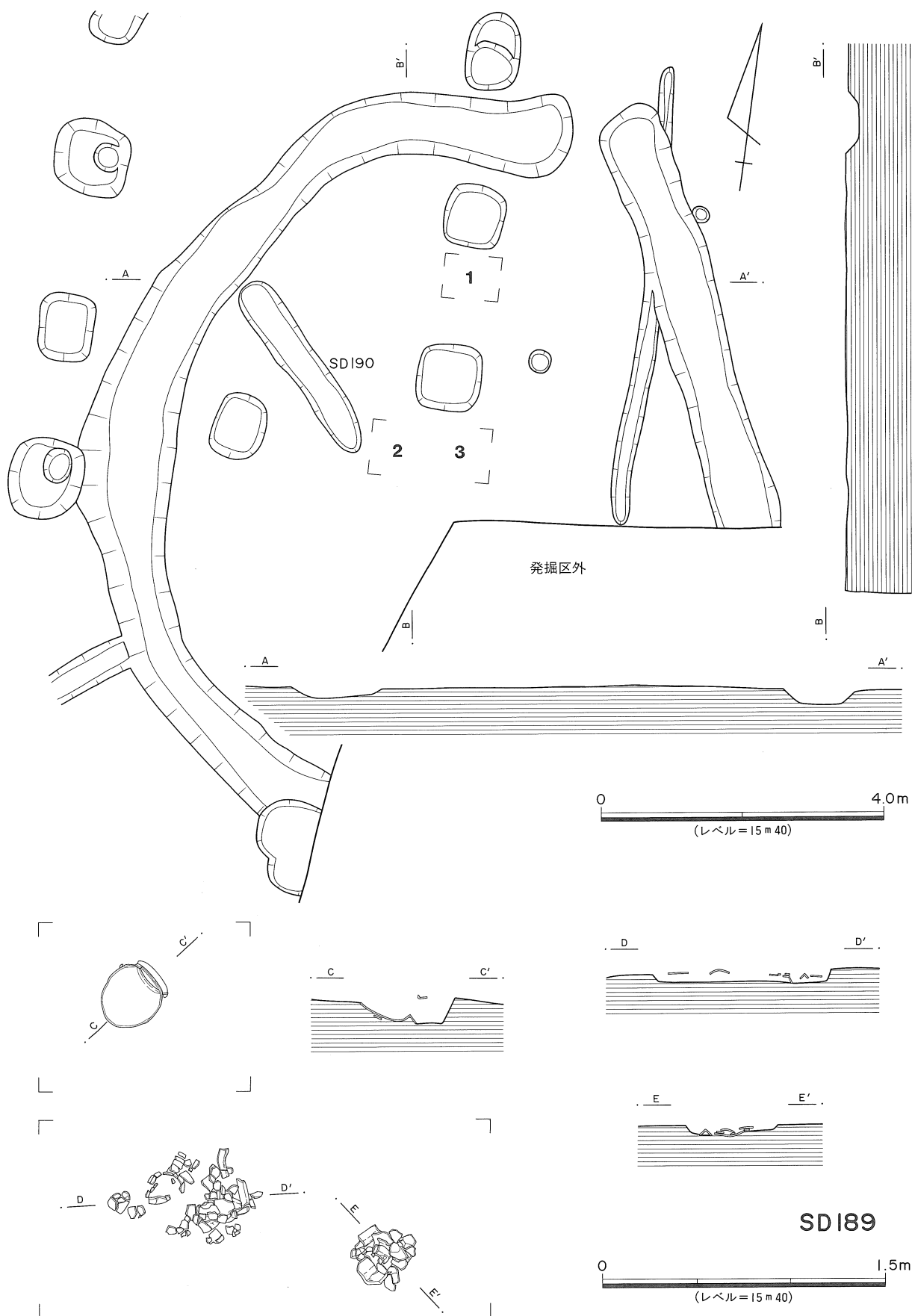
SD82



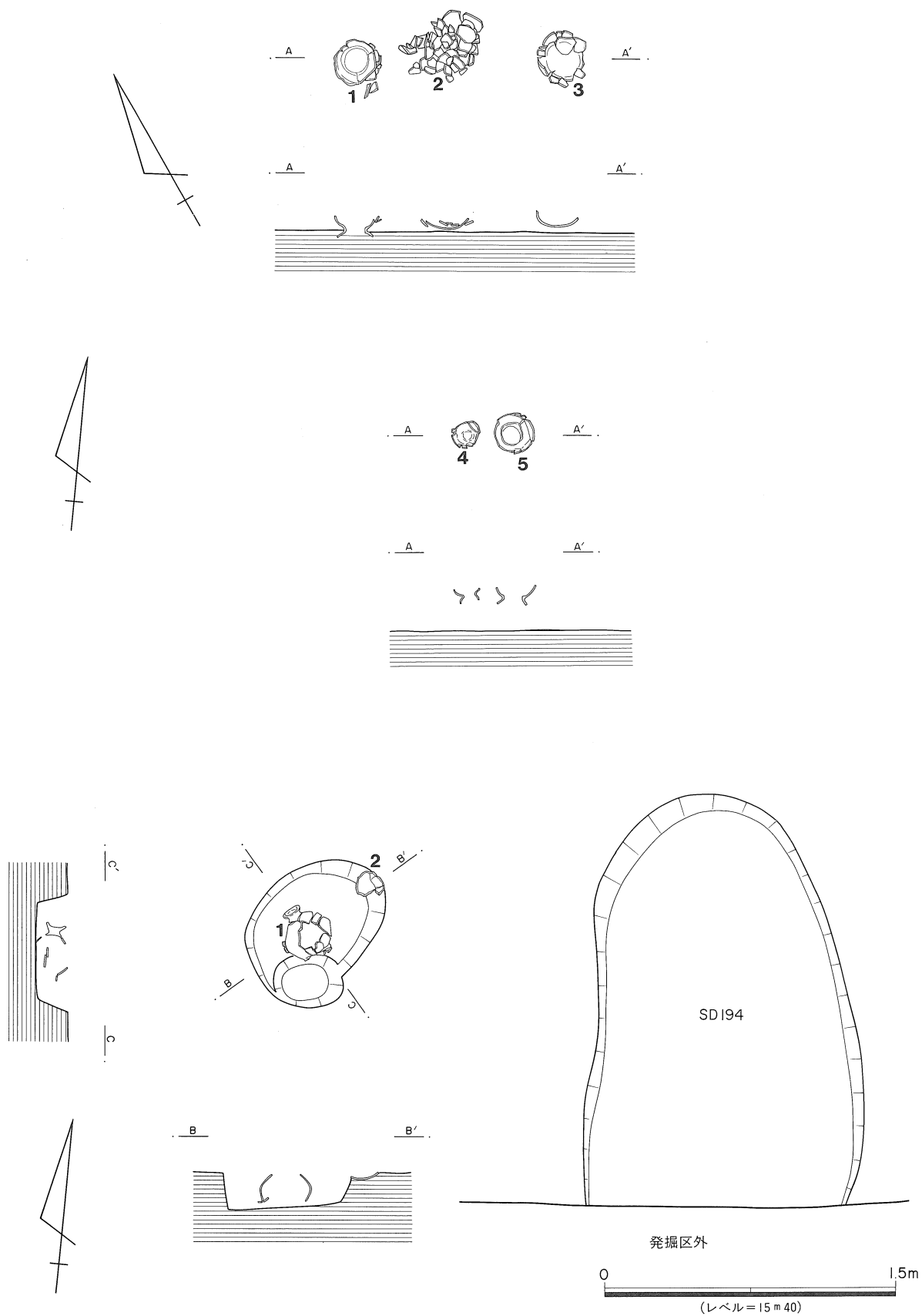
SD150



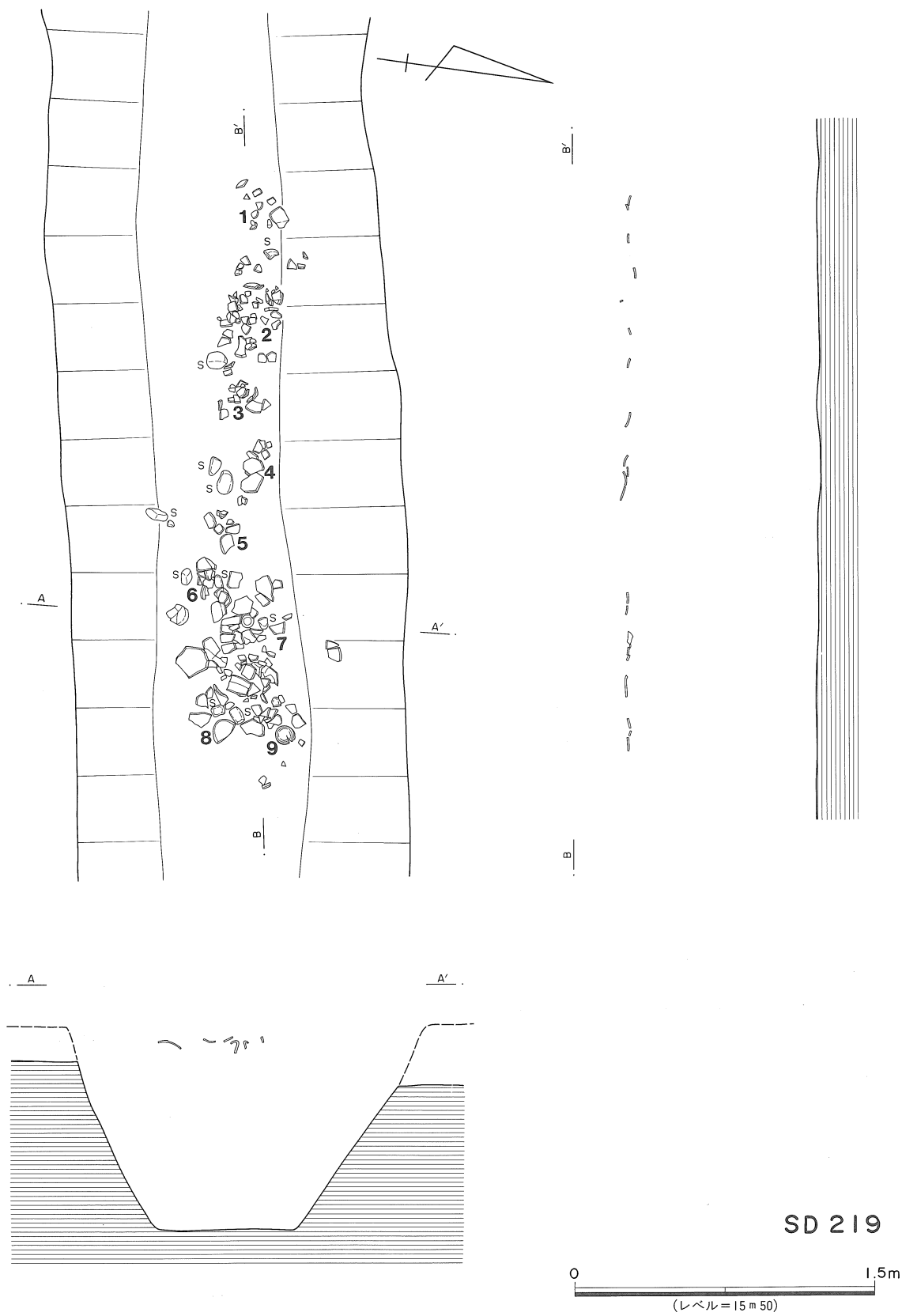
第142図 SD82・SD150実測図



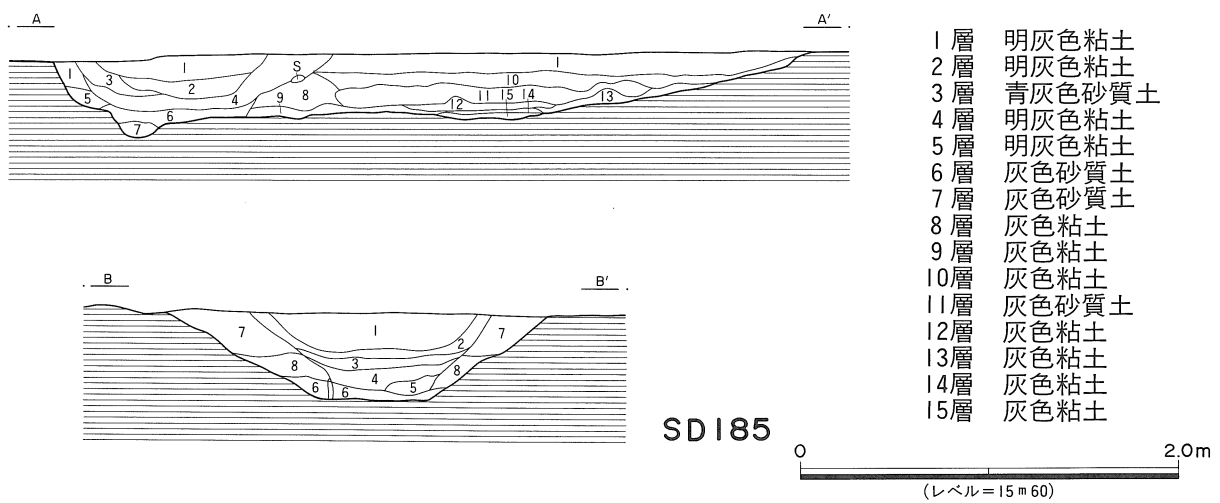
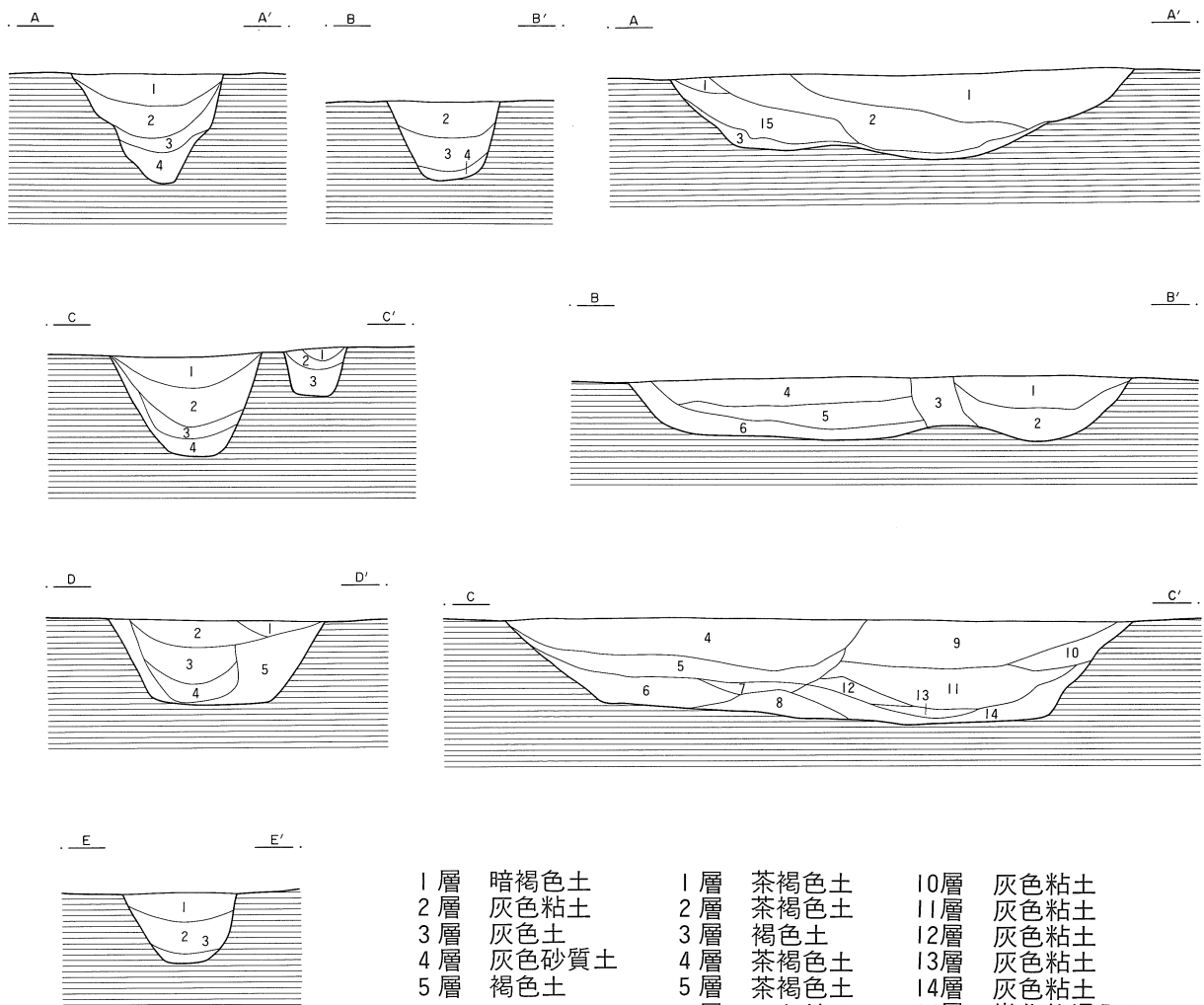
第143図 SD189実測図



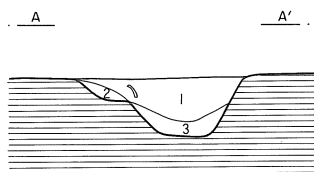
第144図 SD189・SD194実測図



第145図 SD219実測図

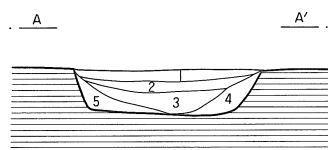


第146図 SD16・SD17・SD185実測図

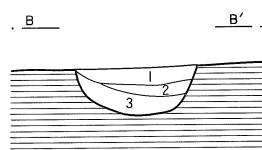


- 1 層 褐色土
2 層 茶褐色土
3 層 灰色粘土

SD66

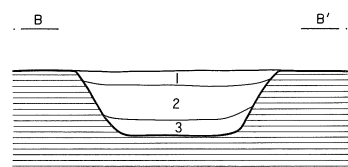
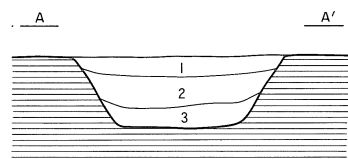


- 1 層 褐色土
2 層 褐色土
3 層 暗褐色土
4 層 灰色土
5 層 暗褐色土



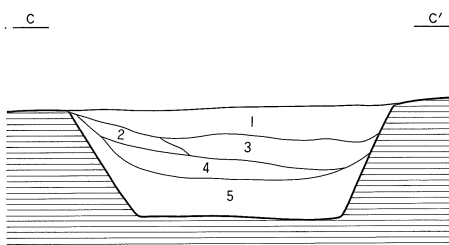
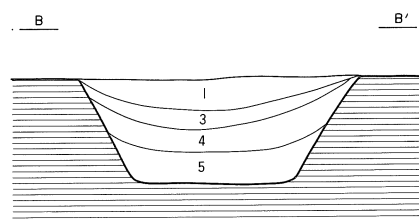
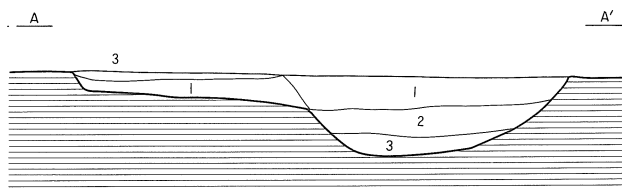
- 1 層 灰色土
2 層 茶褐色土
3 層 褐色土

SD82



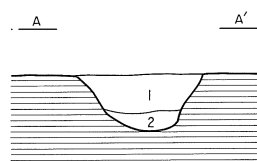
- 1 層 暗灰色粘土
2 層 砂礫
3 層 灰色砂質土

SD123



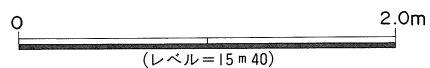
- 1 層 褐色土
2 層 灰色粘土
3 層 灰色粘土
4 層 灰色砂質土
5 層 灰色砂質土

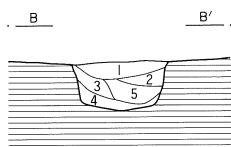
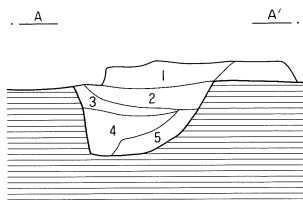
SD80



- 1 層 灰色粘土
2 層 灰色砂質土

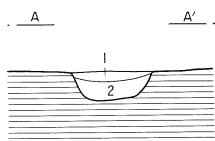
SD152





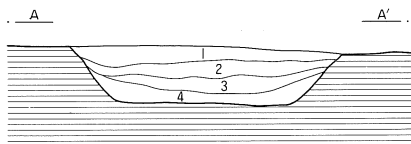
- 1層 褐色土
- 2層 褐色土
- 3層 灰色粘土
- 4層 暗灰色粘土
- 5層 暗灰色粘土

SD219



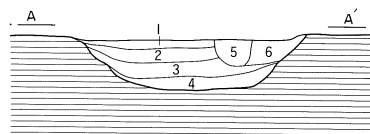
- 1層 褐色土
- 2層 灰色砂質粘土

SD220



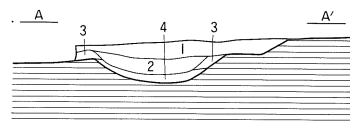
- 1層 褐色土
- 2層 灰色粘土
- 3層 灰色粘土
- 4層 灰色砂質土

SD248



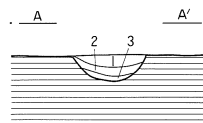
- 1層 褐色土
- 2層 灰色粘土
- 3層 灰色粘土
- 4層 青灰色砂質土
- 5層 褐色土
- 6層 灰色粘土

SD244



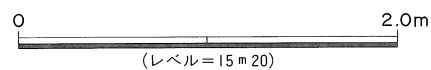
- 1層 褐色土
- 2層 灰色粘土
- 3層 褐色土
- 4層 灰色砂質土

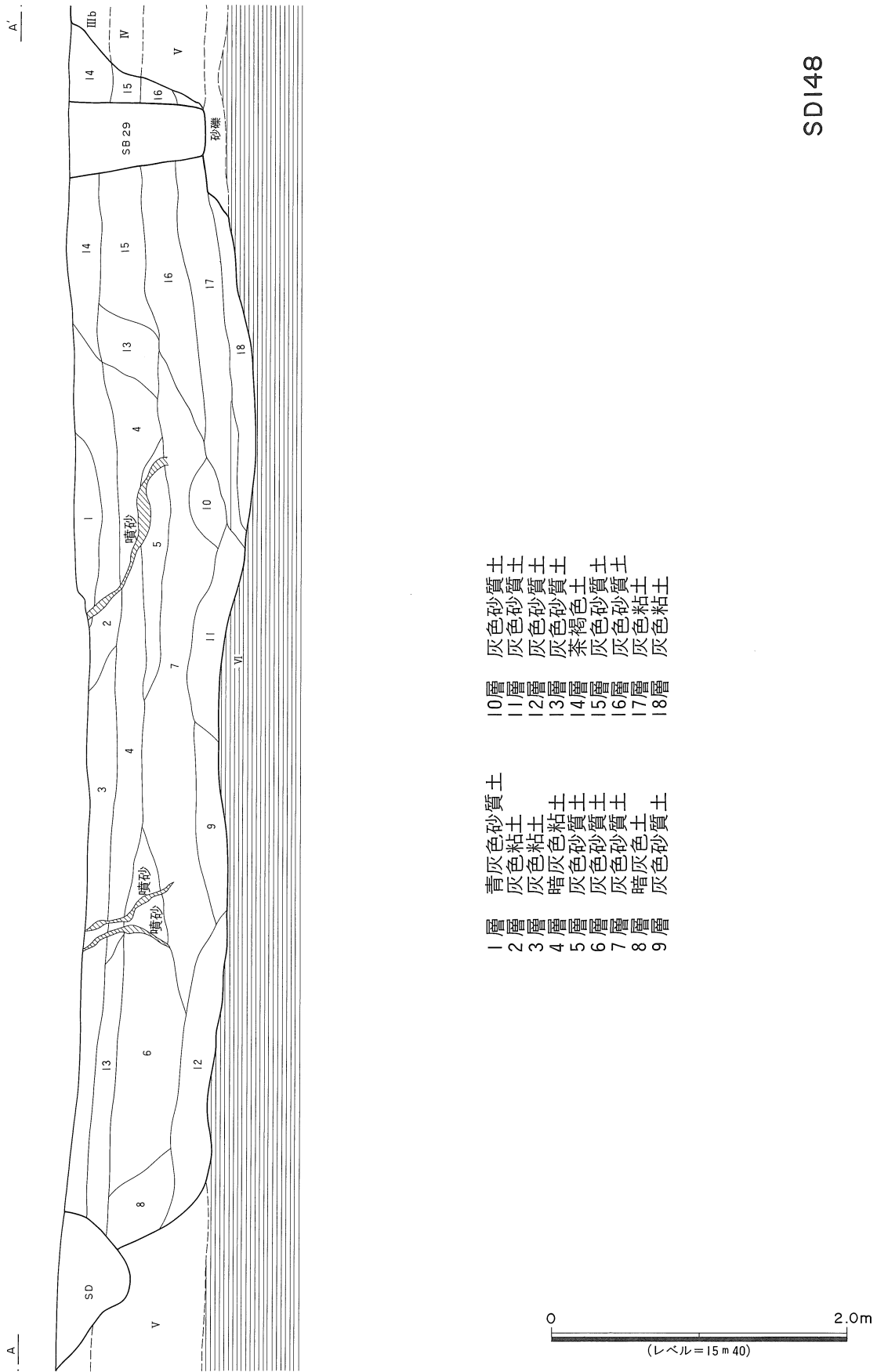
SD246



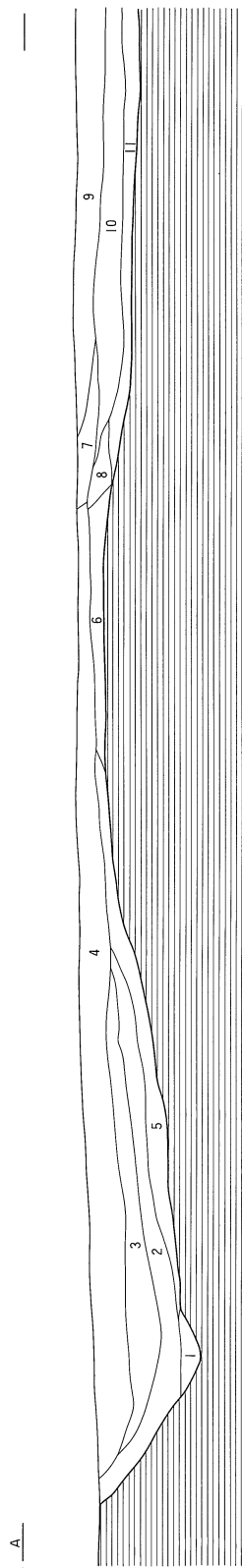
- 1層 褐色土
- 2層 灰色粘土
- 3層 灰色砂質土

SD247

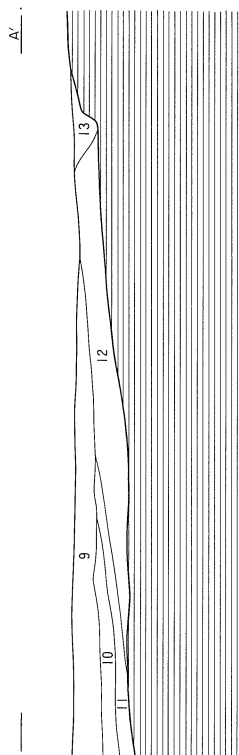




第149図 SD148実測図



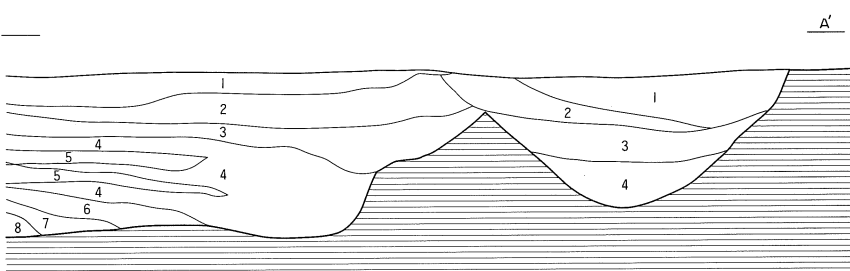
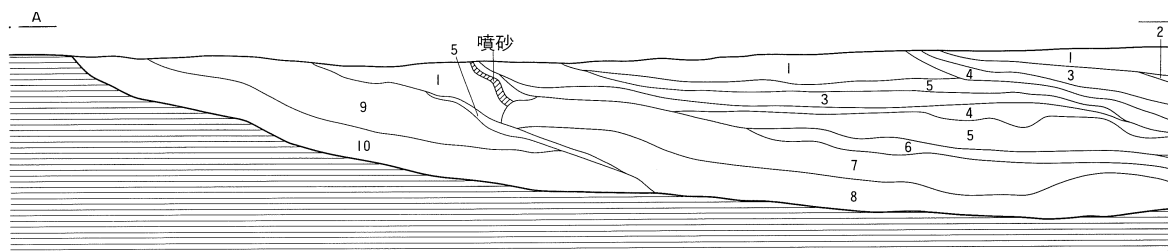
- | | | |
|-----|---------|----|
| 1層 | 灰色粘土 | 粘土 |
| 2層 | 灰色砂質粘土 | 粘土 |
| 3層 | 灰色砂質粘土 | 粘土 |
| 4層 | 灰色砂質粘土 | 粘土 |
| 5層 | 灰色砂質粘土 | 粘土 |
| 6層 | 灰色砂質粘土 | 粘土 |
| 7層 | 灰色砂質粘土 | 粘土 |
| 8層 | 灰色砂質粘土 | 粘土 |
| 9層 | 灰色砂質粘土 | 粘土 |
| 10層 | 暗灰色砂質粘土 | 粘土 |
| 11層 | 暗灰色砂質粘土 | 粘土 |
| 12層 | 暗灰色砂質粘土 | 粘土 |
| 13層 | 暗灰色砂質粘土 | 粘土 |



0 4.0m
(レベル = 14 m 80)

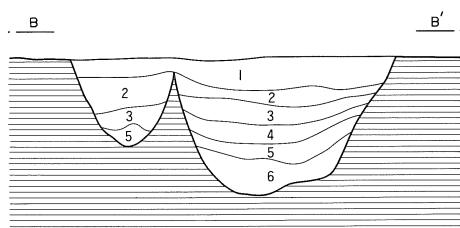
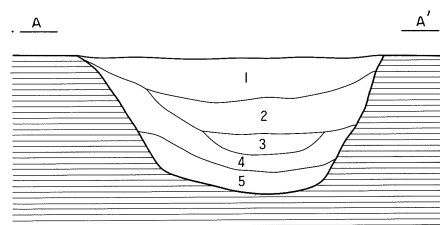
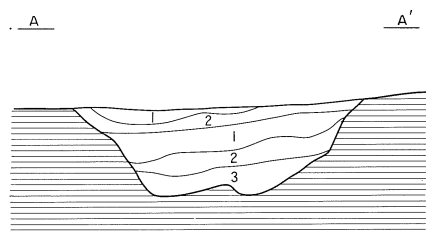
SD183

第150図 SD183実測図



SD276

- 1層 灰色粘土
- 2層 灰色粘土
- 3層 灰色粘土
- 4層 青灰色砂質土
- 5層 炭化物混入土
- 6層 炭化物混入土
- 7層 青灰色砂質土
- 8層 青灰色砂質土
- 9層 灰色砂質土
- 10層 灰色砂質土

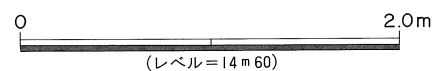


- 1層 灰色粘土
- 2層 灰色粘土
- 3層 青灰色砂質土
- 4層 青灰色砂質土
- 5層 明灰色粘土

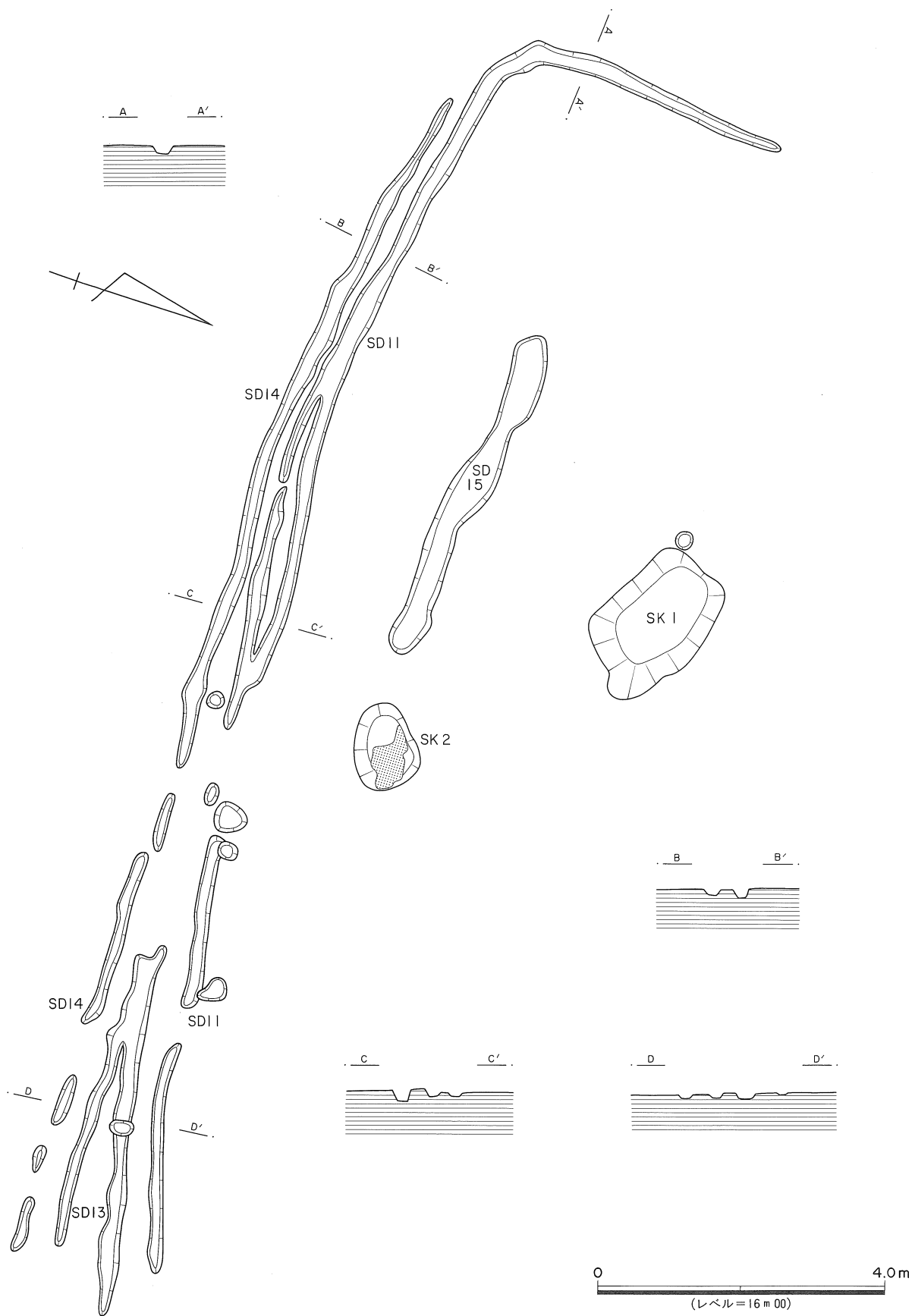
SD270

- 1層 灰色粘土
- 2層 青灰色砂質土
- 3層 青灰色砂質土
- 4層 明灰色粘土
- 5層 明灰色粘土
- 6層 明灰色粘土

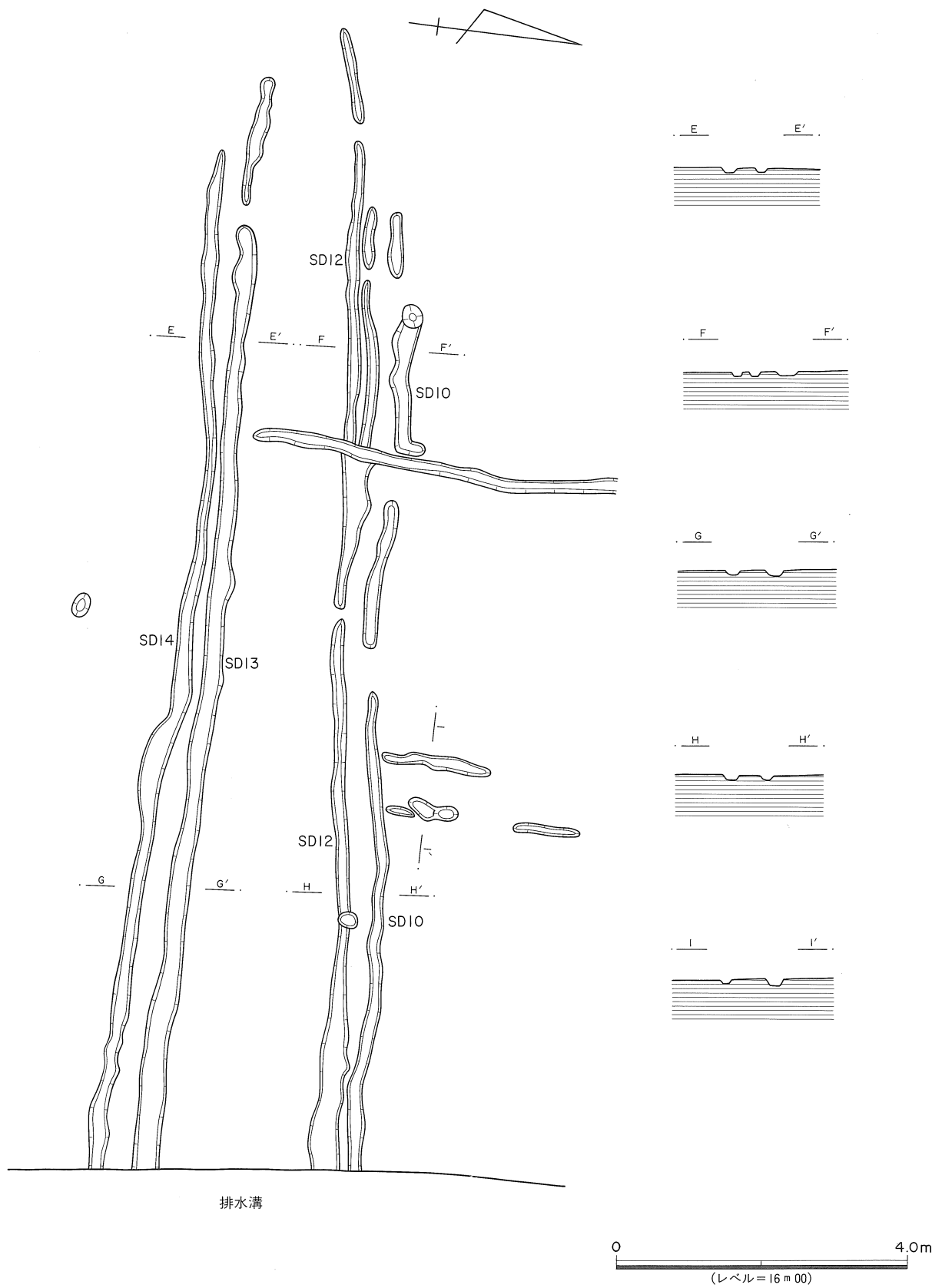
SD267



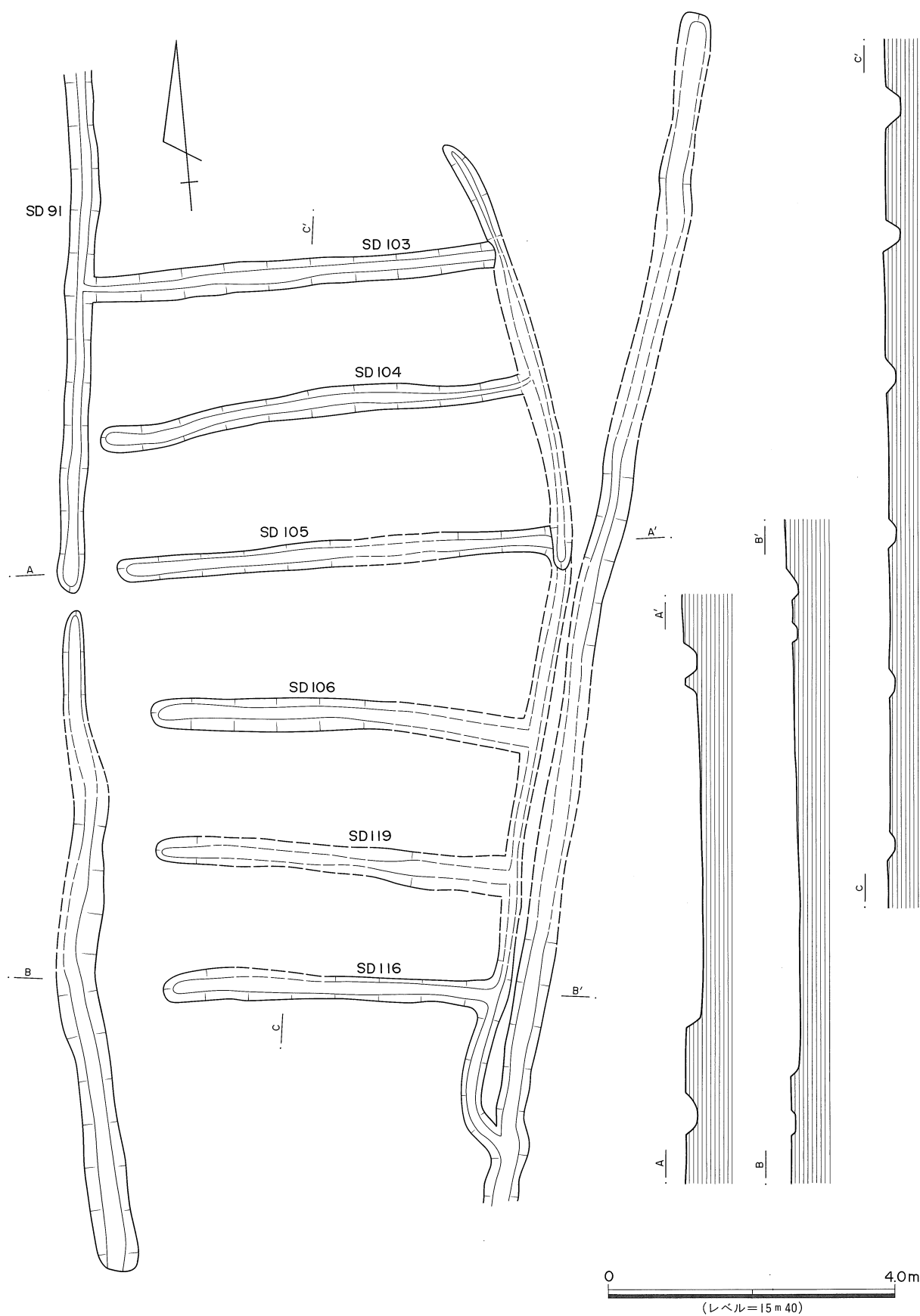
第151図 SD267・SD270・SD276実測図



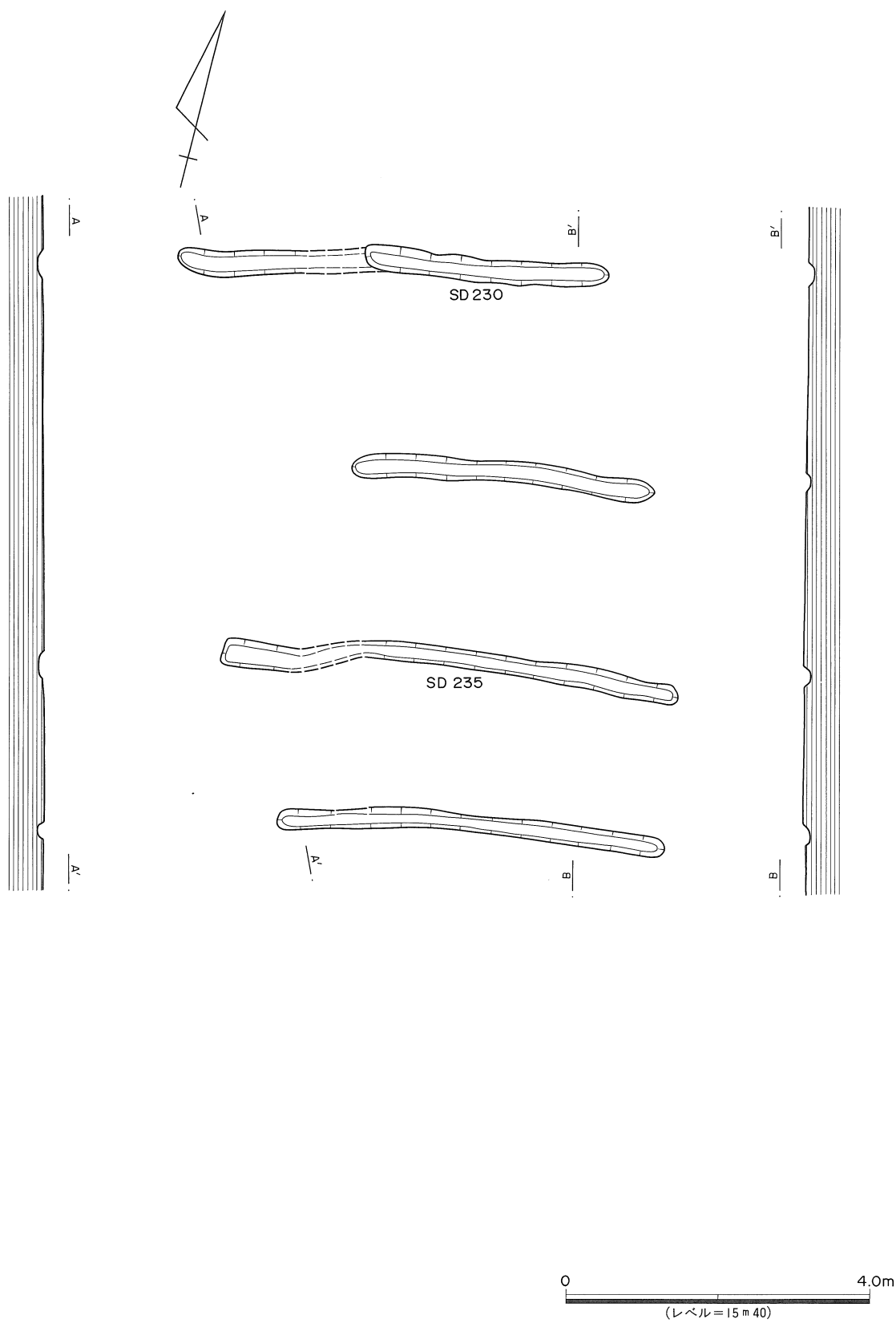
第152図 SD11・SD13・SD14・SD15実測図



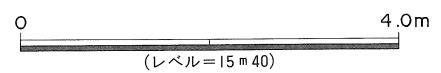
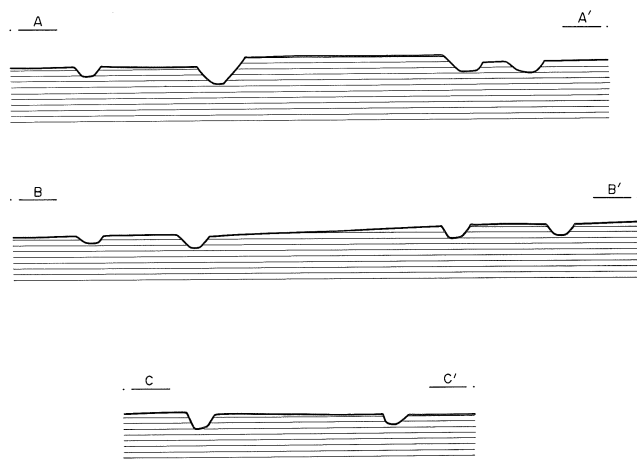
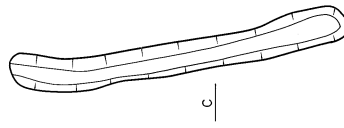
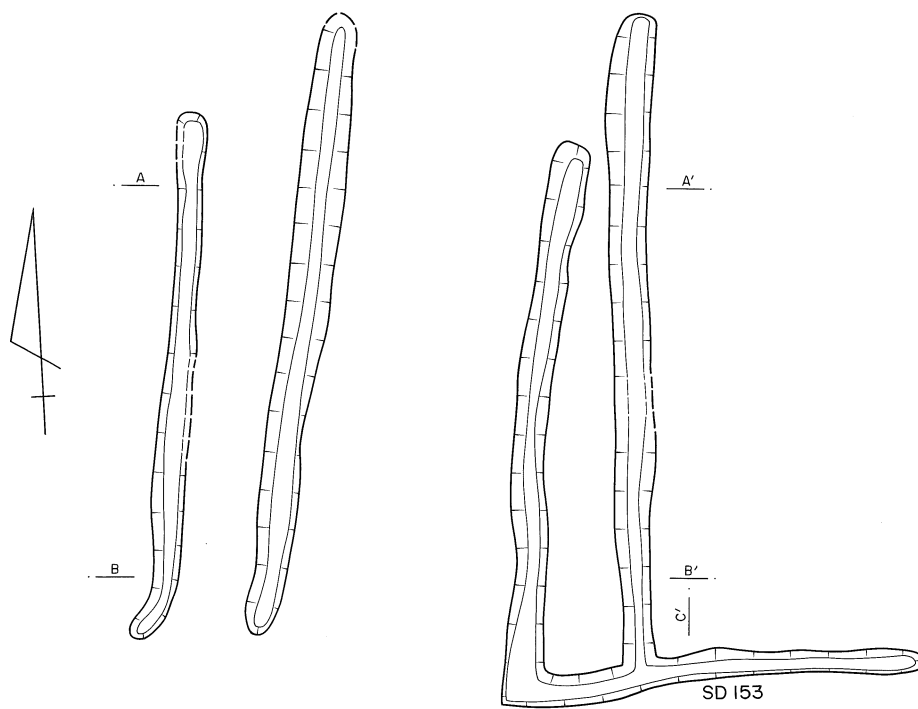
第153図 SD10・SD12・SD13・SD14実測図



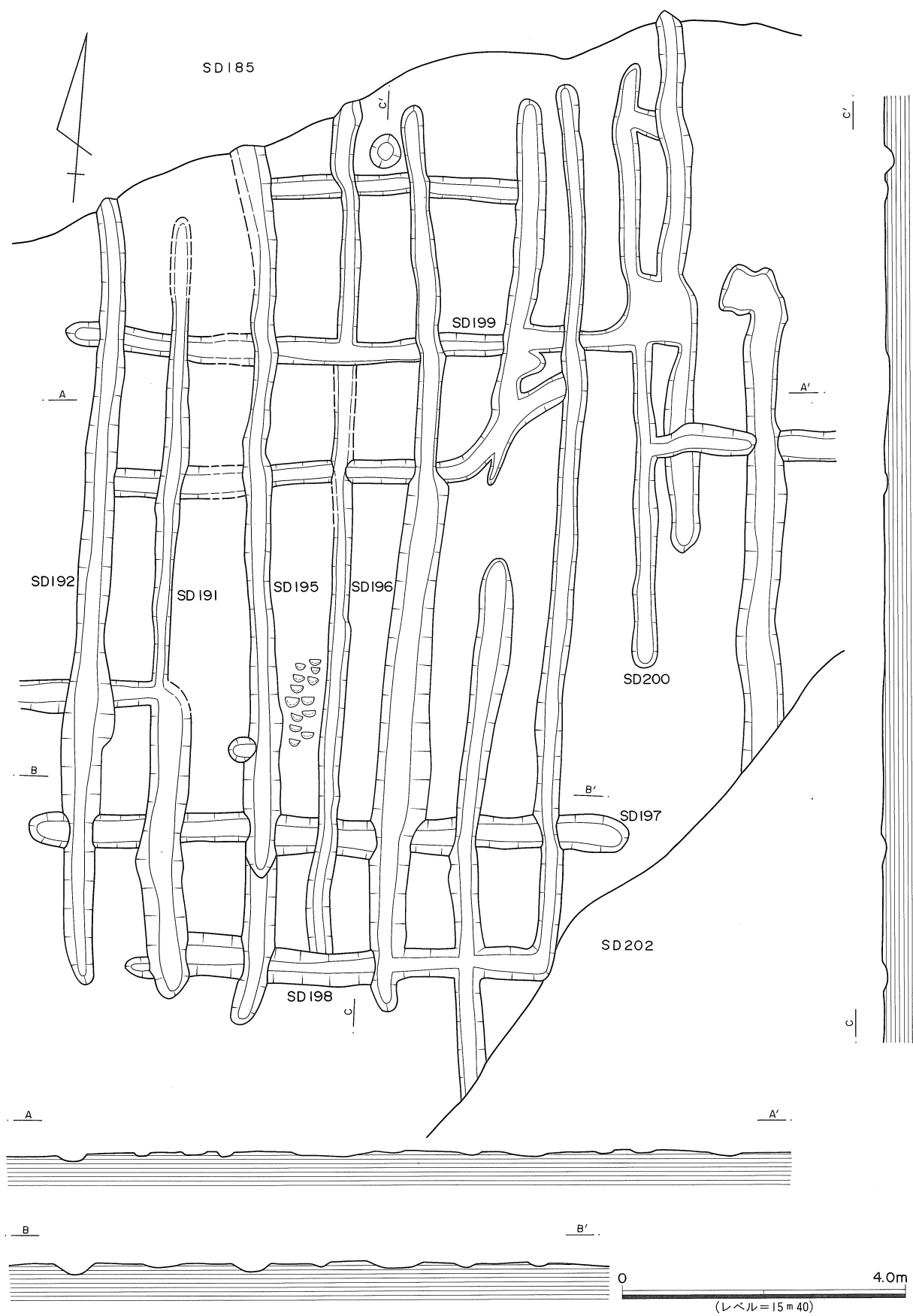
第154図 畝 1 実測図



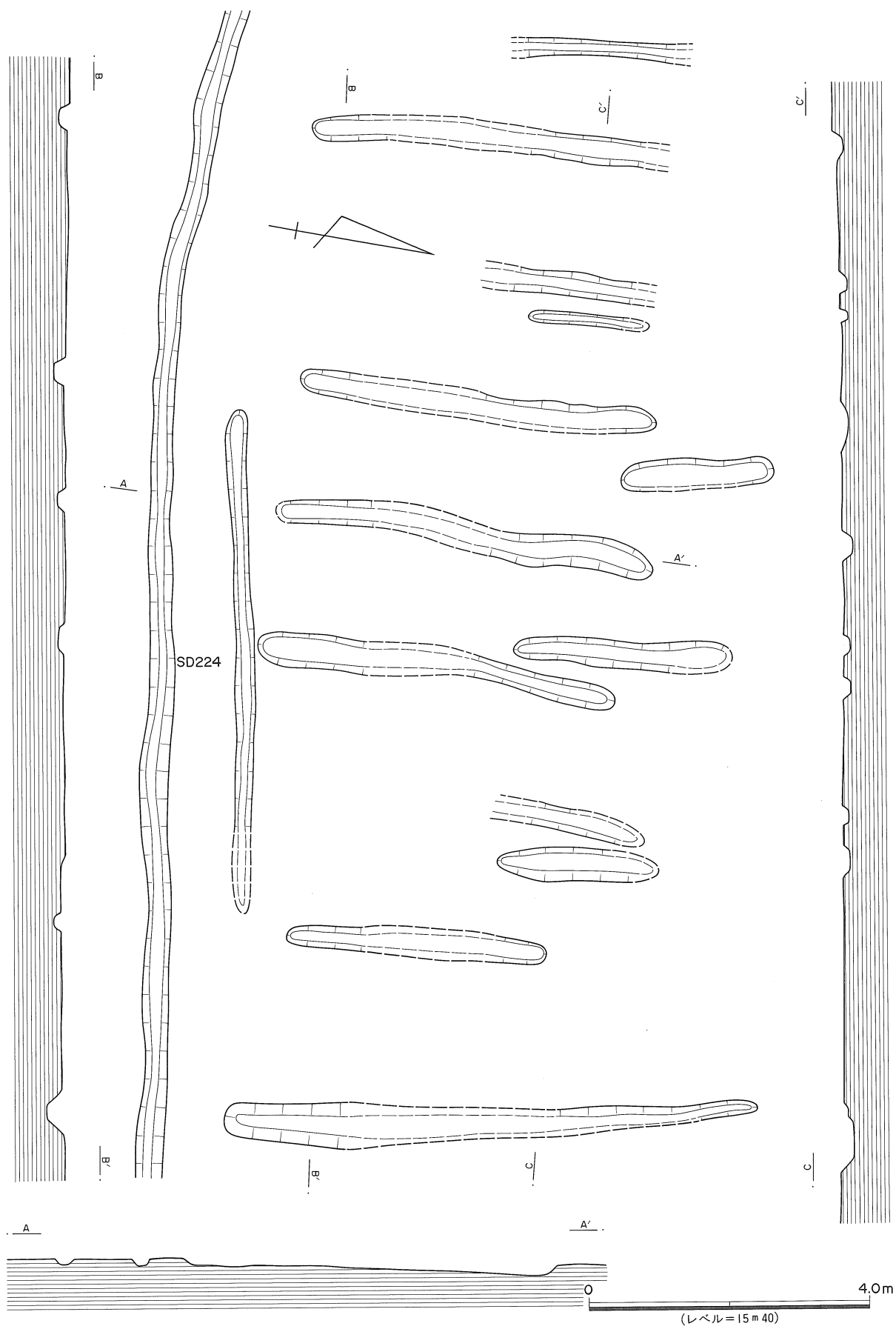
第155図 畝2実測図



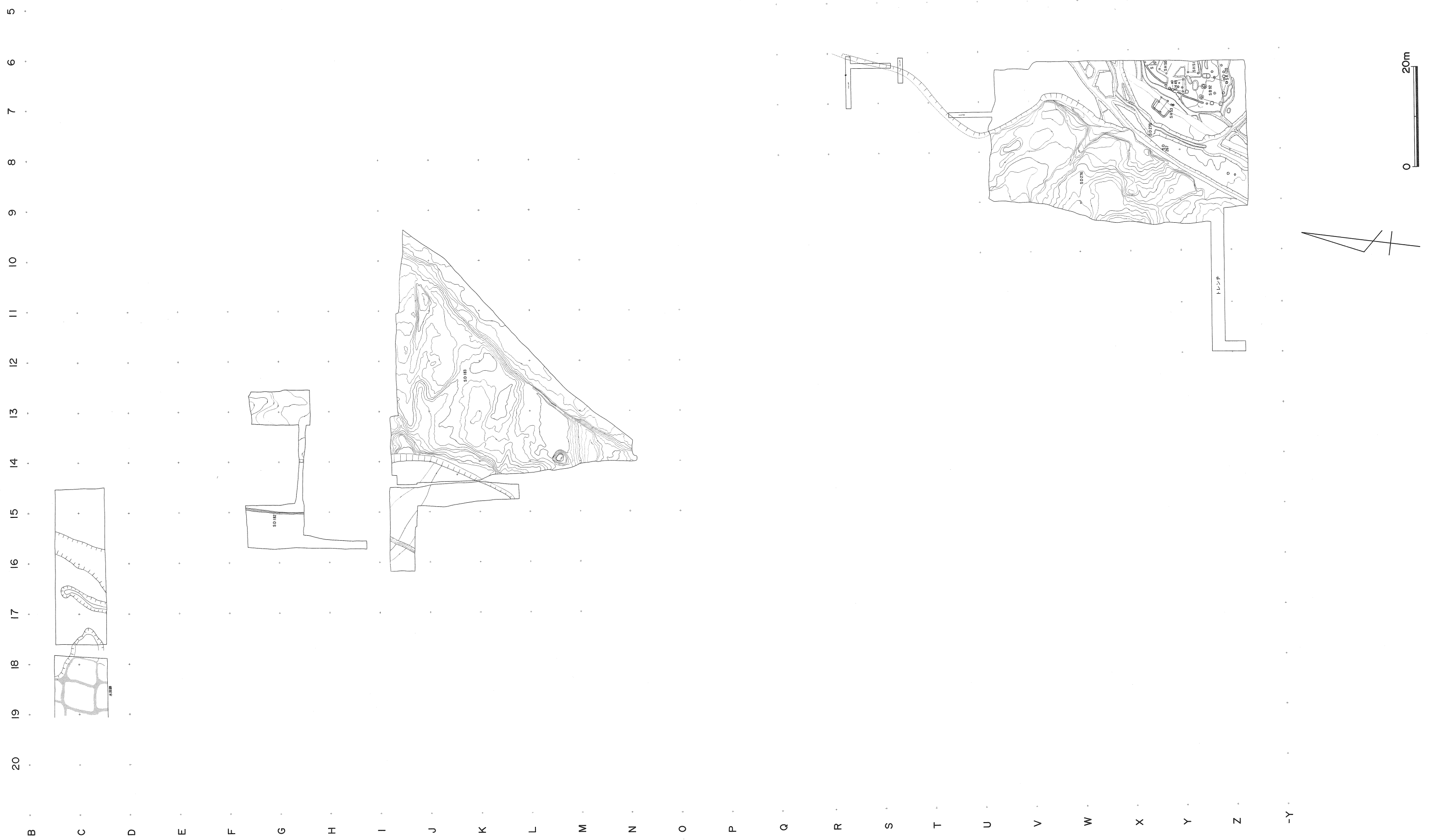
第156図 畝3実測図



第157図 畝4 実測図



第158図 畝5実測図



第161図 第Ⅲ－1遺構面全体図

写真図版



坂尻遺跡周辺航空写真（北西より）



坂尻遺跡周辺航空写真（南より）



第 I 遺構面北側航空写真



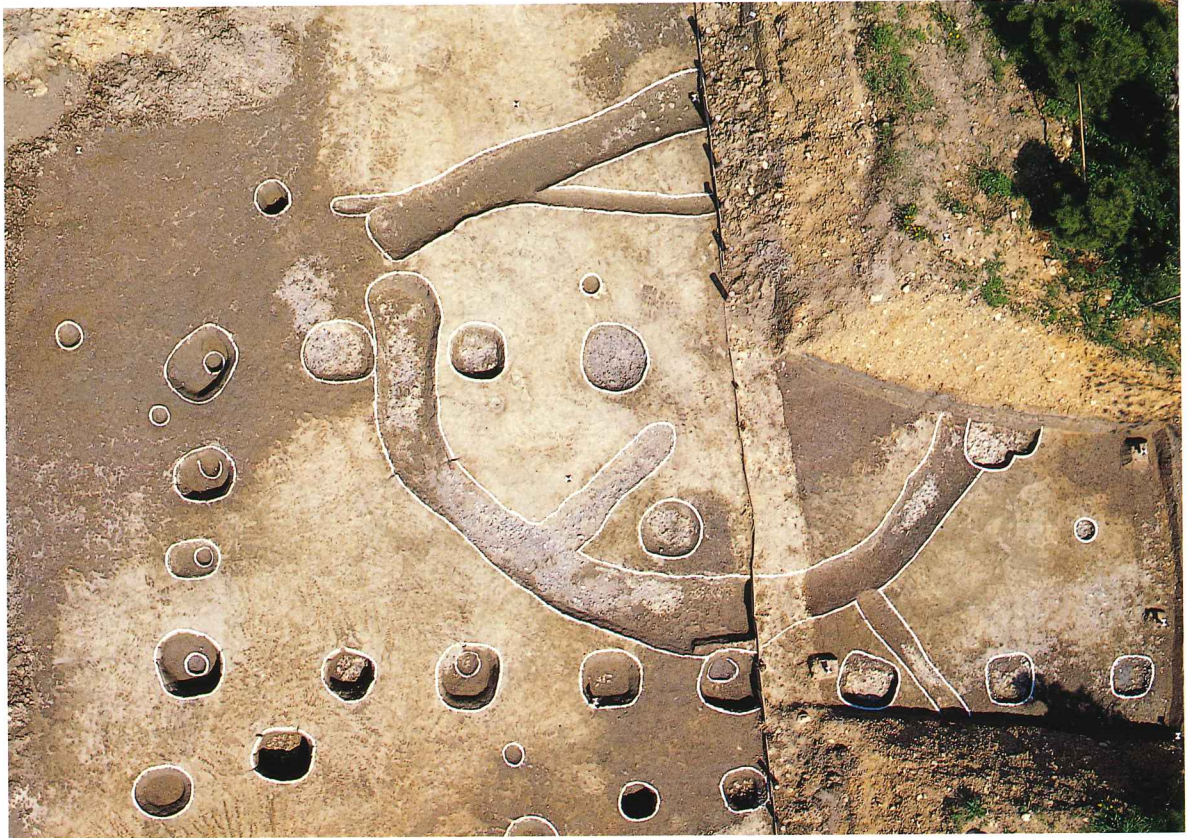
第 I 遺構面南側航空写真



第Ⅱ遺構面北側航空写真



第Ⅱ遺構面南側航空写真



58号掘立柱建物航空写真



第Ⅲ遺構面南側航空写真



18号住居内土器出土状況



54号住居内土器出土状況



80号溝内土器出土状況



236号溝内土器出土状況



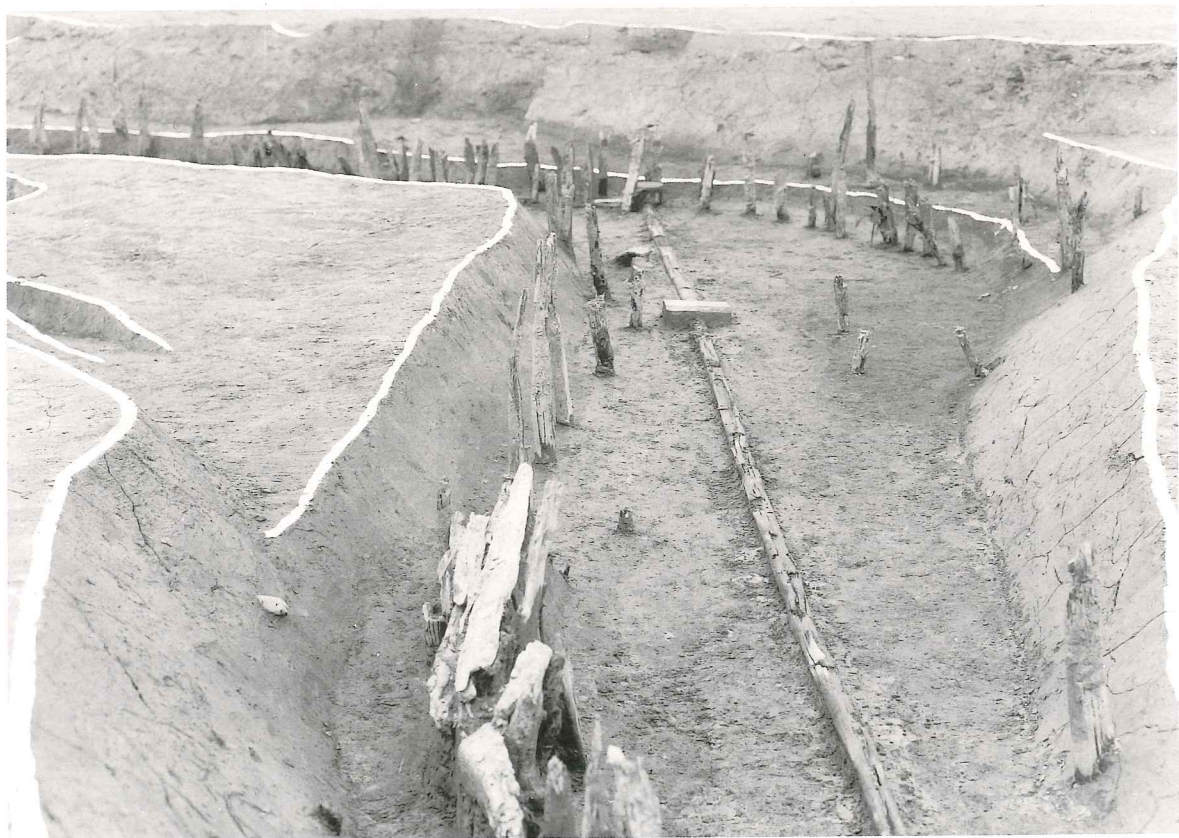
6号不定形遺構（南西より）



270号溝内「木樋管」出土状況



近世流路（東より）



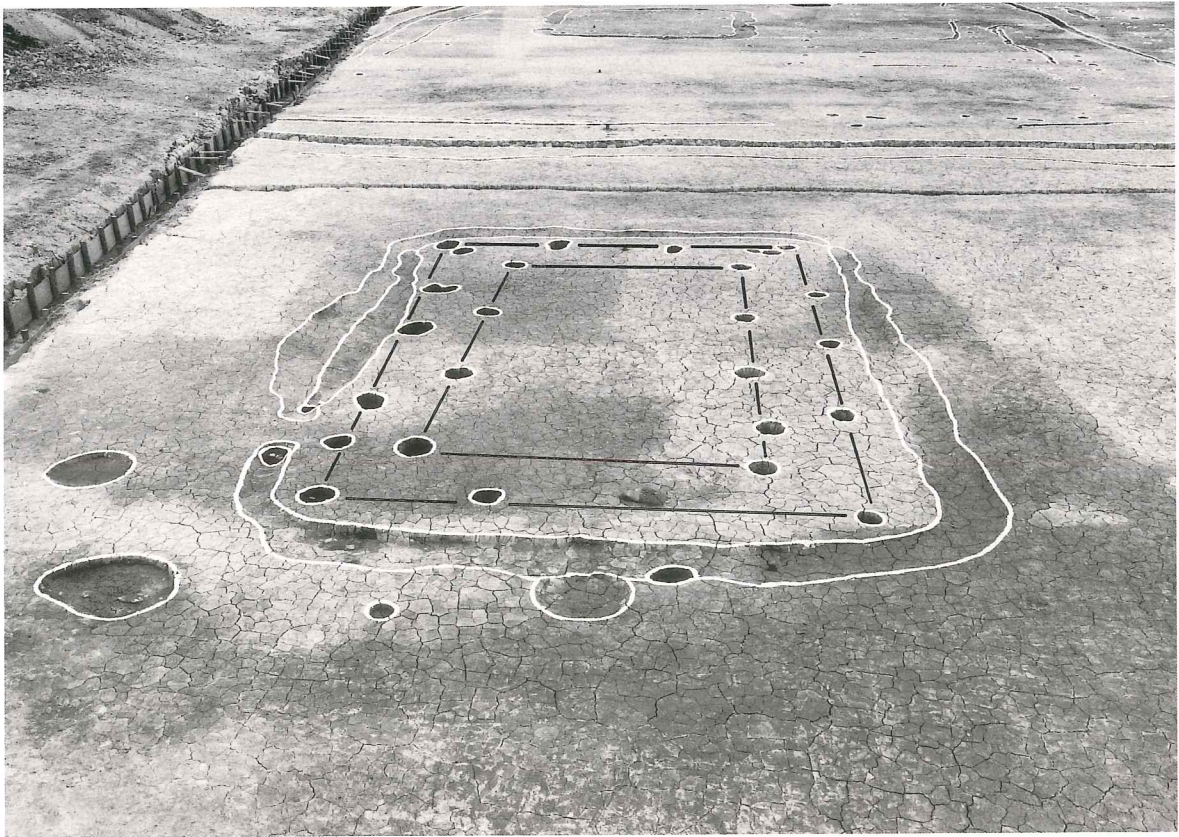
流路内護岸施設及び竹樋管



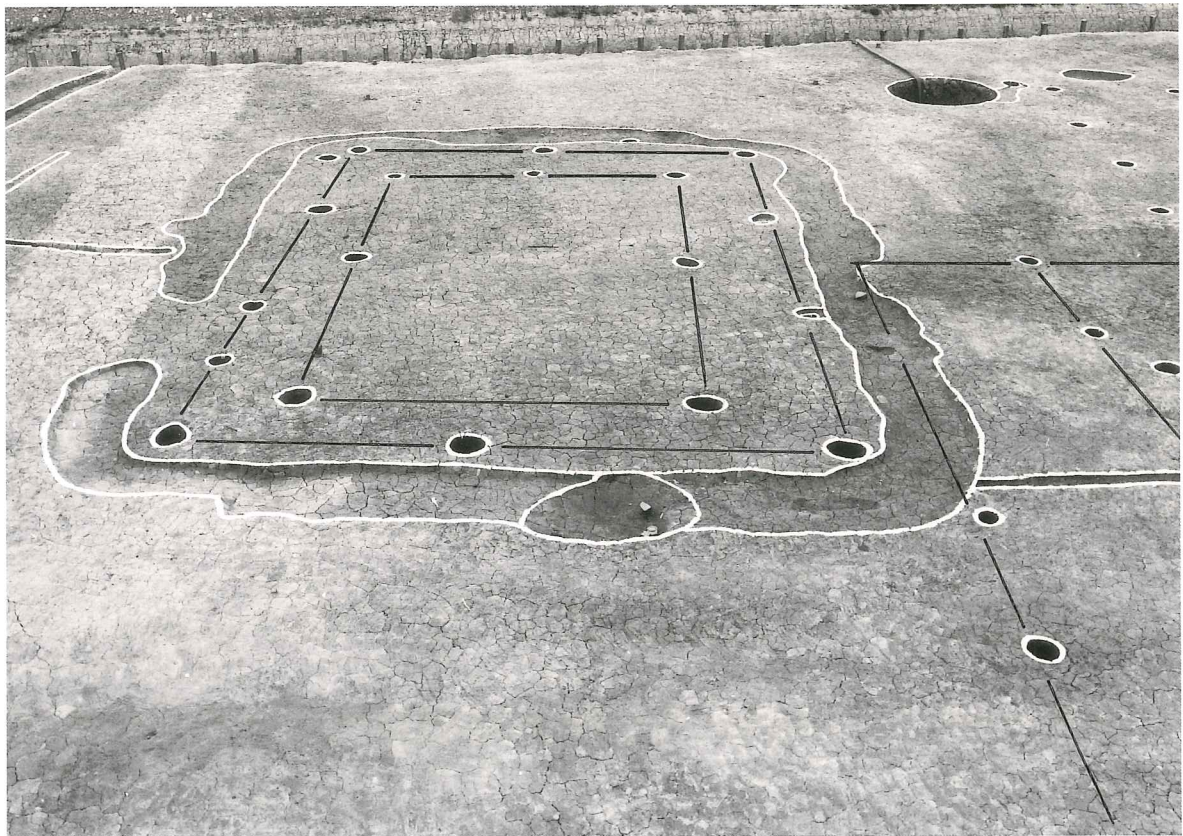
流路内竹樋管ジョイント部



流路内竹樋管ジョイント部

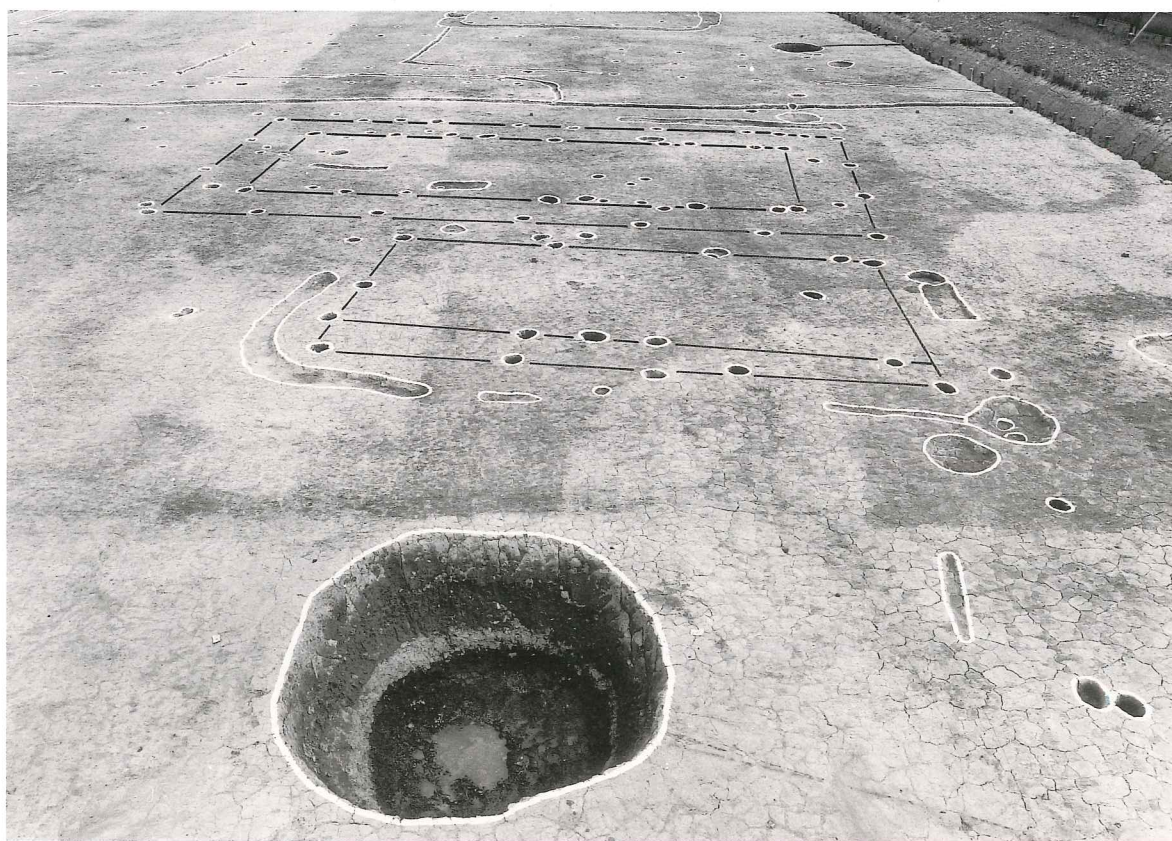


2号掘立柱建物（東より）

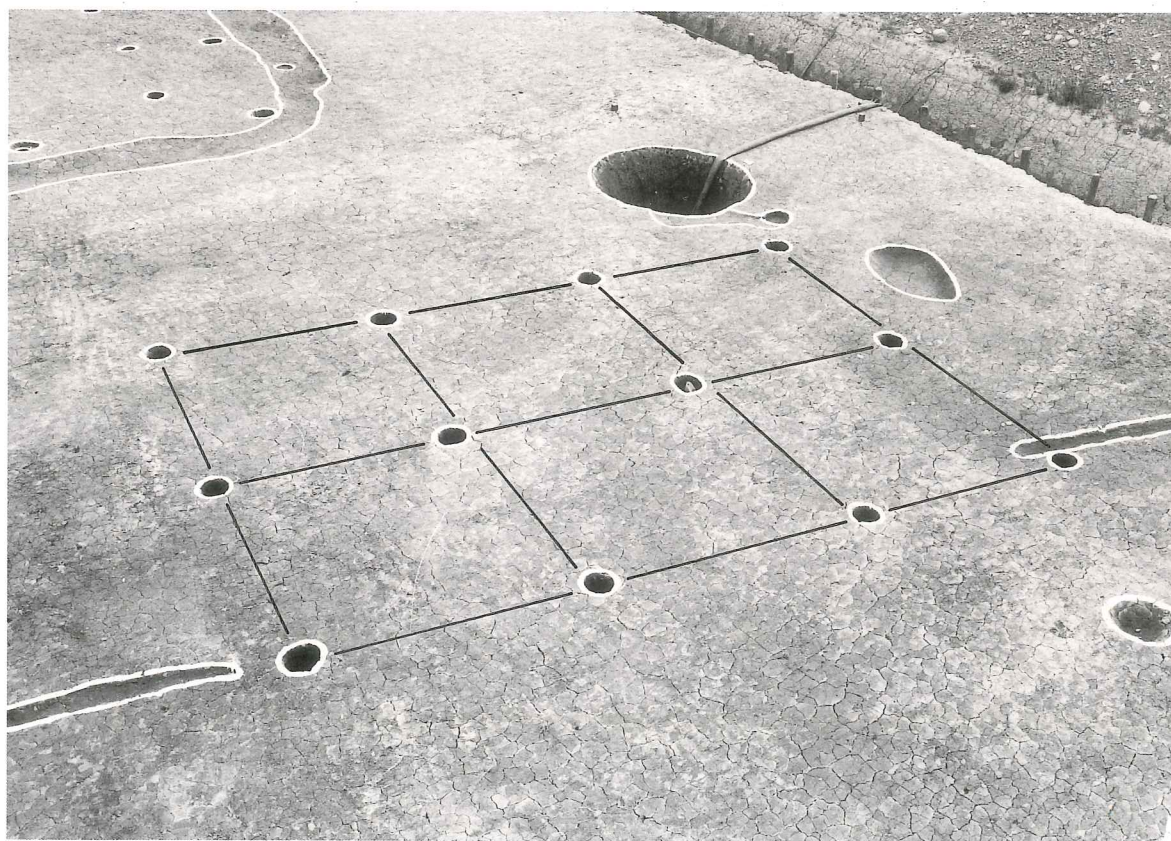


8号掘立柱建物（東より）

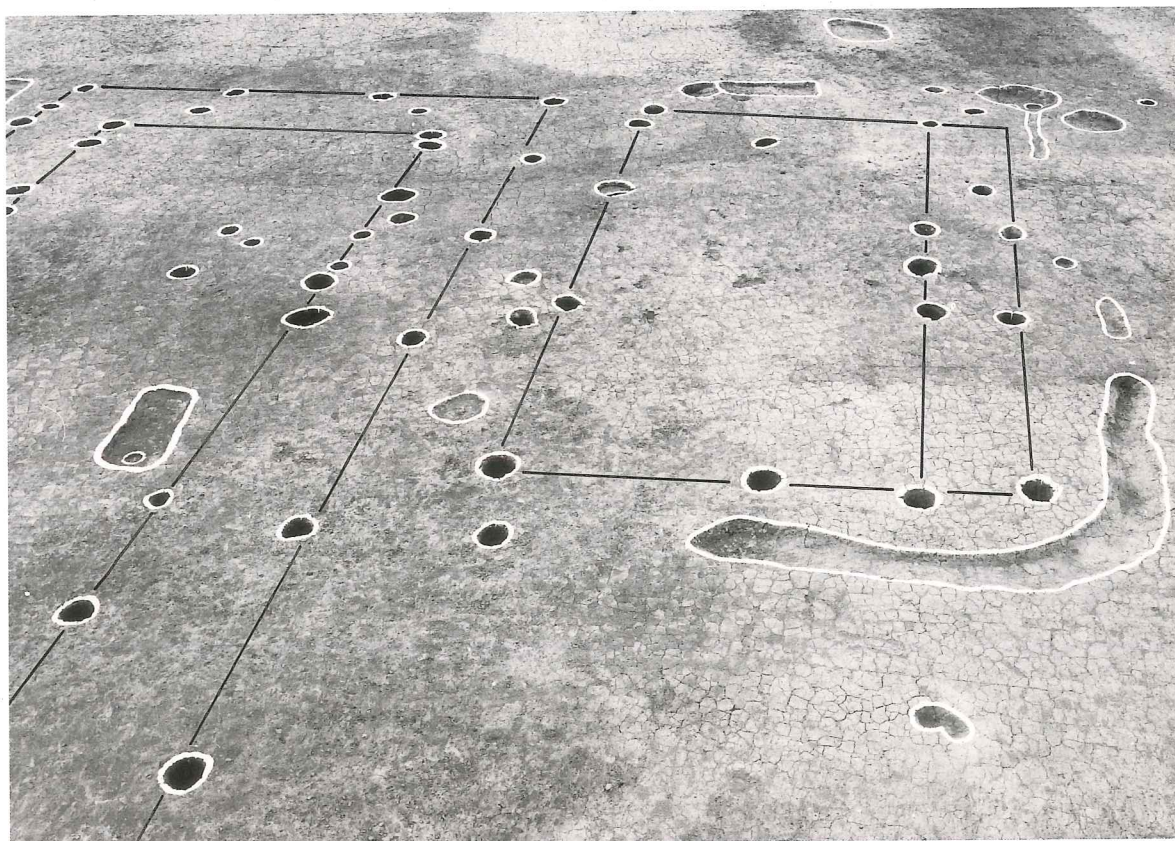
図版 4



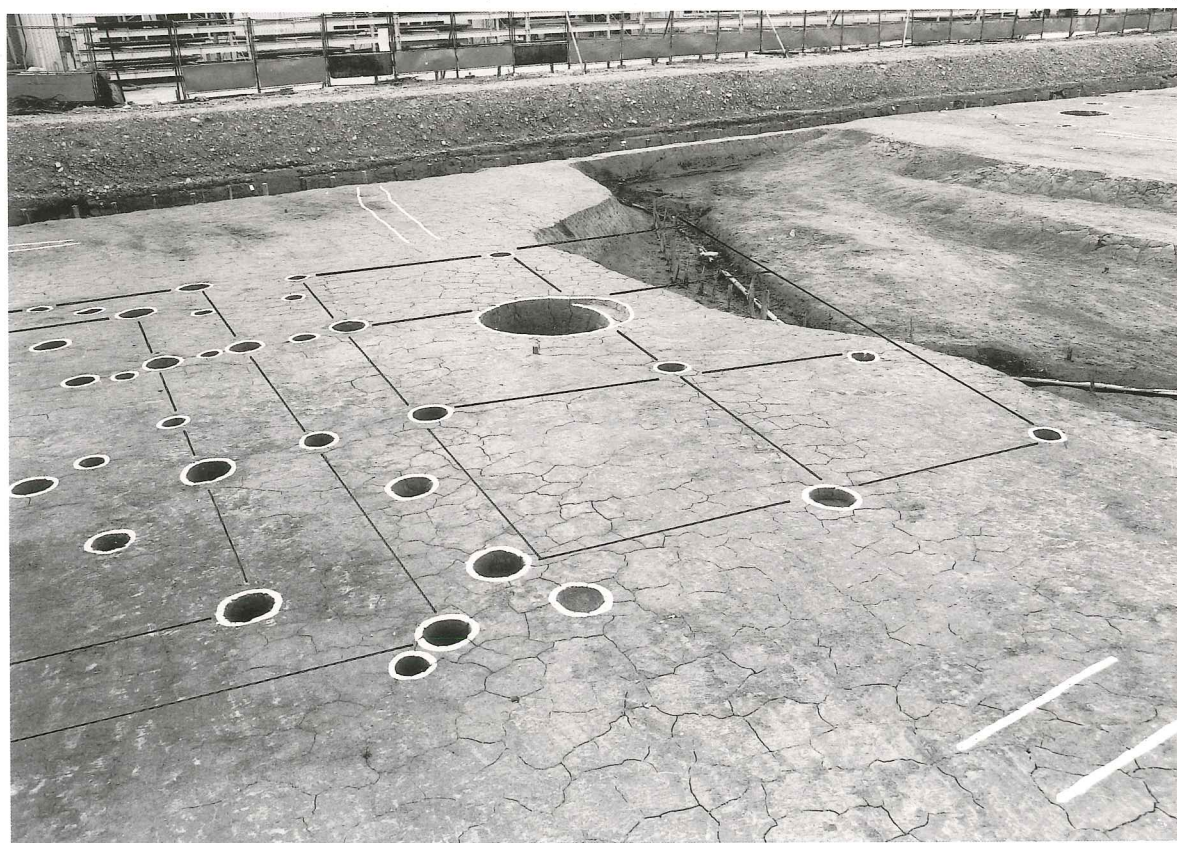
手前より1号井戸、5・6号掘立柱建物（北より）



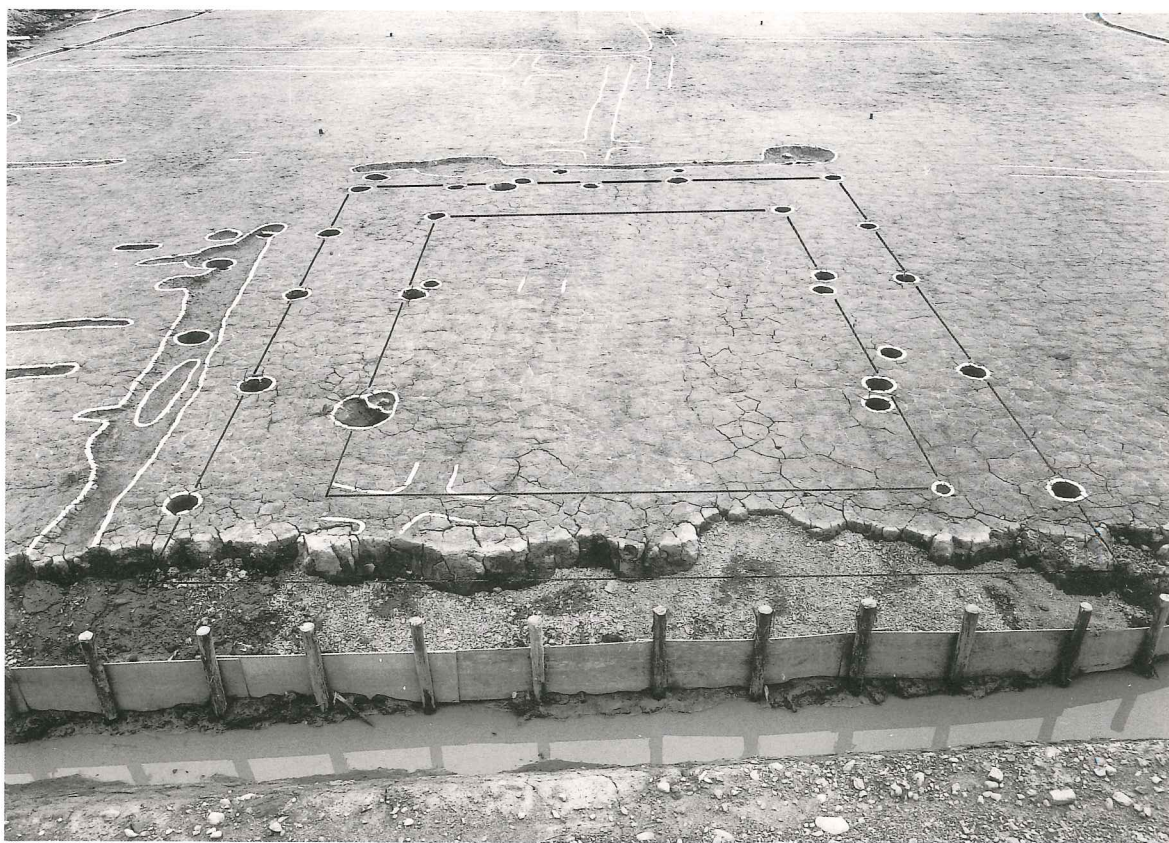
7号掘立柱建物、2号井戸（北東より）



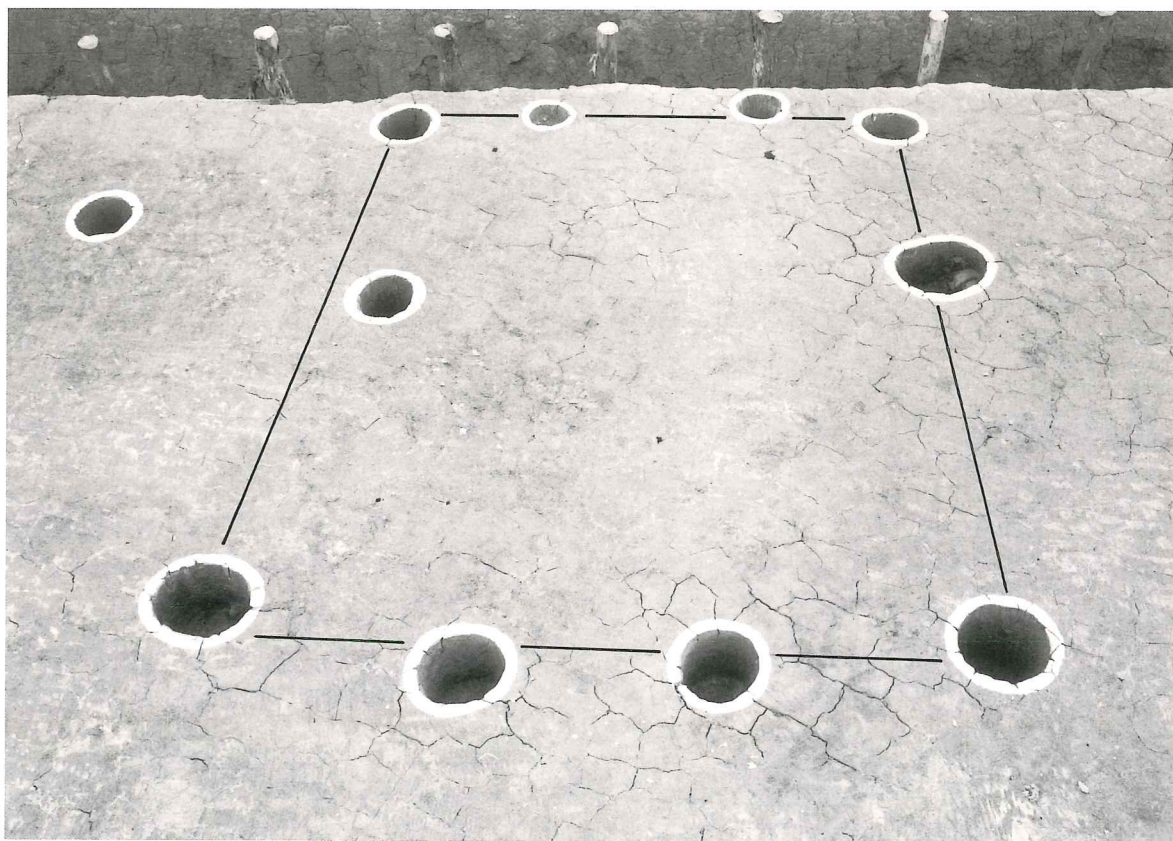
5、6号掘立柱建物（東より）



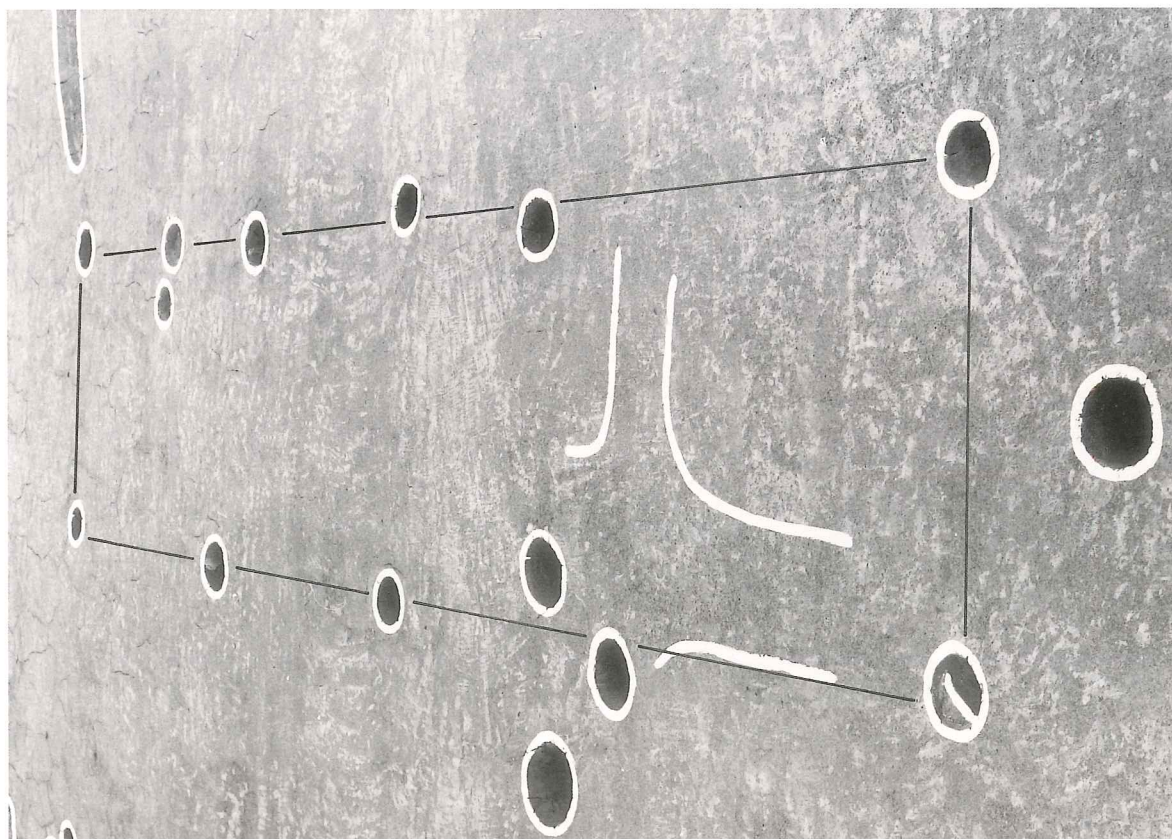
48、54号掘立柱建物、8号井戸（東より）



45号掘立柱建物（西より）



52号掘立柱建物（北より）



49号掘立柱建物（南より）



9号井戸（南より）

図版 8



11・12・13号井戸（南東より）



24号井戸（西より）



8号井戸（南より）



16号井戸内遺物出土状況



北区第Ⅱ遺構面中心集落航空写真



北区第Ⅱ遺構面中心集落航空写真（南東より）



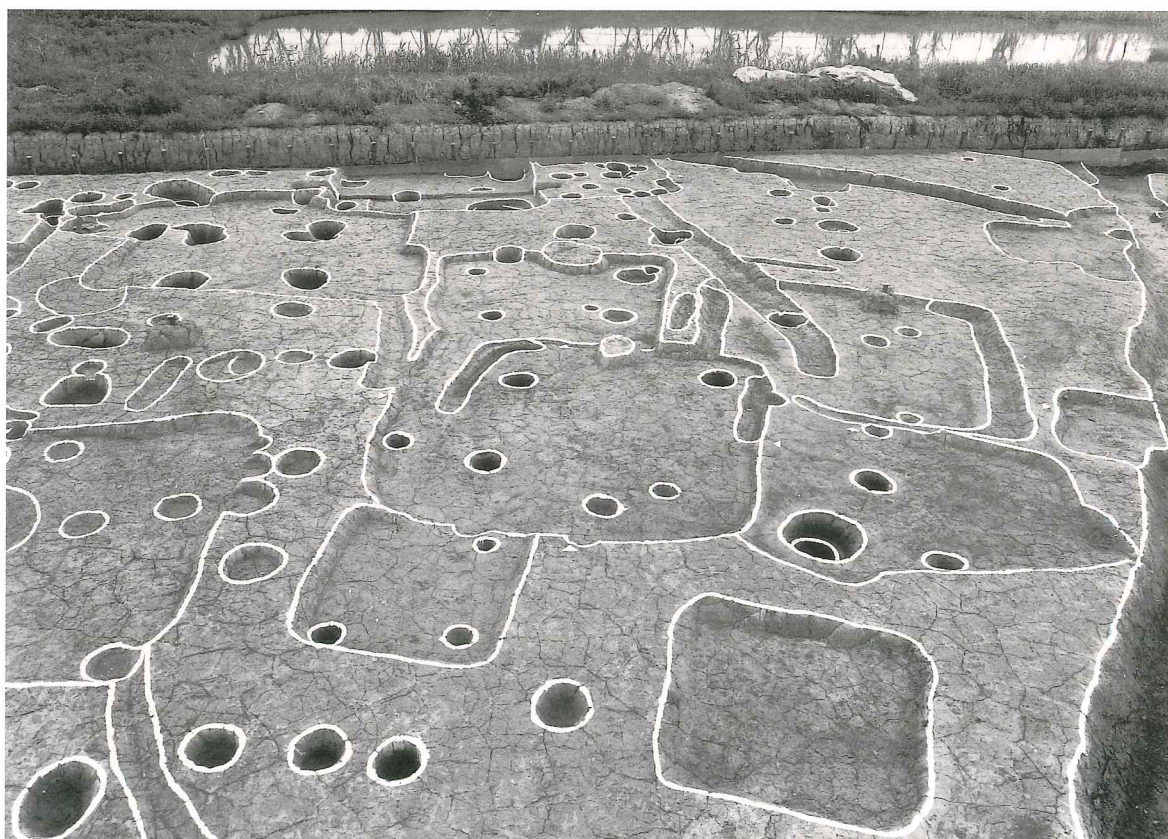
北区第Ⅱ遺構面東側航空写真（南より）



北区第Ⅱ遺構面東側半分航空写真



南区第Ⅱ遺構面東側航空写真



8・9・10・13・14号住居（南より）



北区第Ⅱ遺構面中心集落（南東より）



148号溝（南西より）



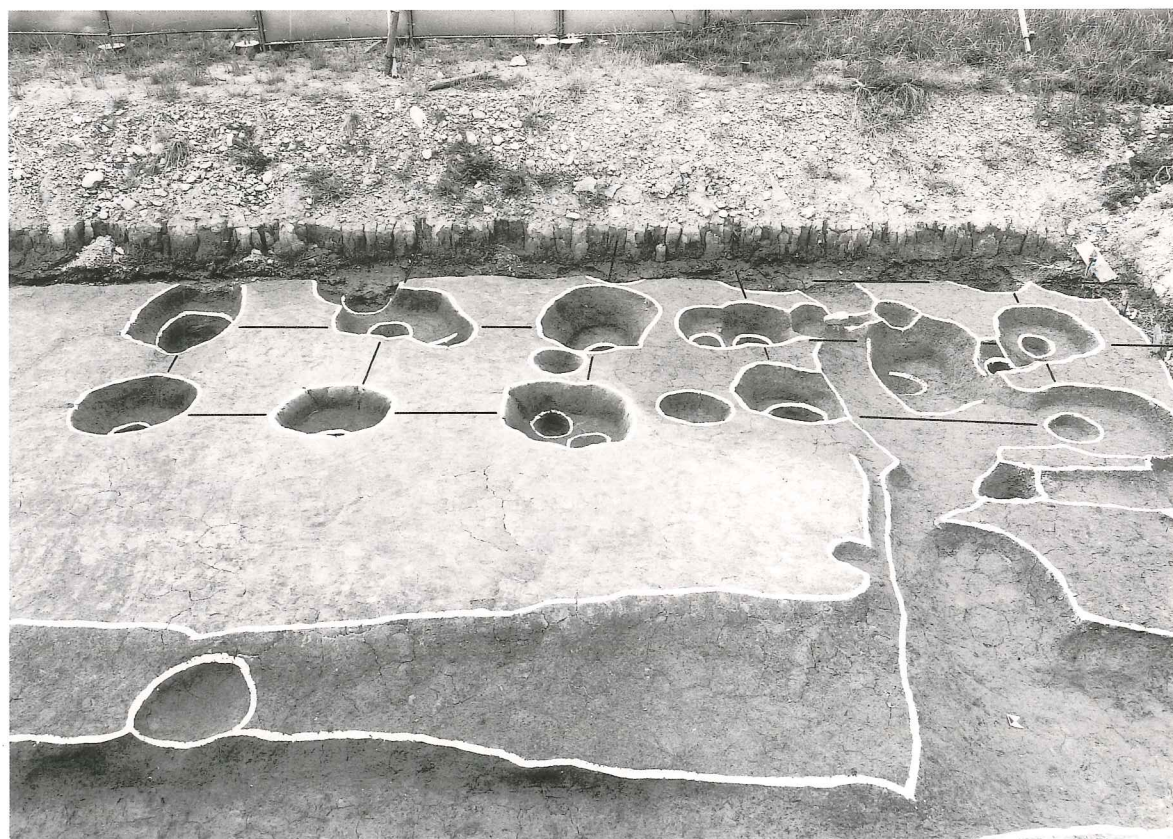
74、77号掘立柱建物（北東より）



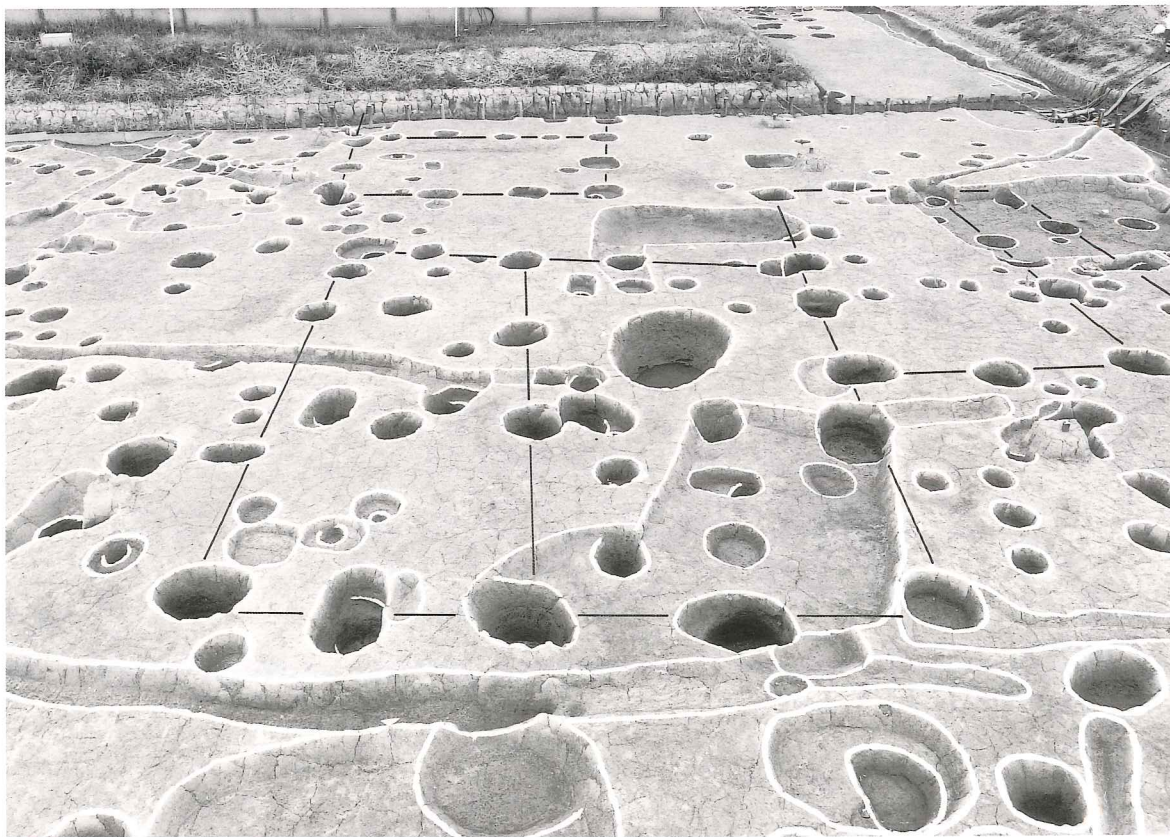
40号住居、69・75・91号掘立柱建物（東より）



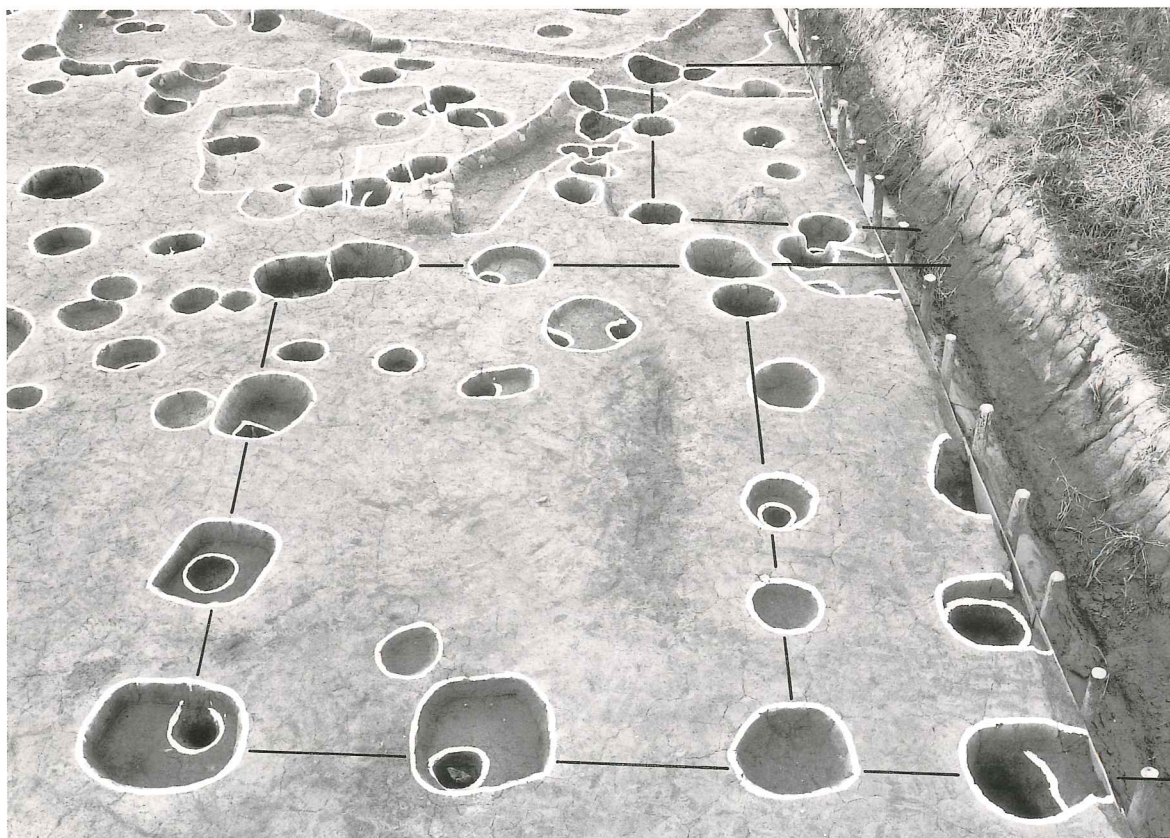
41号住居、71・75号掘立柱建物（北より）



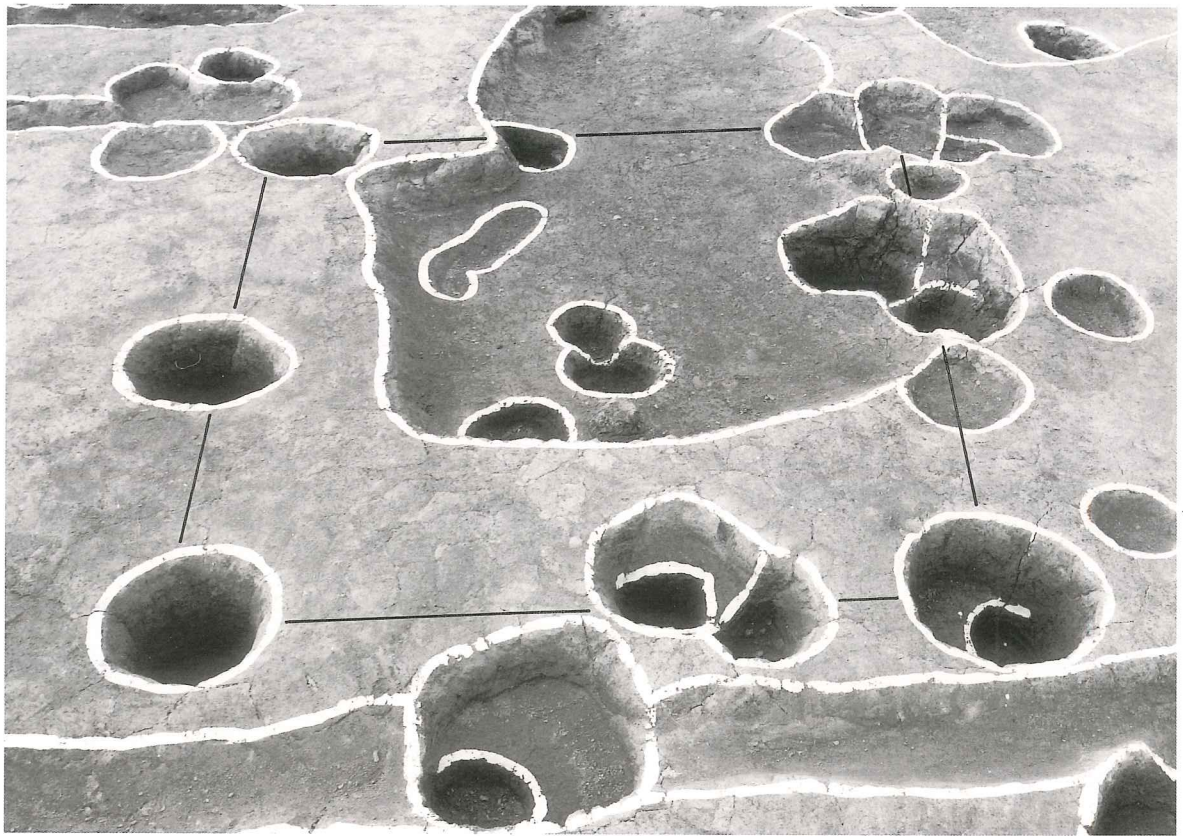
12・13号掘立柱建物（北より）



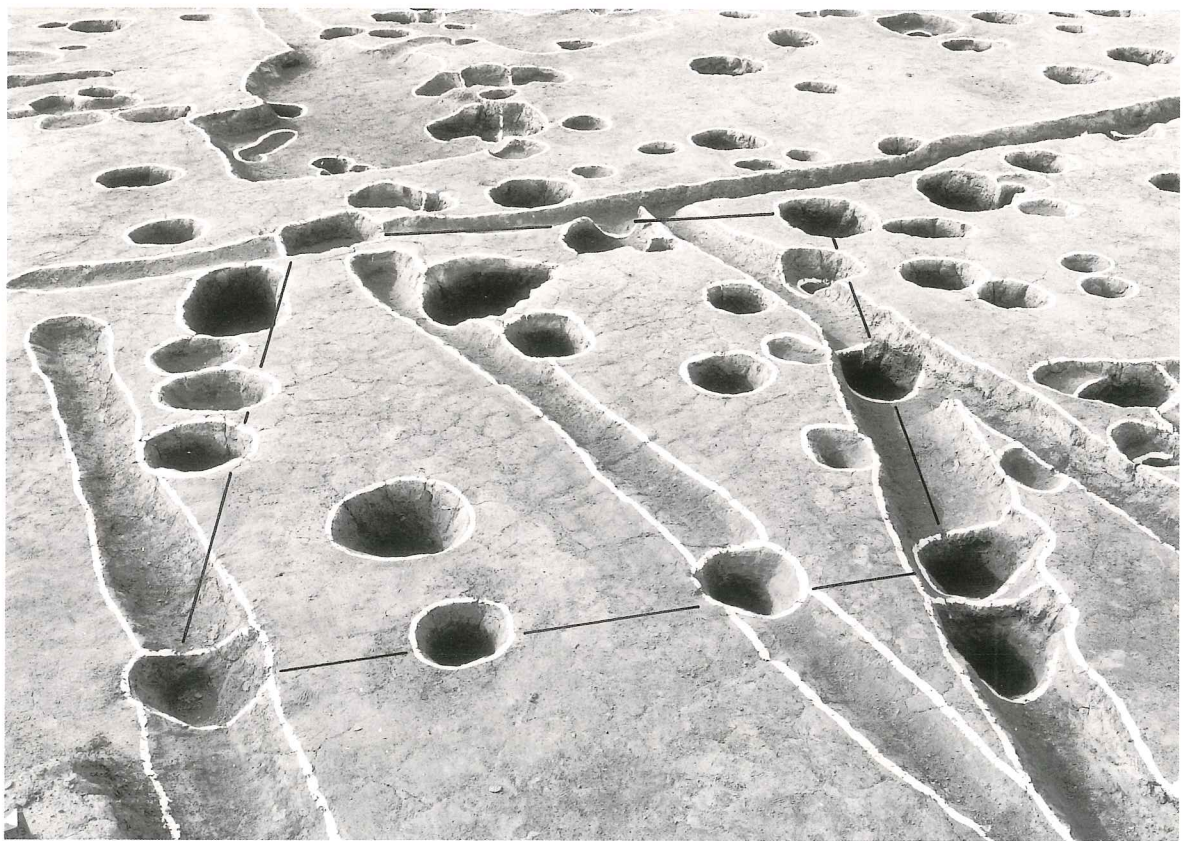
14・15号掘立柱建物（東より）



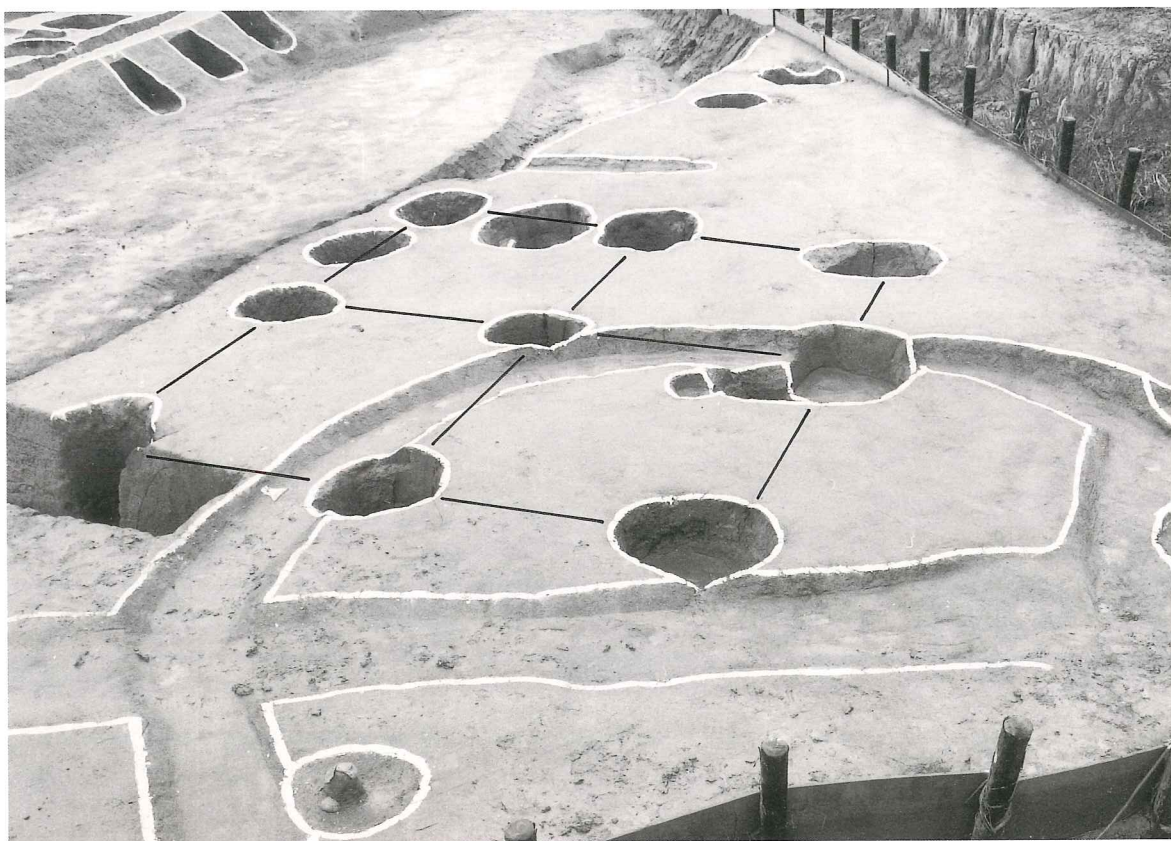
16・17号掘立柱建物（北より）



18号掘立柱建物（東より）



19号掘立柱建物（南東より）



29号掘立柱建物（北西より）



29号掘立柱建物（北より）



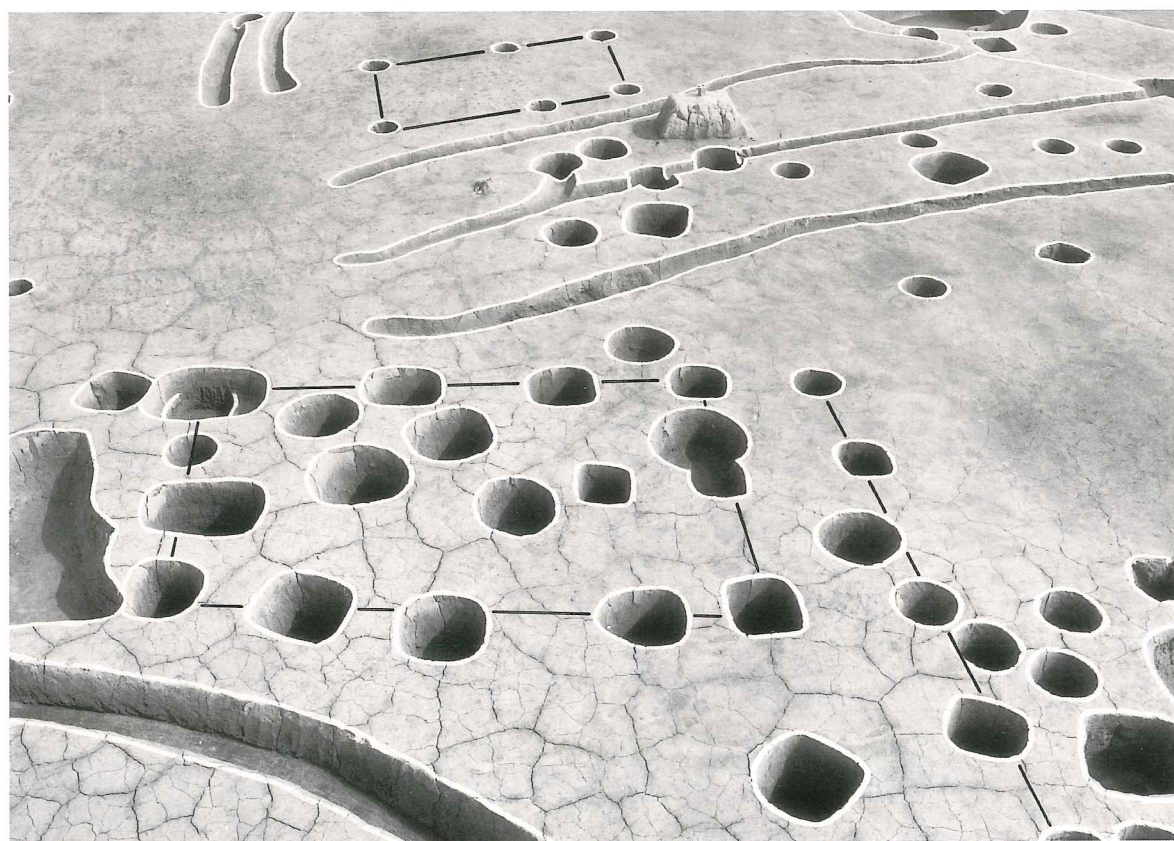
16・21号住居、31・32号掘立柱建物（南より）



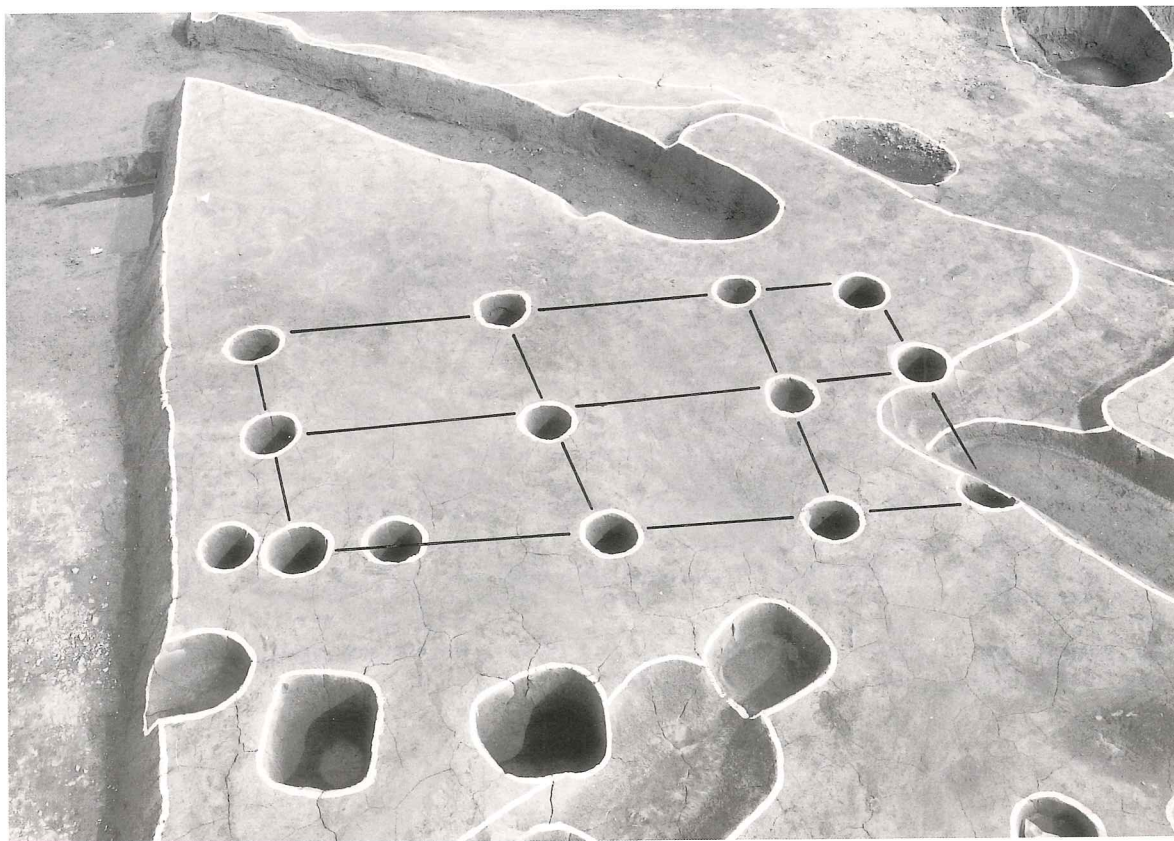
16号住居、30・31号掘立柱建物（西より）



33号掘立柱建物（東より）



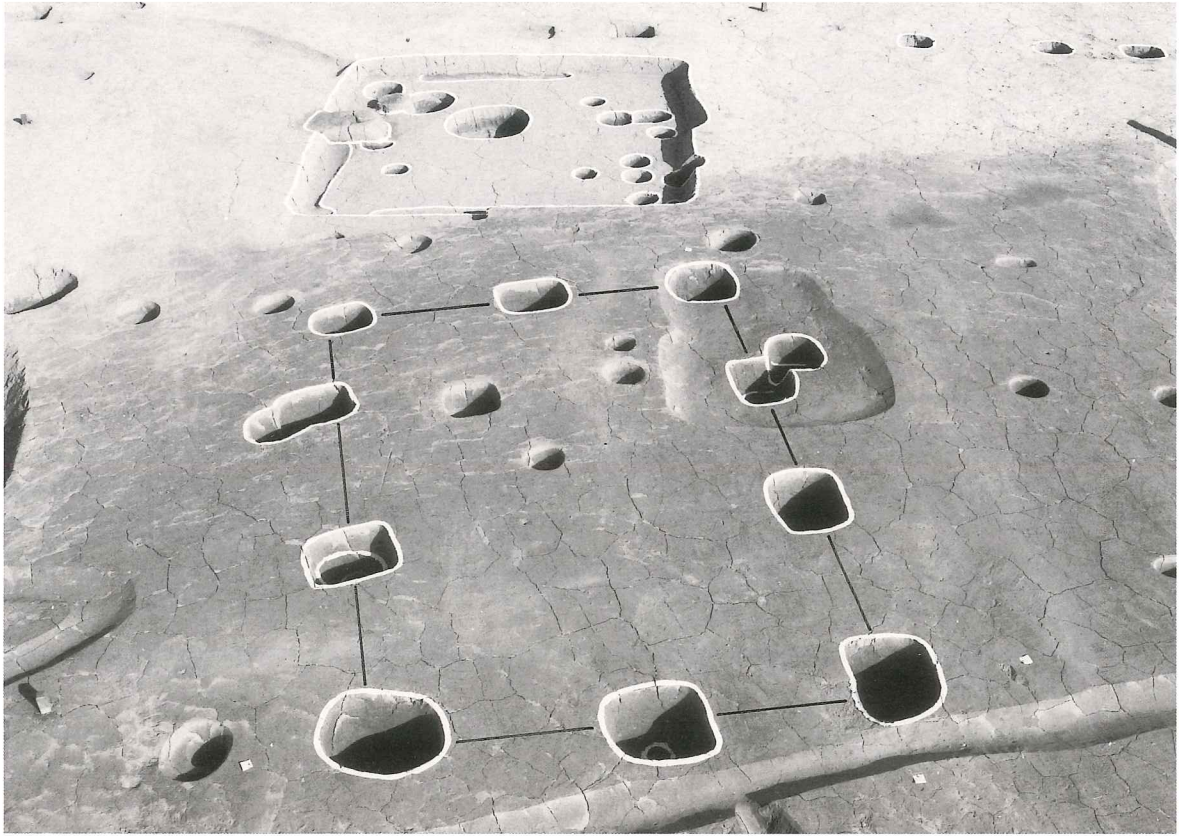
35号掘立柱建物（西より）



37号掘立柱建物（西より）



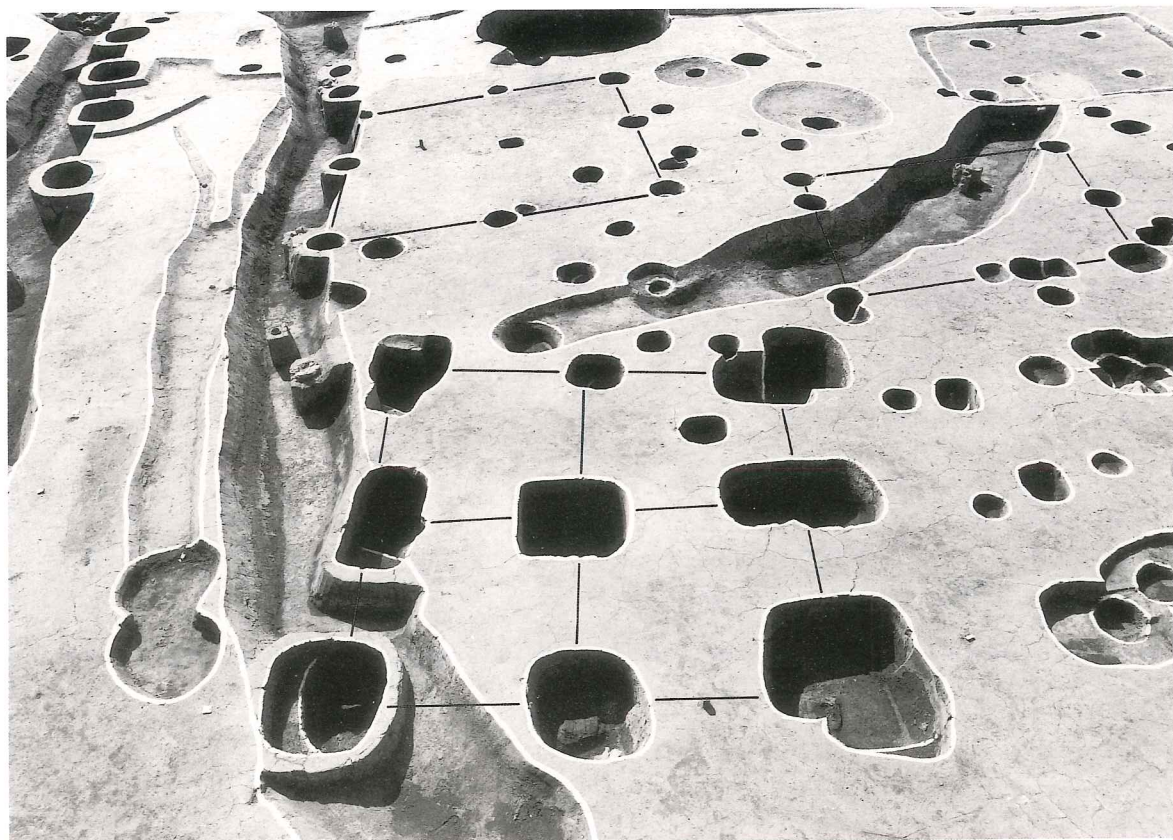
40号掘立柱建物（南より）



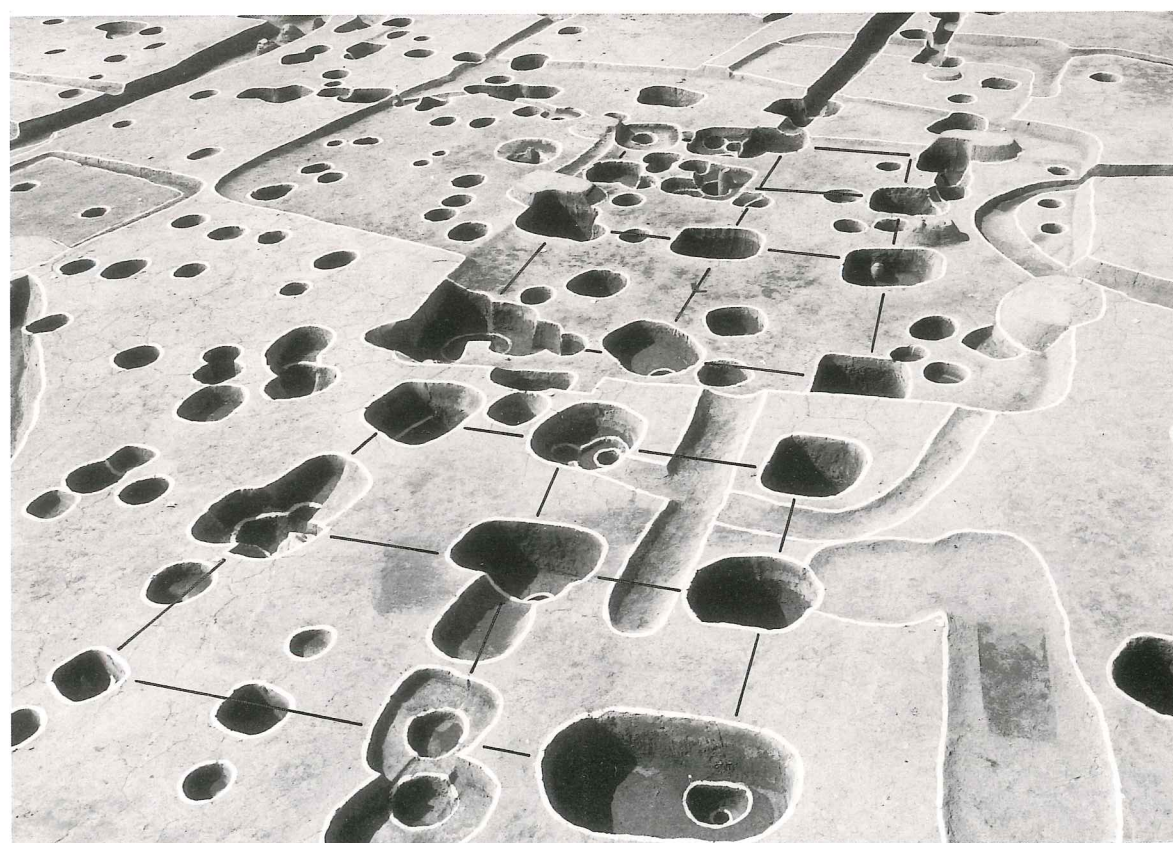
38号住居、61号掘立柱建物（西より）



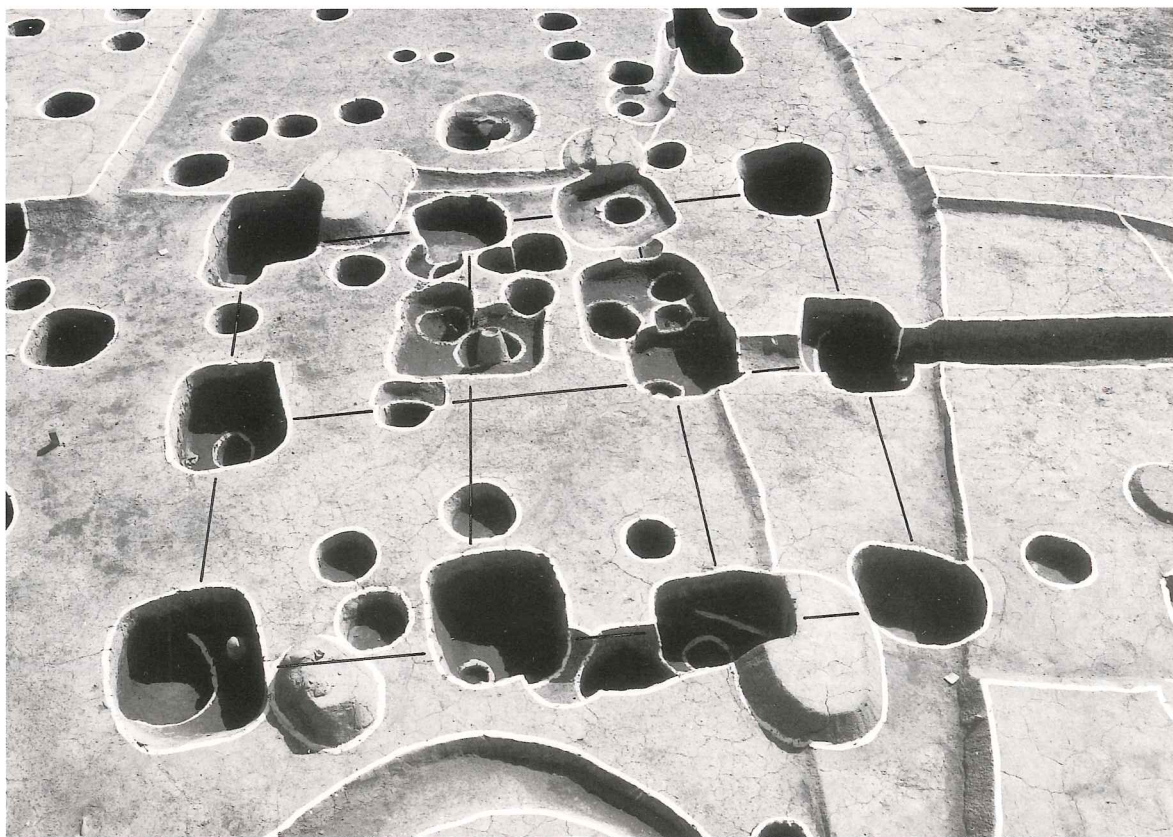
64号掘立柱建物（北西より）



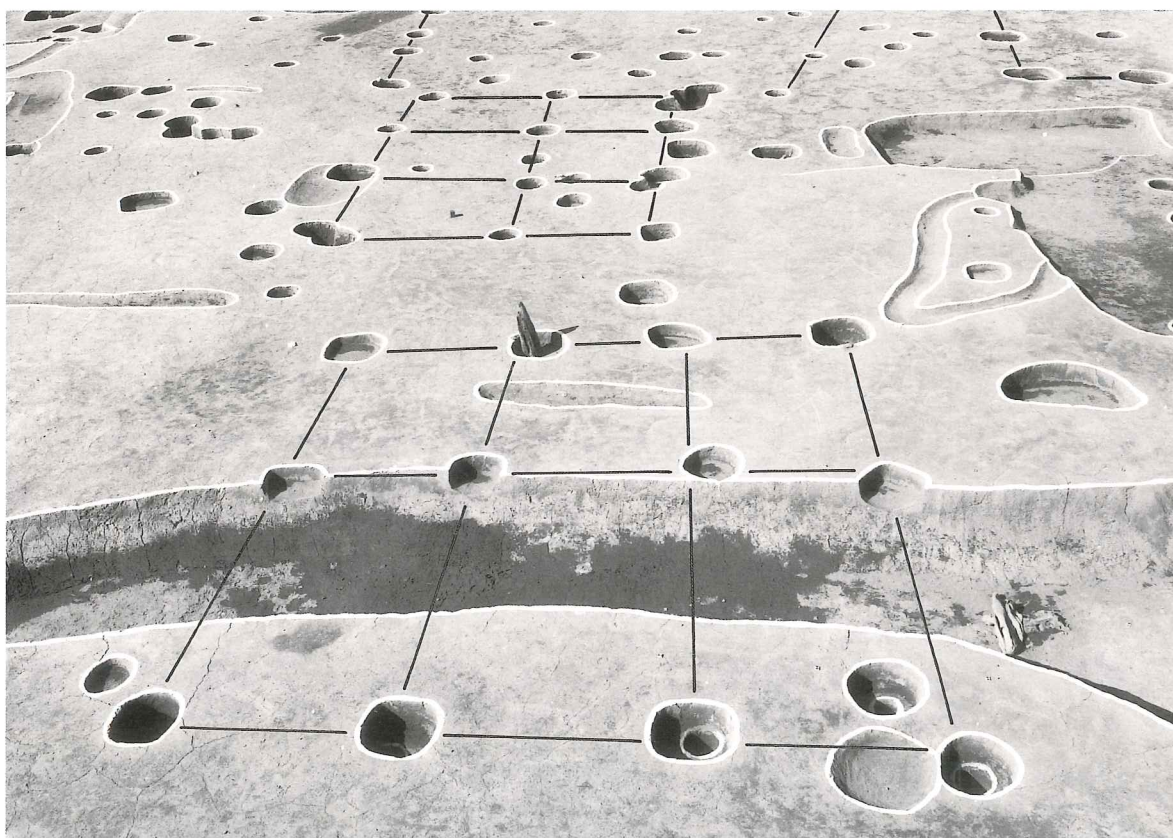
65・66・90号掘立柱建物（北より）



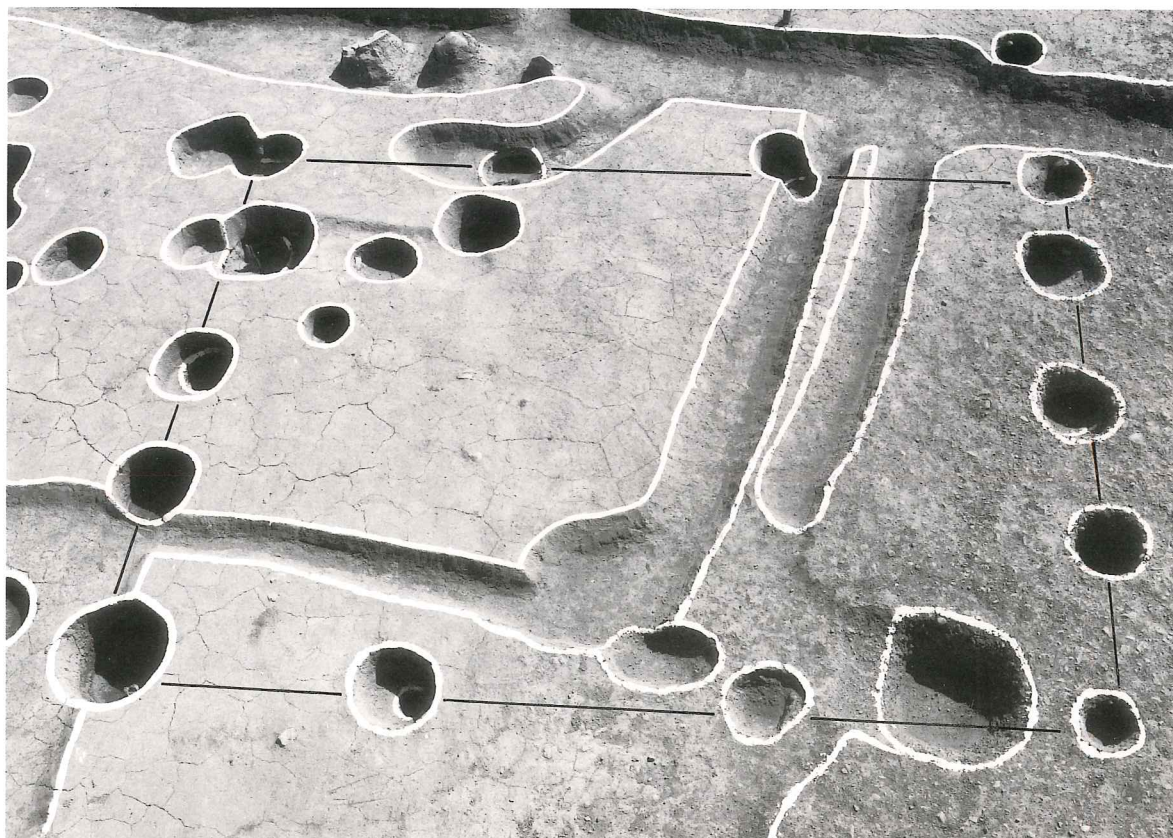
44・45・46号住居、67・68号掘立柱建物（東より）



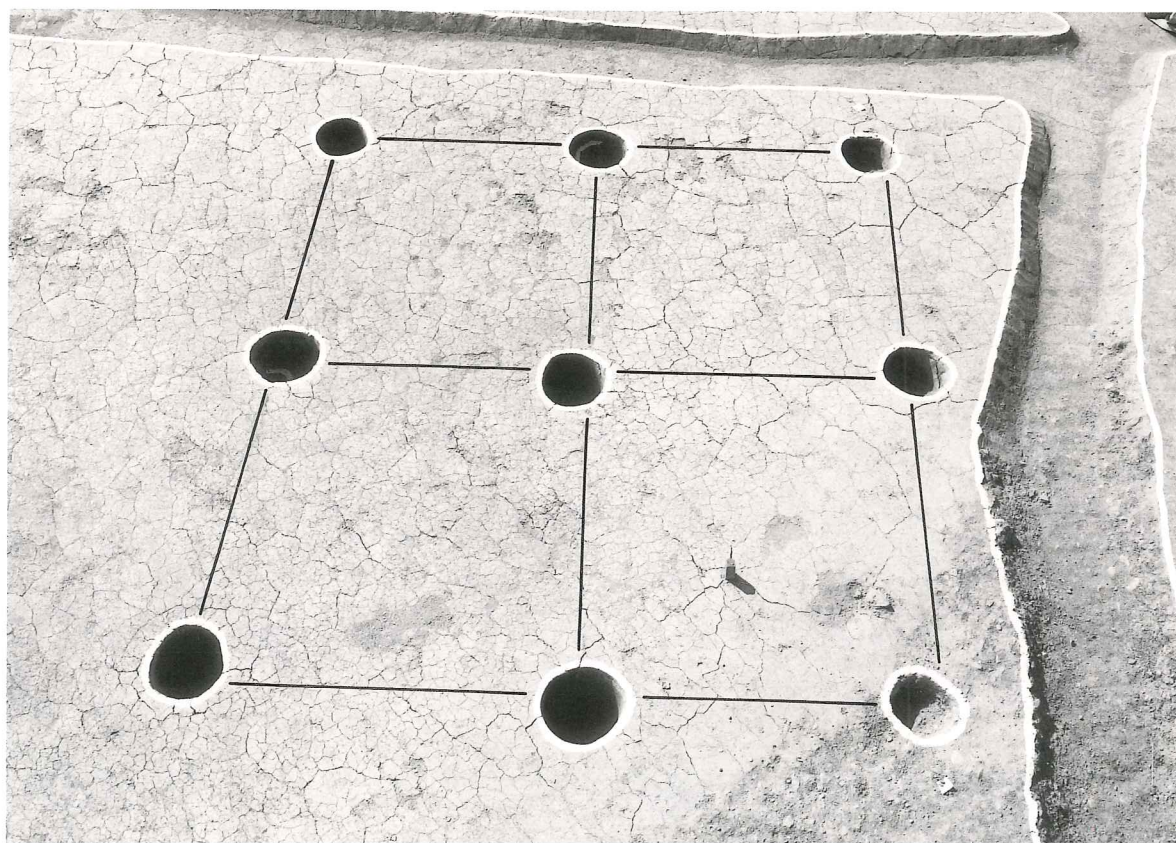
43・44号住居、68号掘立柱建物（東より）



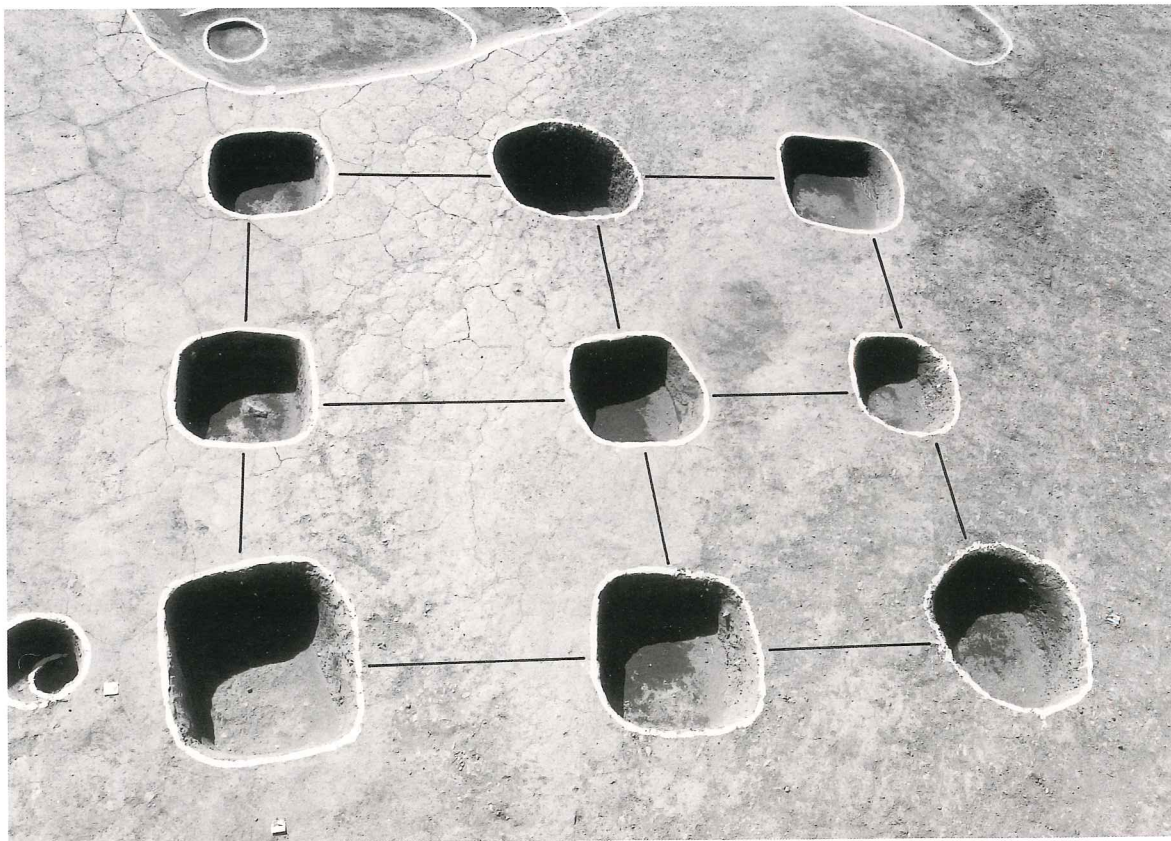
71・75号掘立柱建物（東より）



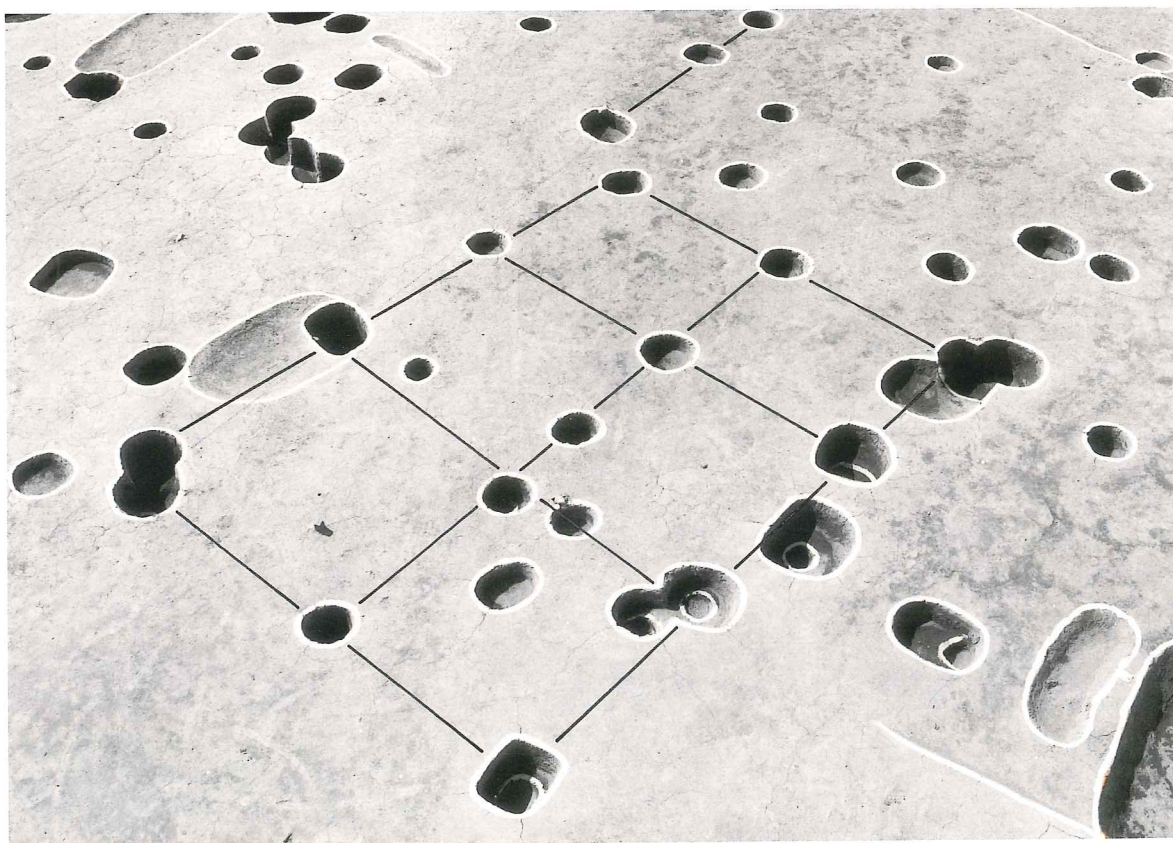
72号掘立柱建物（北より）



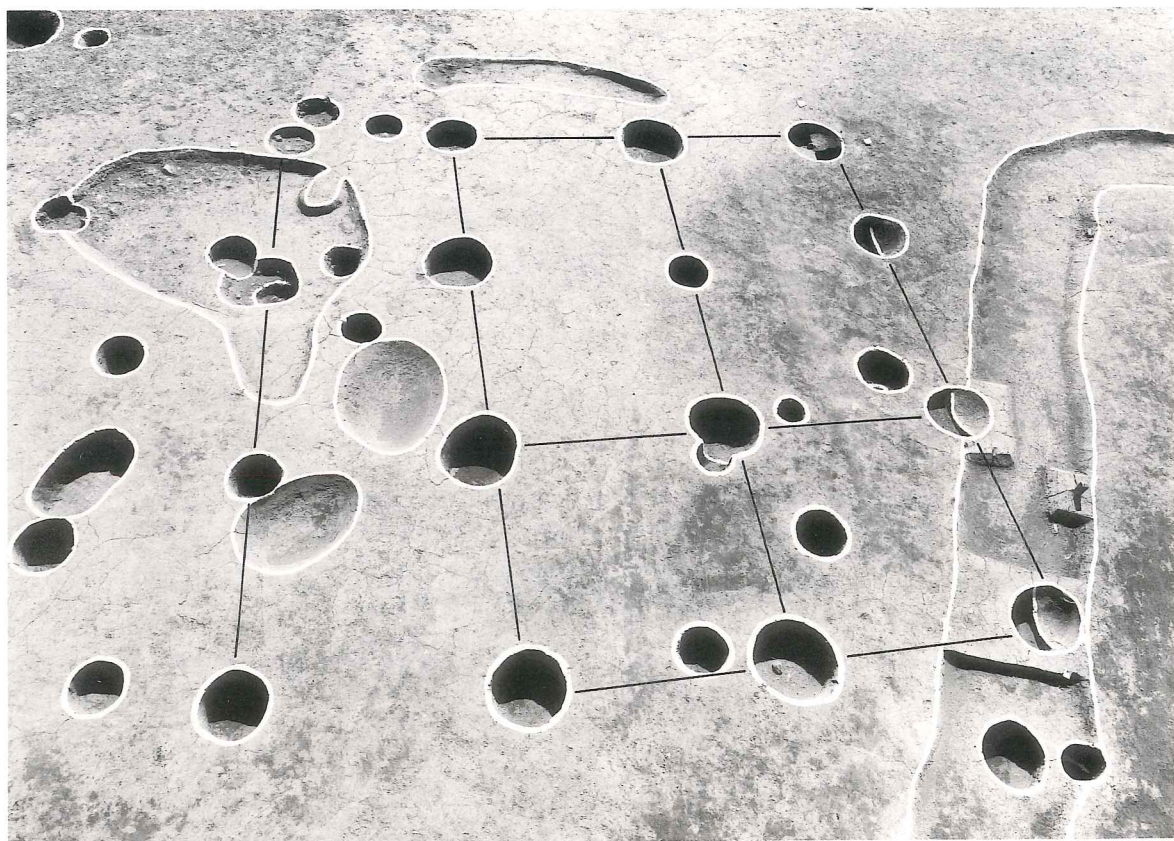
73号掘立柱建物（東より）



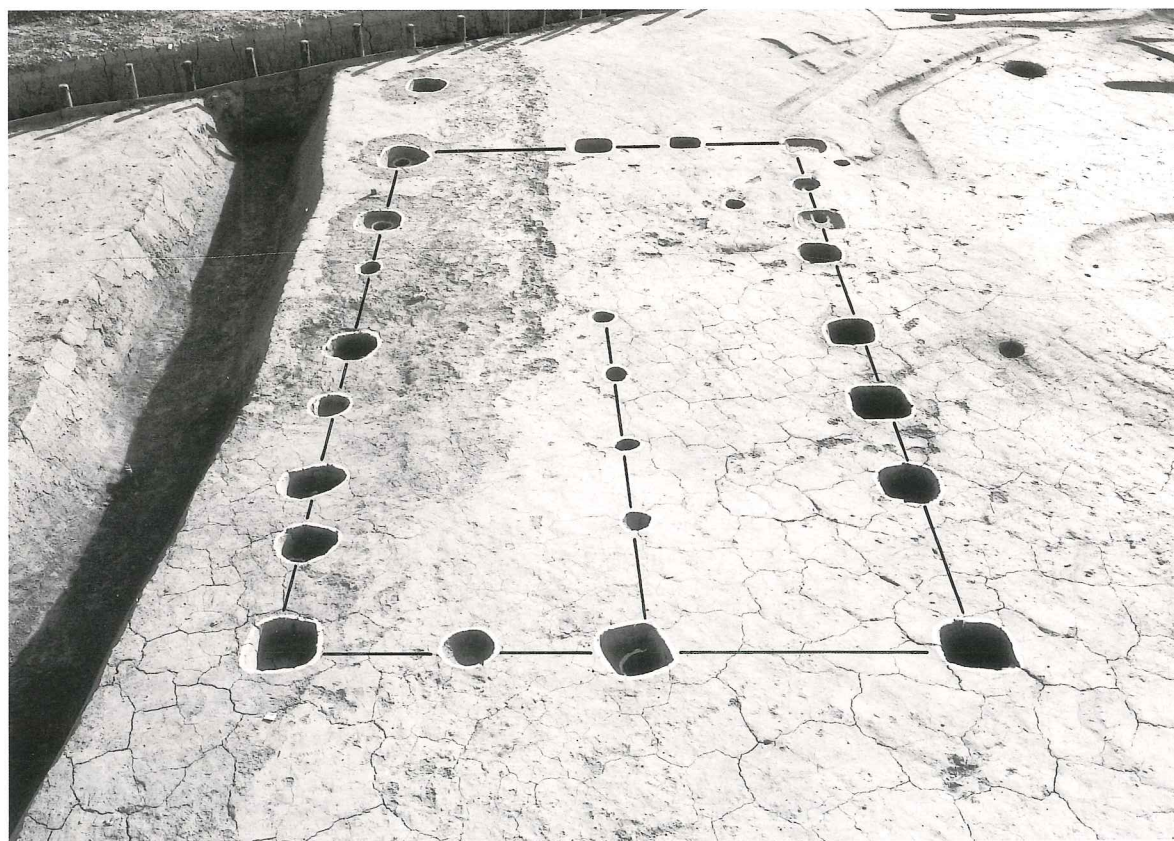
74号掘立柱建物（北より）



75号掘立柱建物（北西より）



78号掘立柱建物（北より）



84号掘立柱建物（北より）



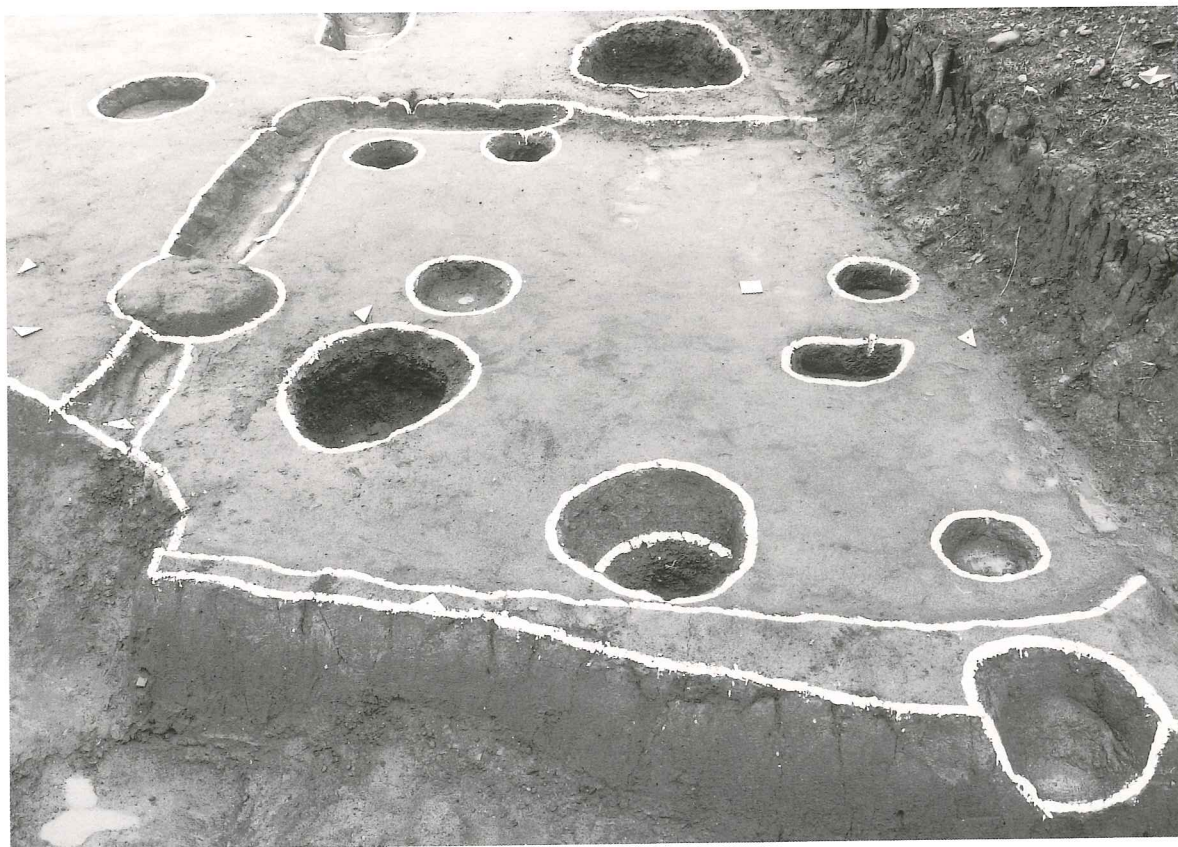
1号不定形遺構（東より）



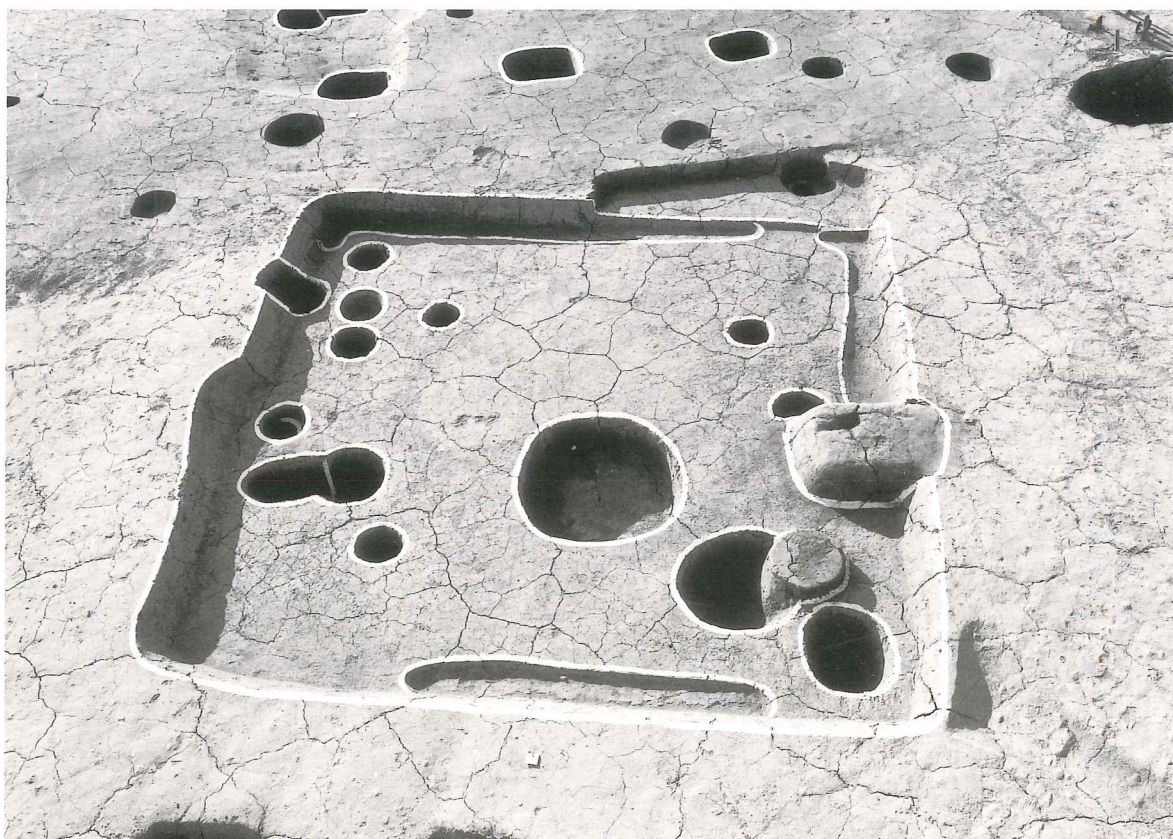
37号住居（北より）



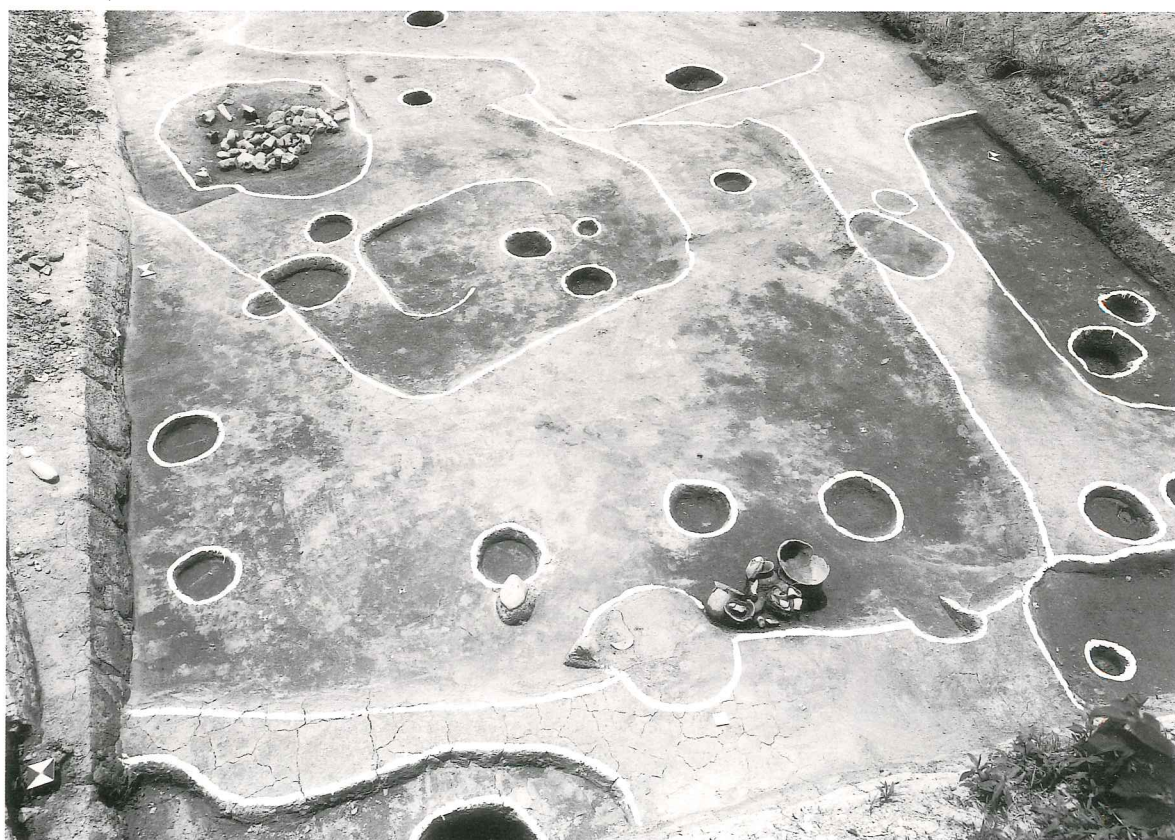
4号住居（南より）



5号住居（西より）



38号住居（西より）



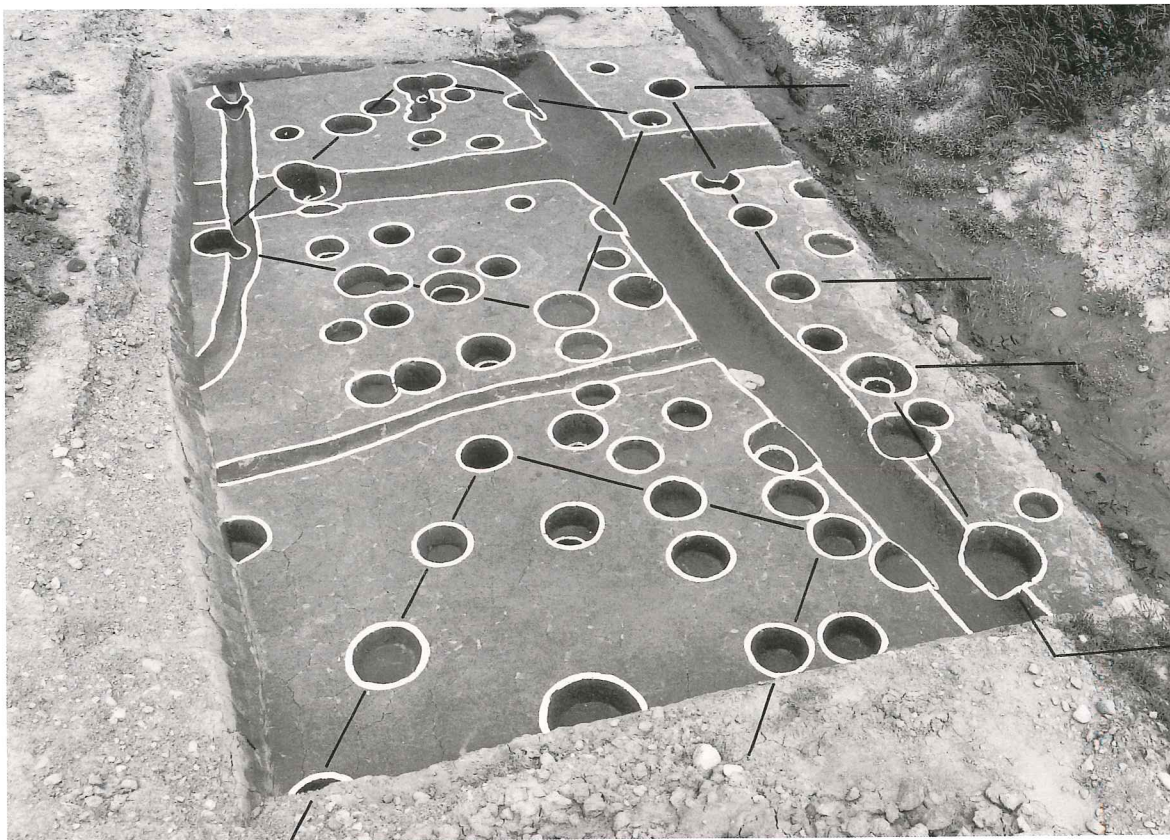
54号住居（北より）



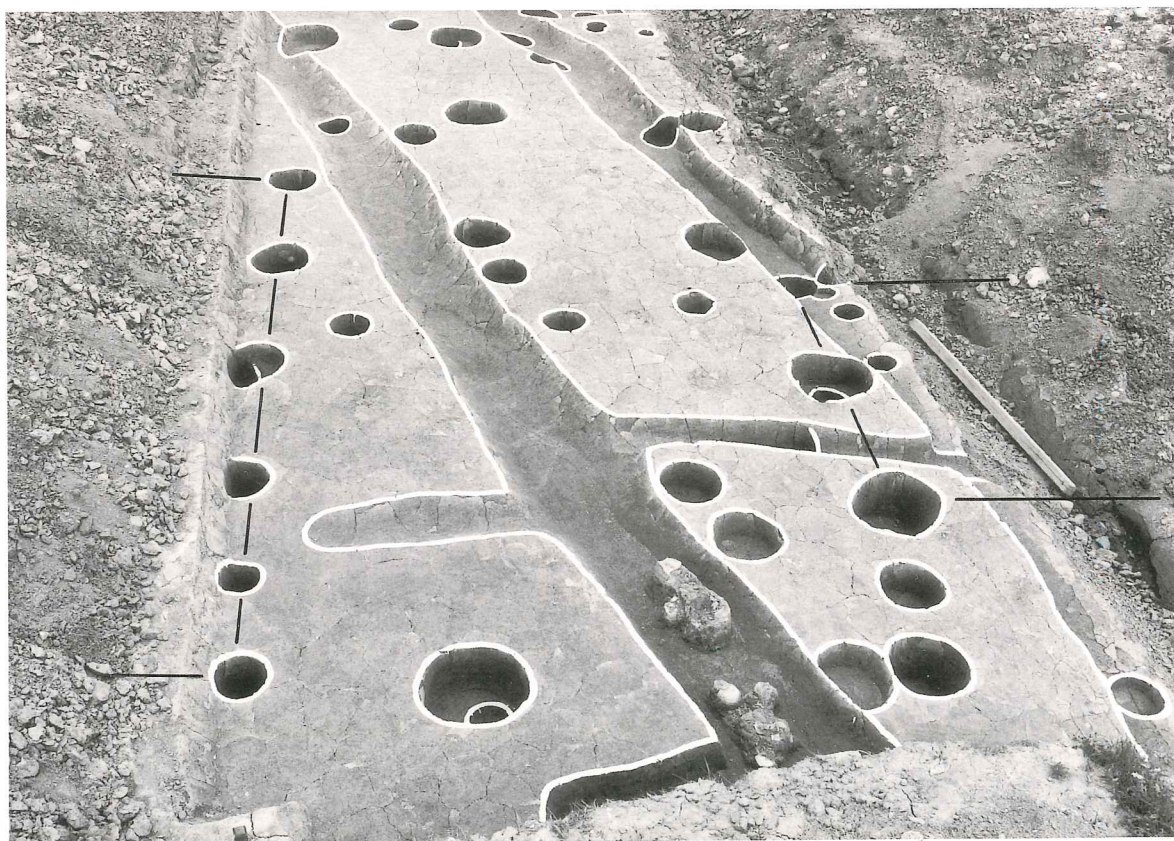
55号住居（南より）



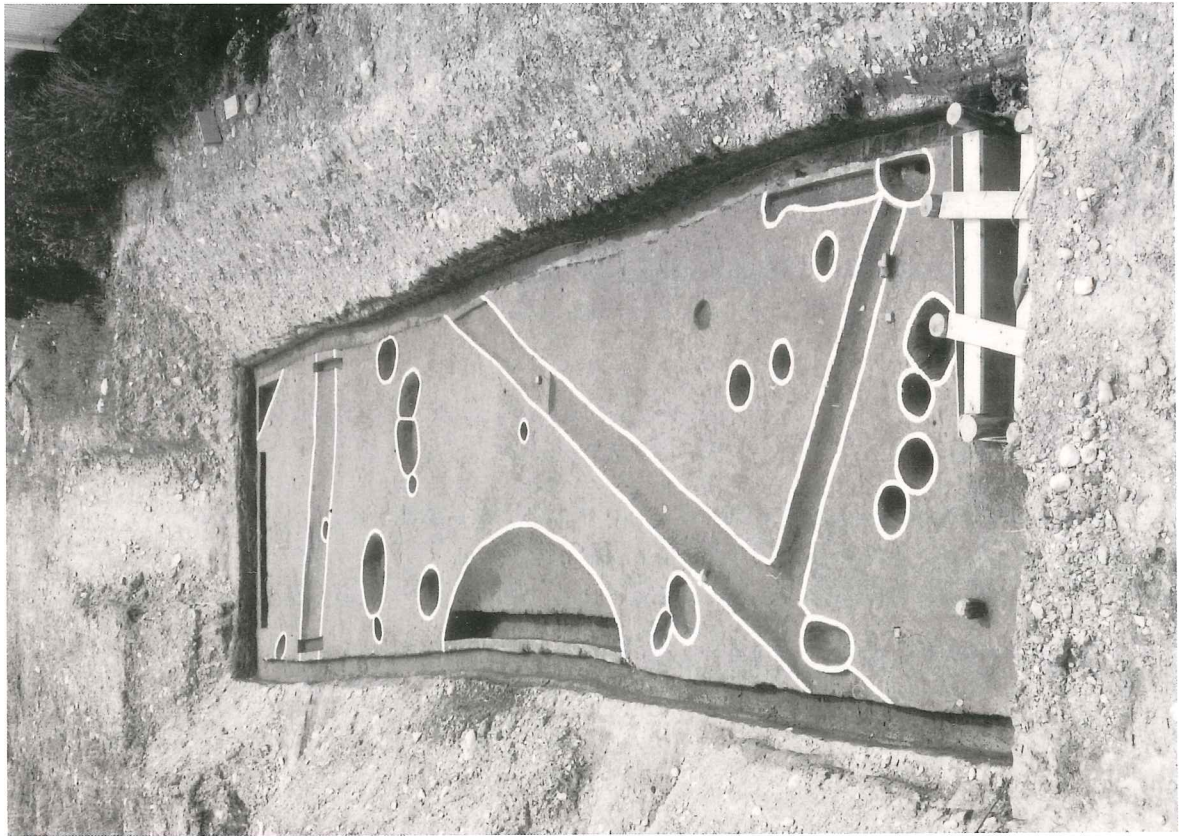
7・14号掘立柱建物（東より）



24・25・104・105号掘立柱建物（西より）



23・106号掘立柱建物（西より）



別区完掘状況（北より）



畑状遺構完掘状況（南より）



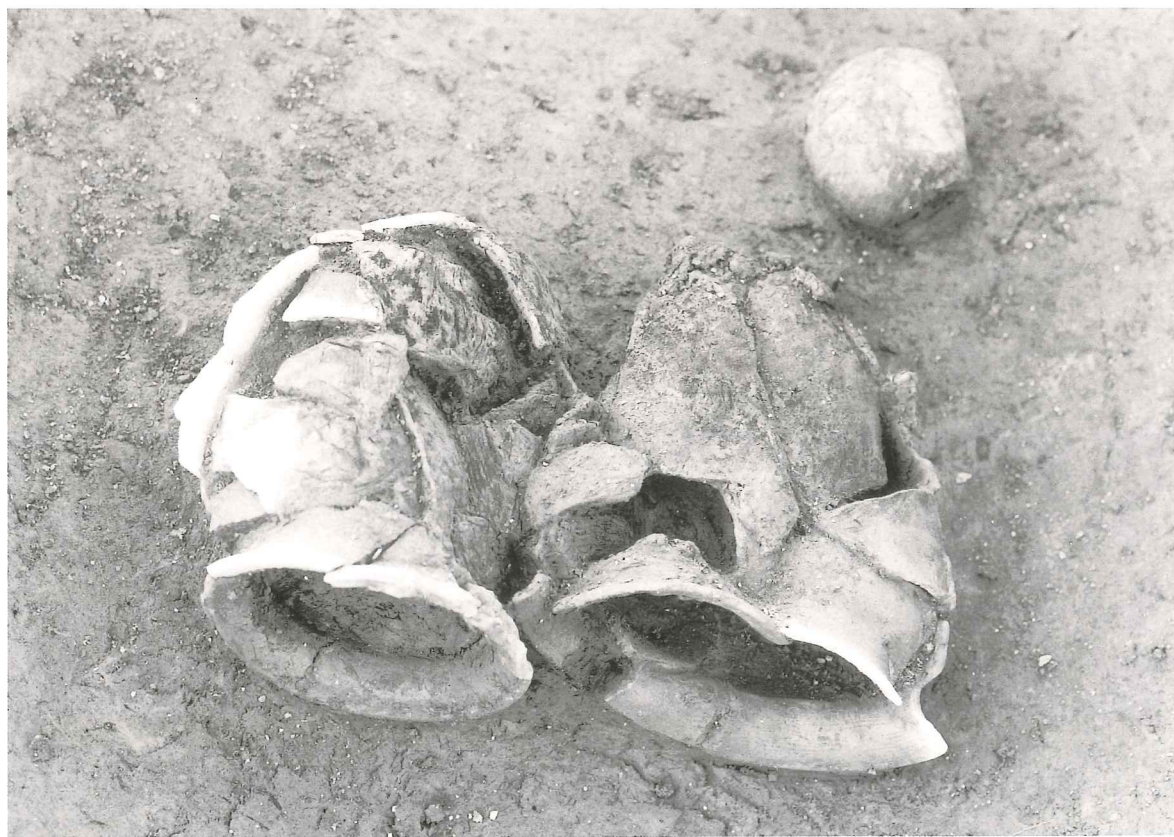
148号溝内「下駄」出土状況



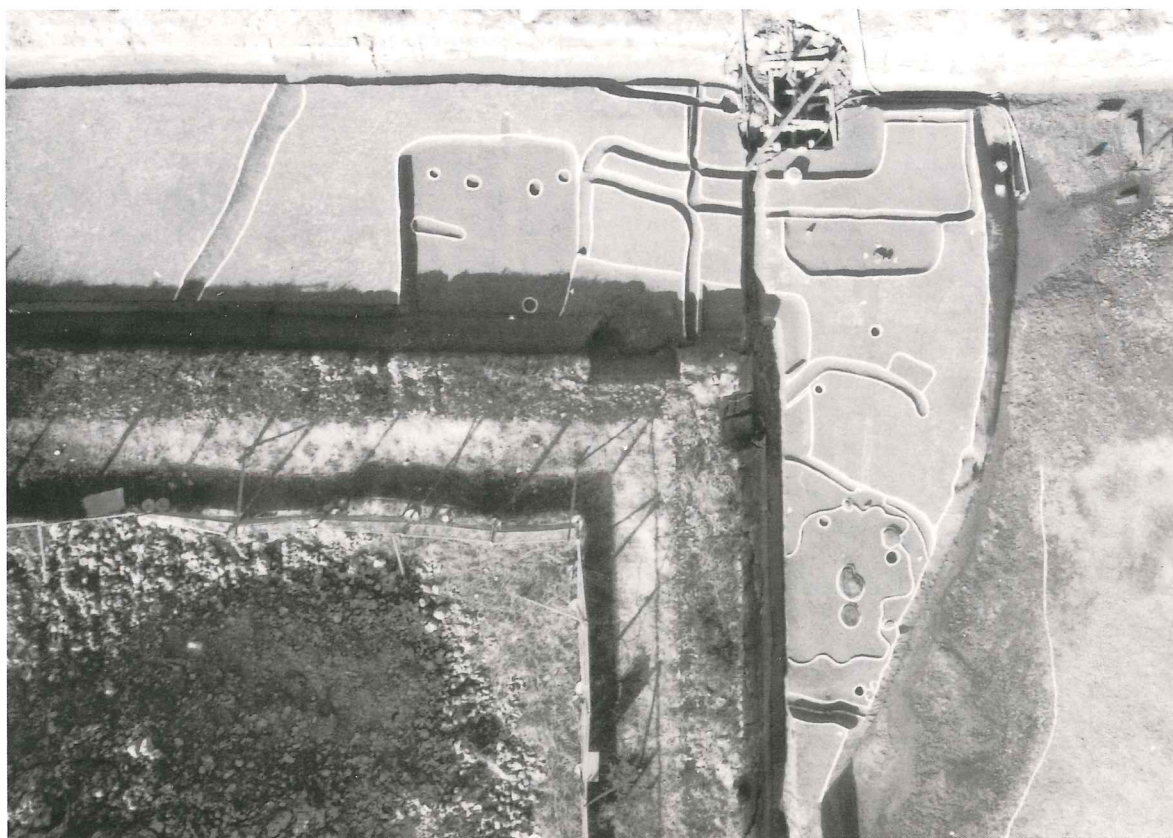
244号溝内「下駄」出土状況



148号溝内「土のこ」出土状況



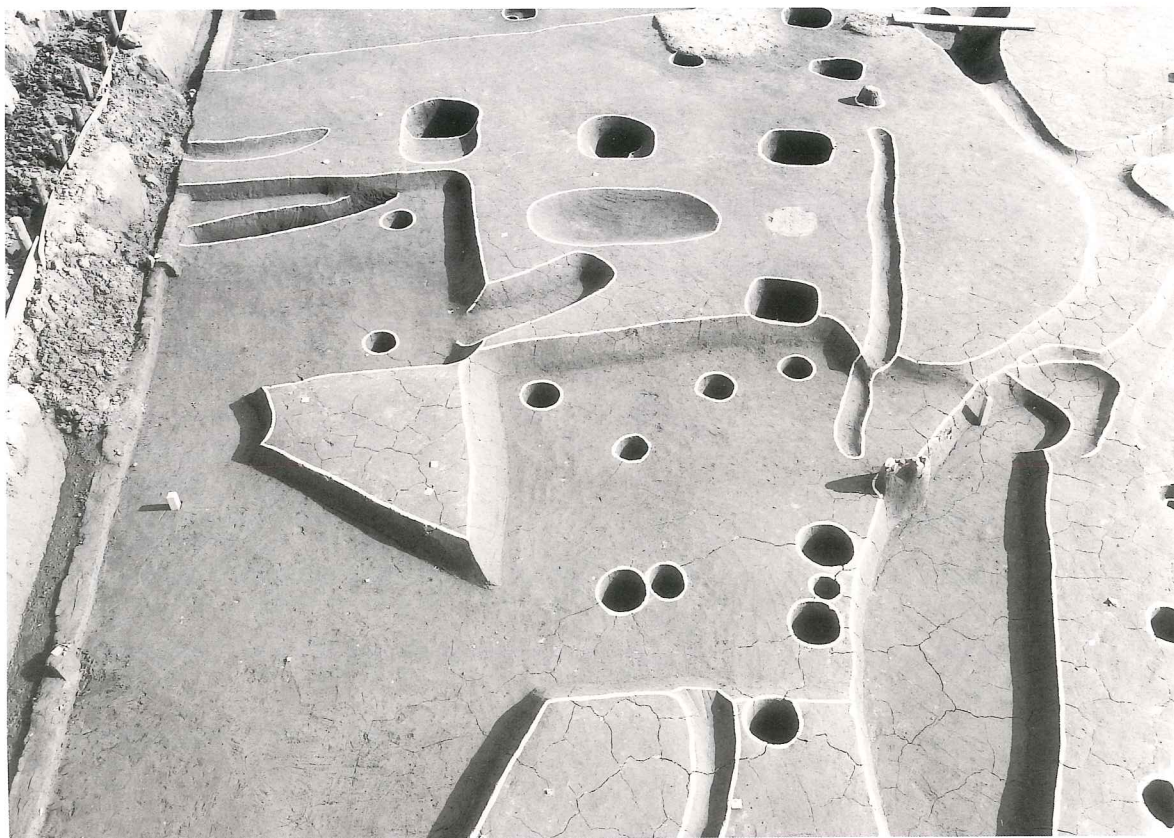
18号住居内土器出土状況（北より）



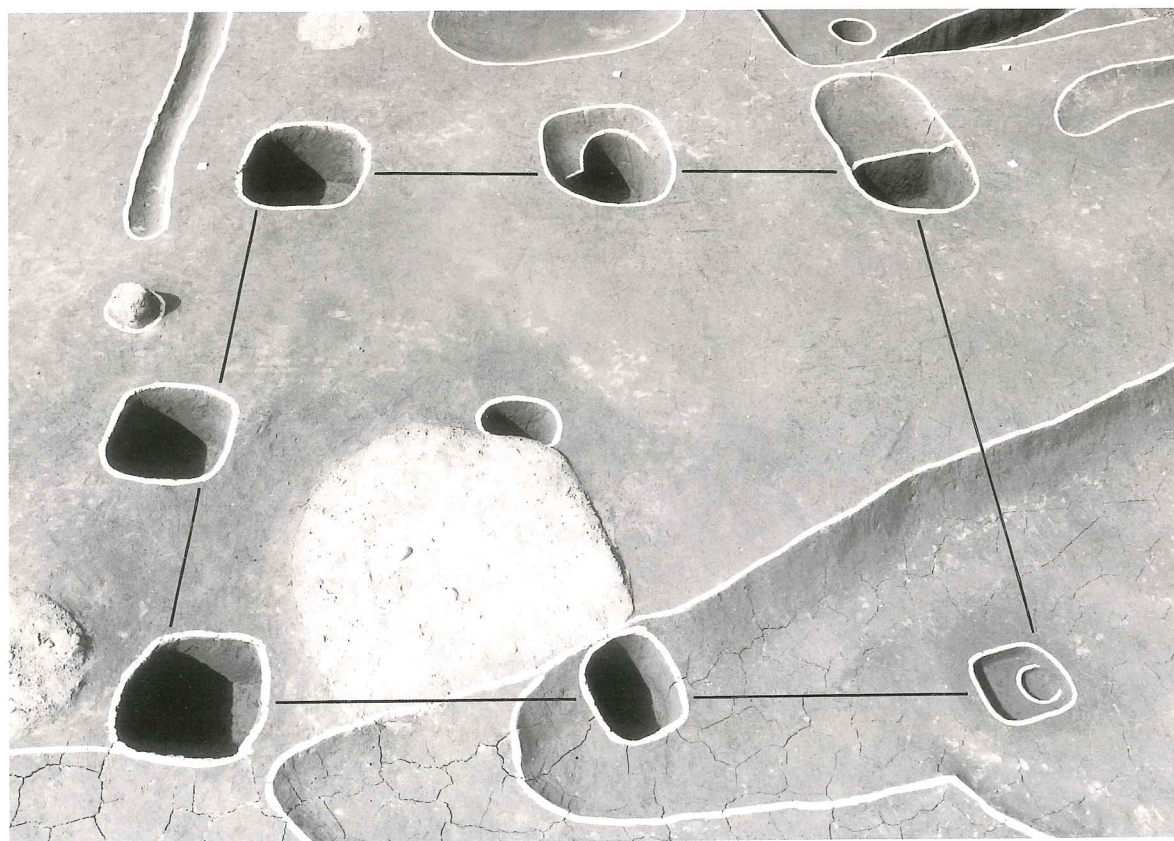
北区第Ⅲ遺構面航空写真



南区第Ⅲ遺構面航空写真



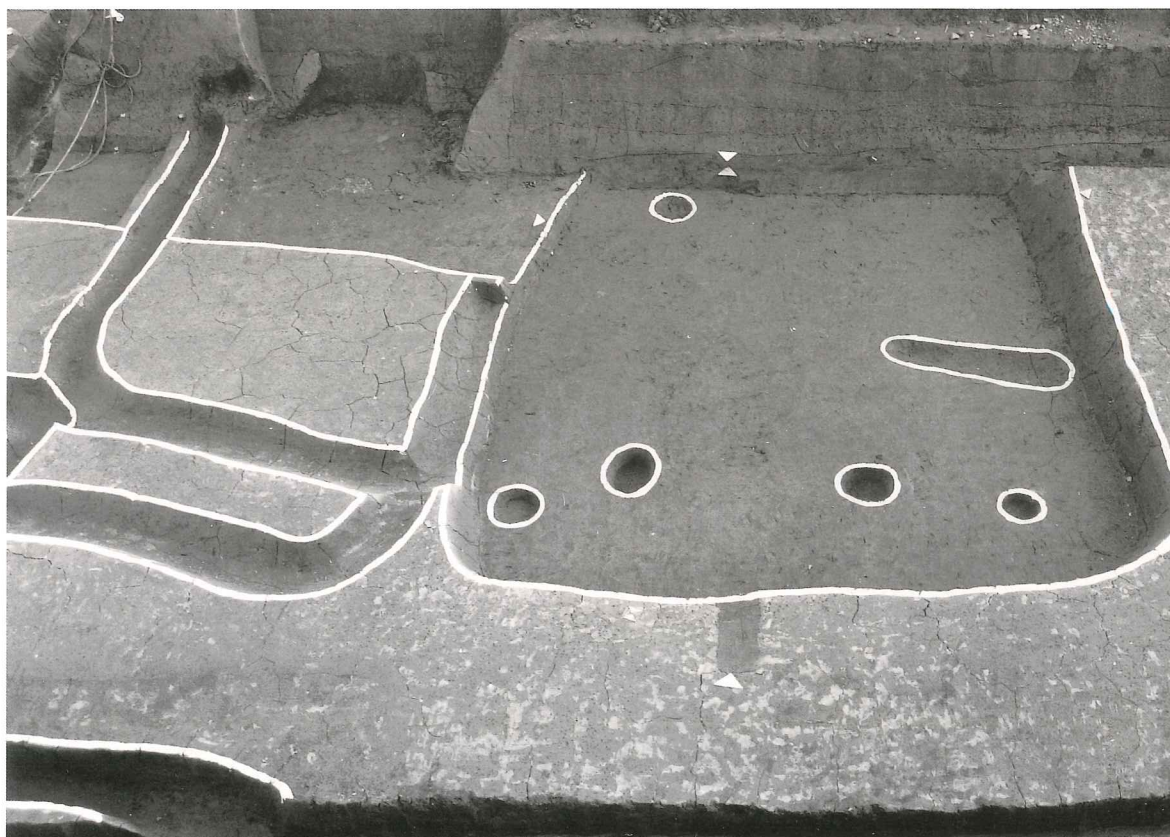
49・50・51号住居（北より）



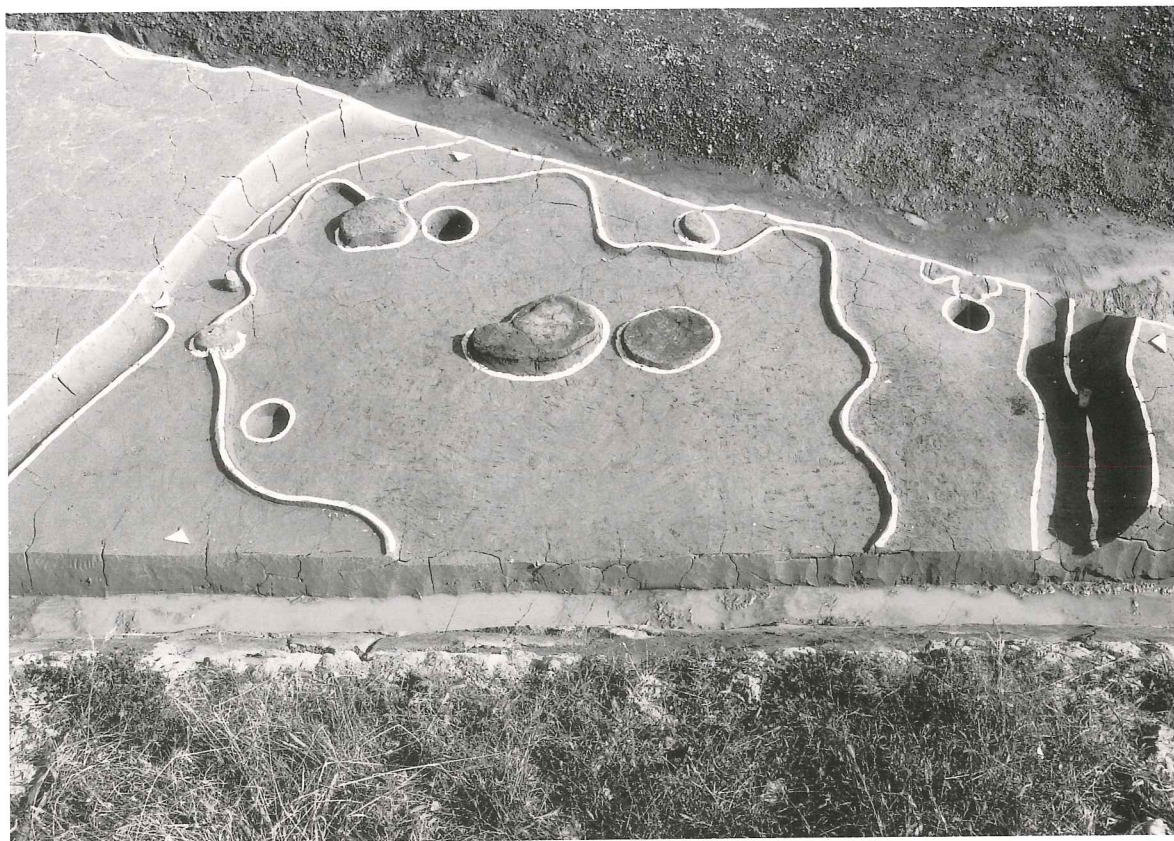
92号住居（南より）



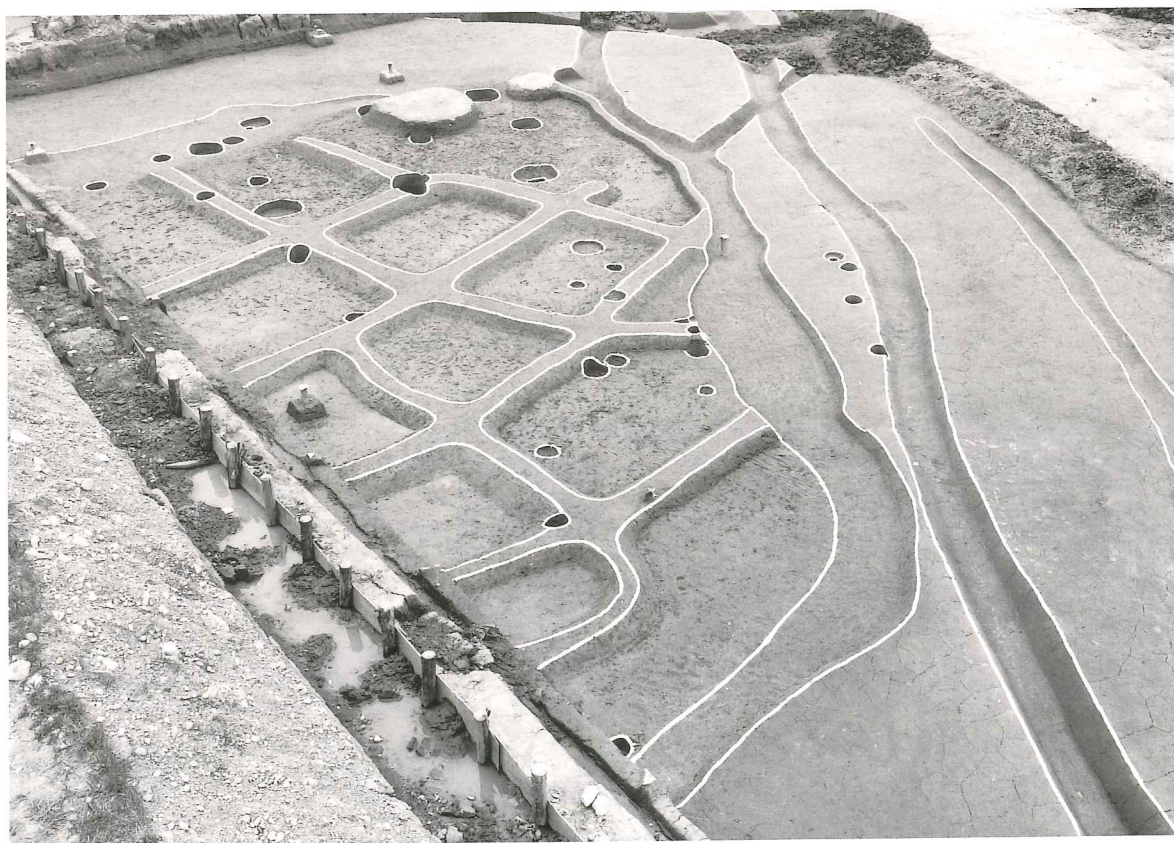
北区第Ⅲ遺構面完掘状況（北東より）



22号住居（北より）



24号住居（北より）



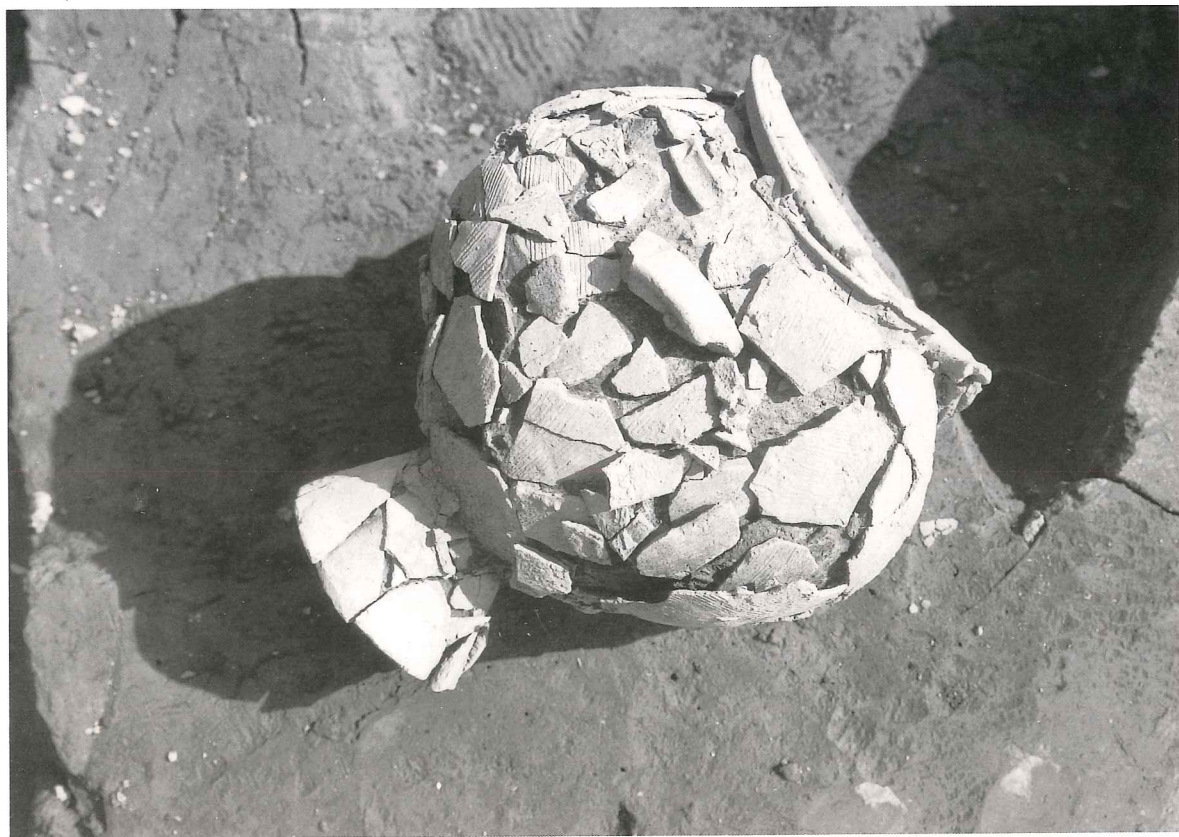
南区第Ⅲ遺構面水田跡完掘状況（北東より）



22号住居内土器出土状況



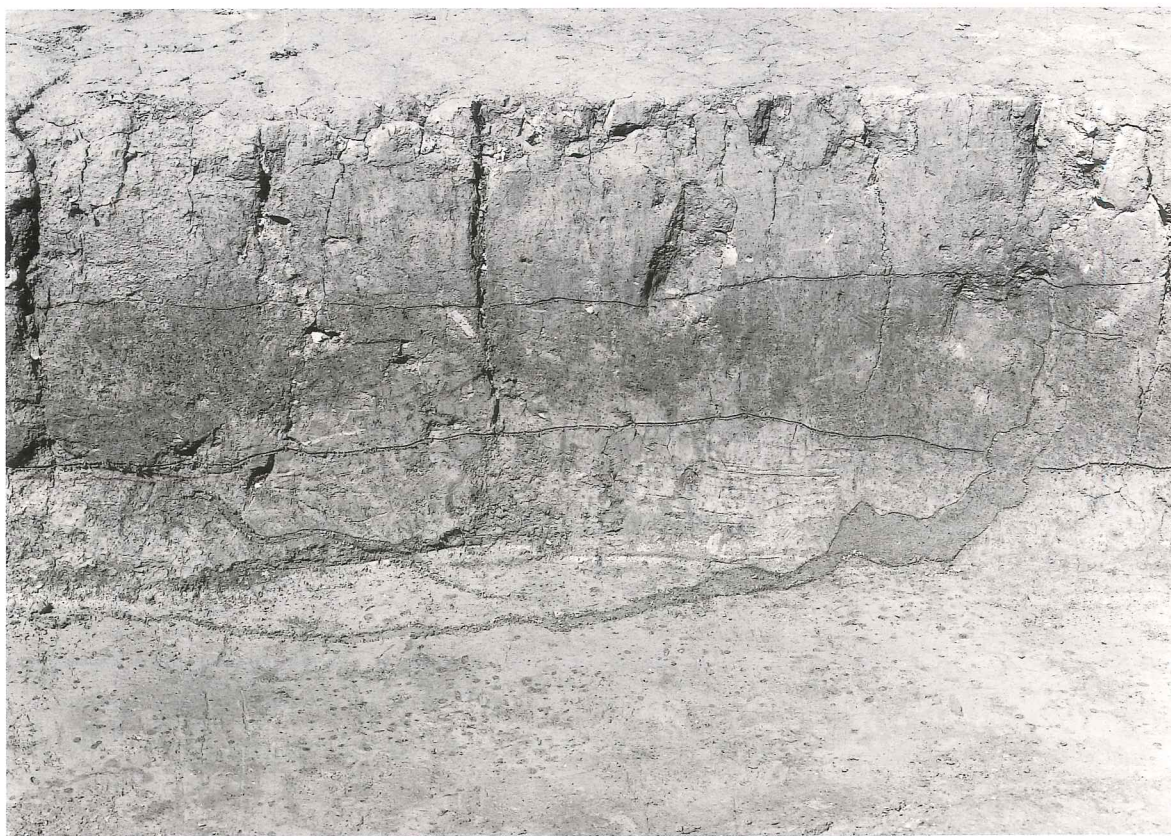
22号住居内土器出土状況



270号溝内「S字甕」出土状況



270号溝「堰」出土状況



噴砂検出状況



噴砂検出状況

大和ハウス工業(株)中部工場内
埋蔵文化財発掘調査報告書

坂 尻 遺 跡

— 遺 構 編 —

1994年 3 月25日

編 集 袋 井 市 教 育 委 員 会

印刷所 株式会社 開 明 堂

浜松市中沢町1番1号